文　京　区

障害者（児）実態・意向調査報告書

令和８年３月

文　京　区

目　次

**序章　調査の概要・・・

４　施設での生活について……244
５　今後の暮らし方について……258
６　相談や福祉の情報について……268
７　権利擁護・差別解消について……272
８　自由意見……280

第４章　サービス事業所の方を対象にした調査……281

１　事業運営について……283
２　職員について……295
３　サービス提供について……304
４　強度行動障害のある方について……333
５　虐待防止について……341
６　災害時の対策について……343
７　権利擁護・差別解消について……345
８　自由意見……353

第５章　長期入院施設を対象にした調査……355

１　長期入院施設を対象にした調査……357

第６章　質的調査（インタビュー調査）……363

資料編　調査票……415

序　章

調査の概要

1　調査の目的と方法

（1）調査目的

文京区では、障害者及び障害児がいきいきと自分らしく、健康で自立した生活を営めるよう、「文(ふみ)の京(みやこ)ハートフルプラン　文京区地域福祉保健計画　障害者・児計画」に基づき、様々な障害福祉施策を推進しています。

令和８年度に次期障害者・児計画（令和９年度～令和11年度）を改定するに当たり、その基礎資料を得るとともに、障害者・児の方々の日常生活の実態、サービスの利用状況や希望等を把握するため、実態・意向調査を実施しました。また、区内の障害福祉サービス事業所等を対象に、事業所の概要や福祉人材の現状を把握するとともに、都内・都外の医療機関における区民の長期入院患者の状況を把握することで、今後の障害福祉サービス等の基盤整備に資するための基礎資料とします。

（2）調査種類と調査方法

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、18 歳未満の方、区内障害福祉サービス等事業所及び都内・都外長期入院施設を対象とした量的調査（アンケート調査）並びに区内施設等を利用する知的障害者及び精神障害者を対象とした質的調査（インタビュー調査）の２種類を実施しました。

（3）量的調査（アンケート調査）

①調査設計

調査の種類	対象者	調査方法
在宅の方	文京区内に居住し、以下に該当する 18 歳以上の方 ・身体障害者手帳をお持ちの方 （肢体不自由、内部障害については無作為抽出、その他の障害については全数） ・愛の手帳をお持ちの方（全数） ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方（全数） ・難病医療券をお持ちの方（全数）	調査票を郵送配付し、郵送及びインターネット回答で回収する方法で実施しました。
18 歳未満の方	文京区内に居住し、以下に該当する 18 歳未満の方 ・身体障害者手帳をお持ちの方 ・愛の手帳をお持ちの方 ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方 ・難病医療券をお持ちの方 ・障害児通所支援受給者証をお持ちの方	
施設に入所している方	・身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちで、文京区が支給決定した施設入所支援及び療養介護のサービスをご利用中の 18 歳以上の方	
サービス事業所の方	・区民が利用している指定障害福祉サービス等事業所	
長期入院施設	・区民が利用している精神科長期入院施設(医療機関)	

②調査期間

令和７年 10 月 1 日から 10 月 31 日までの期間に実施しました。

③回収結果

種類	配付数	回収数	有効回答数		有効回答率	
				内インターネット		内インターネット
在宅の方	5,850	2,504	2,493	883	42.6%	15.1%
18 歳未満の方	1,084	471	465	287	42.9%	26.5%
施設に入所している方	139	82	82	16	59.0%	11.5%
サービス事業所	106	83	83	48	78.3%	45.3%
長期入院施設	167	149	149	8	89.2%	4.8%
合　計	7,346	3,289	3,272	1,242	44.5%	16.9%

※ インターネットによる有効回答率は、配付数におけるインターネット回答の割合です。

④報告書の見方

ア．各設問の回答者の総数は n(Number of case)と表記しています。

イ．集計した数値（%）は小数点第２位を四捨五入し、小数点第 1 位まで表示しています。このため、単数回答であっても、合計値が 100%にならない場合もあります。

ウ．回答者数を分母として割合（%）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると 100%を超えます。

エ．クロス集計表において、その表頭の設問中、「その他」、「特になし」等、「無回答」を除く最も高い割合に網掛けをしています。また、表側の回答者の総数（n）が 10 未満の場合、１つの回答による割合の変動が大きいため、原則コメントをしていません。

オ．「長期入院施設」の調査については、167 か所の病院に対して、調査票を配付し、149 か所の病院から回答がありました。分析では、長期入院患者がいない病院を除き、53 人の長期入院患者の情報を集計しています。

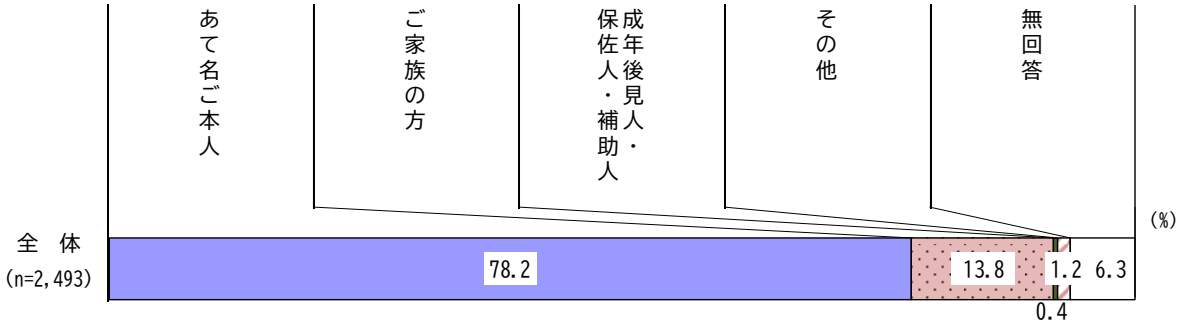
第１章

在宅の方を対象にした調査

1　本人について

（1）調査票の回答者

問1　この調査票に回答していただく方はどなたですか。（○はひとつ）



調査の回答者は、「あて名ご本人」が78.2%と７割半ばを超えており、「ご家族の方」は13.8%となっています。

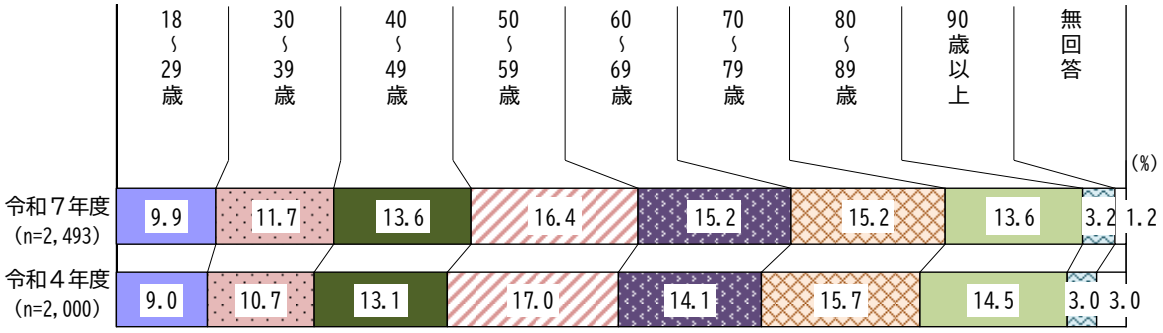
【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	あて名ご本人	ご家族の方	成年後見人・保佐人・補助人	その他	無回答
全体		2,493	***78.2***	13.8	0.4	1.2	6.3
障害別	肢体不自由	320	***61.6***	25.0	0.9	0.9	11.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***54.0***	36.8	1.1	1.1	6.9
	視覚障害	163	***67.5***	21.5	0.6	0.6	9.8
	聴覚・平衡機能障害	153	***82.4***	13.1	0.0	0.0	4.6
	内部障害	324	***82.1***	10.5	0.3	0.0	7.1
	知的障害	256	32.8	***49.2***	1.6	9.4	7.0
	発達障害	263	***75.7***	18.6	0.0	0.8	4.9
	精神障害	626	***87.7***	6.7	0.5	0.3	4.8
	高次脳機能障害	40	***60.0***	30.0	5.0	0.0	5.0
	難病（特定疾病）	817	***86.4***	8.8	0.1	0.1	4.5
	その他	42	***76.2***	19.0	0.0	2.4	2.4

障害別にみると、“知的障害”を除くいずれの障害も「あて名ご本人」が最も高くなっています。“知的障害”では「ご家族の方」が49.2%と５割近くを占め、他の障害より高くなっています。

（２）年齢

問２　あなたの年齢をお聞きします。**令和７年４月１日現在の満年齢**をお書きください。



障害者本人の年齢は、「50～59 歳」が 16.4%と最も高く、次いで「60～69 歳」と「70～79 歳」がともに 15.2%、「40～49 歳」と「80～89 歳」がともに 13.6%、「30～39 歳」が 11.7%と続いています。

令和４年度と比較すると、全体的な傾向については大きな変化はありません。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	無回答
全体		2,493	9.9	11.7	13.6	***16.4***	15.2	15.2	13.6	3.2	1.2
障害別	肢体不自由	320	4.7	4.4	8.4	10.0	16.9	22.5	***26.6***	4.4	2.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	11.5	4.6	4.6	13.8	11.5	***25.3***	***25.3***	3.4	0.0
	視覚障害	163	6.1	3.7	10.4	17.8	8.0	20.9	***24.5***	8.0	0.6
	聴覚・平衡機能障害	153	5.2	2.6	10.5	3.9	9.2	17.0	***34.6***	16.3	0.7
	内部障害	324	2.2	3.7	7.7	13.3	15.1	***25.6***	25.3	5.2	1.9
	知的障害	256	***37.5***	24.2	14.8	12.1	8.2	0.4	1.2	0.0	1.6
	発達障害	263	***35.7***	31.2	12.9	11.0	4.9	1.5	2.7	0.0	0.0
	精神障害	626	11.3	18.5	22.0	***25.7***	15.8	3.8	1.1	0.5	1.1
	高次脳機能障害	40	5.0	7.5	20.0	***25.0***	17.5	15.0	7.5	0.0	2.5
	難病（特定疾病）	817	5.4	8.1	14.9	17.6	19.5	***19.7***	12.6	1.7	0.5
	その他	42	9.5	7.1	4.8	23.8	14.3	4.8	***33.3***	2.4	0.0

障害別にみると、“知的障害”と“発達障害”では「18～29 歳」の若年層が３割半ばを超えて最も高くなっています。

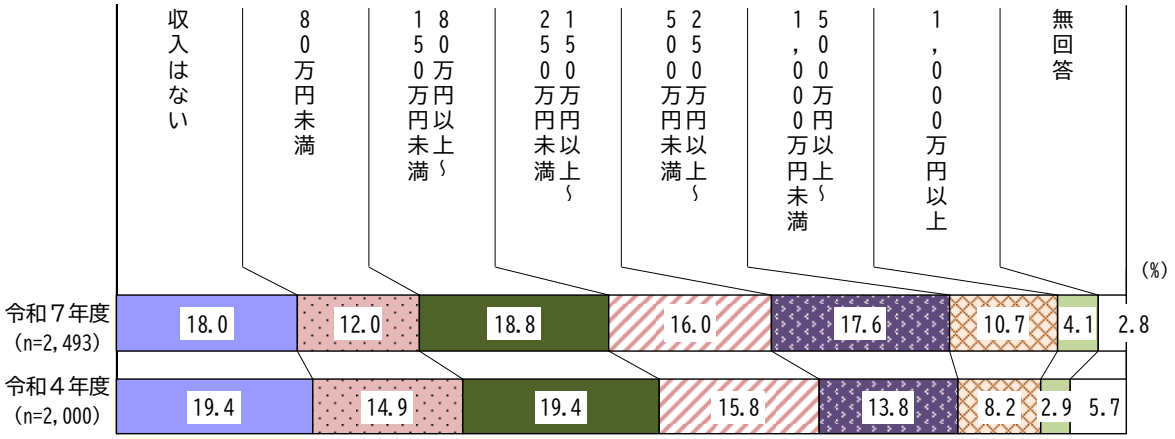
“精神障害”と“高次脳機能障害”では「50～59 歳」が２割半ばで最も高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”、“内部障害”、“難病（特定疾病）”では「70～79 歳」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「80～89 歳」の年齢で最も高くなっています。

（３）年収

問３　<u>あなたご本人</u>の年収額をお聞きします。税金等を差し引く前の額でお答えください。
（○はひとつ）



障害者本人の年収は、「80 万円以上～150 万円未満」が 18.8%と最も高く、次いで「収入はない」が 18.0%、「250 万円以上～500 万円未満」が 17.6%、「150 万円以上～250 万円未満」が 16.0%と１割半ばを超えています。

令和４年度と比較すると、150 万円未満の項目はいずれも下がっており、150 万円以上の項目はいずれも上がっています。

【クロス集計】年代別

（単位:%）		n	収入はない	80万円未満	80万円以上～150万円未満	150万円以上～250万円未満	250万円以上～500万円未満	500万円以上～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
全体		2,493	18.0	12.0	***18.8***	16.0	17.6	10.7	4.1	2.8
年代別	18歳以上40歳未満	538	20.3	13.6	***20.4***	14.7	18.4	8.7	2.6	1.3
	40歳以上65歳未満	956	***21.2***	11.1	16.9	10.6	15.4	16.3	6.7	1.8
	65歳以上75歳未満	336	13.7	11.9	***22.6***	21.4	19.6	7.4	2.4	0.9
	75歳以上	633	13.4	12.3	18.3	***22.7***	20.2	5.8	2.4	4.7

年代別にみると、“18 歳以上～40 歳未満”と“65 歳以上～75 歳未満”では「80 万円以上～150 万円未満」が、“40 歳以上～65 歳未満”では「収入はない」が、“75 歳以上”では「150 万円以上～250 万円未満」がそれぞれ２割を超えて最も高くなっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	収入はない	80万円未満	80万円以上～150万円未満	150万円以上～250万円未満	250万円以上～500万円未満	500万円以上～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
全体		2,493	18.0	12.0	***18.8***	16.0	17.6	10.7	4.1	2.8
障害別	肢体不自由	320	15.0	13.1	16.6	***20.9***	16.6	9.4	4.7	3.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***27.6***	4.6	19.5	19.5	13.8	6.9	8.0	0.0
	視覚障害	163	***20.2***	9.8	16.6	17.8	***20.2***	8.0	3.7	3.7
	聴覚・平衡機能障害	153	19.0	12.4	15.0	***21.6***	19.0	5.9	3.3	3.9
	内部障害	324	17.3	9.6	13.9	17.3	***19.8***	14.2	5.6	2.5
	知的障害	256	18.8	20.3	***39.1***	16.0	2.7	0.0	0.0	3.1
	発達障害	263	***23.6***	12.2	22.8	18.6	16.3	3.8	1.1	1.5
	精神障害	626	***27.3***	14.5	19.5	13.6	13.3	8.1	1.0	2.7
	高次脳機能障害	40	17.5	10.0	12.5	***25.0***	22.5	7.5	2.5	2.5
	難病（特定疾病）	817	13.6	9.1	15.5	13.6	***21.4***	17.4	7.6	1.8
	その他	42	***35.7***	14.3	16.7	14.3	9.5	9.5	0.0	0.0

障害別にみると、“知的障害”では「80万円以上～150万円未満」が約４割を占めて最も高くなっています。

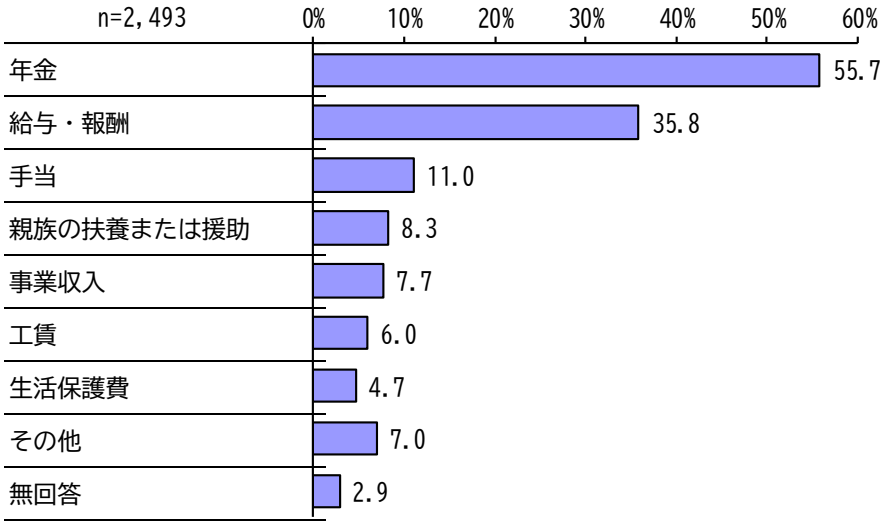
“肢体不自由”、“聴覚・平衡機能障害”、“高次脳機能障害”では「150万円以上～250万円未満」が２割を超えて最も高くなっています。

“視覚障害”、“内部障害”、“難病（特定疾病）”では「250 万円以上～500 万円未満」が２割前後で最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「収入はない」が最も高くなっています。

（４）収入内訳

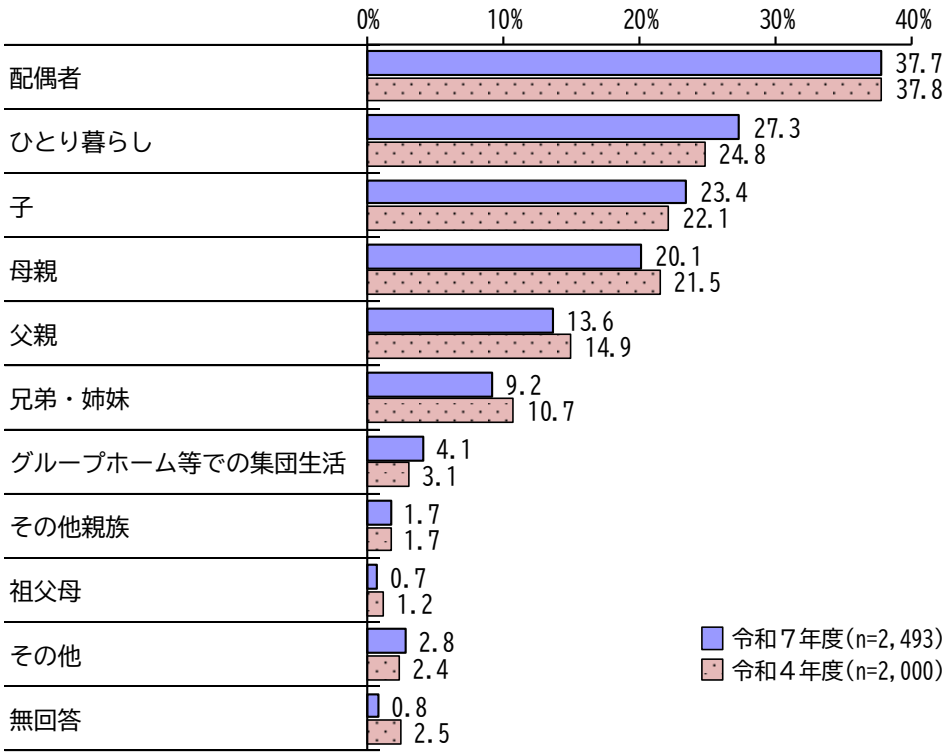
問４　あなたの主な収入の内訳をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）



収入の内訳は、「年金」が55.7%と５割半ばで最も高く、次いで「給与・報酬」が35.8%、「手当」が11.0%と続いています。

（５）同居家族

問５　あなたの同居家族をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）



同居している家族は、「配偶者」が 37.7％と３割半ばを超えて最も高く、次いで「ひとり暮らし」が 27.3％、「子」が 23.4％、「母親」が 20.1％と２割台で続いています。

令和４年度と比較すると、全体の傾向に大きな変化はありません。

【クロス集計】年代別・障害別

	（単位:%）	n	父親	母親	配偶者	子	兄弟･姉妹	祖父母
	全体	2,493	13.6	20.1	***37.7***	23.4	9.2	0.7
年代別	18歳以上40歳未満	538	41.1	***51.9***	15.8	11.0	25.8	2.6
	40歳以上65歳未満	956	11.5	21.4	***37.3***	25.7	6.3	0.4
	65歳以上75歳未満	336	1.2	3.6	***53.9***	21.4	4.8	0.0
	75歳以上	633	0.0	0.0	***49.4***	32.1	1.4	0.0
障害別	肢体不自由	320	10.9	15.3	***41.9***	29.1	5.0	0.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	18.4	23.0	***47.1***	25.3	10.3	0.0
	視覚障害	163	8.0	11.7	***35.6***	21.5	6.7	1.2
	聴覚・平衡機能障害	153	4.6	7.8	***43.8***	28.1	4.6	0.0
	内部障害	324	4.0	7.7	***50.6***	29.9	2.8	0.3
	知的障害	256	59.4	***75.4***	1.2	0.0	34.8	2.0
	発達障害	263	35.0	***46.4***	14.1	8.4	22.8	1.9
	精神障害	626	17.6	***28.0***	21.6	15.7	11.3	1.6
	高次脳機能障害	40	12.5	20.0	***50.0***	30.0	5.0	0.0
	難病（特定疾病）	817	5.0	8.0	***54.2***	32.2	4.0	0.1
	その他	42	7.1	***21.4***	19.0	***21.4***	4.8	0.0

	（単位:%）	n	その他親族	ひとり暮らし	グループホーム等での集団生活	その他	無回答
	全体	2,493	1.7	27.3	4.1	2.8	0.8
年代別	18歳以上40歳未満	538	1.5	21.4	4.3	3.0	0.0
	40歳以上65歳未満	956	1.3	30.8	4.1	1.7	0.4
	65歳以上75歳未満	336	1.8	30.1	2.7	2.7	0.0
	75歳以上	633	2.7	26.1	4.7	4.4	0.6
障害別	肢体不自由	320	1.9	21.9	5.3	4.4	0.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	4.6	14.9	5.7	4.6	0.0
	視覚障害	163	1.2	39.3	3.7	2.5	1.2
	聴覚・平衡機能障害	153	2.0	27.5	2.6	5.2	0.7
	内部障害	324	2.5	25.0	1.5	3.4	1.5
	知的障害	256	1.6	4.3	21.1	0.8	0.4
	発達障害	263	1.9	27.4	3.0	2.3	0.0
	精神障害	626	1.3	35.9	3.5	2.6	0.6
	高次脳機能障害	40	0.0	17.5	5.0	2.5	0.0
	難病（特定疾病）	817	1.5	26.9	1.1	2.4	0.5
	その他	42	2.4	31.0	9.5	2.4	0.0

年代別にみると、“18 歳以上～40 歳未満”では「母親」が 51.9%と５割を超えて最も高く、「父親」（41.1%）、「兄弟姉妹」（25.8%）といった近親者も、他の年代より高くなっています。

それ以外の年代ではいずれも「配偶者」が最も高く、「ひとり暮らし」や「子」も２割を超えて高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”、“その他”では「母親」が最も高く、特に“知的障害”では７割半ばに達し、他の障害より高くなっています。“知的障害”と“発達障害”では「父親」や「兄弟・姉妹」といった近親者も他の障害より高くなっています。

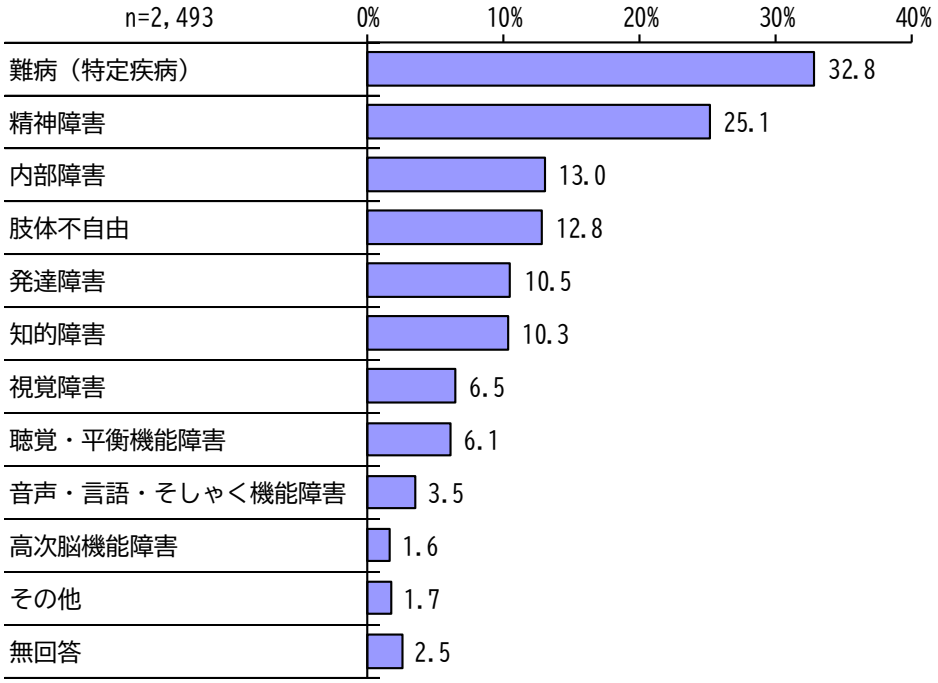
それ以外の障害では「配偶者」が最も高くなっています。

また、“知的障害”は他の障害に比べ「グループホーム等での集団生活」が２割を超えて高く、反対に「ひとり暮らし」は 4.3%と低くなっています。

2　障害と健康について

（1）障害の種類

問6　あなたには、次の障害等がありますか。（あてはまるものすべてに○）

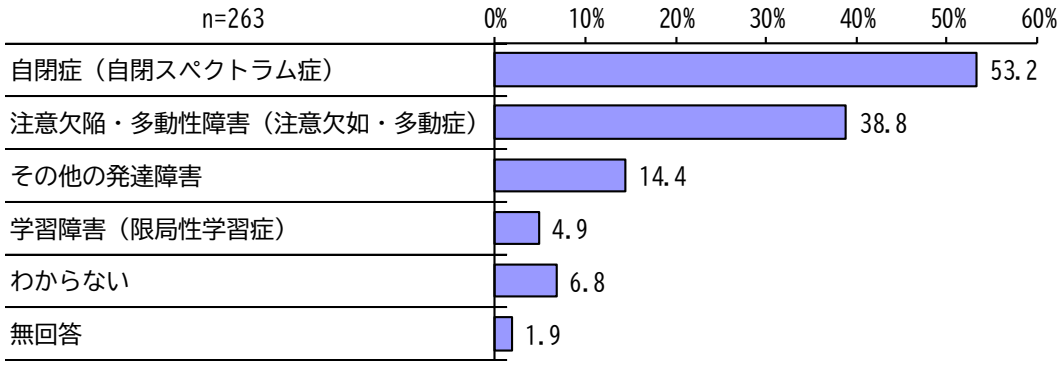


障害の種類は、「難病（特定疾病）」が 32.8％と３割を超えて最も高く、次いで「精神障害」が 25.1％、「内部障害」が 13.0％、「肢体不自由」が 12.8％、「発達障害」が 10.5％と続いています。

（2）発達障害診断名

問6で「発達障害」と回答された方にお聞きします。

問6－1　発達障害の診断名をお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）



発達障害の診断名は、「自閉症（自閉スペクトラム症）」が 53.2％と５割を超えて最も高く、次いで「注意欠陥・多動性障害（注意欠如・多動症）」が38.8％、「その他の発達障害」が14.4％と続いています。

（3）難病疾病名

問6で「難病（特定疾病）」と回答された方にお聞きします。

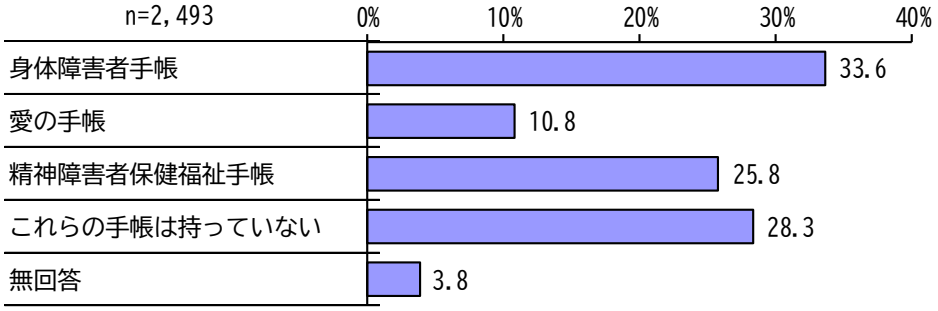
問6－2　病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

難病の疾病名は、「潰瘍性大腸炎」が105件と最も多く、次いで「パーキンソン病」が96件、「全身性エリテマトーデス」が62件と続いています。その他の件数は下表の通りです。

疾病名	件数	疾病名	件数
潰瘍性大腸炎	105	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5
パーキンソン病	96	ＩＧｇ４関連疾患	5
全身性エリテマトーデス	62	多系統萎縮症	5
クローン病	37	悪性関節リウマチ	5
好酸球性副鼻腔炎	32	下垂体性ADH分泌異常症	5
シェーグレン症候群	27	強直性脊椎炎	4
皮膚筋炎／多発性筋炎	23	類天疱瘡	4
重症筋無力症	20	全身性アミロイドーシス	4
特発性大腿骨頭壊死症	19	進行性核上性麻痺	4
全身性強皮症	19	多発血管炎性肉芽腫症	4
多発性嚢胞腎	19	もやもや病	4
網膜色素変性症	18	視神経脊髄炎	4
多発性硬化症	17	肥大型心筋症	4
下垂体前葉機能低下症	17	下垂体性PRL分泌亢進症	3
混合性結合組織病	16	筋ジストロフィー	3
原発性胆汁性胆管炎	15	間質性膀胱炎（ハンナ型）	3
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	15	原発性免疫不全症候群	3
免疫性血小板減少症	13	天疱瘡	2
ベーチェット病	13	原発性硬化性胆管炎	2
顕微鏡的多発血管炎	12	シャルコー・マリー・トゥース病	2
一次性ネフローゼ症候群	11	大脳皮質基底核変性症	2
後縦靭帯骨化症	10	原発性抗リン脂質抗体症候群	2
IgA 腎症	10	ミトコンドリア病	2
腎不全（人工透析）	9	レノックス・ガストー症候群	2
巨細胞性動脈炎	8	黄色靭帯骨化症	2
サルコイドーシス	8	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	2
特発性間質性肺炎	8	高安動脈炎	2
特発性拡張型心筋症	8	バージャー病	2
脊髄小脳変性症	7	先天性血液凝固因子欠乏症・血友病	2
自己免疫性肝炎	7	オスラー病	2
膠原病	6	アジソン病	2
再生不良性貧血	6	１件のみの難病疾病	28
成人発症スチル病	5	その他	7

（４）手帳の種類

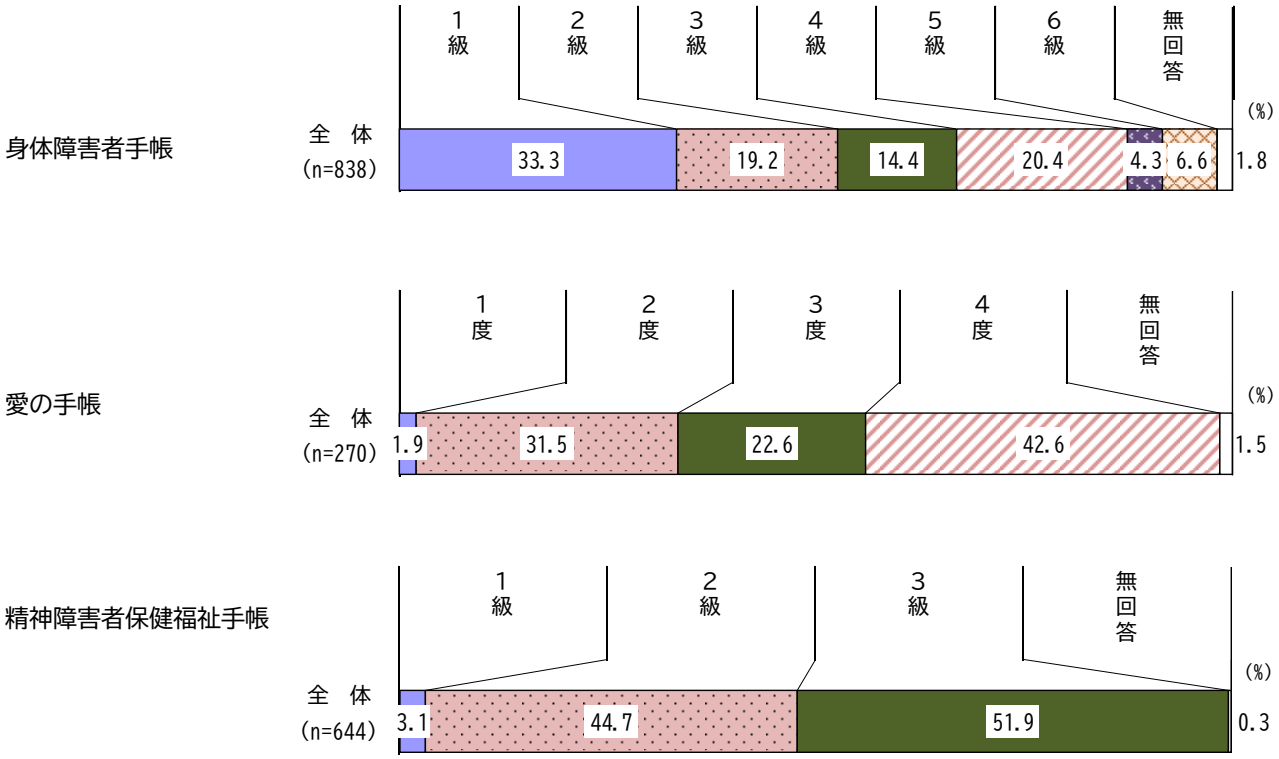
問７　あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。（あてはまるものすべてに○）



手帳の所持状況は、「身体障害者手帳」が 33.6％と３割を超えて最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が 25.8％、「愛の手帳」が 10.8％と続いています。

一方、「これらの手帳は持っていない」は 28.3％と３割半ばを超えています。

【各等級別】



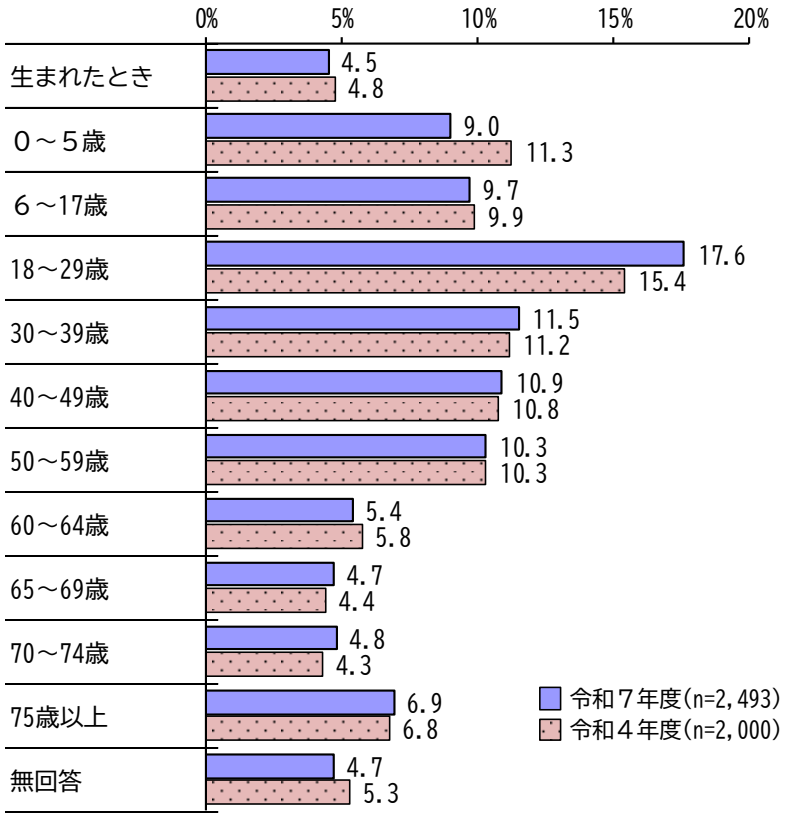
身体障害者手帳の等級は、「１級」が 33.3％と最も高く、次いで「４級」が 20.4％、「２級」が 19.2％と続いています。

愛の手帳の等級は、「４度」が 42.6％と最も高く、次いで「２度」が 31.5％、「３度」が 22.6％と続いています。

精神障害者保健福祉手帳は、「３級」が 51.9％と最も高く、次いで「２級」が 44.7％、「１級」が 3.1％と続いています。

（５）障害に最初に気づいた時期

問８　あなたの障害や心身の不調について、あなたやご家族の方などが最初に気づいた時期をお聞きします。（〇はひとつ）



本人や家族が障害に気づいた時期は、「18～29 歳」が 17.6%と最も高く、次いで「30～39 歳」が 11.5%、「40～49 歳」が 10.9%、「50～59 歳」が 10.3%と１割台で続いています。

令和４年度と比較すると、全体的な傾向に変化がありませんが、「18～29 歳」が 2.2 ポイント上がっており、反対に「０～５歳」が 2.3 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	生まれたとき	0～5歳	6～17歳	18～29歳	30～39歳	40～49歳
全体		2,493	4.5	9.0	9.7	***17.6***	11.5	10.9
障害別	肢体不自由	320	10.0	8.4	4.1	6.3	8.8	10.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	8.0	10.3	4.6	3.4	4.6	6.9
	視覚障害	163	11.7	8.6	9.8	7.4	8.6	8.0
	聴覚・平衡機能障害	153	5.2	16.3	7.8	6.5	7.8	5.9
	内部障害	324	2.8	3.1	2.5	9.0	10.5	13.0
	知的障害	256	25.0	***50.4***	11.7	3.9	0.8	0.4
	発達障害	263	4.9	***31.6***	19.8	22.4	8.7	5.7
	精神障害	626	1.3	4.6	19.2	***35.5***	17.6	12.6
	高次脳機能障害	40	0.0	5.0	10.0	15.0	7.5	***22.5***
	難病（特定疾病）	817	0.5	2.0	5.5	***17.4***	15.2	15.4
	その他	42	4.8	9.5	14.3	***23.8***	0.0	4.8

（単位:%）		n	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
全体		2,493	10.3	5.4	4.7	4.8	6.9	4.7
障害別	肢体不自由	320	***14.4***	9.7	8.8	4.7	9.1	5.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***18.4***	14.9	4.6	9.2	13.8	1.1
	視覚障害	163	***16.0***	6.7	4.3	10.4	7.4	1.2
	聴覚・平衡機能障害	153	8.5	7.2	5.2	7.8	***17.0***	4.6
	内部障害	324	14.2	9.0	8.0	10.5	***14.5***	3.1
	知的障害	256	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	7.0
	発達障害	263	2.7	0.8	0.4	0.4	0.4	2.3
	精神障害	626	6.2	0.5	0.6	0.5	0.6	0.8
	高次脳機能障害	40	15.0	10.0	10.0	2.5	2.5	0.0
	難病（特定疾病）	817	13.0	7.0	5.5	5.4	8.7	4.5
	その他	42	11.9	4.8	2.4	11.9	9.5	2.4

障害別にみると、“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“視覚障害”では「50～59 歳」が１割半ば前後で最も高くなっています。

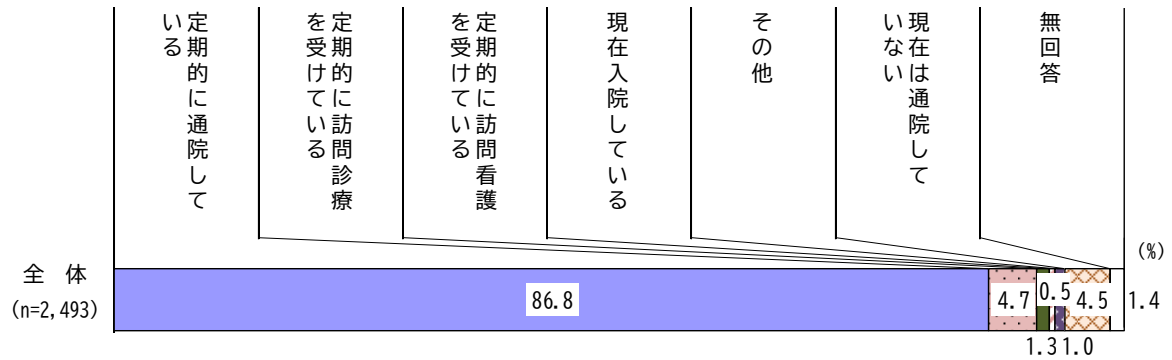
“知的障害”、“発達障害”では「０～５歳」の幼年期が最も高くなっており、“知的障害”では「生まれたとき」も２割半ばを占めて、他の障害より高くなっています。

“精神障害”と“難病（特定疾病)”では「18～29 歳」の青年期が最も高く、特に“精神障害”では３割半ばを占めています。

“高次脳機能障害”では「40～49 歳」で２割を超えて、他の障害より高くなっています。

（６）受診状況

問９　あなたの受診状況等（歯科医療も含む）をお聞きします。（○はひとつ）



医療機関への受診状況は、「定期的に通院している」が 86.8%と８割半ばを超えて最も高くなっています。

一方、「現在は通院していない」は 4.5%となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	定期的に通院している	定期的に訪問診療を受けている	定期的に訪問看護を受けている	現在入院している	その他	現在は通院していない	無回答
全体		2,493	***86.8***	4.7	1.3	0.5	1.0	4.5	1.4
障害別	肢体不自由	320	***68.4***	14.1	3.8	1.3	1.9	9.4	1.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***65.5***	18.4	5.7	1.1	2.3	5.7	1.1
	視覚障害	163	***78.5***	5.5	3.1	0.6	1.2	11.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	153	***71.9***	7.8	0.7	0.0	2.6	15.0	2.0
	内部障害	324	***91.0***	4.0	0.9	0.6	1.9	0.9	0.6
	知的障害	256	***82.4***	3.9	0.8	0.4	0.0	12.5	0.0
	発達障害	263	***87.5***	1.9	1.5	0.4	1.5	7.2	0.0
	精神障害	626	***94.2***	1.8	1.9	0.5	0.5	1.1	0.0
	高次脳機能障害	40	***80.0***	7.5	2.5	0.0	5.0	5.0	0.0
	難病（特定疾病）	817	***91.4***	4.8	0.9	0.4	0.9	0.7	1.0
	その他	42	***85.7***	4.8	0.0	0.0	2.4	7.1	0.0

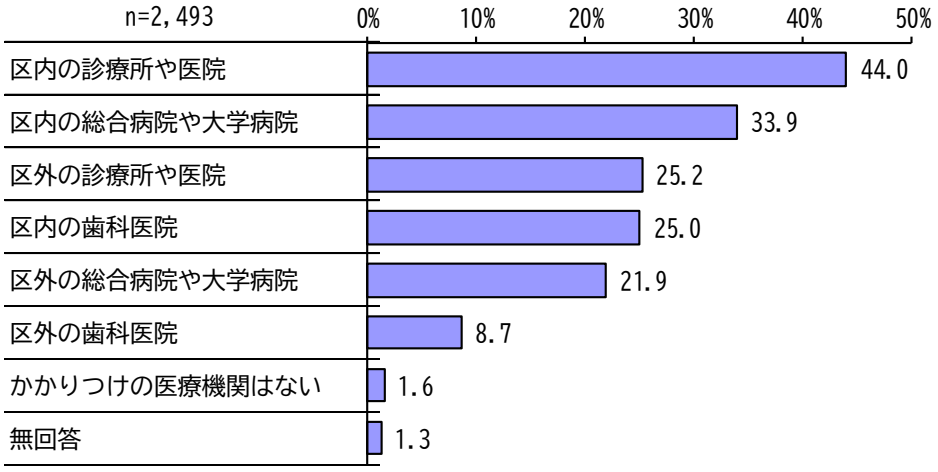
障害別にみると、いずれの障害でも「定期的に通院している」が６割半ばを超えて最も高くなっています。

「定期的に訪問診療を受けている」は“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”で１割台と、他の障害より高くなっています。

「現在は通院していない」は“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”、“知的障害”で１割を超えて、他の障害より高くなっています。

（7）かかりつけ医療機関の有無

問 10　かかりつけの医療機関をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

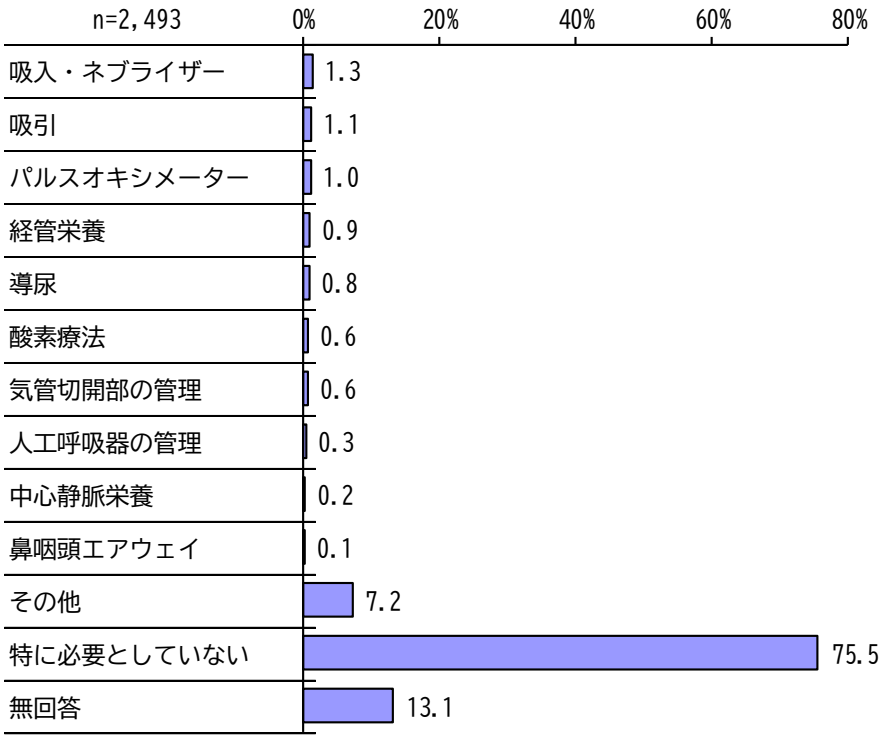


かかりつけの医療機関は、「区内の診療所や医院」が 44.0％と４割を超えて最も高く、次いで「区内の総合病院や大学病院」が 33.9％、「区外の診療所や医院」が 25.2％、「区内の歯科医院」が 25.0％と続いています。

一方、「かかりつけの医療機関はない」は 1.6％となっています。

（８）必要な医療的ケア

問 11　あなたが必要とする医療的ケアをお聞きします。（あてはまるものすべてに○）



必要とする医療的ケアは、「吸入・ネブライザー」が 1.3%と最も高く、「吸引」が 1.1%、「パルスオキシメーター」が 1.0%と続いており、それ以外の項目はいずれも１%を下回っています。

一方、「特に必要としていない」は 75.5%と７割半ばを占めています。

【クロス集計】年代別

（単位:%）		n	吸引	吸入･ネブライザー	経管栄養	中心静脈栄養	導尿	酸素療法	鼻咽頭エアウェイ
全体		2,493	1.1	1.3	0.9	0.2	0.8	0.6	0.1
年代別	18歳以上40歳未満	538	0.7	0.9	0.7	0.4	0.0	0.4	0.2
	40歳以上65歳未満	956	0.3	1.3	0.2	0.0	0.2	0.3	0.0
	65歳以上75歳未満	336	2.1	2.4	1.8	0.3	2.1	0.3	0.3
	75歳以上	633	2.1	1.1	1.4	0.3	1.9	1.4	0.2

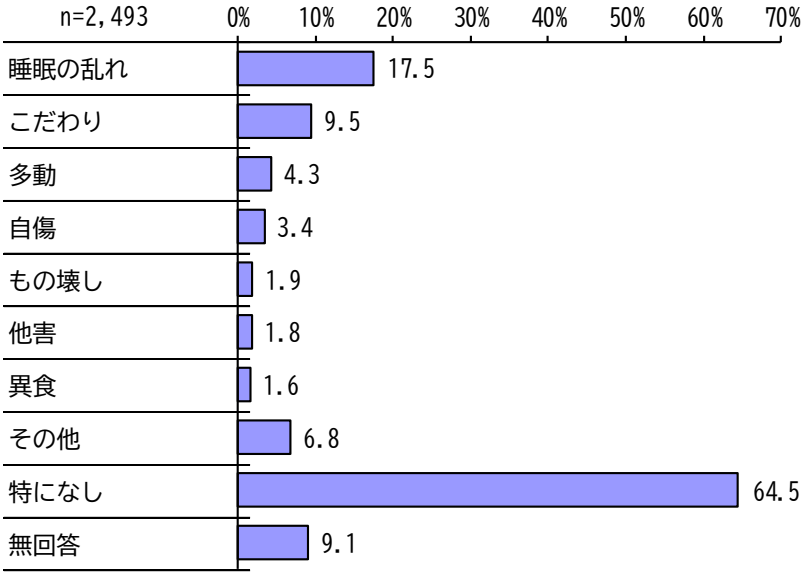
（単位:%）		n	パルスオキシメーター	気管切開部の管理	人工呼吸器の管理	その他	特に必要としていない	無回答
全体		2,493	1.0	0.6	0.3	7.2	***75.5***	13.1
年代別	18歳以上40歳未満	538	0.4	0.4	0.2	4.1	***85.5***	8.9
	40歳以上65歳未満	956	0.5	0.5	0.0	6.1	***80.0***	11.0
	65歳以上75歳未満	336	1.5	1.5	0.6	8.6	***72.3***	12.5
	75歳以上	633	1.7	0.6	0.6	11.1	***62.9***	19.1

年代別にみると、いずれの年代も“特に必要としていない”が最も高くなっています。

“65 歳以上 75 歳未満”では「吸引」、「吸入・ネブライザー」、「導尿」が、“75 歳以上”では「吸引」が２%を超えています。

（９）日常生活で必要な特別な配慮

問 12　日常生活の中で、特別な支援や配慮を必要とする、行動面に関する課題がありますか。
（あてはまるものすべてに○）



日常生活の中で特別な支援や配慮を必要とする行動面に関する課題について、「睡眠の乱れ」が 17.5％と１割半ばを超えて最も高く、次いで「こだわり」が 9.5％、「多動」が 4.3％と続いています。

一方、「特になし」は 64.5％と６割半ばを占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	自傷	他害	こだわり	もの壊し	睡眠の乱れ
全体		2,493	3.4	1.8	9.5	1.9	***17.5***
年代別	18歳以上40歳未満	538	10.0	4.5	24.2	4.8	***27.1***
	40歳以上65歳未満	956	3.1	1.8	9.2	1.9	***21.2***
	65歳以上75歳未満	336	0.6	0.6	2.4	0.6	***13.1***
	75歳以上	633	0.0	0.3	1.6	0.2	***6.0***
障害別	肢体不自由	320	1.3	0.6	3.8	0.3	***7.2***
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	4.6	3.4	8.0	0.0	***12.6***
	視覚障害	163	1.8	1.2	3.7	0.6	***7.4***
	聴覚・平衡機能障害	153	0.7	0.7	3.3	0.0	***7.2***
	内部障害	324	0.9	0.0	1.5	0.3	***7.1***
	知的障害	256	10.9	8.6	***32.0***	7.0	16.0
	発達障害	263	13.3	6.8	39.5	8.0	***43.0***
	精神障害	626	8.3	3.5	19.2	3.4	***45.4***
	高次脳機能障害	40	7.5	5.0	7.5	5.0	***12.5***
	難病（特定疾病）	817	0.2	0.2	1.5	0.2	***7.0***
	その他	42	4.8	4.8	23.8	2.4	***28.6***

（単位:%）		n	異食	多動	その他	特になし	無回答
全体		2,493	1.6	4.3	6.8	64.5	9.1
年代別	18歳以上40歳未満	538	3.9	10.6	9.9	50.9	4.5
	40歳以上65歳未満	956	1.7	3.8	6.8	65.4	6.2
	65歳以上75歳未満	336	0.9	1.5	3.9	76.2	7.4
	75歳以上	633	0.2	1.4	5.7	69.2	17.7
障害別	肢体不自由	320	0.0	2.2	5.0	74.1	10.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	0.0	4.6	13.8	60.9	8.0
	視覚障害	163	0.0	4.9	4.9	72.4	11.7
	聴覚・平衡機能障害	153	0.7	1.3	7.2	68.0	15.7
	内部障害	324	0.6	0.9	4.0	77.8	11.4
	知的障害	256	1.6	9.4	10.5	46.1	6.6
	発達障害	263	6.8	21.3	16.3	31.6	5.7
	精神障害	626	4.8	7.8	11.5	37.7	7.7
	高次脳機能障害	40	2.5	10.0	15.0	65.0	7.5
	難病（特定疾病）	817	0.2	1.1	4.3	82.9	5.9
	その他	42	7.1	7.1	19.0	45.2	4.8

年代別にみると、いずれの年代でも「睡眠の乱れ」が最も高くなっています。

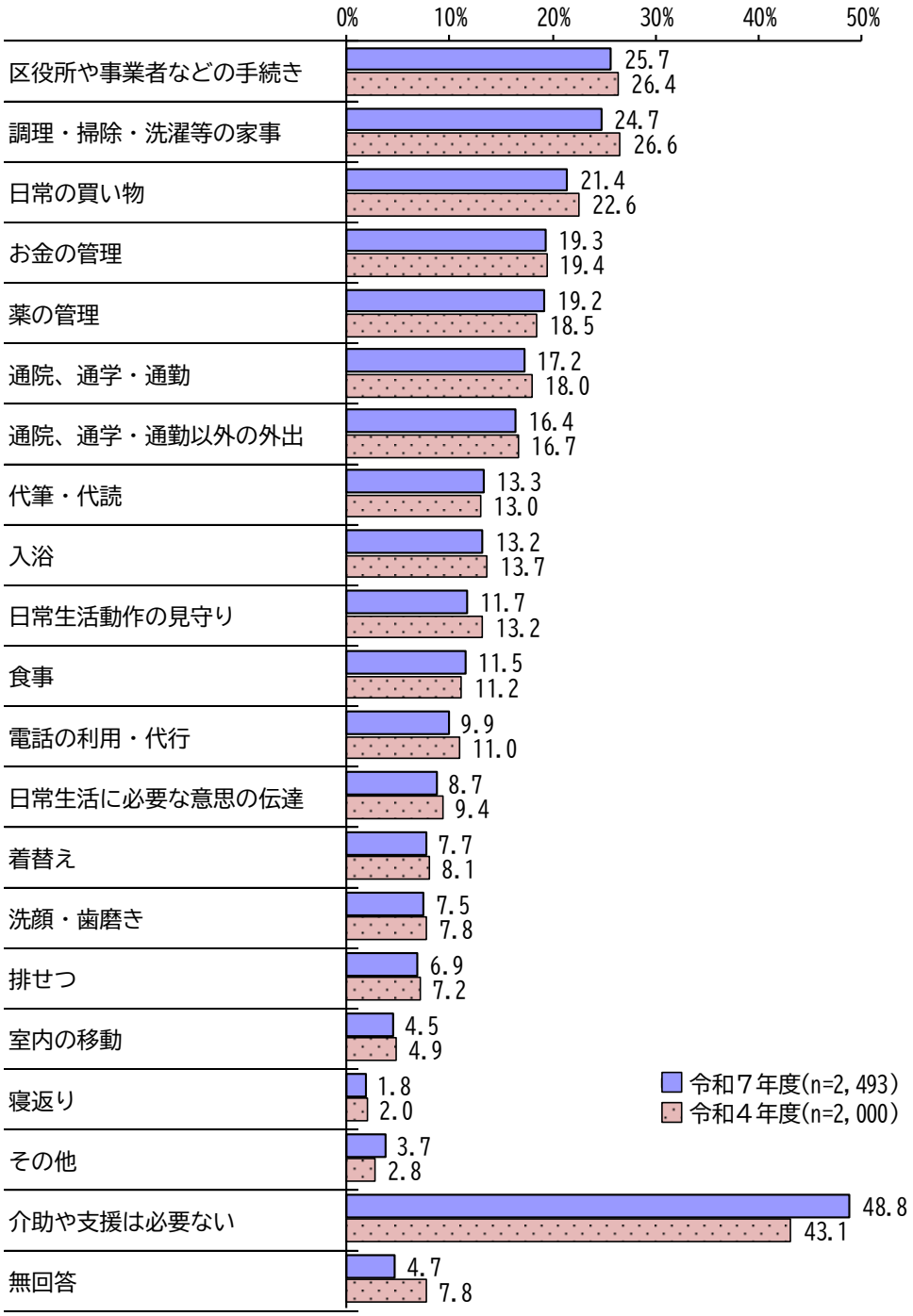
また、“18 歳以上 40 歳未満”では、「こだわり」が２割を超えて、他の年代より高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”以外のいずれの障害でも「睡眠の乱れ」が最も高く、特に“発達障害”と“精神障害”で４割を超えています。

また、“知的障害”と“発達障害”では「こだわり」が３割を超えて他の障害より高く、特に“発達障害”では約４割となっています。

（10）日常生活で必要な介助や支援

問 13　あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。
（あてはまるものすべてに○）



日常生活で必要な介助や支援は、「区役所や事業者などの手続き」が 25.7％と最も高く、次いで「調理・掃除・洗濯等の家事」が 24.7％、「日常の買い物」が 21.4％と２割台で続いています。

一方、「介助や支援は必要ない」は 48.8％と４割半ばを超えています。

令和４年度と比較すると、全体的な傾向について大きな変化はありませんが、「介助や支援は必要ない」が 5.7 ポイント上がっており、介助や支援は全体的に微減傾向となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	調理・掃除・洗濯等の家事	室内の移動
全体		2,493	11.5	6.9	13.2	1.8	7.7	24.7	4.5
障害別	肢体不自由	320	26.9	23.4	35.9	9.4	26.9	***41.3***	18.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	33.3	32.2	46.0	13.8	39.1	50.6	28.7
	視覚障害	163	16.6	8.6	16.6	1.8	8.6	33.1	7.4
	聴覚・平衡機能障害	153	7.8	2.6	11.8	1.3	5.2	17.0	3.3
	内部障害	324	8.3	5.9	11.4	1.2	6.8	***17.0***	4.9
	知的障害	256	32.0	23.0	35.5	1.6	21.9	63.3	6.3
	発達障害	263	15.6	7.2	14.8	1.5	8.4	39.2	1.5
	精神障害	626	10.9	3.4	8.0	0.6	3.8	***29.1***	1.8
	高次脳機能障害	40	32.5	20.0	32.5	7.5	27.5	55.0	22.5
	難病（特定疾病）	817	8.6	5.6	10.6	1.7	6.7	15.7	5.8
	問12に該当する方	658	21.9	12.6	22.5	2.1	12.3	***44.2***	6.5
	その他	42	14.3	11.9	19.0	4.8	14.3	35.7	7.1

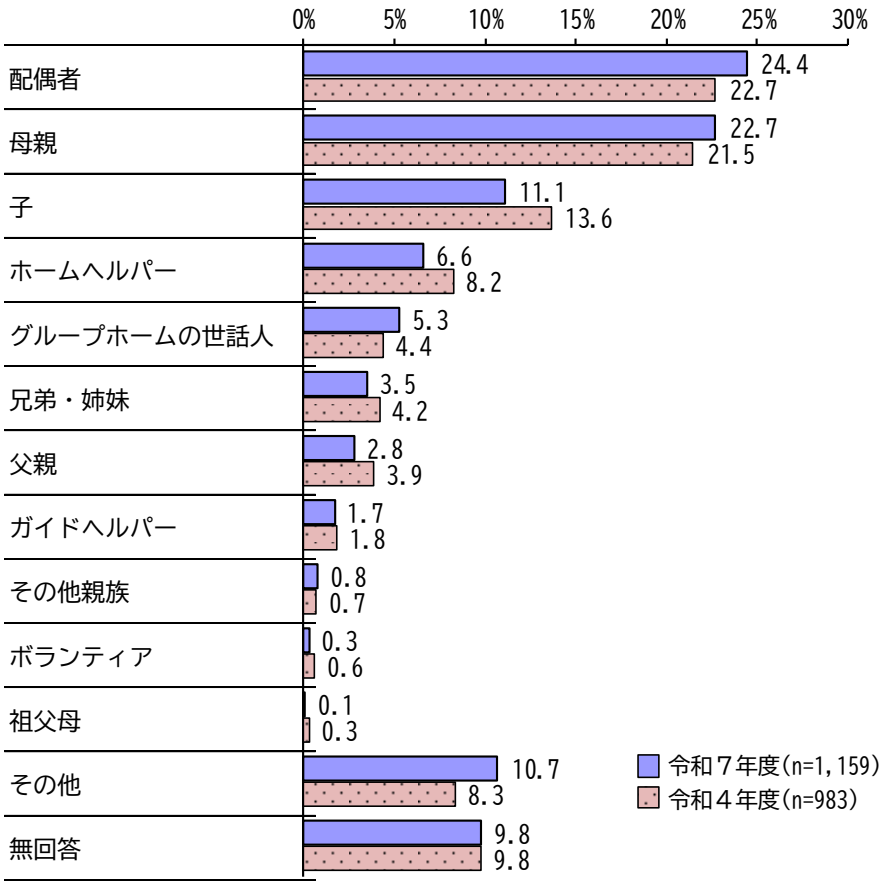
（単位:%）		n	洗顔・歯磨き	代筆・代読	電話の利用・代行	お金の管理	日常の買い物	通院、通学・通勤	通院、通学・通勤以外の外出
全体		2,493	7.5	13.3	9.9	19.3	21.4	17.2	16.4
障害別	肢体不自由	320	20.0	25.0	16.6	25.6	36.3	31.3	31.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	32.2	43.7	43.7	42.5	48.3	41.4	43.7
	視覚障害	163	6.1	***47.9***	16.6	22.7	42.9	38.0	33.7
	聴覚・平衡機能障害	153	2.0	15.0	19.0	11.1	20.3	20.9	12.4
	内部障害	324	4.9	5.6	5.6	8.3	16.7	14.8	11.7
	知的障害	256	32.4	52.0	41.4	***73.8***	56.6	47.3	54.7
	発達障害	263	12.2	16.0	15.2	***41.4***	28.5	23.6	20.2
	精神障害	626	5.3	6.1	5.6	21.4	17.4	11.8	12.3
	高次脳機能障害	40	15.0	47.5	30.0	52.5	37.5	37.5	30.0
	難病（特定疾病）	817	5.3	7.3	5.1	9.2	***16.2***	11.9	10.0
	問12に該当する方	658	15.8	20.7	18.2	39.1	35.1	26.7	27.5
	その他	42	14.3	21.4	19.0	31.0	33.3	28.6	21.4

（単位:%）		n	日常生活に必要な意思の伝達	日常生活動作の見守り	薬の管理	区役所や事業者などの手続き	その他	介助や支援は必要ない	無回答
全体		2,493	8.7	11.7	19.2	***25.7***	3.7	48.8	4.7
障害別	肢体不自由	320	12.5	20.9	30.6	38.8	4.1	32.5	3.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	32.2	33.3	43.7	***55.2***	3.4	16.1	3.4
	視覚障害	163	4.9	13.5	19.6	46.0	3.7	27.6	3.7
	聴覚・平衡機能障害	153	9.2	11.1	13.1	***28.1***	6.5	42.5	6.5
	内部障害	324	5.9	7.7	12.7	16.7	2.5	62.3	5.9
	知的障害	256	43.8	43.4	56.3	73.0	2.7	10.9	3.1
	発達障害	263	23.6	20.2	31.9	37.6	5.7	30.4	5.3
	精神障害	626	7.3	10.9	20.8	24.4	5.8	37.4	5.0
	高次脳機能障害	40	22.5	37.5	47.5	***62.5***	5.0	17.5	2.5
	難病（特定疾病）	817	3.2	6.6	11.1	14.7	1.7	70.3	2.1
	問12に該当する方	658	21.4	25.4	38.1	43.2	7.6	21.9	3.6
	その他	42	28.6	26.2	31.0	***38.1***	9.5	28.6	7.1

障害別では、「介助や支援は必要ない」を除くと、“肢体不自由”、“内部障害”、“精神障害”、“問 12 に該当する方”では「調理・掃除・洗濯等の家事」、“視覚障害”では「代筆・代読」、“知的障害”と“発達障害”では「お金の管理」、“難病（特定疾病）”では「日常の買い物」が最も高く、それ以外の障害ではいずれも「区役所や事業者などの手続き」が最も高くなっています。

（11）主な介助者・支援者

問 13 で「介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。
問 14　あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。（○はひとつ）



主な介助者・支援者は、「配偶者」が 24.4%と２割半ば近くで最も高く、次いで「母親」が 22.7%、「子」が 11.1%と続いています。

令和４年度と比較すると、全体的に傾向に大きな変化はありませんが、「子」が 2.5 ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	父親	母親	配偶者	子	兄弟･姉妹	祖父母	その他親族
全体		1,159	2.8	22.7	***24.4***	11.1	3.5	0.1	0.8
年代別	18歳以上40歳未満	294	7.1	***58.2***	5.1	0.3	1.7	0.3	0.7
	40歳以上65歳未満	373	3.2	***23.1***	22.8	3.2	4.8	0.0	0.8
	65歳以上75歳未満	128	0.0	0.0	***43.8***	5.5	8.6	0.0	0.8
	75歳以上	348	0.0	0.0	***35.1***	31.0	2.0	0.0	0.9
障害別	肢体不自由	206	1.9	16.0	***34.0***	14.6	1.9	0.0	0.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	70	1.4	18.6	***38.6***	14.3	2.9	0.0	1.4
	視覚障害	112	0.9	10.7	***28.6***	12.5	1.8	0.0	2.7
	聴覚・平衡機能障害	78	0.0	3.8	***33.3***	21.8	2.6	0.0	0.0
	内部障害	103	0.0	7.8	***31.1***	20.4	3.9	0.0	0.0
	知的障害	220	6.8	***60.0***	0.5	0.5	3.2	0.0	0.5
	発達障害	169	4.7	***48.5***	8.9	2.4	1.8	0.0	1.2
	精神障害	361	3.3	***26.0***	19.1	5.3	4.2	0.3	1.1
	高次脳機能障害	32	3.1	18.8	***43.8***	3.1	3.1	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	226	0.4	5.8	***39.8***	18.1	4.4	0.0	0.9
	問12に該当する方	490	3.3	***31.8***	16.7	4.7	3.3	0.0	1.2
	その他	27	0.0	***22.2***	11.1	14.8	7.4	0.0	0.0

（単位:%）		n	ホームヘルパー	ガイドヘルパー	ボランティア	グループホームの世話人	その他	無回答
全体		1,159	6.6	1.7	0.3	5.3	10.7	9.8
年代別	18歳以上40歳未満	294	1.4	1.4	0.0	5.4	9.9	8.5
	40歳以上65歳未満	373	7.8	2.7	0.3	5.9	13.9	11.5
	65歳以上75歳未満	128	10.2	0.0	1.6	5.5	10.2	14.1
	75歳以上	348	8.3	1.7	0.3	4.3	8.6	7.8
障害別	肢体不自由	206	9.7	0.0	0.0	5.3	8.7	7.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	70	2.9	0.0	0.0	2.9	4.3	12.9
	視覚障害	112	8.0	14.3	0.0	1.8	6.3	12.5
	聴覚・平衡機能障害	78	5.1	1.3	1.3	2.6	10.3	17.9
	内部障害	103	8.7	1.0	0.0	3.9	15.5	7.8
	知的障害	220	0.5	0.5	0.0	15.0	2.3	10.5
	発達障害	169	2.4	0.6	0.0	3.6	13.6	12.4
	精神障害	361	8.3	0.6	0.0	3.6	18.3	10.0
	高次脳機能障害	32	3.1	0.0	0.0	3.1	9.4	12.5
	難病（特定疾病）	226	8.0	0.9	0.9	1.8	12.8	6.2
	問12に該当する方	490	5.3	1.2	0.0	6.9	14.7	10.8
	その他	27	3.7	0.0	3.7	7.4	18.5	11.1

年代別にみると、“18 歳以上～40 歳未満”と“40～65 歳未満”では「母親」が最も高く、特に“18 歳以上～40 歳未満”では「母親」が５割半ばを超えています。

“65 歳以上～75 歳未満”と“75 歳以上”では「配偶者」が最も高く、特に“65 歳以上～75 歳未満”で４割を超えています。

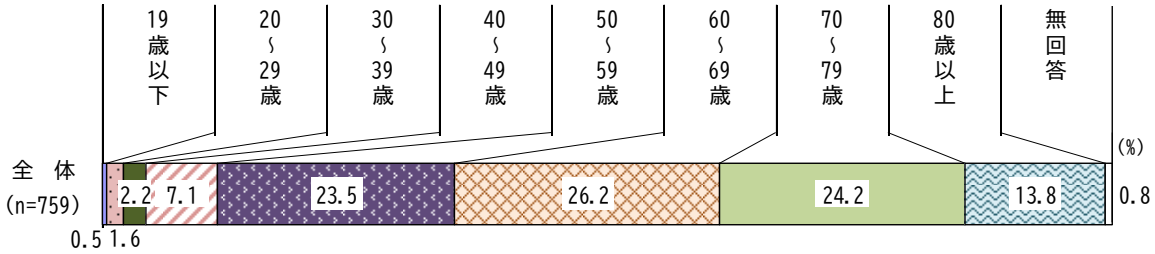
また、“75 歳以上”では「子」も３割を超えて高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”、“問 12 に該当する方”では「母親」が最も高く、特に“知的障害”では６割を占め、“発達障害”では４割半ばを超えています。

それ以外の障害では「配偶者」が最も高く、特に“高次脳機能障害”では４割を超えています。また、“聴覚・平衡機能障害”と“内部障害”では「子」が２割を超えて、他の障害より高くなっています。

（12）主な介助者・支援者の年代

問 14 で家族や親族と回答された方にお聞きします。
問 14-1　あなたを主に介助・支援している人は何歳ですか。（○はひとつ）



主な介助者・支援者の年代は、「60～69 歳」が 26.2%と最も高く、次いで「70～79 歳」が 24.2%、「50～59 歳」が 23.5%と２割を超えて続いています。また、60 歳以上の占める割合は 64.2%と６割半ば近くを占めています。

【クロス集計】介助者別・障害別

	（単位:%）	n	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答
	全体	759	0.5	1.6	2.2	7.1	23.5	***26.2***	24.2	13.8	0.8
介助者別	父親	33	0.0	0.0	0.0	0.0	21.2	18.2	***33.3***	27.3	0.0
	母親	263	0.0	0.4	0.0	3.0	22.8	***36.9***	24.3	11.8	0.8
	配偶者	283	0.0	1.1	4.2	7.8	14.1	18.7	***31.8***	21.9	0.4
	子	129	3.1	5.4	0.8	15.5	***45.7***	25.6	2.3	0.0	1.6
	兄弟・姉妹	41	0.0	2.4	7.3	7.3	24.4	24.4	***26.8***	7.3	0.0
	祖父母	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0
	その他親族	9	0.0	0.0	11.1	11.1	22.2	0.0	***44.4***	0.0	11.1
障害別	肢体不自由	142	0.0	1.4	0.0	7.7	***26.8***	21.1	***26.8***	14.8	1.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	54	0.0	1.9	0.0	13.0	24.1	20.4	***27.8***	13.0	0.0
	視覚障害	64	0.0	1.6	1.6	6.3	20.3	25.0	***35.9***	9.4	0.0
	聴覚・平衡機能障害	48	0.0	2.1	0.0	4.2	14.6	***31.3***	16.7	***31.3***	0.0
	内部障害	65	0.0	1.5	1.5	4.6	***29.2***	20.0	24.6	18.5	0.0
	知的障害	157	0.0	0.6	0.6	3.8	28.0	***38.2***	20.4	7.6	0.6
	発達障害	114	1.8	2.6	3.5	7.0	26.3	***42.1***	11.4	4.4	0.9
	精神障害	214	1.9	3.3	5.1	9.8	***24.3***	***24.3***	21.0	9.3	0.9
	高次脳機能障害	23	0.0	0.0	0.0	17.4	8.7	26.1	***39.1***	8.7	0.0
	難病（特定疾病）	157	0.0	1.3	1.3	9.6	21.7	21.0	***24.2***	19.7	1.3
	その他	15	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	***40.0***	13.3	26.7	0.0

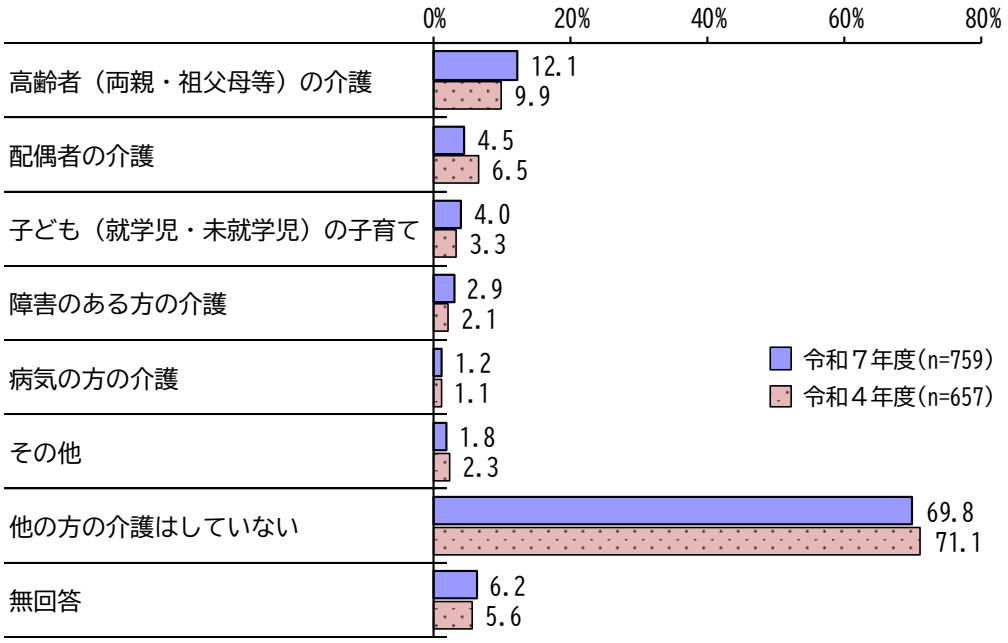
介助者別にみると、いずれの介助者も 50 歳以上の年代が最も高くなっており、“子”では「50～59 歳」が、“母親”では「60～69 歳」が最も高く、“それ以外の介助者では「70～79 歳」が最も高くなっています。

また、“兄弟・姉妹”は「50～59 歳」と「60～69 歳」、“子”は「60～69 歳」が２割半ば前後と高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「60～69 歳」が２割以上となっており、特に“発達障害”では４割を超えています。また“視覚障害”と“高次脳機能障害”は「70～79 歳」で３割半ばを超えて、他の障害より高くなっています。

（13）主な介助者による介護状況

問 14 家族や親族と回答された方にお聞きします。
問 15　主な介助者は、あなた以外の方の世話や介護をされていますか。
（あてはまるものすべてに○）



主な介助者のその他の介護状況は、「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が 12.1％と１割を超えて最も高く、次いで「配偶者の介護」が 4.5％、「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が 4.0％と続いています。

一方、「他の方の介護はしていない」が 69.8％と７割を占めています。

令和４年度と比較すると、介護状況の傾向にあまり変化はありませんが、「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が 2.2 ポイント上がっており、反対に「配偶者の介護」が 2.0 ポイント下がっています。

【クロス集計】介助者別・障害別

	（単位:%）	n	高齢者(両親･祖父母等)の介護	配偶者の介護	子ども(就学児･未就学児)の子育て	病気の方の介護	障害のある方の介護	その他	他の方の介護はしていない	無回答
	全体	759	***12.1***	4.5	4.0	1.2	2.9	1.8	69.8	6.2
介助者別	父親	33	6.1	***21.2***	3.0	0.0	0.0	3.0	63.6	6.1
	母親	263	***16.0***	4.9	2.3	2.3	3.8	1.9	67.3	5.3
	配偶者	283	***6.7***	2.8	5.3	0.4	1.8	1.4	76.0	7.1
	子	129	***15.5***	3.1	5.4	0.8	2.3	2.3	65.9	6.2
	兄弟・姉妹	41	***19.5***	0.0	2.4	2.4	9.8	2.4	61.0	7.3
	祖父母	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他親族	9	***11.1***	***11.1***	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	0.0
障害別	肢体不自由	142	***14.8***	4.9	4.9	0.0	2.8	1.4	63.4	8.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	54	***13.0***	7.4	9.3	3.7	3.7	1.9	59.3	7.4
	視覚障害	64	6.3	***9.4***	3.1	1.6	1.6	0.0	71.9	9.4
	聴覚・平衡機能障害	48	***10.4***	4.2	0.0	0.0	2.1	4.2	72.9	8.3
	内部障害	65	***7.7***	3.1	6.2	1.5	4.6	7.7	66.2	7.7
	知的障害	157	***15.9***	7.0	1.9	1.9	3.2	1.9	66.2	5.7
	発達障害	114	***15.8***	3.5	2.6	2.6	2.6	2.6	65.8	7.9
	精神障害	214	***15.0***	5.1	6.1	1.4	3.7	2.3	66.4	3.3
	高次脳機能障害	23	***21.7***	0.0	8.7	4.3	4.3	0.0	60.9	8.7
	難病（特定疾病）	157	***9.6***	1.9	2.5	1.3	2.5	2.5	75.8	5.7
	その他	15	***20.0***	0.0	0.0	0.0	6.7	13.3	53.3	13.3

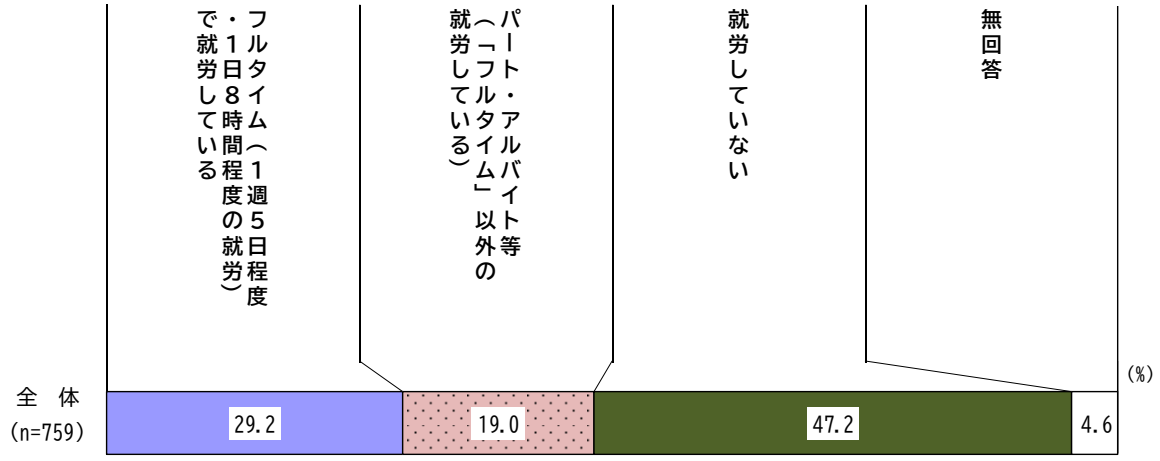
介助者別にみると、「他の方の介護はしていない」を除くと、“父親”では「配偶者の介護」が21.2%と２割を超えて最も高く、それ以外の介助者では「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が最も高くなっています。

障害別にみると、「介助や支援は必要ない」を除くと、“視覚障害”では「配偶者の介護」が最も高くなっています。

それ以外の介助者では「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が最も高くなっており、特に“高次脳機能障害”と“その他”では「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が２割以上で、他の障害より高くなっています

（14）主な介助者の就労状況

問 14 で家族や親族と回答された方にお聞きします。
問 16　主な介助者の就労状況をお聞きします。（○はひとつ）



主な介助者の就労状況は、「就労していない」が 47.2%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「フルタイムで就労している」が 29.2%、「パート・アルバイト等」が 19.0%と続いています。

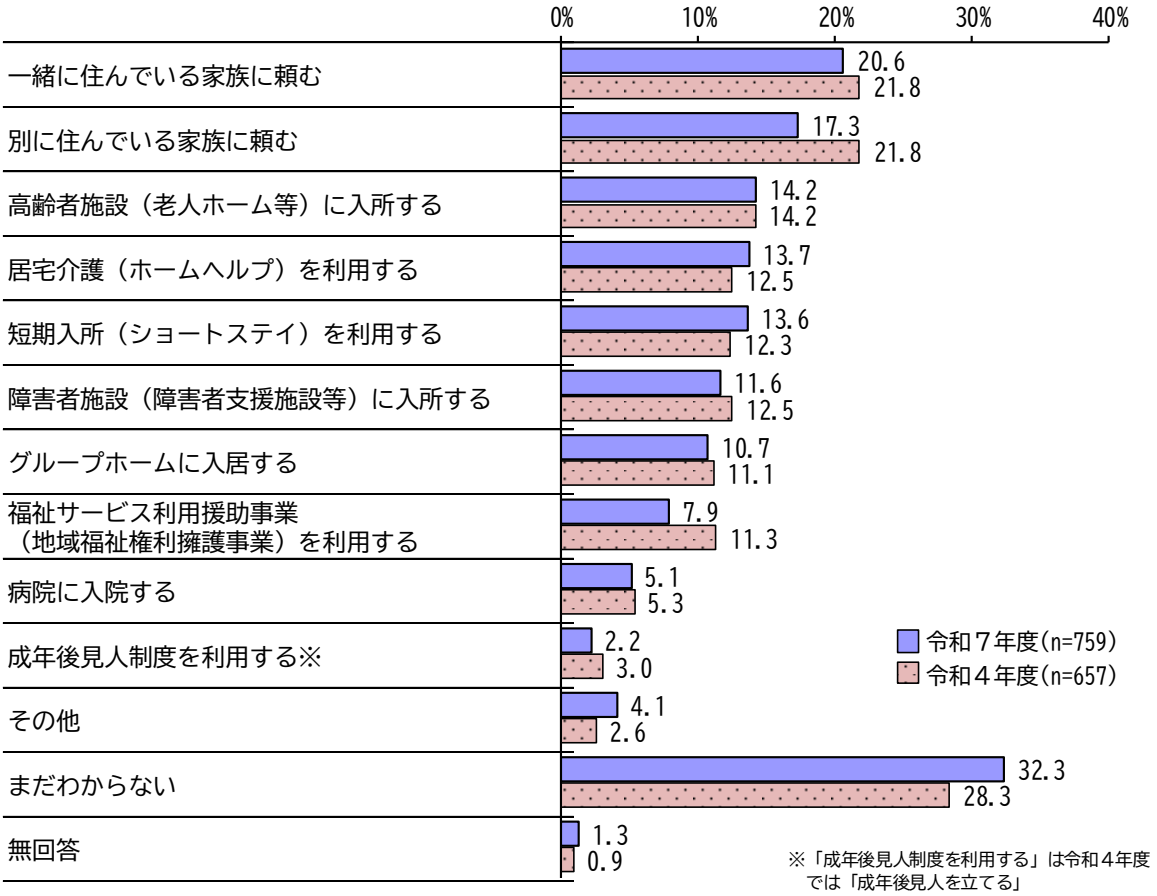
【クロス集計】介助者別・障害別

（単位:%）		n	フルタイムで就労している	パート･アルバイト等	就労していない	無回答
全体		759	29.2	19.0	***47.2***	4.6
介助者別	父親	33	36.4	12.1	***45.5***	6.1
	母親	263	17.1	30.0	***49.4***	3.4
	配偶者	283	28.6	12.7	***54.1***	4.6
	子	129	***54.3***	11.6	27.1	7.0
	兄弟・姉妹	41	31.7	14.6	***48.8***	4.9
	祖父母	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0
	その他親族	9	11.1	***44.4***	***44.4***	0.0
障害別	肢体不自由	142	28.2	16.2	***45.1***	10.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	54	31.5	11.1	***48.1***	9.3
	視覚障害	64	32.8	12.5	***50.0***	4.7
	聴覚・平衡機能障害	48	35.4	10.4	***52.1***	2.1
	内部障害	65	32.3	10.8	***50.8***	6.2
	知的障害	157	17.2	33.1	***45.9***	3.8
	発達障害	114	29.8	27.2	***40.4***	2.6
	精神障害	214	36.0	17.8	***45.8***	0.5
	高次脳機能障害	23	26.1	26.1	***43.5***	4.3
	難病（特定疾病）	157	26.1	15.9	***51.0***	7.0
	その他	15	6.7	26.7	***53.3***	13.3

介助者別にみると、“子”では「フルタイムで就労している」が 54.3%と５割半ば近くで最も高く、“父親”、“配偶者”、“兄弟・姉妹”も「フルタイムで就労している」が３割前後となっています。
“子”以外の介助者では「就労していない」が最も高くなっています。
また、“母親”は「パート・アルバイト等」が３割で高くなっています。
障害別にみると、いずれの障害も「就労していない」が４割を超えて最も高くなっています。
“知的障害”では「パート・アルバイト等」が３割を超えて、他の障害より高くなっています

（15）主な介助者が支援できなくなったときの対応

問 14 で家族や親族と回答された方にお聞きします。
問 17　主な介助者があなたを介助・支援できなくなった場合はどうしますか。（○は３つまで）



主な介助者が支援できなくなったときの対応は、「一緒に住んでいる家族に頼む」が 20.6%と２割に達し最も高く、次いで「別に住んでいる家族に頼む」が 17.3%、「高齢者施設（老人ホーム等）に入所する」が14.2%、「居宅介護（ホームヘルプ）を利用する」が13.7%、「短期入所（ショートステイ）を利用する」が 13.6%と続いています。

一方、「まだわからない」が 32.3%と３割を超えています。

令和４年度と比較すると、「別に住んでいる家族に頼む」が 4.5 ポイント、「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）を利用する」が 3.4 ポイント下がっており、「まだわからない」が 4.0 ポイント上がっています。

【クロス集計】介助者別・障害別

（単位:%）		n	一緒に住んでいる家族に頼む	別に住んでいる家族に頼む	居宅介護（ホームヘルプ）を利用する	短期入所（ショートステイ）を利用する	障害者施設（障害者支援施設等）に入所する	高齢者施設（老人ホーム等）に入所する	病院に入院する
	全体	759	***20.6***	17.3	13.7	13.6	11.6	14.2	5.1
介助者別	父親	33	***30.3***	9.1	12.1	0.0	27.3	3.0	3.0
	母親	263	***29.3***	14.4	7.6	17.1	20.9	1.1	3.0
	配偶者	283	16.6	19.1	17.0	9.5	4.9	***21.2***	5.3
	子	129	16.3	24.0	17.1	20.9	0.8	***32.6***	8.5
	兄弟・姉妹	41	2.4	7.3	***19.5***	4.9	14.6	2.4	7.3
	祖父母	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他親族	9	0.0	22.2	22.2	22.2	***33.3***	11.1	11.1
障害別	肢体不自由	142	***26.8***	14.8	20.4	14.8	8.5	22.5	2.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	54	11.1	***22.2***	14.8	14.8	14.8	20.4	7.4
	視覚障害	64	20.3	***25.0***	20.3	10.9	20.3	20.3	3.1
	聴覚・平衡機能障害	48	12.5	***25.0***	12.5	14.6	6.3	18.8	2.1
	内部障害	65	9.2	16.9	16.9	13.8	7.7	***29.2***	10.8
	知的障害	157	36.3	12.7	5.1	27.4	***36.9***	0.6	0.0
	発達障害	114	***29.8***	20.2	4.4	19.3	17.5	0.9	3.5
	精神障害	214	13.1	***14.0***	9.8	6.1	7.5	4.7	5.1
	高次脳機能障害	23	***34.8***	17.4	26.1	17.4	8.7	8.7	4.3
	難病（特定疾病）	157	15.3	18.5	23.6	18.5	7.6	***31.2***	10.8
	その他	15	***20.0***	13.3	0.0	***20.0***	6.7	***20.0***	6.7

（単位:%）		n	グループホームに入居する	成年後見人制度を利用する	福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）を利用する	その他	まだわからない	無回答
	全体	759	10.7	2.2	7.9	4.1	32.3	1.3
介助者別	父親	33	21.2	6.1	15.2	6.1	18.2	0.0
	母親	263	20.2	3.8	8.4	5.3	30.8	1.5
	配偶者	283	1.8	1.1	7.8	3.9	36.0	0.7
	子	129	5.4	0.0	6.2	2.3	24.8	3.1
	兄弟・姉妹	41	17.1	2.4	7.3	2.4	46.3	0.0
	祖父母	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	その他親族	9	22.2	11.1	0.0	0.0	44.4	0.0
障害別	肢体不自由	142	7.0	1.4	5.6	3.5	24.6	2.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	54	3.7	3.7	9.3	5.6	24.1	3.7
	視覚障害	64	6.3	1.6	9.4	4.7	23.4	4.7
	聴覚・平衡機能障害	48	2.1	0.0	8.3	6.3	35.4	2.1
	内部障害	65	0.0	0.0	12.3	6.2	32.3	1.5
	知的障害	157	32.5	4.5	7.0	3.8	16.6	0.6
	発達障害	114	21.9	3.5	12.3	5.3	27.2	0.9
	精神障害	214	7.0	3.7	7.5	4.7	47.7	0.5
	高次脳機能障害	23	0.0	4.3	8.7	8.7	26.1	4.3
	難病（特定疾病）	157	4.5	0.0	6.4	4.5	28.7	0.0
	その他	15	0.0	6.7	***20.0***	0.0	13.3	13.3

介助者別では、介助者が“父親”と“母親”では「一緒に住んでいる家族に頼む」、“兄弟・姉妹”では「居宅介護（ホームヘルプ）を利用する」、“配偶者”と“子”では「高齢者施設（老人ホーム等）に入所する」が最も高くなっています。

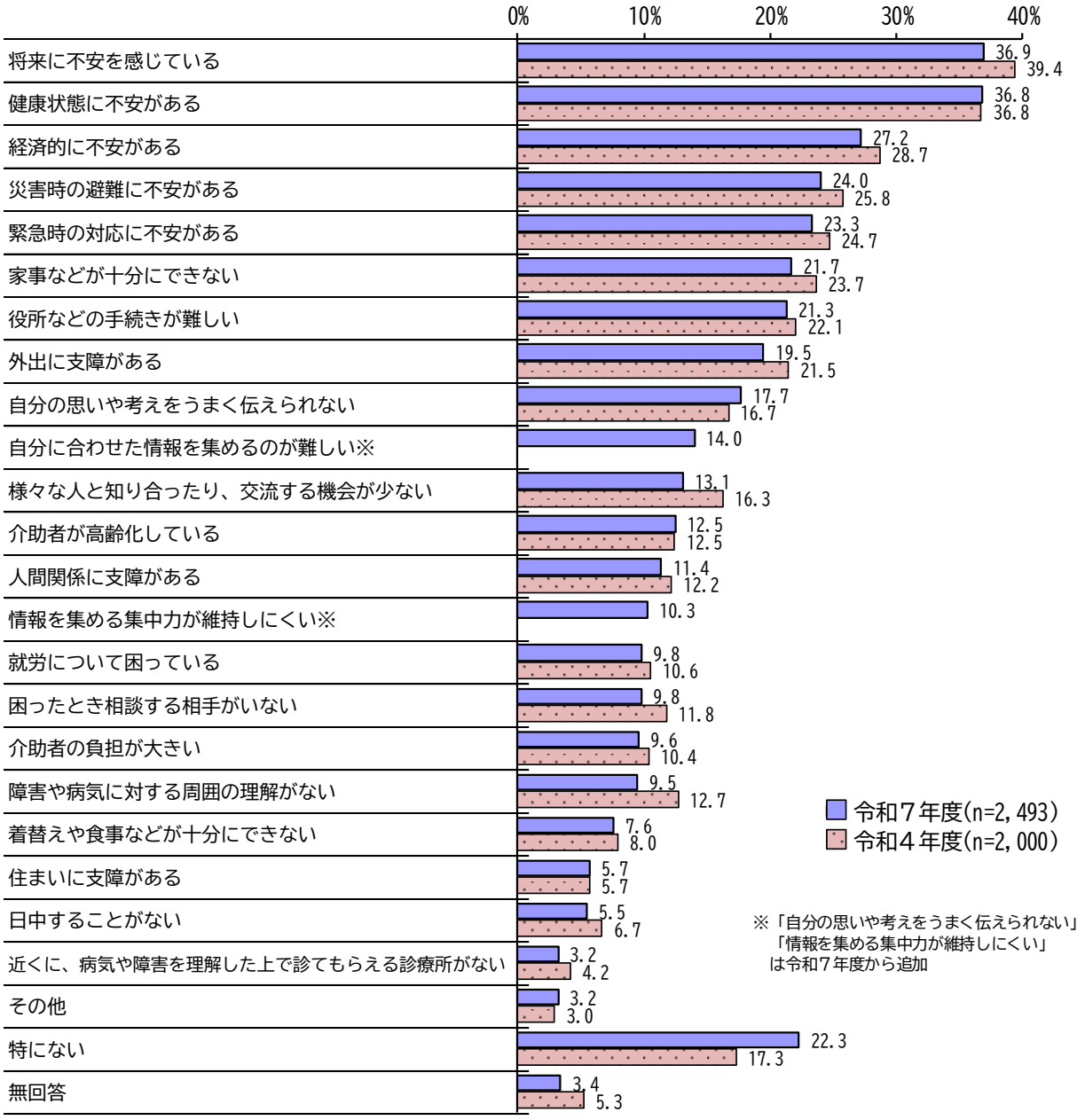
障害別では、“肢体不自由”、“発達障害”、“高次脳機能障害”では「一緒に住んでいる家族に頼む」が最も高くなっています。また、いずれの障害でも「別に住んでいる家族に頼む」が１割を超えて高くなっています。

“知的障害”では「障害者施設（障害者支援施設等）に入所する」と「グループホームに入居する」が３割を超えて高くなっています。“内部障害”と“高次脳機能障害”では「高齢者施設（老人ホーム等）に入所する」が３割前後で最も高くなっています。

３　相談や福祉の情報について

（１）日常生活で困っていること

問 18　あなたには、日常生活で困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○）



日常生活で困っていることは、「将来に不安を感じている」と「健康状態に不安がある」と３割半ばを超えて高く、「経済的に不安がある」が 27.2%、「災害時の避難に不安がある」が 24.0%と続いています。

令和４年度と比較すると、全体的な傾向にあまり変化はなく、上位９項目は同じ順位となっています。また、「様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない」と「障害や病気に対する周囲の理解がない」がともに 3.2 ポイント、令和４年度より下がっています。

【クロス集計】年代別

（単位:%）		n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある	住まいに支障がある
全体		2,493	36.8	7.6	21.7	9.6	12.5	19.5	5.7
年代別	18～29歳	247	32.8	10.5	32.4	18.2	14.2	21.5	5.7
	30～39歳	291	40.9	10.3	27.5	10.0	15.8	17.5	8.2
	40～49歳	339	37.8	6.8	19.2	6.8	12.1	16.5	5.0
	50～59歳	410	39.5	4.6	18.5	6.1	8.5	13.9	5.6
	60～69歳	378	***39.4***	3.7	16.7	6.3	6.9	13.8	7.4
	70～79歳	380	***31.3***	6.1	17.6	7.4	10.0	20.8	4.5
	80～89歳	339	***33.9***	12.1	23.6	13.6	20.6	29.5	4.4
	90歳以上	79	***40.5***	16.5	31.6	22.8	19.0	39.2	3.8

（単位:%）		n	就労について困っている	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない
全体		2,493	9.8	23.3	24.0	11.4	9.5	9.8	17.7
年代別	18～29歳	247	22.7	27.9	30.0	24.3	16.6	12.6	42.5
	30～39歳	291	22.3	26.8	26.1	22.3	16.5	14.8	30.2
	40～49歳	339	14.7	19.8	18.6	15.6	14.5	12.7	21.8
	50～59歳	410	11.2	23.9	23.2	13.7	13.7	13.4	17.8
	60～69歳	378	3.7	19.8	22.8	7.7	7.9	7.9	7.7
	70～79歳	380	1.8	21.8	21.6	1.8	0.8	4.2	6.8
	80～89歳	339	0.9	22.1	26.0	2.7	2.7	6.2	10.3
	90歳以上	79	0.0	39.2	39.2	5.1	0.0	2.5	8.9

（単位:%）		n	自分に合わせた情報を集めるのが難しい	情報を集める集中力が維持しにくい	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない
全体		2,493	14.0	10.3	21.3	3.2	27.2	***36.9***	5.5
年代別	18～29歳	247	34.4	26.7	40.1	5.3	37.7	***49.8***	4.5
	30～39歳	291	23.0	18.2	23.4	3.4	39.5	***53.3***	4.8
	40～49歳	339	13.6	8.8	18.0	5.0	30.1	***43.1***	4.1
	50～59歳	410	12.2	8.3	15.6	3.2	33.9	***46.3***	4.4
	60～69歳	378	7.1	6.1	12.7	2.9	25.9	35.4	3.4
	70～79歳	380	7.1	3.9	17.1	2.1	18.4	20.0	5.5
	80～89歳	339	9.1	8.0	25.7	2.4	14.5	23.0	9.4
	90歳以上	79	19.0	11.4	***40.5***	0.0	7.6	12.7	13.9

（単位:%）		n	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特にない	無回答
全体		2,493	13.1	3.2	22.3	3.4
年代別	18～29歳	247	17.8	1.6	14.6	1.2
	30～39歳	291	18.6	3.8	14.1	1.7
	40～49歳	339	15.6	4.1	20.6	3.8
	50～59歳	410	11.7	3.2	23.4	2.0
	60～69歳	378	9.3	2.9	24.9	1.9
	70～79歳	380	7.1	4.2	29.2	5.5
	80～89歳	339	13.6	2.4	27.1	5.3
	90歳以上	79	15.2	1.3	13.9	7.6

年代別にみると、いずれの年代でも「健康状態に不安がある」が３割を超えて高く、60 歳以上の年代で最も高くなっています。

「将来に不安を感じている」は 60 歳未満の年代で４割を超えて最も高くなっています。また、「経済的に不安がある」も 60 歳未満の年代で３割を超えて高くなっています。

【クロス集計】同居家族別

（単位:%）		n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある	住まいに支障がある
全体		2,493	36.8	7.6	21.7	9.6	12.5	19.5	5.7
同居家族別	家族等と同居	1,664	***35.7***	7.6	23.1	12.3	17.1	20.0	4.9
	ひとり暮らし	680	40.0	5.9	18.2	2.5	1.9	16.5	7.9
	グループホーム等での集団生活	102	31.4	17.6	30.4	12.7	10.8	34.3	6.9
	その他	70	***32.9***	8.6	10.0	12.9	10.0	15.7	1.4

（単位:%）		n	就労について困っている	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない
全体		2,493	9.8	23.3	24.0	11.4	9.5	9.8	17.7
同居家族別	家族等と同居	1,664	9.6	22.7	24.5	10.9	9.3	8.1	17.9
	ひとり暮らし	680	10.1	25.3	23.5	11.6	10.3	14.4	13.2
	グループホーム等での集団生活	102	9.8	28.4	31.4	22.5	6.9	7.8	***49.0***
	その他	70	10.0	12.9	15.7	7.1	5.7	4.3	17.1

（単位:%）		n	自分に合わせた情報を集めるのが難しい	情報を集める集中力が維持しにくい	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない
全体		2,493	14.0	10.3	21.3	3.2	27.2	***36.9***	5.5
同居家族別	家族等と同居	1,664	15.1	10.4	23.4	3.2	25.4	***35.7***	5.7
	ひとり暮らし	680	10.7	9.3	14.6	3.4	32.5	***41.8***	4.4
	グループホーム等での集団生活	102	24.5	19.6	39.2	2.0	22.5	28.4	5.9
	その他	70	8.6	7.1	20.0	2.9	24.3	24.3	7.1

（単位:%）		n	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特にない	無回答
全体		2,493	13.1	3.2	22.3	3.4
同居家族別	家族等と同居	1,664	12.4	3.1	23.2	3.2
	ひとり暮らし	680	15.0	3.2	21.3	3.5
	グループホーム等での集団生活	102	11.8	3.9	12.7	2.0
	その他	70	7.1	4.3	24.3	4.3

同居家族別にみると、いずれも「健康状態に不安がある」が３割を超えて高く、特に“ひとり暮らし”では４割に達しています。

“家族等と同居”と“ひとり暮らし”では「将来に不安を感じている」が３割半ばを超えて最も高く、特に“ひとり暮らし”では４割を超えています。

“グループホーム等での集団生活”では「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が 49.0%と５割近くで最も高くなっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある	住まいに支障がある
全体		2,493	36.8	7.6	21.7	9.6	12.5	19.5	5.7
障害別	肢体不自由	320	33.1	15.9	28.8	21.6	20.3	30.3	6.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	39.1	19.5	32.2	27.6	26.4	34.5	6.9
	視覚障害	163	31.9	7.4	29.4	10.4	16.0	***43.6***	3.7
	聴覚・平衡機能障害	153	22.2	7.2	13.7	9.2	11.1	19.0	3.9
	内部障害	324	***41.0***	5.6	14.8	6.8	8.6	19.1	5.6
	知的障害	256	21.9	17.6	43.4	21.9	29.3	35.2	4.7
	発達障害	263	41.8	14.8	40.7	17.1	20.2	24.0	11.8
	精神障害	626	48.7	8.9	30.0	9.4	12.5	19.8	11.2
	高次脳機能障害	40	40.0	15.0	35.0	35.0	42.5	35.0	15.0
	難病（特定疾病）	817	***42.1***	6.2	14.7	6.6	7.8	15.3	3.3
	問12に該当する方	658	51.1	15.2	40.1	18.5	21.3	30.4	10.6
	その他	42	35.7	7.1	21.4	21.4	31.0	19.0	7.1

（単位:%）		n	就労について困っている	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない
全体		2,493	9.8	23.3	24.0	11.4	9.5	9.8	17.7
障害別	肢体不自由	320	5.6	27.8	***35.9***	3.8	5.0	6.9	14.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	9.2	***43.7***	42.5	9.2	5.7	6.9	41.4
	視覚障害	163	6.1	35.6	37.4	6.1	4.3	8.6	11.0
	聴覚・平衡機能障害	153	5.9	28.8	26.8	6.5	9.2	6.5	11.8
	内部障害	324	5.2	19.8	22.5	2.8	6.2	7.4	7.1
	知的障害	256	7.0	46.9	48.0	22.3	11.3	14.1	***58.2***
	発達障害	263	28.9	32.7	31.6	38.4	25.9	19.0	49.0
	精神障害	626	22.2	24.4	22.2	27.2	20.9	18.8	28.6
	高次脳機能障害	40	20.0	42.5	45.0	20.0	17.5	12.5	45.0
	難病（特定疾病）	817	4.7	15.5	18.0	1.8	6.1	5.1	5.3
	問12に該当する方	658	21.1	33.1	32.4	31.2	21.1	19.9	41.8
	その他	42	11.9	33.3	31.0	16.7	16.7	11.9	26.2

（単位:%）		n	自分に合わせた情報を集めるのが難しい	情報を集める集中力が維持しにくい	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない
全体		2,493	14.0	10.3	21.3	3.2	27.2	***36.9***	5.5
障害別	肢体不自由	320	10.9	6.3	21.9	3.8	21.9	31.3	6.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	24.1	11.5	36.8	3.4	24.1	33.3	9.2
	視覚障害	163	18.4	7.4	33.1	3.1	25.2	35.0	10.4
	聴覚・平衡機能障害	153	12.4	7.2	21.6	2.0	11.1	***29.4***	5.9
	内部障害	324	6.5	5.6	15.4	3.1	20.4	23.5	5.9
	知的障害	256	44.5	25.8	53.5	5.9	23.0	41.0	5.9
	発達障害	263	36.5	30.0	39.2	6.5	49.0	***59.3***	6.5
	精神障害	626	18.8	18.2	23.6	5.4	49.2	***59.3***	7.2
	高次脳機能障害	40	37.5	30.0	42.5	10.0	***47.5***	45.0	12.5
	難病（特定疾病）	817	6.5	3.3	13.0	2.0	18.7	29.0	3.9
	問12に該当する方	658	29.5	23.6	36.6	6.8	45.3	***57.8***	7.6
	その他	42	21.4	23.8	26.2	7.1	23.8	***38.1***	0.0

（単位:%）		n	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特にない	無回答
全体		2,493	13.1	3.2	22.3	3.4
障害別	肢体不自由	320	11.3	2.5	19.4	2.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	18.4	3.4	10.3	5.7
	視覚障害	163	10.4	2.5	15.3	3.1
	聴覚・平衡機能障害	153	14.4	3.9	23.5	6.5
	内部障害	324	9.6	2.8	35.8	2.2
	知的障害	256	21.1	3.1	11.7	1.6
	発達障害	263	24.3	4.9	8.4	0.8
	精神障害	626	22.4	5.1	10.4	1.0
	高次脳機能障害	40	17.5	5.0	5.0	2.5
	難病（特定疾病）	817	6.9	2.2	29.6	2.2
	問12に該当する方	658	23.4	5.2	4.6	1.8
	その他	42	28.6	9.5	11.9	7.1

障害別にみると、“肢体不自由”では、「災害時の避難に不安がある」が最も高くなっています。また、“難病（特定疾病）”を除くいずれの障害でも２割を超えて高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”では「緊急時の対応に不安がある」が最も高くなっています。

“視覚障害”では「外出に支障がある」が４割を超えて最も高くなっています。

“内部障害”と“難病（特定疾病）”では「健康状態に不安がある」が最も高くなっています。また、“聴覚・平衡機能障害”、“知的障害”を除くいずれの障害でも３割を超えて高くなっており、特に“問 12 に該当する方”では５割を超えています。

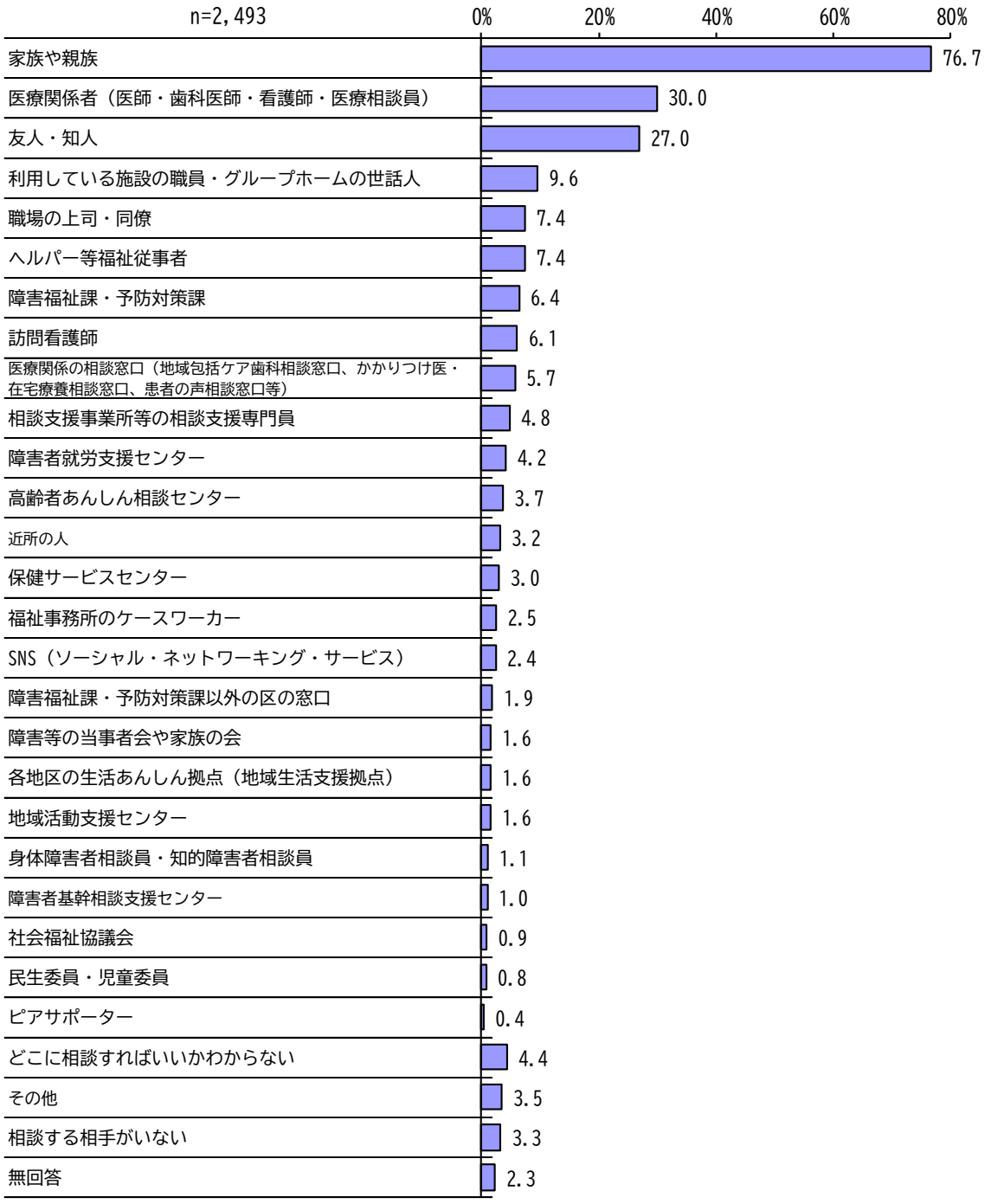
“知的障害”では「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が５割半ばを超えて最も高くなっています。

“高次脳機能障害”では「経済的に不安がある」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「将来に不安を感じている」が最も高くなっており、すべての障害で２割を超えています。

（2）困ったときの相談相手

問 19　あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）



困ったときの相談相手は、「家族や親族」が 76.7％と７割半ばを超えて突出して高く、次いで「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が 30.0％、「友人・知人」が 27.0％と続いており、それ以外の項目は１割を下回っています。

一方、「どこに相談すればいいかわからない」は4.4％、「相談する相手がいない」は3.3％となっています。

【クロス集計】年代別

（単位:%）		n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	職場の上司・同僚	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	身体障害者相談員・知的障害者相談員
全体		2,493	***76.7***	3.2	27.0	0.4	7.4	0.8	1.6	1.1
年代別	18～29歳	247	***84.2***	0.0	28.7	0.4	17.8	0.0	3.6	3.2
	30～39歳	291	***78.0***	1.4	28.5	1.0	15.5	0.0	2.4	1.0
	40～49歳	339	***74.9***	1.5	28.3	0.6	12.4	0.3	2.4	0.9
	50～59歳	410	***70.7***	1.7	28.8	0.2	8.0	0.2	1.7	1.2
	60～69歳	378	***72.2***	4.0	29.9	0.5	3.2	1.3	1.6	1.1
	70～79歳	380	***79.5***	6.6	28.9	0.0	1.6	0.5	0.0	0.8
	80～89歳	339	***80.5***	5.9	20.6	0.3	0.0	1.8	0.6	0.3
	90歳以上	79	***79.7***	3.8	7.6	1.3	0.0	5.1	0.0	0.0

（単位:%）		n	ヘルパー等福祉従事者	利用している施設の職員・グループホームの世話人	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	医療関係の相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター
全体		2,493	7.4	9.6	4.8	30.0	5.7	6.4	1.9	3.0
年代別	18～29歳	247	4.0	17.8	13.4	31.2	3.2	8.9	0.8	2.0
	30～39歳	291	3.1	11.3	7.2	31.3	3.8	6.5	2.1	3.8
	40～49歳	339	3.5	11.2	4.4	33.9	5.6	7.4	2.4	5.0
	50～59歳	410	3.4	10.0	4.9	36.8	3.7	8.3	0.7	3.7
	60～69歳	378	7.1	8.2	2.9	34.1	4.8	7.4	3.2	5.0
	70～79歳	380	13.2	4.5	1.3	23.7	7.9	3.9	2.1	1.3
	80～89歳	339	12.1	6.2	2.9	21.2	9.7	3.2	2.4	0.9
	90歳以上	79	24.1	15.2	2.5	22.8	6.3	3.8	1.3	0.0

（単位:%）		n	障害者基幹相談支援センター	各地区の生活あんしん拠点（地域生活支援拠点）	福祉事務所のケースワーカー	障害者就労支援センター	社会福祉協議会	高齢者あんしん相談センター	地域活動支援センター	訪問看護師
全体		2,493	1.0	1.6	2.5	4.2	0.9	3.7	1.6	6.1
年代別	18～29歳	247	1.6	0.8	1.2	9.7	0.0	0.0	0.4	0.4
	30～39歳	291	2.7	3.1	1.4	8.2	0.3	0.0	1.4	4.8
	40～49歳	339	0.9	1.8	2.9	6.8	0.3	0.3	0.6	7.1
	50～59歳	410	0.7	1.0	3.4	4.9	0.2	1.0	1.2	4.9
	60～69歳	378	1.6	1.6	3.2	2.9	2.6	2.1	2.9	4.2
	70～79歳	380	0.5	1.1	2.1	0.3	1.3	7.4	2.4	8.4
	80～89歳	339	0.0	1.8	2.1	0.3	0.9	12.4	2.4	10.3
	90歳以上	79	0.0	2.5	3.8	0.0	1.3	8.9	1.3	11.4

（単位:%）		n	SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）	どこに相談すればいいかわからない	その他	相談する相手がいない	無回答
全体		2,493	2.4	4.4	3.5	3.3	2.3
年代別	18～29歳	247	6.1	2.4	6.1	1.6	1.2
	30～39歳	291	4.8	6.2	4.8	3.4	1.0
	40～49歳	339	3.2	4.1	3.8	6.2	2.7
	50～59歳	410	2.7	5.9	2.7	4.6	1.2
	60～69歳	378	2.1	3.7	1.9	4.2	2.1
	70～79歳	380	0.0	2.9	1.8	1.6	2.6
	80～89歳	339	0.3	5.0	5.0	1.8	3.8
	90歳以上	79	0.0	5.1	3.8	1.3	2.5

年代別にみると、いずれの年代も「家族や親族」が７割を超えて最も高く、特に“18～29 歳”と“80～89 歳”では８割を超えています。

いずれの年代でも「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が２割を超えており、特に 70 歳未満の年代では３割を超えて高くなっています。また、“90 歳以上”以外のいずれの年代でも「友人・知人」が２割を超えています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	職場の上司・同僚	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	身体障害者相談員・知的障害者相談員
全体	2,493	***76.7***	3.2	27.0	0.4	7.4	0.8	1.6	1.1
障害別 肢体不自由	320	***80.3***	5.9	24.7	0.9	2.8	2.8	2.2	0.6
障害別 音声・言語・そしゃく機能障害	87	***79.3***	5.7	25.3	0.0	6.9	1.1	1.1	5.7
障害別 視覚障害	163	***73.6***	4.9	31.9	1.2	6.1	0.6	3.7	0.6
障害別 聴覚・平衡機能障害	153	***81.7***	7.2	26.8	1.3	5.2	3.3	2.6	0.7
障害別 内部障害	324	***79.6***	4.0	24.4	0.3	2.2	1.2	1.2	0.3
障害別 知的障害	256	***84.0***	2.0	9.0	0.4	14.8	0.4	3.5	6.6
障害別 発達障害	263	***73.0***	1.5	25.1	0.8	15.2	0.0	3.0	3.8
障害別 精神障害	626	***64.9***	1.1	28.0	0.3	9.3	0.6	1.9	1.3
障害別 高次脳機能障害	40	***82.5***	2.5	15.0	0.0	12.5	0.0	10.0	5.0
障害別 難病（特定疾病）	817	***83.4***	3.1	32.7	0.2	7.1	0.2	0.6	0.1
障害別 その他	42	***64.3***	2.4	31.0	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4

（単位:%）	n	ヘルパー等福祉従事者	利用している施設の職員・グループホームの世話人	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	医療関係の相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター
全体	2,493	7.4	9.6	4.8	30.0	5.7	6.4	1.9	3.0
障害別 肢体不自由	320	15.0	14.7	4.1	25.3	7.5	7.5	4.1	1.6
障害別 音声・言語・そしゃく機能障害	87	23.0	24.1	3.4	29.9	10.3	10.3	5.7	3.4
障害別 視覚障害	163	16.0	6.1	3.7	16.0	6.1	10.4	3.7	2.5
障害別 聴覚・平衡機能障害	153	8.5	6.5	3.3	20.9	8.5	9.2	5.2	2.6
障害別 内部障害	324	8.0	4.6	1.9	35.2	7.1	5.2	1.9	1.2
障害別 知的障害	256	6.6	43.4	18.0	19.5	2.3	12.5	2.7	1.2
障害別 発達障害	263	6.1	14.8	10.6	37.6	5.3	9.5	1.9	5.7
障害別 精神障害	626	6.4	12.1	7.8	42.3	5.8	8.8	2.2	7.2
障害別 高次脳機能障害	40	17.5	17.5	7.5	37.5	12.5	10.0	7.5	0.0
障害別 難病（特定疾病）	817	7.2	3.8	1.5	31.7	5.3	2.6	0.9	2.9
障害別 その他	42	2.4	11.9	4.8	33.3	16.7	7.1	2.4	11.9

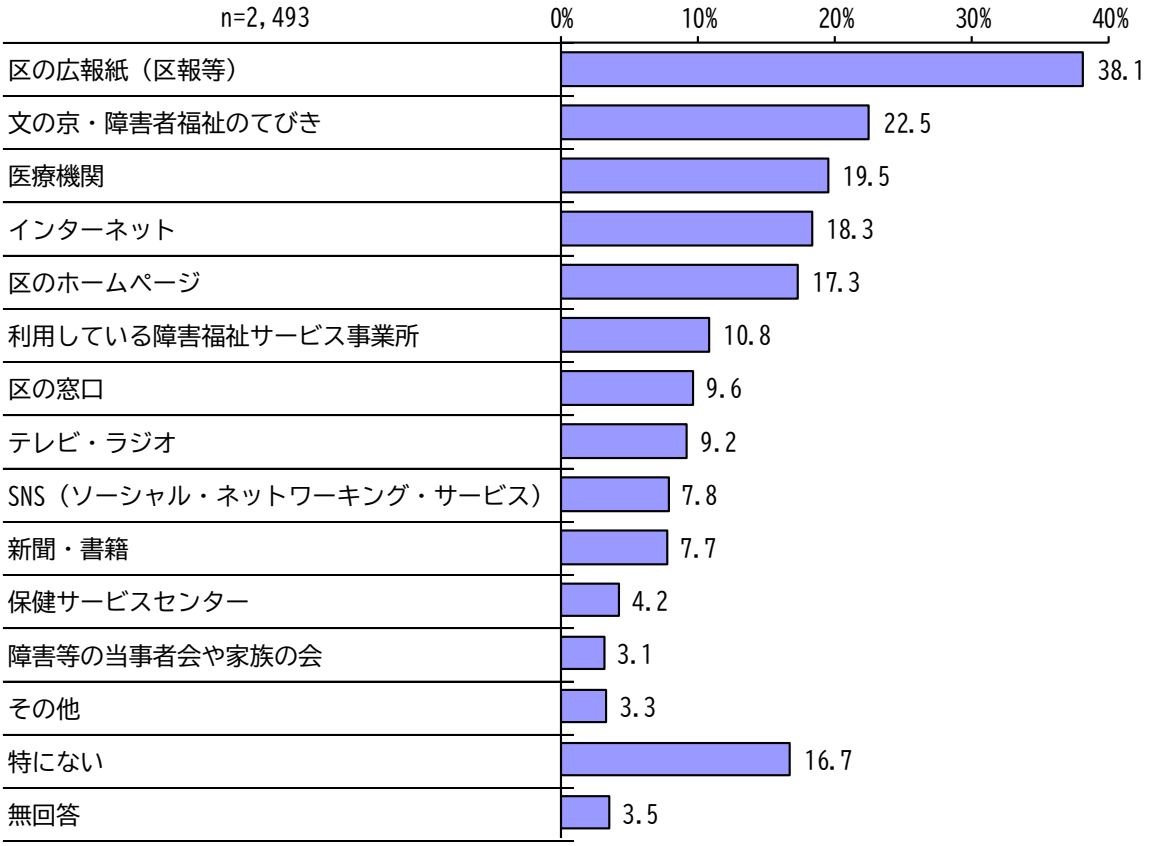
（単位:%）	n	障害者基幹相談支援センター	各地区の生活あんしん拠点（地域生活支援拠点）	福祉事務所のケースワーカー	障害者就労支援センター	社会福祉協議会	高齢者あんしん相談センター	地域活動支援センター	訪問看護師
全体	2,493	1.0	1.6	2.5	4.2	0.9	3.7	1.6	6.1
障害別 肢体不自由	320	1.3	1.3	1.6	2.2	0.3	5.6	2.5	8.8
障害別 音声・言語・そしゃく機能障害	87	1.1	0.0	2.3	0.0	0.0	5.7	0.0	10.3
障害別 視覚障害	163	0.6	1.2	1.8	0.6	2.5	9.2	0.6	4.9
障害別 聴覚・平衡機能障害	153	0.7	2.6	0.7	2.0	2.6	7.2	3.3	5.9
障害別 内部障害	324	0.9	0.3	1.2	0.0	0.9	5.9	0.3	5.9
障害別 知的障害	256	3.5	2.3	2.3	8.2	1.2	0.0	1.2	4.7
障害別 発達障害	263	4.2	3.4	4.6	13.7	1.5	1.9	0.8	4.9
障害別 精神障害	626	2.4	2.4	4.0	10.1	1.4	1.1	2.7	10.5
障害別 高次脳機能障害	40	5.0	0.0	2.5	5.0	0.0	7.5	0.0	12.5
障害別 難病（特定疾病）	817	0.5	1.0	1.2	0.4	0.2	4.0	1.5	5.0
障害別 その他	42	0.0	4.8	9.5	4.8	4.8	11.9	4.8	2.4

（単位:%）	n	SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）	どこに相談すればいいかわからない	その他	相談する相手がいない	無回答
全体	2,493	2.4	4.4	3.5	3.3	2.3
障害別 肢体不自由	320	0.9	5.0	2.2	1.6	1.6
障害別 音声・言語・そしゃく機能障害	87	0.0	5.7	5.7	1.1	3.4
障害別 視覚障害	163	1.2	4.3	6.1	3.7	2.5
障害別 聴覚・平衡機能障害	153	2.0	4.6	2.0	1.3	3.3
障害別 内部障害	324	0.9	4.6	3.4	3.1	1.2
障害別 知的障害	256	0.8	2.3	3.9	1.6	1.6
障害別 発達障害	263	7.6	6.1	8.4	4.2	1.1
障害別 精神障害	626	6.4	6.2	5.1	5.6	0.8
障害別 高次脳機能障害	40	2.5	12.5	2.5	0.0	0.0
障害別 難病（特定疾病）	817	1.3	3.4	2.0	3.5	0.9
障害別 その他	42	2.4	2.4	4.8	7.1	9.5

障害別にみると、いずれの障害も「家族や親族」が６割を超えて最も高くなっています。
“知的障害”では「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が 43.4%と４割を超えて他の障害より高くなっていますが、「友人・知人」は他の障害より低くなっています。
“精神障害”では「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」では 42.3%と４割を超えて、他の障害より高くなっています。

（３）福祉情報の入手先

問 20　あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）



福祉情報の入手先は、「区の広報紙（区報等）」が 38.1％と３割半ばを超えて最も高く、次いで「文の京・障害者福祉のてびき」が 22.5％、「医療機関」が 19.5％と続いています。

一方、「特にない」が 16.7％と１割半ばを超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	区の広報紙(区報等)	区のホームページ	文の京・障害者福祉のてびき	区の窓口	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ	インターネット	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)
全体		2,493	***38.1***	17.3	22.5	9.6	4.2	9.2	18.3	7.8
年代別	18歳以上40歳未満	538	22.1	20.8	***22.7***	9.3	3.0	3.5	21.4	15.1
	40歳以上65歳未満	956	***34.3***	23.8	20.7	10.9	5.6	6.2	24.7	10.0
	65歳以上75歳未満	336	***50.9***	13.4	25.9	7.7	4.8	12.5	17.0	3.9
	75歳以上	633	***51.0***	7.3	23.4	9.0	2.8	16.7	7.0	0.8
障害別	肢体不自由	320	***44.4***	14.4	40.6	6.6	2.8	12.8	8.8	2.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***46.0***	16.1	42.5	13.8	2.3	9.2	10.3	2.3
	視覚障害	163	***38.7***	14.7	34.4	10.4	3.7	19.0	13.5	4.9
	聴覚・平衡機能障害	153	***51.0***	14.4	37.3	12.4	1.3	13.7	11.8	7.8
	内部障害	324	***44.4***	15.4	30.2	8.0	3.1	11.1	17.6	4.6
	知的障害	256	30.1	9.8	***35.9***	7.8	0.8	5.9	6.3	2.3
	発達障害	263	***30.8***	22.4	28.9	10.3	2.7	3.8	25.1	17.9
	精神障害	626	***30.2***	19.6	19.6	9.4	6.5	6.7	25.1	14.1
	高次脳機能障害	40	***32.5***	17.5	25.0	7.5	2.5	5.0	12.5	2.5
	難病（特定疾病）	817	***40.6***	21.4	8.8	11.3	6.7	8.4	21.5	7.2
	その他	42	23.8	9.5	***26.2***	4.8	2.4	4.8	19.0	7.1

（単位:%）		n	新聞・書籍	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	利用している障害福祉サービス事業所	その他	特にない	無回答
全体		2,493	7.7	3.1	19.5	10.8	3.3	16.7	3.5
年代別	18歳以上40歳未満	538	2.6	4.8	19.3	15.8	3.5	19.5	1.3
	40歳以上65歳未満	956	5.1	4.1	22.3	9.7	2.5	16.6	2.8
	65歳以上75歳未満	336	10.7	1.5	20.2	8.3	2.4	13.4	2.7
	75歳以上	633	14.5	1.1	15.3	9.6	4.9	16.1	5.8
障害別	肢体不自由	320	11.3	4.1	14.4	17.5	5.0	13.1	5.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	8.0	8.0	20.7	21.8	12.6	19.5	1.1
	視覚障害	163	8.0	7.4	11.0	13.5	8.0	17.8	0.6
	聴覚・平衡機能障害	153	19.0	3.9	15.0	6.5	7.2	19.6	3.9
	内部障害	324	13.6	1.2	23.8	4.3	2.8	15.4	2.5
	知的障害	256	2.7	9.8	5.5	35.5	5.9	18.8	4.3
	発達障害	263	2.7	3.8	20.9	18.3	3.8	16.3	3.0
	精神障害	626	4.6	3.4	25.9	12.3	2.7	17.4	2.2
	高次脳機能障害	40	2.5	10.0	22.5	22.5	7.5	22.5	7.5
	難病（特定疾病）	817	6.5	1.1	24.0	4.8	1.8	17.3	2.9
	その他	42	4.8	0.0	16.7	9.5	9.5	23.8	2.4

年代別にみると、年代が上がるにつれて「区の広報紙（区報等）」が高くなる傾向にあり、特に 65 歳以上の年代で５割を超えています。

また、「文の京・障害者福祉のてびき」はいずれの年代でも２割を超えています。

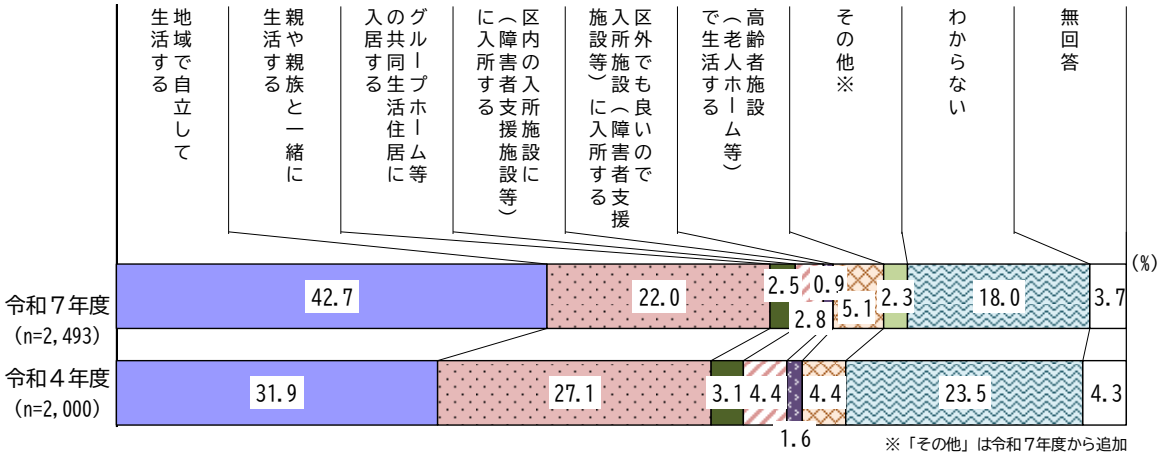
「区のホームページ」、「インターネット」、「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」は 65 歳未満の年代、「テレビ・ラジオ」、「新聞・書籍」は 65 歳以上の年代で高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”では「文の京・障害者福祉のてびき」が最も高く、それ以外の障害は「区の広報紙（区報等）」が最も高くなっています。

“発達障害”と“精神障害”では「インターネット」がともに２割半ばと高くなっています。また、“知的障害”では「利用している障害福祉サービス事業所」が３割半ばと他の障害より高くなっています。

（４）今後希望する生活

問 21　あなたは今後、どのような生活を希望しますか。（○はひとつ）



今後希望する生活は、「地域で自立して生活する」が 42.7%と４割を超えて最も高く、次いで「親や親族と一緒に生活する」が 22.0%と２割を超えて続き、それ以外の項目は１割を下回っています。

一方、「わからない」は 18.0%と１割半ばを超えています。

令和４年度と比較すると、「地域で自立して生活する」が 10.9 ポイント上がっており、反対に「親や親族と一緒に生活する」が 5.1 ポイント、「わからない」が 5.5 ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	地域で自立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホーム等の共同生活住居に入居する	区内の入所施設に（障害者支援施設等）に入所する	区外でも良いので入所施設（障害者支援施設等）に入所する	高齢者施設（老人ホーム等）で生活する	その他	わからない	無回答
全体		2,493	***42.7***	22.0	2.5	2.8	0.9	5.1	2.3	18.0	3.7
年代別	18歳以上40歳未満	538	***45.7***	24.0	5.8	3.0	1.1	0.2	2.2	16.7	1.3
	40歳以上65歳未満	956	***49.7***	21.0	2.1	2.7	1.0	1.3	2.2	16.6	3.3
	65歳以上75歳未満	336	***49.1***	18.5	1.2	0.6	0.3	5.4	2.1	18.8	4.2
	75歳以上	633	***27.0***	23.7	1.1	3.6	0.9	15.0	2.7	21.0	4.9
障害別	肢体不自由	320	***31.6***	25.0	2.8	4.4	1.9	10.0	1.6	17.5	5.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	26.4	***32.2***	2.3	4.6	2.3	10.3	3.4	18.4	0.0
	視覚障害	163	***45.4***	21.5	0.0	4.3	0.6	5.5	3.7	16.6	2.5
	聴覚・平衡機能障害	153	***35.3***	22.2	1.3	3.3	0.7	9.8	0.7	24.8	2.0
	内部障害	324	***43.8***	21.3	0.3	1.9	0.6	8.6	1.9	18.8	2.8
	知的障害	256	9.8	***25.8***	16.8	11.7	3.9	1.6	2.7	23.0	4.7
	発達障害	263	***43.3***	23.2	7.2	3.4	1.5	1.5	4.2	14.1	1.5
	精神障害	626	***47.1***	21.4	1.4	1.9	0.3	2.4	3.0	20.3	2.1
	高次脳機能障害	40	25.0	***30.0***	2.5	7.5	2.5	7.5	0.0	17.5	7.5
	難病（特定疾病）	817	***51.2***	22.8	0.5	1.0	1.0	5.8	1.8	13.2	2.8
	問12に該当する方	658	***37.1***	21.0	4.0	5.3	1.2	4.4	3.6	20.8	2.6
	その他	42	***26.2***	23.8	0.0	2.4	0.0	14.3	9.5	23.8	0.0

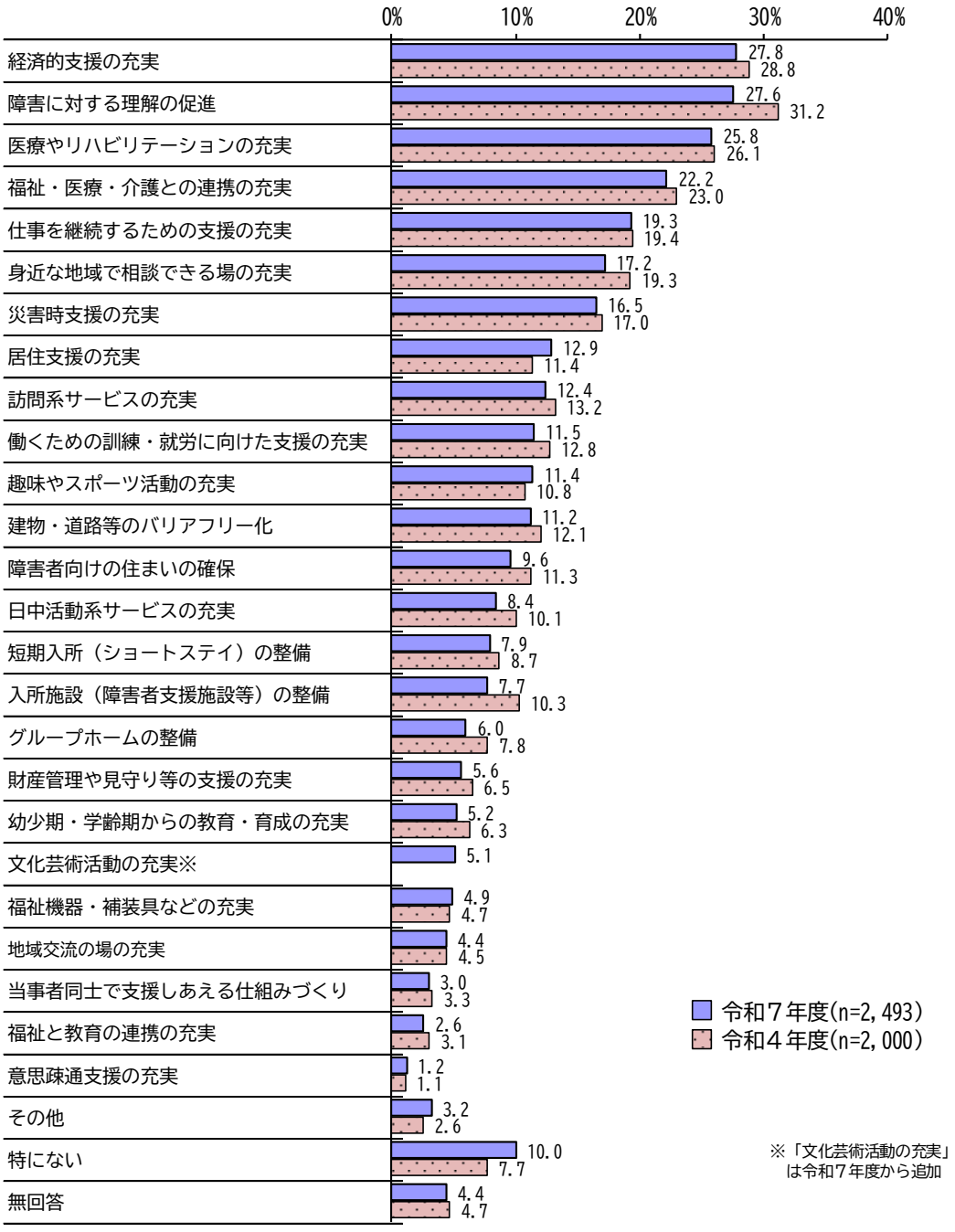
年代別にみると、いずれの年代でも「地域で自立して生活する」が最も高く、特に 75 歳未満の年代で４割半ばを超えています。

また、“65 歳以上 75 歳未満”を除くいずれの年代でも「親や親族と一緒に生活する」が２割を超えています。

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“高次脳機能障害”は「親や親族と一緒に生活する」が最も高く、それ以外の障害はいずれも「地域で自立して生活する」が最も高くなっています。

（５）地域で安心して暮らすために必要な施策

問 22　あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。（○は５つまで）



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「経済的支援の充実」が 27.8%、「障害に対する理解の促進」が 27.6%、「医療やリハビリテーションの充実」が 25.8%、「福祉・医療・介護との連携の充実」が 22.2%と２割を超えて高くなっています。

令和４年度と比較すると、全体的な傾向にあまり大きな変化はありませんが、「障害に対する理解の促進」が 3.6 ポイント下がっており、全体的に微減している項目が多くなっています。

【クロス集計】年代別

（単位:%）		n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実
全体		2,493	27.6	25.8	5.2	11.5	19.3	17.2	12.4
年代別	18歳以上40歳未満	538	37.0	16.5	10.0	22.5	***41.1***	18.0	6.3
	40歳以上65歳未満	956	31.7	21.9	5.1	14.2	23.2	17.4	7.5
	65歳以上75歳未満	336	22.3	***33.3***	2.1	5.1	7.1	15.8	13.1
	75歳以上	633	16.6	***36.2***	2.7	1.1	1.7	17.1	25.1

（単位:%）		n	日中活動系サービスの充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設（障害者支援施設等）の整備	障害者向けの住まいの確保
全体		2,493	8.4	7.9	1.2	4.9	6.0	7.7	9.6
年代別	18歳以上40歳未満	538	13.0	9.7	1.1	2.4	14.5	10.4	17.1
	40歳以上65歳未満	956	8.4	2.5	0.8	3.6	4.1	4.9	10.4
	65歳以上75歳未満	336	4.5	7.1	2.1	4.8	2.7	6.5	5.4
	75歳以上	633	7.0	15.2	1.6	9.5	3.2	9.8	3.8

（単位:%）		n	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	文化芸術活動の充実	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実
全体		2,493	12.9	11.2	3.0	5.1	11.4	5.6	***27.8***
年代別	18歳以上40歳未満	538	13.0	4.6	4.3	5.4	14.1	8.9	35.9
	40歳以上65歳未満	956	15.2	9.2	3.2	5.0	11.6	4.9	***33.5***
	65歳以上75歳未満	336	13.4	18.2	2.4	6.8	12.8	6.3	24.7
	75歳以上	633	9.0	16.0	1.9	4.1	8.4	2.7	14.1

（単位:%）		n	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	その他	特にない	無回答
全体		2,493	16.5	4.4	22.2	2.6	3.2	10.0	4.4
年代別	18歳以上40歳未満	538	15.2	4.5	14.7	5.0	3.9	6.9	1.5
	40歳以上65歳未満	956	16.5	4.5	18.4	1.9	3.8	10.7	4.0
	65歳以上75歳未満	336	17.9	6.3	28.0	1.8	1.2	11.0	4.5
	75歳以上	633	16.9	3.5	30.6	1.7	3.0	11.5	7.1

年代別にみると、“18 歳以上～40 歳未満”では「仕事を継続するための支援の充実」が４割を超えて最も高くなっています。

“18 歳以上 40 歳未満”と“40 歳以上 65 歳未満”では「経済的支援の充実」が、“65 歳以上 75 歳未満”と“75 歳以上”では「医療やリハビリテーションの充実」が３割を超えて高くなっています。

“65 歳以上 75 歳未満”と“75 歳以上”では「福祉・医療・介護との連携の充実」も３割前後で高くなっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実
全体		2,493	27.6	25.8	5.2	11.5	19.3	17.2	12.4
障害別	肢体不自由	320	25.9	***42.5***	2.2	3.8	7.8	13.4	20.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	31.0	***35.6***	2.3	10.3	12.6	8.0	29.9
	視覚障害	163	***38.0***	27.6	3.1	9.2	8.6	21.5	19.6
	聴覚・平衡機能障害	153	***32.7***	28.8	3.3	7.2	11.1	18.3	12.4
	内部障害	324	22.8	***28.1***	3.7	4.6	9.0	17.0	16.4
	知的障害	256	32.4	9.8	5.9	10.5	24.6	18.4	11.3
	発達障害	263	***40.3***	12.9	12.2	24.3	37.3	19.4	8.0
	精神障害	626	39.3	15.8	6.7	23.8	31.5	22.2	8.6
	高次脳機能障害	40	35.0	***52.5***	2.5	10.0	7.5	12.5	27.5
	難病（特定疾病）	817	18.4	***33.2***	5.3	6.9	17.6	14.4	12.1
	問12に該当する方	658	35.1	19.8	6.5	18.1	27.5	17.5	13.1
	その他	42	23.8	23.8	2.4	14.3	14.3	21.4	23.8

（単位:%）		n	日中活動系サービスの充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設（障害者支援施設等）の整備	障害者向けの住まいの確保
全体		2,493	8.4	7.9	1.2	4.9	6.0	7.7	9.6
障害別	肢体不自由	320	8.8	15.3	0.6	10.9	5.3	10.0	11.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	16.1	23.0	5.7	14.9	5.7	14.9	12.6
	視覚障害	163	8.0	8.0	1.2	14.1	3.7	6.7	14.1
	聴覚・平衡機能障害	153	7.2	10.5	10.5	16.3	2.0	8.5	9.2
	内部障害	324	5.6	6.8	0.0	7.7	2.2	5.9	6.5
	知的障害	256	25.0	23.0	2.3	2.0	***35.9***	33.6	19.5
	発達障害	263	12.5	10.3	1.9	1.5	13.3	11.0	15.6
	精神障害	626	11.7	4.2	0.6	1.0	3.8	4.0	15.8
	高次脳機能障害	40	15.0	12.5	2.5	12.5	2.5	10.0	10.0
	難病（特定疾病）	817	4.0	6.4	0.1	4.2	2.2	5.5	4.0
	問12に該当する方	658	14.1	9.0	1.2	3.0	10.0	13.1	16.7
	その他	42	14.3	11.9	4.8	2.4	4.8	11.9	9.5

（単位:%）		n	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	文化芸術活動の充実	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実
全体		2,493	12.9	11.2	3.0	5.1	11.4	5.6	***27.8***
障害別	肢体不自由	320	10.0	24.4	1.3	4.1	6.3	4.4	20.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	11.5	18.4	1.1	4.6	8.0	4.6	20.7
	視覚障害	163	14.1	27.0	4.9	5.5	9.8	1.8	21.5
	聴覚・平衡機能障害	153	9.8	12.4	2.6	2.0	7.2	5.2	14.4
	内部障害	324	13.3	12.3	2.2	6.2	10.2	3.4	25.3
	知的障害	256	14.8	3.5	1.2	4.7	16.4	14.1	17.6
	発達障害	263	17.1	3.8	5.3	7.2	12.5	12.2	39.9
	精神障害	626	18.1	3.5	4.5	5.9	12.1	7.7	***43.5***
	高次脳機能障害	40	12.5	17.5	5.0	2.5	2.5	5.0	32.5
	難病（特定疾病）	817	11.0	13.0	2.9	4.4	10.9	3.4	26.9
	問12に該当する方	658	17.9	6.4	4.3	5.5	11.6	8.7	***37.8***
	その他	42	11.9	11.9	4.8	4.8	11.9	2.4	23.8

（単位:%）		n	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉･医療･介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	その他	特にない	無回答
全体		2,493	16.5	4.4	22.2	2.6	3.2	10.0	4.4
障害別	肢体不自由	320	17.5	4.1	25.0	0.3	2.2	9.7	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	19.5	0.0	28.7	1.1	2.3	11.5	2.3
	視覚障害	163	15.3	3.1	20.9	3.7	4.3	4.3	4.9
	聴覚・平衡機能障害	153	24.8	3.9	31.4	2.6	3.3	8.5	4.6
	内部障害	324	17.9	3.4	24.7	1.5	4.0	14.8	2.2
	知的障害	256	14.5	3.9	20.7	2.0	2.3	5.5	3.5
	発達障害	263	13.7	6.1	17.1	4.6	4.6	5.7	1.9
	精神障害	626	15.3	5.9	16.3	3.0	3.8	6.5	1.8
	高次脳機能障害	40	17.5	0.0	25.0	5.0	0.0	2.5	10.0
	難病（特定疾病）	817	17.0	3.9	25.1	1.8	3.3	12.6	4.0
	問12に該当する方	658	16.3	5.0	22.6	3.6	5.6	4.6	2.3
	その他	42	23.8	4.8	***26.2***	0.0	9.5	7.1	2.4

障害別にみると、“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”、“発達障害”では「障害に対する理解の促進」が最も高くなっています。また、“難病（特定疾病）”を除くいずれの障害でも２割を超えており、特に“発達障害”では４割を超えています。

“知的障害”では、「グループホームの整備」が３割半ばを超えて最も高くなっています。

“精神障害”と“問 12 に該当する方”では、「経済的支援の充実」が最も高く、特に“精神障害”では４割を超えて他の障害より高くなっています。

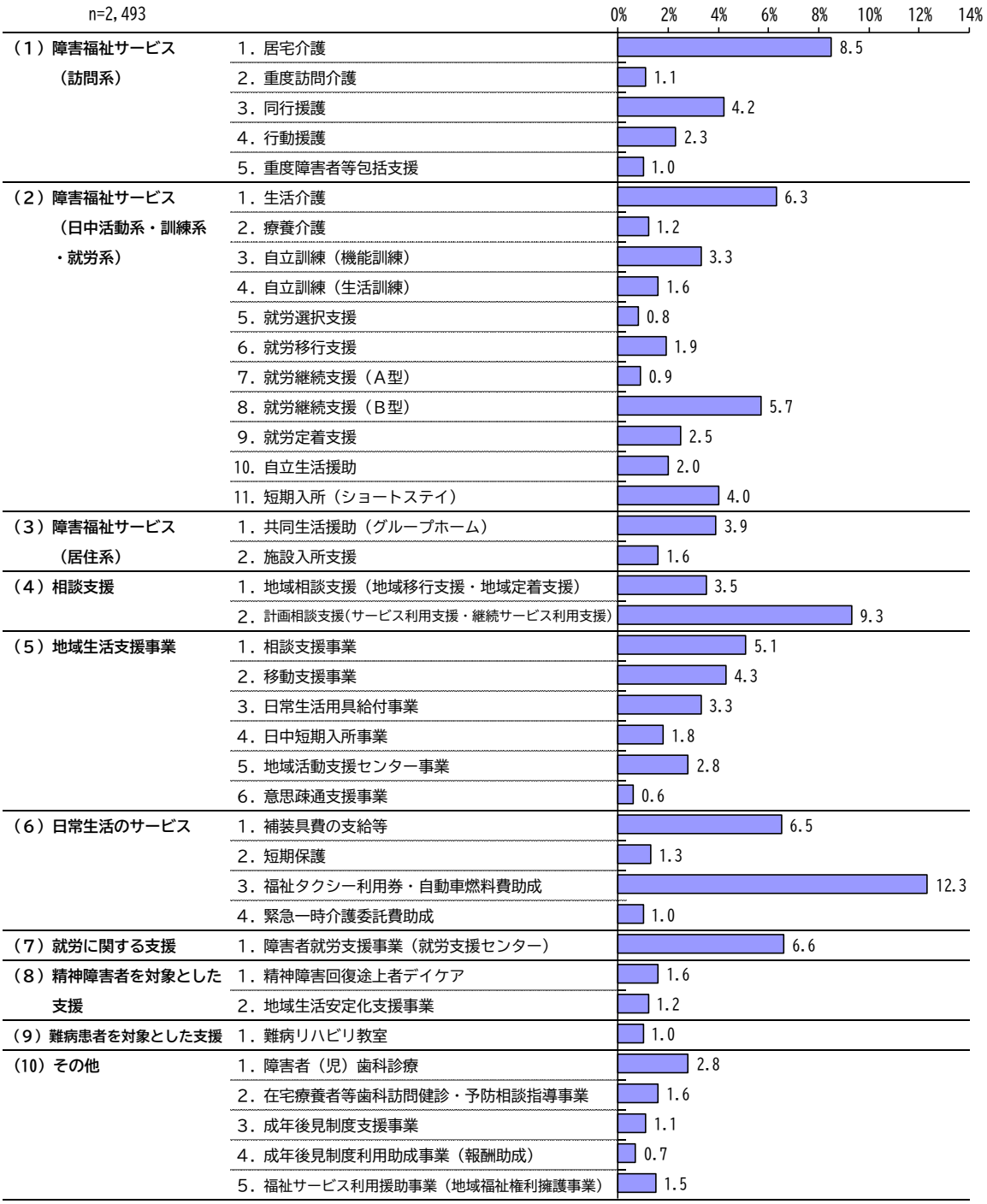
“その他”では「福祉・医療・介護との連携の充実」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「医療やリハビリテーションの充実」が最も高く、特に“高次脳機能障害”では５割、“肢体不自由”では４割を超えて、他の障害より高くなっています。

4　福祉サービスについて

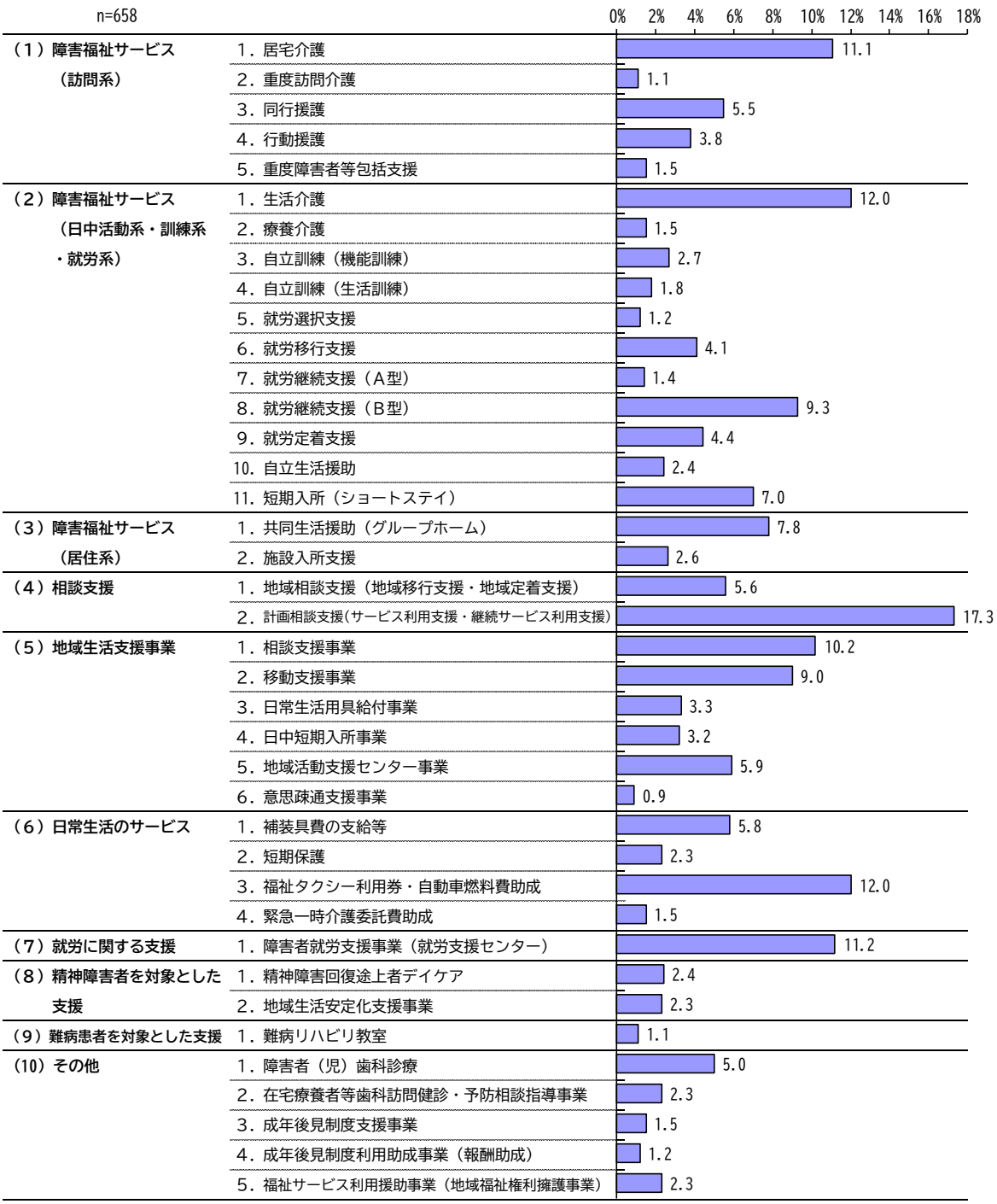
（1）現在利用しているサービス

問 23　障害福祉サービス等の利用状況と満足度についてお聞きします。
A．現在利用しているサービスに○をつけてください。



現在利用している障害福祉サービス等は、「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」が 12.3%と最も高く、次いで「計画相談支援」が 9.3%、「居宅介護」が 8.5%、「障害者就労支援事業」が 6.6%と続いています。

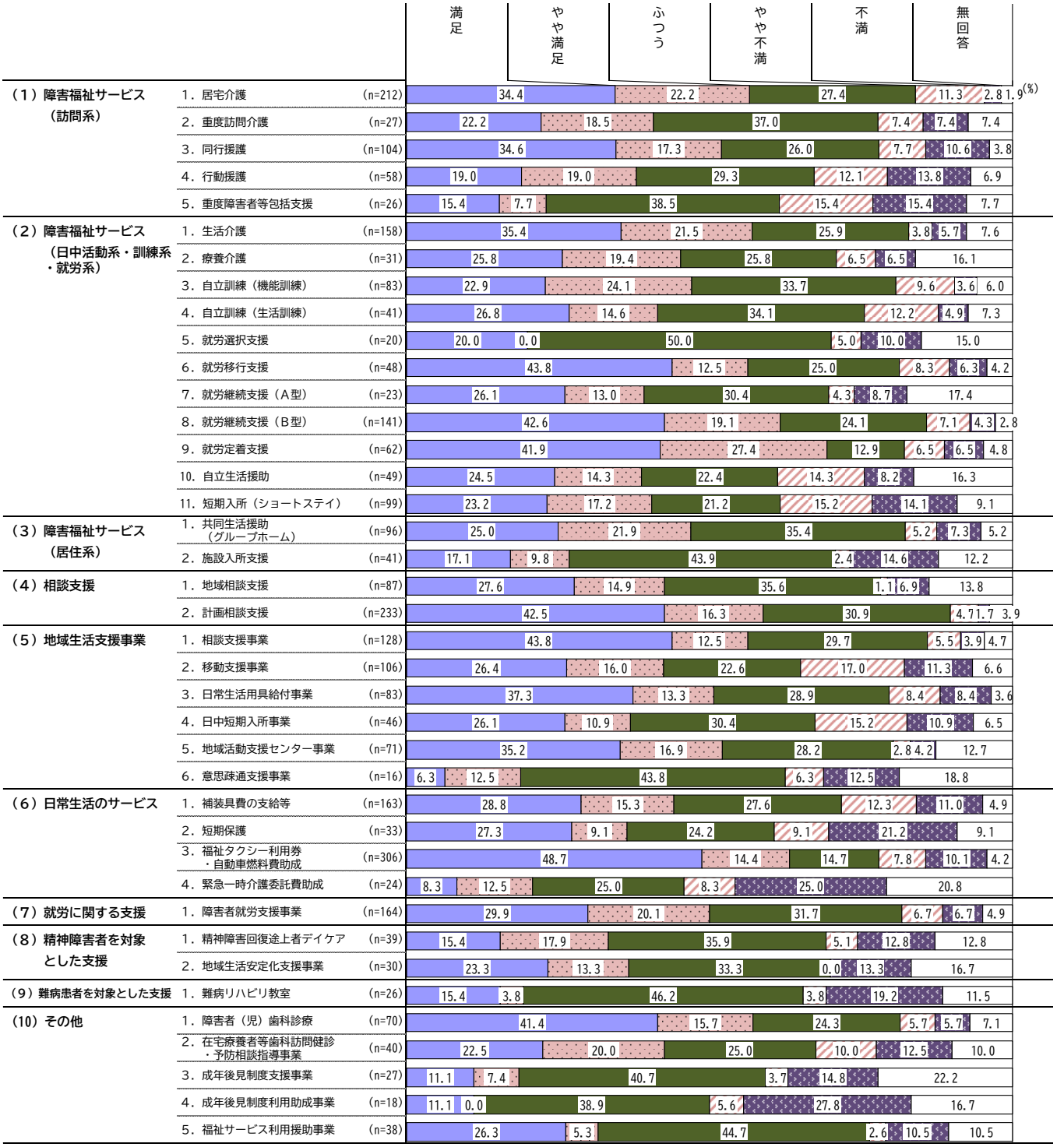
【現在利用しているサービス】問 12 に該当する方



問 12 に該当する方が現在利用している障害福祉サービス等は、「計画相談支援」が 17.3%と 1 割半ばを超えて最も高く、次いで「生活介護」と「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」がともに 12.0%、「障害者就労支援事業」が 11.2%、「居宅介護」が 11.1%、「相談支援事業」が 10.2%と 1 割を超えて続いています。

（２）サービスの満足度

Ｂ．現在利用しているサービスに満足していますか。（○はひとつ）



			満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答
（１）障害福祉サービス（訪問系）	１．居宅介護	(n=212)	34.4	22.2	27.4	11.3	2.8	1.9
	２．重度訪問介護	(n=27)	22.2	18.5	37.0	7.4	7.4	7.4
	３．同行援護	(n=104)	34.6	17.3	26.0	7.7	10.6	3.8
	４．行動援護	(n=58)	19.0	19.0	29.3	12.1	13.8	6.9
	５．重度障害者等包括支援	(n=26)	15.4	7.7	38.5	15.4	15.4	7.7
（２）障害福祉サービス（日中活動系・訓練系・就労系）	１．生活介護	(n=158)	35.4	21.5	25.9	3.8	5.7	7.6
	２．療養介護	(n=31)	25.8	19.4	25.8	6.5	6.5	16.1
	３．自立訓練（機能訓練）	(n=83)	22.9	24.1	33.7	9.6	3.6	6.0
	４．自立訓練（生活訓練）	(n=41)	26.8	14.6	34.1	12.2	4.9	7.3
	５．就労選択支援	(n=20)	20.0	0.0	50.0	5.0	10.0	15.0
	６．就労移行支援	(n=48)	43.8	12.5	25.0	8.3	6.3	4.2
	７．就労継続支援（Ａ型）	(n=23)	26.1	13.0	30.4	4.3	8.7	17.4
	８．就労継続支援（Ｂ型）	(n=141)	42.6	19.1	24.1	7.1	4.3	2.8
	９．就労定着支援	(n=62)	41.9	27.4	12.9	6.5	6.5	4.8
	10．自立生活援助	(n=49)	24.5	14.3	22.4	14.3	8.2	16.3
	11．短期入所（ショートステイ）	(n=99)	23.2	17.2	21.2	15.2	14.1	9.1
（３）障害福祉サービス（居住系）	１．共同生活援助（グループホーム）	(n=96)	25.0	21.9	35.4	5.2	7.3	5.2
	２．施設入所支援	(n=41)	17.1	9.8	43.9	2.4	14.6	12.2
（４）相談支援	１．地域相談支援	(n=87)	27.6	14.9	35.6	1.1	6.9	13.8
	２．計画相談支援	(n=233)	42.5	16.3	30.9	4.7	1.7	3.9
（５）地域生活支援事業	１．相談支援事業	(n=128)	43.8	12.5	29.7	5.5	3.9	4.7
	２．移動支援事業	(n=106)	26.4	16.0	22.6	17.0	11.3	6.6
	３．日常生活用具給付事業	(n=83)	37.3	13.3	28.9	8.4	8.4	3.6
	４．日中短期入所事業	(n=46)	26.1	10.9	30.4	15.2	10.9	6.5
	５．地域活動支援センター事業	(n=71)	35.2	16.9	28.2	2.8	4.2	12.7
	６．意思疎通支援事業	(n=16)	6.3	12.5	43.8	6.3	12.5	18.8
（６）日常生活のサービス	１．補装具費の支給等	(n=163)	28.8	15.3	27.6	12.3	11.0	4.9
	２．短期保護	(n=33)	27.3	9.1	24.2	9.1	21.2	9.1
	３．福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	(n=306)	48.7	14.4	14.7	7.8	10.1	4.2
	４．緊急一時介護委託費助成	(n=24)	8.3	12.5	25.0	8.3	25.0	20.8
（７）就労に関する支援	１．障害者就労支援事業	(n=164)	29.9	20.1	31.7	6.7	6.7	4.9
（８）精神障害者を対象とした支援	１．精神障害回復途上者デイケア	(n=39)	15.4	17.9	35.9	5.1	12.8	12.8
	２．地域生活安定化支援事業	(n=30)	23.3	13.3	33.3	0.0	13.3	16.7
（９）難病患者を対象とした支援	１．難病リハビリ教室	(n=26)	15.4	3.8	46.2	3.8	19.2	11.5
（10）その他	１．障害者（児）歯科診療	(n=70)	41.4	15.7	24.3	5.7	5.7	7.1
	２．在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業	(n=40)	22.5	20.0	25.0	10.0	12.5	10.0
	３．成年後見制度支援事業	(n=27)	11.1	7.4	40.7	3.7	14.8	22.2
	４．成年後見制度利用助成事業	(n=18)	11.1	0.0	38.9	5.6	27.8	16.7
	５．福祉サービス利用援助事業	(n=38)	26.3	5.3	44.7	2.6	10.5	10.5

利用している障害福祉サービス等の「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は、「就労定着支援」が 69.3%、「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」が 63.1%、「就労継続支援（Ｂ型）」が 61.7%と６割台で高くなっています。

「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は、「成年後見制度利用助成事業（報酬助成）」が 33.4%、「緊急一時介護委託費助成」が 33.3%、「重度障害者等包括支援」が 30.8%、「短期保護」が 30.3%と３割を超えています。

（3）サービスの『不満』の理由

B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ方
C．サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。（○はいくつでも）

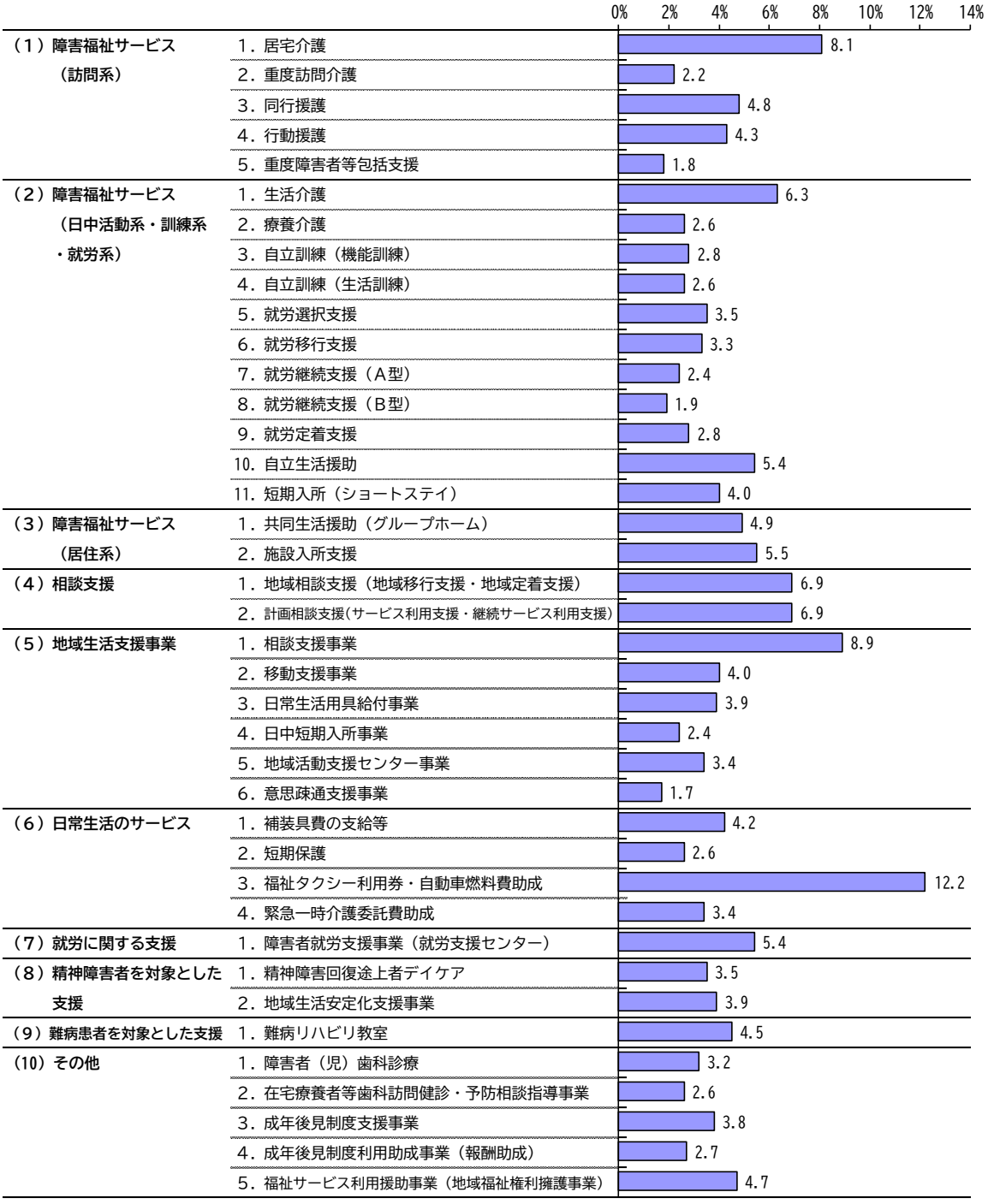
	（単位:%）	n	利用できる回数や日数等が少ない	利用料が高い	サービス提供事業所が少ない	利用日時が合わない	利用時間が短い	サービス内容（質）に不安を感じる	サービス提供事業所の対応が良くない	サービスの利用契約等に関する十分な説明がない	事業所と家族の連携が取れていない	医療的ケアの対応が十分でない	その他	無回答
障害福祉サービス等別	居宅介護	30	***36.7***	3.3	13.3	6.7	30.0	***36.7***	20.0	6.7	－	10.0	－	20.0
	重度訪問介護	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	***25.0***	－	75.0
	同行援護	19	***21.1***	－	***21.1***	5.3	***21.1***	***21.1***	15.8	5.3	5.3	15.8	15.8	21.1
	行動援護	15	***26.7***	6.7	***26.7***	13.3	20.0	20.0	13.3	13.3	－	***26.7***	－	33.3
	重度障害者等包括支援	8	***12.5***	－	***12.5***	－	***12.5***	***12.5***	－	***12.5***	－	***12.5***	－	50.0
	生活介護	15	20.0	6.7	26.7	13.3	20.0	***46.7***	33.3	13.3	－	13.3	13.3	13.3
	療養介護	4	***25.0***	***25.0***	***25.0***	***25.0***	***25.0***	***25.0***	***25.0***	***25.0***	－	***25.0***	－	50.0
	自立訓練（機能訓練）	11	***18.2***	***18.2***	9.1	－	9.1	9.1	9.1	－	－	－	－	45.5
	自立訓練（生活訓練）	7	***28.6***	14.3	－	－	14.3	－	14.3	－	－	－	－	42.9
	就労選択支援	3	－	***33.3***	***33.3***	***33.3***	***33.3***	***33.3***	***33.3***	***33.3***	－	***33.3***	－	66.7
	就労移行支援	7	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	***57.1***	14.3	14.3	－	28.6	14.3	28.6
	就労継続支援（A型）	3	－	***33.3***	***33.3***	***33.3***	***33.3***	***33.3***	***33.3***	***33.3***	－	***33.3***	－	66.7
	就労継続支援（B型）	16	－	6.3	12.5	－	－	37.5	***43.8***	－	－	12.5	31.3	37.5
	就労定着支援	8	12.5	－	－	25.0	－	***37.5***	12.5	12.5	12.5	－	25.0	25.0
	自立生活援助	11	18.2	9.1	9.1	－	9.1	***36.4***	9.1	9.1	－	－	9.1	36.4
	短期入所	29	20.7	6.9	20.7	***24.1***	3.4	***24.1***	13.8	3.4	3.4	20.7	13.8	13.8
	共同生活援助	12	－	8.3	8.3	－	－	***50.0***	16.7	－	16.7	16.7	16.7	16.7
	施設入所支援	7	***14.3***	－	***14.3***	－	***14.3***	***14.3***	***14.3***	－	－	－	28.6	28.6
	地域相談支援	7	14.3	－	－	－	－	***42.9***	14.3	14.3	14.3	14.3	－	42.9
	計画相談支援	15	6.7	6.7	－	－	6.7	***33.3***	26.7	13.3	20.0	20.0	6.7	13.3
	相談支援事業	12	8.3	－	8.3	25.0	16.7	***41.7***	25.0	8.3	25.0	16.7	25.0	16.7
	移動支援事業	30	23.3	3.3	***36.7***	26.7	20.0	26.7	13.3	3.3	6.7	3.3	26.7	13.3
	日常生活用具給付事業	14	7.1	14.3	－	7.1	－	***21.4***	7.1	－	－	－	28.6	28.6
	日中短期入所事業	12	***41.7***	－	25.0	***41.7***	16.7	33.3	－	－	－	8.3	8.3	25.0
	地域活動支援センター事業	5	20.0	－	－	***40.0***	***40.0***	***40.0***	20.0	－	－	20.0	－	40.0
	意思疎通支援事業	3	－	－	－	－	***33.3***	***33.3***	－	－	－	－	－	66.7
	補装具費の支給等	38	15.8	***18.4***	5.3	7.9	－	7.9	2.6	－	2.6	5.3	23.7	31.6
	短期保護	10	－	10.0	－	***30.0***	－	－	－	－	－	－	10.0	70.0
	福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	55	***18.2***	5.5	1.8	－	1.8	7.3	－	3.6	－	－	32.7	32.7
	緊急一時介護委託費助成	8	***25.0***	12.5	－	－	－	－	－	－	－	－	12.5	75.0
	障害者就労支援事業	22	9.1	－	－	13.6	－	***18.2***	***18.2***	－	4.5	－	22.7	36.4
	精神障害回復途上者デイケア	7	14.3	－	－	－	14.3	***28.6***	－	－	－	－	－	57.1
	地域生活安定化支援事業	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0
	難病リハビリ教室	6	－	－	－	－	－	－	－	***16.7***	－	－	33.3	50.0
	障害者（児）歯科診療	8	12.5	－	***25.0***	－	－	***25.0***	***25.0***	12.5	－	***25.0***	12.5	37.5
	在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業	9	－	－	11.1	－	11.1	***22.2***	11.1	11.1	－	11.1	22.2	55.6
	成年後見制度支援事業	5	－	－	***20.0***	－	***20.0***	－	－	－	－	－	20.0	60.0
	成年後見制度利用助成事業	6	－	－	－	－	－	－	－	***16.7***	－	－	33.3	50.0
	福祉サービス利用援助事業	5	－	－	－	－	－	－	－	***20.0***	－	－	20.0	60.0

利用している障害福祉サービス等の『不満』の理由を、『不満』と答えた回答数が 10 件以上のサービスでみると、“生活介護”、“共同生活援助”、“相談支援事業”では、「サービス内容（質）に不安を感じる」が４割を超えており、特に“共同生活援助”では５割を占めています。

また、“日中短期入所事業”では「利用できる回数や日数等が少ない」と「利用日時が合わない」が、“就労継続支援（B型）”では「サービス提供事業所の対応が良くない」が４割を超えて高くなっています。

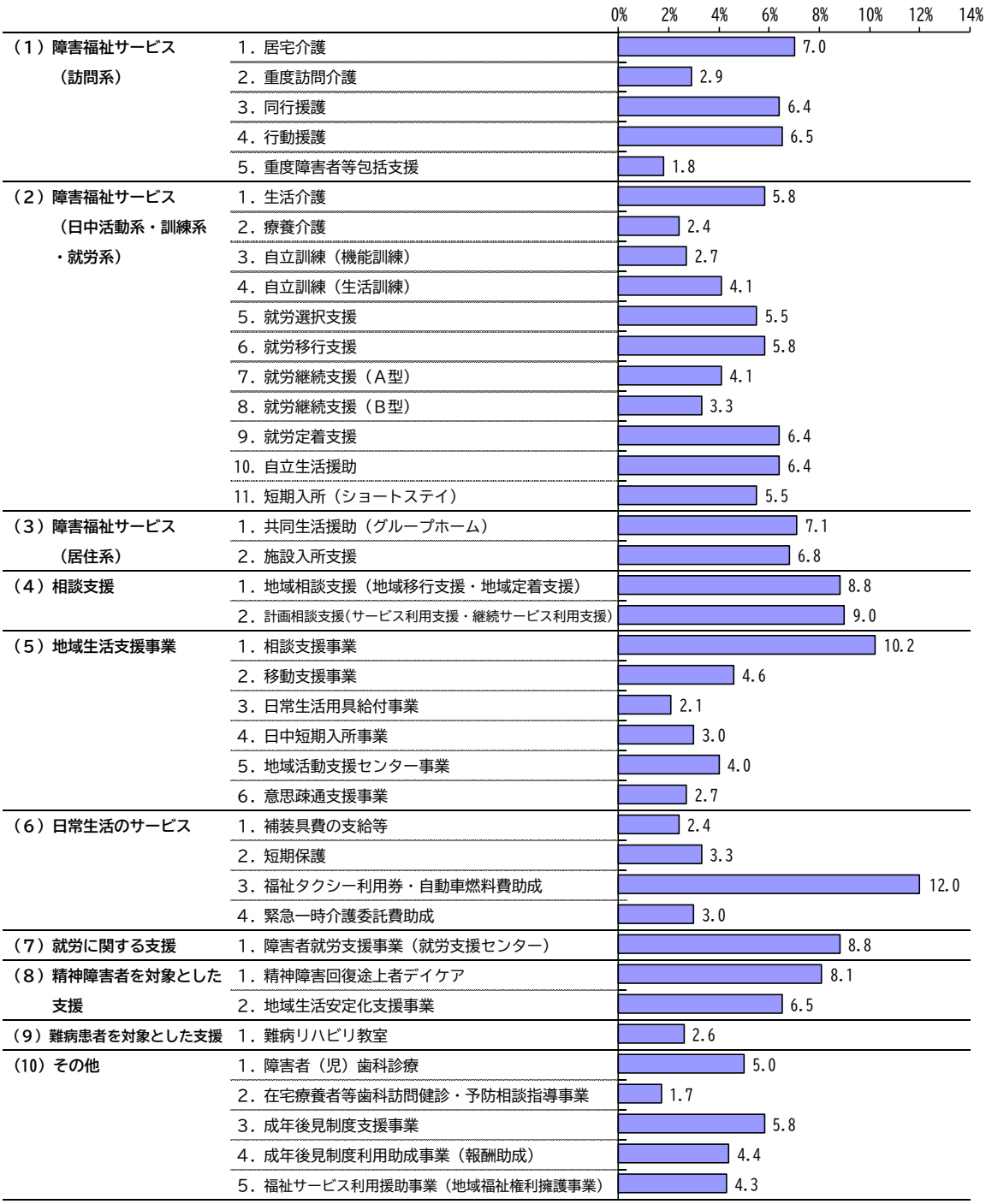
（４）今後利用したいサービス

D．現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。



今後利用したい障害福祉サービス等は、「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」が 12.2%と最も高く、次いで「相談支援事業」が 8.9%、「居宅介護」が 8.1%、「地域相談支援」と「計画相談支援」がともに 6.9%と続いています。

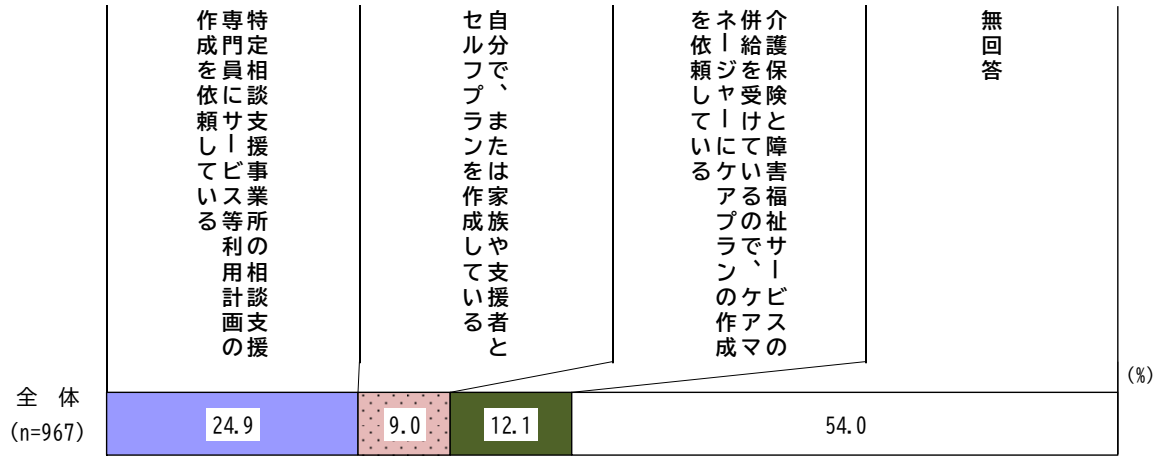
【今後利用したいサービス】問 12 に該当する方



問 12 に該当する方が今後利用したい障害福祉サービス等は、「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」が 12.0%、「相談支援事業」が 10.2%と 1 割を超えて高く、次いで「計画相談支援」が 9．0%、「地域相談支援」と「障害者就労支援事業」がともに 8.8%、「精神障害回復途上者デイケア」が 8.1%と続いています。

（５）サービス等利用計画の作成手段

問 23 にあるいずれかの障害福祉サービスで「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。
問 24　どのようにサービス等利用計画を作成しましたか。（○はひとつ）



サービス等利用計画の作成手段は、「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」が 24.9%と２割半ばを占めて最も高く、次いで「介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している」が 12.1%、「自分で、または家族や支援者とセルフプランを作成している」が 9.0%と続いています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している	自分で、または家族や支援者とセルフプランを作成している	介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している	無回答
全体		967	***24.9***	9.0	12.1	54.0
障害別	肢体不自由	171	21.6	4.1	***28.1***	46.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	51	***25.5***	0.0	***25.5***	49.0
	視覚障害	100	10.0	13.0	***15.0***	62.0
	聴覚・平衡機能障害	69	***13.0***	10.1	***13.0***	63.8
	内部障害	138	10.1	5.1	***16.7***	68.1
	知的障害	209	***54.5***	10.0	1.9	33.5
	発達障害	147	***36.7***	12.2	3.4	47.6
	精神障害	274	***28.1***	12.4	5.8	53.6
	高次脳機能障害	21	23.8	4.8	***28.6***	42.9
	難病（特定疾病）	142	12.0	3.5	***24.6***	59.9
	その他	21	19.0	4.8	***28.6***	47.6

障害別にみると、いずれの障害も「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」か「介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している」が最も高くなっています。特に“知的障害”では「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」が５割半ば近くで他の障害より高くなっています。

“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”、“知的障害”“発達障害”、“精神障害”では「自分で、または家族や支援者とセルフプランを作成している」が１割を超えています。

【クロス集計】障害福祉サービス等の利用別

（単位:%）		n	特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している	自分で、または家族や支援者とセルフプランを作成している	介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している	無回答
障害福祉サービス等別	居宅介護	212	19.3	4.2	***31.1***	45.3
	重度訪問介護	27	***25.9***	3.7	14.8	55.6
	同行援護	104	***26.0***	12.5	20.2	41.3
	行動援護	58	***24.1***	5.2	13.8	56.9
	重度障害者等包括支援	26	***23.1***	3.8	11.5	61.5
	生活介護	158	***39.2***	4.4	24.1	32.3
	療養介護	31	***19.4***	0.0	16.1	64.5
	自立訓練（機能訓練）	83	13.3	0.0	***48.2***	38.6
	自立訓練（生活訓練）	41	***24.4***	2.4	19.5	53.7
	就労選択支援	20	***10.0***	5.0	5.0	80.0
	就労移行支援	48	***27.1***	12.5	6.3	54.2
	就労継続支援（Ａ型）	23	***17.4***	13.0	4.3	65.2
	就労継続支援（Ｂ型）	141	***46.1***	14.2	5.0	34.8
	就労定着支援	62	***30.6***	9.7	1.6	58.1
	自立生活援助	49	18.4	4.1	***26.5***	51.0
	短期入所	99	***41.4***	7.1	18.2	33.3
	共同生活援助	96	***44.8***	11.5	10.4	33.3
	施設入所支援	41	14.6	4.9	***26.8***	53.7
	相談支援事業	128	***45.3***	4.7	14.1	35.9
	移動支援事業	106	***50.9***	11.3	13.2	24.5
	日常生活用具給付事業	83	16.9	6.0	***33.7***	43.4
	日中短期入所事業	46	***60.9***	6.5	6.5	26.1
	地域活動支援センター事業	70	***37.1***	5.7	7.1	50.0
	意思疎通支援事業	16	***18.8***	0.0	12.5	68.8

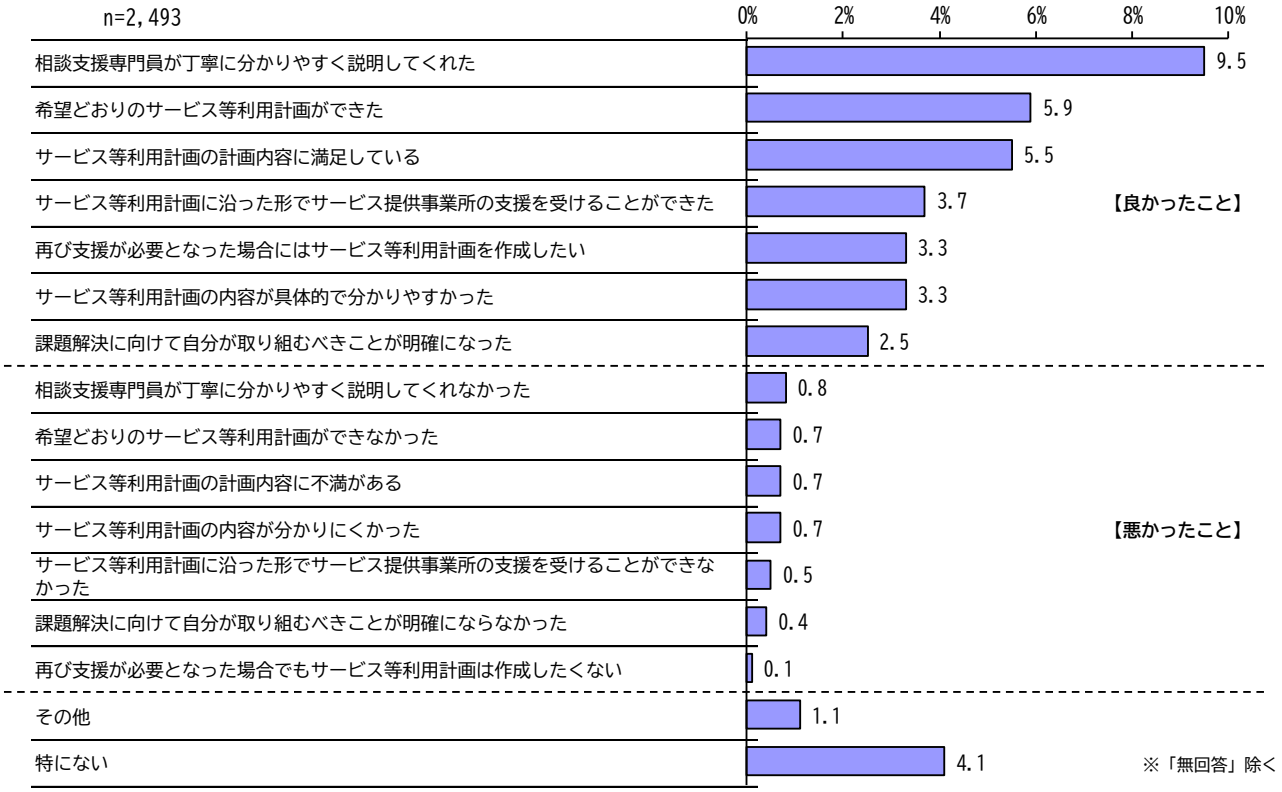
利用している障害福祉サービス等別にみると、「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」は 24 のサービス中 19 サービスで最も高く、特に“日中短期入所事業”では６割、“移動支援事業”では５割、“就労継続支援（Ｂ型)”、“短期入所”、“共同生活援助”、“相談支援事業”では４割を超えています。

「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」はいずれのサービスでも１割半ばを下回り、“就労継続支援（Ｂ型)”で 14.2%と最も高く、“就労継続支援（Ａ型)”で 13.0%、“同行援護”と“就労移行支援”でともに 12.5%と続いています。

「介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している」は 24 のサービス中５サービスで最も高く、特に“自立訓練（機能訓練)”では４割半ばを超えて高くなっています。

（６）サービス等利用計画の作成時に感じたこと

問 25　サービス等利用計画を作成してどのように感じましたか。（あてはまるものすべてに○）



サービス等利用計画を作成して感じたことについて、【良かったこと】は「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が 9.5%と最も高く、次いで「希望どおりのサービス等利用計画ができた」が 5.9%、「サービス等利用計画の計画内容に満足している」が 5.5%と続いています。

【悪かったこと】は、すべての項目で１％を下回っており、「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった。」が 0.8%と最も高くなっています。

一方、「特にない」は 4.1%となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた	希望どおりのサービス等利用計画ができた	サービス等利用計画の計画内容に満足している	再び支援が必要となった場合にはサービス等利用計画を作成したい	サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた	サービス等利用計画の内容が具体的で分かりやすかった	課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確になった	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった	希望どおりのサービス等利用計画ができなかった
全体		2,493	***9.5***	5.9	5.5	3.3	3.7	3.3	2.5	0.8	0.7
障害別	肢体不自由	320	***13.8***	8.1	10.0	4.1	6.3	3.8	3.8	1.3	0.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***18.4***	10.3	11.5	13.8	9.2	5.7	6.9	1.1	1.1
	視覚障害	163	5.5	***6.1***	***6.1***	3.7	4.9	3.7	1.2	0.6	0.0
	聴覚・平衡機能障害	153	***9.8***	5.9	5.2	4.6	2.6	3.3	1.3	0.0	0.0
	内部障害	324	***7.7***	3.4	5.6	2.2	3.4	1.5	1.2	0.6	0.0
	知的障害	256	***31.6***	18.0	15.6	10.5	10.9	9.8	6.3	1.6	2.0
	発達障害	263	***19.0***	10.3	10.6	7.6	6.8	7.2	6.1	1.5	1.9
	精神障害	626	***11.5***	8.0	6.1	4.3	4.0	4.8	4.3	1.4	1.8
	高次脳機能障害	40	***12.5***	10.0	5.0	2.5	***12.5***	2.5	5.0	2.5	2.5
	難病（特定疾病）	817	***3.7***	2.6	2.9	1.7	1.3	1.1	0.9	0.4	0.2
	その他	42	7.1	9.5	***11.9***	2.4	7.1	7.1	4.8	0.0	0.0

（単位:%）		n	サービス等利用計画の計画内容に不満がある	再び支援が必要となった場合でもサービス等利用計画は作成したくない	サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった	サービス等利用計画の内容が分かりにくかった	課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった	その他	特にない	無回答
全体		2,493	0.7	0.1	0.5	0.7	0.4	1.1	4.1	80.1
障害別	肢体不自由	320	0.9	0.0	0.9	0.9	0.3	1.9	4.1	71.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	0.0	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	5.7	63.2
	視覚障害	163	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	1.2	1.8	84.0
	聴覚・平衡機能障害	153	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	4.6	83.7
	内部障害	324	0.0	0.0	0.3	0.9	0.0	0.6	3.1	85.2
	知的障害	256	1.2	0.4	2.0	1.2	0.4	4.3	5.1	45.7
	発達障害	263	0.8	0.4	1.9	2.3	0.8	3.0	4.2	67.3
	精神障害	626	2.1	0.5	1.0	1.4	1.1	1.8	6.1	75.2
	高次脳機能障害	40	2.5	0.0	0.0	2.5	0.0	2.5	7.5	62.5
	難病（特定疾病）	817	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	0.1	***3.7***	89.7
	その他	42	0.0	2.4	0.0	2.4	0.0	2.4	7.1	66.7

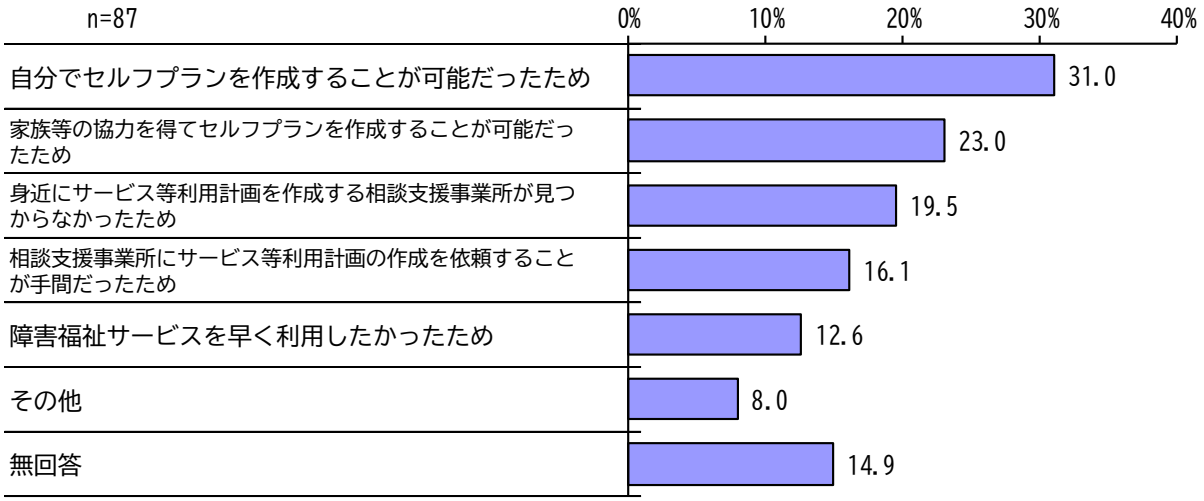
障害別にみると、“視覚障害”と“その他”以外のいずれの障害でも「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が最も高く、特に“知的障害”では31.6%と３割を超えています。

また、“知的障害”では「希望どおりのサービス等利用計画ができた」、「サービス等利用計画の計画内容に満足している」が１割半ばを超えて、他の障害より高くなっています。

“高次脳機能障害”では、「サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた」が12.5%と１割を超えて、他の障害より高くなっています。

（7）セルフプランとした理由

問 24 で「セルフプランを作成している」と回答した方にお聞きします。
問 26　セルフプランとした理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）



セルフプランを作成した理由は、「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が 31.0％と３割を超えて最も高く、次いで「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」が 23.0％、「身近にサービス等利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため」が 19.5％と続いています。

【クロス集計】障害別

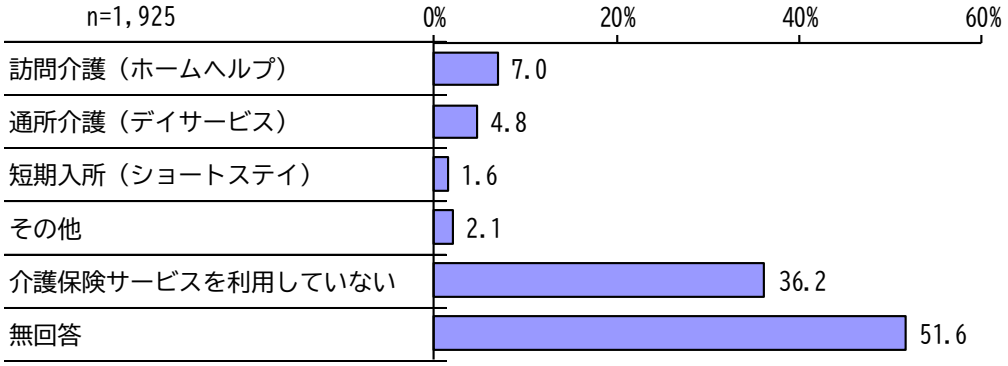
（単位:%）		n	相談支援事業所にサービス等利用計画の作成を依頼することが手間だったため	身近にサービス等利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため	障害福祉サービスを早く利用したかったため	家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため	自分でセルフプランを作成することが可能だったため	その他	無回答
全体		87	16.1	19.5	12.6	23.0	***31.0***	8.0	14.9
障害別	肢体不自由	7	28.6	14.3	0.0	0.0	***42.9***	0.0	42.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	視覚障害	13	0.0	***23.1***	***23.1***	15.4	7.7	15.4	23.1
	聴覚・平衡機能障害	7	0.0	0.0	0.0	14.3	***42.9***	14.3	28.6
	内部障害	7	0.0	0.0	14.3	28.6	***42.9***	14.3	0.0
	知的障害	21	19.0	***38.1***	9.5	23.8	19.0	9.5	9.5
	発達障害	18	22.2	22.2	0.0	***27.8***	22.2	16.7	5.6
	精神障害	34	23.5	23.5	14.7	23.5	***41.2***	5.9	8.8
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	難病（特定疾病）	5	0.0	20.0	0.0	0.0	***60.0***	20.0	20.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、回答数が 10 件以上の障害で、“視覚障害”では「身近にサービス等利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため」と「障害福祉サービスを早く利用したかったため」が最も高くなっています。

“知的障害”では、「身近にサービス等利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため」が、“発達障害”では、「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」が、“精神障害”では、「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が最も高くなっています。

（８）介護保険サービスの利用状況

40 歳以上の方にお聞きします。
問 27　障害福祉サービスと併用している介護保険サービスはありますか。
（あてはまるものすべてに○）



40 歳以上の介護保険サービスの利用状況は、「訪問介護（ホームヘルプ）」が 7.0％と最も高く、次いで「通所介護（デイサービス）」が 4.8％、「短期入所（ショートステイ）」が 1.6％と続いています。

一方、「介護保険サービスを利用していない」は 36.2％と３割半ばを超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	訪問介護（ホームヘルプ）	通所介護(デイサービス)	短期入所（ショートステイ）	その他	介護保険サービスを利用していない	無回答
全体		1,925	***7.0***	4.8	1.6	2.1	36.2	51.6
年代別	40歳以上65歳未満	956	***4.2***	0.7	0.6	0.9	47.5	46.4
	65歳以上75歳未満	336	***8.6***	5.7	1.5	2.1	32.4	54.5
	75歳以上	633	10.4	***10.6***	3.0	3.8	21.2	57.8
障害別	肢体不自由	284	***13.4***	10.9	3.9	3.9	26.8	49.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	73	***19.2***	***19.2***	6.8	5.5	23.3	43.8
	視覚障害	146	***13.0***	8.9	1.4	3.4	29.5	50.0
	聴覚・平衡機能障害	140	5.0	***7.9***	3.6	0.7	32.1	55.7
	内部障害	299	***5.7***	4.0	2.0	3.0	34.4	53.5
	知的障害	94	***5.3***	***5.3***	***5.3***	1.1	40.4	46.8
	発達障害	87	***6.9***	2.3	3.4	2.3	47.1	41.4
	精神障害	432	***9.0***	3.0	0.7	1.9	42.6	45.1
	高次脳機能障害	34	***17.6***	14.7	5.9	8.8	38.2	26.5
	難病（特定疾病）	703	***5.4***	3.0	1.0	2.1	38.5	52.6
	その他	35	8.6	***11.4***	5.7	8.6	31.4	37.1

年代別にみると、“75 歳以上”では「通所介護（デイサービス）」が 10.6％と最も高く、それ以外の年代では「訪問介護（ホームヘルプ）」が最も高くなっています。

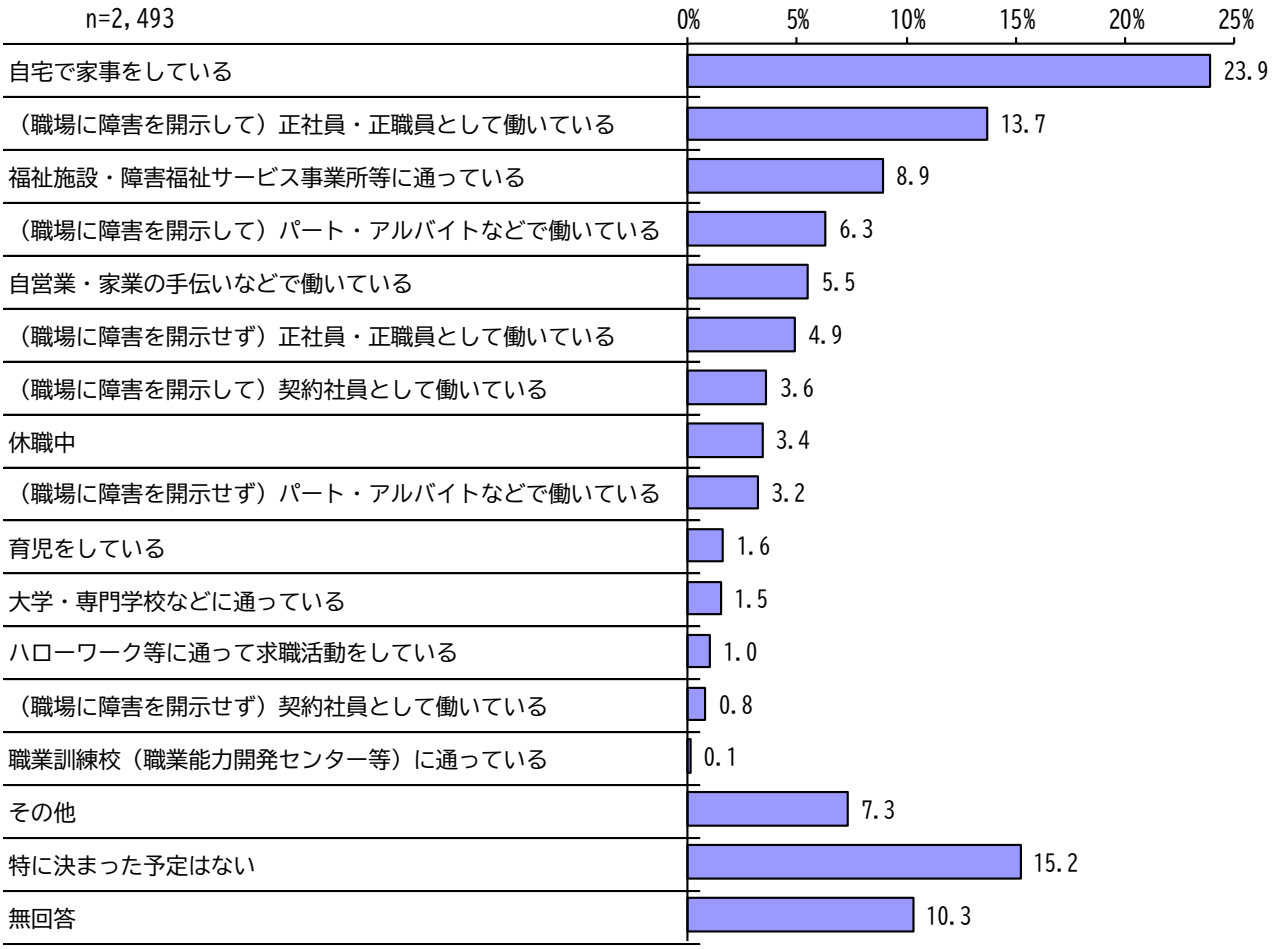
障害別にみると、“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“視覚障害”、“高次脳機能障害”では「訪問介護（ホームヘルプ）」が最も高く、特に“音声・言語・そしゃく機能障害”が２割近くとなっています。

また、“音声・言語・そしゃく機能障害”では「通所介護（デイサービス）」も２割近くで、他の障害より高くなっています。

5　日中活動や外出について

（1）平日の日中の過ごし方

問 28　あなたは、平日の日中、主にどのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）



平日の日中の過ごし方は、「自宅で家事をしている」が 23.9%で最も高く、次いで「(職場に障害を開示して）正社員・正職員として働いている」が 13.7%、「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」が 8.9%、「(職場に障害を開示して）パート・アルバイトなどで働いている」が 6.3%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は 15.2%となっています。

【クロス集計】年代別

（単位:%）		n	(職場に障害を開示して)正社員･正職員として働いている	(職場に障害を開示せず)正社員･正職員として働いている	(職場に障害を開示して)契約社員として働いている	(職場に障害を開示せず)契約社員として働いている	(職場に障害を開示して)パート･アルバイトなどで働いている	(職場に障害を開示せず)パート･アルバイトなどで働いている
全体		2,493	13.7	4.9	3.6	0.8	6.3	3.2
年代別	18歳以上40歳未満	538	***22.1***	7.1	7.6	1.1	8.6	3.0
	40歳以上65歳未満	956	20.6	7.9	4.2	1.3	8.3	5.2
	65歳以上75歳未満	336	4.2	1.2	1.5	0.3	7.1	2.7
	75歳以上	633	1.7	0.5	0.3	0.0	0.8	0.6

（単位:%）		n	自営業･家業の手伝いなどで働いている	福祉施設･障害福祉サービス事業所等に通っている	大学･専門学校などに通っている	職業訓練校(職業能力開発センター等)に通っている	ハローワーク等に通って求職活動をしている	自宅で家事をしている
全体		2,493	5.5	8.9	1.5	0.1	1.0	***23.9***
年代別	18歳以上40歳未満	538	4.3	20.6	6.3	0.4	1.3	10.8
	40歳以上65歳未満	956	6.1	9.0	0.3	0.0	1.5	***23.3***
	65歳以上75歳未満	336	7.4	3.0	0.3	0.3	0.9	***38.1***
	75歳以上	633	4.9	1.9	0.0	0.0	0.0	***28.0***

（単位:%）		n	育児をしている	休職中	その他	特に決まった予定はない	無回答
全体		2,493	1.6	3.4	7.3	15.2	10.3
年代別	18歳以上40歳未満	538	3.5	3.9	6.3	4.6	5.2
	40歳以上65歳未満	956	2.3	4.6	6.0	7.5	5.4
	65歳以上75歳未満	336	0.0	3.6	9.2	22.3	8.3
	75歳以上	633	0.0	0.8	9.2	32.2	22.4

年代別にみると、“18 歳以上 40 歳未満”と“40 歳以上 65 歳未満”では「(職場に障害を開示して)正社員・正職員として働いている」が２割を超えて高くなっています。

“40 歳以上 65 歳未満”、“65 歳以上 75 歳未満”、“75 歳以上”では「自宅で家事をしている」が２割を超えて最も高く、特に“65 歳以上 75 歳未満”では 38.1%と３割半ばを超えています。

また、“65 歳以上 75 歳未満”と“75 歳以上”では「特に決まった予定はない」が２割を超えており、特に“75 歳以上”では３割を超えています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	(職場に障害を開示して)正社員･正職員として働いている	(職場に障害を開示せず)正社員･正職員として働いている	(職場に障害を開示して)契約社員として働いている	(職場に障害を開示せず)契約社員として働いている	(職場に障害を開示して)パート･アルバイトなどで働いている	(職場に障害を開示せず)パート･アルバイトなどで働いている
全体		2,493	13.7	4.9	3.6	0.8	6.3	3.2
障害別	肢体不自由	320	12.5	0.9	1.9	0.0	2.8	0.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	11.5	0.0	2.3	0.0	3.4	0.0
	視覚障害	163	13.5	3.1	3.7	0.6	3.1	1.2
	聴覚・平衡機能障害	153	11.1	0.0	2.6	0.0	5.2	0.0
	内部障害	324	12.0	3.1	0.9	0.0	4.9	3.1
	知的障害	256	9.8	0.8	10.5	0.8	8.2	0.4
	発達障害	263	15.6	4.9	9.1	1.1	9.9	6.8
	精神障害	626	9.6	5.6	5.0	0.8	8.8	4.8
	高次脳機能障害	40	***22.5***	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0
	難病（特定疾病）	817	19.3	7.8	1.2	1.3	5.6	3.5
	問12に該当する方	658	10.5	4.6	4.4	1.1	6.1	3.6
	その他	42	4.8	2.4	0.0	2.4	2.4	4.8

（単位:%）		n	自営業･家業の手伝いなどで働いている	福祉施設･障害福祉サービス事業所等に通っている	大学･専門学校などに通っている	職業訓練校(職業能力開発センター等)に通っている	ハローワーク等に通って求職活動をしている	自宅で家事をしている
全体		2,493	5.5	8.9	1.5	0.1	1.0	***23.9***
障害別	肢体不自由	320	4.4	7.8	2.2	0.0	0.3	***23.4***
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	5.7	***13.8***	1.1	1.1	1.1	11.5
	視覚障害	163	4.3	3.7	3.7	0.0	0.6	***20.2***
	聴覚・平衡機能障害	153	4.6	3.9	0.7	0.0	0.7	***32.0***
	内部障害	324	7.4	1.5	1.2	0.0	0.6	***27.8***
	知的障害	256	0.0	***50.0***	0.0	0.0	0.8	5.1
	発達障害	263	2.7	***18.6***	5.3	1.1	1.9	13.7
	精神障害	626	5.1	11.8	1.4	0.2	2.2	***27.3***
	高次脳機能障害	40	7.5	10.0	0.0	0.0	2.5	15.0
	難病（特定疾病）	817	7.8	0.9	1.3	0.0	0.7	***25.5***
	問12に該当する方	658	3.6	18.1	1.5	0.2	1.5	***19.3***
	その他	42	0.0	14.3	2.4	0.0	0.0	***23.8***

（単位:%）		n	育児をしている	休職中	その他	特に決まった予定はない	無回答
全体		2,493	1.6	3.4	7.3	15.2	10.3
障害別	肢体不自由	320	0.3	1.6	9.4	23.1	15.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	0.0	2.3	9.2	32.2	14.9
	視覚障害	163	0.0	1.2	9.8	26.4	12.9
	聴覚・平衡機能障害	153	0.0	0.7	7.2	24.8	15.7
	内部障害	324	0.9	2.8	9.0	21.9	10.2
	知的障害	256	0.0	0.4	4.7	4.7	7.8
	発達障害	263	0.8	4.6	9.5	7.2	5.3
	精神障害	626	2.2	8.3	9.4	11.7	4.6
	高次脳機能障害	40	0.0	2.5	12.5	17.5	15.0
	難病（特定疾病）	817	2.7	1.5	6.4	13.6	10.5
	問12に該当する方	658	0.9	5.2	10.6	13.5	8.1
	その他	42	0.0	4.8	11.9	28.6	7.1

障害別にみると、“高次脳機能障害”では「(職場に障害を開示して）正社員・正職員として働いている」が２割を超えて最も高くなっています。

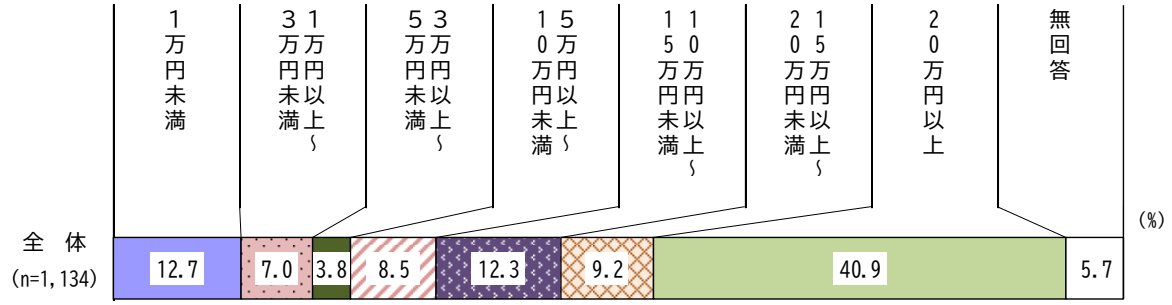
“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“発達障害”では「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」が最も高く、特に“知的障害”では５割となっています。

それ以外の障害では「自宅で家事をしている」が最も高くなっています。

（2）給与・工賃

問 28 で「正社員・正職員」「契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・家業」「福祉施設・障害福祉サービス事業所等」で働いていると回答された方にお聞きします。

問 28-1　給与・工賃の月額をお答え下さい。（○はひとつ）



給与・工賃の月額は、「20 万円以上」が 40.9%と４割を占めて最も高く、次いで「１万円未満」が 12.7%、「10 万円以上～15 万円未満」が 12.3%、「15 万円以上～20 万円未満」が 9.2%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	1万円未満	1万円以上～3万円未満	3万円以上～5万円未満	5万円以上～10万円未満	10万円以上～15万円未満	15万円以上～20万円未満	20万円以上	無回答
全体		1,134	12.7	7.0	3.8	8.5	12.3	9.2	***40.9***	5.7
年代別	18歳以上40歳未満	390	18.5	8.5	2.1	7.7	12.8	12.1	***34.6***	3.8
	40歳以上65歳未満	581	9.8	6.0	2.6	7.2	11.2	7.7	***50.8***	4.6
	65歳以上75歳未満	88	9.1	4.5	14.8	15.9	15.9	10.2	***17.0***	12.5
	75歳以上	67	9.0	10.4	10.4	13.4	9.0	4.5	***26.9***	16.4
障害別	肢体不自由	98	18.4	7.1	4.1	7.1	6.1	10.2	***36.7***	10.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	29	***27.6***	10.3	0.0	3.4	10.3	3.4	***27.6***	17.2
	視覚障害	53	3.8	5.7	0.0	7.5	13.2	11.3	***49.1***	9.4
	聴覚・平衡機能障害	42	11.9	19.0	4.8	4.8	7.1	4.8	***38.1***	9.5
	内部障害	103	4.9	3.9	6.8	9.7	9.7	7.8	***53.4***	3.9
	知的障害	204	***37.7***	17.6	2.9	4.4	20.6	8.3	1.5	6.9
	発達障害	173	19.1	8.1	2.9	10.4	15.6	13.3	***26.0***	4.6
	精神障害	312	15.7	7.4	3.8	8.0	14.7	10.9	***32.1***	7.4
	高次脳機能障害	17	5.9	5.9	0.0	5.9	5.9	17.6	***41.2***	17.6
	難病（特定疾病）	379	1.6	2.4	3.2	9.8	7.7	6.6	***64.9***	4.0
	その他	13	***30.8***	15.4	0.0	7.7	15.4	7.7	23.1	0.0

年代別にみると、いずれの年代でも「20 万円以上」が最も高く、特に“40 歳以上 65 歳未満”は５割を占めています。

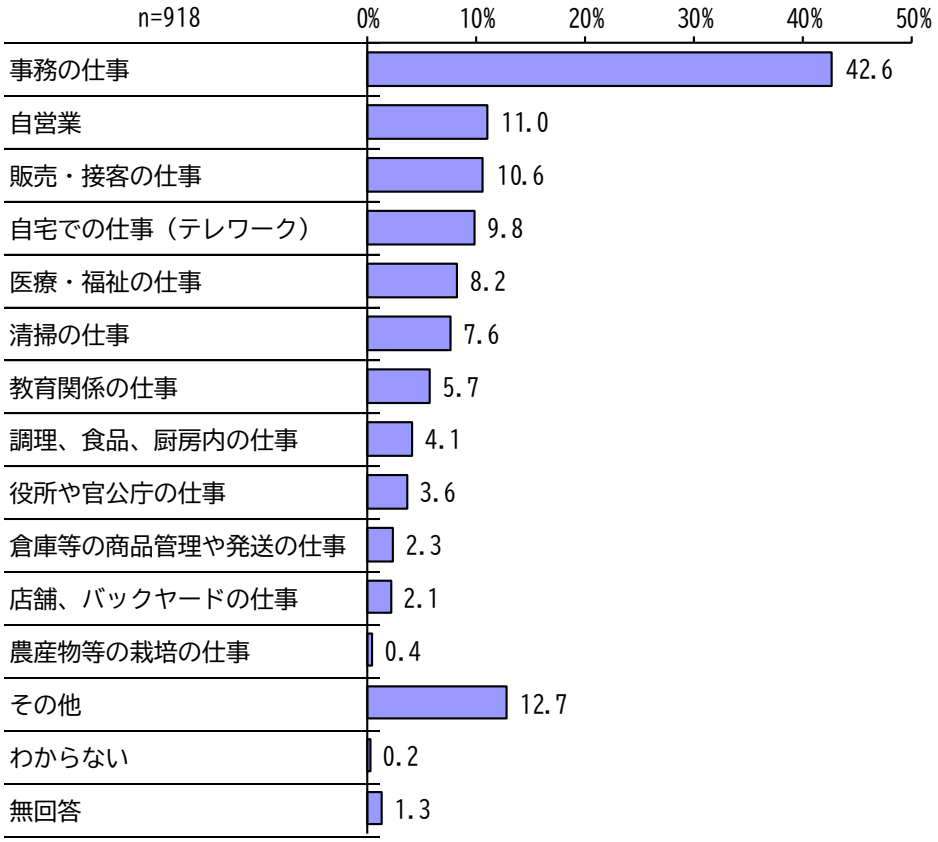
“18 歳以上～40 歳未満”では、「１万円未満」が 18.5%と１割半ばを超えて、他の年代より高くなっています。

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“その他”では「１万円未満」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「20 万円以上」が最も高く、特に“難病（特定疾病）”で６割を、“内部障害”で５割を超えて、他の障害より高くなっています。

（3）仕事の内容

問 28 で「正社員・正職員」「契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・家業」で働いていると回答された方にお聞きします。
問 28-2　仕事の内容をお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）



仕事の内容は、「事務の仕事」が42.6%と４割を超えて最も高く、次いで「自営業」が11.0%、「販売・接客の仕事」が10.6%、「自宅での仕事（テレワーク）」が9.8%、「医療・福祉の仕事」が8.2%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	事務の仕事	販売･接客の仕事	役所や官公庁の仕事	医療･福祉の仕事	教育関係の仕事	倉庫等の商品管理や発送の仕事	清掃の仕事	調理、食品、厨房内の仕事
全体		918	***42.6***	10.6	3.6	8.2	5.7	2.3	7.6	4.1
年代別	18歳以上40歳未満	280	***46.4***	10.4	3.6	6.1	2.9	3.6	8.6	5.7
	40歳以上65歳未満	498	***46.8***	10.6	4.0	9.0	7.0	1.6	6.0	3.2
	65歳以上75歳未満	79	***24.1***	11.4	2.5	11.4	6.3	1.3	12.7	6.3
	75歳以上	55	12.7	9.1	0.0	5.5	7.3	3.6	9.1	1.8
障害別	肢体不自由	73	***50.7***	8.2	4.1	9.6	11.0	1.4	4.1	1.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	***55.6***	5.6	11.1	16.7	11.1	5.6	5.6	11.1
	視覚障害	47	***38.3***	8.5	4.3	8.5	17.0	0.0	6.4	8.5
	聴覚・平衡機能障害	36	***25.0***	2.8	8.3	5.6	5.6	2.8	5.6	0.0
	内部障害	98	***35.7***	12.2	4.1	10.2	6.1	1.0	5.1	2.0
	知的障害	76	27.6	1.3	0.0	1.3	0.0	9.2	***36.8***	14.5
	発達障害	126	***46.8***	9.5	5.6	5.6	0.8	4.8	11.1	7.9
	精神障害	241	***48.1***	8.7	3.7	4.1	3.7	3.3	7.5	2.5
	高次脳機能障害	13	***53.8***	0.0	0.0	15.4	7.7	0.0	7.7	7.7
	難病（特定疾病）	372	***43.3***	13.2	3.2	11.3	7.8	0.5	2.7	3.2
	その他	7	***28.6***	14.3	0.0	***28.6***	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	店舗、バックヤードの仕事	農産物等の栽培の仕事	自宅での仕事(テレワーク)	自営業	その他	わからない	無回答
全体		918	2.1	0.4	9.8	11.0	12.7	0.2	1.3
年代別	18歳以上40歳未満	280	3.6	1.1	10.7	6.1	13.9	0.0	0.0
	40歳以上65歳未満	498	1.2	0.0	10.6	8.8	11.8	0.2	1.4
	65歳以上75歳未満	79	2.5	0.0	6.3	19.0	11.4	0.0	5.1
	75歳以上	55	1.8	0.0	3.6	***45.5***	16.4	1.8	1.8
障害別	肢体不自由	73	1.4	1.4	9.6	13.7	13.7	1.4	1.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	0.0	0.0	11.1	16.7	11.1	0.0	0.0
	視覚障害	47	2.1	0.0	6.4	14.9	8.5	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	36	2.8	0.0	2.8	19.4	30.6	0.0	2.8
	内部障害	98	3.1	0.0	7.1	15.3	17.3	1.0	1.0
	知的障害	76	3.9	5.3	1.3	0.0	10.5	0.0	0.0
	発達障害	126	4.8	0.8	10.3	3.2	12.7	0.0	0.8
	精神障害	241	2.1	0.0	13.7	9.1	12.4	0.0	2.5
	高次脳機能障害	13	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	372	0.5	0.0	11.8	13.2	11.8	0.3	0.5
	その他	7	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0

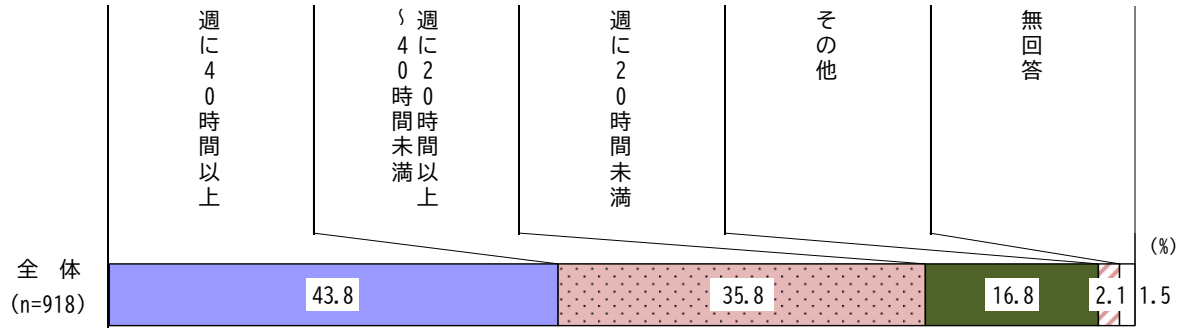
年代別にみると、“75 歳以上”では「自営業」が最も高く、それ以外の年代ではいずれも「事務の仕事」が最も高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”では「清掃の仕事」が３割半ばを超えて、他の障害より高くなっています。

それ以外の障害では「事務の仕事」が最も高くなっています。

（４）１週間当たりの勤務時間

問 28 で「正社員・正職員」「契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・家業」で働いていると回答された方にお聞きします。
問 28-3　週当たりの勤務時間をお答え下さい。（○はひとつ）



１週間当たりの勤務時間は、「週に 40 時間以上」が 43.8%と４割を超えて最も高く、次いで「週に 20 時間以上～40 時間未満」が 35.8%、「週に 20 時間未満」が 16.8%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	週に40時間以上	週に20時間以上～40時間未満	週に20時間未満	その他	無回答
	全体	918	***43.8***	35.8	16.8	2.1	1.5
年代別	18歳以上40歳未満	280	***48.2***	41.8	8.2	1.4	0.4
	40歳以上65歳未満	498	***49.2***	33.5	14.1	1.4	1.8
	65歳以上75歳未満	79	17.7	29.1	***45.6***	2.5	5.1
	75歳以上	55	12.7	34.5	***41.8***	10.9	0.0
障害別	肢体不自由	73	***38.4***	30.1	27.4	2.7	1.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	22.2	***44.4***	33.3	0.0	0.0
	視覚障害	47	***53.2***	31.9	14.9	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	36	***36.1***	22.2	***36.1***	2.8	2.8
	内部障害	98	***40.8***	35.7	19.4	4.1	0.0
	知的障害	76	17.1	***69.7***	9.2	2.6	1.3
	発達障害	126	38.9	***47.6***	11.1	1.6	0.8
	精神障害	241	35.7	***43.2***	14.5	3.3	3.3
	高次脳機能障害	13	***53.8***	15.4	23.1	7.7	0.0
	難病（特定疾病）	372	***55.1***	25.8	16.9	1.3	0.8
	その他	7	***42.9***	28.6	28.6	0.0	0.0

年代別にみると、“18 歳以上～40 歳未満”と“40 歳以上 65 歳未満”では「週に 40 時間以上」が５割近くを占めて最も高く、“65 歳以上～75 歳未満”と“75 歳以上”では「週に 20 時間未満」が４割を超えて最も高くなっています。

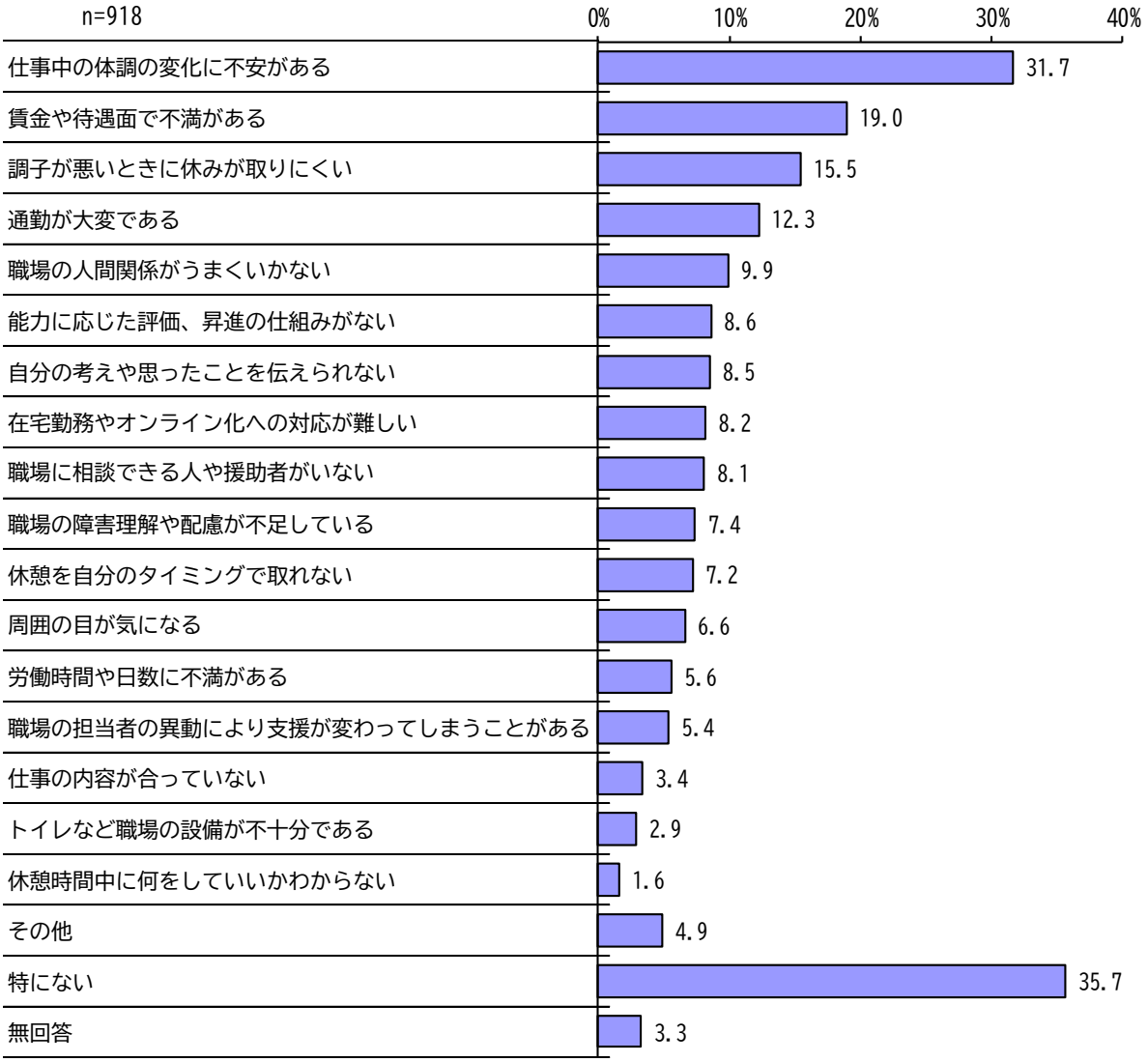
障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”では「週に 20 時間以上～40 時間未満」が最も高く、特に“知的障害”では７割を占めています。

それ以外の障害では「週に 40 時間以上」が最も高くなっています。

また、“聴覚・平衡機能障害”では「週に 20 時間未満」が３割半ばを超えて、他の障害より高くなっています。

（５）仕事で困っていること

問 28 で「正社員・正職員」「契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・家業」で働いていると回答された方にお聞きします。
問 28-4　仕事をする上で困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）



仕事で困っていることは、「仕事中の体調の変化に不安がある」が 31.7%と３割を超えて最も高く、次いで「賃金や待遇面で不満がある」が 19.0%、「調子が悪いときに休みが取りにくい」が 15.5%、「通勤が大変である」が 12.3%と続いています。

一方、「特にない」は 35.7%と３割半ばを占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	賃金や待遇面で不満がある	仕事中の体調の変化に不安がある	調子が悪いときに休みが取りにくい	労働時間や日数に不満がある	休憩を自分のタイミングで取れない	休憩時間中に何をしていいかわからない	通勤が大変である	職場の人間関係がうまくいかない	職場に相談できる人や援助者がいない	職場の担当者の異動により支援が変わってしまうことがある
全体		918	19.0	***31.7***	15.5	5.6	7.2	1.6	12.3	9.9	8.1	5.4
年代別	18歳以上40歳未満	280	27.1	***41.4***	15.4	7.5	11.1	2.9	17.5	14.3	7.5	9.3
	40歳以上65歳未満	498	17.9	***31.9***	18.1	5.6	6.6	1.4	11.4	10.0	10.4	4.6
	65歳以上75歳未満	79	7.6	***12.7***	6.3	2.5	0.0	0.0	3.8	0.0	1.3	0.0
	75歳以上	55	5.5	***7.3***	3.6	0.0	0.0	0.0	3.6	1.8	0.0	0.0
障害別	肢体不自由	73	9.6	17.8	5.5	1.4	4.1	1.4	***20.5***	2.7	5.5	8.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	11.1	5.6	0.0	5.6	0.0	5.6	11.1	5.6	5.6	0.0
	視覚障害	47	14.9	17.0	10.6	6.4	8.5	4.3	***19.1***	12.8	***19.1***	6.4
	聴覚・平衡機能障害	36	13.9	11.1	13.9	5.6	8.3	0.0	8.3	11.1	8.3	8.3
	内部障害	98	13.3	***20.4***	12.2	4.1	5.1	0.0	4.1	2.0	5.1	0.0
	知的障害	76	10.5	18.4	6.6	3.9	3.9	0.0	9.2	9.2	5.3	11.8
	発達障害	126	34.1	***39.7***	16.7	8.7	13.5	3.2	15.9	25.4	12.7	11.9
	精神障害	241	33.6	***47.3***	20.7	8.7	11.2	5.0	17.4	19.1	14.5	9.5
	高次脳機能障害	13	***38.5***	***38.5***	15.4	0.0	7.7	0.0	7.7	30.8	7.7	23.1
	難病（特定疾病）	372	14.0	***33.9***	18.3	5.4	6.2	0.0	10.2	4.3	4.0	1.9
	その他	7	14.3	28.6	***42.9***	14.3	0.0	28.6	28.6	***42.9***	28.6	14.3

（単位:%）		n	職場の障害理解や配慮が不足している	トイレなど職場の設備が不十分である	周囲の目が気になる	自分の考えや思ったことを伝えられない	能力に応じた評価、昇進の仕組みがない	仕事の内容が合っていない	在宅勤務やオンライン化への対応が難しい	その他	特にない	無回答
全体		918	7.4	2.9	6.6	8.5	8.6	3.4	8.2	4.9	35.7	3.3
年代別	18歳以上40歳未満	280	9.6	2.9	10.0	12.9	11.8	3.9	13.6	5.0	23.9	2.5
	40歳以上65歳未満	498	8.2	3.4	6.4	7.6	8.4	3.8	6.8	5.2	34.7	3.2
	65歳以上75歳未満	79	0.0	1.3	0.0	2.5	1.3	1.3	2.5	5.1	57.0	5.1
	75歳以上	55	0.0	0.0	1.8	1.8	3.6	0.0	0.0	1.8	74.5	5.5
障害別	肢体不自由	73	8.2	9.6	2.7	4.1	1.4	2.7	6.8	5.5	43.8	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	18	11.1	5.6	5.6	***22.2***	5.6	5.6	5.6	0.0	55.6	5.6
	視覚障害	47	14.9	0.0	10.6	4.3	8.5	2.1	6.4	6.4	36.2	6.4
	聴覚・平衡機能障害	36	***16.7***	0.0	8.3	8.3	11.1	2.8	5.6	8.3	33.3	5.6
	内部障害	98	3.1	0.0	1.0	2.0	6.1	0.0	5.1	6.1	50.0	4.1
	知的障害	76	6.6	2.6	1.3	***19.7***	2.6	0.0	0.0	1.3	43.4	3.9
	発達障害	126	17.5	3.2	13.5	19.0	17.5	7.1	14.3	8.7	19.8	1.6
	精神障害	241	14.1	2.1	14.5	16.2	19.1	7.9	15.4	7.9	17.4	1.7
	高次脳機能障害	13	15.4	15.4	7.7	15.4	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	0.0
	難病（特定疾病）	372	2.4	3.2	2.7	1.6	3.2	1.3	6.2	3.0	41.7	3.2
	その他	7	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	28.6	0.0

年代別にみると、いずれの年代でも「仕事中の体調の変化に不安がある」が最も高く、年齢が下がるにつれて増加傾向にあります。

また、“18 歳以上～40 歳未満”では「賃金や待遇面で不満がある」が２割半ばを超えて、他の年代より高くなっています。

障害別にみると、“高次脳機能障害”では「賃金や待遇面で不満がある」が３割半ばを超えて最も高くなっています。

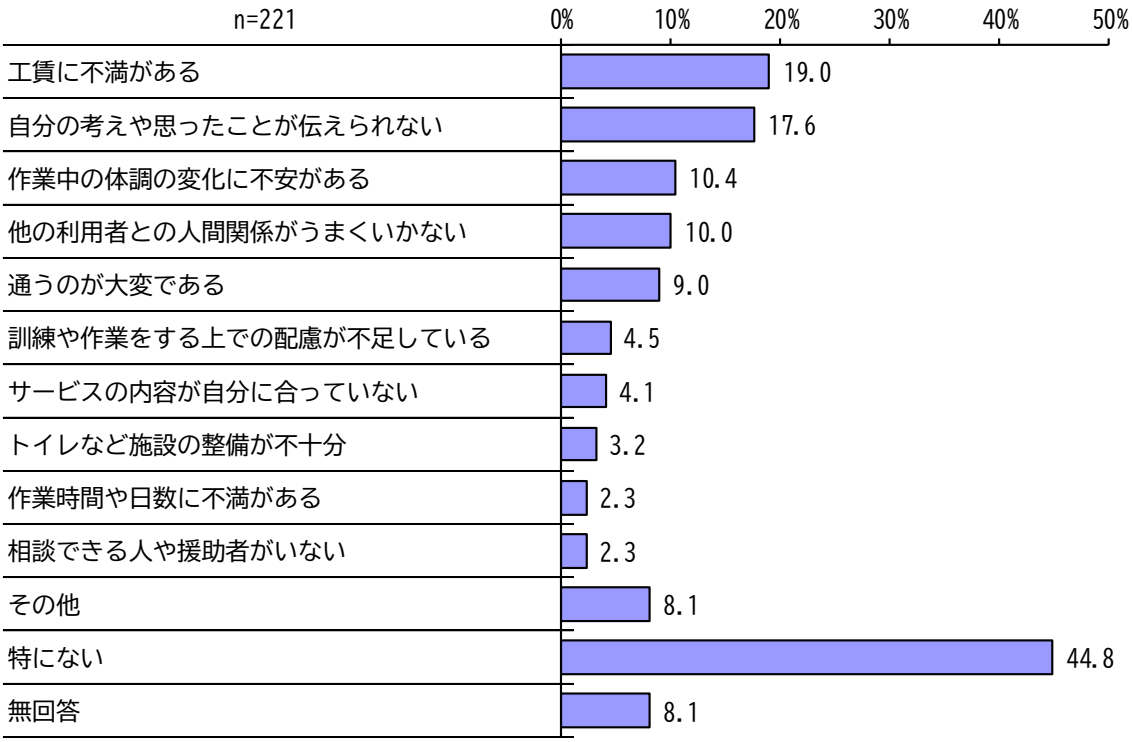
“肢体不自由”と“視覚障害”では「通勤が大変である」が２割前後で最も高くなっています。また、“視覚障害”は「職場に相談できる人や援助者がいない」も最も高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では「職場の障害理解や配慮が不足している」が、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“知的障害”では「自分の考えや思ったことを伝えられない」が最も高くなっています。

また、“高次脳機能障害”では「職場の担当者の異動により支援が変わってしまうことがある」が、“発達障害”や“高次脳機能障害”では「職場の人間関係がうまくいかない」が他の障害より高くなっています。

（６）福祉施設に通所する上で困っていること

問 28 で「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」と回答された方にお聞きします。
問 28-5　福祉施設に通所する上で困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）



福祉施設に通所する上で困っていることは、「工賃に不満がある」が 19.0％と最も高く、次いで「自分の考えや思ったことが伝えられない」が 17.6％、「作業中の体調の変化に不安がある」が 10.4％「他の利用者との人間関係がうまくいかない」が 10.0％と１割台で続いています。

一方、「特にない」は 44.8％と４割半ばを占めています。

【クロス集計】介助者の就労状況別

（単位:%）		n	サービスの内容が自分に合っていない	作業時間や日数に不満がある	工賃に不満がある	訓練や作業をする上での配慮が不足している	他の利用者との人間関係がうまくいかない	通うのが大変である	トイレなど施設の整備が不十分
全体		221	4.1	2.3	***19.0***	4.5	10.0	9.0	3.2
介助者の就労状況別	フルタイムで就労	28	0.0	7.1	***25.0***	0.0	10.7	3.6	3.6
	パート・アルバイト等で就労	37	5.4	0.0	16.2	5.4	2.7	8.1	2.7
	就労していない	56	5.4	3.6	12.5	3.6	10.7	8.9	0.0

（単位:%）		n	相談できる人や援助者がいない	作業中の体調の変化に不安がある	自分の考えや思ったことが伝えられない	その他	特にない	無回答
全体		221	2.3	10.4	17.6	8.1	44.8	8.1
介助者の就労状況別	フルタイムで就労	28	0.0	3.6	10.7	7.1	57.1	0.0
	パート・アルバイト等で就労	37	2.7	0.0	***21.6***	18.9	48.6	2.7
	就労していない	56	3.6	14.3	***17.9***	5.4	48.2	12.5

介助者の就労状況別にみると、“フルタイムで就労”では、「工賃に不満がある」が、それ以外の介助者の就労状況では「自分の考えや思ったことが伝えられない」が最も高くなっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	サービスの内容が自分に合っていない	作業時間や日数に不満がある	工賃に不満がある	訓練や作業をする上での配慮が不足している	他の利用者との人間関係がうまくいかない	通うのが大変である	トイレなど施設の整備が不十分
	全体	221	4.1	2.3	***19.0***	4.5	10.0	9.0	3.2
年代別	18歳以上40歳未満	111	2.7	1.8	***17.1***	3.6	7.2	7.2	0.9
	40歳以上65歳未満	86	7.0	3.5	***25.6***	7.0	15.1	11.6	7.0
	65歳以上75歳未満	10	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	***20.0***	0.0
	75歳以上	12	0.0	0.0	0.0	0.0	***8.3***	0.0	0.0
障害別	肢体不自由	25	0.0	0.0	***16.0***	0.0	4.0	8.0	12.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	12	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3
	視覚障害	6	0.0	0.0	***16.7***	0.0	***16.7***	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	***33.3***	0.0	16.7	0.0	0.0
	内部障害	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***20.0***	0.0
	知的障害	128	3.1	0.8	12.5	4.7	9.4	4.7	1.6
	発達障害	49	8.2	4.1	***26.5***	12.2	14.3	12.2	2.0
	精神障害	74	6.8	5.4	***28.4***	6.8	12.2	16.2	5.4
	高次脳機能障害	4	0.0	0.0	***25.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	7	0.0	0.0	***14.3***	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0

（単位:%）		n	相談できる人や援助者がいない	作業中の体調の変化に不安がある	自分の考えや思ったことが伝えられない	その他	特にない	無回答
	全体	221	2.3	10.4	17.6	8.1	44.8	8.1
年代別	18歳以上40歳未満	111	1.8	9.9	***17.1***	10.8	46.8	3.6
	40歳以上65歳未満	86	3.5	12.8	22.1	7.0	40.7	7.0
	65歳以上75歳未満	10	0.0	10.0	0.0	0.0	40.0	30.0
	75歳以上	12	0.0	0.0	***8.3***	0.0	66.7	25.0
障害別	肢体不自由	25	0.0	4.0	12.0	12.0	44.0	16.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	12	0.0	0.0	***33.3***	8.3	58.3	8.3
	視覚障害	6	0.0	0.0	***16.7***	16.7	50.0	16.7
	聴覚・平衡機能障害	6	0.0	16.7	***33.3***	0.0	16.7	16.7
	内部障害	5	0.0	0.0	***20.0***	0.0	20.0	40.0
	知的障害	128	2.3	7.0	***22.7***	7.8	51.6	5.5
	発達障害	49	2.0	16.3	20.4	12.2	40.8	4.1
	精神障害	74	5.4	16.2	17.6	9.5	33.8	6.8
	高次脳機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0
	難病（特定疾病）	7	0.0	***14.3***	0.0	14.3	57.1	14.3
	その他	6	0.0	***33.3***	0.0	0.0	33.3	33.3

年代別にみると、“18 歳以上～40 歳未満”と“40 歳以上～65 歳未満”では、「工賃に不満がある」が最も高くなっています。

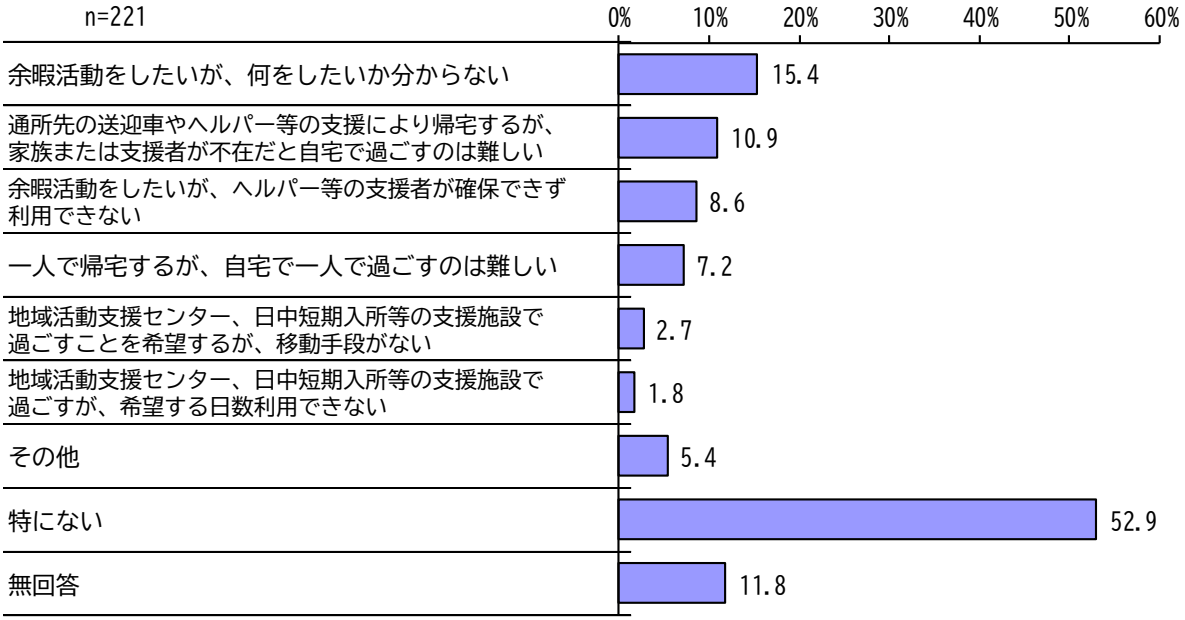
“65 歳以上 75 歳未満”では「通うのが大変である」が、“75 歳以上”では「他の利用者との人間関係がうまくいかない」と「自分の考えや思ったことが伝えられない」が最も高くなっています。

障害別にみると、回答者数が 10 件以上の障害で、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“知的障害”では、「自分の考えや思ったことが伝えられない」が最も高く、特に“音声・言語・そしゃく機能障害”では３割を超えています。

“肢体不自由”、“発達障害”、“精神障害”では、「工賃に不満がある」が最も高くなっています。

（7）福祉施設利用後に困っていること

問 28 で「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」と回答された方にお聞きします。
問 28-6　福祉施設利用後に困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）



福祉施設利用後に困っていることは、「余暇活動をしたいが、何をしたいか分からない」が 15.4%と 1 割半ばを超えて最も高く、次いで「通所先の送迎車やヘルパー等の支援により帰宅するが、家族または支援者が不在だと自宅で過ごすのは難しい」が 10.9%、「余暇活動をしたいが、ヘルパー等の支援者が確保できず利用できない」が 8.6%「一人で帰宅するが、自宅で一人で過ごすのは難しい」が 7.2%と続いています。

一方、「特にない」は 52.9%と５割半ばを超えています。

【クロス集計】介助者の就労状況別

（単位:%）		n	通所先の送迎車やヘルパー等の支援により帰宅するが、家族または支援者が不在だと自宅で過ごすのは難しい	一人で帰宅するが、自宅で一人で過ごすのは難しい	地域活動支援センター、日中短期入所等の支援施設で過ごすが、希望する日数利用できない	地域活動支援センター、日中短期入所等の支援施設で過ごすことを希望するが、移動手段がない	余暇活動をしたいが、何をしたいか分からない	余暇活動をしたいが、ヘルパー等の支援者が確保できず利用できない	その他	特にない	無回答
全体		221	10.9	7.2	1.8	2.7	***15.4***	8.6	5.4	52.9	11.8
介助者の就労状況別	フルタイムで就労	28	10.7	7.1	3.6	3.6	***17.9***	7.1	10.7	50.0	7.1
	パート・アルバイト等で就労	37	***24.3***	10.8	8.1	10.8	8.1	18.9	8.1	40.5	5.4
	就労していない	56	14.3	12.5	0.0	1.8	***23.2***	10.7	3.6	42.9	10.7

介助者の就労状況別にみると、“パート・アルバイト等で就労”では、「通所先の送迎車やヘルパー等の支援により帰宅するが、家族または支援者が不在だと自宅で過ごすのは難しい」が２割半ばを超えて最も高く、それ以外の介助者の就労状況では「余暇活動をしたいが、何をしたいか分からない」が最も高くなっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	通所先の送迎車やヘルパー等の支援により帰宅するが、家族または支援者が不在だと自宅で過ごすのは難しい	一人で帰宅するが、自宅で一人で過ごすのは難しい	地域活動支援センター、日中短期入所等の支援施設で過ごすが、希望する日数利用できない	地域活動支援センター、日中短期入所等の支援施設で過ごすことを希望するが、移動手段がない	余暇活動をしたいが、何をしたいか分からない	余暇活動をしたいが、ヘルパー等の支援者が確保できず利用できない	その他	特にない	無回答
	全体	221	10.9	7.2	1.8	2.7	***15.4***	8.6	5.4	52.9	11.8
年代別	18歳以上40歳未満	111	***18.0***	9.0	3.6	5.4	16.2	15.3	7.2	44.1	6.3
	40歳以上65歳未満	86	4.7	7.0	0.0	0.0	***18.6***	1.2	4.7	62.8	11.6
	65歳以上75歳未満	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0
	75歳以上	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***8.3***	0.0	66.7	25.0
障害別	肢体不自由	25	***16.0***	0.0	4.0	12.0	***16.0***	***16.0***	8.0	48.0	16.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	12	***33.3***	16.7	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	41.7	8.3
	視覚障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	***16.7***	***16.7***	0.0	33.3	33.3
	聴覚・平衡機能障害	6	0.0	***50.0***	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	50.0	0.0
	内部障害	5	0.0	***20.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0
	知的障害	128	***18.0***	7.0	3.1	3.9	14.1	14.1	5.5	48.4	8.6
	発達障害	49	14.3	18.4	4.1	4.1	***22.4***	***22.4***	10.2	30.6	8.2
	精神障害	74	4.1	2.7	0.0	1.4	***21.6***	2.7	6.8	54.1	16.2
	高次脳機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	***25.0***	0.0	0.0	50.0	25.0
	難病（特定疾病）	7	***28.6***	0.0	14.3	***28.6***	0.0	14.3	0.0	71.4	0.0
	問12に該当する方	119	12.6	9.2	3.4	3.4	***19.3***	9.2	5.0	47.9	10.9
	その他	6	0.0	***33.3***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7

年代別にみると、“18 歳以上～40 歳未満”では「通所先の送迎車やヘルパー等の支援により帰宅するが、家族または支援者が不在だと自宅で過ごすのは難しい」が、“40 歳以上～65 歳未満”では「余暇活動をしたいが、何をしたいか分からない」が１割半ばを超えて最も高くなっています。

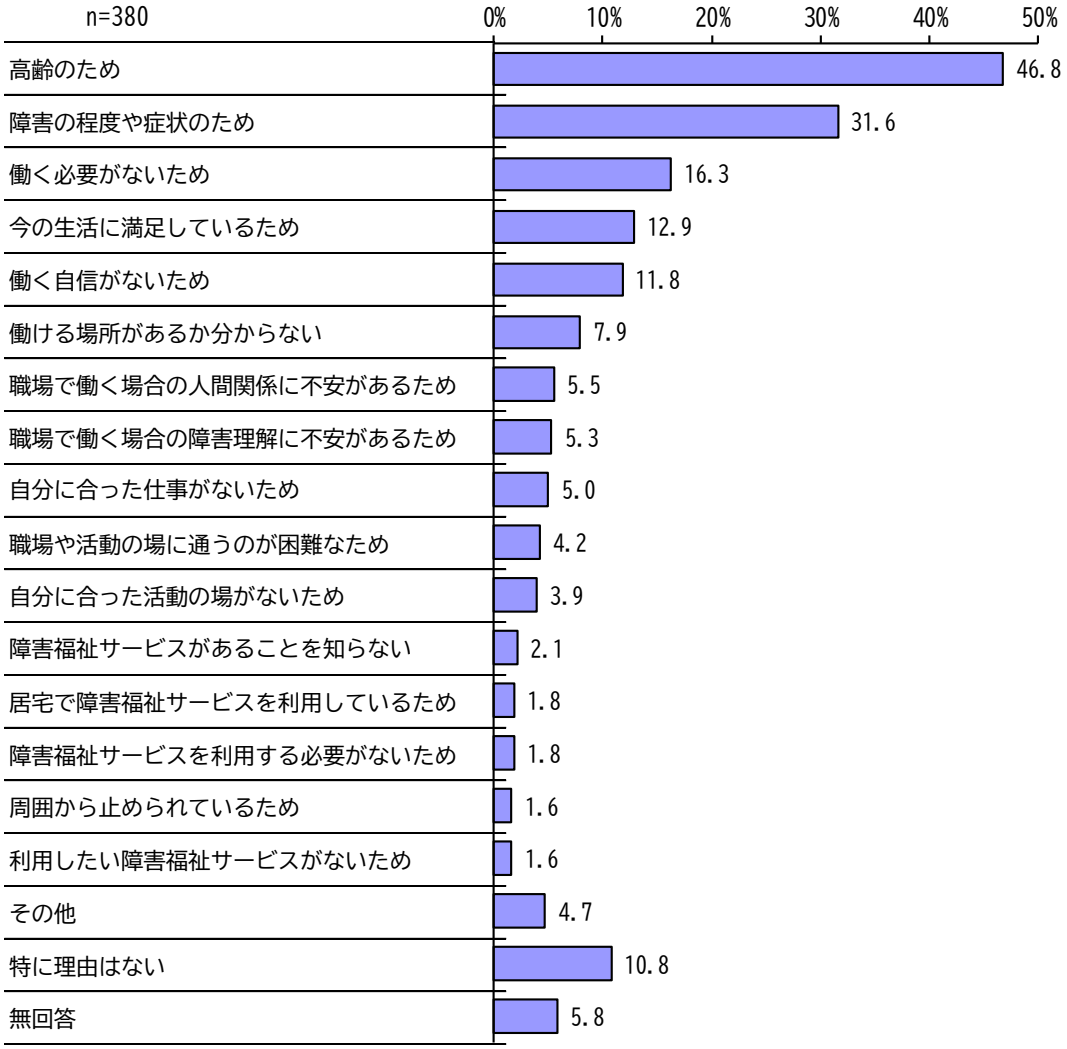
また、“75 歳以上”では「余暇活動をしたいが、ヘルパー等の支援者が確保できず利用できない」が最も高くなっています。

障害別にみると、回答者数が 10 以上の障害で「特にない」を除くと、“音声・言語・そしゃく機能障害”では「通所先の送迎車やヘルパー等の支援により帰宅するが、家族または支援者が不在だと自宅で過ごすのは難しい」が３割を超えて他の障害より高くなっています。

また、“発達障害”では「余暇活動をしたいが、何をしたいか分からない」と「余暇活動をしたいが、ヘルパー等の支援者が確保できず利用できない」、“精神障害”では「余暇活動をしたいが、何をしたいか分からない」が２割を超えて高くなっています。

（８）就労や通所などをしていない理由

問 28 で「特に決まった予定はない」と回答された方にお聞きします。
問 28-7　あなたが就労や通所などをしていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



平日の日中に就労や通所などをしていない理由は、「高齢のため」が 46.8%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「障害の程度や症状のため」が 31.6%、「働く必要がないため」が 16.3%と続いています。

一方、「特に理由はない」は 10.8%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	障害の程度や症状のため	高齢のため	職場で働く場合の人間関係に不安があるため	職場で働く場合の障害理解に不安があるため	職場や活動の場に通うのが困難なため	周囲から止められているため	自分に合った仕事がないため	自分に合った活動の場がないため	働く自信がないため	働く必要がないため
全体		380	31.6	***46.8***	5.5	5.3	4.2	1.6	5.0	3.9	11.8	16.3
年代別	18歳以上40歳未満	25	***68.0***	0.0	20.0	20.0	20.0	12.0	16.0	16.0	56.0	8.0
	40歳以上65歳未満	72	***55.6***	8.3	22.2	19.4	9.7	4.2	9.7	8.3	27.8	9.7
	65歳以上75歳未満	75	28.0	***33.3***	0.0	0.0	1.3	0.0	5.3	2.7	8.0	20.0
	75歳以上	204	20.1	***71.6***	0.0	0.5	1.5	0.0	1.5	1.0	2.5	18.6
障害別	肢体不自由	74	48.6	***50.0***	0.0	1.4	2.7	0.0	4.1	1.4	2.7	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	28	42.9	***57.1***	0.0	3.6	3.6	0.0	7.1	3.6	7.1	14.3
	視覚障害	43	32.6	***53.5***	0.0	2.3	0.0	0.0	4.7	4.7	7.0	11.6
	聴覚・平衡機能障害	38	18.4	***60.5***	0.0	2.6	2.6	0.0	10.5	5.3	7.9	13.2
	内部障害	71	18.3	***52.1***	0.0	0.0	1.4	0.0	1.4	0.0	2.8	25.4
	知的障害	12	***58.3***	25.0	0.0	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0
	発達障害	19	***63.2***	5.3	26.3	21.1	15.8	5.3	15.8	10.5	36.8	5.3
	精神障害	73	***52.1***	19.2	24.7	20.5	12.3	6.8	8.2	13.7	35.6	11.0
	高次脳機能障害	7	***85.7***	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3
	難病（特定疾病）	111	29.7	***51.4***	0.0	0.0	1.8	0.0	4.5	1.8	6.3	22.5
	その他	12	***41.7***	33.3	0.0	8.3	8.3	8.3	16.7	8.3	33.3	16.7

（単位:%）		n	働ける場所があるか分からない	居宅で障害福祉サービスを利用しているため	利用したい障害福祉サービスがないため	障害福祉サービスを利用する必要がないため	障害福祉サービスがあることを知らない	今の生活に満足しているため	その他	特に理由はない	無回答
全体		380	7.9	1.8	1.6	1.8	2.1	12.9	4.7	10.8	5.8
年代別	18歳以上40歳未満	25	24.0	0.0	8.0	0.0	8.0	12.0	12.0	0.0	4.0
	40歳以上65歳未満	72	22.2	1.4	2.8	2.8	4.2	12.5	5.6	6.9	4.2
	65歳以上75歳未満	75	4.0	4.0	0.0	1.3	2.7	13.3	1.3	22.7	4.0
	75歳以上	204	2.0	1.5	1.0	2.0	0.5	13.2	4.4	9.3	7.4
障害別	肢体不自由	74	1.4	2.7	0.0	1.4	1.4	4.1	2.7	6.8	6.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	28	7.1	7.1	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	0.0	3.6
	視覚障害	43	4.7	0.0	0.0	4.7	4.7	7.0	0.0	14.0	9.3
	聴覚・平衡機能障害	38	15.8	0.0	5.3	0.0	5.3	13.2	7.9	5.3	10.5
	内部障害	71	4.2	1.4	0.0	1.4	0.0	15.5	2.8	18.3	7.0
	知的障害	12	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3
	発達障害	19	26.3	0.0	5.3	0.0	5.3	10.5	15.8	0.0	5.3
	精神障害	73	19.2	2.7	4.1	1.4	4.1	9.6	5.5	1.4	4.1
	高次脳機能障害	7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3
	難病（特定疾病）	111	7.2	0.9	0.9	1.8	0.9	18.0	6.3	12.6	2.7
	その他	12	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	16.7

年代別にみると、“18 歳以上～40 歳未満”と“40 歳以上～65 歳未満”では、「障害の程度や症状のため」が５割半ばを超えて最も高くなっています。

“65 歳以上～75 歳未満”と“75 歳以上”では「高齢のため」が最も高く、特に“75 歳以上”では７割を超えています。

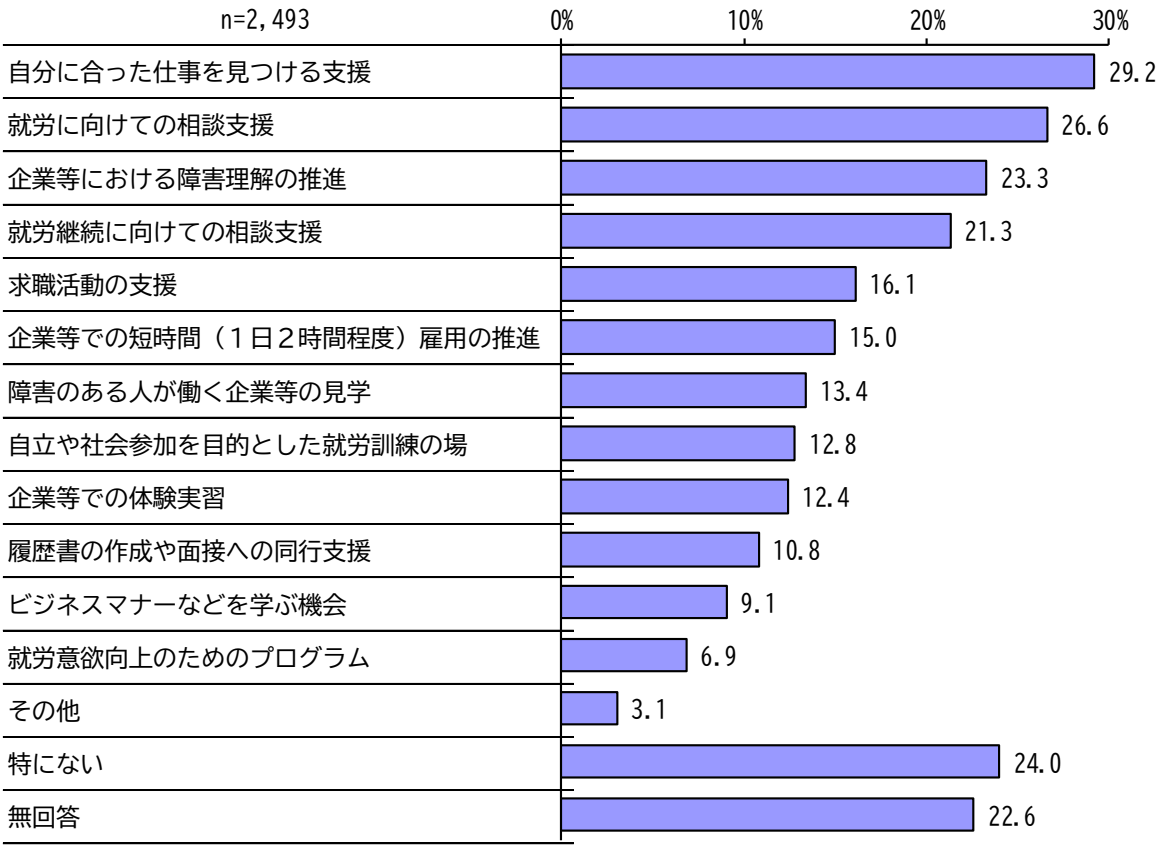
障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”、“その他”では「障害の程度や症状のため」が最も高く、“肢体不自由”や“音声・言語・そしゃく機能障害”も４割を超えて高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「高齢のため」が最も高くなっています。

また、“発達障害”と“精神障害”では、「職場で働く場合の人間関係に不安があるため」、「職場で働く場合の障害理解に不安があるため」、「働く自信がないため」も２割を超えて、他の障害より高くなっています。

（９）就労のために希望する支援

問 29　障害者が一般就労するため希望する支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



一般就労のために希望する支援は、「自分に合った仕事を見つける支援」が 29.2%と３割近くで最も高く、次いで「就労に向けての相談支援」が 26.6%、「企業等における障害理解の推進」が 23.3%、「就労継続に向けての相談支援」が 21.3%と２割を超えて続いています。

一方、「特にない」は 24.0%と２割を超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	就労に向けての相談支援	就労継続に向けての相談支援	障害のある人が働く企業等の見学	企業等での体験実習	自立や社会参加を目的とした就労訓練の場	就労意欲向上のためのプログラム	求職活動の支援	自分に合った仕事を見つける支援
全体		2,493	26.6	21.3	13.4	12.4	12.8	6.9	16.1	***29.2***
年代別	18歳以上40歳未満	538	39.0	36.8	26.0	23.0	19.1	10.6	22.9	***41.3***
	40歳以上65歳未満	956	31.5	25.9	14.7	13.1	13.9	8.6	20.1	***33.2***
	65歳以上75歳未満	336	20.8	11.0	8.3	7.7	11.6	4.5	13.1	***27.1***
	75歳以上	633	11.5	6.6	3.0	4.4	6.3	3.0	5.8	***14.1***
障害別	肢体不自由	320	***18.1***	10.9	7.8	6.9	6.9	2.8	9.1	16.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***28.7***	18.4	9.2	6.9	14.9	10.3	6.9	25.3
	視覚障害	163	***20.9***	11.7	8.0	7.4	9.8	6.1	14.1	20.2
	聴覚・平衡機能障害	153	18.3	18.3	7.8	6.5	11.8	3.3	10.5	***20.9***
	内部障害	324	20.7	12.0	7.4	6.2	8.3	2.8	15.1	***23.1***
	知的障害	256	30.1	26.6	16.8	20.7	19.5	9.4	14.1	***39.8***
	発達障害	263	43.7	42.6	33.5	28.9	24.7	14.4	26.6	***48.7***
	精神障害	626	39.6	36.4	24.6	21.2	19.3	11.8	26.4	***40.1***
	高次脳機能障害	40	***30.0***	22.5	20.0	12.5	20.0	5.0	7.5	***30.0***
	難病（特定疾病）	817	20.8	15.3	6.5	6.7	8.6	4.5	12.5	***23.1***
	その他	42	***33.3***	23.8	9.5	9.5	11.9	11.9	21.4	23.8

（単位:%）		n	ビジネスマナーなどを学ぶ機会	履歴書の作成や面接への同行支援	企業等での短時間（1日2時間程度）雇用の推進	企業等における障害理解の推進	その他	特にない	無回答
全体		2,493	9.1	10.8	15.0	23.3	3.1	24.0	22.6
年代別	18歳以上40歳未満	538	19.0	21.4	21.9	36.2	5.0	13.2	11.0
	40歳以上65歳未満	956	10.5	12.6	18.1	27.5	3.7	22.6	14.1
	65歳以上75歳未満	336	3.3	5.7	11.6	17.3	0.3	30.1	25.0
	75歳以上	633	1.7	2.1	5.7	8.8	2.1	32.9	43.1
障害別	肢体不自由	320	3.1	5.0	6.9	16.3	2.8	30.6	32.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	9.2	8.0	4.6	17.2	4.6	28.7	21.8
	視覚障害	163	8.0	9.8	10.4	19.6	1.8	32.5	27.0
	聴覚・平衡機能障害	153	5.2	5.9	9.2	***20.9***	2.6	25.5	34.0
	内部障害	324	1.9	4.0	9.6	17.0	2.8	31.8	25.6
	知的障害	256	15.2	15.6	15.6	27.3	3.5	16.4	18.0
	発達障害	263	23.6	27.8	25.5	41.4	5.3	12.2	10.6
	精神障害	626	16.1	22.0	24.8	34.3	4.2	14.4	13.6
	高次脳機能障害	40	5.0	5.0	5.0	25.0	2.5	15.0	25.0
	難病（特定疾病）	817	5.3	4.8	13.6	19.5	2.9	28.2	25.1
	その他	42	9.5	9.5	19.0	23.8	4.8	31.0	14.3

年代別にみると、いずれの年代でも、「自分に合った仕事を見つける支援」が最も高くなっています。

“18 歳以上 40 歳未満”では、「就労に向けての相談支援」、「就労継続に向けての相談支援」、「企業等における障害理解の推進」が３割を超えて、他の年代より高くなっています。

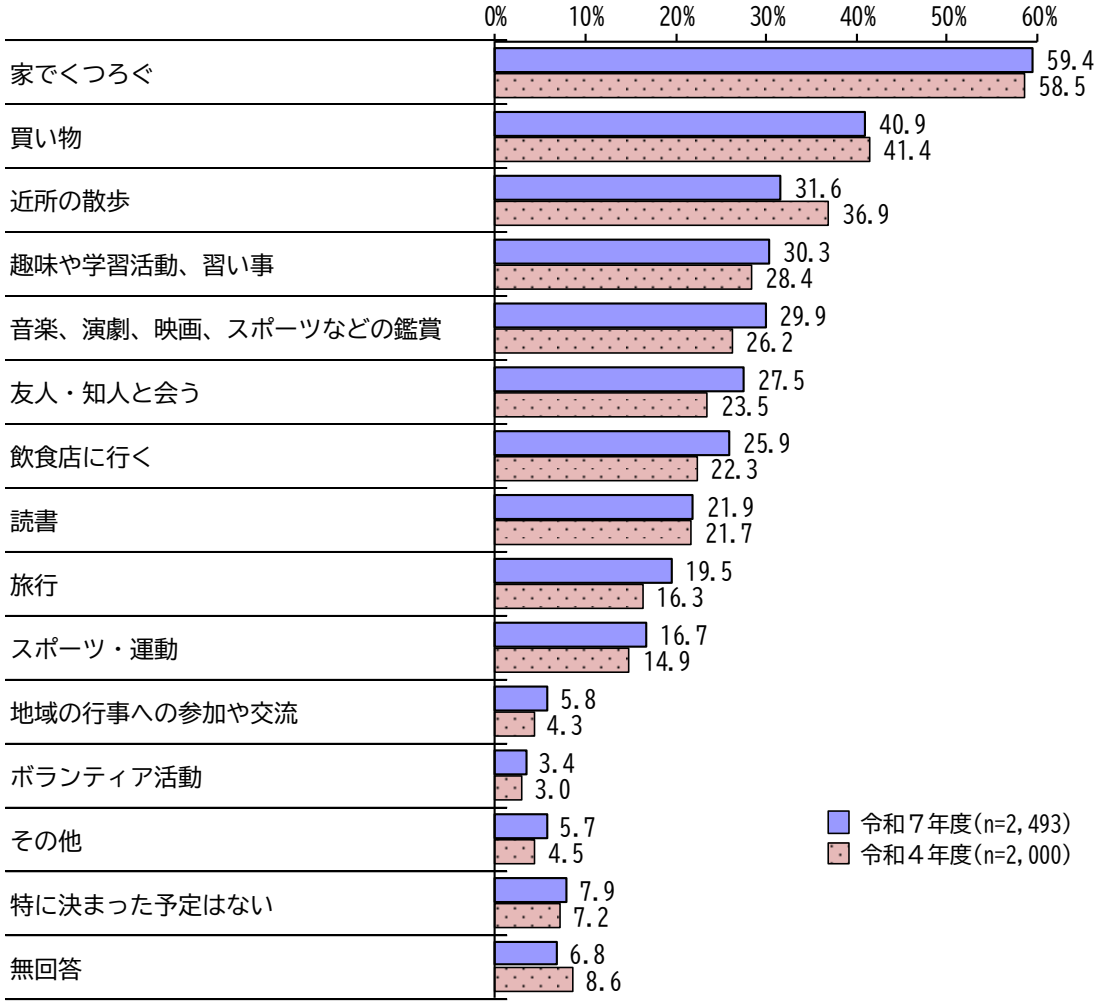
障害別にみると、いずれの障害でも「就労に向けての相談支援」か「自分に合った仕事を見つける支援」が最も高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では「企業等における障害理解の推進」も最も高くなっています。

また、“発達障害”では「就労に向けての相談支援」、「就労継続に向けての相談支援」、「自分に合った仕事を見つける支援」、「企業等における障害理解の推進」で４割を超えて、他の障害より高くなっています。

（10）休日の過ごし方

問 30　あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）



休日の過ごし方は、「家でくつろぐ」が 59.4%と約６割で最も高く、次いで「買い物」が 40.9%、「近所の散歩」が 31.6%、「趣味や学習活動、習い事」が 30.3%と３割を超えて続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は 7.9%となっています。

令和４年度と比較すると、全体的な傾向にあまり変化ありませんが、「近所の散歩」が 5.3 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	趣味や学習活動、習い事	スポーツ・運動	ボランティア活動	友人・知人と会う	音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞	買い物	飲食店に行く	読書
全体		2,493	30.3	16.7	3.4	27.5	29.9	40.9	25.9	21.9
障害別	肢体不自由	320	18.4	6.9	2.8	23.4	24.1	32.8	20.0	18.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	19.5	8.0	0.0	18.4	20.7	26.4	20.7	14.9
	視覚障害	163	30.7	16.0	9.2	25.2	29.4	28.2	22.7	11.7
	聴覚・平衡機能障害	153	25.5	15.7	7.2	24.8	26.8	37.9	22.9	27.5
	内部障害	324	29.9	17.0	3.1	29.6	32.7	41.7	27.2	29.6
	知的障害	256	27.7	15.6	2.3	10.9	27.3	41.8	23.8	4.3
	発達障害	263	44.5	16.7	1.9	26.2	37.6	42.6	28.1	23.2
	精神障害	626	30.5	12.1	2.4	26.2	32.1	41.2	26.4	25.4
	高次脳機能障害	40	12.5	2.5	2.5	22.5	27.5	30.0	22.5	10.0
	難病（特定疾病）	817	33.2	20.9	3.4	34.9	29.1	43.2	29.6	22.0
	問12に該当する方	658	28.6	12.9	2.1	21.4	26.6	34.8	23.1	17.8
	その他	42	16.7	14.3	2.4	11.9	14.3	38.1	16.7	9.5

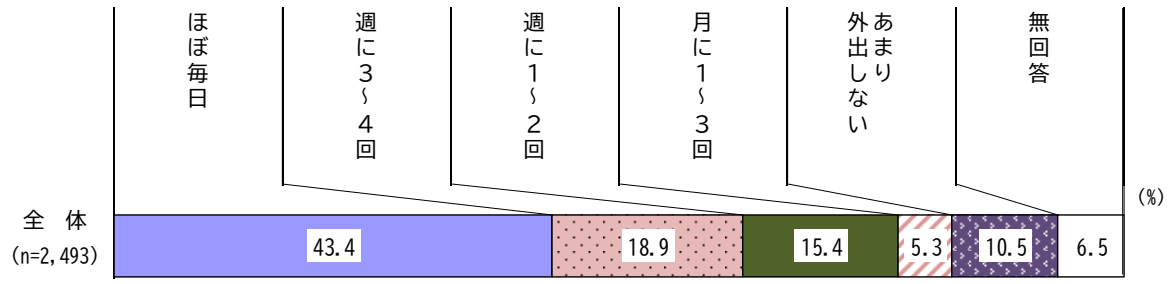
（単位:%）		n	旅行	家でくつろぐ	地域の行事への参加や交流	近所の散歩	その他	特に決まった予定はない	無回答
全体		2,493	19.5	***59.4***	5.8	31.6	5.7	7.9	6.8
障害別	肢体不自由	320	14.4	***52.2***	5.6	22.2	4.7	13.1	11.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	20.7	***52.9***	4.6	26.4	5.7	13.8	11.5
	視覚障害	163	16.6	***52.8***	4.3	29.4	5.5	12.3	7.4
	聴覚・平衡機能障害	153	24.8	***51.0***	9.8	27.5	4.6	7.8	9.2
	内部障害	324	23.8	***60.2***	8.3	36.7	5.6	7.4	4.9
	知的障害	256	16.8	***65.6***	9.0	36.3	7.4	4.7	4.3
	発達障害	263	21.7	***62.4***	4.9	27.8	13.3	5.7	2.7
	精神障害	626	13.3	***63.3***	4.0	32.7	6.4	8.5	4.2
	高次脳機能障害	40	17.5	***65.0***	10.0	30.0	5.0	5.0	12.5
	難病（特定疾病）	817	23.3	***59.6***	5.1	30.7	6.2	7.6	6.6
	問12に該当する方	658	12.9	***58.8***	5.9	30.4	9.7	8.2	7.9
	その他	42	4.8	***64.3***	7.1	35.7	9.5	11.9	7.1

障害別にみると、いずれの障害も「家でくつろぐ」が５割を超えて最も高くなっています。

また、“その他”以外のいずれの障害でも、「音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞」、「買い物」、「飲食店に行く」、「近所の散歩」が２割を超えて高くなっています。

（11）外出の頻度

問 31　あなたはどのくらいの頻度で外出していますか。（○はひとつ）



外出の頻度は、「ほぼ毎日」が 43.4%と４割を超えて最も高く、次いで「週に３～４回」が 18.9%、「週に１～２回」が 15.4%、「あまり外出しない」が 10.5%と続いています。

【クロス集計】障害別

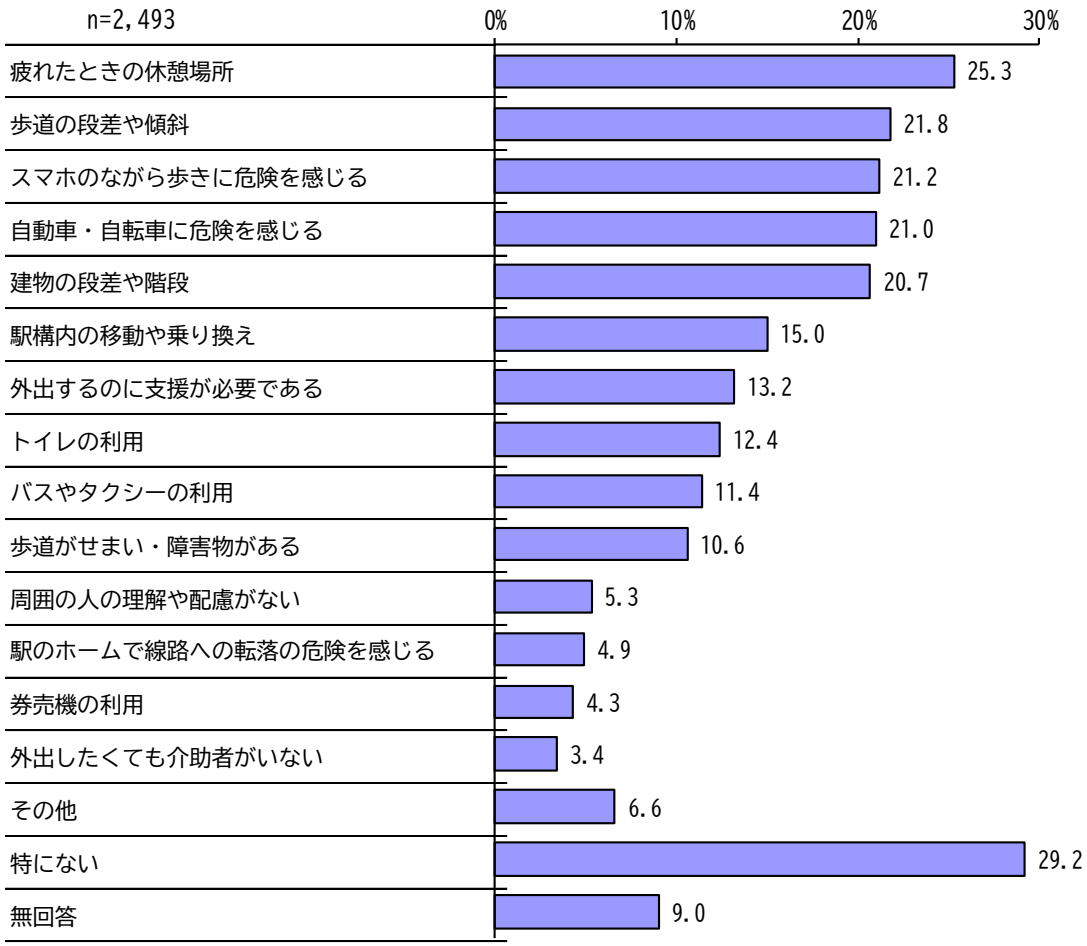
（単位:%）		n	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～3回	あまり外出しない	無回答
全体		2,493	***43.4***	18.9	15.4	5.3	10.5	6.5
障害別	肢体不自由	320	***25.0***	20.9	16.3	7.2	20.6	10.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***25.3***	14.9	21.8	6.9	20.7	10.3
	視覚障害	163	***33.7***	24.5	14.1	9.2	11.0	7.4
	聴覚・平衡機能障害	153	***33.3***	17.6	21.6	5.9	12.4	9.2
	内部障害	324	***43.5***	20.1	14.8	4.6	11.7	5.2
	知的障害	256	***48.0***	9.0	19.9	7.4	10.2	5.5
	発達障害	263	***48.3***	17.1	17.5	4.2	9.5	3.4
	精神障害	626	***45.0***	20.3	14.2	5.8	10.4	4.3
	高次脳機能障害	40	***37.5***	12.5	7.5	15.0	17.5	10.0
	難病（特定疾病）	817	***49.3***	17.0	14.2	3.9	9.3	6.2
	問12に該当する方	658	***39.5***	15.5	16.3	8.1	13.1	7.6
	その他	42	***40.5***	19.0	7.1	7.1	21.4	4.8

障害別にみると、いずれの障害でも「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“その他”では、「あまり外出しない」が２割を超えて、他の障害より高くなっています。

（12）外出時に困ること

問 32　あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。（あてはまるものすべてに○）



外出時に困ることは、「疲れたときの休憩場所」が 25.3%と２割半ばに達し最も高く、次いで「歩道の段差や傾斜」が21.8%、「スマホのながら歩きに危険を感じる」が21.2%、「自動車・自転車に危険を感じる」が 21.0%、「建物の段差や階段」が 20.7%と２割を超えて続いています。

一方、「特にない」は 29.2%と３割近くを占めています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	歩道の段差や傾斜	建物の段差や階段	バスやタクシーの利用	駅構内の移動や乗り換え	券売機の利用	トイレの利用	歩道がせまい・障害物がある	疲れたときの休憩場所	自動車・自転車に危険を感じる
全体		2,493	21.8	20.7	11.4	15.0	4.3	12.4	10.6	***25.3***	21.0
障害別	肢体不自由	320	***50.0***	46.3	21.9	25.6	6.3	22.5	25.0	28.8	29.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***39.1***	32.2	26.4	23.0	11.5	25.3	20.7	16.1	24.1
	視覚障害	163	***57.1***	54.0	22.7	38.0	23.3	19.6	34.4	22.7	50.9
	聴覚・平衡機能障害	153	28.1	27.5	7.8	14.4	6.5	10.5	9.8	25.5	***31.4***
	内部障害	324	26.5	25.3	11.7	14.2	1.9	15.7	8.6	***30.9***	19.1
	知的障害	256	13.3	11.7	18.4	23.0	11.7	13.7	9.8	16.8	19.1
	発達障害	263	6.5	5.7	11.0	13.3	4.2	7.6	6.8	***29.3***	19.0
	精神障害	626	11.0	10.5	10.2	12.1	2.6	8.0	8.0	***30.2***	16.9
	高次脳機能障害	40	35.0	***37.5***	17.5	27.5	5.0	22.5	25.0	20.0	32.5
	難病（特定疾病）	817	22.0	21.3	8.8	12.0	1.6	15.3	9.7	***24.7***	19.8
	問12に該当する方	658	16.4	15.0	14.7	16.7	5.3	13.7	9.9	***33.1***	21.1
	その他	42	26.2	19.0	11.9	11.9	4.8	9.5	9.5	***33.3***	23.8

（単位:%）		n	スマホのながら歩きに危険を感じる	駅のホームで線路への転落の危険を感じる	外出するのに支援が必要である	外出したくても介助者がいない	周囲の人の理解や配慮がない	その他	特にない	無回答
全体		2,493	21.2	4.9	13.2	3.4	5.3	6.6	29.2	9.0
障害別	肢体不自由	320	32.5	8.4	24.1	7.8	5.6	5.9	10.3	10.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	19.5	9.2	33.3	5.7	6.9	9.2	12.6	10.3
	視覚障害	163	48.5	20.9	36.2	7.4	9.2	8.0	5.5	7.4
	聴覚・平衡機能障害	153	28.8	6.5	13.7	5.9	5.2	9.2	20.9	10.5
	内部障害	324	19.4	4.0	8.6	3.1	3.4	5.9	33.3	5.2
	知的障害	256	13.3	7.0	***37.1***	9.8	9.4	3.9	27.0	9.0
	発達障害	263	18.3	6.5	17.1	6.5	10.6	12.5	30.4	8.4
	精神障害	626	17.1	4.5	9.1	2.7	9.7	9.3	32.6	8.8
	高次脳機能障害	40	***37.5***	10.0	27.5	5.0	12.5	12.5	7.5	12.5
	難病（特定疾病）	817	20.6	3.1	9.2	2.8	2.1	5.4	32.7	7.7
	問12に該当する方	658	19.0	7.1	21.3	5.3	11.7	10.2	19.1	10.2
	その他	42	11.9	2.4	11.9	7.1	9.5	11.9	26.2	7.1

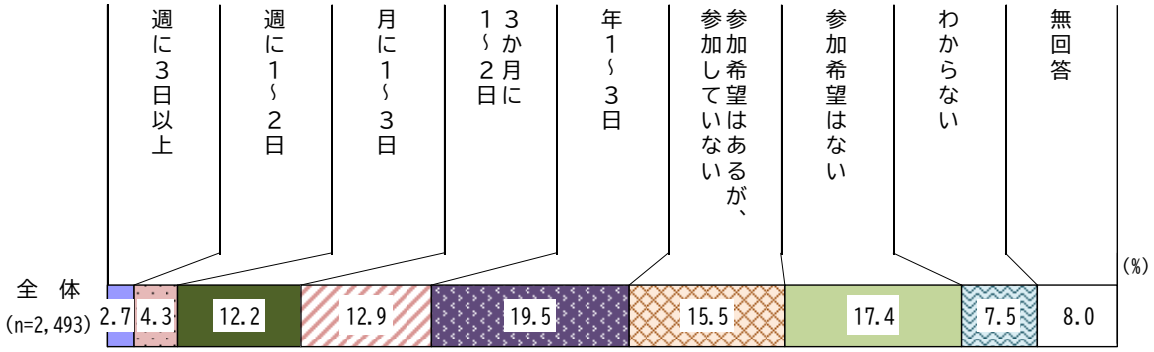
障害別にみると、“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“視覚障害”では「歩道の段差や傾斜」が最も高く、特に“肢体不自由”と“視覚障害”では５割以上となっています。

“聴覚・平衡機能障害”では「自動車・自転車に危険を感じる」が、“高次脳機能障害”では「建物の段差や階段」と「スマホのながら歩きに危険を感じる」が、“知的障害”では「外出するのに支援が必要である」が最も高く、それ以外の障害ではいずれも「疲れたときの休憩場所」が最も高くなっています。

また、“視覚障害”では、「歩道の段差や傾斜」、「建物の段差や階段」、「自動車・自転車に危険を感じる」「スマホのながら歩きに危険を感じる」が５割前後と、他の障害より高くなっています。

（13）文化芸術活動への参加頻度

問 33　あなたは過去１年間、どのくらいの頻度で文化芸術活動へ参加しましたか。（○はひとつ）



過去１年間での文化芸術活動への参加頻度は、「年１～３日」が 19.5%と２割近くで最も高く、次いで「参加希望はない」が 17.4%、「参加希望はあるが、参加していない」が 15.5%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	週に3日以上	週に1～2日	月に1～3日	3か月に1～2日	年1～3日	参加希望はあるが､参加していない	参加希望はない	わからない	無回答
全体		2,493	2.7	4.3	12.2	12.9	***19.5***	15.5	17.4	7.5	8.0
年代別	18歳以上40歳未満	538	4.5	5.6	15.6	18.8	***20.4***	10.4	11.9	9.3	3.5
	40歳以上65歳未満	956	2.9	4.4	11.5	14.5	***23.7***	13.2	16.9	8.2	4.6
	65歳以上75歳未満	336	2.7	5.1	14.0	10.4	18.8	***19.6***	15.2	6.0	8.3
	75歳以上	633	0.9	2.5	9.6	7.4	13.0	20.7	***24.2***	5.8	15.8
障害別	肢体不自由	320	0.6	1.9	11.3	8.1	16.3	***22.2***	21.6	6.9	11.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	1.1	2.3	10.3	10.3	11.5	19.5	***27.6***	4.6	12.6
	視覚障害	163	2.5	3.7	12.9	12.3	15.3	17.2	***22.1***	5.5	8.6
	聴覚・平衡機能障害	153	1.3	3.9	9.8	13.7	17.0	***19.6***	16.3	4.6	13.7
	内部障害	324	2.8	6.8	12.7	13.3	15.4	15.1	***21.9***	5.2	6.8
	知的障害	256	1.2	3.5	12.9	9.0	***23.0***	12.5	16.4	16.0	5.5
	発達障害	263	4.6	4.9	16.7	14.4	***21.3***	14.4	12.9	6.5	4.2
	精神障害	626	4.6	5.3	9.7	13.3	***19.0***	13.3	18.2	10.9	5.8
	高次脳機能障害	40	2.5	0.0	2.5	12.5	***25.0***	20.0	15.0	15.0	7.5
	難病（特定疾病）	817	2.2	3.2	14.2	15.1	***22.6***	15.5	15.1	4.7	7.5
	その他	42	2.4	9.5	9.5	0.0	11.9	***26.2***	***26.2***	9.5	4.8

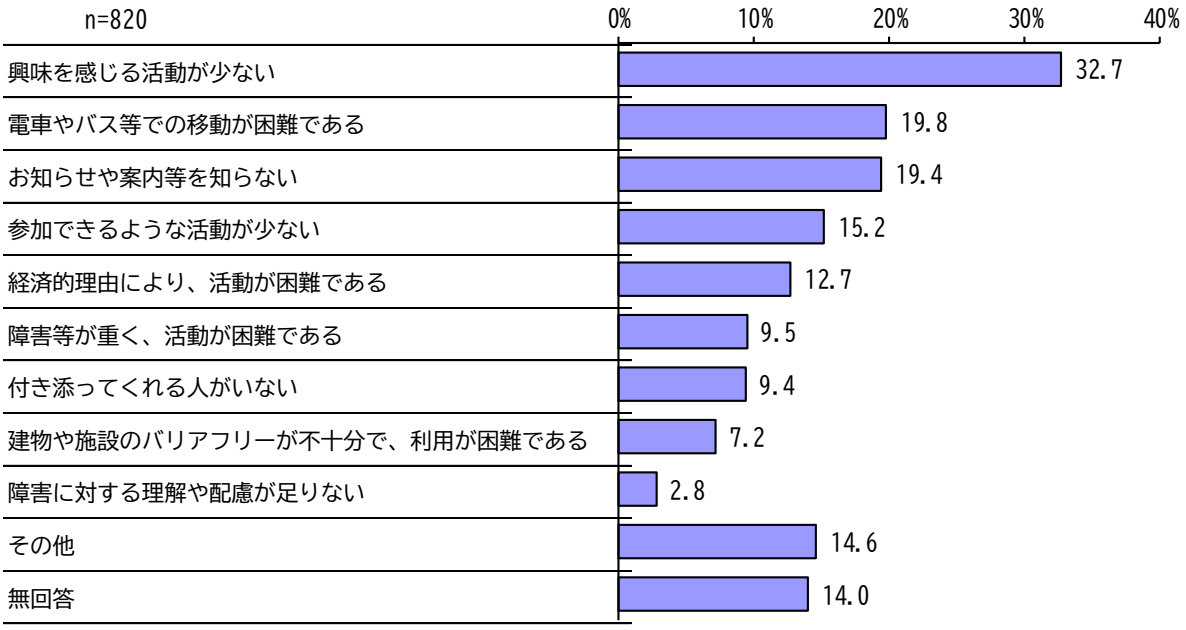
年代別にみると、“18 歳以上 40 歳未満”と“40 歳以上 65 歳未満”では「年１～３日」が２割を超えて最も高くなっています。

“65 歳以上 75 歳未満”では「参加希望はあるが、参加していない」が、“75 歳以上”では「参加希望はない」が最も高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「年１～３日」、「参加希望はあるが、参加していない」、「参加希望はない」が１割を超えており、特に“知的障害”、“発達障害”、“高次脳機能障害”、“難病（特定疾病）”では「年１～３日」が２割を超えています。

（12）文化芸術活動に参加しない理由

問 33 で「参加希望はあるが、参加していない」「参加希望はない」と回答された方にお聞きします。
問 33-1　その理由をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）



文化芸術活動に参加しない理由は、「興味を感じる活動が少ない」が 32.7%と３割を超えて最も高く、次いで「電車やバス等での移動が困難である」が 19.8%、「お知らせや案内等を知らない」が 19.4%、「参加できるような活動が少ない」が 15.2%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	興味を感じる活動が少ない	参加できるような活動が少ない	お知らせや案内等を知らない	付き添ってくれる人がいない	電車やバス等での移動が困難である	障害に対する理解や配慮が足りない
全体		820	***32.7***	15.2	19.4	9.4	19.8	2.8
年代別	18歳以上40歳未満	120	***50.8***	23.3	29.2	13.3	11.7	6.7
	40歳以上65歳未満	288	***38.5***	14.2	21.5	6.6	9.7	2.1
	65歳以上75歳未満	117	***27.4***	6.8	14.5	6.8	23.1	2.6
	75歳以上	284	21.1	16.5	14.8	11.6	***31.7***	2.1
障害別	肢体不自由	140	20.7	13.6	12.1	16.4	***32.1***	3.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	41	7.3	7.3	17.1	17.1	***29.3***	2.4
	視覚障害	64	17.2	14.1	21.9	14.1	***25.0***	7.8
	聴覚・平衡機能障害	55	***30.9***	10.9	18.2	18.2	20.0	0.0
	内部障害	120	***28.3***	9.2	16.7	5.0	25.0	0.8
	知的障害	74	***43.2***	23.0	21.6	20.3	14.9	6.8
	発達障害	72	***41.7***	27.8	29.2	15.3	13.9	2.8
	精神障害	197	***41.1***	17.3	24.4	9.1	12.7	4.1
	高次脳機能障害	14	***28.6***	14.3	0.0	7.1	21.4	0.0
	難病（特定疾病）	250	***28.0***	12.4	18.4	8.0	24.8	2.0
	その他	22	18.2	18.2	13.6	13.6	18.2	0.0

（単位:%）		n	障害等が重く、活動が困難である	建物や施設のバリアフリーが不十分で、利用が困難である	経済的理由により、活動が困難である	その他	無回答
全体		820	9.5	7.2	12.7	14.6	14.0
年代別	18歳以上40歳未満	120	8.3	3.3	15.0	10.8	7.5
	40歳以上65歳未満	288	7.3	3.8	14.9	15.6	13.2
	65歳以上75歳未満	117	10.3	11.1	15.4	16.2	14.5
	75歳以上	284	11.6	10.9	8.5	15.1	17.6
障害別	肢体不自由	140	22.1	18.6	6.4	10.7	15.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	41	22.0	24.4	19.5	26.8	19.5
	視覚障害	64	23.4	9.4	10.9	15.6	20.3
	聴覚・平衡機能障害	55	7.3	9.1	12.7	16.4	14.5
	内部障害	120	11.7	9.2	11.7	18.3	16.7
	知的障害	74	10.8	6.8	5.4	14.9	14.9
	発達障害	72	6.9	1.4	20.8	13.9	8.3
	精神障害	197	7.1	3.0	23.9	13.2	10.2
	高次脳機能障害	14	21.4	14.3	7.1	14.3	28.6
	難病（特定疾病）	250	10.0	8.0	10.0	14.0	12.0
	その他	22	***31.8***	13.6	13.6	22.7	9.1

年代別にみると、“75 歳以上”では「電車やバス等での移動が困難である」が３割を超えて最も高くなっています。それ以外の年代ではいずれも「興味を感じる活動が少ない」が最も高く、特に“18 歳以上 40 歳未満”では５割を超えています。

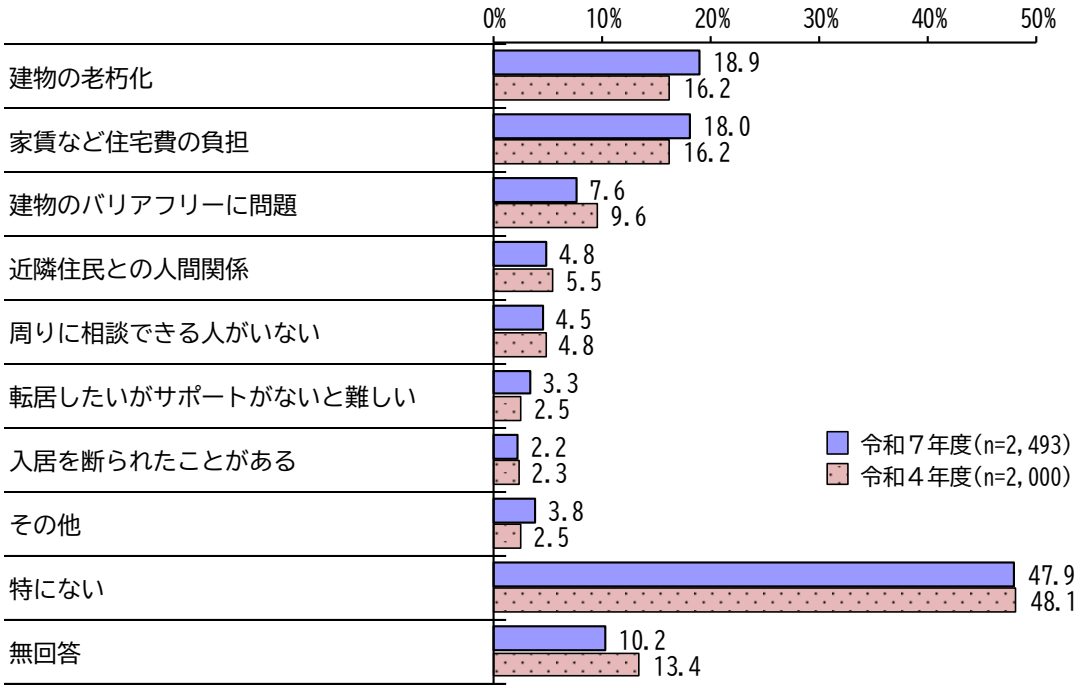
障害別にみると、“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“視覚障害”では、「電車やバス等での移動が困難である」が、“その他”では「障害等が重く、活動が困難である」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「興味を感じる活動が少ない」が最も高く、特に“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”では４割を超えています。

６　住まいについて

（１）住まいでの困りごと

問 34　あなたは、住まいに関してどのようなことで困っていますか。
（あてはまるものすべてに○）



住まいでの困りごとは、「建物の老朽化」が 18.9%、「家賃など住宅費の負担」が 18.0%と１割半ばを超えて高く、次いで「建物のバリアフリーに問題」が 7.6%と続いています。

一方、「特にない」は 47.9%と４割半ばを超えています。

令和４年度と比較すると、全体的な傾向にあまり変化はありませんが、「建物の老朽化」が 2.7 ポイント上がっており、「建物のバリアフリーに問題」が 2.0 ポイント下がっています。

【クロス集計】同居家族別・障害別

（単位:%）		n	建物のバリアフリーに問題	建物の老朽化	家賃など住宅費の負担	近隣住民との人間関係	転居したいがサポートがないと難しい
	全体	2,493	7.6	***18.9***	18.0	4.8	3.3
同居家族別	家族等と同居	1,664	8.3	***19.0***	13.5	4.5	2.1
	ひとり暮らし	680	6.2	20.6	***29.9***	5.9	6.5
	グループホーム等での集団生活	102	7.8	7.8	***8.8***	3.9	2.0
	その他	70	7.1	12.9	***17.1***	2.9	1.4
障害別	肢体不自由	320	***17.8***	16.9	11.6	2.5	1.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	16.1	***19.5***	12.6	3.4	1.1
	視覚障害	163	9.2	***19.6***	16.6	4.3	2.5
	聴覚・平衡機能障害	153	7.2	***24.2***	8.5	5.2	0.7
	内部障害	324	8.6	***18.5***	12.7	2.8	2.2
	知的障害	256	5.5	***12.1***	10.2	4.7	1.6
	発達障害	263	3.0	20.9	***31.6***	7.6	8.0
	精神障害	626	5.6	24.9	***30.2***	10.4	8.1
	高次脳機能障害	40	5.0	***22.5***	15.0	0.0	2.5
	難病（特定疾病）	817	7.8	***17.6***	15.5	2.4	1.5
	問12に該当する方	658	7.8	24.0	***24.6***	8.8	7.0
	その他	42	11.9	***23.8***	7.1	4.8	7.1

（単位:%）		n	周りに相談できる人がいない	入居を断られたことがある	その他	特にない	無回答
	全体	2,493	4.5	2.2	3.8	47.9	10.2
同居家族別	家族等と同居	1,664	3.4	0.8	3.1	51.4	10.2
	ひとり暮らし	680	7.8	5.3	5.4	40.0	7.8
	グループホーム等での集団生活	102	2.0	1.0	3.9	52.0	18.6
	その他	70	4.3	4.3	4.3	48.6	14.3
障害別	肢体不自由	320	3.4	1.9	3.4	45.0	15.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	3.4	2.3	1.1	54.0	6.9
	視覚障害	163	4.9	6.7	4.3	50.9	10.4
	聴覚・平衡機能障害	153	0.7	0.0	3.9	48.4	13.7
	内部障害	324	2.5	1.2	2.8	52.8	10.5
	知的障害	256	2.7	1.2	1.2	59.4	13.7
	発達障害	263	9.9	3.4	6.1	38.8	8.4
	精神障害	626	11.2	5.1	6.4	32.9	7.7
	高次脳機能障害	40	0.0	2.5	2.5	42.5	15.0
	難病（特定疾病）	817	1.5	0.6	2.8	53.4	8.9
	問12に該当する方	658	10.3	3.8	5.9	36.2	9.1
	その他	42	9.5	4.8	14.3	47.6	7.1

同居家族別にみると、“家族等と同居”では、「建物の老朽化」が 19.0%と最も高くなっています。

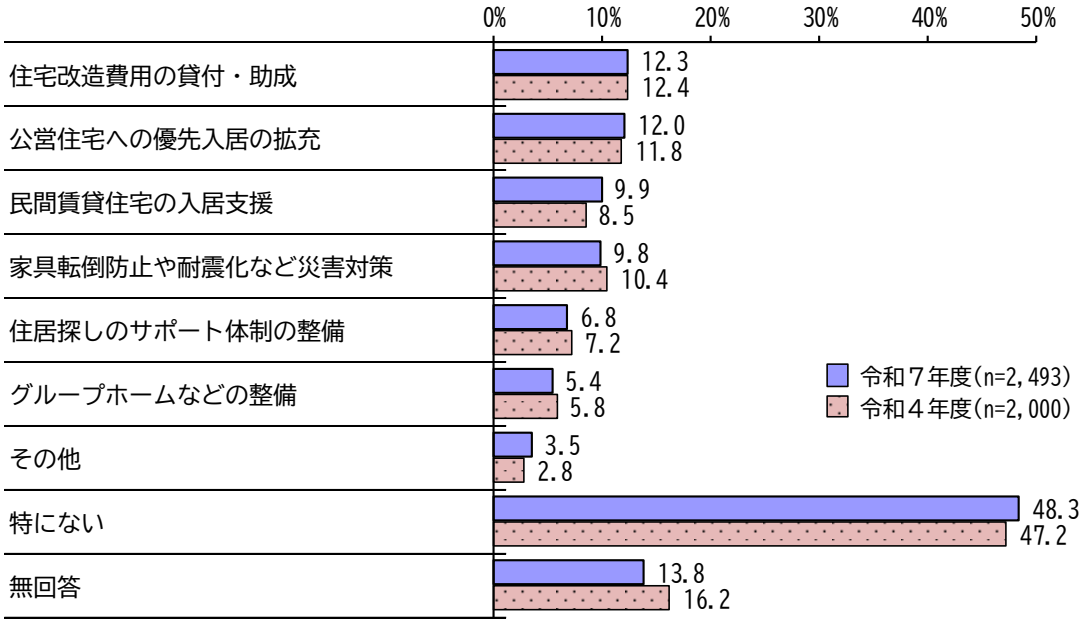
それ以外ではいずれも「家賃など住宅費の負担」が最も高く、特に“ひとり暮らし”は約３割となっています。

障害別にみると、“肢体不自由”では「建物のバリアフリーに問題」が最も高くなっています。“発達障害”、“精神障害”、“問 12 に該当する方”では、「家賃など住宅費の負担」が最も高く、特に“発達障害”と“精神障害”では３割を超えています。

それ以外の障害では「建物の老朽化」が最も高くなっています。

（２）住まいに必要な支援

問 35　あなたは、住まいに関してどのような支援を必要としていますか。
（あてはまるものすべてに○）



住まいに必要な支援は、「住宅改造費用の貸付・助成」が 12.3%と最も高く、「公営住宅への優先入居の拡充」が 12.0%、「民間賃貸住宅の入居支援」が 9.9%、「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が 9.8%と続いています。

一方、「特にない」は 48.3%と４割半ばを超えています。

令和４年度と比較すると、項目ごとに増減はありますが、全体的な傾向はあまり変化がありません。

【クロス集計】同居家族別・障害別

（単位:%）		n	住宅改造費用の貸付･助成	家具転倒防止や耐震化など災害対策	公営住宅への優先入居の拡充	民間賃貸住宅の入居支援	グループホームなどの整備
全体		2,493	***12.3***	9.8	12.0	9.9	5.4
同居家族別	家族等と同居	1,664	***14.7***	10.4	9.7	7.6	5.6
	ひとり暮らし	680	8.1	9.6	***18.2***	16.2	2.6
	グループホーム等での集団生活	102	2.0	0.0	6.9	6.9	***23.5***
	その他	70	***14.3***	8.6	8.6	2.9	0.0
障害別	肢体不自由	320	***15.3***	13.8	6.9	6.9	4.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***11.5***	5.7	10.3	8.0	6.9
	視覚障害	163	11.7	***14.1***	13.5	11.7	3.7
	聴覚・平衡機能障害	153	***11.8***	9.8	5.9	3.9	2.0
	内部障害	324	***14.2***	11.7	9.3	7.7	2.2
	知的障害	256	6.6	2.3	6.6	5.9	***27.7***
	発達障害	263	11.0	8.4	19.8	***22.1***	11.8
	精神障害	626	11.8	10.9	***23.5***	19.2	6.2
	高次脳機能障害	40	***15.0***	5.0	10.0	10.0	7.5
	難病（特定疾病）	817	***13.5***	8.8	7.5	6.0	2.0
	問12に該当する方	658	11.6	10.0	***19.9***	16.4	9.6
	その他	42	16.7	11.9	11.9	7.1	7.1

（単位:%）		n	住居探しのサポート体制の整備	その他	特にない	無回答
全体		2,493	6.8	3.5	48.3	13.8
同居家族別	家族等と同居	1,664	4.9	2.9	49.6	14.1
	ひとり暮らし	680	11.8	4.3	47.1	11.6
	グループホーム等での集団生活	102	5.9	4.9	44.1	18.6
	その他	70	2.9	5.7	50.0	18.6
障害別	肢体不自由	320	6.3	3.4	42.5	20.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	8.0	3.4	52.9	11.5
	視覚障害	163	9.8	2.5	47.2	16.0
	聴覚・平衡機能障害	153	3.3	2.6	52.3	20.9
	内部障害	324	4.3	0.9	52.5	12.7
	知的障害	256	7.8	4.7	42.6	14.8
	発達障害	263	15.6	7.2	36.5	11.0
	精神障害	626	12.1	5.9	38.0	11.0
	高次脳機能障害	40	2.5	5.0	45.0	17.5
	難病（特定疾病）	817	2.9	2.6	57.2	12.4
	問12に該当する方	658	11.7	6.8	35.3	13.1
	その他	42	***19.0***	2.4	50.0	9.5

同居家族別にみると、「特にない」を除くと、“家族等と同居”と“その他”では、「住宅改造費用の貸付・助成」が最も高くなっています。

“ひとり暮らし”では、「公営住宅への優先入居の拡充」が 18.2%と１割半ばを超えて最も高くなっています。

“グループホーム等での集団生活”では、「グループホームなどの整備」が 23.5%と２割を超えて最も高くなっています。

障害別にみると、“視覚障害”では、「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が最も高くなっています。

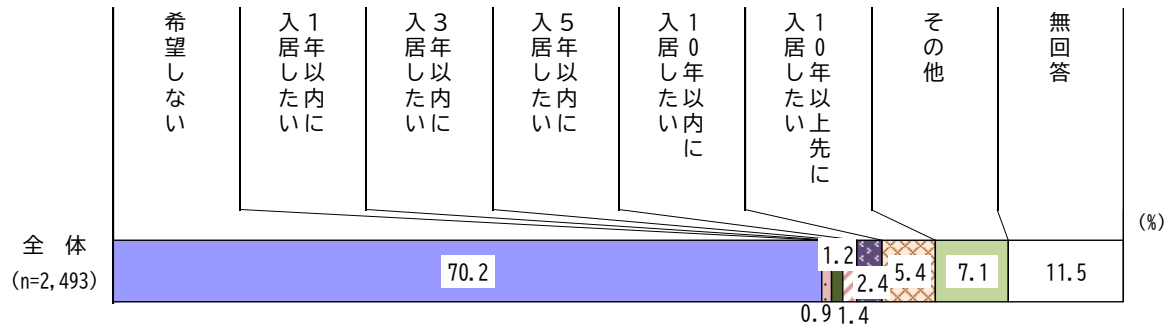
“知的障害”では「グループホームなどの整備」が、“発達障害”では「民間賃貸住宅の入居支援」が２割を超えて最も高くなっています。

“精神障害”と“問 12 に該当する方”では、「公営住宅への優先入居の拡充」が、“その他”では「住居探しのサポート体制の整備」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「住宅改造費用の貸付・助成」が最も高くなっています。

（3）グループホームへの入居希望

問 36　あなたは、グループホームへの入居を希望しますか。（○はひとつ）



グループホームへの入居希望は、「希望しない」が 70.2%と７割を占めて最も高く、次いで「10 年以上先に入居したい」が 5.4%、「10 年以内に入居したい」が 2.4%と続いています。

【クロス集計】年代別・同居家族別・障害別

（単位:%）		n	希望しない	1年以内に入居したい	3年以内に入居したい	5年以内に入居したい	10年以内に入居したい	10年以上先に入居したい	その他	無回答
	全体	2,493	***70.2***	0.9	1.2	1.4	2.4	5.4	7.1	11.5
年代別	18歳以上40歳未満	538	***65.4***	1.3	2.0	2.6	4.6	8.7	8.4	6.9
	40歳以上65歳未満	956	***75.2***	0.6	0.9	0.5	1.2	6.1	6.2	9.3
	65歳以上75歳未満	336	***75.0***	0.0	0.0	0.6	2.4	5.1	7.1	9.8
	75歳以上	633	***64.5***	1.4	1.4	2.4	2.2	1.9	7.3	19.0
同居家族別	家族等と同居	1,664	***70.3***	0.8	1.2	1.7	3.1	5.9	6.4	10.6
	ひとり暮らし	680	***76.5***	0.9	1.2	1.0	1.0	5.1	4.3	10.0
	その他	70	***72.9***	0.0	2.9	0.0	1.4	1.4	8.6	12.9
障害別	肢体不自由	320	***66.6***	0.3	1.6	0.9	1.9	4.4	8.4	15.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***66.7***	1.1	2.3	0.0	3.4	10.3	8.0	8.0
	視覚障害	163	***73.6***	1.2	1.2	0.6	2.5	1.8	4.3	14.7
	聴覚・平衡機能障害	153	***64.7***	1.3	0.7	1.3	2.0	4.6	8.5	17.0
	内部障害	324	***75.3***	0.9	0.6	1.5	2.8	4.9	3.7	10.2
	知的障害	256	***25.4***	2.0	4.7	4.7	11.3	15.2	22.3	14.5
	発達障害	263	***65.0***	2.3	2.3	2.3	4.9	8.7	6.1	8.4
	精神障害	626	***76.2***	1.1	1.3	1.0	1.8	4.5	7.2	7.0
	高次脳機能障害	40	***65.0***	2.5	2.5	0.0	0.0	2.5	12.5	15.0
	難病（特定疾病）	817	***77.0***	0.9	0.2	1.1	0.7	5.5	4.3	10.3
	問12に該当する方	658	***62.6***	1.2	1.8	2.0	3.2	7.4	11.4	10.3
	その他	42	***64.3***	2.4	0.0	2.4	4.8	0.0	19.0	7.1

年代別にみると、いずれの年代でも「希望しない」が最も高く、特に“40 歳以上 65 歳未満”と“65 歳以上 75 歳未満”で７割半ばを占めています。

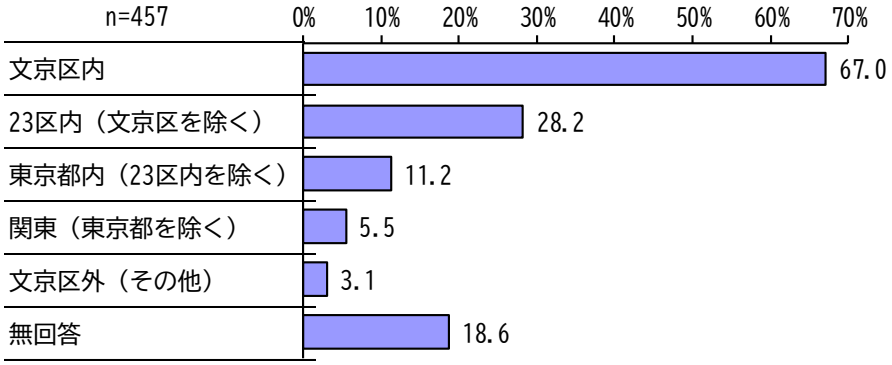
同居家族別にみると、“家族等と同居”、“ひとり暮らし”、“その他”では、「希望しない」が７割を超えて最も高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「希望しない」が最も高くなっています。

“知的障害”では、「10 年以内に入居したい」、「10 年以上先に入居したい」が１割を超えて、他の障害より高くなっています。

（４）希望するグループホームの所在地

問 36 で「1 希望しない」以外を回答された方にお聞きします。
問 36-1　希望するグループホームの所在地をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）



希望するグループホームの所在地は、「文京区内」が 67.0%と６割半ばを超えて最も高く、次いで「23 区内（文京区を除く）」が 28.2%、「東京都内（23 区内を除く）」が 11.2%、「関東（東京都を除く）」が 5.5%と続いています。

【クロス集計】年代別・同居家族別・障害別

（単位:%）		n	文京区内	23区内(文京区を除く)	東京都内(23区内を除く)	関東(東京都を除く)	文京区外(その他)	無回答
全体		457	***67.0***	28.2	11.2	5.5	3.1	18.6
年代別	18歳以上40歳未満	149	***73.2***	42.3	14.1	4.0	2.0	13.4
	40歳以上65歳未満	148	***62.2***	25.7	11.5	8.8	4.7	18.2
	65歳以上75歳未満	51	***74.5***	13.7	3.9	5.9	3.9	15.7
	75歳以上	105	***61.9***	19.0	10.5	2.9	1.9	26.7
同居家族別	家族等と同居	317	***70.7***	31.2	11.0	5.0	2.8	17.7
	ひとり暮らし	92	***67.4***	23.9	13.0	5.4	2.2	17.4
	グループホーム等での集団生活	55	***43.6***	16.4	5.5	5.5	5.5	30.9
	その他	10	***60.0***	20.0	20.0	20.0	10.0	10.0
障害別	肢体不自由	56	***62.5***	19.6	8.9	3.6	5.4	25.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	22	***72.7***	31.8	9.1	9.1	4.5	13.6
	視覚障害	19	***63.2***	15.8	15.8	5.3	0.0	15.8
	聴覚・平衡機能障害	28	***60.7***	17.9	7.1	0.0	3.6	28.6
	内部障害	47	***74.5***	27.7	19.1	4.3	2.1	12.8
	知的障害	154	***71.4***	29.9	9.1	3.9	2.6	17.5
	発達障害	70	***68.6***	45.7	18.6	4.3	0.0	18.6
	精神障害	105	***64.8***	34.3	16.2	5.7	5.7	18.1
	高次脳機能障害	8	***87.5***	25.0	12.5	0.0	0.0	12.5
	難病（特定疾病）	104	***62.5***	25.0	8.7	8.7	2.9	18.3
	問12に該当する方	178	***69.7***	30.3	14.0	4.5	2.8	18.0
	その他	12	***66.7***	33.3	16.7	0.0	8.3	8.3

年代別にみると、いずれの年代でも「文京区内」が６割を超えて最も高くなっています。
“18 歳以上 40 歳未満”では、「23 区内（文京区を除く）」が４割を超えて、他の年代より高くなっています。

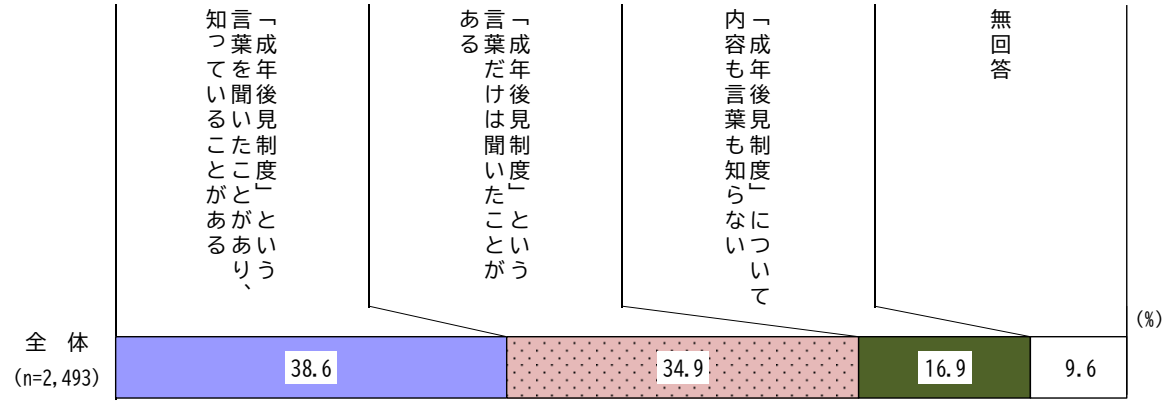
同居家族別にみると、いずれも“文京区内”が最も高く、特に“家族等と同居”では７割を超えています。

障害別にみると、いずれの障害でも「文京区内」が６割を超えて最も高くなっています。
“発達障害”では、「23 区内（文京区を除く）」が４割半ばを超えて、他の障害より高くなっています。

7　権利擁護・差別解消について

（1）成年後見制度の認知度

問 37　成年後見制度という言葉について聞いたことがありますか。（○はひとつ）



成年後見制度の認知度について、「「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」が38.6%、「「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある」が34.9%と３割半ば前後を占めており、二つ合わせた『「成年後見制度」という言葉を聞いたことがある』は７割を超えています。

一方、「「成年後見制度」について内容も言葉も知らない」は16.9%と１割半ばを超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

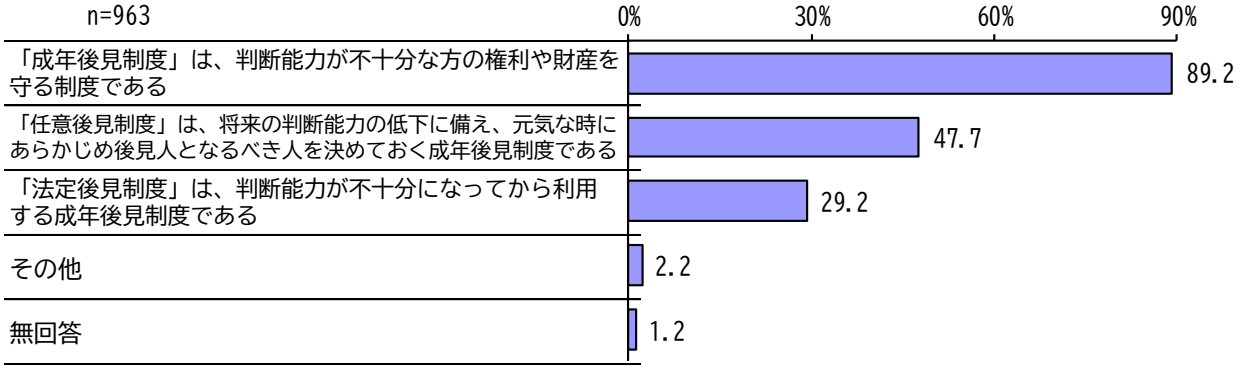
（単位:%）		n	「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある	「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある	「成年後見制度」について内容も言葉も知らない	無回答
全体		2,493	***38.6***	34.9	16.9	9.6
年代別	18歳以上40歳未満	538	29.9	***34.4***	29.4	6.3
	40歳以上65歳未満	956	***41.3***	36.1	16.0	6.6
	65歳以上75歳未満	336	***50.3***	33.9	8.0	7.7
	75歳以上	633	***36.2***	34.1	12.5	17.2
障害別	肢体不自由	320	***39.1***	30.6	14.7	15.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***44.8***	26.4	18.4	10.3
	視覚障害	163	***39.9***	35.0	16.0	9.2
	聴覚・平衡機能障害	153	32.7	***35.9***	17.0	14.4
	内部障害	324	***39.8***	35.8	15.7	8.6
	知的障害	256	32.4	23.0	***35.9***	8.6
	発達障害	263	***36.5***	30.4	25.9	7.2
	精神障害	626	33.7	***41.5***	18.2	6.5
	高次脳機能障害	40	35.0	***42.5***	15.0	7.5
	難病（特定疾病）	817	***45.8***	33.4	12.0	8.8
	その他	42	***35.7***	26.2	***35.7***	2.4

年代別にみると、“18 歳以上 40 歳未満”では、「「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある」が最も高く、それ以外の年代ではいずれも「「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」が最も高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」は３割を超えており、特に“音声・言語・そしゃく機能障害”、“難病（特定疾病）”では４割を超えています。

（２）成年後見制度について知っていること

問 37 で「「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。
問 37-1　成年後見制度について知っていることをお答えください。（あてはまるものすべてに○）



成年後見制度について知っていることは、「「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」が 89.2%と９割近くで最も高く、次いで「「任意後見制度」は、将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく成年後見制度である」が 47.7%、「「法定後見制度」は、判断能力が不十分になってから利用する成年後見制度である」が 29.2%と続いています。

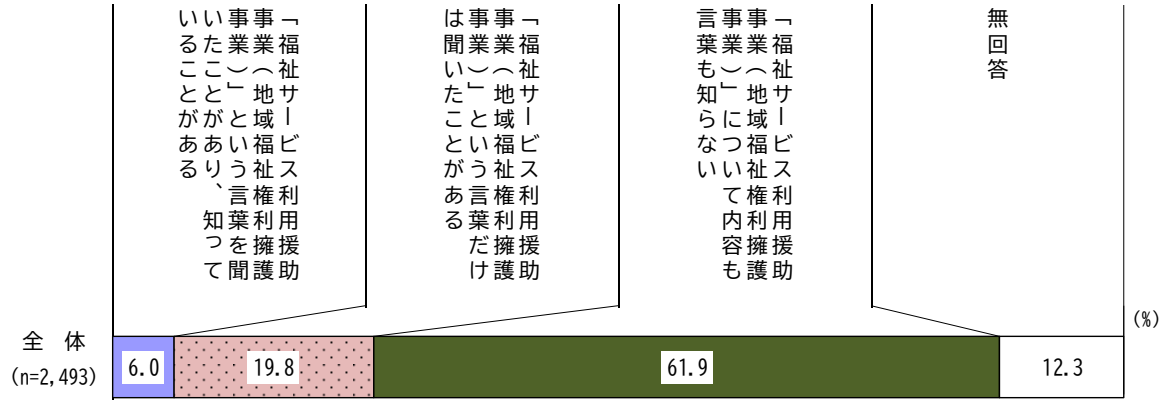
【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である	「法定後見制度」は、判断能力が不十分になってから利用する成年後見制度である	「任意後見制度」は、将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく成年後見制度である	その他	無回答
全体		963	***89.2***	29.2	47.7	2.2	1.2
障害別	肢体不自由	125	***81.6***	28.8	53.6	3.2	2.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	39	***84.6***	25.6	48.7	0.0	5.1
	視覚障害	65	***92.3***	35.4	50.8	3.1	1.5
	聴覚・平衡機能障害	50	***90.0***	36.0	48.0	2.0	0.0
	内部障害	129	***87.6***	36.4	54.3	1.6	0.8
	知的障害	83	***96.4***	21.7	42.2	1.2	0.0
	発達障害	96	***90.6***	30.2	43.8	3.1	0.0
	精神障害	211	***92.9***	28.0	44.1	1.4	0.5
	高次脳機能障害	14	***85.7***	21.4	42.9	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	374	***88.8***	29.7	49.5	1.9	1.9
	その他	15	***100.0***	6.7	20.0	6.7	0.0

障害別にみると、いずれの障害でも「「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」が８割を超えて最も高くなっています。

（３）福祉サービス利用援助事業の認知度

問38　福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）という言葉について聞いたことがありますか。（○はひとつ）



福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)の認知度について、「「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」が 6.0%、「「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけは聞いたことがある」が 19.8%となっており、この二つを合わせた『福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)という言葉を聞いたことがある』は２割半ばを超えています。

一方、「「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない」は 61.9%と６割を超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけは聞いたことがある	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない	無回答
全体		2,493	6.0	19.8	***61.9***	12.3
年代別	18歳以上40歳未満	538	4.5	16.9	***68.8***	9.9
	40歳以上65歳未満	956	5.3	21.1	***63.3***	10.3
	65歳以上75歳未満	336	6.8	21.7	***61.0***	10.4
	75歳以上	633	7.7	19.6	***55.0***	17.7
障害別	肢体不自由	320	6.6	19.4	***56.9***	17.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	9.2	16.1	***65.5***	9.2
	視覚障害	163	7.4	22.1	***60.7***	9.8
	聴覚・平衡機能障害	153	5.2	24.8	***52.3***	17.6
	内部障害	324	8.6	20.7	***59.3***	11.4
	知的障害	256	9.0	18.8	***62.1***	10.2
	発達障害	263	7.6	16.7	***64.6***	11.0
	精神障害	626	3.7	16.5	***68.5***	11.3
	高次脳機能障害	40	5.0	20.0	***65.0***	10.0
	難病（特定疾病）	817	5.6	20.0	***63.4***	11.0
	その他	42	2.4	28.6	***59.5***	9.5

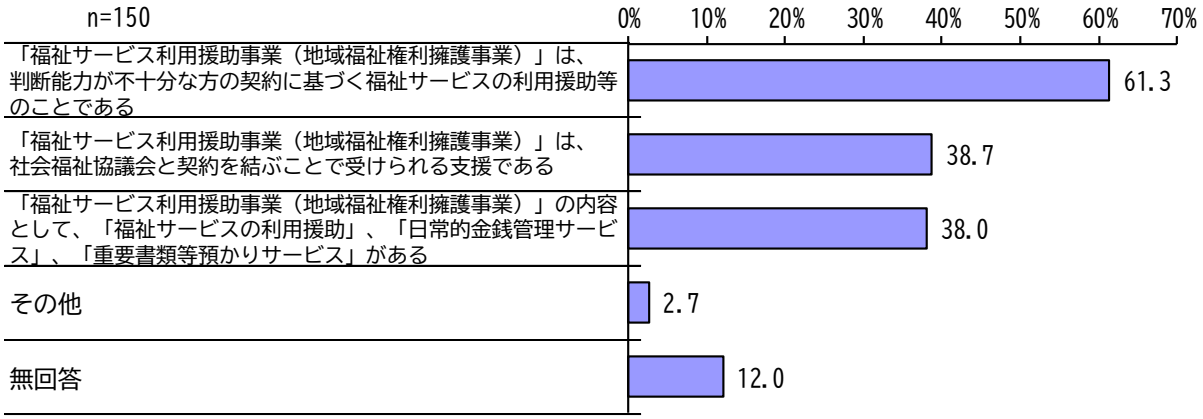
年代別にみると、いずれの年代でも「「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない」が５割半ば以上で最も高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない」が５割を超えて最も高くなっています。

（４）福祉サービス利用援助事業について知っていること

問 38 で「「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

問 38-1　福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)について知っていることをお答えください。(あてはまるものすべてに○)



福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)について知っていることは、「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである」が 61.3%と６割を超えて最も高く、次いで「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」は、社会福祉協議会と契約を結ぶことで受けられる支援である」が 38.7%、「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」の内容として、「福祉サービスの利用援助」、「日常的金銭管理サービス」、「重要書類等預かりサービス」がある」が 38.0%と続いています。

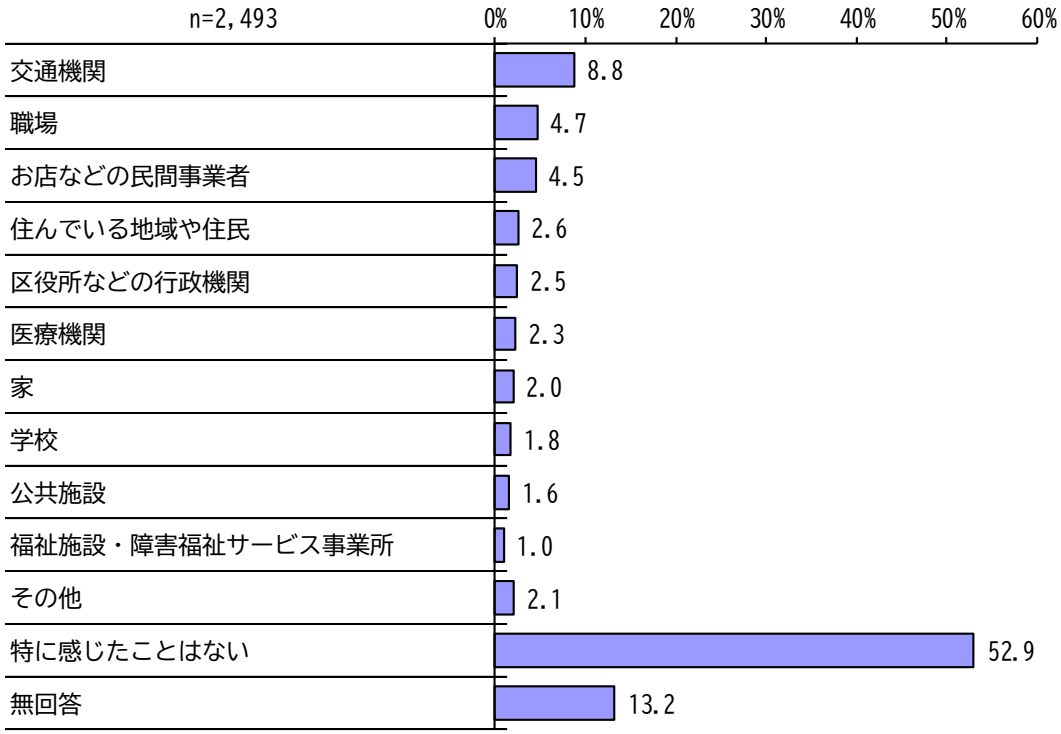
【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」の内容として、「福祉サービスの利用援助」、「日常的金銭管理サービス」、「重要書類等預かりサービス」がある	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、社会福祉協議会と契約を結ぶことで受けられる支援である	その他	無回答
全体		150	***61.3***	38.0	38.7	2.7	12.0
障害別	肢体不自由	21	***42.9***	38.1	***42.9***	0.0	14.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	***62.5***	37.5	***62.5***	0.0	0.0
	視覚障害	12	50.0	***58.3***	50.0	0.0	16.7
	聴覚・平衡機能障害	8	50.0	***75.0***	37.5	0.0	12.5
	内部障害	28	***50.0***	28.6	42.9	3.6	14.3
	知的障害	23	***73.9***	39.1	34.8	0.0	13.0
	発達障害	20	***90.0***	25.0	25.0	10.0	0.0
	精神障害	23	***73.9***	39.1	30.4	0.0	8.7
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	***50.0***	0.0	50.0
	難病（特定疾病）	46	***63.0***	43.5	45.7	2.2	6.5
	その他	1	***0.0***	***0.0***	***0.0***	0.0	100.0

障害別にみると、回答数 10 件以上の障害では、“視覚障害”以外のいずれも「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである」が最も高くなっています。

（５）地域で差別を感じる場面

問39　あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。
（○はひとつ）



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「交通機関」が 8.8%と最も高く、次いで「職場」が 4.7%、「お店などの民間事業者」が 4.5%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は 52.9%と５割を超えています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	家	職場	福祉施設・障害福祉サービス事業所	お店などの民間事業者	住んでいる地域や住民	公共施設	区役所などの行政機関
全体		2,493	2.0	4.7	1.0	4.5	2.6	1.6	2.5
障害別	肢体不自由	320	0.6	1.6	0.9	5.9	2.2	1.9	3.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	1.1	0.0	0.0	***11.5***	1.1	4.6	3.4
	視覚障害	163	1.8	1.2	0.0	9.8	2.5	3.1	3.1
	聴覚・平衡機能障害	153	1.3	2.0	0.7	***10.5***	4.6	0.7	3.9
	内部障害	324	1.9	1.9	0.9	1.9	0.9	0.9	2.8
	知的障害	256	1.2	2.7	2.0	6.3	3.9	4.3	1.6
	発達障害	263	5.7	***11.0***	1.9	4.2	3.8	3.8	5.7
	精神障害	626	4.5	***10.2***	2.1	3.4	4.5	1.6	4.0
	高次脳機能障害	40	2.5	5.0	0.0	***12.5***	0.0	0.0	2.5
	難病（特定疾病）	817	0.7	3.2	0.4	4.4	1.5	1.0	1.5
	その他	42	4.8	***7.1***	4.8	2.4	4.8	0.0	4.8

（単位:%）		n	医療機関	交通機関	学校	その他	特に感じたことはない	無回答
全体		2,493	2.3	***8.8***	1.8	2.1	52.9	13.2
障害別	肢体不自由	320	1.3	***11.9***	1.6	1.6	51.6	15.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	5.7	8.0	1.1	3.4	51.7	8.0
	視覚障害	163	3.1	***11.0***	1.8	1.8	50.3	10.4
	聴覚・平衡機能障害	153	0.0	7.8	1.3	1.3	51.0	15.0
	内部障害	324	1.9	***8.3***	1.2	2.5	63.9	11.1
	知的障害	256	3.9	***7.0***	5.1	2.3	46.1	13.7
	発達障害	263	2.7	8.0	5.3	1.9	34.2	11.8
	精神障害	626	4.2	8.5	1.4	3.8	40.7	11.2
	高次脳機能障害	40	2.5	***12.5***	0.0	5.0	42.5	15.0
	難病（特定疾病）	817	0.7	***10.5***	2.0	1.2	58.9	14.1
	その他	42	4.8	***7.1***	0.0	4.8	45.2	9.5

障害別にみると、“発達障害”、“精神障害”、“その他”では「職場」が、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“聴覚・平衡機能障害”、“高次脳機能障害”では「お店などの民間事業者」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「交通機関」が最も高くなっています。

（6）地域に求める合理的配慮

問40　あなたが、これまでに文京区内で感じた差別や合理的配慮の不提供についての内容及び、求める対応をお聞かせください。（自由記入）

地域に求める合理的配慮についての意見は364件ありました。「障害理解・思いやり・偏見の排除」についての意見が 19.5%と最も多く、次いで「交通事情・バリアフリー」が 15.1%、「行政・各種手続き」が13.7%と続いています。

主な意見は以下の通りです。

単位（%）

	総数	障害理解・思いやり・偏見の排除	交通事情・バリアフリー	行政・各種手続き	情報周知・啓発	雇用・就労	経済事情・経済的支援	医療機関・薬局	福祉サービス	学校・教育	休憩・トイレ	アクセシビリティ・テクノロジーの活用	将来の生活	その他
合理的配慮	364	19.5	15.1	13.7	9.1	5.5	4.4	4.4	3.3	3.0	1.9	1.6	1.6	16.8

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1．障害理解・思いやり・偏見の排除（71 件）

・以前、勤務していた職場で、聴覚障害を理解してもらえなかった。外見では、障害があるのがわからないので、聴こえないので、出来ない事を伝えても、理解されず、無視やハラスメントを受け、つらい思いをし、退職した事がある。
・見かけだけでは障害があると判断しにくいので、誤解を生じやすい。
・筆談対応を求めると嫌そうな顔をされる。障害に無関心な人が多い。大人は聞こえないことを伝えても、冷たい対応を取られることが多い。子どもは身ぶり、手ぶりで色々と助けてくれることも多い。

2．交通事情・バリアフリー（55 件）

・対応を進めて下さっているとは感じているものの、文京区内は坂や小道などが多く、また電車ホームや駅も古いため、移動が困難そうな人を見ることが多い。
・ビルに入っているような飲食店等でのバリアフリー化が不十分だと感じる。これから新しくビルを建てるときはバリアフリー経路の確保を推進するようにしてほしい

3．行政・各種手続き（50 件）

・区の窓口の応対不十分。身障度合により、窓口の外でも応対すべき！！（歩行困難者）、役所内書類は各所に行くのが困難です。
・手の障害で手帳が1級ですが、障害にかかわる申請や手続きをする際に、何枚もの書類に筆記が必要な場面が多くて辛いことがあります。

４．情報周知・啓発（33 件）

・差別や、配慮の不提供が生じた際、調停できる機関や、救済に動くことのできる組織などが存在しない。当事者間の利害関係にとらわれず、間に入ることのできる仕組み作りが必要と思う。
・おそらく病気による言語障害に対して、話が通じず蔑ろにされているのを数度見かけたことがある。障害者は何が出来ないか、どうすれば意思疎通が出来るかを健常者にわかるよう必要な時には提示し、健常者はそれを元に対応できるようにしたい。

５．雇用・就労（20 件）

・就労をめざしているので、情報や相談などを強化していただけると、自信にもつながります。また当事者と向きあいながら接していただけると助かります。
・文京区では嫌な思いをしたことがありませんが、職場で初めて精神障害を開示した時に、上司の偏見から差別的扱いをうけ、結局退職に至ったため、今後も開示しない意向。

６．経済事情・経済的支援（16 件）

・賃貸物件への家賃補助が欲しい（就業困難になり、給料減の為、文京区内への居住年数を加味して欲しい。今さら他へ引越しコミュニケーションを作る、通院を考えるのは難しい）
・片耳難聴の場合に補聴器調達の補助が得られないこと。

７．医療機関・薬局（16 件）

・補聴器をしている事で、あるクリニックで、筆談を突然されて、今までした事がなかったので、読むだけで、返事に困りました。正面を向いて、ゆっくり話してくだされば理解できるのでとても困りました。
・薬局でお薬手帳を見せると、薬の名前や病状について大きな声で話されてしまい、困惑することがある。配慮してほしいと思う。

８．福祉サービス（12 件）

・ケースワーカーの人はよく相談にのってくれる。
・文京区内の施設に入所出来ない。

９．学校・教育（11 件）

・近くに小学校があるが、“特別支援クラス”があるわけではなく、校内、授業で障害児を目にする事もほぼない。小さい時から、社会には色々な人がいて、あたりまえを知るにも、教育の場も一緒に学べる場であって欲しい。
・小学生の頃、通常学級に通っていましたが、度々保護者が校長に呼び出され、支援級への転校を勧められました。

10. 休憩・トイレ（7件）

・障害者用のトイレの充実についてお願いがあります。公共施設で障害者用のトイレはありますが、右マヒ、左マヒ両方で使えるトイレを両方備えているところが少ないです。充実させてほしいです。
・歩道にもっとたくさんベンチを設置して下さる様願います。

11. アクセシビリティ・テクノロジーの活用（6件）

・物品の購入支払い時において、機械での対応が多いため、不都合のことが多い。
・ルビ付きとルビ無しが選べると有難いです。ルビ付きの書類などが見えにくく読みにくく視覚的負荷を強く感じます。

12. 将来の生活（6件）

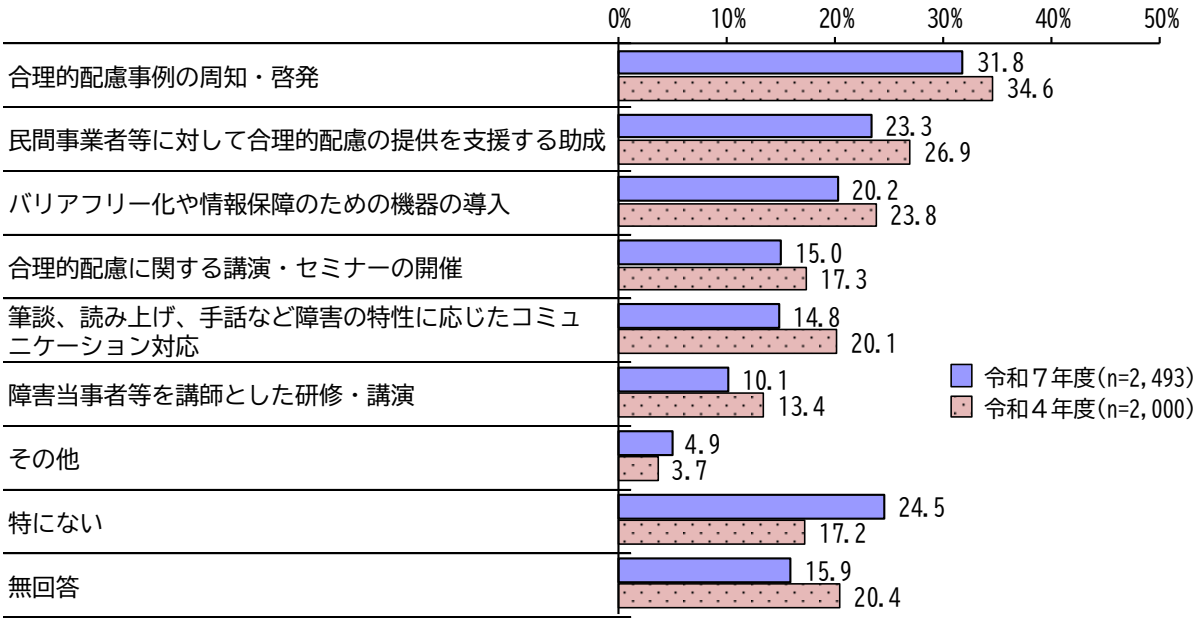
・文京区内のグループホームに入居させたいが、障害年金だけの収入では入居（生活）することが難しい。親亡き後を考えると、この先不安でしかない。
・母が万が一の後、どのように住宅や生活等していけば良いか不安である。

13. その他（61 件）

・差別や配慮の不提供、受けたことはない（自分の障害を相手に話すことにより協力得られるから外出先で不自由なことはない）。
・公共施設での扱いに関して、いまだに障害者と難病で扱いが違う事があった。やっぱり障害認定の方が配慮されて、難病患者とは扱いが異なると感じる事は多い

（7）合理的配慮を進めていくために必要なこと

問41　社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 31.8%と３割を超えて最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 23.3%、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が 20.2%と続いています。

一方、「特にない」は 24.5%となっています。

令和４年度と比較すると、合理的配慮を進めていくために必要なことはいずれも減少しており、特に「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が 5.3 ポイント下がっています。反対に「特にない」は 7.3 ポイント上がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	合理的配慮に関する講演･セミナーの開催	合理的配慮事例の周知･啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修･講演
全体		2,493	15.0	***31.8***	14.8	20.2	10.1
障害別	肢体不自由	320	11.3	22.5	12.8	***28.1***	8.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	19.5	***34.5***	28.7	25.3	10.3
	視覚障害	163	20.9	***34.4***	28.8	31.9	17.2
	聴覚・平衡機能障害	153	13.7	***31.4***	27.5	22.9	10.5
	内部障害	324	9.6	***31.2***	12.0	24.4	6.2
	知的障害	256	17.2	***37.1***	16.8	10.5	11.3
	発達障害	263	25.5	***51.3***	21.3	14.8	22.4
	精神障害	626	20.4	***34.0***	13.6	14.1	13.6
	高次脳機能障害	40	22.5	***37.5***	15.0	35.0	12.5
	難病（特定疾病）	817	12.0	***33.0***	13.2	24.6	6.7
	その他	42	19.0	21.4	14.3	23.8	9.5

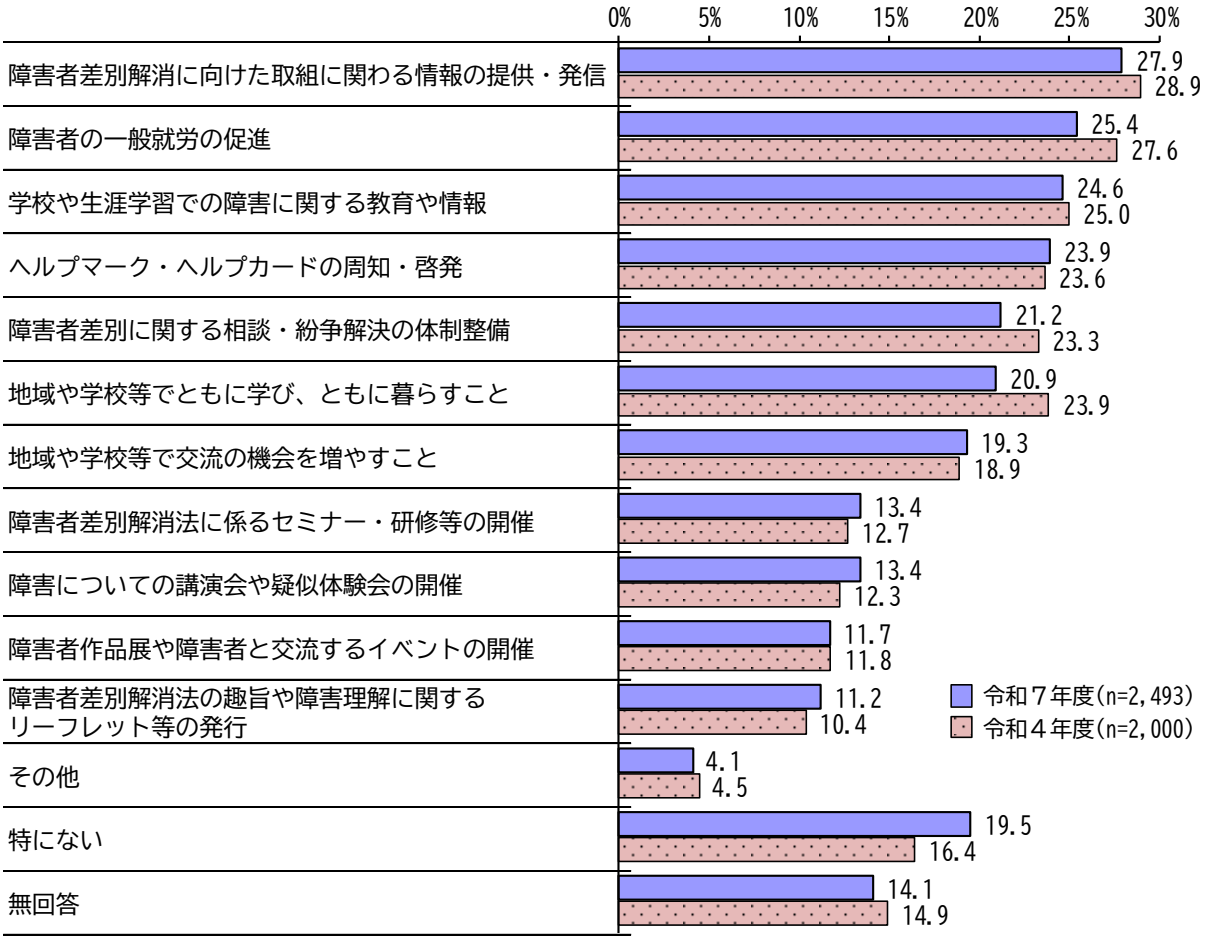
（単位:%）		n	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	その他	特にない	無回答
全体		2,493	23.3	4.9	24.5	15.9
障害別	肢体不自由	320	19.7	5.0	24.1	21.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	24.1	4.6	24.1	13.8
	視覚障害	163	28.2	3.7	18.4	16.6
	聴覚・平衡機能障害	153	14.4	3.3	22.2	23.5
	内部障害	324	22.8	3.7	29.6	12.7
	知的障害	256	24.2	4.3	25.8	14.5
	発達障害	263	36.1	7.6	13.7	10.6
	精神障害	626	25.4	8.3	25.2	12.5
	高次脳機能障害	40	25.0	7.5	17.5	17.5
	難病（特定疾病）	817	24.5	3.9	22.9	15.2
	その他	42	***28.6***	16.7	23.8	9.5

障害別にみると、“肢体不自由”では「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が、“その他”では「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が最も高く、それ以外の障害では「合理的配慮事例の周知・啓発」が３割を超えて最も高くなっています。

また、“視覚障害”と“高次脳機能障害”では「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が、“発達障害”では「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が３割を超えており、他の障害より高くなっています。

（８）差別解消を進めていくために必要なこと

問 42　障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。
（あてはまるものすべてに○）



障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が 27.9%と最も高く、次いで「障害者の一般就労の促進」が 25.4%、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が 24.6%と続いています。

一方、「特にない」は 19.5%と２割近くを占めています。

令和４年度と比較すると、項目ごとに増減はありますが、全体的な傾向については、あまり大きな変化はなく、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が 3.0 ポイント下がっており、「特にない」が 3.1 ポイント上がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	障害者差別に関する相談･紛争解決の体制整備	障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供･発信	障害者差別解消法に係るセミナー･研修等の開催	障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
全体		2,493	21.2	***27.9***	13.4	11.2	11.7	19.3	20.9
障害別	肢体不自由	320	18.1	22.5	9.7	9.7	11.3	15.9	15.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	20.7	28.7	12.6	14.9	14.9	16.1	20.7
	視覚障害	163	22.1	***30.7***	17.8	13.5	12.9	18.4	20.9
	聴覚・平衡機能障害	153	19.6	***32.0***	12.4	15.0	13.1	16.3	17.0
	内部障害	324	20.4	***28.4***	10.8	11.1	8.3	16.7	17.9
	知的障害	256	20.3	30.5	16.4	12.1	22.3	31.6	***32.8***
	発達障害	263	39.5	42.6	24.0	17.5	19.0	25.1	29.7
	精神障害	626	27.5	31.8	18.2	12.5	12.8	15.0	20.3
	高次脳機能障害	40	25.0	27.5	17.5	12.5	15.0	25.0	22.5
	難病（特定疾病）	817	17.5	24.4	10.2	9.1	7.7	22.2	22.9
	その他	42	33.3	31.0	14.3	9.5	21.4	16.7	14.3

（単位:%）		n	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	障害についての講演会や疑似体験会の開催	障害者の一般就労の促進	ヘルプマーク･ヘルプカードの周知･啓発	その他	特にない	無回答
全体		2,493	24.6	13.4	25.4	23.9	4.1	19.5	14.1
障害別	肢体不自由	320	20.0	11.6	19.4	***25.6***	5.3	21.3	21.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	***33.3***	18.4	26.4	25.3	6.9	18.4	14.9
	視覚障害	163	28.8	17.8	23.9	28.2	3.7	21.5	13.5
	聴覚・平衡機能障害	153	20.9	18.3	22.2	22.2	4.6	22.9	19.6
	内部障害	324	21.6	9.6	18.5	27.8	4.9	24.1	11.7
	知的障害	256	30.5	16.4	29.3	19.9	2.0	17.6	11.7
	発達障害	263	31.6	21.7	***44.5***	25.1	7.2	10.6	8.7
	精神障害	626	25.6	16.0	***32.9***	22.5	6.5	17.7	10.5
	高次脳機能障害	40	***35.0***	15.0	***35.0***	27.5	2.5	10.0	15.0
	難病（特定疾病）	817	***25.2***	9.9	21.4	24.7	3.3	18.5	13.7
	その他	42	23.8	19.0	23.8	***40.5***	9.5	21.4	9.5

障害別にみると、いずれの障害でも「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」と「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が２割を超えて高く、特に“発達障害”では「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が４割を超えています。

“知的障害”と“発達障害”では、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が３割前後で高くなっています。

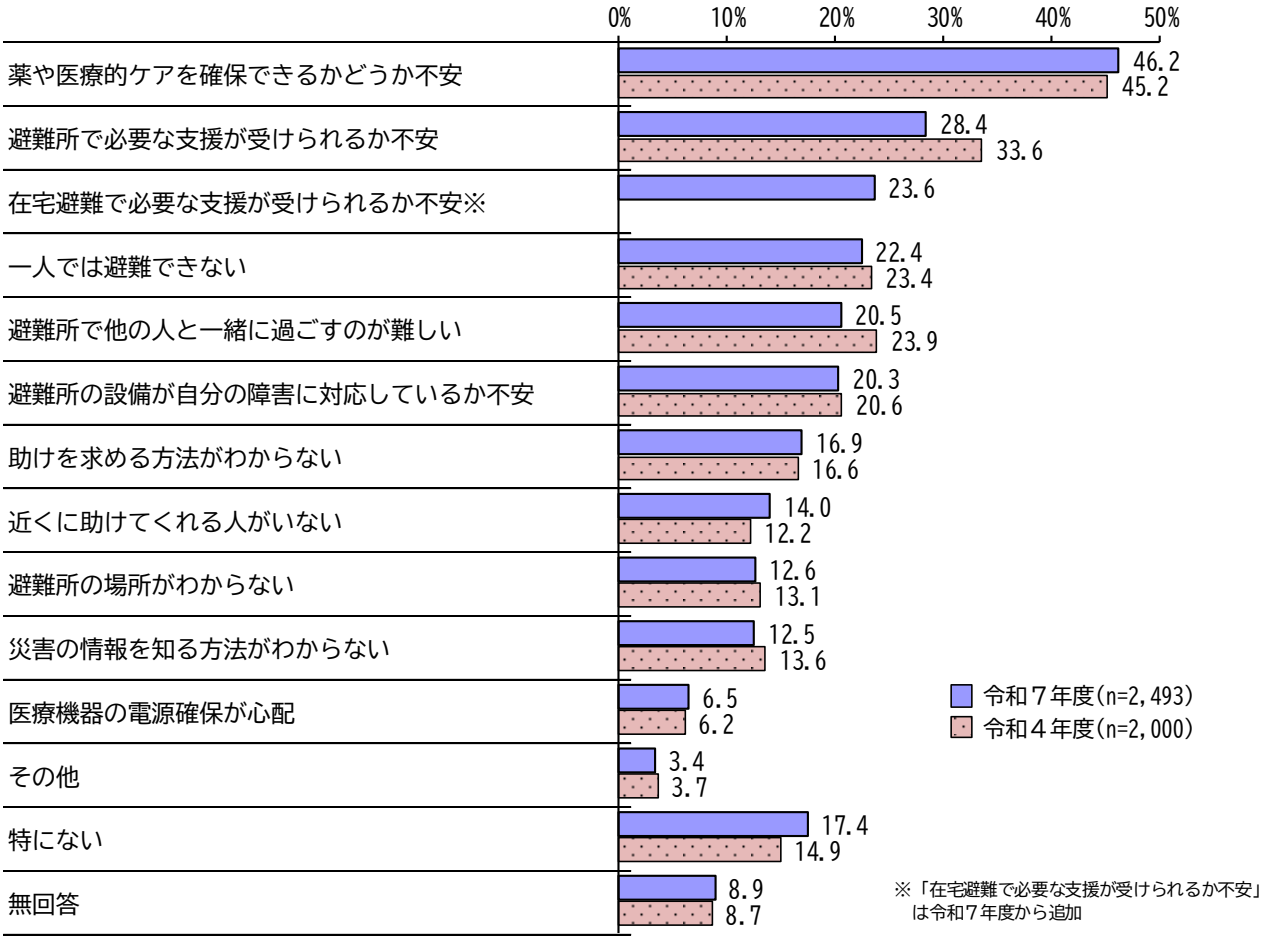
“発達障害”では、「障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備」が４割近くで、他の障害より高くなっています。

“発達障害”、“精神障害”、“高次脳機能障害”では、「障害者の一般就労の促進」が３割を超えて高く、特に“発達障害”では４割を超えて他の障害より高くなっています。

8　災害・緊急時の対策について

（1）災害発生時の困りごと

問 43　あなたが、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）



災害発生時の困りごとは、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が 46.2%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が 28.4%、「在宅避難で必要な支援が受けられるか不安」が 23.6%、「一人では避難できない」が 22.4%と続いています。

一方、「特にない」は 17.4%となっています。

令和４年度と比較すると、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が 5.2 ポイント、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が 3.4 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	災害の情報を知る方法がわからない	助けを求める方法がわからない	避難所の場所がわからない	近くに助けてくれる人がいない	一人では避難できない	避難所の設備が自分の障害に対応しているか不安	避難所で必要な支援が受けられるか不安
全体		2,493	12.5	16.9	12.6	14.0	22.4	20.3	28.4
障害別	肢体不自由	320	9.7	14.4	9.1	15.3	***44.7***	34.7	36.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	14.9	26.4	10.3	13.8	***47.1***	35.6	43.7
	視覚障害	163	19.6	22.7	20.2	16.6	***46.6***	28.2	32.5
	聴覚・平衡機能障害	153	20.9	19.6	11.8	9.8	22.9	25.5	30.1
	内部障害	324	7.1	12.3	10.2	12.7	18.8	21.6	29.3
	知的障害	256	29.3	36.3	22.3	14.1	***54.7***	28.5	39.1
	発達障害	263	20.5	28.9	18.6	19.4	21.7	24.0	31.9
	精神障害	626	12.3	20.0	16.3	20.0	16.6	21.6	33.1
	高次脳機能障害	40	12.5	25.0	15.0	20.0	35.0	37.5	37.5
	難病（特定疾病）	817	8.6	12.2	8.4	11.5	16.2	14.2	23.3
	問12に該当する方	658	17.2	24.0	17.9	19.0	30.1	25.8	38.3
	その他	42	16.7	21.4	16.7	31.0	33.3	28.6	35.7

（単位:%）		n	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	在宅避難で必要な支援が受けられるか不安	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	医療機器の電源確保が心配	その他	特にない	無回答
全体		2,493	20.5	23.6	***46.2***	6.5	3.4	17.4	8.9
障害別	肢体不自由	320	16.6	28.1	42.5	10.0	4.1	12.5	11.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	21.8	31.0	43.7	13.8	5.7	13.8	5.7
	視覚障害	163	17.2	33.1	35.0	4.3	1.8	13.5	8.6
	聴覚・平衡機能障害	153	18.3	26.8	***34.0***	11.8	7.8	18.3	9.2
	内部障害	324	13.3	25.9	***54.0***	10.5	4.3	21.0	6.8
	知的障害	256	37.5	28.5	28.5	6.6	1.6	14.1	8.6
	発達障害	263	38.4	24.7	***43.0***	7.2	4.9	17.1	6.1
	精神障害	626	32.6	23.6	***54.0***	4.6	4.0	14.9	8.0
	高次脳機能障害	40	22.5	32.5	***40.0***	2.5	12.5	7.5	10.0
	難病（特定疾病）	817	13.5	21.5	***55.6***	6.5	2.6	17.4	7.6
	問12に該当する方	658	34.7	26.9	***52.6***	5.9	4.0	12.0	9.3
	その他	42	31.0	21.4	***38.1***	16.7	7.1	19.0	4.8

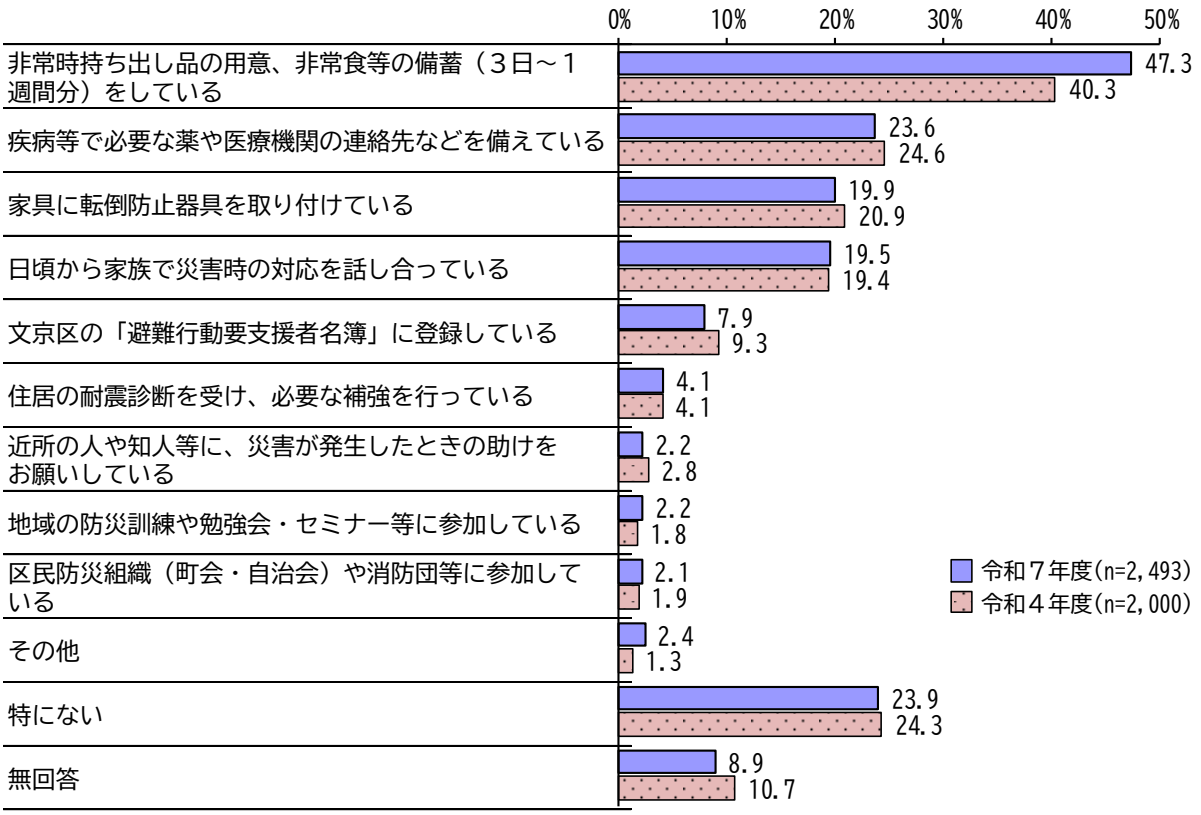
障害別にみると、“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能”、“視覚障害”、“知的障害”では、「一人では避難できない」が最も高く、特に“知的障害”では 54.7%と５割半ば近くで他の障害より高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が最も高くなっています。

また、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」、「在宅避難で必要な支援が受けられるか不安」、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」はいずれの障害でも２割を超えて高くなっています。

（２）災害に対する備え

問 44　あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。（あてはまるものすべてに○）



災害に対する備えは、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（３日～１週間分）をしている」が 47.3%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が 23.6%、「家具に転倒防止器具を取り付けている」が 19.9%と続いています。

一方、「特にない」は 23.9%と２割を超えています。

令和４年度と比較すると、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（３日～１週間分）をしている」が 7.0 ポイント上がっています。それ以外の項目に大きな差はなく、全体的な傾向にあまり変化はありません。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	日頃から家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日～1週間分)をしている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている	文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている
全体		2,493	19.5	***47.3***	23.6	2.2	7.9	19.9
障害別	肢体不自由	320	20.0	***40.0***	22.5	3.8	17.8	20.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	18.4	***36.8***	20.7	5.7	19.5	19.5
	視覚障害	163	19.0	***51.5***	23.3	5.5	19.6	22.7
	聴覚・平衡機能障害	153	19.0	***44.4***	21.6	5.9	11.8	20.3
	内部障害	324	22.2	***48.8***	36.1	1.9	6.2	22.5
	知的障害	256	21.1	***42.2***	12.5	4.7	25.4	21.5
	発達障害	263	22.8	***41.8***	14.8	2.7	9.9	19.0
	精神障害	626	19.0	***42.7***	20.0	1.8	3.5	14.7
	高次脳機能障害	40	17.5	***47.5***	27.5	2.5	20.0	10.0
	難病（特定疾病）	817	21.3	***55.4***	31.7	1.6	4.4	23.5
	その他	42	9.5	***38.1***	14.3	4.8	4.8	23.8

（単位:%）		n	住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている	区民防災組織(町会･自治会)や消防団等に参加している	地域の防災訓練や勉強会･セミナー等に参加している	その他	特にない	無回答
全体		2,493	4.1	2.1	2.2	2.4	23.9	8.9
障害別	肢体不自由	320	3.8	4.1	1.3	3.4	21.6	9.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	4.6	1.1	0.0	2.3	31.0	6.9
	視覚障害	163	6.7	4.3	3.1	3.1	16.0	8.0
	聴覚・平衡機能障害	153	6.5	3.9	6.5	2.6	25.5	9.2
	内部障害	324	4.6	3.4	3.1	2.5	22.2	6.5
	知的障害	256	2.3	0.8	1.2	1.6	27.3	9.8
	発達障害	263	2.7	1.5	2.7	2.3	30.0	6.8
	精神障害	626	2.4	1.4	2.2	2.7	30.8	8.3
	高次脳機能障害	40	7.5	2.5	2.5	2.5	20.0	7.5
	難病（特定疾病）	817	4.8	1.5	2.2	1.7	18.5	7.5
	その他	42	4.8	4.8	0.0	11.9	31.0	7.1

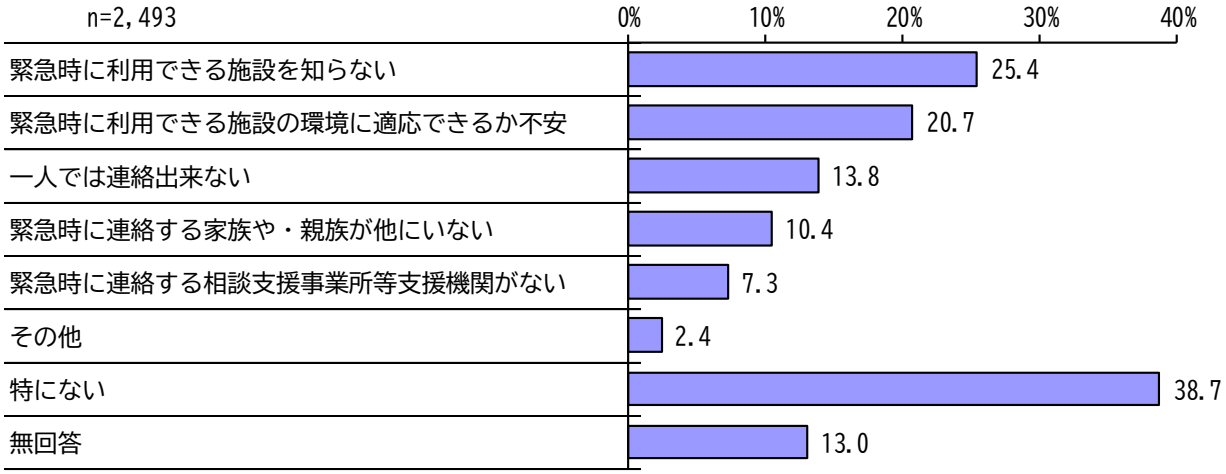
障害別にみると、いずれの障害でも、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（３日～1 週間分）をしている」が最も高くなっており、特に“視覚障害”と“難病（特定疾病）”では５割を超えています。

“内部障害”と“難病（特定疾病）”では、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が３割を超えて、他の障害より高くなっています。

“知的障害”と“高次脳機能障害”では、「文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している」が２割以上で、他の障害より高くなっています。

（３）緊急時に困ること

問 45　あなたは、家族等の介助者が不在となるような緊急時に困ることや不安なことは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）



家族等の介助者が不在となるような緊急時に困ることや不安なことは、「緊急時に利用できる施設を知らない」が 25.4%と２割半ばで最も高く、次いで「緊急時に利用できる施設の環境に適応できるか不安」が 20.7%、「一人では連絡出来ない」が 13.8%と続いています。

一方、「特にない」は 38.7%と３割半ばを超えています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	緊急時に連絡する家族や･親族が他にいない	緊急時に連絡する相談支援事業所等支援機関がない	一人では連絡出来ない	緊急時に利用できる施設の環境に適応できるか不安	緊急時に利用できる施設を知らない	その他	特にない	無回答
全体		2,493	10.4	7.3	13.8	20.7	***25.4***	2.4	38.7	13.0
障害別	肢体不自由	320	10.6	5.6	23.4	22.8	***29.4***	2.8	28.1	14.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	17.2	13.8	***44.8***	29.9	31.0	3.4	20.7	11.5
	視覚障害	163	14.7	11.7	21.5	17.2	***33.7***	1.8	28.8	11.0
	聴覚・平衡機能障害	153	9.8	5.9	19.0	24.8	***26.8***	4.6	27.5	16.3
	内部障害	324	5.9	6.2	9.6	15.4	***21.0***	3.4	52.5	10.2
	知的障害	256	14.5	7.4	***48.8***	27.7	25.8	2.7	19.5	14.1
	発達障害	263	19.4	10.3	18.6	***31.2***	25.9	3.4	32.3	7.2
	精神障害	626	18.2	12.1	8.6	***29.2***	28.4	2.6	32.4	11.3
	高次脳機能障害	40	15.0	7.5	***37.5***	25.0	30.0	2.5	12.5	10.0
	難病（特定疾病）	817	6.1	6.0	7.5	14.7	***22.4***	1.7	50.1	12.0
	問12に該当する方	658	17.2	10.8	22.9	32.1	***33.0***	2.6	23.3	12.6
	その他	42	11.9	9.5	***35.7***	23.8	28.6	2.4	23.8	11.9

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“高次脳機能障害”、“その他”では「一人では連絡出来ない」が３割半ばを超えて最も高くなっています。

“発達障害”と“精神障害”では、「緊急時に利用できる施設の環境に適応できるか不安」が３割前後で最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「緊急時に利用できる施設を知らない」が最も高くなっています。

９　自由意見

問46　区の障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は 456 件ありました。「福祉」についての意見が 27.6％と最も多く、次いで「行政」が 16.0％、「アンケート」が 12.3％となっています。

主な意見は以下の通りです。

単位（％）

	総数（n）	福祉	行政	アンケート	情報・相談	障害理解	生活環境	雇用・就労	将来	災害	保健・医療	障害・疾患	その他
自由意見	456	27.6	16.0	12.3	8.6	4.6	4.4	3.9	3.1	3.1	2.9	2.4	11.2

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

１．福祉（126 件）

・文京区の障害者（知的）施設は他区と比べ、とても少ない。加えて障害者はふえていくばかり。将来地元で生活していけるように、と皆口をそろえて言っているが、おちついて入所出来る状態ではない。とても不安である。区はとても小さいが、もう少し積極的に作っていってほしい。
・リハビリの機会をもっと多くして欲しい。体力テストをもっとして欲しい。
・介護者の高齢に備えて、本人の自立に向けた生活支援の中で、特にグループホームの拡充をお願いしたいです。（精神障害者対象は他区でも区立のものが存在しますが）文京区にも区立で知的障害者対象のものが出来たら、心強いです。
・視覚障害者ですが、家族が居ると利用できないサービスがあるので、それを拡充して下さい。
・「Ｂーぐる」で障害者や高齢者を無料で乗車できる様にして欲しい。特に障害者の中で肢体不自由の方や、車椅子の方が生活して行く上で便利になる。
・移動支援のヘルパーが足らず、利用できません。この状態だと仕方ないことですが、家族（利用者）が事業所にかなり気を遣い何とか利用されてもらえるようお願いしています。ヘルパーの時給を上げたり、助成金を出したりとヘルパーを増やす努力をしてください。
・医ケア対応のできる施設や事業所を増やしてほしい。重度訪問看護を（将来的に）使いたいが、対応してくれる事業所がない（ヘルパーが足りない）。
・障害のある方が文京区で暮らしていて、不足しているのは生活介護の施設、短期入所、そしてＧＨだと思います。これらの施設整備を優先的にお願いしたいと思います。地域生活支援拠点は４ヶ所作っていただきましたが、身近に感じられる施設になるよう工夫していただけたらと思います。
・難しいかもしれませんが、障害者手当の所得制限を無くしていただけると大変有難いです。
・様々なサービスの提供をいただいているが、毎年の更新では現状維持の提案がほとんどであり、障碍者の特性に応じた提案ができる仕組みがAI等で整備できるとよい。直近でショートステイの提案をいただいたところ、大変気に入っているが、もっと早くお話をいただければよかったと思う。移動支援枠がヘルパーの都合がつかず、いつも余っている。一度相談したが、支援事業者の一覧を渡されて個別に確認せよと言われて断念した。各事業者の空き状況などが確認できると助かる。

２．行政（73 件）

・各手続きの簡略化とわかりやすさ。アナログによる相談等の手続きの確保（スマホは大嫌いで、あるにはあるが、殆んど利用していない。）
・精神障害者に対する全般的な窓口を一貫していただいて 1 つの場所や時期で完結できるように簡単にシンプルにしていただきたい。自分でどんなサポートが受けられるか情報を収集できにくいので、区からもっと個別に定期的に連絡サポートして援助していただけると不安がへります。区からの障害助成金を一立で支給していただき、収入が低く不安があることへの解消の助けをしてほしい。
・受給者証を取得する時の、半年に 1 度の聞きとり、面談は親にとって非常に負担がかかる。重度の障害の場合は、変化や成長などはあまり見込めるものではないので、もう少し手間をかけずに作成してもらいたい。
・保健師面談等 15 分から 30 分程度で終わるものについて zoom で繋げれば有給を取らずとも対応できるのでその辺りをそろそろ役所も取り入れてほしい
・障害者手帳の更新を完全に遠隔で行えるようにして欲しい。治る見込みがないから「障害」なのであって、更新時も基本的に自動的に更新されるようになってほしい。障害者にも居住のかたちの選択肢が増えるようにして欲しい。家族と同居、グループホーム、自立、だけではなく、友人同士や同性パートナーと暮らす場合もあるし、そのうえで障害者が同居の他者を養っているような場合もある。「障害者」という漠然としたイメージではなく、多様な個人がそれぞれに障害を持っているという前提で施策をしてほしい。
・普段から自立支援受給者証の発行や手帳の発行に紙でかつ郵送で手続きしております。こちらについて早くインターネットで申請できるようになってほしいです。
・各種申請について、電子化をお願いしたいです。申請手続き完了をメールで行う（現状形態問わず通知なし、自分から区役所に問い合わせが必要）など対応いただけるとありがたいです。区役所への訪問必須、紙ベースでの申請のみ受付だと、就労と育児の合間を縫って行おうとすると、スケジュール調整などのハードルが高く感じます。

３．アンケート（56 件）

・障害の程度は人それぞれだと思いますが、このアンケートの量を答えることが難しいと思います。最初から、家族等宛に、アンケートを作った方が、答えやすいのではないでしょうか。
・この調査内容は、すべての障害者を対象にしているが、障害によって、質問の意味を理解できない人もいると思います。親が読んで本人に答えを言わせても理解できない質問が多すぎます。もっと障害の内容を理解したアンケートにして下さい。もっと障害者のことを理解して下さい。
・このアンケートも、デジタルなら対応できるが、紙に記載だと、分岐の数が多過ぎて適切に回答できない人が多いのではないか，と思いました
・ネット回答可能なので今回回答できました。紙だと文字が滑って読みにくいので、ネット可で助かりました。
・このアンケートについて、精神障害の状況や発達障害による影響、知的障害の度合いなどによってはうまく回答できない集団が存在し、その集団の訴えはまるっと抜け落ち伝わらないのではと気になっております。

４．情報・相談（39 件）

・区としてサポートできることや助成など、分かりやすく掲載されている web ページや冊子などがあるとありがたいです。
・情報を知る方法がないので、周知できるようにしてほしい。
・就職しても長続きしないことが多く、生活の不安が大きい。どうやって生きていったらいいのか、ソーシャルワーカーや心理士に相談できるサービスをオンラインで利用できるとよいと思う。
・いざというときに区のホームページですぐに情報を得られるようにして欲しい。情報を整理してわかりやすく文字も読みやすい構成を心がけて欲しい。デジタル庁のアクセシビリティに準拠して欲しい。
・福祉政策が多岐に渡っていることは承知しているが、当事者が受けられる施策がどれかということがわかりづらい。大風呂敷になりかねないリスクがあるので、詳細な情報提供が難しいのは理解できるが、情報収集の段階でもう少し具体的に知れるとありがたい。

５．障害理解（21 件）

・障がい当事者が存在することが理解できず、テレビや絵本の中の存在と思ってる人が多いです。障がい当事者が同じ地域で暮らす存在だと理解を促す必要があります。
・平等に人としての思いやりや、感謝の気持ちが広がる事を願います。障害の程度によりますが、目に見えない障害をマークなどで分かるようにするのではなく、障害が有っても無くても思いやりにつきると思います。
・サービスや支援を受ける障害者側の教育も必要だと思います。
・まだまだ障害者に対する理解不足や偏見が多く、東京都や市区町村が講習会やイベントを通じて障害福祉を学び、触れ合う時間を積極的に設けて欲しいです。

６．生活環境（20 件）

・障害への施策ではないが、歩道上の自転車の通行は禁止してほしい。自転車専用道があるのに、歩道を利用している。ハンディを持つ者以外にも、ベビーカーへの接触も目にする。規制してほしい。
・散歩の最中に調子が悪くなることがあり、休けい所のような場が欲しい。
・自分の場合は、特にきれいなトイレがたくさんあると外出時の不安が少なくなります。多動・学習障害については、大きくて使いやすい図書館を作ってほしいです。（現状は小さすぎて高い、周りにも気を使います。）
・車椅子利用者や介護者に対して、道路のデコボコや段差（わずかでも）をなくしてほしい。
・潰瘍性大腸炎にとってトイレは死活問題なので、安全で綺麗なトイレが増えたらいいなと思う。私はストーマを使用していないが、オストメイト対応のトイレが区内に増えたらもっといいなと思う。
・車椅子を使う際、歩道が平らではない。車椅子は歩道の建物寄りを通らないと危険であることを一般の人たちに知らせてほしい。
・点字ブロックの設置範囲の拡大

７．雇用・就労（18 件）

・Ａ型作業所が少ない。
・障害者福祉事業に関わる人の働きやすさ（環境や賃金など）を高め、良い人材が業界から離れづらい体制を望みます。
・就労継続支援から一般就労に向けての移行が難しい。一般就労に向けての情報が欲しい。症状が軽くなってきた時に、次、どのように行動を始めたら良いか分かりづらい。
・守ることよりもちゃんと自分でお金を稼ぐためにどうするかの施策を考えて欲しいです。特に賃金が安い会社がまだまだですので、そこに対して理解をして、年金や介助者だけに頼った生活を充実させるより、稼げる人は稼ぐ方向を自立支援のカタチを考えていただきたいです。
・就労移行支援（これから就労したい人）の支援はあるが、現在既に就労している人は、勤務で障害特性上困ることがあった場合の相談や、ソーシャルスキルトレーニング、認知行動療法、向いている業務の種類を調べることなど、具体的に仕事を続けて行くための支援が全くないと感じています。今の仕事があっているか不安で就労移行支援のプログラムを受けてみたいものもあるのですが、週５で通う事が必要だったり、就労していると通えないので。
・障がい者雇用で働くと収入が低く生活が難しいため一般雇用で就労しよう試みるが通院や度重なる体調不良により対応が難しい。そのため生活費を捻出することに毎日とても不安に思う。
・超短時間雇用に対する取り組みをしていただきたいです。週 20 時間働くことが困難ですが、求人がとても少なく、働くことに難しさを感じています。超短時間雇用についての企業への啓発や働きかけ、情報の集約や仲介などをしていただけるととても助かります。

８．将来（14 件）

・後見人制度への不安（いい人にめぐり合えるかどうか）見守りがいないので、１人になったらどうしたらいいか（現在は母と２人暮らし）また入院するのがこわい。
・この解答をしたのは全て本人の母親ですが、やはり私が「死んだ後」の事を考えると心配です。区への要望としては、私が死後も、本人が安心して暮らせるように、充実したサービスの提供を強く求めます。
・難病で障害者ですが、親の介護があります。自分が本当に動けなくなったり入院した時にどうなるか不安です。相談しに行きたいと思います。
・介護や援助が必要な障害者が親亡き後、安心して暮らせる場所が増えてほしい。
・今のところは就労で自立出来ていますので大丈夫ですが、年齢を重ねるにつれて先の不安はありますが、就労できる限りは頑張ります。
・母としての意見です。現在のところは何も問題がありませんが、将来親亡き後の生活が心配です。相談支援機関を利用し始めましたが、あまり前に進んでいる気がしません。どうにかしなくては、と日々思っています。

９．災害（14 件）

・視力障害と聴覚機能が悪いので、災害で避難所にいった時、暗いなかでトイレに行けるかどうかが一番心配です。人様にぶつかったり、ふんでしまったりしないか心配で思っただけでトイレにはいけないと思います。出来るだけ自宅にいたいと考えています。
・緊急時に利用できる施設（人工とうせきをしているので）不安です。一人では連絡出来ない為、環境に適応できない性格が不安です。
・聴覚障害者なので、体は大丈夫。行動はできるが、情報収集が困難。放送はわからないし、ひなん所で生活はできるが、ひなん所での情報収集が不安。手話が出来る人も災害の時は自分のことで精一杯だと思うのでたよれない。アナウンス、放送が 100％スマホに字幕化されるようにしてほしい。（ひなん所の電波強化、電源強化など）
・取り寄せの薬を常用しており、災害時の薬切れがとても心配です。問合せ窓口等、明確にしてほしいです。
・避難所のトイレ事情を不安のない物にして頂きたいです。
・障害者の災害対策についてまとめたリーフレットがほしい

10．保健・医療（13 件）

・薬の備蓄をお願いします。一般的なものはあるでしょうが、特殊な薬の備蓄をお願いします。
・区外の老人ホームにいますが、税金等は文京区に払っています。インフルエンザ、コロナワクチン等、区外の施設に訪問診療で接種の場合も何らかの補助があると助かります。
・障害者・難病認定患者に対するコロナワクチン接種の助成をご検討お願いできると大変ありがたいです。（該当者の大部分が基礎疾患保有者で、コロナ罹患による重症化に加えて原疾患の悪化リスクも高いため。）

11．障害・疾患（11 件）

・ＳＴ上昇型急性心筋梗塞によりステント治療、ペースメーカー埋め込み、網膜剥離、増殖性硝子体網膜症と糖尿病、高血圧治療をしているが、なるべく今を維持するよう心がけている。

12．その他（10 件）

・手作りの講習会など、障害者でも楽しく作れる会をこれからもふやしてほしいと思います。そういう事をきっかけに、外出しよう、という気持ちになります。
・リアン文京のアートの展示をシビックセンターで見たことあります。とても素敵な絵が多くて気に入りました！そういった障害者たちが作った作品を文京区のいろんな場所で見たいです。

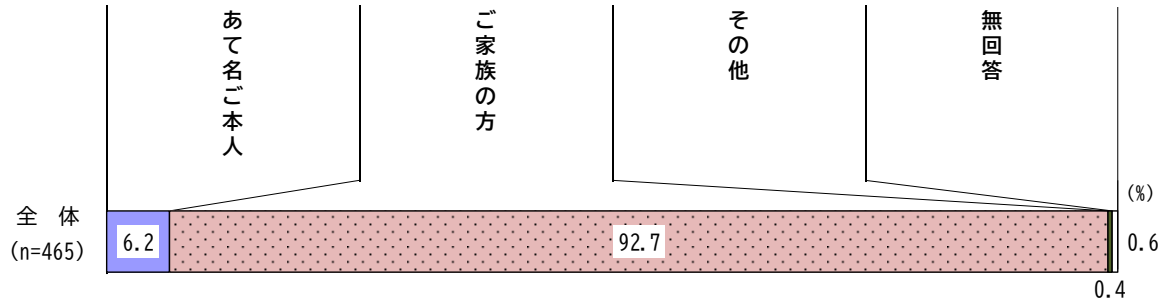
第２章

18 歳未満の方を対象にした調査

1　本人について

（1）調査票の回答者

問1　この調査票に回答していただく方はどなたですか。（○はひとつ）



調査の回答者は、「ご家族の方」が 92.7%と９割を超えており、「あて名ご本人」は 6.2%となっています。

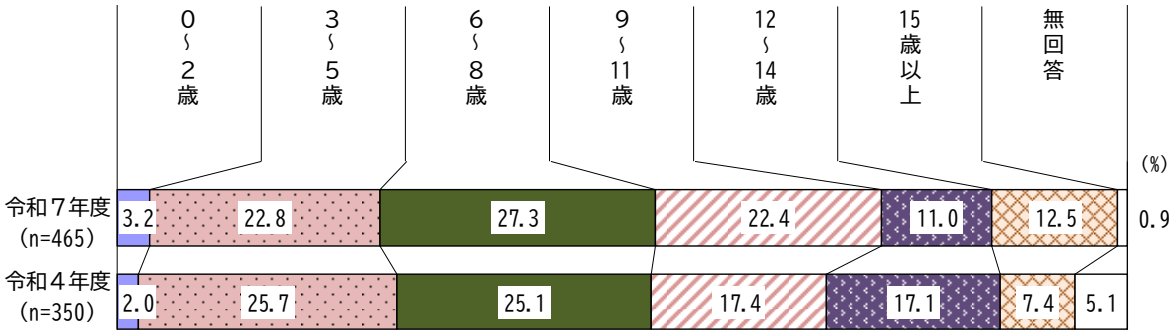
【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	あて名ご本人	ご家族の方	その他	無回答
全体		465	6.2	***92.7***	0.4	0.6
障害別	肢体不自由	37	2.7	***91.9***	5.4	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	***96.7***	3.3	0.0
	視覚障害	9	0.0	***88.9***	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	14.3	***78.6***	0.0	7.1
	内部障害	28	0.0	***96.4***	3.6	0.0
	知的障害	167	2.4	***96.4***	1.2	0.0
	発達障害	285	6.0	***94.0***	0.0	0.0
	精神障害	17	11.8	***82.4***	0.0	5.9
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	0.0	***96.8***	3.2	0.0
	その他	31	3.2	***93.5***	0.0	3.2

障害別にみると、いずれの障害でも「ご家族の方」が最も高くなっています。回答数が 10 件以上の障害では、“聴覚・平衡機能障害”と“精神障害”で「あて名ご本人」が 1 割を超え、他の障害より高くなっています。

（２）年齢

問２　あなたの年齢をお聞きします。**令和７年４月１日現在の満年齢**をお書きください。



障害者本人の年齢は、「６～８歳」が 27.3%、「３～５歳」が 22.8%、「９～11 歳」が 22.4%と２割を超えており、次いで「15 歳以上」が 12.5%、「12～14 歳」が 11.0%、「０～２歳」が 3.2%と続いています。

令和４年度と比較すると、「15 歳以上」が 5.1 ポイント、「９～11 歳」が 5.0 ポイント上がっており、反対に「12～14 歳」が 6.1 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳	12～14歳	15歳以上	無回答
全体		465	3.2	22.8	***27.3***	22.4	11.0	12.5	0.9
障害別	肢体不自由	37	10.8	10.8	18.9	24.3	5.4	***29.7***	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	3.3	20.0	23.3	13.3	10.0	***30.0***	0.0
	視覚障害	9	0.0	11.1	0.0	***55.6***	0.0	33.3	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	21.4	7.1	***35.7***	21.4	14.3	0.0	0.0
	内部障害	28	14.3	14.3	***39.3***	14.3	0.0	17.9	0.0
	知的障害	167	3.0	12.6	24.6	***26.9***	13.2	19.8	0.0
	発達障害	285	2.8	20.4	***29.8***	24.9	11.6	9.5	1.1
	精神障害	17	0.0	0.0	17.6	***41.2***	5.9	35.3	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	9.7	12.9	16.1	19.4	***22.6***	19.4	0.0
	その他	31	6.5	***51.6***	19.4	12.9	3.2	6.5	0.0

障害別にみると、“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では、「15 歳以上」で最も高くなっています。

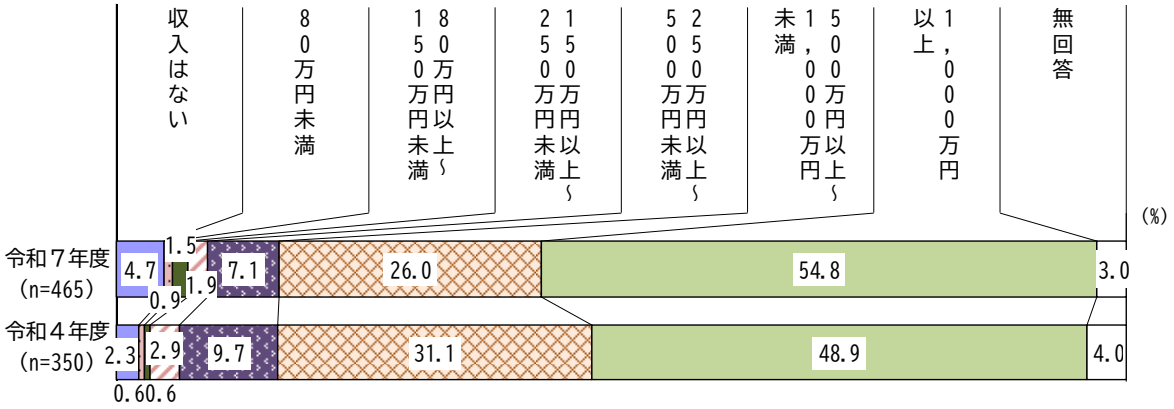
“聴覚・平衡機能障害”、“内部障害”、“発達障害”では「６～８歳」が最も高くなっています。

“難病（特定疾病）”では「12～14 歳」が、“その他”では「３～５歳」が最も高くなっています。

それ以外の障害はいずれも「９～11 歳」が最も高くなっています。

（３）世帯年収

問３　**保護者の方にお聞きします。**世帯の年収額を税金等を差し引く前の額でお答えください。（○はひとつ）



世帯年収は、「1,000 万円以上」が 54.8%と５割を超えて最も高く、次いで「500 万円以上～1,000 万円未満」が 26.0%と続いており、500 万円以上で全体の８割を占めています。

令和４年度と比較すると、「1,000 万円以上」が 5.9 ポイント上がっており、反対に「250 万円以上～500 万円未満」が 5.1 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

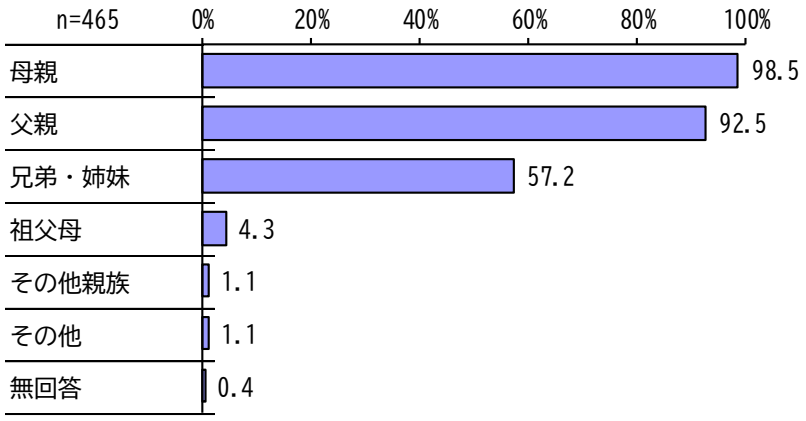
（単位:%）		n	収入はない	80万円未満	80万円以上～150万円未満	150万円以上～250万円未満	250万円以上～500万円未満	500万円以上～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
全体		465	4.7	0.9	1.5	1.9	7.1	26.0	***54.8***	3.0
障害別	肢体不自由	37	2.7	0.0	2.7	2.7	0.0	37.8	***48.6***	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	6.7	0.0	0.0	6.7	3.3	23.3	***56.7***	3.3
	視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	33.3	***55.6***	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	***71.4***	0.0
	内部障害	28	0.0	0.0	3.6	7.1	3.6	32.1	***50.0***	3.6
	知的障害	167	5.4	0.6	1.8	1.8	8.4	25.7	***53.9***	2.4
	発達障害	285	6.0	1.1	1.1	1.8	7.4	24.2	***56.5***	2.1
	精神障害	17	11.8	0.0	0.0	0.0	5.9	29.4	***52.9***	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	3.2	3.2	0.0	6.5	0.0	32.3	***48.4***	6.5
	その他	31	0.0	3.2	0.0	0.0	9.7	38.7	***48.4***	0.0

障害別にみると、回答数が 10 件以上の障害で、いずれの障害でも「1,000 万円以上」が最も高く、次いで「500 万円以上～1,000 万円未満」が二番目に高くなっています。

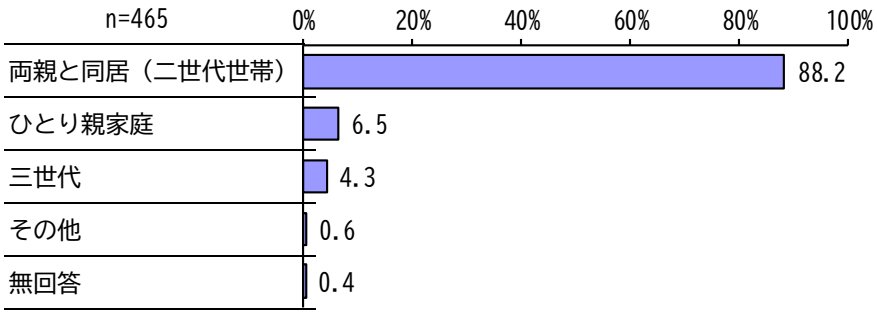
“精神障害”では「収入がない」が１割を超えて、他の障害より高くなっています。

（４）同居家族

問４　あなたの同居家族をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）



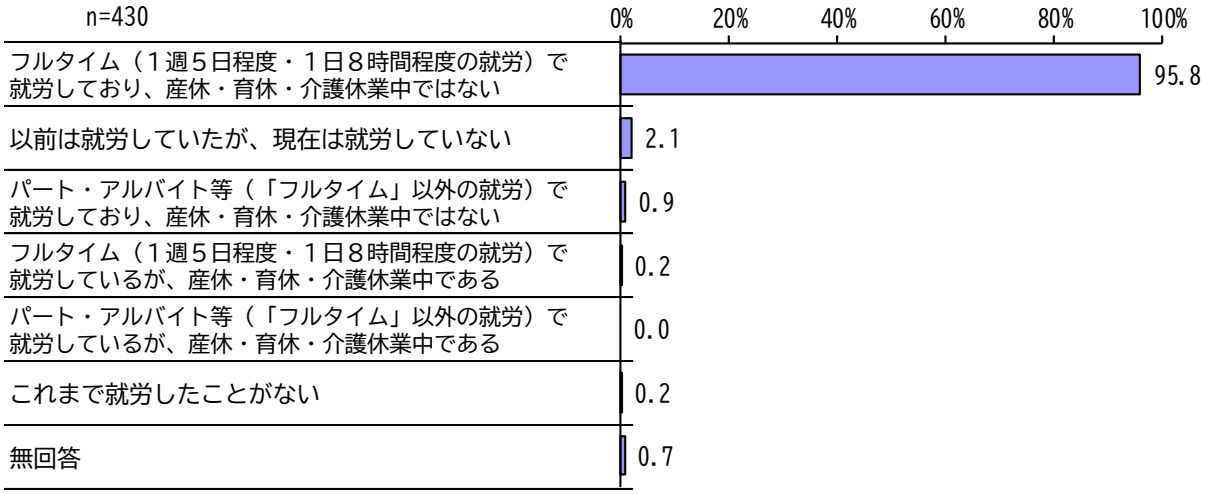
同居している家族は、「母親」が 98.5%と９割半ばを超えて最も高く、次いで「父親」が 92.5%、「兄弟・姉妹」が 57.2%と続いています。



同居家族の世帯を４区分に分けてみると、「両親と同居（二世代世帯）」が 88.2%と最も高くなっています。

（５）父親の就労状況

問５　あなたの父親の就労状況をお答えください。（○はひとつ）



父親の就労状況は、「フルタイム（１週５日程度・１日８時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 95.8%と最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 2.1%と続いています。

一方、「これまで就労したことがない」は 0.2%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

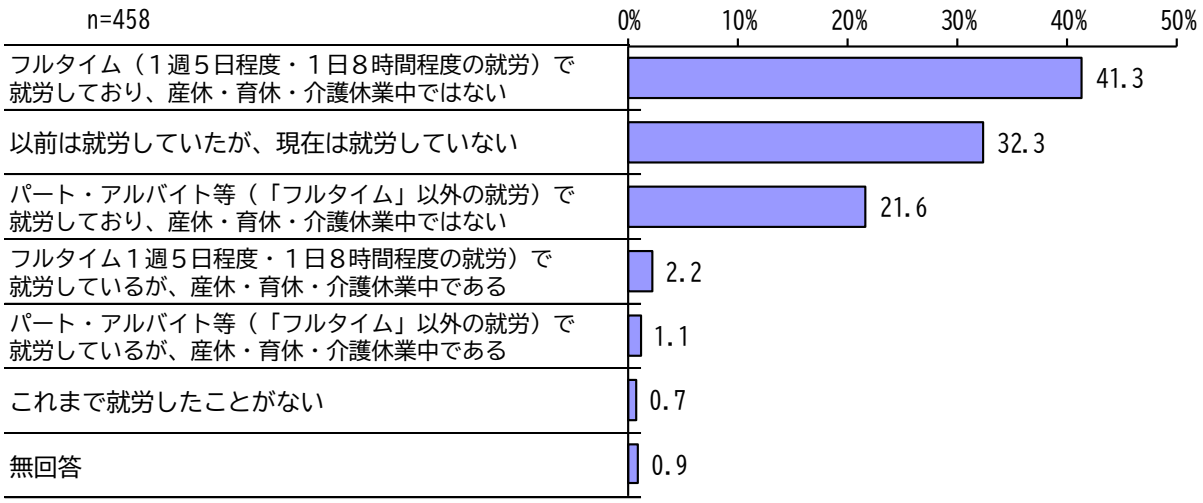
	（単位:%）	n	フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
	全体	430	***95.8***	0.2	0.9	0.0	2.1	0.2	0.7
年代別	０～２歳	14	***85.7***	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0
	３～５歳	101	***97.0***	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2.0
	６～８歳	123	***96.7***	0.0	1.6	0.0	1.6	0.0	0.0
	９～11歳	92	***96.7***	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0
	12～14歳	50	***98.0***	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	15歳以上	47	***89.4***	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	2.1
障害別	肢体不自由	35	***97.1***	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	27	***96.3***	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	視覚障害	7	***85.7***	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	13	***92.3***	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	25	***92.0***	0.0	4.0	0.0	4.0	0.0	0.0
	知的障害	152	***98.7***	0.0	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0
	発達障害	264	***95.8***	0.4	1.1	0.0	1.9	0.4	0.4
	精神障害	14	***92.9***	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	28	***92.9***	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
	問15に該当する方	241	***95.4***	0.0	1.7	0.0	2.9	0.0	0.0
	その他	28	***92.9***	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0

年代別にみると、いずれの年代でも「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が８割半ばを超えて最も高く、特に３～14 歳の年代で９割半ばを超えています。

障害別にみると、いずれの障害でも、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が８割半ばを超えて最も高くなっています。

（６）母親の就労状況

問６　あなたの母親の就労状況をお答えください。（○はひとつ）



母親の就労状況は、「フルタイム（１週５日程度・１日８時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 41.3%と４割を超えて最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 32.3%、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 21.6%と続いています。

一方、「これまで就労したことがない」は 0.7%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
全体		458	***41.3***	2.2	21.6	1.1	32.3	0.7	0.9
年代別	０～２歳	15	26.7	0.0	6.7	0.0	***66.7***	0.0	0.0
	３～５歳	105	***43.8***	4.8	21.9	2.9	26.7	0.0	0.0
	６～８歳	127	***44.1***	1.6	15.0	0.0	36.2	0.8	2.4
	９～11歳	103	***36.9***	2.9	29.1	1.0	29.1	1.0	0.0
	12～14歳	50	***34.0***	0.0	***34.0***	0.0	32.0	0.0	0.0
	15歳以上	55	***49.1***	0.0	16.4	0.0	30.9	1.8	1.8
障害別	肢体不自由	35	34.3	5.7	14.3	0.0	***45.7***	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	29	***55.2***	3.4	13.8	0.0	27.6	0.0	0.0
	視覚障害	8	***50.0***	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	13	***38.5***	7.7	15.4	0.0	***38.5***	0.0	0.0
	内部障害	26	***50.0***	0.0	23.1	0.0	26.9	0.0	0.0
	知的障害	164	***40.9***	1.8	25.0	0.0	31.1	1.2	0.0
	発達障害	281	***37.7***	1.8	24.2	0.7	33.8	0.7	1.1
	精神障害	16	***56.3***	6.3	18.8	0.0	18.8	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	29	31.0	3.4	20.7	0.0	***44.8***	0.0	0.0
	問15に該当する方	258	36.4	1.9	22.1	1.2	***37.2***	0.4	0.8
	その他	31	***41.9***	0.0	12.9	3.2	***41.9***	0.0	0.0

年代別にみると、“０～２歳”では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が６割半ばを超えており、他の年代より高くなっています。また、いずれの年代でも２割半ばを超えています。

それ以外の年代では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が３割を超えて最も高くなっています。また、“12～14 歳”では「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」も最も高くなっています。

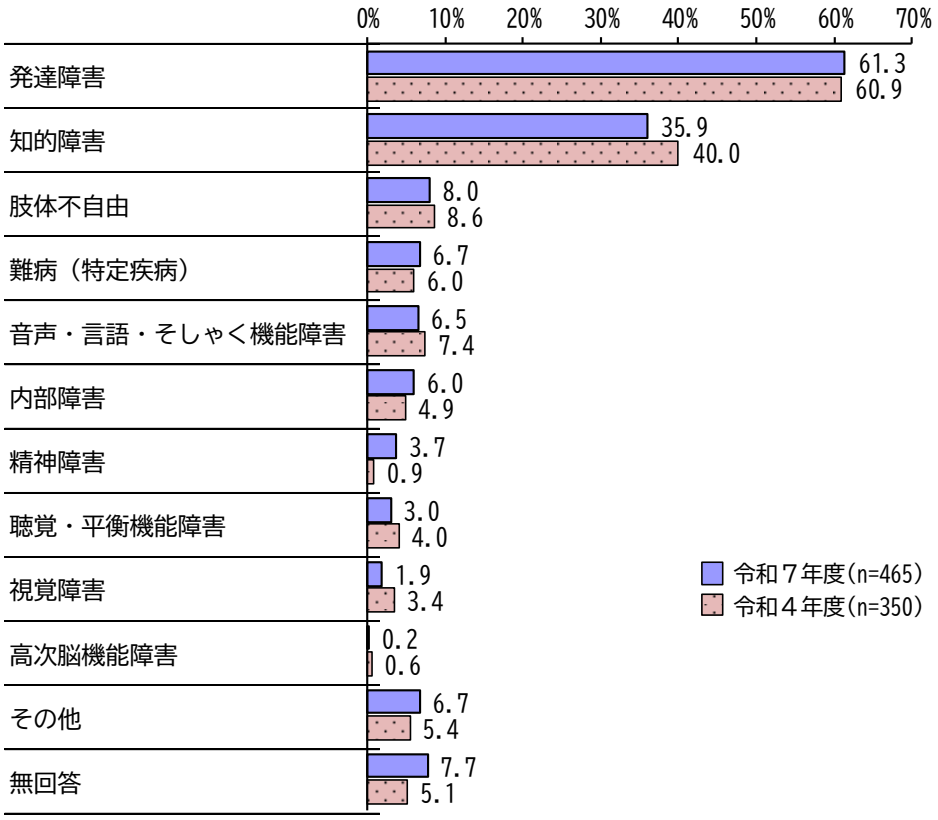
障害別にみると、回答数が 10 以上の障害で、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“内部障害”、“精神障害”では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が５割以上と、他の障害より高くなっています。

また、“肢体不自由”、“難病（特定疾病）”、“その他”では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が４割を超えて、他の障害より高くなっています。

２　障害と健康について

（１）障害の種別

問７　あなたには、次の障害等がありますか。（あてはまるものすべてに○）



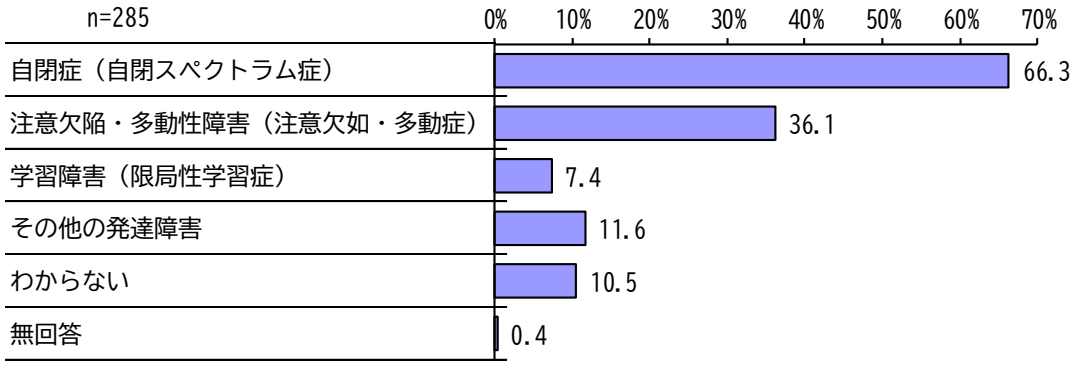
障害の種類は、「発達障害」が 61.3％と最も高く、次いで「知的障害」が 35.9％で続いています。それ以外の障害はいずれも１割を下回っています。

令和４年度と比較すると、「知的障害」で4.1ポイント下がっていますが、全体的な傾向にあまり変化はありません。

（２）発達障害診断名

問７で「発達障害（自閉症、アスペルガー症候群等）」と回答された方にお聞きします。

問７－１　発達障害の診断名をお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）



発達障害の診断名は、「自閉症（自閉スペクトラム症）」が 66.3％と６割半ばを超えて最も高く、次いで「注意欠陥・多動性障害（注意欠如・多動症）」が36.1％、「学習障害（限局性学習症）」が7.4％と続いています。

（３）難病疾病名

問７で「難病（特定疾病）」と回答された方にお聞きします。

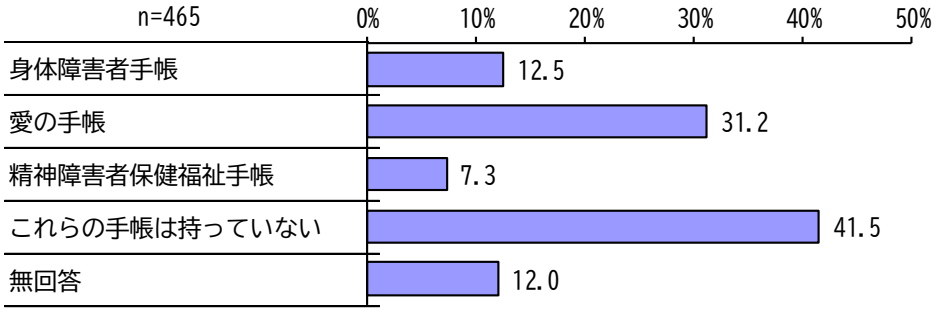
問７－２　病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

難病の疾病名は下表の通りです。

疾病名	件数	疾病名	件数
ＣＦＣ症候群	2	ヌーナン症候群	1
アンジェルマン症候群	2	４ｐ欠失症候群	1
22q11.2 欠失症候群	2	総動脈幹遺残症	1
滑脳症	2	両大血管右室起始症	1
神経線維腫症Ⅰ型	1	ファロー四徴症	1
特発性拡張型心筋症	1	メープルシロップ尿症	1
成長ホルモン分泌不全症	1	慢性腎疾患	1
全身型若年性特発性関節炎	1	慢性心疾患	1
脊髄髄膜瘤	1	一型糖尿病	1
メビウス症候群	1	点頭てんかん（ウエスト症候群）	1
結節性硬化症	1	ＣＡＳＫ異常症	1
ジュベール症候群関連疾患	1	もやもや病	1
クルーゾン症候群	1	ゴーシェ病	1
アペール症候群	1	その他	4
コフィン・シリス症候群	1		

（４）手帳の種類

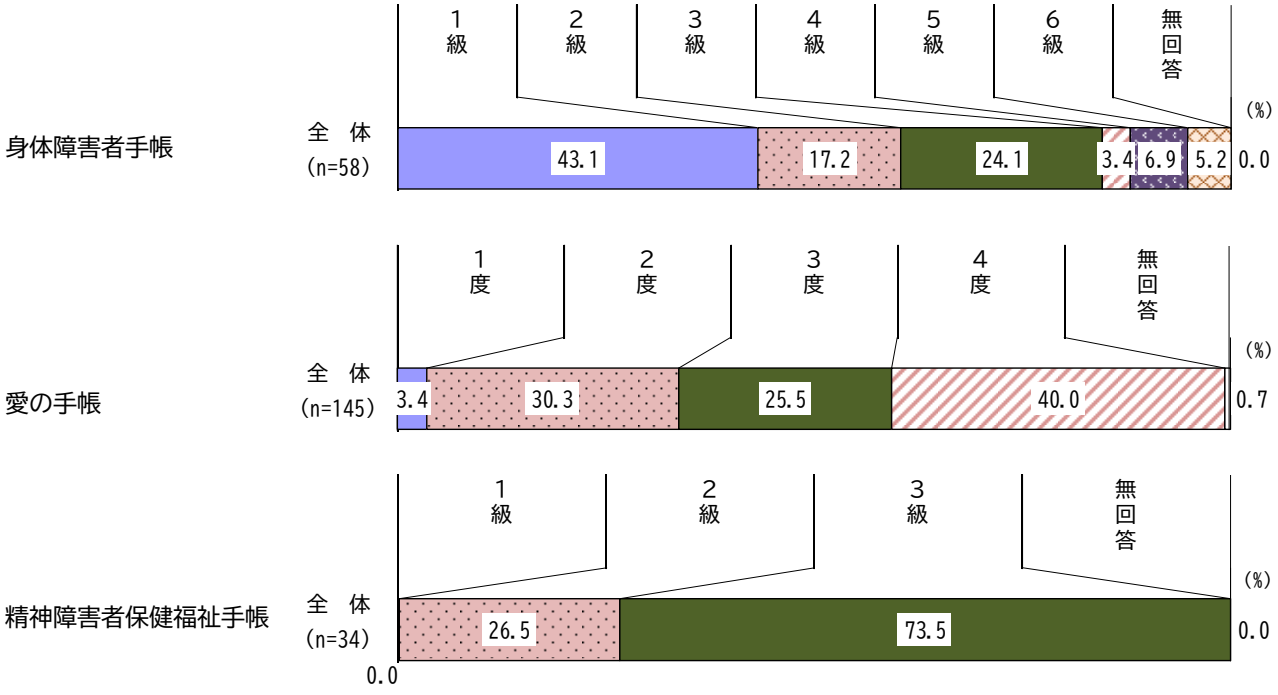
問８　あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。（あてはまるものすべてに○）



手帳の所持状況は、「愛の手帳」が31.2%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が12.5%、「精神障害者保健福祉手帳」が7.3%と続いています。

一方、「これらの手帳は持っていない」は41.5%と全体の４割を超えています。

【各等級別】



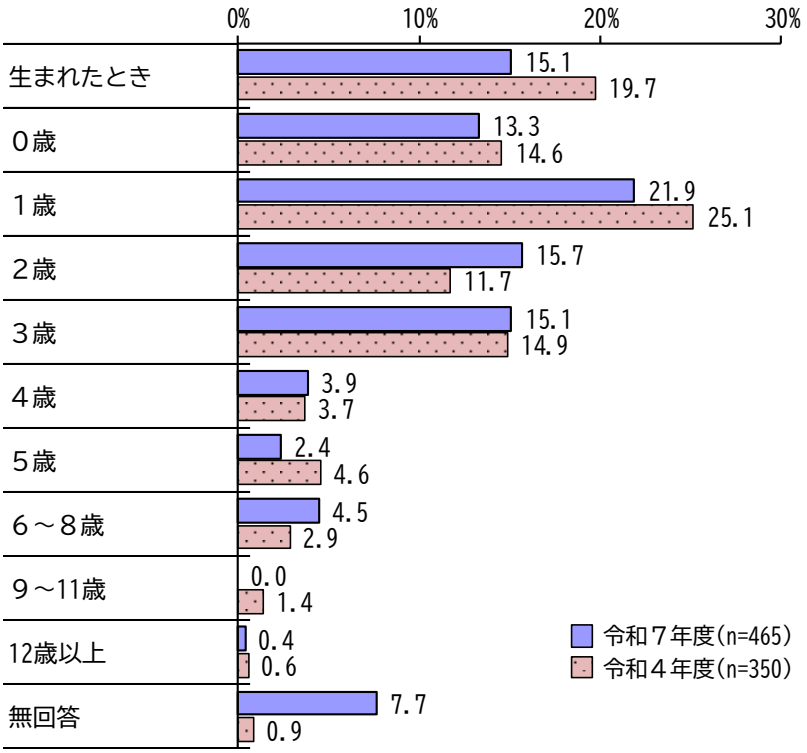
身体障害者手帳の等級は、「１級」が 43.1%と最も高く、次いで「３級」が 24.1%、「２級」が17.2%と続いています。

愛の手帳の等級は、「４度」が40.0%と４割を占めて最も高く、次いで「２度」が30.3%、「３度」が25.5%と続いています。

精神障害者保健福祉手帳の等級は、「３級」が 73.5%と最も高く、次いで「２級」が 26.5%と続いています。

（５）障害に気づいた時期

問９　**保護者の方にお聞きします。**お子さんの障害や心身の不調について、最初に気づいた時期はいつですか。（○はひとつ）



保護者が障害に気づいた時期は、「１歳」が 21.9％と２割を超えて最も高く、次いで「２歳」が15.7％、「生まれたとき」と「３歳」がともに15.1％、「０歳」が13.3％と１割台で続いており、出生時から３歳までで８割を超えています。

令和４年度と比較すると、「２歳」で4.0ポイント上がっており、反対に「生まれたとき」で4.6ポイント、「１歳」で3.2ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

	（単位:%）	n	生まれたとき	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳
	全体	465	15.1	13.3	***21.9***	15.7	15.1	3.9
障害別	肢体不自由	37	***48.6***	37.8	2.7	0.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***53.3***	20.0	10.0	3.3	6.7	0.0
	視覚障害	9	22.2	***55.6***	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	***50.0***	21.4	7.1	0.0	0.0	0.0
	内部障害	28	***82.1***	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	167	23.4	16.8	***24.0***	12.6	7.8	3.0
	発達障害	285	3.9	11.6	***28.4***	19.3	21.1	5.3
	精神障害	17	17.6	***35.3***	17.6	0.0	11.8	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	***38.7***	25.8	9.7	6.5	0.0	0.0
	その他	31	16.1	***25.8***	***25.8***	19.4	9.7	0.0

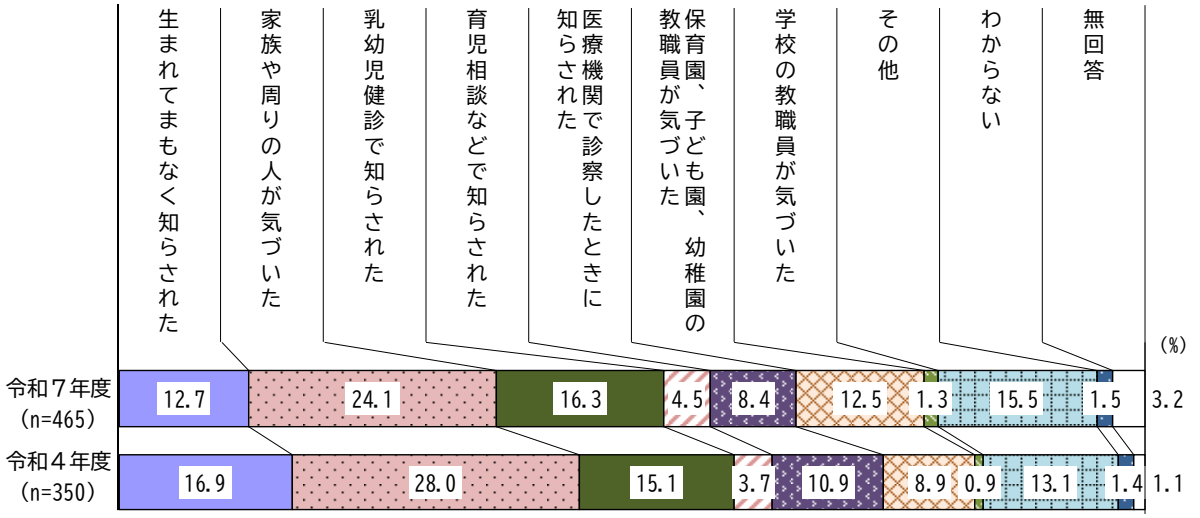
	（単位:%）	n	5歳	6～8歳	9～11歳	12歳以上	無回答
	全体	465	2.4	4.5	0.0	0.4	7.7
障害別	肢体不自由	37	0.0	0.0	0.0	0.0	10.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
	視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3
	内部障害	28	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
	知的障害	167	1.8	1.2	0.0	0.6	9.0
	発達障害	285	3.2	4.6	0.0	0.4	2.5
	精神障害	17	0.0	11.8	0.0	5.9	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	0.0	6.5	0.0	0.0	12.9
	その他	31	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2

障害別にみると、“精神障害”と“その他”では「０歳」が最も高く、“知的障害”、“発達障害”、“その他”では「１歳」が２割を超えて最も高くなっています。

それ以外の障害では「生まれたとき」が最も高く、特に“内部障害”は８割を超えて、他の障害より高くなっています。

（６）障害に気づいた状況

問10　**保護者の方にお聞きします。**お子さんの障害や心身の不調についてはじめてわかったのは、どのようなときでしたか。（○はひとつ）



保護者が障害に気づいた状況は、「家族や周りの人が気づいた」が 24.1％と２割を超えて最も高く、次いで「乳幼児健診で知らされた」が16.3％、「生まれてまもなく知らされた」が12.7％、「保育園、こども園、幼稚園の教職員が気づいた」が12.5％と続いています。

令和４年度と比較すると、「保育園、こども園、幼稚園の教職員が気づいた」が3.6ポイント上がっていますが、反対に「生まれてまもなく知らされた」が4.2ポイント、「家族や周りの人が気づいた」が3.9ポイント、「医療機関で診察したときに知らされた」が2.5ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	生まれてまもなく知らされた	家族や周りの人が気づいた	乳幼児健診で知らされた	育児相談などで知らされた	医療機関で診察したときに知らされた
全体		465	12.7	***24.1***	16.3	4.5	8.4
障害別	肢体不自由	37	***48.6***	8.1	13.5	0.0	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***46.7***	13.3	13.3	0.0	6.7
	視覚障害	9	***33.3***	***33.3***	0.0	0.0	22.2
	聴覚・平衡機能障害	14	***35.7***	14.3	7.1	0.0	14.3
	内部障害	28	***50.0***	0.0	3.6	0.0	10.7
	知的障害	167	22.2	***24.6***	16.8	4.8	7.8
	発達障害	285	1.4	***31.9***	18.9	5.6	9.5
	精神障害	17	17.6	***23.5***	11.8	5.9	17.6
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	***32.3***	6.5	22.6	0.0	22.6
	その他	31	3.2	***32.3***	19.4	0.0	6.5

（単位:%）		n	保育園、こども園、幼稚園の教職員が気づいた	学校の教職員が気づいた	その他	わからない	無回答
全体		465	12.5	1.3	15.5	1.5	3.2
障害別	肢体不自由	37	0.0	0.0	21.6	0.0	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	3.3	0.0	16.7	0.0	0.0
	視覚障害	9	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
	内部障害	28	0.0	0.0	32.1	0.0	3.6
	知的障害	167	9.0	1.2	12.6	0.6	0.6
	発達障害	285	16.1	1.1	14.4	1.1	0.0
	精神障害	17	5.9	5.9	11.8	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	0.0	0.0	12.9	0.0	3.2
	その他	31	6.5	0.0	32.3	0.0	0.0

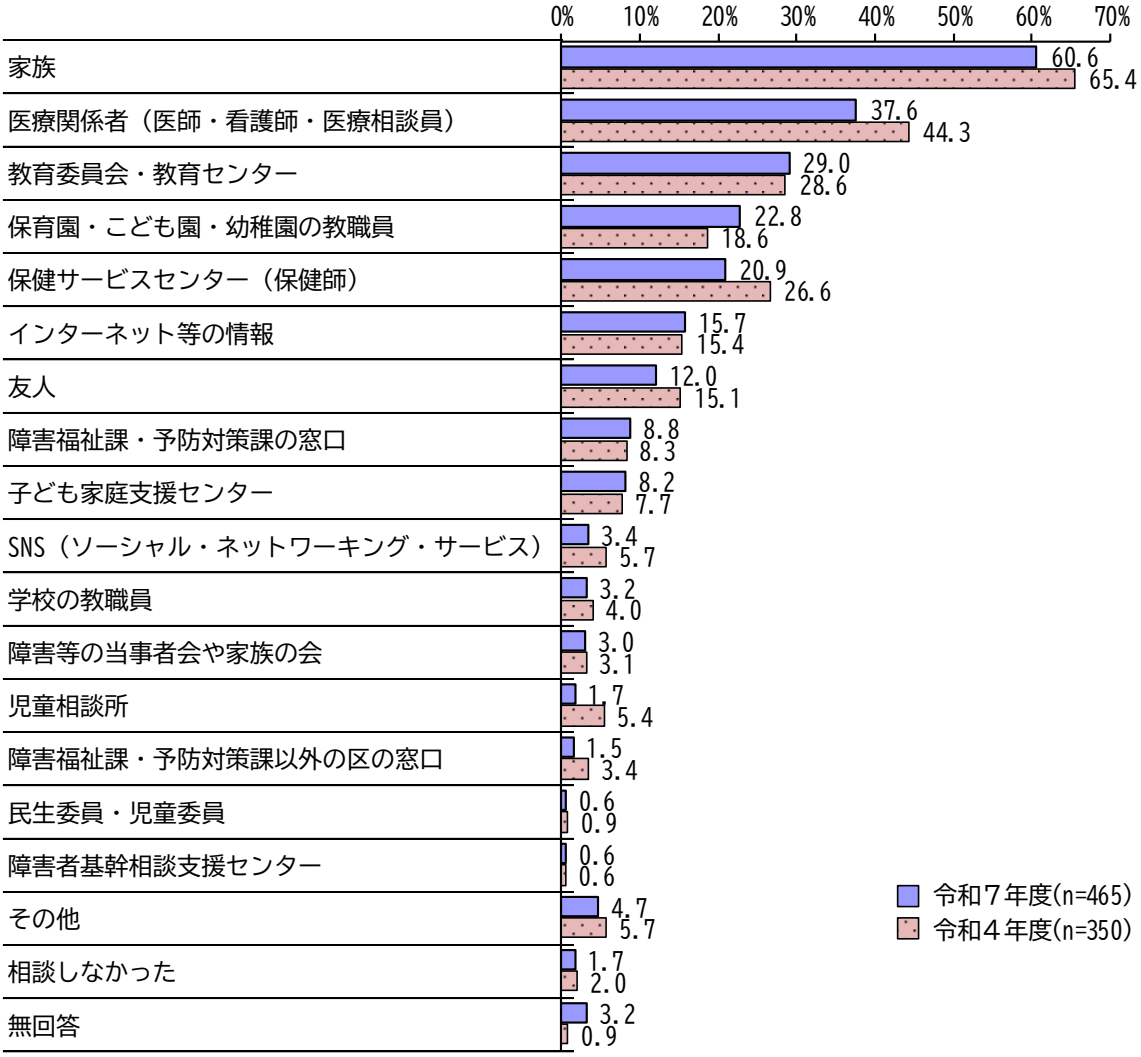
障害別にみると、いずれの障害でも「生まれてまもなく知らされた」か「家族や周りの人が気づいた」が最も高く、特に“内部障害”では「生まれてまもなく知らされた」が５割に達しています。

また、“難病（特定疾病）”では「乳幼児健診で知らされた」や「医療機関で診察したときに知らされた」が２割を超えて、他の障害より高くなっています。

“発達障害”では「保育園、こども園、幼稚園の教職員が気づいた」が１割半ばを超えて、他の障害より高くなっています。

（7）障害に気づいたときの相談相手

問11　**保護者の方にお聞きします。**お子さんの障害や心身の不調についてはじめてわかったとき、誰に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）



障害に気づいたときの相談相手は、「家族」が 60.6%と６割に達し最も高く、次いで「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が 37.6%、「教育委員会・教育センター」が 29.0%、「保育園・こども園・幼稚園の教職員」が 22.8%と続いています。

一方、「相談しなかった」は 1.7%となっています。

令和４年度と比較すると、「保育園・こども園・幼稚園の教職員」が 4.2 ポイント上がっていますが、「その他」と「相談しなかった」を除く 16 項目中 10 項目で下がっており、特に「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が 6.7 ポイント、「保健サービスセンター（保健師）」が 5.7 ポイント、「家族」が 4.8 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	家族	友人	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	医療関係者（医師・看護師・医療相談員）	障害福祉課・予防対策課の窓口	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター（保健師）
全体		465	***60.6***	12.0	3.2	22.8	0.6	3.0	37.6	8.8	1.5	20.9
障害別	肢体不自由	37	***75.7***	2.7	0.0	0.0	0.0	2.7	64.9	2.7	0.0	18.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***66.7***	3.3	0.0	6.7	0.0	10.0	63.3	6.7	0.0	16.7
	視覚障害	9	***77.8***	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	***77.8***	0.0	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	***92.9***	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	50.0	7.1	0.0	7.1
	内部障害	28	***82.1***	14.3	0.0	0.0	0.0	10.7	57.1	3.6	0.0	7.1
	知的障害	167	***67.1***	11.4	1.8	16.8	0.6	5.4	45.5	6.0	0.6	21.0
	発達障害	285	***62.1***	13.0	3.2	28.8	1.1	1.4	34.4	12.3	2.1	21.1
	精神障害	17	***70.6***	23.5	11.8	5.9	0.0	17.6	64.7	23.5	5.9	5.9
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	***100.0***
	難病（特定疾病）	31	***80.6***	9.7	3.2	3.2	0.0	3.2	45.2	3.2	0.0	19.4
	その他	31	***54.8***	16.1	0.0	25.8	0.0	0.0	29.0	6.5	0.0	38.7

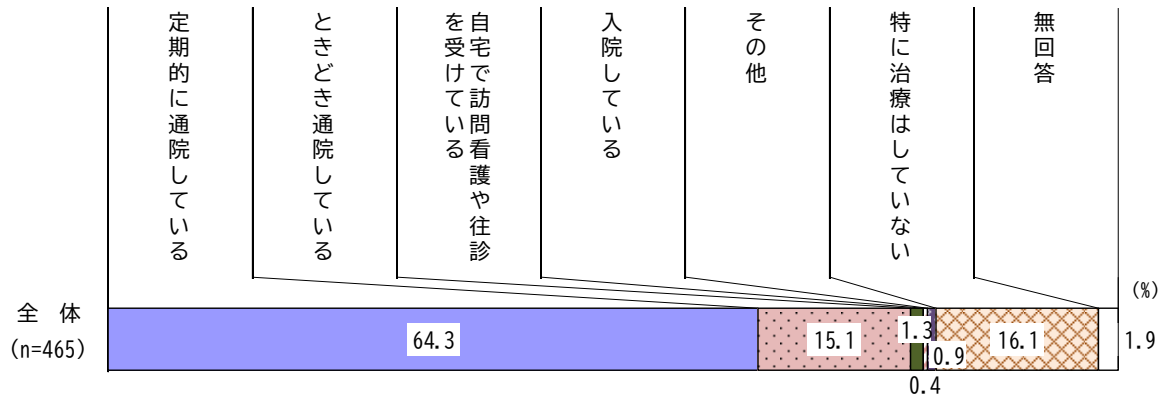
（単位:%）		n	障害者基幹相談支援センター	子ども家庭支援センター	教育委員会・教育センター	児童相談所	インターネット等の情報	SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）	その他	相談しなかった	無回答
全体		465	0.6	8.2	29.0	1.7	15.7	3.4	4.7	1.7	3.2
障害別	肢体不自由	37	0.0	2.7	5.4	0.0	16.2	5.4	2.7	2.7	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	6.7	6.7	0.0	13.3	13.3	0.0	3.3	0.0
	視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	7.1	7.1	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0
	内部障害	28	0.0	0.0	0.0	0.0	10.7	7.1	3.6	7.1	3.6
	知的障害	167	1.8	6.6	19.8	1.8	16.2	3.0	4.2	1.2	0.6
	発達障害	285	1.1	9.1	34.0	2.8	18.2	2.8	5.6	1.1	0.0
	精神障害	17	0.0	11.8	23.5	5.9	29.4	11.8	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	0.0	6.5	9.7	3.2	9.7	0.0	0.0	0.0	3.2
	その他	31	0.0	9.7	41.9	0.0	12.9	3.2	6.5	6.5	0.0

障害別にみると、いずれの障害でも「家族」が最も高く、“その他”以外では「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が２番目に高くなっています。

また、“発達障害”と“その他”では、「保育園・こども園・幼稚園の教職員」や「教育委員会・教育センター」が他の障害より高くなっています。

（８）受診状況

問 12　あなたの受診状況等（歯科医療も含む）をお聞きします。（○はひとつ）



医療機関への受診状況は、「定期的に通院している」が 64.3%と最も高く、次いで「ときどき通院している」が 15.1%と続いています。

一方「特に治療はしていない」は 16.1%となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	定期的に通院している	ときどき通院している	自宅で訪問看護や往診を受けている	入院している	その他	特に治療はしていない	無回答
全体		465	***64.3***	15.1	1.3	0.4	0.9	16.1	1.9
障害別	肢体不自由	37	***70.3***	8.1	10.8	5.4	0.0	5.4	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***73.3***	10.0	10.0	6.7	0.0	0.0	0.0
	視覚障害	9	***66.7***	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	***78.6***	7.1	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0
	内部障害	28	***82.1***	3.6	7.1	3.6	0.0	3.6	0.0
	知的障害	167	***74.3***	12.0	3.0	1.2	0.0	9.6	0.0
	発達障害	285	***64.6***	17.5	0.7	0.4	0.7	16.1	0.0
	精神障害	17	***76.5***	5.9	0.0	5.9	5.9	5.9	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	***83.9***	0.0	6.5	3.2	0.0	6.5	0.0
	その他	31	***51.6***	16.1	0.0	3.2	3.2	25.8	0.0

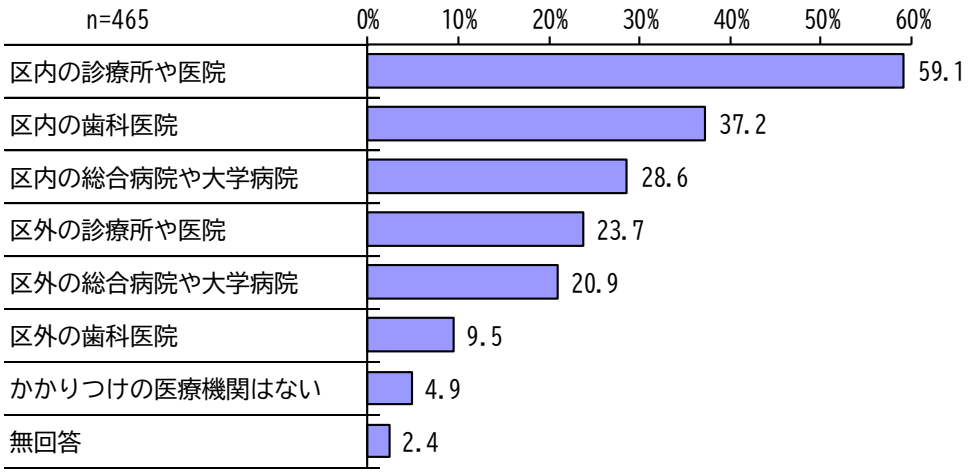
障害別にみると、いずれの障害でも「定期的に通院している」が５割を超えて最も高くなっています。

“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”では、「自宅で訪問看護や往診を受けている」は１割を占めて、他の障害より高くなっています。

“発達障害”と“その他”では、「特に治療はしていない」が他の障害より高くなっています。

（９）かかりつけ医療機関の有無

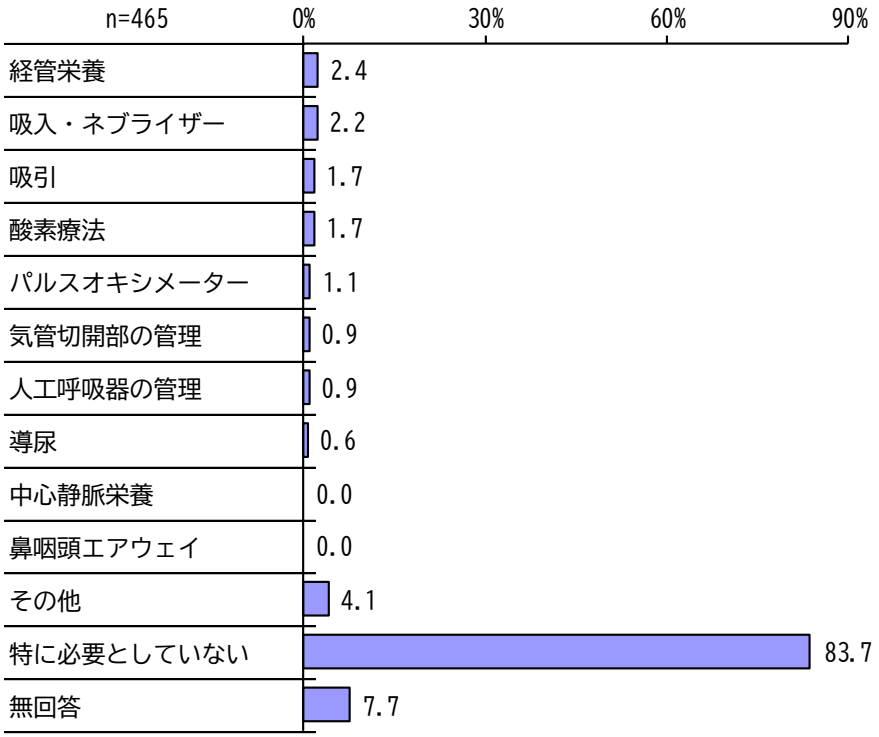
問 13　かかりつけの医療機関をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）



かかりつけの医療機関は、「区内の診療所や医院」が 59.1％と６割近くで最も高く、次いで「区内の歯科医院」が 37.2％、「区内の総合病院や大学病院」が 28.6％と続いています。

（10）必要な医療的ケア

問 14　あなたが必要とする医療的ケアをお聞きします。（あてはまるものすべてに○）



必要とする医療的ケアは、いずれの項目でも３％を切っており、「経管栄養」と「吸入・ネブライザー」のみが２％を上回っています。

一方、「特に必要としていない」は 83.7%と８割を超えています。

【クロス集計】年代別

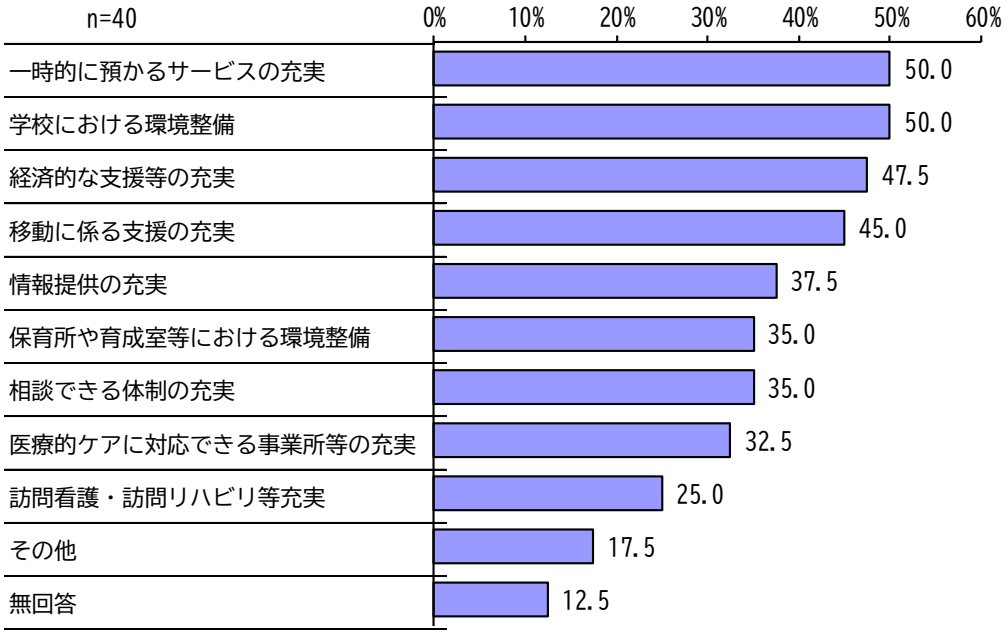
（単位:%）		n	吸引	吸入･ネブライザー	経管栄養	中心静脈栄養	導尿	酸素療法	鼻咽頭エアウェイ
全体		465	1.7	2.2	***2.4***	0.0	0.6	1.7	0.0
年代別	０～２歳	15	6.7	6.7	***13.3***	0.0	0.0	***13.3***	0.0
	３～５歳	106	0.9	0.0	***2.8***	0.0	0.0	1.9	0.0
	６～８歳	127	0.8	***2.4***	0.8	0.0	0.0	1.6	0.0
	９～11歳	104	2.9	***3.8***	1.9	0.0	1.9	1.9	0.0
	12～14歳	51	0.0	***2.0***	***2.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	15歳以上	58	***3.4***	1.7	***3.4***	0.0	1.7	0.0	0.0

（単位:%）		n	パルスオキシメーター	気管切開部の管理	人工呼吸器の管理	その他	特に必要としていない	無回答
全体		465	1.1	0.9	0.9	4.1	83.7	7.7
年代別	０～２歳	15	0.0	0.0	6.7	6.7	53.3	13.3
	３～５歳	106	0.0	0.0	0.0	3.8	86.8	5.7
	６～８歳	127	0.8	0.8	0.8	3.1	83.5	11.0
	９～11歳	104	***3.8***	2.9	1.9	2.9	85.6	6.7
	12～14歳	51	0.0	0.0	0.0	2.0	88.2	5.9
	15歳以上	58	0.0	0.0	0.0	10.3	79.3	5.2

年代別にみると、“０～２歳”では「経管栄養」や「酸素療法」が１割を超えて、他の年代より高くなっています。

（11）医療的ケア児やその介助者のために必要な支援策

問 14 で「特に必要としていない」以外を回答された方にお聞きします。
問 14-1　あなたやあなたの介助者のために、どのような支援が必要ですか。
（あてはまるものすべてに○）



医療的ケア児や介助者のために必要な支援策は、「一時的に預かるサービスの充実」と「学校における環境整備」がともに 50.0%と５割に達しており、次いで「経済的な支援等の充実」が 47.5%、「移動に係る支援の充実」が 45.0%と続いています。

【クロス集計】年代別

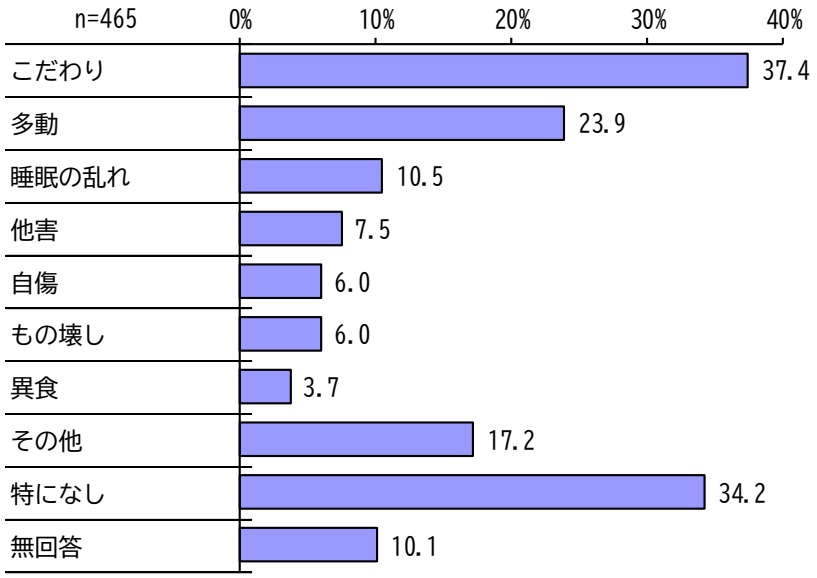
（単位:%）		n	一時的に預かるサービスの充実	移動に係る支援の充実	保育所や育成室等における環境整備	学校における環境整備	経済的な支援等の充実	医療的ケアに対応できる事業所等の充実
全体		40	***50.0***	45.0	35.0	***50.0***	47.5	32.5
年代別	０～２歳	5	60.0	40.0	***100.0***	20.0	20.0	40.0
	３～５歳	8	***50.0***	***50.0***	12.5	25.0	***50.0***	12.5
	６～８歳	7	42.9	***71.4***	57.1	***71.4***	42.9	28.6
	９～11歳	8	50.0	50.0	50.0	***87.5***	75.0	37.5
	12～14歳	3	***66.7***	***66.7***	0.0	33.3	33.3	33.3
	15歳以上	9	***44.4***	11.1	0.0	***44.4***	***44.4***	***44.4***

（単位:%）		n	訪問看護･訪問リハビリ等充実	相談できる体制の充実	情報提供の充実	その他	無回答
全体		40	25.0	35.0	37.5	17.5	12.5
年代別	０～２歳	5	40.0	40.0	60.0	0.0	0.0
	３～５歳	8	0.0	12.5	25.0	12.5	37.5
	６～８歳	7	57.1	42.9	57.1	28.6	0.0
	９～11歳	8	25.0	50.0	50.0	37.5	0.0
	12～14歳	3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3
	15歳以上	9	11.1	33.3	11.1	11.1	11.1

年代別にみると、いずれの年代でも回答数が 10 未満となっているので、表のみを掲載します。

（12）日常生活で必要な特別な配慮

問 15　日常生活の中で、特別な支援や配慮を必要とする、行動面に関する課題がありますか。
（あてはまるものすべてに○）



日常生活の中で特別な支援や配慮を必要とする行動面に関する課題について、「こだわり」が 37.4%と３割半ばを超えて最も高く、次いで「多動」が 23.9%、「睡眠の乱れ」が 10.5%と続いています。

一方、「特になし」は 34.2%と３割半ば近くを占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	自傷	他害	こだわり	もの壊し	睡眠の乱れ
全体		465	6.0	7.5	***37.4***	6.0	10.5
年代別	０～２歳	15	6.7	6.7	***26.7***	0.0	20.0
	３～５歳	106	0.9	6.6	***34.0***	4.7	7.5
	６～８歳	127	6.3	8.7	***37.8***	7.1	13.4
	９～11歳	104	6.7	6.7	***42.3***	5.8	8.7
	12～14歳	51	9.8	7.8	***35.3***	5.9	13.7
	15歳以上	58	10.3	6.9	***37.9***	6.9	8.6
障害別	肢体不自由	37	2.7	2.7	10.8	5.4	***16.2***
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	0.0	***20.0***	3.3	6.7
	視覚障害	9	11.1	0.0	***22.2***	11.1	***22.2***
	聴覚・平衡機能障害	14	7.1	14.3	***21.4***	0.0	0.0
	内部障害	28	3.6	7.1	***21.4***	7.1	3.6
	知的障害	167	11.4	10.8	***43.1***	8.4	16.2
	発達障害	285	8.4	11.2	***51.9***	8.1	12.3
	精神障害	17	5.9	5.9	***52.9***	5.9	11.8
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	3.2	6.5	***25.8***	3.2	9.7
	その他	31	6.5	9.7	***25.8***	6.5	19.4

（単位:%）		n	異食	多動	その他	特になし	無回答
全体		465	3.7	23.9	17.2	34.2	10.1
年代別	０～２歳	15	0.0	13.3	20.0	40.0	13.3
	３～５歳	106	3.8	25.5	14.2	37.7	10.4
	６～８歳	127	2.4	26.0	18.1	29.9	7.9
	９～11歳	104	4.8	26.9	22.1	29.8	11.5
	12～14歳	51	3.9	21.6	9.8	45.1	7.8
	15歳以上	58	5.2	13.8	19.0	36.2	12.1
障害別	肢体不自由	37	8.1	8.1	27.0	43.2	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	10.0	16.7	46.7	16.7
	視覚障害	9	11.1	11.1	22.2	44.4	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	7.1	21.4	50.0	7.1
	内部障害	28	3.6	7.1	21.4	53.6	3.6
	知的障害	167	4.8	24.0	19.2	28.7	7.8
	発達障害	285	4.2	34.7	17.5	25.3	6.0
	精神障害	17	5.9	11.8	29.4	11.8	17.6
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	3.2	12.9	9.7	48.4	12.9
	その他	31	6.5	16.1	25.8	38.7	6.5

年代別にみると、いずれの年代でも「こだわり」が２割半ばを超えて最も高くなっています。

また、３～14 歳の年代では、「多動」が２割を超えて高くなっています。

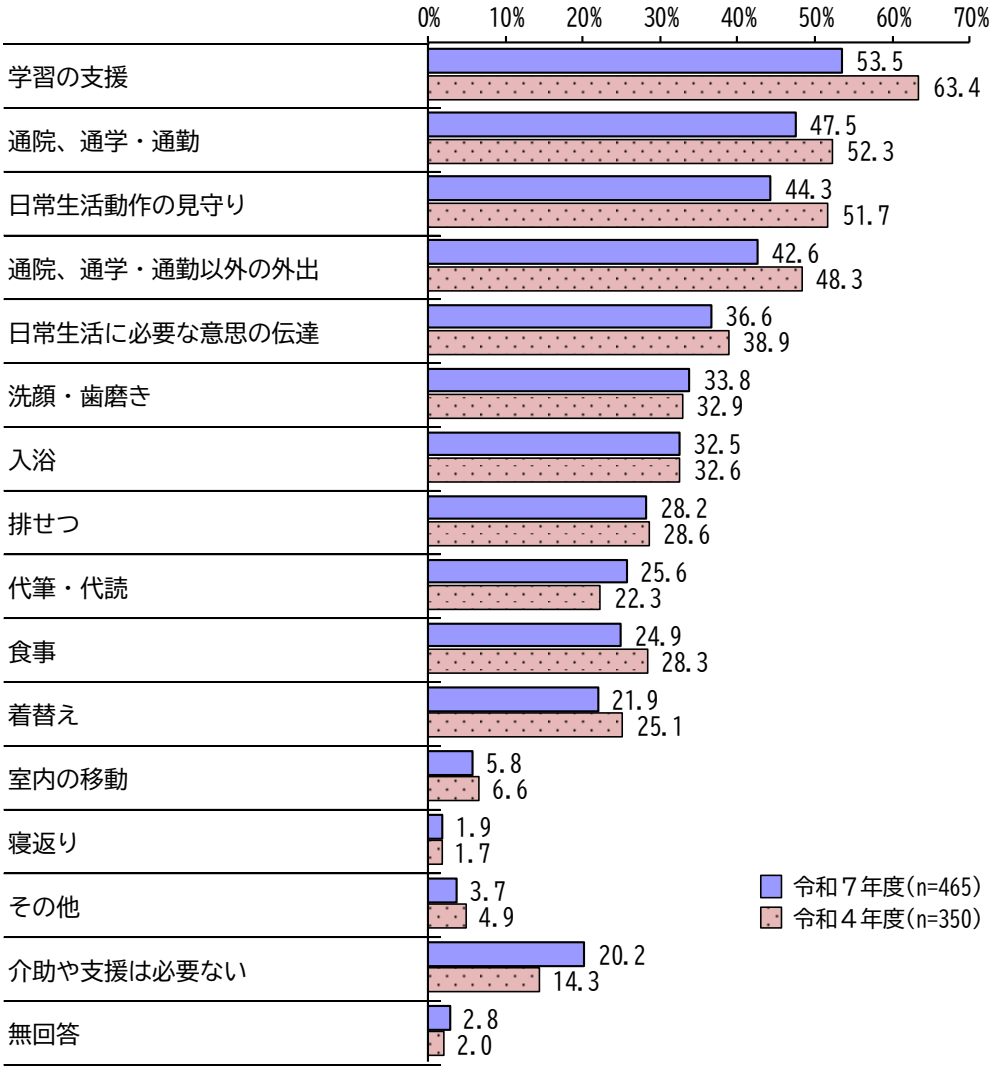
障害別にみると、回答数が 10 件以上の障害で、“肢体不自由”では「睡眠の乱れ」が最も高くなっています。

また、“肢体不自由”以外のいずれの障害でも「こだわり」が最も高く、特に“発達障害”と“精神障害”で５割を超えています。

“知的障害”と“発達障害”では「多動」が他の障害より高く、特に“発達障害”では３割半ば近くとなっています。

（13）日常生活で必要な介助や支援

問 16　あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。
（あてはまるものすべてに○）



日常生活で必要な介助や支援は、「学習の支援」が 53.5％と５割を超えて最も高く、次いで「通院、通学・通勤」が 47.5％、「日常生活動作の見守り」が 44.3％、「通院、通学・通勤以外の外出」が 42.6％と続いています。

一方、「介助や支援は必要ない」は 20.2％と２割を占めています。

令和４年度と比較すると、「その他」と「介助や支援は必要ない」を除く介助や支援の 13 項目中 10 項目で下がっており、特に「学習の支援」、「日常生活動作の見守り」、「通院、通学・通勤以外の外出」で５ポイント以上下がっています。一方、「介助や支援は必要ない」は 5.9 ポイント上がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	室内の移動	洗顔・歯磨き	代筆・代読
全体		465	24.9	28.2	32.5	1.9	21.9	5.8	33.8	25.6
障害別	肢体不自由	37	78.4	***83.8***	78.4	21.6	81.1	54.1	81.1	59.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	63.3	***73.3***	***73.3***	20.0	60.0	40.0	70.0	56.7
	視覚障害	9	***66.7***	***66.7***	***66.7***	44.4	***66.7***	44.4	***66.7***	***66.7***
	聴覚・平衡機能障害	14	28.6	35.7	35.7	7.1	28.6	21.4	42.9	28.6
	内部障害	28	35.7	42.9	39.3	7.1	25.0	21.4	35.7	35.7
	知的障害	167	46.7	52.1	58.7	3.6	39.5	12.0	61.1	49.7
	発達障害	285	20.4	24.2	29.1	0.4	16.1	2.1	29.8	23.5
	精神障害	17	35.3	29.4	29.4	0.0	23.5	11.8	35.3	41.2
	高次脳機能障害	1	***100.0***	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***	0.0	***100.0***	***100.0***
	難病（特定疾病）	31	61.3	***71.0***	67.7	12.9	64.5	32.3	61.3	51.6
	問15に該当する方	259	31.7	35.1	39.8	0.8	25.5	5.0	41.3	32.0
	その他	31	38.7	45.2	***51.6***	0.0	38.7	3.2	45.2	22.6

（単位:%）		n	通院、通学・通勤	通院、通学・通勤以外の外出	日常生活に必要な意思の伝達	日常生活動作の見守り	学習の支援	その他	介助や支援は必要ない	無回答
全体		465	47.5	42.6	36.6	44.3	***53.5***	3.7	20.2	2.8
障害別	肢体不自由	37	75.7	73.0	64.9	70.3	62.2	2.7	8.1	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***73.3***	66.7	66.7	60.0	70.0	3.3	13.3	0.0
	視覚障害	9	***66.7***	***66.7***	55.6	***66.7***	55.6	0.0	22.2	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	***50.0***	35.7	***50.0***	28.6	***50.0***	7.1	35.7	0.0
	内部障害	28	42.9	***46.4***	42.9	35.7	***46.4***	7.1	32.1	0.0
	知的障害	167	76.6	73.1	62.9	67.1	***82.0***	3.6	2.4	0.0
	発達障害	285	48.4	40.7	36.8	48.4	***57.2***	4.6	16.8	0.7
	精神障害	17	70.6	70.6	52.9	***76.5***	***76.5***	17.6	5.9	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	***71.0***	***71.0***	54.8	58.1	67.7	9.7	9.7	3.2
	問15に該当する方	259	56.4	51.0	46.3	59.5	***64.9***	5.4	9.3	0.4
	その他	31	48.4	45.2	38.7	38.7	48.4	9.7	29.0	0.0

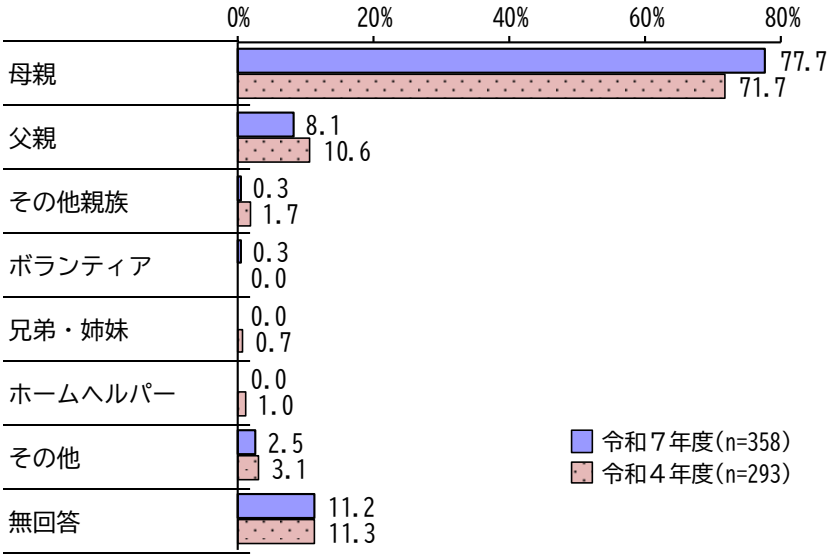
障害別にみると、いずれの障害でも、「その他」と「介助や支援は必要ない」を除く 13 項目中 10 項目で２割を超えています。

“肢体不自由”では「寝返り」を除く９項目、“音声・言語・そしゃく機能障害”では「寝返り」と「室内の移動」を除く８項目で５割を超えて高くなっています。

“知的障害”では「学習の支援」が８割を超えて、他の障害より高くなっています。

（14）主な介助者・支援者

問 17 で「介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。
問 17　あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。（○はひとつ）



主な介助者・支援者は、「母親」が77.7%と７割半ばを超えて最も高く、次いで「父親」が8.1%と続いています。

令和４年度と比較すると、「母親」が6.0ポイント上がっていますが、全体的な傾向にあまり変化はありません。

【クロス集計】障害別

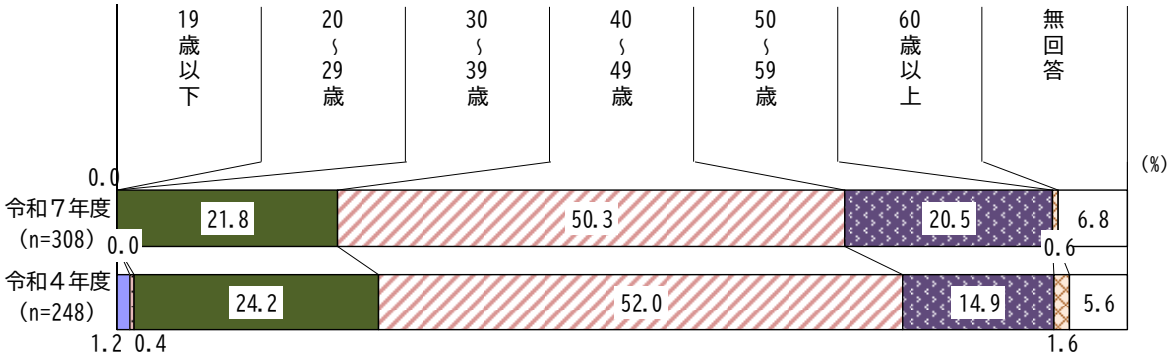
（単位:%）		n	父親	母親	兄弟･姉妹	その他親族	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
全体		358	8.1	***77.7***	0.0	0.3	0.0	0.3	2.5	11.2
障害別	肢体不自由	34	5.9	***79.4***	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	2.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	7.7	***76.9***	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7
	視覚障害	7	14.3	***71.4***	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	聴覚・平衡機能障害	9	33.3	***44.4***	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1
	内部障害	19	15.8	***68.4***	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	5.3
	知的障害	163	9.2	***74.2***	0.0	0.6	0.0	0.6	3.7	11.7
	発達障害	235	7.7	***80.9***	0.0	0.4	0.0	0.4	1.3	9.4
	精神障害	16	12.5	***75.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	27	11.1	***74.1***	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	7.4
	問15に該当する方	234	9.8	***78.2***	0.0	0.4	0.0	0.4	1.7	9.4
	その他	22	4.5	***81.8***	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	9.1

障害別にみると、いずれの障害でも「母親」が最も高くなっています。

“内部障害”、“精神障害”、“難病（特定疾病）”では、「父親」が１割を超えてやや高くなっています。

（15）主な介助者・支援者の年代

問 17 で家族や親族と回答された方にお聞きします。
問 17-1　あなたを主に介助・支援している人の年齢はいくつですか。（○はひとつ）



主な介助者・支援者の年代は、「40～49 歳」が 50.3%と５割を占めて最も高く、次いで「30～39 歳」が 21.8%、「50～59 歳」が 20.5%と続いています。また、「19 歳以下」と「20～29 歳」の回答はありませんでした。

令和４年度と比較すると、「50～59 歳」が 5.6 ポイント上がっています。

【クロス集計】介助者別・障害別

（単位:%）		n	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答
全体		308	0.0	0.0	21.8	***50.3***	20.5	0.6	6.8
介助者別	父親	29	0.0	0.0	17.2	***51.7***	27.6	3.4	0.0
	母親	278	0.0	0.0	22.3	***50.4***	19.8	0.0	7.6
	兄弟・姉妹	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他親族	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0
障害別	肢体不自由	29	0.0	0.0	17.2	***51.7***	24.1	0.0	6.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	22	0.0	0.0	13.6	***40.9***	***40.9***	0.0	4.5
	視覚障害	6	0.0	0.0	0.0	***50.0***	33.3	0.0	16.7
	聴覚・平衡機能障害	7	0.0	0.0	42.9	***57.1***	0.0	0.0	0.0
	内部障害	16	0.0	0.0	12.5	***62.5***	25.0	0.0	0.0
	知的障害	137	0.0	0.0	16.8	***46.0***	28.5	1.5	7.3
	発達障害	209	0.0	0.0	24.4	***47.8***	19.6	1.0	7.2
	精神障害	14	0.0	0.0	7.1	***57.1***	21.4	0.0	14.3
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	難病（特定疾病）	23	0.0	0.0	17.4	***65.2***	17.4	0.0	0.0
	その他	19	0.0	0.0	***42.1***	31.6	15.8	0.0	10.5

介助者別にみると、“父親”と“母親”ともに「40～49 歳」が５割を超えて最も高くなっています。

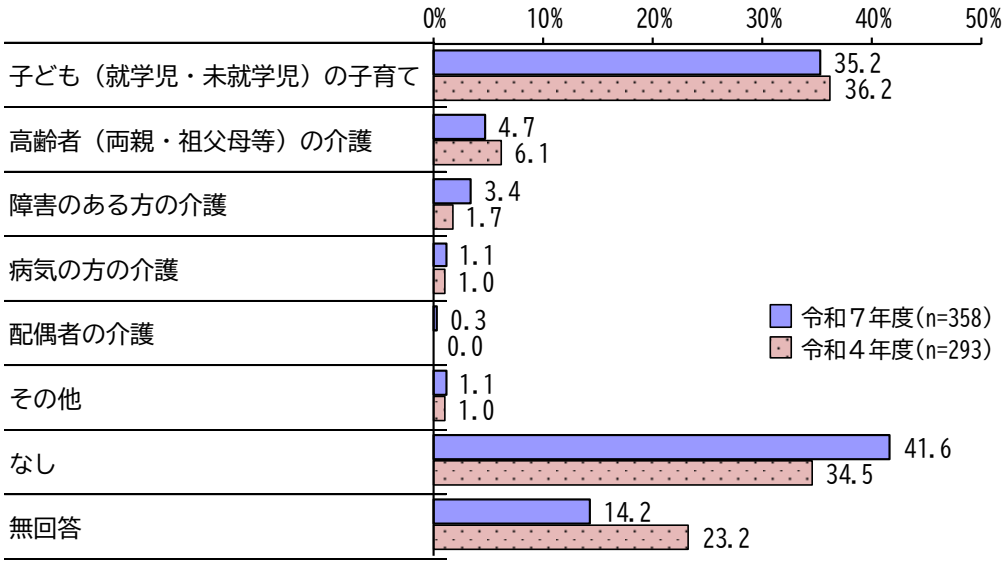
また、“父親”では「50～59 歳」、“母親”では「30～39 歳」が２割台となっています。

障害別にみると、“その他”以外のいずれの障害でも「40～49 歳」が最も高くなっています。

また、“音声・言語・そしゃく機能障害”では「50～59 歳」も４割を超えて、他の障害より高くなっています。

（16）主な介助者による介助状況

問 17 で「介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。
問 17-2　あなたを主に介助・支援している人は、あなた以外に介護や子育てをしていますか。
（あてはまるものすべてに○）



主な介助者によるその他の介助状況は、「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が 35.2%と３割半ばで最も高く、次いで「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が 4.7%、「障害のある方の介護」が 3.4%と続いています。

一方、「なし」が 41.6%と４割を超えています。

令和４年度と比較すると、「なし」が 7.1 ポイント上がっています。

【クロス集計】介助者別・障害別

（単位:%）		n	高齢者(両親･祖父母等)の介護	配偶者の介護	子ども(就学児･未就学児)の子育て	病気の方の介護	障害のある方の介護	その他	なし	無回答
全体		358	4.7	0.3	***35.2***	1.1	3.4	1.1	41.6	14.2
介助者別	父親	29	3.4	0.0	***55.2***	3.4	3.4	0.0	37.9	0.0
	母親	278	5.0	0.0	***37.1***	1.1	3.2	1.4	45.0	9.0
	兄弟・姉妹	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他親族	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ホームヘルパー	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ボランティア	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	その他	9	0.0	0.0	***22.2***	0.0	0.0	0.0	33.3	44.4
障害別	肢体不自由	34	11.8	0.0	***38.2***	0.0	5.9	0.0	29.4	20.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	3.8	0.0	***34.6***	0.0	15.4	3.8	23.1	26.9
	視覚障害	7	14.3	0.0	***28.6***	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9
	聴覚・平衡機能障害	9	0.0	0.0	***44.4***	0.0	0.0	0.0	44.4	11.1
	内部障害	19	5.3	0.0	***31.6***	0.0	0.0	0.0	31.6	31.6
	知的障害	163	4.9	0.6	***37.4***	0.6	3.1	2.5	40.5	13.5
	発達障害	235	5.1	0.0	***34.9***	1.7	3.4	0.9	43.4	12.3
	精神障害	16	12.5	0.0	***37.5***	0.0	6.3	0.0	31.3	12.5
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	27	7.4	0.0	***33.3***	3.7	11.1	0.0	37.0	14.8
	その他	22	4.5	0.0	***18.2***	0.0	0.0	0.0	68.2	13.6

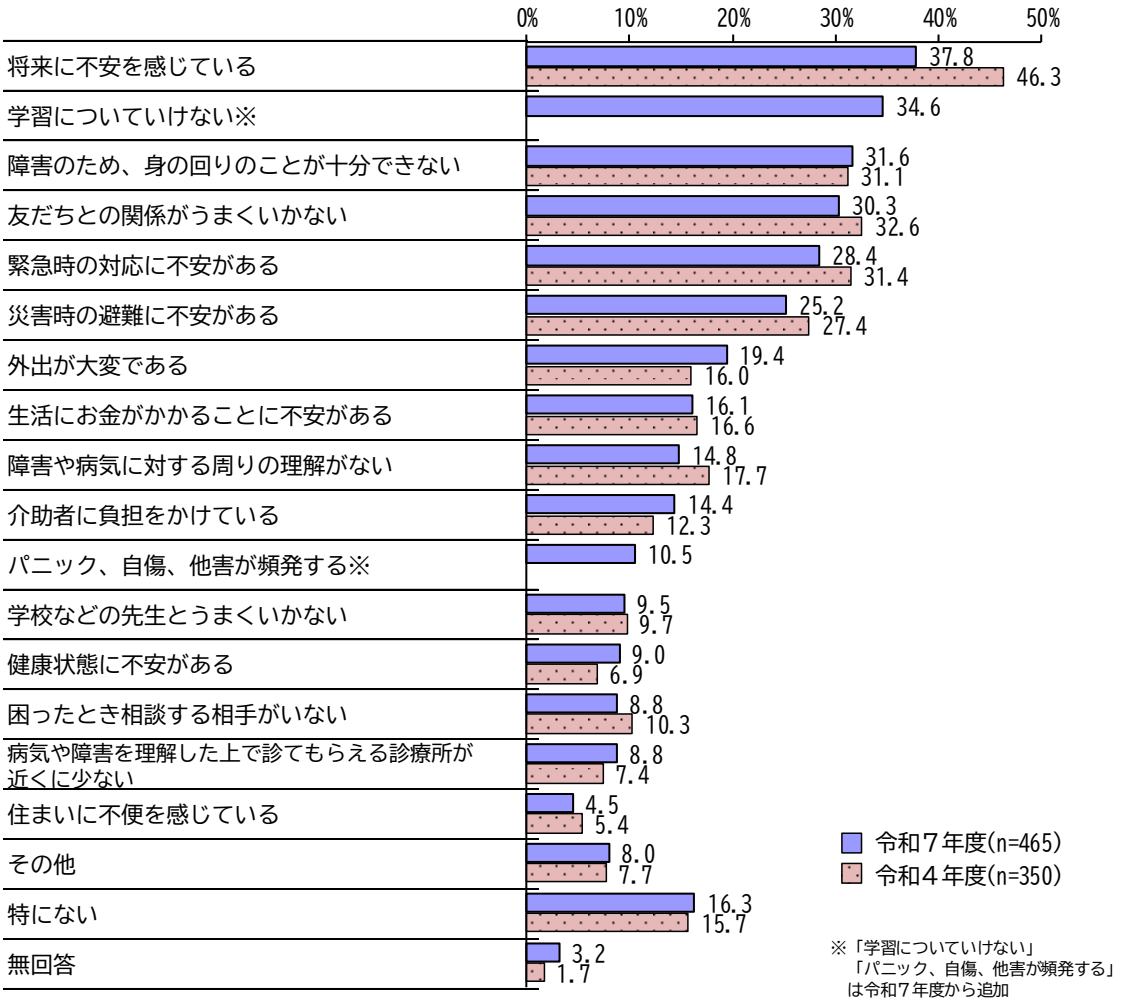
介助者別にみると、“父親”と“母親”ともに、「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が最も高く、特に“父親”は５割半ばとなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が最も高くなっています。

３　相談や福祉の情報について

（１）日常生活で困っていること

問 18　あなたは、日常生活で困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○）
（保護者や支援者の方が回答する場合でも、ご本人(お子さん)の思いをご回答ください）

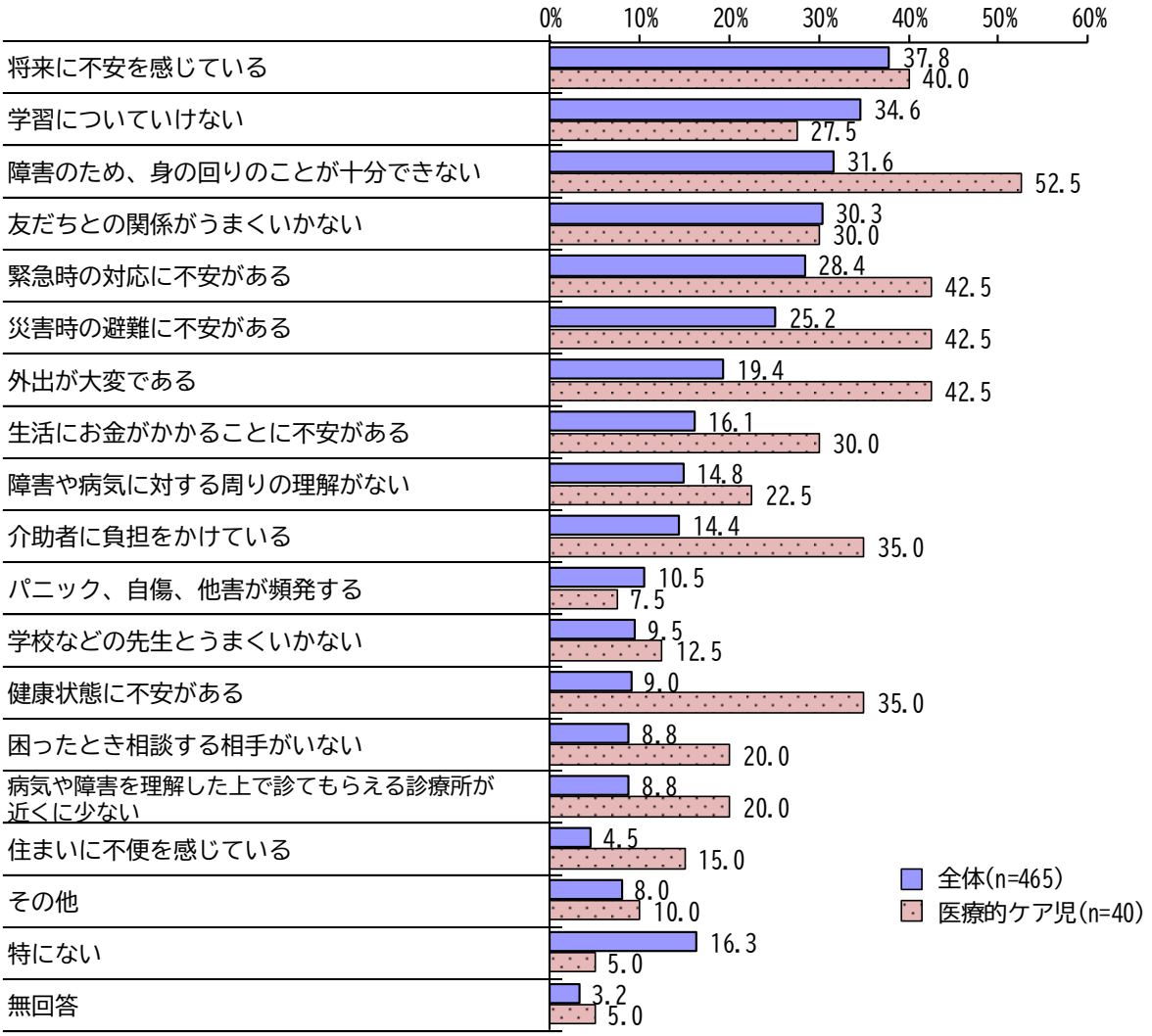


日常生活で困っていることは、「将来に不安を感じている」が 37.8％と最も高く、次いで「学習についていけない」が34.6％、「障害のため、身の回りのことが十分できない」が31.6％、「友だちとの関係がうまくいかない」が30.3％と３割台で続いています。

一方、「特にない」は16.3％となっています。

令和４年度と比較すると、「将来に不安を感じている」は8.5ポイント下がっています。それ以外は項目によって増減がありますが、全体的な傾向にあまり変化はありません。

【全体と医療的ケア児との比較】



医療的ケア児と全体を比較すると、医療的ケア児が日常生活で困っていることは、「その他」と「特にない」を除く 16 項目中 13 項目で全体を上回っており、特に「健康状態に不安がある」が 26.0 ポイント、「外出が大変である」が 23.1 ポイント、「障害のため、身の回りのことが十分できない」が 20.9 ポイント、「介助者に負担をかけている」が 20.6 ポイントと、20 ポイント以上大きく全体の割合を上回っています。

反対に、「特にない」が 11.3 ポイント、「学習についていけない」が 7.1 ポイントと、全体の割合を下回っています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	健康状態に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	介助者に負担をかけている	外出が大変である	住まいに不便を感じている	災害時の避難に不安がある	緊急時の対応に不安がある
全体		465	9.0	31.6	14.4	19.4	4.5	25.2	28.4
障害別	肢体不自由	37	32.4	***64.9***	29.7	56.8	16.2	51.4	48.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	26.7	***56.7***	23.3	40.0	10.0	43.3	26.7
	視覚障害	9	22.2	44.4	55.6	***66.7***	11.1	55.6	33.3
	聴覚・平衡機能障害	14	21.4	35.7	14.3	0.0	0.0	42.9	***50.0***
	内部障害	28	32.1	28.6	17.9	28.6	3.6	***42.9***	***42.9***
	知的障害	167	14.4	***58.7***	24.6	37.7	7.2	48.5	53.9
	発達障害	285	6.0	33.3	15.4	18.6	4.9	21.1	26.0
	精神障害	17	11.8	***52.9***	17.6	***52.9***	17.6	47.1	***52.9***
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***
	難病（特定疾病）	31	45.2	***61.3***	25.8	38.7	6.5	58.1	58.1
	問15に該当する方	259	9.3	43.2	18.9	27.4	6.2	30.9	34.7
	その他	31	16.1	29.0	16.1	19.4	3.2	29.0	25.8

（単位:%）		n	学習についていけない	学校などの先生とうまくいかない	友だちとの関係がうまくいかない	障害や病気に対する周りの理解がない	困ったとき相談する相手がいない	病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くに少ない	生活にお金がかかることに不安がある
全体		465	34.6	9.5	30.3	14.8	8.8	8.8	16.1
障害別	肢体不自由	37	18.9	0.0	8.1	5.4	10.8	5.4	32.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	20.0	3.3	16.7	13.3	6.7	6.7	33.3
	視覚障害	9	11.1	0.0	11.1	44.4	11.1	11.1	22.2
	聴覚・平衡機能障害	14	28.6	0.0	7.1	21.4	0.0	7.1	7.1
	内部障害	28	28.6	7.1	17.9	14.3	10.7	10.7	25.0
	知的障害	167	46.7	6.6	27.5	21.6	13.8	13.8	26.9
	発達障害	285	40.0	12.6	38.6	17.5	10.5	11.2	15.8
	精神障害	17	35.3	23.5	29.4	17.6	11.8	11.8	35.3
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	25.8	3.2	12.9	16.1	16.1	9.7	22.6
	問15に該当する方	259	42.5	13.9	39.4	22.0	13.9	11.2	19.7
	その他	31	32.3	9.7	32.3	6.5	9.7	12.9	9.7

（単位:%）		n	将来に不安を感じている	パニック、自傷、他害が頻発する	その他	特にない	無回答
全体		465	***37.8***	10.5	8.0	16.3	3.2
障害別	肢体不自由	37	45.9	2.7	2.7	5.4	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***56.7***	0.0	6.7	3.3	3.3
	視覚障害	9	***66.7***	11.1	11.1	11.1	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	14.3	7.1	21.4	14.3	7.1
	内部障害	28	39.3	0.0	7.1	17.9	3.6
	知的障害	167	50.9	14.4	5.4	5.4	1.8
	発達障害	285	***42.8***	15.4	8.8	14.0	0.4
	精神障害	17	***52.9***	0.0	11.8	5.9	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	45.2	3.2	9.7	9.7	3.2
	問15に該当する方	259	***47.5***	17.8	9.7	9.3	0.4
	その他	31	***41.9***	12.9	25.8	12.9	3.2

障害別にみると、いずれの障害でも「障害のため、身の回りのことが十分できない」、「災害時の避難に不安がある」、「緊急時の対応に不安がある」が２割を超えて高くなっています。

“肢体不自由”と“難病（特定疾病）”では、「障害のため、身の回りのことが十分できない」が６割を超えて、他の障害より高くなっています。

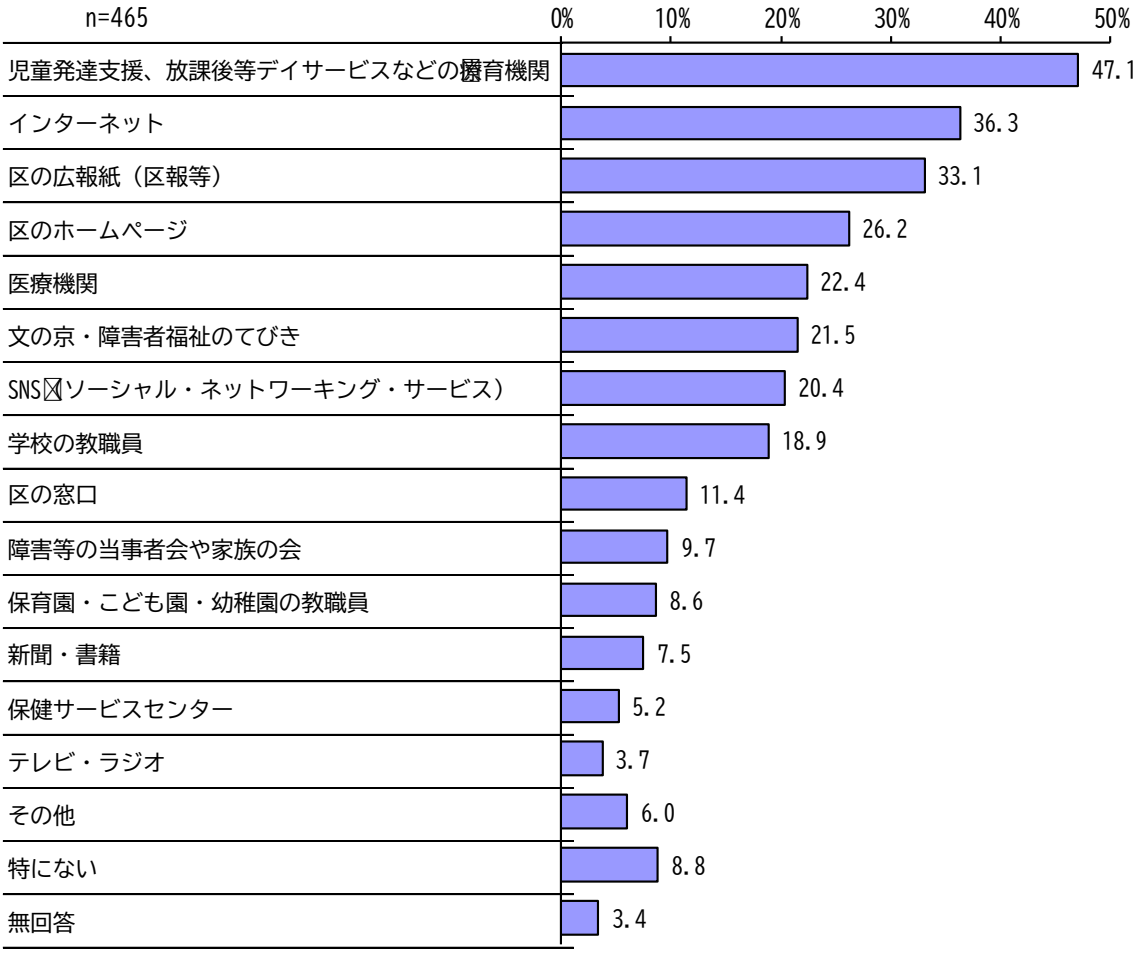
“知的障害”、“発達障害”、“問 15 に該当する方”では、「学習についていけない」が４割以上で、他の障害より高くなっています。

難病（特定疾病）”では「健康状態に不安がある」が割を半ばで、他の障害より高くなっています。

また、回答数が 10 件以上の“音声・言語・そしゃく機能障害”、“発達障害”、“精神障害”、“問 15 に該当する方”、“その他”では、「将来に不安を感じている」も４割を超え最も高くなっております。

（２）福祉情報の入手先

問 19　あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）



福祉情報の入手先は、「児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関」が 47.1％と４割半ばを超えて最も高く、次いで「インターネット」が 36.3％、「区の広報紙（区報等）」が 33.1％、「区のホームページ」が 26.2％と続いています。

一方、「特にない」は 8.8％となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	区の広報紙(区報等)	区のホームページ	文の京・障害者福祉のてびき	区の窓口	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ	インターネット	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	新聞・書籍
全体		465	33.1	26.2	21.5	11.4	5.2	3.7	36.3	20.4	7.5
障害別	肢体不自由	37	40.5	43.2	***59.5***	18.9	2.7	2.7	32.4	32.4	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	43.3	30.0	***46.7***	30.0	6.7	3.3	36.7	33.3	6.7
	視覚障害	9	***33.3***	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	22.2	22.2	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	28.6	21.4	28.6	7.1	21.4	7.1	***42.9***	35.7	7.1
	内部障害	28	***64.3***	25.0	53.6	14.3	10.7	0.0	28.6	21.4	0.0
	知的障害	167	39.5	31.7	43.1	18.0	3.6	3.0	35.9	22.8	7.2
	発達障害	285	26.7	23.2	15.1	11.6	5.6	3.9	40.4	22.8	9.5
	精神障害	17	29.4	***52.9***	41.2	23.5	5.9	0.0	47.1	35.3	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0
	難病（特定疾病）	31	***51.6***	29.0	48.4	22.6	3.2	9.7	38.7	38.7	6.5
	その他	31	25.8	32.3	12.9	9.7	9.7	0.0	***48.4***	25.8	6.5

（単位:%）		n	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関	その他	特にない	無回答
全体		465	9.7	22.4	18.9	8.6	***47.1***	6.0	8.8	3.4
障害別	肢体不自由	37	21.6	29.7	18.9	0.0	32.4	5.4	5.4	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	30.0	33.3	26.7	10.0	43.3	3.3	6.7	6.7
	視覚障害	9	11.1	22.2	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	22.2
	聴覚・平衡機能障害	14	7.1	14.3	21.4	0.0	28.6	0.0	21.4	14.3
	内部障害	28	14.3	28.6	7.1	10.7	17.9	0.0	0.0	7.1
	知的障害	167	18.0	28.1	32.3	4.2	***50.3***	8.4	7.2	3.0
	発達障害	285	7.0	20.7	20.7	8.1	***51.9***	6.3	10.5	1.1
	精神障害	17	23.5	35.3	29.4	0.0	35.3	5.9	5.9	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	19.4	25.8	19.4	3.2	38.7	0.0	3.2	6.5
	その他	31	12.9	29.0	9.7	19.4	***48.4***	6.5	3.2	3.2

障害別にみると、いずれの障害でも「区の広報紙（区報等）」、「区のホームページ」、「インターネット」、「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」が２割を超えて高くなっています。

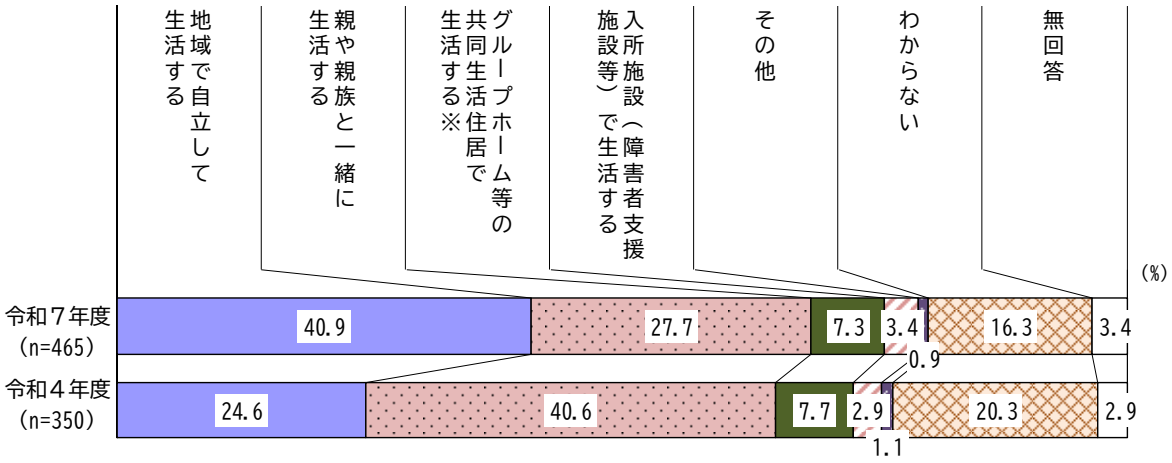
“肢体不自由”では、「文の京・障害者福祉のてびき」が約６割で他の障害より高くなっています。

“内部障害”では、「区の広報紙（区報等）」が 64.3%と６割を超えて、他の障害より高くなっています。

“精神障害”では、「区のホームページ」が、“知的障害”と“発達障害”では「児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関」が５割を超えて、他の障害より高くなっています。

（３）将来希望する生活

問 20　あなたは今後、どのような生活を希望しますか。（○はひとつ）



※「グループホーム等の共同生活住居で生活する」は令和４年度は「グループホームで生活する」

将来希望する生活は、「地域で自立して生活する」が 40.9%と最も高く、次いで「親や親族と一緒に生活する」が 27.7%と続いています。

一方、「わからない」は 16.3%となっています。

令和４年度と比較すると、「地域で自立して生活する」が 16.3 ポイント上がっており、反対に「親や親族と一緒に生活する」が 12.9 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

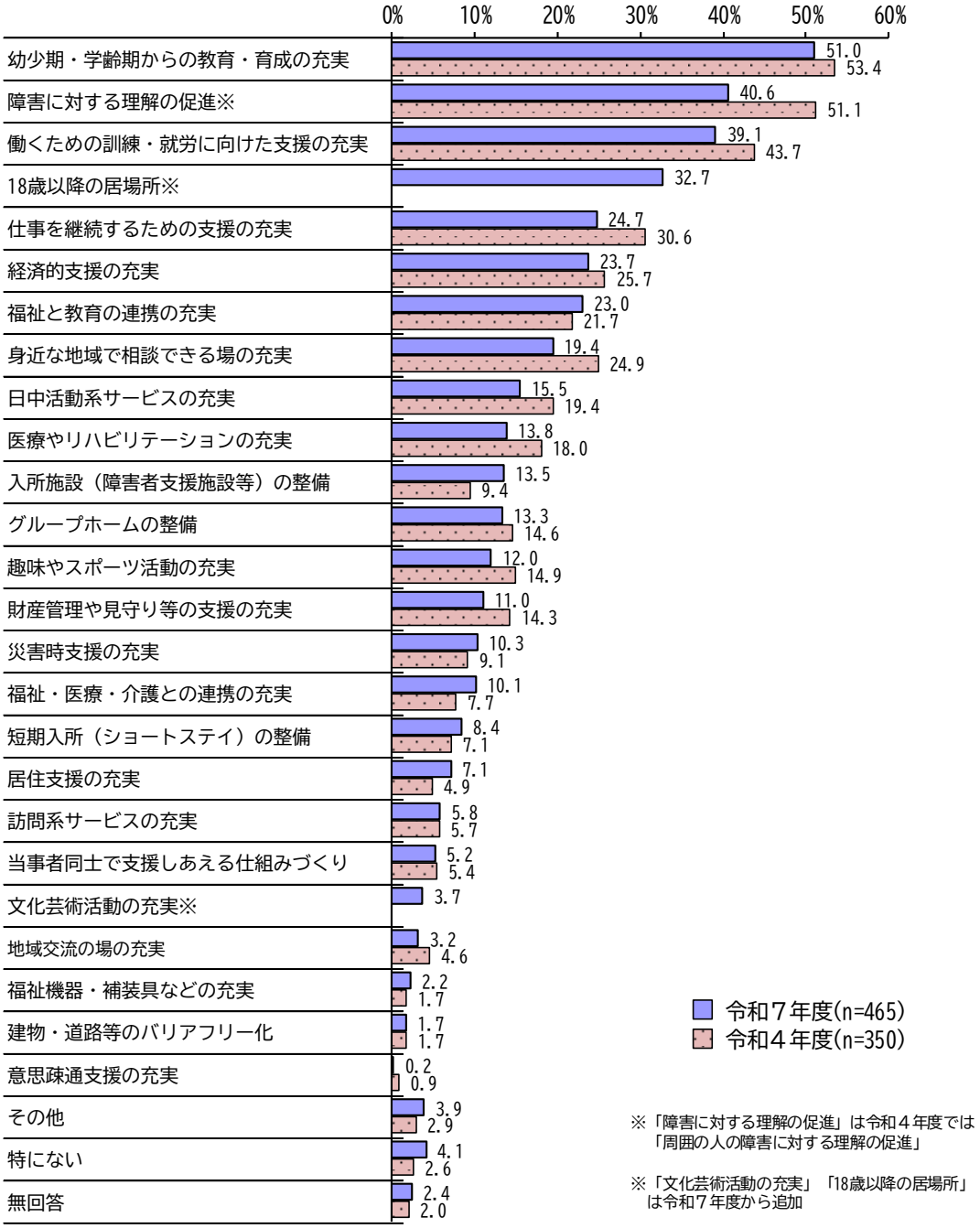
（単位:%）		n	地域で自立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホーム等の共同生活住居で生活する	入所施設（障害者支援施設等）で生活する	その他	わからない	無回答
全体		465	***40.9***	27.7	7.3	3.4	0.9	16.3	3.4
障害別	肢体不自由	37	***29.7***	13.5	13.5	24.3	0.0	13.5	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***26.7***	***26.7***	10.0	13.3	0.0	16.7	6.7
	視覚障害	9	***33.3***	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2
	聴覚・平衡機能障害	14	***57.1***	14.3	7.1	0.0	0.0	14.3	7.1
	内部障害	28	***67.9***	14.3	3.6	3.6	0.0	7.1	3.6
	知的障害	167	21.6	***31.1***	18.0	9.0	0.6	17.4	2.4
	発達障害	285	***42.5***	27.7	7.0	2.1	0.7	18.9	1.1
	精神障害	17	***23.5***	17.6	17.6	5.9	5.9	29.4	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	***32.3***	25.8	19.4	9.7	0.0	9.7	3.2
	問15に該当する方	259	***38.2***	27.0	8.1	5.0	0.8	20.1	0.8
	その他	31	35.5	***45.2***	0.0	6.5	0.0	9.7	3.2

障害別にみると、いずれの障害でも「地域で自立して生活する」が２割を超えて高くなっています。“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“その他”では「親や親族と一緒に生活する」が最も高く、それ以外の障害では「地域で自立して生活する」が最も高くなっています。

“肢体不自由”では「入所施設（障害者支援施設等）で生活する」が 24.3%と２割を超えて、他の障害より高くなっています。

（４）地域で安心して暮らすために必要な施策

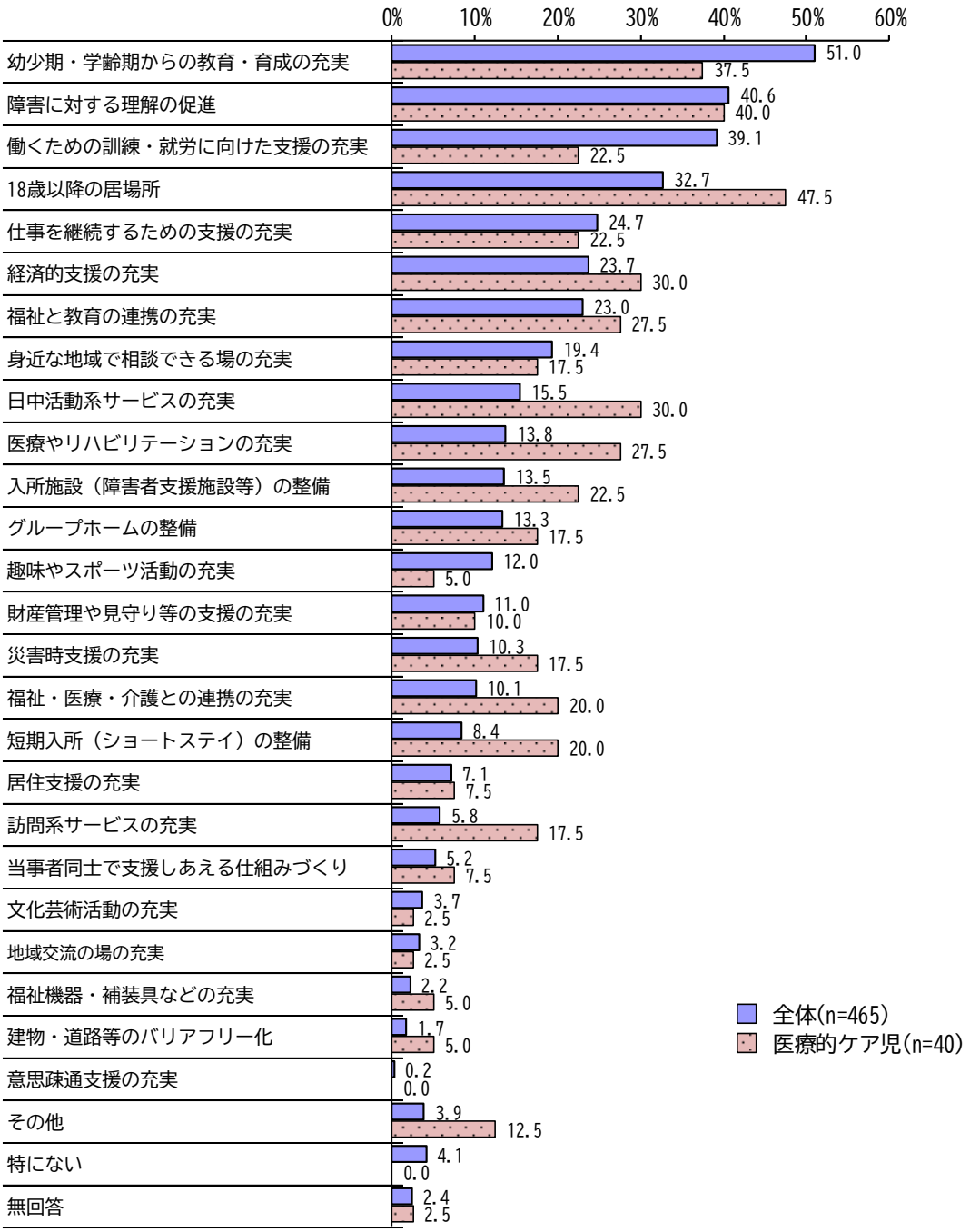
問 21　あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。（○は５つまで）



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が 51.0%と５割を超えており、次いで「障害に対する理解の促進」が 40.6%、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が 39.1%、「18 歳以降の居場所」32.7%と続いています。

令和４年度と比較すると、「障害に対する理解の促進」、「仕事を継続するための支援の充実」、「身近な地域で相談できる場の充実」で５ポイント以上下がっています。

【全体と医療的ケア児との比較】



医療的ケア児と全体を比較すると、医療的ケア児が地域で安心して暮らすために必要な施策の割合は、「18 歳以降の居場所」が 14.8 ポイント、「日中活動系サービスの充実」が 14.5 ポイント、「医療やリハビリテーションの充実」が 13.7 ポイント、「訪問系サービスの充実」が 11.7 ポイント、「短期入所（ショートステイ）の整備」が 11.6 ポイントと、10 ポイント以上大きく全体の割合を上回っています。

反対に、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が 16.6 ポイント、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が 13.5 ポイントと、10 ポイント以上全体の割合を下回っています。

【クロス集計】年代別

（単位:%）		n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実
全体		465	40.6	13.8	***51.0***	39.1	24.7	19.4	5.8
年代別	0～2歳	15	40.0	26.7	***66.7***	20.0	6.7	20.0	20.0
	3～5歳	106	38.7	20.8	***77.4***	25.5	15.1	18.9	6.6
	6～8歳	127	43.3	11.0	***60.6***	43.3	26.8	23.6	0.8
	9～11歳	104	43.3	10.6	48.1	***49.0***	26.0	16.3	4.8
	12～14歳	51	37.3	7.8	21.6	39.2	31.4	25.5	9.8
	15歳以上	58	36.2	13.8	8.6	44.8	36.2	10.3	8.6

（単位:%）		n	日中活動系サービスの充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設（障害者支援施設等）の整備	居住支援の充実
全体		465	15.5	8.4	0.2	2.2	13.3	13.5	7.1
年代別	0～2歳	15	20.0	13.3	0.0	6.7	13.3	6.7	0.0
	3～5歳	106	9.4	5.7	0.0	0.9	3.8	6.6	4.7
	6～8歳	127	11.8	6.3	0.8	2.4	15.0	15.0	3.9
	9～11歳	104	21.2	9.6	0.0	1.0	13.5	9.6	9.6
	12～14歳	51	17.6	11.8	0.0	5.9	15.7	19.6	9.8
	15歳以上	58	22.4	12.1	0.0	1.7	25.9	27.6	13.8

（単位:%）		n	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	文化芸術活動の充実	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実	災害時支援の充実
全体		465	1.7	5.2	3.7	12.0	11.0	23.7	10.3
年代別	0～2歳	15	0.0	6.7	0.0	0.0	13.3	26.7	13.3
	3～5歳	106	4.7	2.8	4.7	7.5	5.7	15.1	4.7
	6～8歳	127	0.0	7.1	3.1	11.8	11.8	22.8	10.2
	9～11歳	104	1.9	3.8	2.9	15.4	15.4	25.0	11.5
	12～14歳	51	0.0	5.9	2.0	9.8	9.8	33.3	15.7
	15歳以上	58	1.7	6.9	6.9	19.0	12.1	27.6	13.8

（単位:%）		n	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	18歳以降の居場所	その他	特にない	無回答
全体		465	3.2	10.1	23.0	32.7	3.9	4.1	2.4
年代別	0～2歳	15	0.0	6.7	26.7	13.3	0.0	0.0	6.7
	3～5歳	106	1.9	9.4	31.1	16.0	1.9	7.5	0.9
	6～8歳	127	3.9	12.6	27.6	26.0	2.4	2.4	0.8
	9～11歳	104	4.8	5.8	16.3	40.4	4.8	1.9	2.9
	12～14歳	51	2.0	15.7	25.5	***51.0***	3.9	9.8	2.0
	15歳以上	58	3.4	8.6	5.2	***53.4***	10.3	1.7	5.2

年代別にみると、０～８歳までの年代では「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が最も高く、特に“３～５歳”では７割半ばを超えています。

“９～11 歳”では「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が最も高くなっています。

“12～14 歳”と“15 歳以上”では、「18 歳以降の居場所」が５割を超えて最も高くなっています。

また、いずれの年代でも「障害に対する理解の促進」が３割半ばを超えており、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が２割以上となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実
全体		465	40.6	13.8	***51.0***	39.1	24.7	19.4	5.8
障害別	肢体不自由	37	29.7	37.8	37.8	10.8	10.8	8.1	27.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	30.0	36.7	33.3	20.0	16.7	6.7	30.0
	視覚障害	9	22.2	11.1	***44.4***	22.2	22.2	11.1	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	***64.3***	7.1	14.3	21.4	21.4	7.1	0.0
	内部障害	28	39.3	28.6	***46.4***	28.6	39.3	21.4	10.7
	知的障害	167	45.5	13.2	35.9	***55.1***	29.3	16.8	10.8
	発達障害	285	45.3	10.9	***53.7***	45.6	26.3	21.1	4.2
	精神障害	17	17.6	11.8	5.9	47.1	23.5	11.8	11.8
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	35.5	25.8	32.3	22.6	9.7	12.9	19.4
	問15に該当する方	259	45.6	12.0	***49.8***	44.0	23.6	22.4	6.2
	その他	31	29.0	3.2	***67.7***	25.8	16.1	22.6	0.0

（単位:%）		n	日中活動系サービスの充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設（障害者支援施設等）の整備	居住支援の充実
全体		465	15.5	8.4	0.2	2.2	13.3	13.5	7.1
障害別	肢体不自由	37	37.8	37.8	0.0	13.5	21.6	***45.9***	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	30.0	26.7	0.0	6.7	23.3	36.7	10.0
	視覚障害	9	22.2	***44.4***	0.0	11.1	11.1	***44.4***	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	14.3	7.1	7.1	21.4	28.6	7.1	0.0
	内部障害	28	21.4	7.1	0.0	3.6	14.3	17.9	3.6
	知的障害	167	29.9	19.8	0.0	3.6	31.1	30.5	10.2
	発達障害	285	15.1	6.3	0.0	0.4	12.6	11.6	8.8
	精神障害	17	11.8	11.8	0.0	0.0	29.4	17.6	23.5
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0
	難病（特定疾病）	31	***38.7***	29.0	0.0	12.9	32.3	29.0	6.5
	問15に該当する方	259	18.9	10.4	0.0	1.9	16.2	17.0	7.7
	その他	31	3.2	9.7	0.0	6.5	12.9	16.1	6.5

（単位:%）		n	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	文化芸術活動の充実	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実	災害時支援の充実
全体		465	1.7	5.2	3.7	12.0	11.0	23.7	10.3
障害別	肢体不自由	37	5.4	2.7	0.0	2.7	5.4	21.6	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	3.3	0.0	0.0	3.3	13.3	36.7	6.7
	視覚障害	9	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	7.1	7.1	14.3	21.4	14.3	7.1
	内部障害	28	0.0	10.7	0.0	7.1	32.1	28.6	17.9
	知的障害	167	1.2	3.6	3.6	12.6	19.8	31.1	15.0
	発達障害	285	0.7	5.3	3.2	12.6	10.9	26.3	10.5
	精神障害	17	5.9	11.8	0.0	11.8	23.5	29.4	5.9
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	0.0	3.2	3.2	6.5	22.6	29.0	16.1
	問15に該当する方	259	0.8	5.8	3.1	12.4	13.1	25.5	9.7
	その他	31	12.9	3.2	6.5	3.2	16.1	16.1	9.7

（単位:%）		n	地域交流の場の充実	福祉･医療･介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	18歳以降の居場所	その他	特にない	無回答
全体		465	3.2	10.1	23.0	32.7	3.9	4.1	2.4
障害別	肢体不自由	37	2.7	16.2	16.2	37.8	5.4	2.7	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	3.3	10.0	3.3	***40.0***	6.7	0.0	6.7
	視覚障害	9	0.0	11.1	0.0	***44.4***	11.1	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	14.3	7.1	7.1	7.1	14.3	7.1
	内部障害	28	7.1	21.4	17.9	25.0	0.0	3.6	3.6
	知的障害	167	3.6	13.8	12.0	49.1	3.6	0.0	0.6
	発達障害	285	2.5	7.0	27.0	36.8	3.9	3.5	0.0
	精神障害	17	17.6	0.0	0.0	***64.7***	17.6	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	6.5	12.9	9.7	35.5	6.5	3.2	3.2
	問15に該当する方	259	3.5	12.0	24.3	38.2	5.8	3.5	0.0
	その他	31	3.2	16.1	38.7	25.8	12.9	6.5	0.0

障害別にみると、“肢体不自由”では「入所施設（障害者支援施設等）の整備」が４割半ばで最も高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”と“精神障害”では、「18 歳以降の居場所」が４割以上で最も高く、特に“精神障害”では６割半ば近くと、他の障害より高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では、「障害に対する理解の促進」が６割を超えて最も高くなっています。

“知的障害”では「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が５割半ばで最も高くなっています。

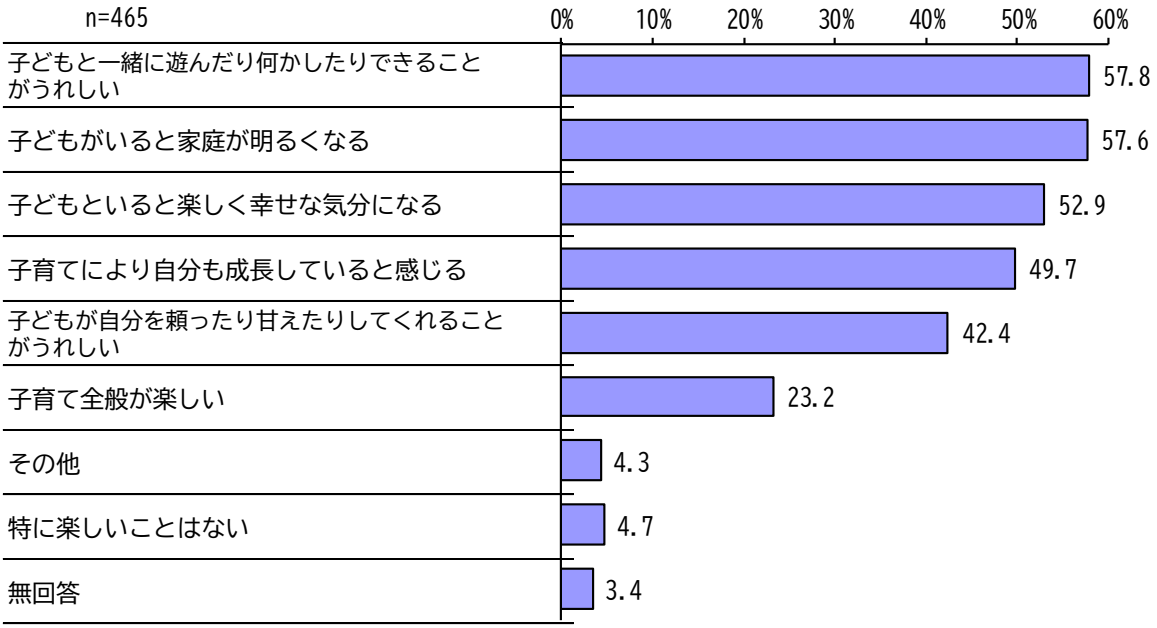
“難病（特定疾病)”では、「日中活動系サービスの充実」が３割半ばを超えて最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が最も高くなっています。

４　子育てにおける悩みについて

（１）子育てへの感じ方

問 22　**保護者の方にお聞きします。**子育てでどのようなときに楽しいと感じますか。
（あてはまるものすべてに○）



子育てでたのしいと感じるときは、「子どもと一緒に遊んだり何かしたりできることがうれしい」が 57.8%、「子どもがいると家庭が明るくなる」が 57.6%と５割半ばを超えて高く、次いで「子どもといると楽しく幸せな気分になる」が 52.9%、「子育てにより自分も成長していると感じる」が 49.7%と続いています。

一方、「特に楽しいことはない」は 4.7%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	子育て全般が楽しい	子どもといると楽しく幸せな気分になる	子どもと一緒に遊んだり何かしたりできることがうれしい	子どもが自分を頼ったり甘えたりしてくれることがうれしい	子育てにより自分も成長していると感じる
全体		465	23.2	52.9	***57.8***	42.4	49.7
年代別	０～２歳	15	20.0	66.7	***73.3***	66.7	60.0
	３～５歳	106	29.2	55.7	***68.9***	50.9	51.9
	６～８歳	127	27.6	57.5	62.2	48.8	49.6
	９～11歳	104	20.2	51.0	***55.8***	39.4	49.0
	12～14歳	51	11.8	41.2	49.0	27.5	43.1
	15歳以上	58	20.7	50.0	36.2	25.9	***51.7***
障害別	肢体不自由	37	18.9	43.2	***54.1***	40.5	45.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	13.3	40.0	46.7	40.0	43.3
	視覚障害	9	44.4	44.4	44.4	44.4	***55.6***
	聴覚・平衡機能障害	14	35.7	35.7	42.9	28.6	42.9
	内部障害	28	25.0	***67.9***	60.7	46.4	50.0
	知的障害	167	23.4	51.5	56.3	40.7	49.7
	発達障害	285	21.1	54.4	***57.5***	45.3	52.3
	精神障害	17	23.5	52.9	47.1	23.5	47.1
	高次脳機能障害	1	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***
	難病（特定疾病）	31	12.9	32.3	51.6	32.3	45.2
	その他	31	32.3	67.7	74.2	54.8	45.2

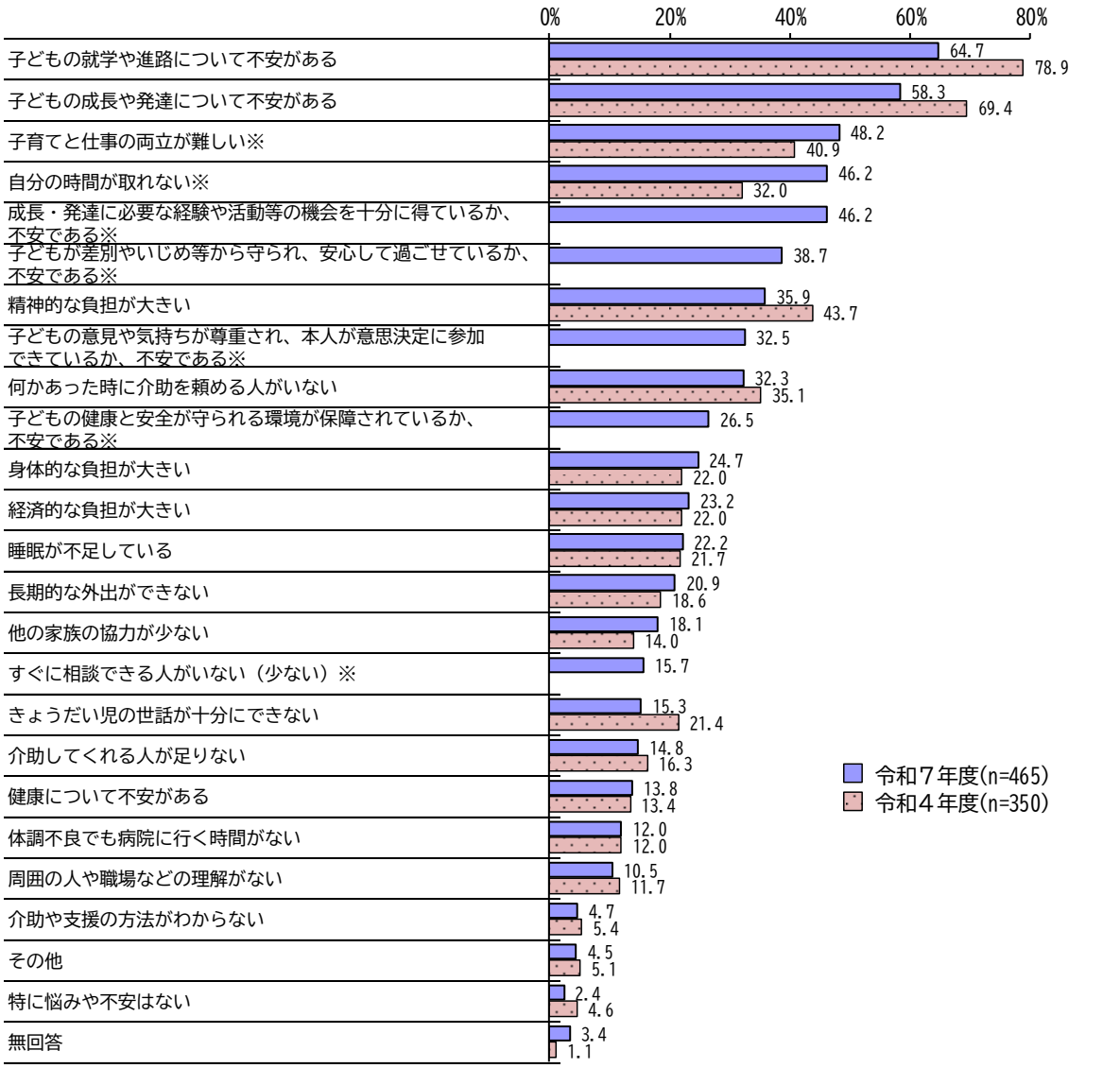
（単位:%）		n	子どもがいると家庭が明るくなる	その他	特に楽しいことはない	無回答
全体		465	57.6	4.3	4.7	3.4
年代別	０～２歳	15	60.0	6.7	6.7	6.7
	３～５歳	106	66.0	6.6	4.7	0.9
	６～８歳	127	***63.0***	0.8	3.9	1.6
	９～11歳	104	53.8	5.8	2.9	1.9
	12～14歳	51	***51.0***	5.9	5.9	9.8
	15歳以上	58	43.1	3.4	8.6	6.9
障害別	肢体不自由	37	48.6	2.7	5.4	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***50.0***	3.3	3.3	3.3
	視覚障害	9	44.4	11.1	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	***64.3***	7.1	7.1	7.1
	内部障害	28	60.7	3.6	10.7	7.1
	知的障害	167	***61.1***	4.8	4.8	2.4
	発達障害	285	54.4	5.3	6.3	1.4
	精神障害	17	***58.8***	0.0	5.9	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	100.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	***61.3***	0.0	9.7	9.7
	その他	31	***77.4***	9.7	0.0	3.2

年代別にみると、いずれの年代でも「子どもと一緒に遊んだり何かしたりできることがうれしい」、「子育てにより自分も成長していると感じる」、「子どもがいると家庭が明るくなる」が４割を超えて高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「子どもと一緒に遊んだり何かしたりできることがうれしい」、「子育てにより自分も成長していると感じる」、「子どもがいると家庭が明るくなる」が４割を超えて高くなっています。

（２）保護者の悩み・不安

問 23　**保護者の方にお聞きします。**どのような悩みや不安を抱えていますか。
（あてはまるものすべてに○）



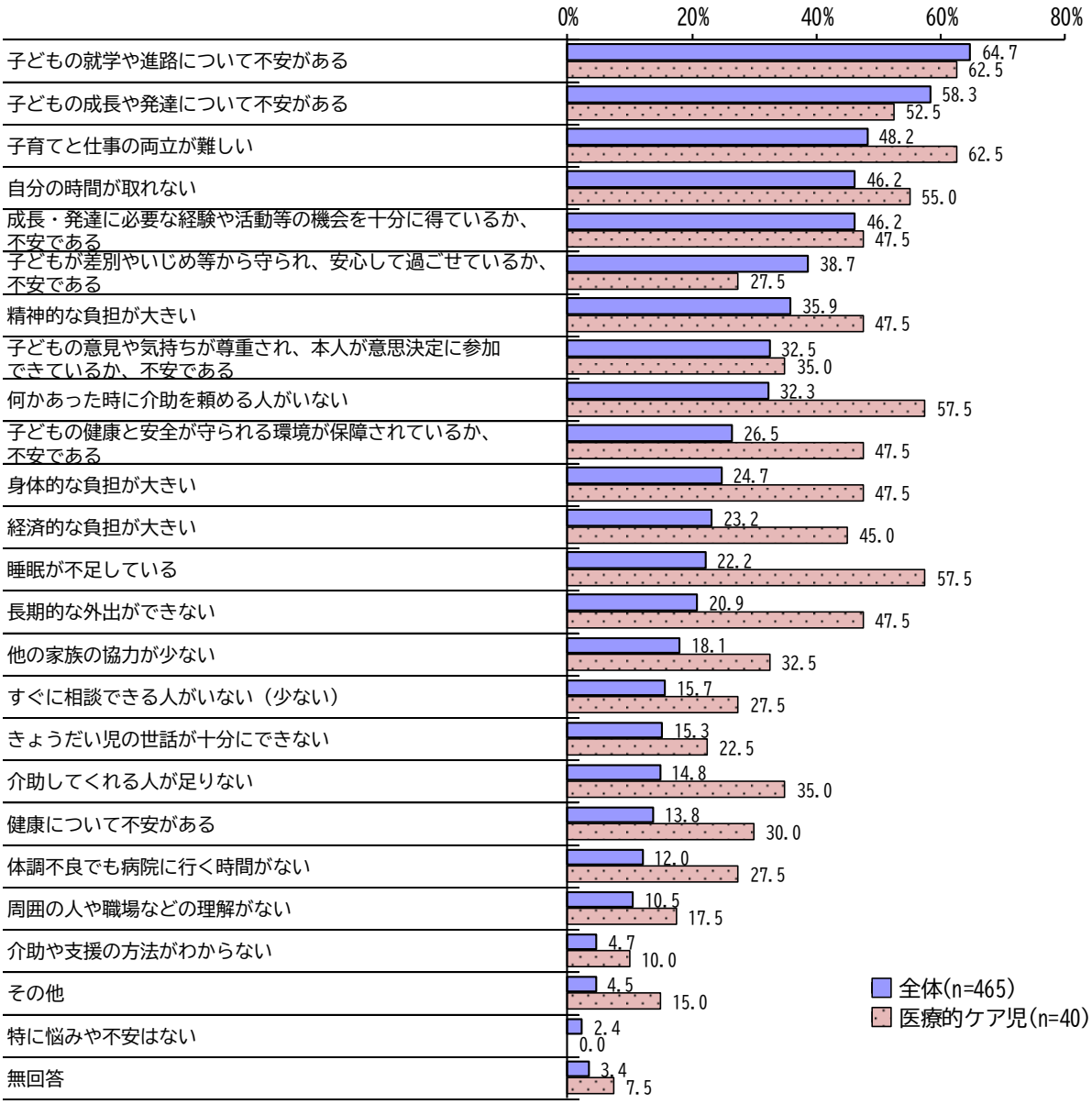
※「子育てと仕事の両立が難しい」は令和４年度では「仕事との両立が難しい」、「自分の時間が取れない」は令和４年度では「自分の時間が取れず、自由がない」

※「成長・発達に必要な経験や活動等の機会を十分に得ているか、不安である」「子どもが差別やいじめ等から守られ、安心して過ごせているか、不安である」「子どもの意見や気持ちが尊重され、本人が意思決定に参加できているか、不安である」「子どもの健康と安全が守られる環境が保障されているか、不安である」「すぐに相談できる人がいない（少ない）」は令和７年度から追加

保護者の悩み・不安は、「子どもの就学や進路について不安がある」が 64.7%、「子どもの成長や発達について不安がある」が 58.3%と、子どもの将来についての項目が他の項目と比較して高くなっています。次いで「子育てと仕事の両立が難しい」が 48.2%、「自分の時間が取れない」と「成長・発達に必要な経験や活動等の機会を十分に得ているか、不安である」がともに 46.2%と４割半ばを超えて続いています。

令和４年度と比較すると、項目が増えたため単純に比較はでませんが、「子どもの就学や進路について不安がある」と「子どもの成長や発達について不安がある」は変わらず上位２項目となっています。

【全体と医療的ケア児の保護者との比較】



医療的ケア児の保護者と全体を比較すると、医療的ケア児の保護者の悩み・不安の割合は、「その他」と「特に悩みや不安はない」を除く 22 項目中 19 項目で全体を上回っており、さらにそのうち 13 項目が 10 ポイント以上全体を上回っています。特に「睡眠が不足している」が 35.3 ポイント、「長期的な外出ができない」が 26.6 ポイント、「何かあった時に介助を頼める人がいない」が 25.2 ポイントと、25 ポイント以上大きく全体の割合を上回っています。

反対に、「子どもが差別やいじめ等から守られ、安心して過ごせているか、不安である」が 11.2 ポイント、「子どもの成長や発達について不安がある」が 5.8 ポイントと、全体の割合を下回っています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	介助してくれる人が足りない	何かあった時に介助を頼める人がいない	他の家族の協力が少ない	子育てと仕事の両立が難しい	長期的な外出ができない	介助や支援の方法がわからない	自分の時間が取れない
	全体	465	14.8	32.3	18.1	48.2	20.9	4.7	46.2
障害別	肢体不自由	37	35.1	***59.5***	21.6	***59.5***	43.2	0.0	56.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	43.3	46.7	16.7	***56.7***	23.3	0.0	36.7
	視覚障害	9	22.2	33.3	11.1	***66.7***	33.3	0.0	44.4
	聴覚・平衡機能障害	14	14.3	14.3	7.1	35.7	14.3	7.1	***57.1***
	内部障害	28	17.9	28.6	3.6	42.9	25.0	3.6	50.0
	知的障害	167	26.9	51.5	19.8	51.5	35.9	5.4	51.5
	発達障害	285	14.7	34.0	20.4	53.3	20.7	6.7	51.6
	精神障害	17	17.6	47.1	11.8	64.7	47.1	5.9	58.8
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	29.0	***51.6***	12.9	***51.6***	35.5	3.2	48.4
	問15に該当する方	259	20.8	39.4	22.0	54.1	28.2	6.6	56.0
	その他	31	9.7	22.6	19.4	35.5	25.8	6.5	51.6

（単位:%）		n	身体的な負担が大きい	健康について不安がある	体調不良でも病院に行く時間がない	睡眠が不足している	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	周囲の人や職場などの理解がない
	全体	465	24.7	13.8	12.0	22.2	35.9	23.2	10.5
障害別	肢体不自由	37	***59.5***	16.2	29.7	48.6	40.5	37.8	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	46.7	16.7	20.0	46.7	40.0	40.0	6.7
	視覚障害	9	44.4	11.1	22.2	55.6	44.4	22.2	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	28.6	7.1	21.4	35.7	28.6	14.3	7.1
	内部障害	28	17.9	17.9	21.4	32.1	25.0	32.1	3.6
	知的障害	167	35.9	16.8	15.6	29.3	43.1	31.7	10.8
	発達障害	285	26.7	15.8	13.3	21.8	45.6	24.9	14.4
	精神障害	17	35.3	23.5	29.4	23.5	52.9	47.1	11.8
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	48.4	25.8	16.1	45.2	41.9	38.7	9.7
	問15に該当する方	259	35.1	19.3	16.2	25.5	48.6	28.2	14.7
	その他	31	29.0	22.6	9.7	25.8	29.0	16.1	3.2

（単位:%）		n	きょうだい児の世話が十分にできない	子どもの就学や進路について不安がある	子どもの成長や発達について不安がある	すぐに相談できる人がいない(少ない)	子どもの健康と安全が守られる環境が保障されているか、不安である	成長・発達に必要な経験や活動等の機会を十分に得ているか、不安である	子どもが差別やいじめ等から守られ、安心して過ごせているか、不安である
	全体	465	15.3	***64.7***	58.3	15.7	26.5	46.2	38.7
障害別	肢体不自由	37	16.2	51.4	48.6	21.6	37.8	43.2	27.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	20.0	***56.7***	46.7	13.3	36.7	26.7	40.0
	視覚障害	9	22.2	33.3	33.3	0.0	44.4	55.6	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	50.0	42.9	7.1	35.7	14.3	50.0
	内部障害	28	17.9	***53.6***	50.0	17.9	46.4	32.1	***53.6***
	知的障害	167	21.0	***70.1***	58.1	18.0	35.9	46.7	34.7
	発達障害	285	18.2	***73.3***	66.3	16.5	27.0	53.0	42.8
	精神障害	17	17.6	***70.6***	58.8	11.8	35.3	47.1	29.4
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	9.7	***51.6***	48.4	22.6	35.5	35.5	32.3
	問15に該当する方	259	20.5	***72.6***	65.6	19.3	32.4	54.8	44.4
	その他	31	0.0	***67.7***	***67.7***	22.6	41.9	45.2	54.8

（単位:%）		n	子どもの意見や気持ちが尊重され、本人が意思決定に参加できているか、不安である	その他	特に悩みや不安はない	無回答
全体		465	32.5	4.5	2.4	3.4
障害別	肢体不自由	37	40.5	8.1	2.7	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	43.3	3.3	3.3	3.3
	視覚障害	9	33.3	33.3	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	35.7	21.4	0.0	7.1
	内部障害	28	42.9	3.6	3.6	7.1
	知的障害	167	38.9	3.6	1.2	1.8
	発達障害	285	33.7	4.9	0.7	1.4
	精神障害	17	35.3	5.9	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	100.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	38.7	6.5	3.2	9.7
	問15に該当する方	259	36.3	5.4	0.0	1.2
	その他	31	38.7	9.7	0.0	3.2

障害別にみると、いずれの障害でも「子どもの就学や進路について不安がある」が５割以上となっており、“肢体不自由”、“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”以外のいずれの障害でも最も高くなっています。

また、いずれの障害でも、「子育てと仕事の両立が難しい」、「自分の時間が取れない」、「子どもの成長や発達について不安がある」、「子どもの意見や気持ちが尊重され、本人が意思決定に参加できているか、不安である」で３割を超えて高くなっています。

“肢体不自由”では、「何かあった時に介助を頼める人がいない」、「子育てと仕事の両立が難しい」、「身体的な負担が大きい」が６割近くで最も高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では、「自分の時間が取れない」が５割半ばを超えて最も高くなっています。

【クロス集計】親の就労状況別

（単位:%）		n	介助してくれる人が足りない	何かあった時に介助を頼める人がいない	他の家族の協力が少ない	子育てと仕事の両立が難しい	長期的な外出ができない	介助や支援の方法がわからない	自分の時間が取れない
全体		465	14.8	32.3	18.1	48.2	20.9	4.7	46.2
親の就労状況別	父親								
	フルタイム・産休・育休・介護休業中ではない	412	14.6	32.3	17.7	48.3	20.4	4.9	47.8
	フルタイム・産休・育休・介護休業中である	1	0.0	0.0	0.0	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中ではない	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	以前は就労していたが、現在は就労していない	9	11.1	***55.6***	22.2	***55.6***	33.3	0.0	44.4
	これまで就労したことがない	1	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0	0.0	***100.0***
	母親								
	フルタイム・産休・育休・介護休業中ではない	189	15.3	27.0	14.8	57.1	18.0	4.2	52.4
	フルタイム・産休・育休・介護休業中である	10	10.0	60.0	10.0	***90.0***	20.0	10.0	70.0
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中ではない	99	13.1	32.3	19.2	53.5	23.2	3.0	39.4
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中である	5	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0
	以前は就労していたが、現在は就労していない	148	16.9	39.9	23.0	32.4	23.6	6.1	44.6
	これまで就労したことがない	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	身体的な負担が大きい	健康について不安がある	体調不良でも病院に行く時間がない	睡眠が不足している	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	周囲の人や職場などの理解がない
全体		465	24.7	13.8	12.0	22.2	35.9	23.2	10.5
親の就労状況別	父親								
	フルタイム・産休・育休・介護休業中ではない	412	24.0	12.9	12.4	21.6	36.7	22.3	10.0
	フルタイム・産休・育休・介護休業中である	1	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中ではない	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	以前は就労していたが、現在は就労していない	9	22.2	11.1	0.0	22.2	22.2	33.3	0.0
	これまで就労したことがない	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親								
	フルタイム・産休・育休・介護休業中ではない	189	22.8	11.1	8.5	23.8	28.6	15.9	7.9
	フルタイム・産休・育休・介護休業中である	10	30.0	10.0	20.0	20.0	40.0	30.0	20.0
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中ではない	99	25.3	15.2	13.1	15.2	35.4	34.3	10.1
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中である	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
	以前は就労していたが、現在は就労していない	148	28.4	17.6	16.2	25.7	46.6	27.0	12.8
	これまで就労したことがない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

（単位:%）		n	きょうだい児の世話が十分にできない	子どもの就学や進路について不安がある	子どもの成長や発達について不安がある	すぐに相談できる人がいない(少ない)	子どもの健康と安全が守られる環境が保障されているか、不安である	成長・発達に必要な経験や活動等の機会を十分に得ているか、不安である	子どもが差別やいじめ等から守られ、安心して過ごせているか、不安である
全体		465	15.3	***64.7***	58.3	15.7	26.5	46.2	38.7
親の就労状況別	父親								
	フルタイム・産休・育休・介護休業中ではない	412	16.0	***66.0***	59.2	16.0	25.2	46.8	37.9
	フルタイム・産休・育休・介護休業中である	1	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***	***100.0***	***100.0***
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中ではない	4	0.0	***75.0***	0.0	0.0	50.0	25.0	50.0
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	以前は就労していたが、現在は就労していない	9	0.0	44.4	44.4	0.0	22.2	11.1	***55.6***
	これまで就労したことがない	1	***100.0***	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0
	母親								
	フルタイム・産休・育休・介護休業中ではない	189	15.3	***64.6***	56.1	13.8	25.4	42.9	42.9
	フルタイム・産休・育休・介護休業中である	10	10.0	80.0	50.0	10.0	30.0	50.0	10.0
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中ではない	99	18.2	***65.7***	62.6	13.1	26.3	49.5	35.4
	パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中である	5	20.0	***60.0***	40.0	20.0	20.0	40.0	40.0
	以前は就労していたが、現在は就労していない	148	14.2	***64.9***	61.5	20.9	29.1	50.0	39.2
	これまで就労したことがない	3	0.0	***66.7***	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0

（単位:%）			n	子どもの意見や気持ちが尊重され、本人が意思決定に参加できているか、不安である	その他	特に悩みや不安はない	無回答
全体			465	32.5	4.5	2.4	3.4
親の就労状況別	父親	フルタイム・産休・育休・介護休業中ではない	412	32.5	3.6	2.2	2.7
		フルタイム・産休・育休・介護休業中である	1	0.0	100.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中ではない	4	50.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	9	33.3	11.1	11.1	0.0
		これまで就労したことがない	1	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	フルタイム・産休・育休・介護休業中ではない	189	28.0	4.2	3.2	0.5
		フルタイム・産休・育休・介護休業中である	10	40.0	10.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中ではない	99	33.3	5.1	4.0	5.1
		パート・アルバイト等・産休・育休・介護休業中である	5	40.0	0.0	0.0	20.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	148	36.5	4.1	0.7	3.4
		これまで就労したことがない	3	33.3	33.3	0.0	0.0

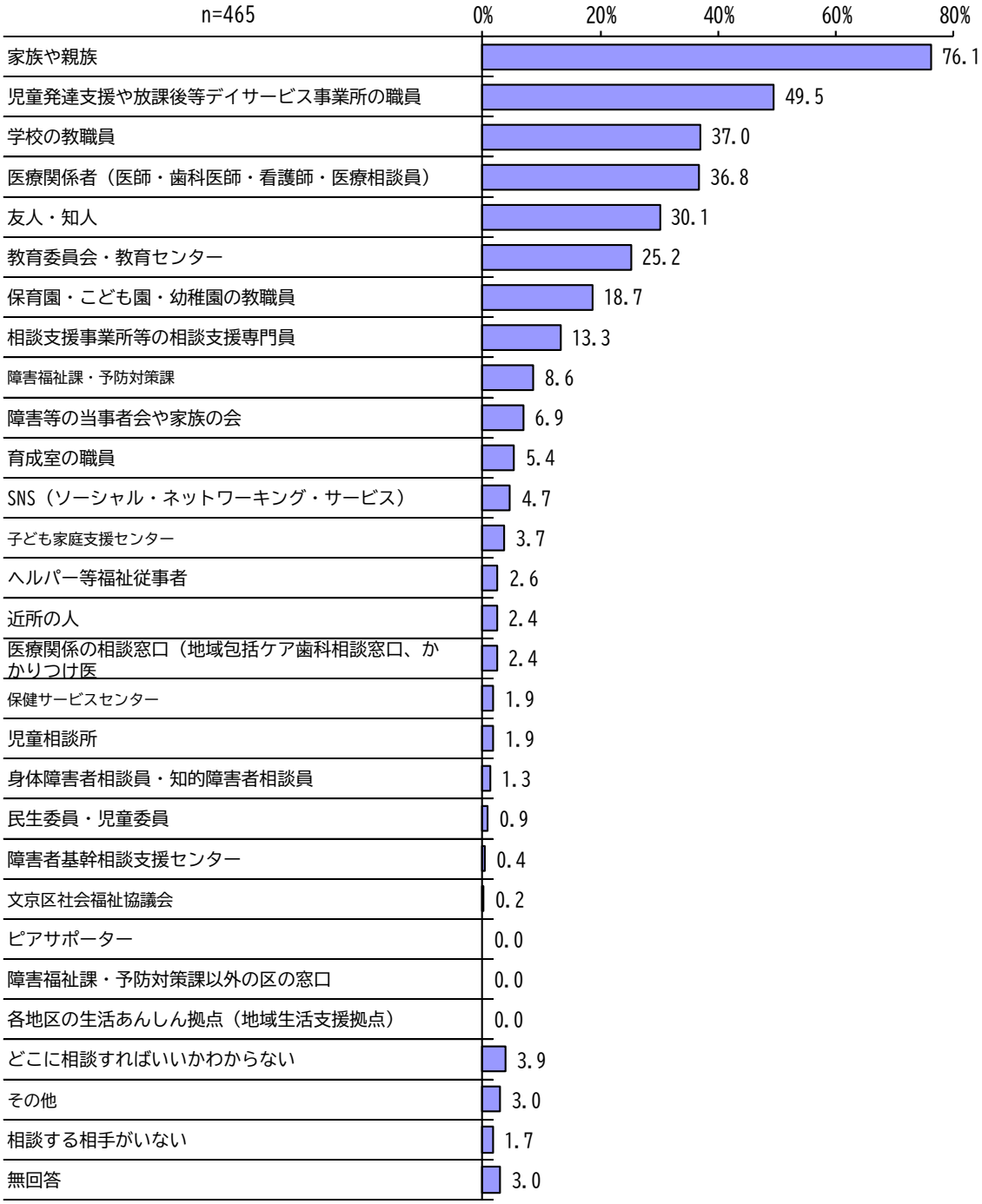
親の就労状況別にみると、父親では、“フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない”で「子どもの就学や進路について不安がある」が６割半ばを超えて最も高くなっています。

母親では、“フルタイム／産休・育休・介護休業中である”で「子育てと仕事の両立が難しい」が９割に達し最も高くなっています。また、「子どもの就学や進路について不安がある」で８割、「自分の時間が取れない」で７割に達しており、他の母親の就労状況より高くなっています。

それ以外の母親の就労状況では「子どもの就学や進路について不安がある」が６割前後となっています。

（3）困ったときの相談相手

問 24　あなたや保護者の方が困ったときに相談する相手は誰ですか。
（あてはまるものすべてに○）



本人や保護者が困ったときの相談相手は、「家族や親族」が 76.1%と最も高く、次いで「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」が49.5%、「学校の教職員」が37.0%、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が36.8%と続いています。

一方、「どこに相談すればいいかわからない」は3.9%、「相談する相手がいない」は1.7%となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会
全体		465	***76.1***	2.4	30.1	0.0	37.0	18.7	0.9	6.9
障害別	肢体不自由	37	***70.3***	0.0	21.6	0.0	24.3	10.8	0.0	18.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***66.7***	0.0	10.0	0.0	30.0	16.7	0.0	13.3
	視覚障害	9	***55.6***	0.0	22.2	0.0	33.3	22.2	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	***78.6***	0.0	14.3	0.0	35.7	0.0	0.0	0.0
	内部障害	28	***71.4***	3.6	21.4	0.0	32.1	17.9	0.0	14.3
	知的障害	167	***78.4***	2.4	34.7	0.0	49.1	10.2	0.6	13.2
	発達障害	285	***80.7***	3.2	32.6	0.0	40.4	17.5	1.4	4.2
	精神障害	17	***64.7***	0.0	41.2	0.0	52.9	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***
	難病（特定疾病）	31	***77.4***	3.2	22.6	0.0	29.0	3.2	0.0	16.1
	その他	31	***74.2***	0.0	16.1	0.0	16.1	38.7	0.0	0.0

（単位:%）		n	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ヘルパー等福祉従事者	児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	医療関係の相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口
全体		465	1.3	2.6	49.5	13.3	36.8	2.4	8.6	0.0
障害別	肢体不自由	37	2.7	13.5	21.6	29.7	56.8	10.8	32.4	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	3.3	16.7	36.7	23.3	56.7	10.0	26.7	0.0
	視覚障害	9	0.0	11.1	33.3	11.1	44.4	0.0	11.1	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	28.6	7.1	21.4	7.1	7.1	0.0
	内部障害	28	0.0	3.6	21.4	3.6	39.3	3.6	10.7	0.0
	知的障害	167	3.6	5.4	51.5	17.4	47.9	3.6	16.2	0.0
	発達障害	285	1.8	1.1	56.8	14.4	38.2	2.5	6.3	0.0
	精神障害	17	5.9	0.0	35.3	0.0	58.8	5.9	17.6	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	0.0	16.1	38.7	19.4	54.8	6.5	25.8	0.0
	その他	31	6.5	3.2	58.1	6.5	35.5	3.2	3.2	0.0

（単位:%）		n	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	各地区の生活あんしん拠点（地域生活支援拠点）	子ども家庭支援センター	教育委員会・教育センター	児童相談所	文京区社会福祉協議会	育成室の職員
全体		465	1.9	0.4	0.0	3.7	25.2	1.9	0.2	5.4
障害別	肢体不自由	37	2.7	0.0	0.0	0.0	5.4	5.4	0.0	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	0.0	0.0	10.0	13.3	3.3	0.0	3.3
	視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1
	内部障害	28	3.6	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	10.7
	知的障害	167	0.6	1.2	0.0	4.2	17.4	3.6	0.6	8.4
	発達障害	285	2.1	0.4	0.0	4.9	30.5	2.5	0.4	7.4
	精神障害	17	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	11.8	0.0	11.8
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	3.2	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	6.5
	その他	31	6.5	0.0	0.0	0.0	35.5	3.2	0.0	0.0

（単位:%）		n	SNS(ソーシャル･ネットワーキング･サービス)	どこに相談すればいいかわからない	その他	相談する相手がいない	無回答
全体		465	4.7	3.9	3.0	1.7	3.0
障害別	肢体不自由	37	8.1	8.1	5.4	2.7	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	6.7	3.3	6.7	0.0	3.3
	視覚障害	9	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	14.3	7.1	7.1	7.1
	内部障害	28	3.6	7.1	0.0	7.1	7.1
	知的障害	167	4.2	3.6	3.0	1.2	1.8
	発達障害	285	5.6	2.1	3.9	1.1	0.7
	精神障害	17	17.6	11.8	0.0	5.9	0.0
	高次脳機能障害	1	*100.0*	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	9.7	9.7	3.2	0.0	9.7
	その他	31	3.2	0.0	6.5	0.0	3.2

障害別にみると、いずれの障害でも「家族や親族」が６割を超えて最も高くなっています。

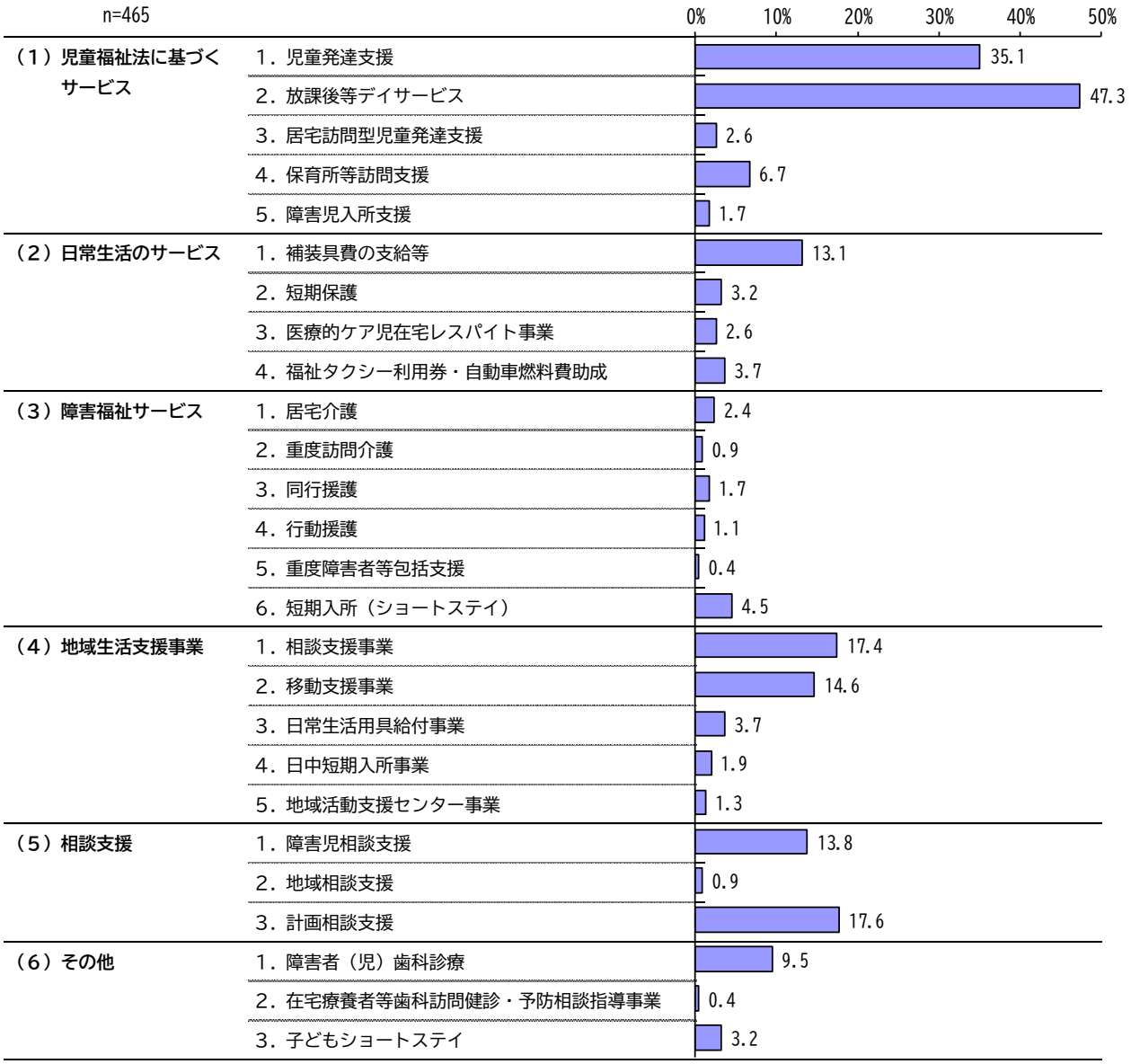
“知的障害”、“発達障害”、“その他”では「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」が５割を超えて、他の障害より高くなっています。

“精神障害”では「学校の教職員」が５割を超えて、他の障害より高くなっています。

5　福祉サービスについて

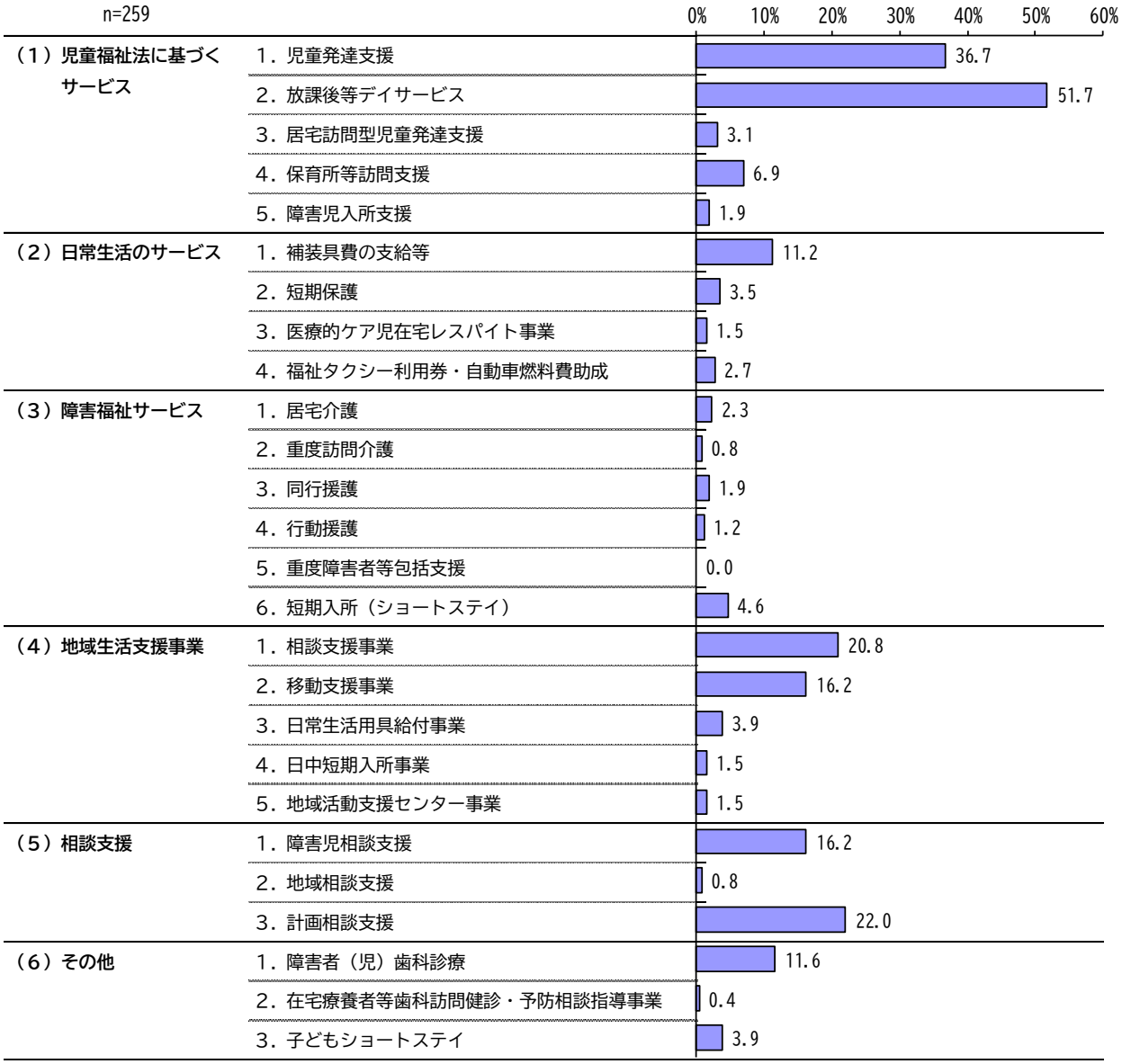
（1）現在利用しているサービス

問 25　障害児通所支援等の利用状況と満足度についてお聞きします。
A．現在利用しているサービスに○をつけてください。



現在利用している障害児通所支援サービス等は、「放課後等デイサービス」が 47.3%と最も高く、次いで「児童発達支援」が 35.1%、「計画相談支援」が 17.6%、「相談支援事業」が 17.4%と続いています。

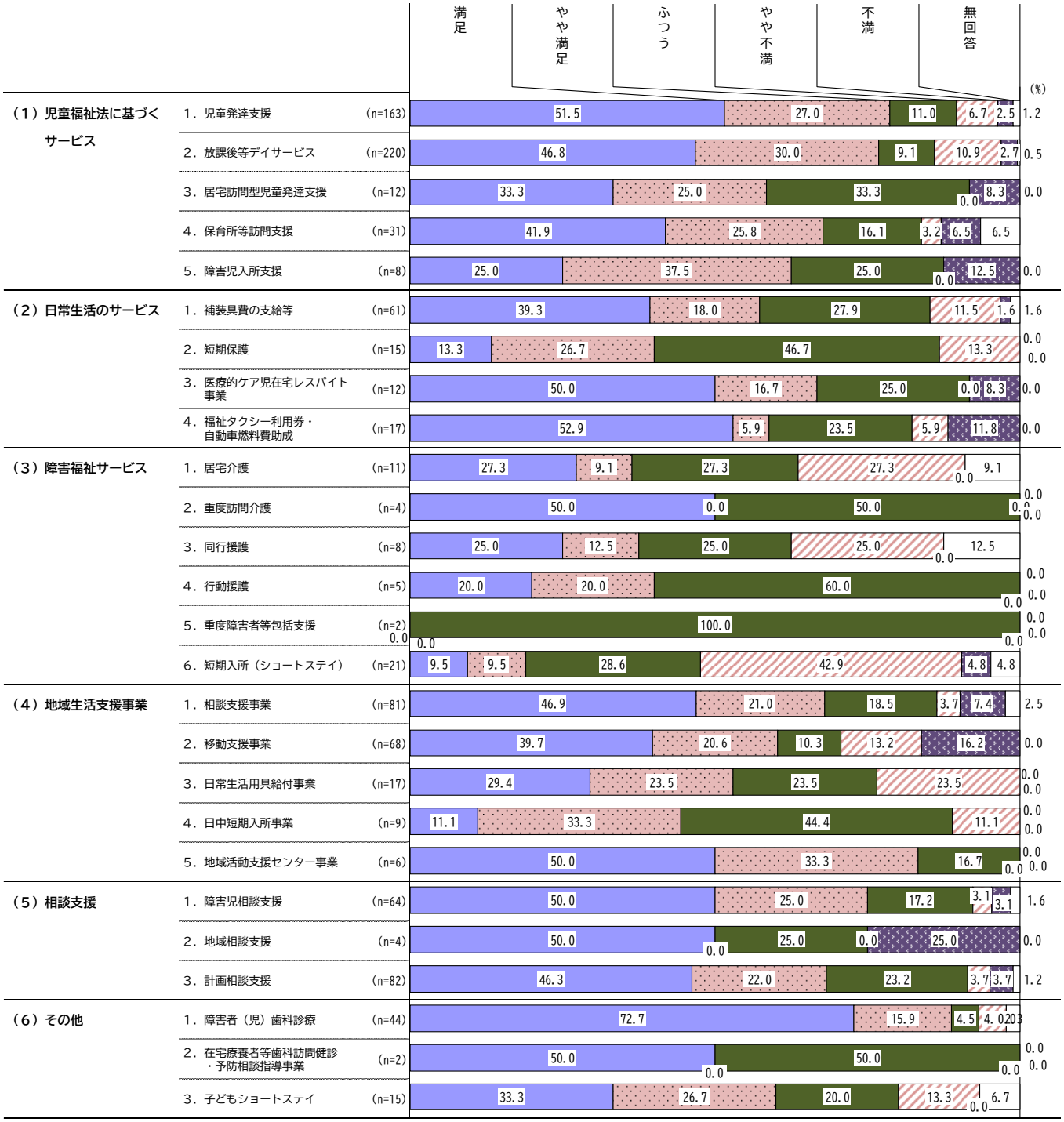
【現在利用しているサービス】問 15 に該当する方



問 15 に該当する方が現在利用している障害児通所支援サービス等は、「放課後等デイサービス」が 51.7%と５割を超えて最も高く、次いで「児童発達支援」が 36.7%、「計画相談支援」が 22.0%、「相談支援事業」が 20.8%と２割を超えて続いています。

（２）サービスの満足度

B．現在利用しているサービスに満足していますか。（○はひとつ）



利用している障害児通所支援等のサービスの「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は、回答数が 10 件以上のサービスでみると、「障害者（児）歯科診療」が 88.6%と８割半ばを超えて最も高く、次いで「児童発達支援」が 78.5%、「放課後等デイサービス」が 76.8%、「障害児相談支援」が 75.0%と７割半ば以上を占めて続いています。

「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は、「短期入所（ショートステイ）」が 47.7%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「移動支援事業」が 29.4%、「居宅介護」が 27.3%と２割半ばを超えて続いています。

（3）サービスの『不満』の理由

B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ方
C．サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。（○はいくつでも）

（単位:%）		n	利用できる回数や日数等が少ない	利用料が高い	サービス提供事業所が少ない	利用日時が合わない	利用時間が短い	サービス内容（質）に不安を感じる	サービス提供事業所の対応が良くない	サービスの利用契約等に関する十分な説明がない	事業所と家族の連携が取れていない	医療的ケアの対応が十分でない	その他	無回答
障害児通所支援サービス等別	児童発達支援	15	***40.0***	-	20.0	13.3	13.3	***40.0***	6.7	6.7	6.7	-	6.7	-
	放課後等デイサービス	30	***53.3***	13.3	***53.3***	23.3	30.0	23.3	6.7	3.3	3.3	-	23.3	-
	居宅訪問型児童発達支援	1	***100.0***	-	-	***100.0***	-	-	-	-	-	-	-	-
	保育所等訪問支援	3	33.3	-	-	-	-	33.3	-	-	***66.7***	-	33.3	-
	障害児入所支援	1	-	***100.0***	-	-	-	-	-	***100.0***	-	-	-	-
	補装具費の支給等	8	12.5	***37.5***	12.5	12.5	-	25.0	12.5	12.5	-	-	50.0	12.5
	短期保護	2	***50.0***	-	-	***50.0***	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	医療的ケア児在宅レスパイト事業	1	-	***100.0***	-	***100.0***	-	-	-	-	-	-	-	-
	福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	3	-	***33.3***	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	居宅介護	3	***33.3***	-	***33.3***	***33.3***	-	-	***33.3***	-	-	-	-	-
	重度訪問介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	同行援護	2	***100.0***	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	行動援護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重度障害者等包括支援	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	短期入所（ショートステイ）	10	***70.0***	20.0	40.0	30.0	10.0	40.0	-	-	-	-	-	-
	相談支援事業	9	-	-	22.2	22.2	-	***66.7***	44.4	22.2	33.3	-	11.1	-
	移動支援事業	20	50.0	10.0	***55.0***	25.0	10.0	35.0	20.0	5.0	-	-	25.0	5.0
	日常生活用具給付事業	4	-	***25.0***	***25.0***	-	-	-	-	-	-	-	75.0	-
	日中短期入所事業	1	-	-	-	-	***100.0***	-	-	-	-	-	100.0	-
	地域活動支援センター事業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	障害児相談支援	4	-	-	25.0	-	-	25.0	***50.0***	25.0	25.0	-	25.0	-
	地域相談支援	1	-	-	-	-	-	***100.0***	***100.0***	***100.0***	-	-	-	-
	計画相談支援	6	16.7	-	***33.3***	16.7	-	***33.3***	***33.3***	***33.3***	16.7	-	16.7	-
	障害者（児）歯科診療	2	***50.0***	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	子どもショートステイ	2	***100.0***	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-

利用している障害児通所支援サービス等の『不満』の理由を、『不満』と答えた回答数が 10 件以上のサービスでみると、“児童発達支援”では、「利用できる回数や日数等が少ない」と「サービス内容（質）に不安を感じる」がともに 40.0%と最も高くなっています。

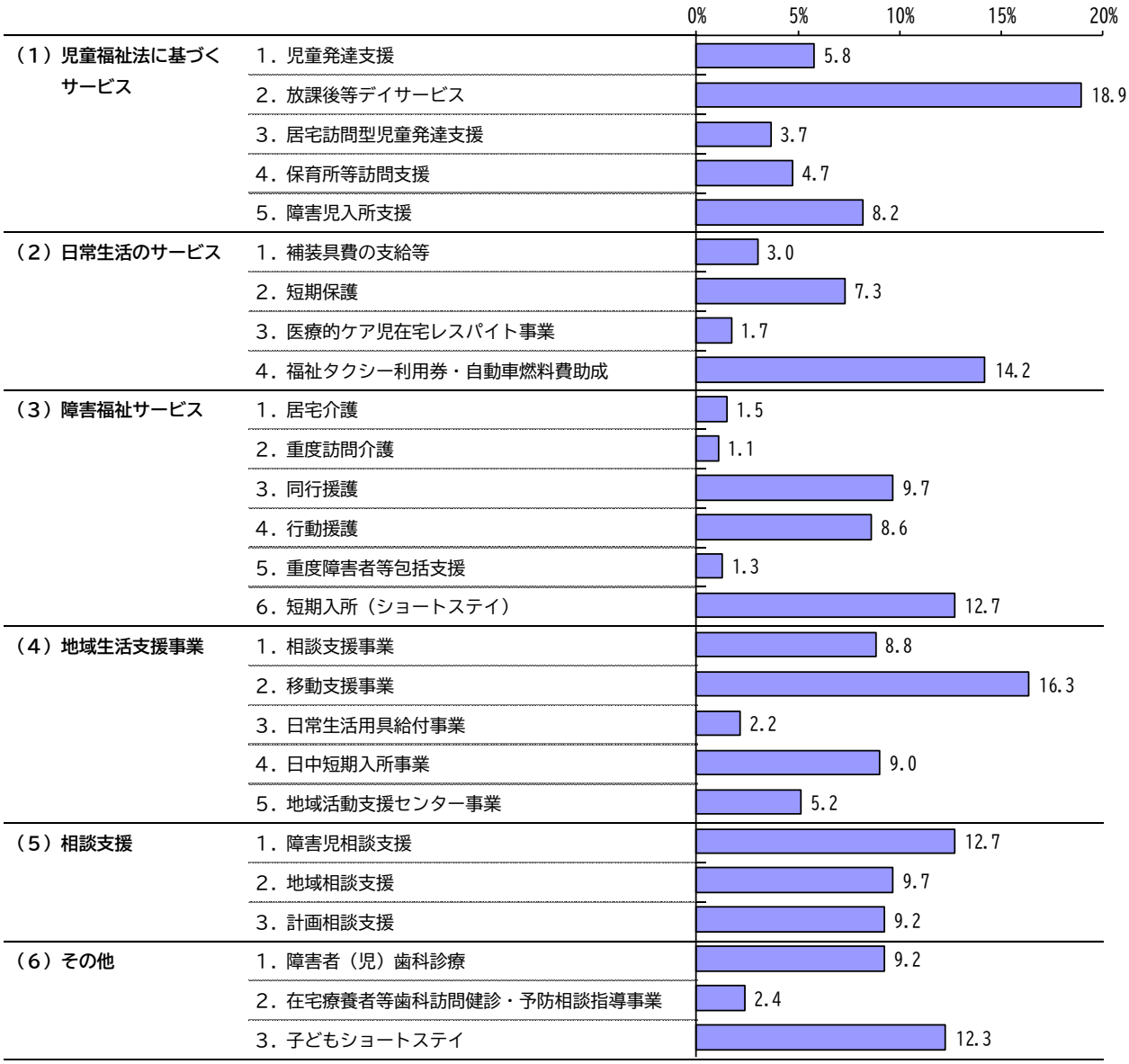
“放課後等デイサービス”では、「利用できる回数や日数等が少ない」と「サービス提供事業所が少ない」がともに 53.3%と最も高くなっています。

“短期入所（ショートステイ）”では、「利用できる回数や日数等が少ない」が７割に達しています。

“移動支援事業”では、「利用できる回数や日数等が少ない」と「サービス提供事業所が少ない」がともに５割を超えて高くなっています。

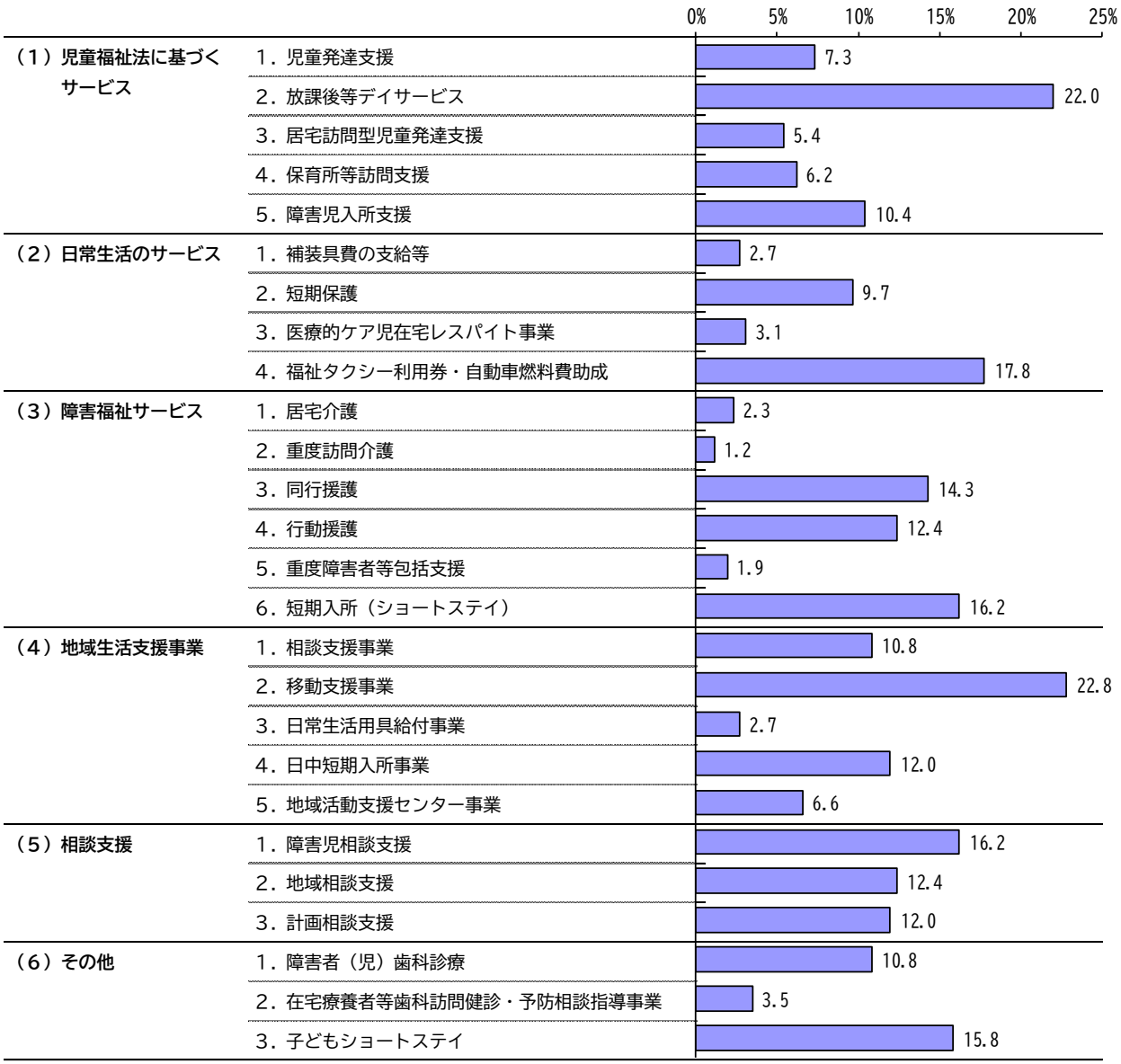
（４）今後利用したいサービス

D．現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。



今後利用したい障害児通所支援サービス等は、「放課後等デイサービス」が 18.9%、「移動支援事業」が 16.3%と 1 割半ばを超えて高く、次いで「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」が 14.2%、「短期入所（ショートステイ）」と「障害児相談支援」がともに 12.7%、「子どもショートステイ」が 12.3%と続いています。

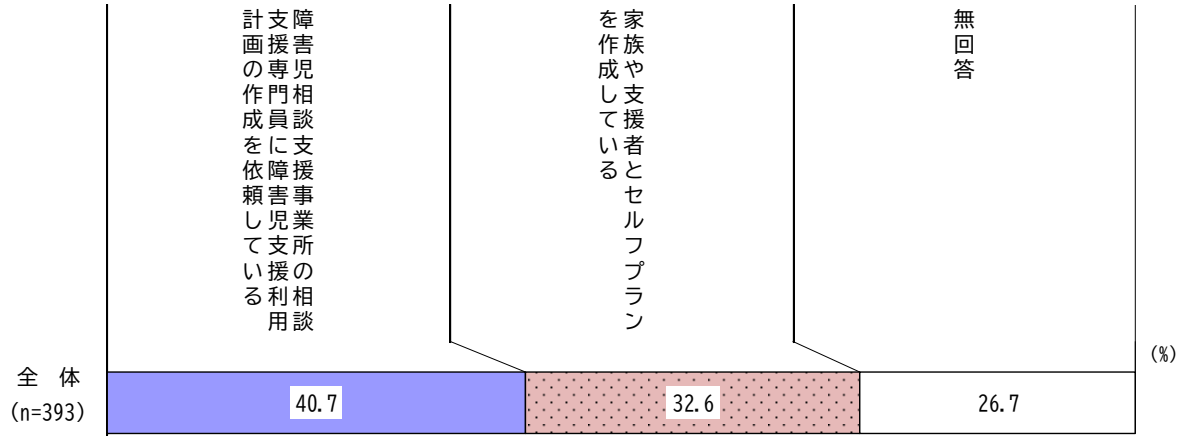
【今後利用したいサービス】問 15 に該当する方



問 15 に該当する方が今後利用したい障害児通所支援サービス等は、「移動支援事業」が 22.8%、「放課後等デイサービス」が 22.0%と２割を超えて高く、次いで「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」がともに 17.8%、「短期入所（ショートステイ）」と「障害児相談支援」がともに 16.2%、「子どもショートステイ」が 15.8%と１割半ばを超えて続いています。

（５）障害児支援利用計画の作成手段

問 25 にあるいずれかの障害児通所支援サービス等で「A　現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。
問 26　どのように障害児支援利用計画を作成しましたか。（○はひとつ）



現在障害児通所支援サービス等を利用している方が、どのように障害児支援利用計画を作成したかは、「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」が 40.7%、「家族や支援者とセルフプランを作成している」が 32.6%となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している	家族や支援者とセルフプランを作成している	無回答
全体		393	***40.7***	32.6	26.7
障害別	肢体不自由	34	***44.1***	11.8	44.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	***46.2***	26.9	26.9
	視覚障害	7	28.6	***42.9***	28.6
	聴覚・平衡機能障害	10	***30.0***	10.0	60.0
	内部障害	19	15.8	***26.3***	57.9
	知的障害	155	***54.2***	22.6	23.2
	発達障害	247	***42.9***	35.6	21.5
	精神障害	13	***53.8***	38.5	7.7
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	27	***48.1***	18.5	33.3
	その他	28	***42.9***	28.6	28.6

障害別にみると、“内部障害”では「家族や支援者とセルフプランを作成している」が「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」よりも高くなっています。

また、“発達障害”と“精神障害”では「家族や支援者とセルフプランを作成している」がともに３割半ばを超えて高くなっています。

【クロス集計】障害児通所支援サービス等別

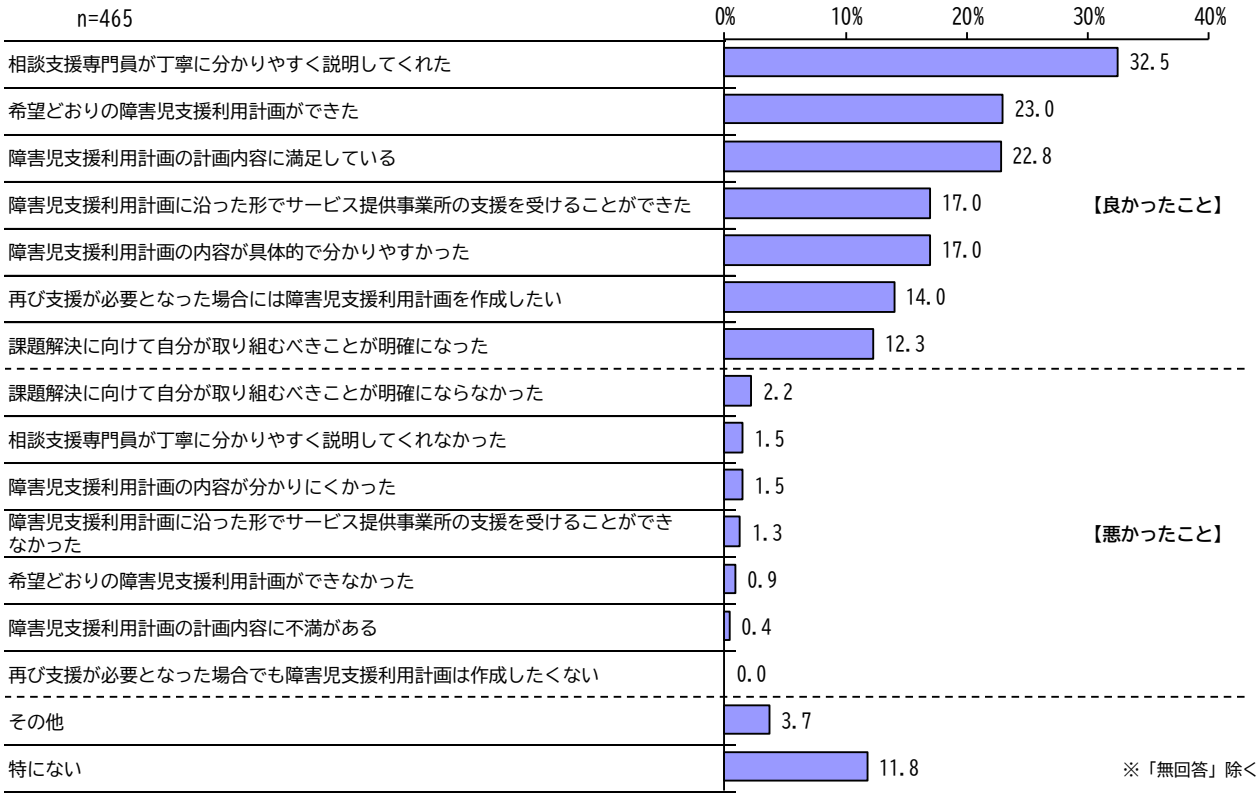
（単位:%）		n	障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している	家族や支援者とセルフプランを作成している	無回答
障害児通所支援サービス等別	児童発達支援	163	***38.0***	33.7	28.2
	放課後等デイサービス	220	***47.7***	33.6	18.6
	居宅訪問型児童発達支援	12	***41.7***	0.0	58.3
	保育所等訪問支援	31	***48.4***	41.9	9.7
	障害児入所支援	8	***62.5***	12.5	25.0
	補装具費の支給等	61	***36.1***	26.2	37.7
	短期保護	15	***73.3***	6.7	20.0
	医療的ケア児在宅レスパイト事業	12	***33.3***	16.7	50.0
	福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	17	***52.9***	17.6	29.4
	居宅介護	11	***63.6***	9.1	27.3
	重度訪問介護	4	***50.0***	0.0	50.0
	同行援護	8	***62.5***	12.5	25.0
	行動援護	5	***40.0***	20.0	40.0
	重度障害者等包括支援	2	***50.0***	0.0	50.0
	短期入所（ショートステイ）	21	***57.1***	23.8	19.0
	相談支援事業	81	***70.4***	13.6	16.0
	移動支援事業	68	***58.8***	22.1	19.1
	日常生活用具給付事業	17	***58.8***	5.9	35.3
	日中短期入所事業	9	***77.8***	0.0	22.2
	地域活動支援センター事業	6	0.0	***50.0***	50.0

利用している障害児通所支援サービス等別をみると、回答数が10件以上のサービスでみると、すべてのサービス利用者で「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」が最も高くなっています。

「家族や支援者とセルフプランを作成している」は、“保育所等訪問支援”が41.9%、“児童発達支援”が33.7%、“放課後等デイサービス”が33.6%と３割を超えています。

（６）障害児支援利用計画の作成時に感じたこと

障害児相談支援事業所で障害児支援利用計画を作成したことがある方にお聞きします。
問 27　障害児支援利用計画を作成してどのように感じましたか。（あてはまるものすべてに○）



障害児支援利用計画を作成して感じたことについて、【良かったこと】は「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が 32.5%と３割を超えて最も高く、次いで「希望どおりの障害児支援利用計画ができた」が 23.0%、「障害児支援利用計画の計画内容に満足している」が 22.8%と２割を超えて続いています。

【悪かったこと】は、「課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった」が 2.2%と最も高く、次いで「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった」と「障害児支援利用計画の内容が分かりにくかった」がともに 1.5%と続いています。

一方、「特にない」は 11.8%となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた。	希望どおりの障害児支援利用計画ができた	障害児支援利用計画の計画内容に満足している	再び支援が必要となった場合には障害児支援利用計画を作成したい	障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた	障害児支援利用計画の内容が具体的で分かりやすかった	課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確になった	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった	希望どおりの障害児支援利用計画ができなかった
全体		465	***32.5***	23.0	22.8	14.0	17.0	17.0	12.3	1.5	0.9
障害別	肢体不自由	37	***18.9***	13.5	13.5	10.8	13.5	8.1	16.2	5.4	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***30.0***	20.0	20.0	20.0	23.3	16.7	23.3	6.7	0.0
	視覚障害	9	11.1	***22.2***	***22.2***	11.1	***22.2***	11.1	11.1	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	***21.4***	***21.4***	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
	内部障害	28	***10.7***	***10.7***	7.1	3.6	7.1	3.6	3.6	3.6	0.0
	知的障害	167	***39.5***	30.5	28.7	15.0	22.8	21.6	13.2	2.4	0.6
	発達障害	285	***34.7***	24.9	23.9	13.3	17.2	16.5	12.6	1.4	1.1
	精神障害	17	***23.5***	17.6	17.6	11.8	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	***32.3***	22.6	22.6	12.9	22.6	19.4	19.4	3.2	0.0
	その他	31	***38.7***	19.4	16.1	16.1	16.1	25.8	22.6	3.2	3.2

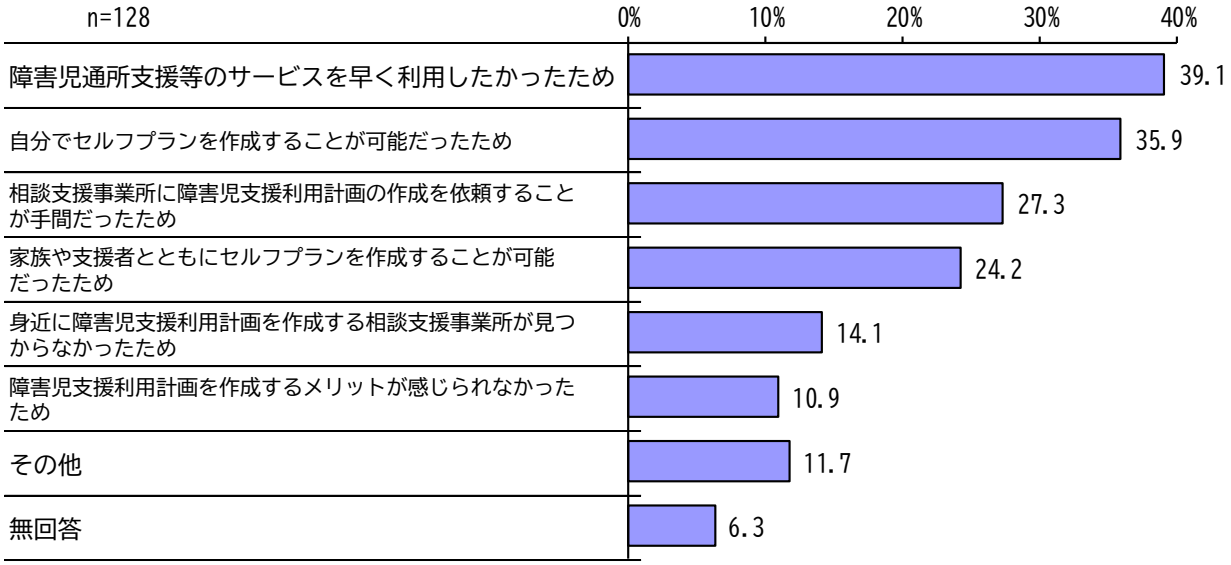
（単位:%）		n	障害児支援利用計画の計画内容に不満がある	再び支援が必要となった場合でも障害児支援利用計画は作成したくない	障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった	障害児支援利用計画の内容が分かりにくかった	課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった	その他	特にない	無回答
全体		465	0.4	0.0	1.3	1.5	2.2	3.7	11.8	44.3
障害別	肢体不自由	37	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	2.7	10.8	54.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	6.7	3.3	46.7
	視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	55.6
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	57.1
	内部障害	28	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4
	知的障害	167	0.6	0.0	2.4	1.2	1.2	5.4	7.8	35.9
	発達障害	285	0.4	0.0	1.1	1.8	2.5	4.2	12.3	40.7
	精神障害	17	0.0	0.0	5.9	5.9	5.9	11.8	5.9	29.4
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	6.5	12.9	45.2
	その他	31	0.0	0.0	3.2	3.2	3.2	3.2	12.9	45.2

障害別にみると、いずれの障害でも「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた。」が最も高くなっています。また、“聴覚・平衡機能障害”と“内部障害”では「希望どおりの障害児支援利用計画ができた」も最も高くなっています。

“知的障害”では「希望どおりの障害児支援利用計画ができた」と「障害児支援利用計画の計画内容に満足している」が３割前後と、他の障害より高くなっています。

（7）セルフプランにした理由

問 26 で「セルフプランを作成している」と回答した方にお聞きします。
問 28　セルフプランとした理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）



セルフプランを作成した理由は、「障害児通所支援等のサービスを早く利用したかったため」が39.1％と４割近くで最も高く、次いで「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が35.9％と続いています。

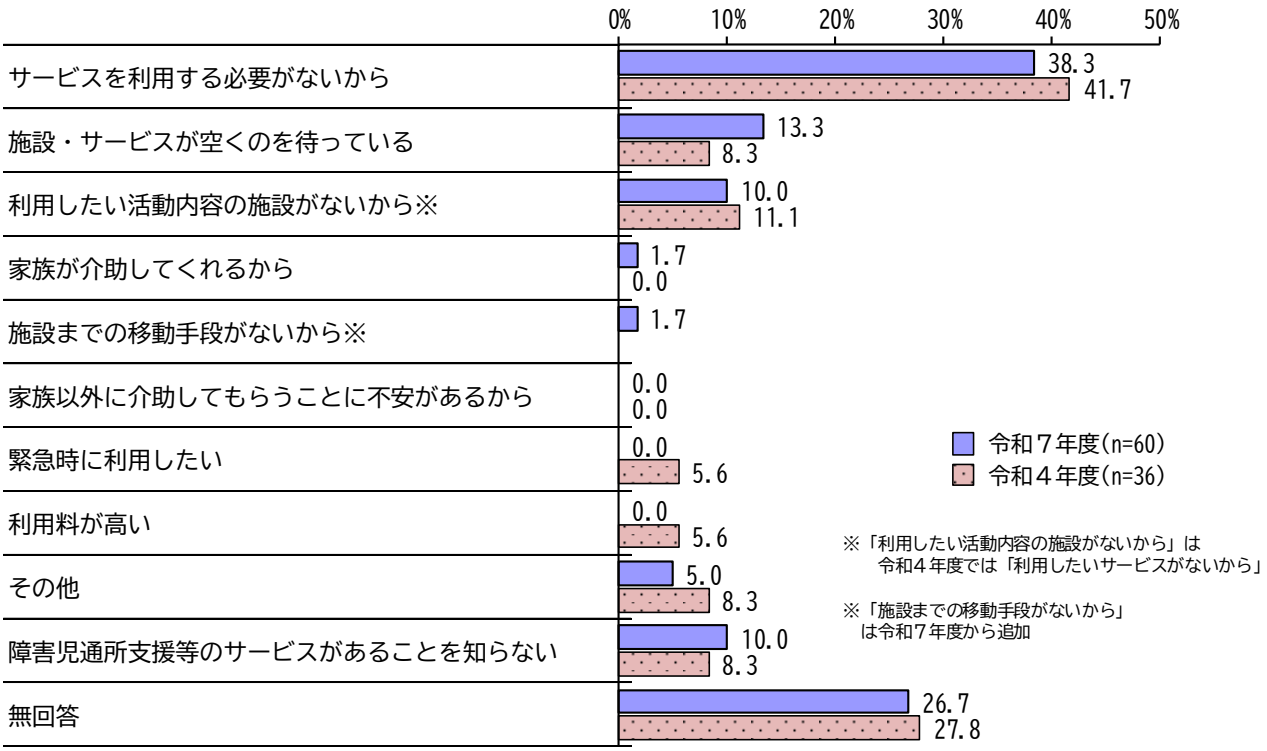
【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	相談支援事業所に障害児支援利用計画の作成を依頼することが手間だったため	身近に障害児支援利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため	障害児通所支援等のサービスを早く利用したかったため	家族や支援者とともにセルフプランを作成することが可能だったため	自分でセルフプランを作成することが可能だったため	障害児支援利用計画を作成するメリットが感じられなかったため	その他	無回答
全体		128	27.3	14.1	***39.1***	24.2	35.9	10.9	11.7	6.3
障害別	肢体不自由	4	0.0	25.0	***75.0***	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	7	0.0	28.6	***57.1***	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3
	視覚障害	3	0.0	***33.3***	0.0	***33.3***	***33.3***	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	5	***40.0***	0.0	***40.0***	0.0	***40.0***	0.0	0.0	20.0
	知的障害	35	34.3	11.4	***42.9***	14.3	34.3	14.3	8.6	8.6
	発達障害	88	29.5	15.9	***40.9***	22.7	37.5	11.4	14.8	3.4
	精神障害	5	60.0	0.0	***80.0***	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	0	***0.0***	***0.0***	***0.0***	***0.0***	***0.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	5	20.0	0.0	***60.0***	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0
	その他	8	12.5	0.0	25.0	***37.5***	***37.5***	12.5	0.0	25.0

障害別にみると、回答数が10件以上の“知的障害”と“発達障害”では「障害児通所支援等のサービスを早く利用したかったため」がともに４割を超えて最も高くなっています。また、「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」もともに３割を超えています。

（８）障害児通所支援等サービスを利用していない理由

問 25 にあるいずれの障害児通所支援等サービスも利用していない方にお聞きします。
問 29　障害児通所支援等のサービスを利用しない理由はなんですか。
（あてはまるものすべてに○）



障害児通所支援等サービスを利用していない理由は、「サービスを利用する必要がないから」が 38.3％と３割半ばを超えて最も高く、次いで「施設・サービスが空くのを待っている」が 13.3％、「利用したい活動内容の施設がないから」が 10.0％と 1 割以上で続いています。

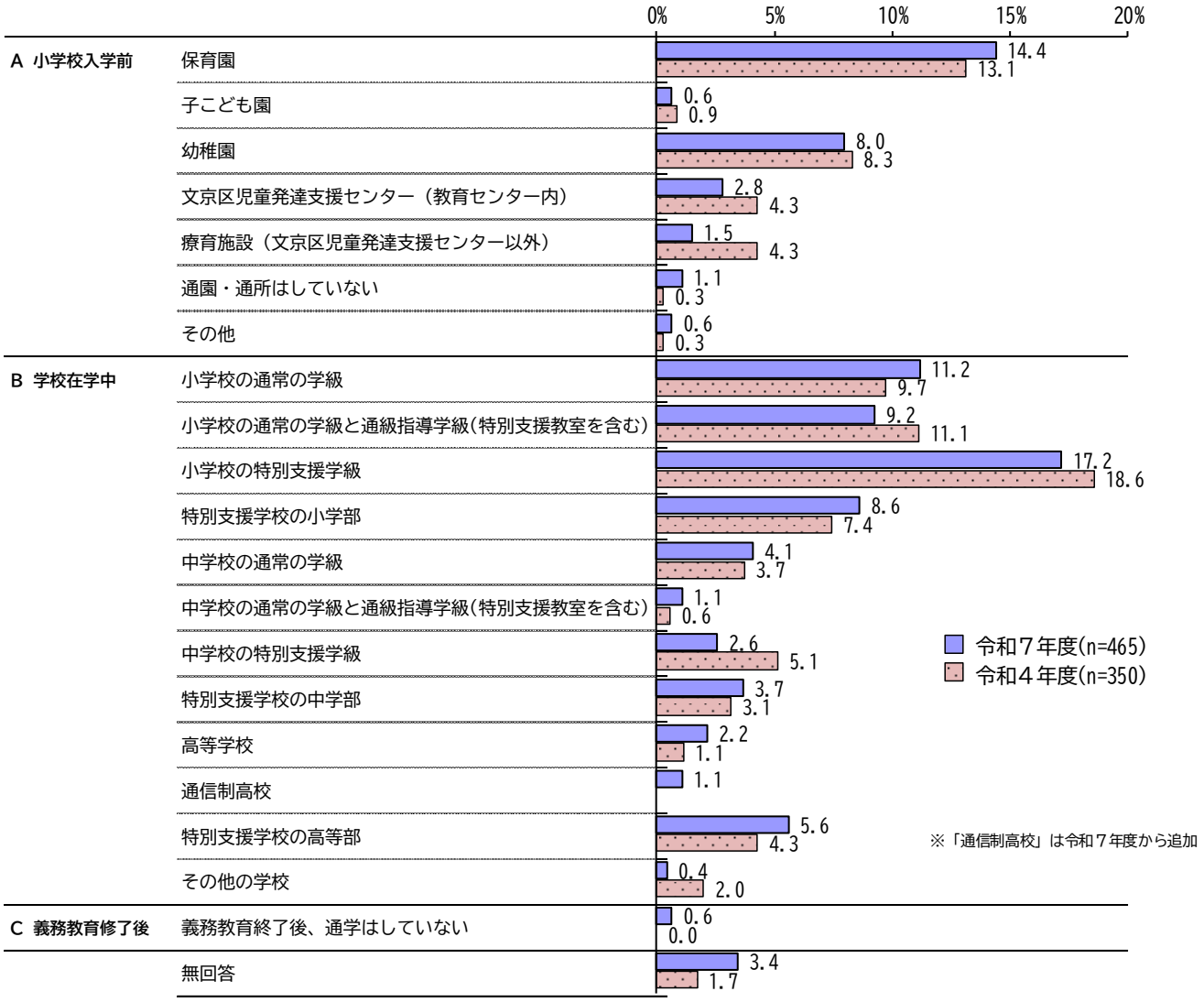
一方、「障害児通所支援等のサービスがあることを知らない」は 10.0％となっています。

令和４年度と比較すると、「施設・サービスが空くのを待っている」が 5.0 ポイント上がっており、反対に「サービスを利用する必要がないから」が 3.4 ポイント下がっています

6　教育・保育について

（1）主な通園・通学先

問 30　あなたが主に通園・通学などをしているところをお聞きします。（○はひとつ）



主な通園・通学先は、「小学校の特別支援学級」が 17.2%と最も高く、次いで「保育園」が 14.4%、「小学校の通常の学級」が 11.2%と続いています。

令和４年度と比較すると、小学校入学前は、「療育施設（文京区児童発達支援センター以外）」が 2.8 ポイント下がっています。

学校在学中は、「中学校の特別支援学級」が 2.5 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

【A　小学校入学前】

（単位:%）		合計	保育園	子ども園	幼稚園	文京区児童発達支援センター（教育センター内）	療育施設（文京区児童発達支援センター以外）	通園・通所はしていない	その他
全体		465	***14.4***	0.6	8.0	2.8	1.5	1.1	0.6
障害別	肢体不自由	37	***8.1***	2.7	0.0	0.0	2.7	***8.1***	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***20.0***	3.3	3.3	0.0	3.3	3.3	0.0
	視覚障害	9	0.0	***11.1***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	7.1	0.0	0.0	7.1	***14.3***	0.0	0.0
	内部障害	28	***21.4***	0.0	0.0	0.0	3.6	3.6	0.0
	知的障害	167	***7.8***	0.0	2.4	3.6	1.2	1.8	0.6
	発達障害	285	***12.6***	0.7	6.7	3.2	2.5	0.4	0.7
	精神障害	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	6.5	0.0	0.0	3.2	3.2	***9.7***	0.0
	問15に該当する方	259	***13.5***	0.8	7.3	3.1	1.2	1.2	0.8
	その他	31	***29.0***	0.0	25.8	6.5	3.2	0.0	0.0

【B　学校在学中】

（単位:%）		合計	小学校の通常の学級	小学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	中学校の通常の学級	中学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）	中学校の特別支援学級
全体		465	11.2	9.2	***17.2***	8.6	4.1	1.1	2.6
障害別	肢体不自由	37	2.7	2.7	8.1	***24.3***	2.7	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	3.3	0.0	6.7	13.3	0.0	0.0	0.0
	視覚障害	9	11.1	11.1	***22.2***	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	14.3	7.1	***28.6***	14.3	0.0	0.0
	内部障害	28	***25.0***	3.6	7.1	10.7	0.0	0.0	0.0
	知的障害	167	1.8	1.2	***25.7***	21.0	1.2	0.0	4.2
	発達障害	285	10.2	12.6	***20.7***	8.4	4.9	1.8	2.8
	精神障害	17	11.8	0.0	***29.4***	23.5	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	6.5	0.0	9.7	***19.4***	3.2	0.0	3.2
	問15に該当する方	259	7.7	12.7	***18.9***	11.6	3.1	0.8	1.2
	その他	31	***9.7***	***9.7***	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0

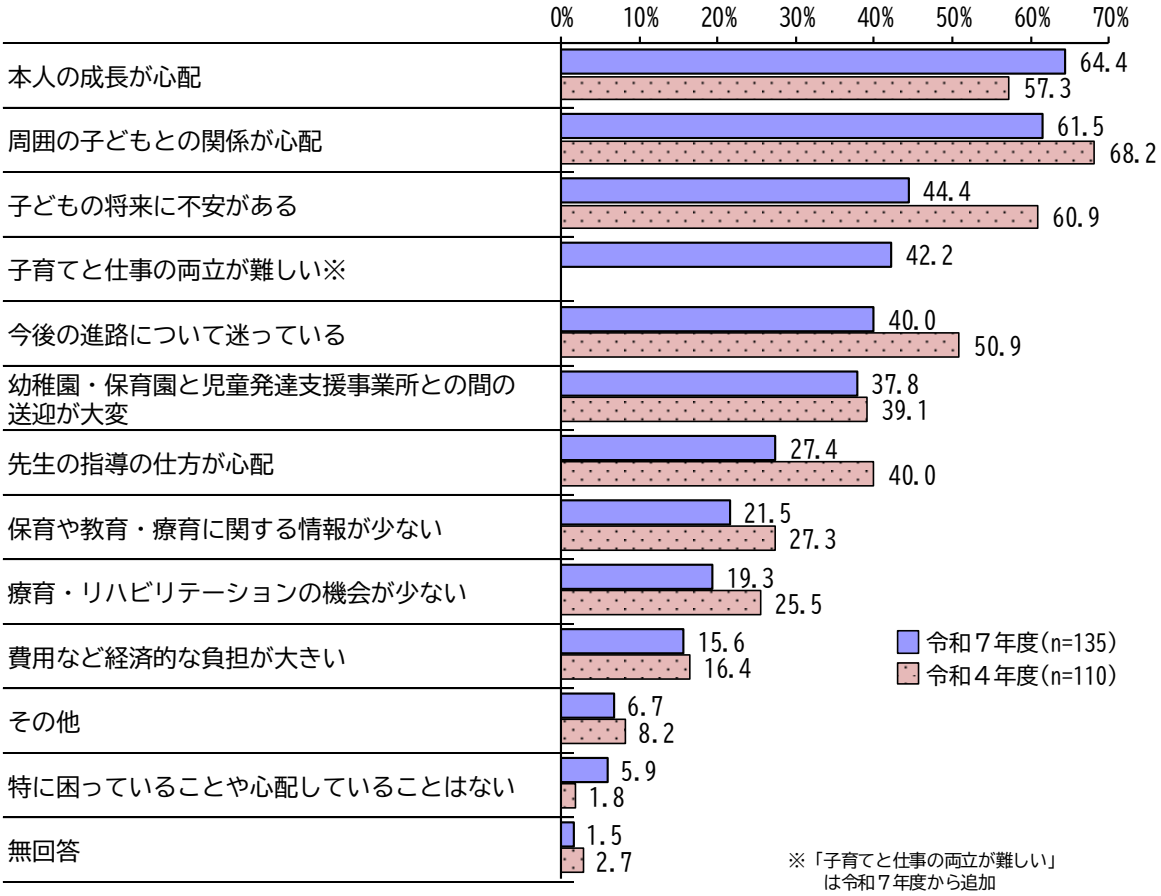
（単位:%）		合計	特別支援学校の中学部	高等学校	通信制高校	特別支援学校の高等部	その他の学校
全体		465	3.7	2.2	1.1	5.6	0.4
障害別	肢体不自由	37	2.7	0.0	2.7	21.6	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	10.0	6.7	0.0	***16.7***	0.0
	視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	28	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0
	知的障害	167	10.2	0.0	0.6	14.4	1.2
	発達障害	285	2.8	2.5	1.4	3.2	0.4
	精神障害	17	0.0	17.6	5.9	11.8	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	12.9	6.5	0.0	12.9	0.0
	問15に該当する方	259	5.0	1.9	1.2	5.0	0.4
	その他	31	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0

【A　小学校入学前】を障害別にみると、“聴覚・平衡機能障害”と“難病（特定疾病）”以外の、回答数が 10 件以上の障害はいずれも、「保育園」が最も高くなっています。

【B　学校在学中】を障害別にみると、“肢体不自由”、“聴覚・平衡機能障害”、“難病（特定疾病）”では「特別支援学校の小学部」が、“内部障害”と“その他”では「小学校の通常の学級」が、“その他”では「小学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）」も最も高く、それ以外の障害はいずれも「小学校の特別支援学級」が最も高くなっています。

（２）通園生活等の困りごと

問 30 で「A 小学校入学前」の中から回答した保護者の方にお聞きします。
問 31　通園生活や今後の進路等で困っていることや心配していることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）



小学校入学前児童の通園生活等の困りごとは、「本人の成長が心配」が 64.4%、「周囲の子どもとの関係が心配」が 61.5%と６割を超えて高く、次いで「子どもの将来に不安がある」が 44.4%、「子育てと仕事の両立が難しい」が 42.2%と続いています。

一方、「特に困っていることや心配していることはない」は 5.9%となっています。

令和４年度と比較すると、「本人の成長が心配」が 7.1 ポイント、「特に困っていることや心配していることはない」が 4.1 ポイント上がっていますが、それ以外の項目はいずれも下がっており、特に「子どもの将来に不安がある」が 16.5 ポイント、「今後の進路について迷っている」が 10.9 ポイントと 10 ポイント以上、令和４年度から下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	周囲の子どもとの関係が心配	先生の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある	保育や教育・療育に関する情報が少ない	療育・リハビリテーションの機会が少ない
全体		135	61.5	27.4	***64.4***	40.0	44.4	21.5	19.3
年代別	０～２歳	14	35.7	7.1	***64.3***	35.7	57.1	42.9	7.1
年代別	３～５歳	103	***66.0***	28.2	65.0	42.7	44.7	20.4	22.3
障害別	肢体不自由	9	44.4	11.1	55.6	44.4	***77.8***	33.3	33.3
障害別	音声・言語・そしゃく機能障害	10	***70.0***	10.0	60.0	30.0	60.0	30.0	40.0
障害別	視覚障害	1	***100.0***	0.0	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***
障害別	聴覚・平衡機能障害	4	***100.0***	25.0	75.0	***100.0***	***100.0***	50.0	0.0
障害別	内部障害	8	37.5	12.5	***75.0***	25.0	50.0	37.5	12.5
障害別	知的障害	29	62.1	17.2	69.0	44.8	***72.4***	41.4	20.7
障害別	発達障害	76	69.7	34.2	***71.1***	38.2	44.7	22.4	18.4
障害別	精神障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害別	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害別	難病（特定疾病）	7	71.4	0.0	***85.7***	42.9	***85.7***	28.6	0.0
障害別	問15に該当する方	72	***75.0***	33.3	72.2	48.6	55.6	20.8	16.7
障害別	その他	20	65.0	5.0	65.0	***70.0***	55.0	25.0	25.0

（単位:%）		n	子育てと仕事の両立が難しい	費用など経済的な負担が大きい	幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変	その他	特に困っていることや心配していることはない	無回答
全体		135	42.2	15.6	37.8	6.7	5.9	1.5
年代別	０～２歳	14	42.9	21.4	28.6	14.3	7.1	0.0
年代別	３～５歳	103	43.7	15.5	41.7	5.8	5.8	1.0
障害別	肢体不自由	9	66.7	22.2	44.4	33.3	0.0	0.0
障害別	音声・言語・そしゃく機能障害	10	***70.0***	40.0	40.0	10.0	10.0	0.0
障害別	視覚障害	1	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
障害別	聴覚・平衡機能障害	4	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0
障害別	内部障害	8	62.5	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
障害別	知的障害	29	58.6	24.1	48.3	13.8	0.0	3.4
障害別	発達障害	76	44.7	17.1	42.1	6.6	6.6	0.0
障害別	精神障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害別	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害別	難病（特定疾病）	7	71.4	14.3	28.6	28.6	0.0	0.0
障害別	問15に該当する方	72	54.2	13.9	41.7	6.9	4.2	0.0
障害別	その他	20	45.0	5.0	30.0	10.0	0.0	5.0

年代別にみると、“０～２歳”では「本人の成長が心配」が、“３～５歳”では、「周囲の子どもとの関係が心配」が６割半ば前後と最も高くなっています。

障害別にみると、回答数が10件以上の“音声・言語・そしゃく機能障害”では「周囲の子どもとの関係が心配」と「子育てと仕事の両立が難しい」が、“知的障害”では「子どもの将来に不安がある」が、“発達障害”では「本人の成長が心配」が、“問15に該当する方”では「周囲の子どもとの関係が心配」が、“その他”では「今後の進路について迷っている」が、それぞれ７割台で最も高くなっています。

また、「周囲の子どもとの関係が心配」と「本人の成長が心配」は回答数が10件以上のいずれの障害でも６割を超えています。

【クロス集計】親の就労状況別

（単位:%）			合計	周囲の子どもとの関係が心配	先生の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある	保育や教育・療育に関する情報が少ない	療育・リハビリテーションの機会が少ない
全体			135	61.5	27.4	***64.4***	40.0	44.4	21.5	19.3
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	121	62.8	28.1	***65.3***	39.7	45.5	20.7	19.8
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	1	***100.0***	0.0	***100.0***	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	1	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	1	***100.0***	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0	***100.0***
		これまで就労したことがない	1	0.0	0.0	0.0	***100.0***	***100.0***	***100.0***	0.0
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	58	69.0	22.4	***70.7***	34.5	36.2	22.4	22.4
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	5	40.0	40.0	60.0	40.0	0.0	20.0	20.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	24	45.8	25.0	58.3	54.2	***66.7***	20.8	25.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	4	***100.0***	50.0	***100.0***	50.0	25.0	25.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	43	***60.5***	32.6	58.1	39.5	51.2	20.9	14.0
		これまで就労したことがない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）			合計	子育てと仕事の両立が難しい	費用など経済的な負担が大きい	幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変	その他	特に困っていることや心配していることはない	無回答
全体			135	42.2	15.6	37.8	6.7	5.9	1.5
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	121	43.0	14.9	38.8	6.6	5.8	0.8
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	1	***100.0***	***100.0***	0.0	100.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		これまで就労したことがない	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	58	46.6	19.0	43.1	10.3	3.4	1.7
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	5	***100.0***	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	24	62.5	25.0	45.8	4.2	8.3	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	43	18.6	9.3	30.2	2.3	7.0	2.3
		これまで就労したことがない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

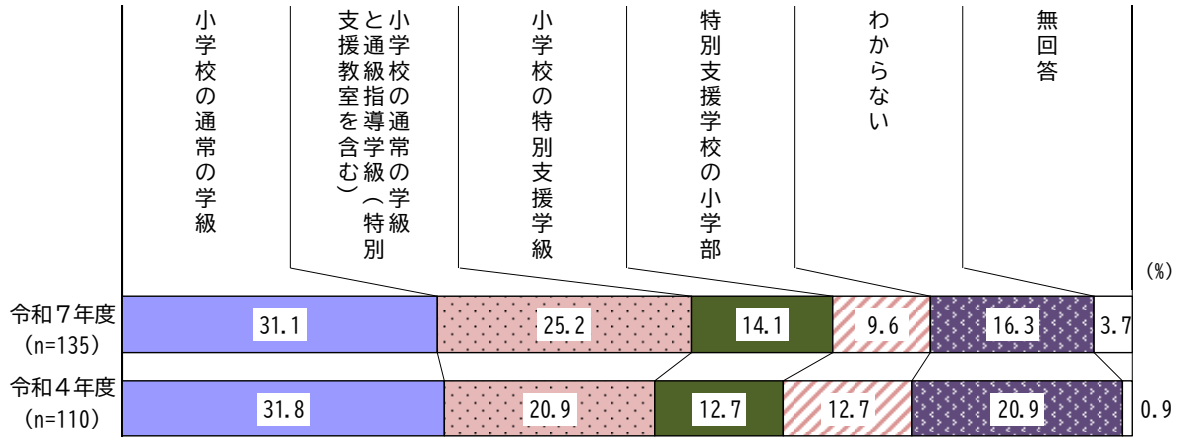
親の就労状況別にみると、父親では、“フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない”で「周囲の子どもとの関係が心配」と「本人の成長が心配」とが６割を超えて高くなっています。

母親では、回答数が10件以上の“フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない”で「周囲の子どもとの関係が心配」と「本人の成長が心配」が７割前後と高くなっています。

また、“パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない”では「子どもの将来に不安がある」と「子育てと仕事の両立が難しい」、“以前は就労していたが、現在は就労していない”では「周囲の子どもとの関係が心配」も６割を超えて高くなっています。

（３）小学校入学前児童の希望の教育機関

問 30 で「A 小学校入学前」の中から回答した保護者の方にお聞きします。
問 32　小学校はどの教育機関を希望しますか。（○はひとつ）



小学校入学前児童の希望の教育機関は、「小学校の通常の学級」が 31.1%と３割を超えて最も高く、次いで「小学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）」が 25.2%、「小学校の特別支援学級」が 14.1、「特別支援学校の小学部」が 9.6%と続いています。

一方、「わからない」は 16.3%となっています。

令和４年度と比較すると、「小学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）」が 4.3 ポイント上がっています。また、「わからない」は 4.6 ポイント令和４年度を下回っています。

【クロス集計】年代別・障害別

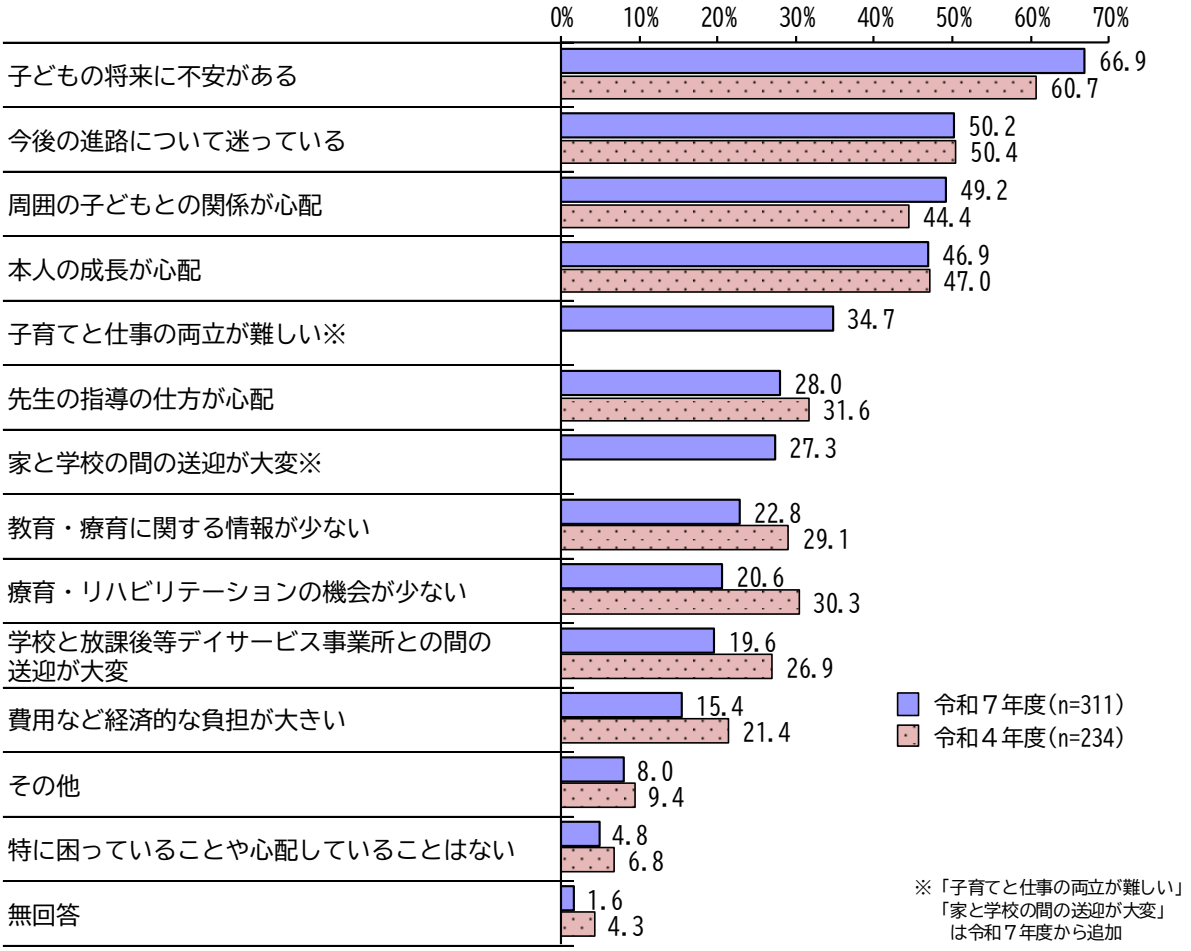
（単位:%）		n	小学校の通常の学級	小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	わからない	無回答
全体		135	***31.1***	25.2	14.1	9.6	16.3	3.7
年代別	０～２歳	14	***28.6***	7.1	14.3	7.1	42.9	0.0
	３～５歳	103	***31.1***	28.2	10.7	10.7	15.5	3.9
障害別	肢体不自由	9	11.1	***22.2***	***22.2***	11.1	33.3	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	20.0	***40.0***	30.0	10.0	0.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	4	0.0	***25.0***	***25.0***	***25.0***	25.0	0.0
	内部障害	8	***37.5***	25.0	25.0	0.0	12.5	0.0
	知的障害	29	0.0	13.8	24.1	***34.5***	20.7	6.9
	発達障害	76	***30.3***	25.0	14.5	10.5	15.8	3.9
	精神障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	7	14.3	0.0	***42.9***	14.3	28.6	0.0
	問15に該当する方	72	16.7	***27.8***	18.1	13.9	22.2	1.4
	その他	20	***20.0***	***20.0***	10.0	5.0	35.0	10.0

年代別にみると、“０～２歳”と“３～５歳”ではともに、「小学校の通常の学級」が３割前後で最も高くなっています。

障害別にみると、回答数が 10 件以上の“知的障害”では「特別支援学校の小学部」、“発達障害”と“その他”では「小学校の通常の学級」、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“問 15 に該当する方”、“その他”では「小学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）」が最も高くなっています。

（４）通学生活等の困りごと

問 30 で「B 学校在学中」の中から回答した保護者の方にお聞きします。
問 33　通学生活等で困っていることや心配していることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）



学校在学中の児童の通学生活等の困りごとは、「子どもの将来に不安がある」が 66.9%と６割半ばを超えて最も高く、次いで「今後の進路について迷っている」が 50.2%、「周囲の子どもとの関係が心配」が 49.2%、「本人の成長が心配」が 46.9%と続いています。

一方、「特に困っていることや心配していることはない」は 4.8%となっています。

令和４年度と比較すると、「子どもの将来に不安がある」が 6.2 ポイント、「周囲の子どもとの関係が心配」が 4.8 ポイント上がっており、反対に「療育・リハビリテーションの機会が少ない」は 9.7 ポイント、「学校と放課後等デイサービス事業所との間の送迎が大変」は 7.3 ポイント、「教育・療育に関する情報が少ない」は 6.3 ポイント、「費用など経済的な負担が大きい」は 6.0 ポイントと６ポイント以上下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	周囲の子どもとの関係が心配	先生の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある	教育・療育に関する情報が少ない	療育・リハビリテーションの機会が少ない
全体		311	49.2	28.0	46.9	50.2	***66.9***	22.8	20.6
年代別	６～８歳	109	61.5	22.9	46.8	43.1	***63.3***	22.0	15.6
	９～11歳	99	49.5	35.4	53.5	55.6	***65.7***	26.3	24.2
	12～14歳	49	42.9	28.6	42.9	57.1	***71.4***	24.5	24.5
	15歳以上	53	30.2	22.6	37.7	47.2	***71.7***	15.1	18.9
障害別	肢体不自由	25	28.0	20.0	44.0	36.0	***64.0***	20.0	28.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	17	11.8	11.8	23.5	35.3	***64.7***	23.5	23.5
	視覚障害	5	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	20.0
	聴覚・平衡機能障害	9	33.3	22.2	33.3	33.3	***55.6***	11.1	11.1
	内部障害	17	35.3	17.6	35.3	35.3	***47.1***	17.6	11.8
	知的障害	136	33.1	22.1	41.9	50.0	***69.9***	18.4	16.9
	発達障害	204	57.4	34.8	52.9	56.4	***74.5***	27.0	22.5
	精神障害	17	41.2	29.4	35.3	58.8	***70.6***	35.3	29.4
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	***100.0***	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	23	26.1	13.0	34.8	30.4	***73.9***	30.4	21.7
	問15に該当する方	180	51.1	30.0	49.4	51.1	***73.9***	26.1	22.8
	その他	10	40.0	20.0	50.0	40.0	***60.0***	20.0	0.0

（単位:%）		n	子育てと仕事の両立が難しい	費用など経済的な負担が大きい	家と学校の間の送迎が大変	学校と放課後等デイサービス事業所との間の送迎が大変	その他	特に困っていることや心配していることはない	無回答
全体		311	34.7	15.4	27.3	19.6	8.0	4.8	1.6
年代別	６～８歳	109	32.1	11.9	27.5	25.7	7.3	5.5	0.9
	９～11歳	99	41.4	14.1	33.3	28.3	10.1	1.0	1.0
	12～14歳	49	36.7	22.4	24.5	6.1	4.1	8.2	0.0
	15歳以上	53	24.5	18.9	17.0	3.8	9.4	7.5	5.7
障害別	肢体不自由	25	44.0	20.0	24.0	24.0	8.0	0.0	12.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	17	47.1	17.6	11.8	23.5	11.8	5.9	5.9
	視覚障害	5	***80.0***	0.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	9	22.2	11.1	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0
	内部障害	17	23.5	11.8	11.8	11.8	5.9	5.9	5.9
	知的障害	136	35.3	13.2	39.0	21.3	10.3	5.1	3.7
	発達障害	204	40.2	17.6	28.4	24.5	9.3	2.5	1.0
	精神障害	17	41.2	17.6	35.3	35.3	11.8	5.9	5.9
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	23	52.2	26.1	21.7	21.7	8.7	4.3	4.3
	問15に該当する方	180	37.2	19.4	32.8	22.8	10.6	3.3	1.7
	その他	10	10.0	10.0	40.0	30.0	20.0	0.0	10.0

年代別にみると、いずれの年代でも「子どもの将来に不安がある」が６割を超えて最も高く、特に12歳以上の年代では７割を超えています。

また、“６～８歳”では、「周囲の子どもとの関係が心配」も６割を超えて高くなっています。

障害別にみると、回答数が10件以上のいずれの障害も「子どもの将来に不安がある」が最も高く、特に“発達障害”、“精神障害”、“難病（特定疾病）”、“問15に該当する方”では７割を超えています。

また、“発達障害”では、「周囲の子どもとの関係が心配」、「本人の成長が心配」、「今後の進路について迷っている」が５割を超えて、他の障害より高くなっています。

【クロス集計】親の就労状況別

（単位:%）			合計	周囲の子どもとの関係が心配	先生の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある	教育・療育に関する情報が少ない	療育・リハビリテーションの機会が少ない
全体			311	49.2	28.0	46.9	50.2	***66.9***	22.8	20.6
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	278	48.9	26.3	46.0	48.9	***65.8***	21.6	20.1
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	3	66.7	33.3	66.7	***100.0***	66.7	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	7	***71.4***	57.1	42.9	42.9	***71.4***	28.6	14.3
		これまで就労したことがない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	125	45.6	26.4	45.6	44.8	***67.2***	20.8	20.0
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	5	40.0	40.0	***80.0***	40.0	***80.0***	0.0	60.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	70	45.7	25.7	40.0	54.3	***62.9***	22.9	21.4
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	100	55.0	32.0	53.0	54.0	***70.0***	26.0	21.0
		これまで就労したことがない	3	***66.7***	33.3	33.3	***66.7***	33.3	0.0	0.0

（単位:%）			合計	子育てと仕事の両立が難しい	費用など経済的な負担が大きい	家と学校の間の送迎が大変	学校と放課後等デイサービス事業所との間の送迎が大変	その他	特に困っていることや心配していることはない	無回答
全体			311	34.7	15.4	27.3	19.6	8.0	4.8	1.6
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	278	33.8	13.7	26.6	19.4	7.9	5.0	1.4
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	7	28.6	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0
		これまで就労したことがない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	125	36.0	8.8	26.4	12.8	6.4	7.2	2.4
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	5	60.0	20.0	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	70	45.7	20.0	31.4	25.7	10.0	2.9	1.4
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	100	27.0	21.0	28.0	24.0	7.0	3.0	0.0
		これまで就労したことがない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

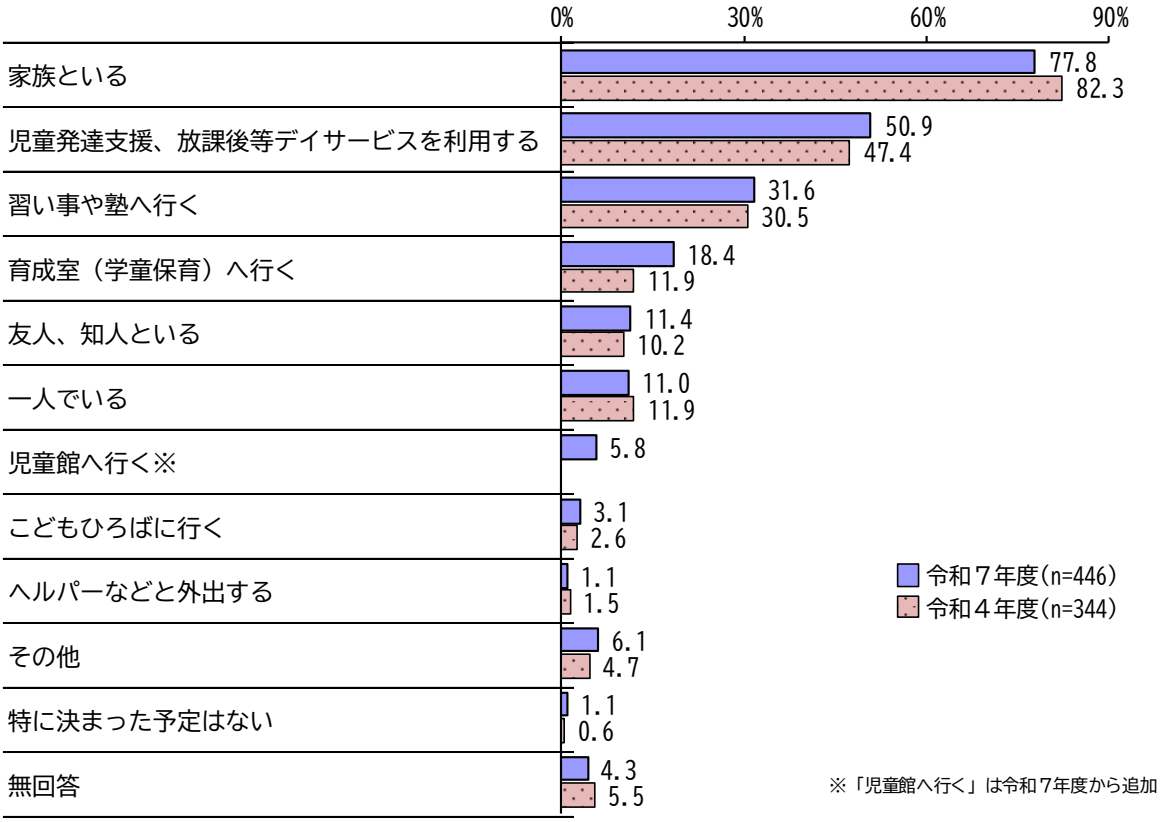
親の就労状況別にみると、父親では、“フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない”で「子どもの将来に不安がある」が６割半ばで最も高くなっています。

母親では、回答数が10件以上の就労状況ではいずれも「子どもの将来に不安がある」が６割を超えて最も高く、特に“以前は就労していたが、現在は就労していない”では７割に達しています。

また、回答数が 10 件以上のいずれの就労状況でも、「周囲の子どもとの関係が心配」、「本人の成長が心配」、「今後の進路について迷っている」なども４割以上となっています。

（５）放課後や長期休業中等の過ごし方

問 30 で「A 小学校入学前」、「B 学校在学中」の中から回答した保護者の方にお聞きします。
問 34　放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間は、どのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）



放課後や長期休業中などで、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間の過ごし方は、「家族といる」が 77.8%と最も高く、次いで「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が 50.9%、「習い事や塾へ行く」が 31.6%と続いています。

令和４年度と比較すると、全体的な傾向にあまり変化ありませんが、「育成室（学童保育）へ行く」が 6.5 ポイント上がっており、反対に「家族といる」が 4.5 ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	家族といる	友人、知人といる	一人でいる	ヘルパーなどと外出する	育成室(学童保育)へ行く	児童館へ行く
全体		446	***77.8***	11.4	11.0	1.1	18.4	5.8
年代別	０～２歳	14	***92.9***	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	３～５歳	103	***89.3***	10.7	1.0	1.0	1.0	11.7
	６～８歳	125	***74.4***	8.0	1.6	0.0	42.4	8.0
	９～11歳	99	***81.8***	14.1	12.1	0.0	27.3	3.0
	12～14歳	49	***75.5***	20.4	38.8	8.2	2.0	2.0
	15歳以上	53	***52.8***	7.5	28.3	0.0	0.0	0.0
障害別	肢体不自由	34	***61.8***	5.9	2.9	0.0	14.7	2.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	27	***70.4***	3.7	11.1	3.7	11.1	0.0
	視覚障害	6	***100.0***	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0
	聴覚・平衡機能障害	13	***76.9***	15.4	0.0	0.0	7.7	15.4
	内部障害	25	***76.0***	8.0	4.0	0.0	32.0	4.0
	知的障害	165	***71.5***	5.5	6.7	3.0	22.4	2.4
	発達障害	280	***80.7***	12.1	15.4	0.7	20.7	5.0
	精神障害	17	***52.9***	17.6	35.3	0.0	35.3	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	30	***76.7***	6.7	3.3	3.3	16.7	0.0
	問15に該当する方	252	***79.0***	9.5	10.7	1.2	21.4	5.6
	その他	30	***86.7***	16.7	6.7	0.0	6.7	16.7

（単位:%）		n	こどもひろばに行く	児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する	習い事や塾へ行く	その他	特に決まった予定はない	無回答
全体		446	3.1	50.9	31.6	6.1	1.1	4.3
年代別	０～２歳	14	21.4	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1
	３～５歳	103	7.8	39.8	26.2	1.9	2.9	6.8
	６～８歳	125	1.6	52.8	36.0	9.6	1.6	1.6
	９～11歳	99	1.0	61.6	41.4	6.1	0.0	2.0
	12～14歳	49	0.0	61.2	32.7	2.0	0.0	2.0
	15歳以上	53	0.0	49.1	18.9	11.3	0.0	11.3
障害別	肢体不自由	34	2.9	50.0	2.9	11.8	2.9	11.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	27	0.0	55.6	14.8	14.8	0.0	3.7
	視覚障害	6	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	13	7.7	30.8	30.8	0.0	0.0	0.0
	内部障害	25	0.0	24.0	24.0	16.0	4.0	4.0
	知的障害	165	2.4	66.7	14.5	8.5	0.6	4.2
	発達障害	280	2.9	52.1	35.7	6.4	1.4	2.1
	精神障害	17	0.0	47.1	17.6	11.8	0.0	5.9
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	30	0.0	53.3	16.7	10.0	3.3	6.7
	問15に該当する方	252	2.8	54.0	27.4	7.5	1.6	2.8
	その他	30	6.7	53.3	43.3	6.7	0.0	6.7

年代別にみると、いずれの年代でも「家族といる」が５割を超えて最も高く、次いで「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が続いています。

12歳以上の年代では、「一人でいる」が２割半ばを超えています。また、６～14歳の年代では、「習い事や塾へ行く」が３割を超えています。

“６～８歳”では、「育成室（学童保育）へ行く」が４割を超えて、他の年代より高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「家族といる」が最も高くなっています。

“知的障害”では、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が６割半ばを超えて、他の障害より高くなっています。

【クロス集計】親の就労状況別

（単位:%）			合計	家族といる	友人、知人といる	一人でいる	ヘルパーなどと外出する	育成室(学童保育)へ行く	児童館へ行く
全体			446	***77.8***	11.4	11.0	1.1	18.4	5.8
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	399	***78.7***	12.3	10.5	1.3	18.5	6.5
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	4	***75.0***	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	8	***87.5***	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0
		これまで就労したことがない	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	183	***63.9***	7.7	12.0	0.0	32.2	4.9
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	10	***80.0***	10.0	0.0	0.0	20.0	30.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	94	***83.0***	12.8	14.9	2.1	14.9	4.3
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	5	***100.0***	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	143	***90.2***	15.4	8.4	2.1	4.9	5.6
		これまで就労したことがない	3	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）			合計	こどもひろばに行く	児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する	習い事や塾へ行く	その他	特に決まった予定はない	無回答
全体			446	3.1	50.9	31.6	6.1	1.1	4.3
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	399	3.0	52.6	32.3	6.0	1.0	3.5
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	1	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	4	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	8	0.0	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0
		これまで就労したことがない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	183	3.3	39.3	26.2	5.5	0.5	5.5
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	10	20.0	70.0	50.0	0.0	0.0	10.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	94	2.1	60.6	30.9	5.3	2.1	2.1
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	5	0.0	60.0	80.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	143	2.8	57.3	35.7	7.7	0.7	3.5
		これまで就労したことがない	3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0

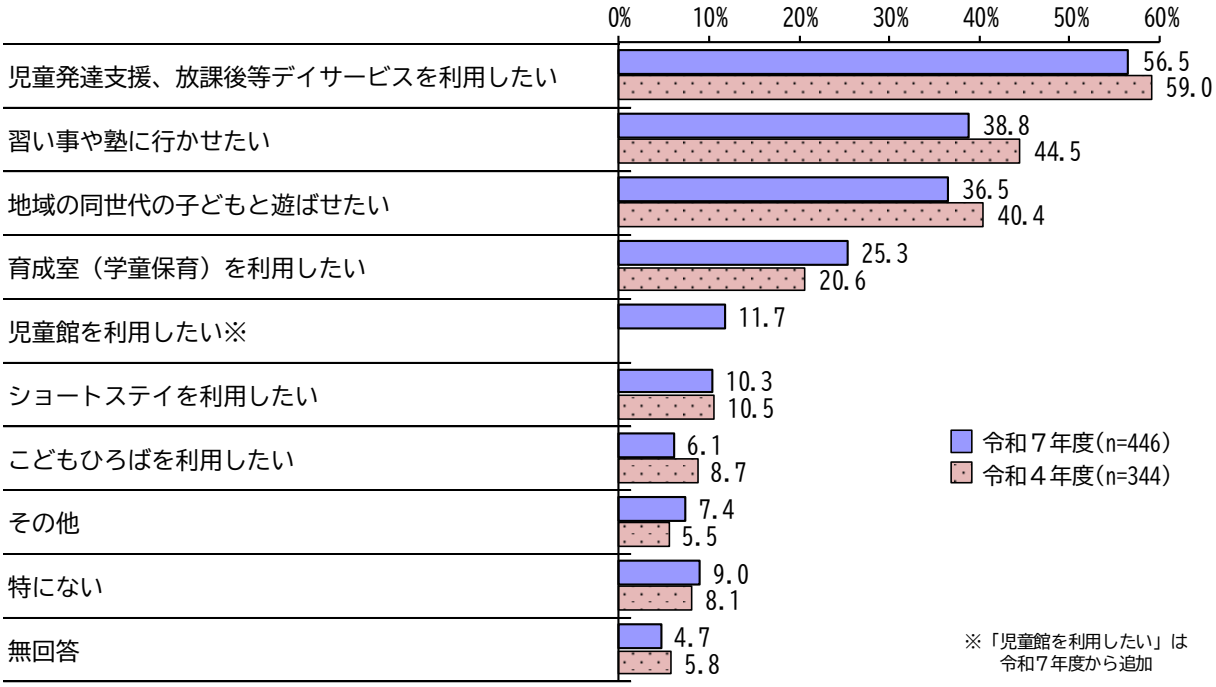
親の就労状況別にみると、父親では、“フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない”で「家族といる」が７割半ばを超えて最も高く、次いで「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が５割を超えて続いています。

母親では、いずれの就労状況でも「家族といる」が６割を超えて最も高く、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」や「習い事や塾へ行く」も２割半ばを超えて高くなっています。

また、“フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない”では「育成室（学童保育）へ行く」が、“フルタイム／産休・育休・介護休業中である”では「児童館へ行く」が３割以上で高くなっています。

（６）希望する放課後や長期休業中等の過ごし方

問 30 で「A 小学校入学前」、「B 学校在学中」の中から回答した保護者の方にお聞きします。
問 35　放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間は、どのように過ごすことを希望しますか。（あてはまるものすべてに○）



放課後や長期休業中などで、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間の希望する過ごし方は、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が 56.5%と５割半ばを超えて最も高く、次いで「習い事や塾に行かせたい」が 38.8%、「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」が 36.5%と続いています。

一方、「特にない」は 9.0%となっています。

令和４年度と比較すると、「育成室（学童保育）を利用したい」が 4.7 ポイント上がっており、反対に「習い事や塾に行かせたい」が 5.7 ポイント、「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」が 3.9 ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	地域の同世代の子どもと遊ばせたい	育成室(学童保育)を利用したい	児童館を利用したい	こどもひろばを利用したい	習い事や塾に行かせたい
全体		446	36.5	25.3	11.7	6.1	38.8
年代別	０～２歳	14	28.6	7.1	14.3	7.1	21.4
	３～５歳	103	42.7	32.0	17.5	10.7	45.6
	６～８歳	125	44.0	38.4	14.4	7.2	40.8
	９～11歳	99	39.4	27.3	9.1	3.0	39.4
	12～14歳	49	22.4	2.0	4.1	0.0	36.7
	15歳以上	53	15.1	3.8	3.8	5.7	26.4
障害別	肢体不自由	34	14.7	20.6	2.9	5.9	23.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	27	22.2	33.3	11.1	11.1	37.0
	視覚障害	6	0.0	33.3	0.0	0.0	16.7
	聴覚・平衡機能障害	13	15.4	7.7	7.7	0.0	15.4
	内部障害	25	44.0	32.0	12.0	8.0	***52.0***
	知的障害	165	21.8	23.6	7.3	3.6	27.3
	発達障害	280	38.2	27.9	11.8	6.1	40.0
	精神障害	17	11.8	29.4	5.9	0.0	23.5
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	30	16.7	16.7	3.3	6.7	30.0
	問15に該当する方	252	34.9	26.6	10.7	6.3	36.1
	その他	30	***53.3***	30.0	26.7	10.0	46.7

（単位:%）		n	ショートステイを利用したい	児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい	その他	特にない	無回答
全体		446	10.3	***56.5***	7.4	9.0	4.7
年代別	０～２歳	14	7.1	***42.9***	7.1	21.4	7.1
	３～５歳	103	7.8	***60.2***	4.9	7.8	4.9
	６～８歳	125	9.6	***51.2***	3.2	8.0	4.0
	９～11歳	99	9.1	***61.6***	9.1	5.1	2.0
	12～14歳	49	12.2	***61.2***	10.2	18.4	4.1
	15歳以上	53	18.9	***52.8***	17.0	9.4	11.3
障害別	肢体不自由	34	29.4	***52.9***	2.9	5.9	11.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	27	37.0	***66.7***	11.1	3.7	3.7
	視覚障害	6	***66.7***	***66.7***	0.0	16.7	0.0
	聴覚・平衡機能障害	13	7.7	***38.5***	7.7	46.2	0.0
	内部障害	25	8.0	24.0	8.0	8.0	4.0
	知的障害	165	18.8	***70.9***	7.3	6.1	5.5
	発達障害	280	9.6	***63.6***	8.2	7.1	2.9
	精神障害	17	17.6	***47.1***	17.6	11.8	5.9
	高次脳機能障害	1	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	30	16.7	***63.3***	6.7	6.7	6.7
	問15に該当する方	252	13.5	***61.5***	8.3	8.3	3.6
	その他	30	10.0	46.7	10.0	13.3	6.7

年代別にみると、いずれの年代でも「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が最も高くなっています。

３～11 歳の年代では、「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」と「習い事や塾に行かせたい」が４割前後と高くなっています。

３～８歳の年代では、「育成室（学童保育）を利用したい」が３割を超えて、他の年代より高くなっています。

障害別にみると、“内部障害”では「習い事や塾に行かせたい」が、“その他”では「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」が５割を超えて最も高くなっています。

それ以外のいずれの障害も「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が最も高くなっています。

【クロス集計】親の就労状況別

（単位:%）			合計	地域の同世代の子どもと遊ばせたい	育成室(学童保育)を利用したい	児童館を利用したい	こどもひろばを利用したい	習い事や塾に行かせたい
全体			446	36.5	25.3	11.7	6.1	38.8
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	399	36.8	25.1	10.8	5.8	37.6
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	8	25.0	25.0	12.5	0.0	***62.5***
		これまで就労したことがない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	183	38.3	39.3	10.9	6.0	42.1
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	10	30.0	50.0	30.0	10.0	60.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	94	31.9	23.4	7.4	3.2	34.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	5	80.0	0.0	20.0	20.0	***100.0***
		以前は就労していたが、現在は就労していない	143	33.6	9.1	13.3	7.0	33.6
		これまで就労したことがない	3	***66.7***	0.0	0.0	0.0	***66.7***

（単位:%）			合計	ショートステイを利用したい	児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい	その他	特にない	無回答
全体			446	10.3	***56.5***	7.4	9.0	4.7
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	399	9.8	***57.9***	7.3	9.0	4.0
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	4	25.0	***50.0***	0.0	25.0	25.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	8	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0
		これまで就労したことがない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	183	9.3	***54.1***	6.0	6.0	6.6
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	10	0.0	***90.0***	10.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	94	10.6	***56.4***	10.6	10.6	4.3
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	5	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	143	13.3	***58.0***	7.7	13.3	2.8
		これまで就労したことがない	3	0.0	***66.7***	0.0	0.0	0.0

親の就労状況別にみると、父親では、“フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない”で「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が５割半ばを超えて最も高く、次いで「習い事や塾に行かせたい」、「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」の順に３割半ばを超えて続いています。

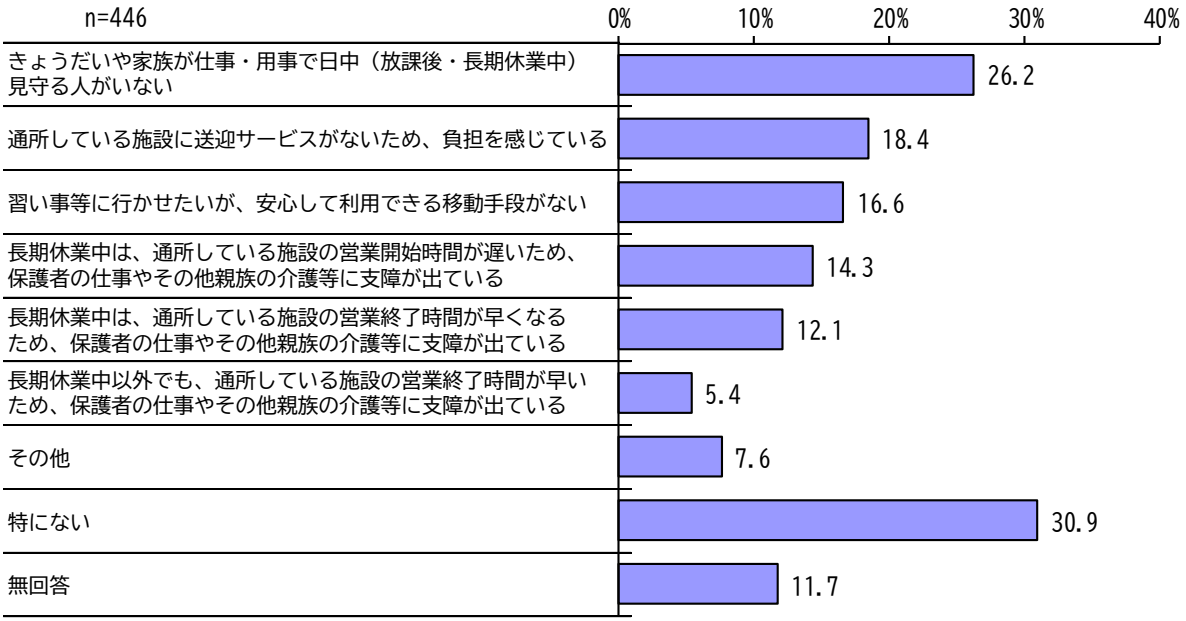
母親では、回答数が10件以上の就労状況ではいずれも「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が５割を超えて最も高く、「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」や「習い事や塾に行かせたい」も３割以上で高くなっています。

また、“以前は就労していたが、現在は就労していない”以外の就労状況ではいずれも「育成室（学童保育）を利用したい」が２割以上で高くなっています。

（7）放課後や長期休業中等の困りごと

問 30 で「A 小学校入学前」、「B 学校在学中」の中から回答した保護者の方にお聞きします。

問 36　放課後や長期休業中など、幼稚園・保育園・子ども園・学校等にいる以外の時間に困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）



放課後や長期休業中などで、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時で困っていることは、「きょうだいや家族が仕事・用事で日中（放課後・長期休業中）見守る人がいない」が 26.2%と２割半ばを超えて最も高く、次いで「通所している施設に送迎サービスがないため、負担を感じている」が 18.4%、「習い事等に行かせたいが、安心して利用できる移動手段がない」が 16.6%と続いています。

一方、「特にない」は 30.9%と３割を占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	きょうだいや家族が仕事･用事で日中(放課後･長期休業中)見守る人がいない	長期休業中は、通所している施設の営業開始時間が遅いため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている	長期休業中は、通所している施設の営業終了時間が早くなるため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている	長期休業中以外でも、通所している施設の営業終了時間が早いため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている	通所している施設に送迎サービスがないため、負担を感じている
全体		446	***26.2***	14.3	12.1	5.4	18.4
年代別	０～２歳	14	***14.3***	0.0	0.0	7.1	7.1
	３～５歳	103	26.2	4.9	4.9	7.8	***27.2***
	６～８歳	125	***23.2***	13.6	10.4	3.2	16.8
	９～11歳	99	***29.3***	20.2	20.2	8.1	25.3
	12～14歳	49	***28.6***	26.5	22.4	4.1	8.2
	15歳以上	53	***24.5***	17.0	9.4	1.9	5.7
障害別	肢体不自由	34	14.7	***26.5***	17.6	14.7	20.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	27	18.5	22.2	18.5	11.1	***25.9***
	視覚障害	6	16.7	***50.0***	16.7	16.7	33.3
	聴覚・平衡機能障害	13	0.0	***15.4***	7.7	7.7	0.0
	内部障害	25	8.0	8.0	0.0	4.0	16.0
	知的障害	165	26.7	***29.1***	24.8	9.1	18.2
	発達障害	280	***30.7***	13.6	12.9	6.4	21.1
	精神障害	17	***47.1***	17.6	17.6	5.9	29.4
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	30	13.3	***26.7***	23.3	10.0	16.7
	問15に該当する方	252	***27.8***	16.3	13.5	6.7	20.2
	その他	30	13.3	6.7	6.7	3.3	13.3

（単位:%）		n	習い事等に行かせたいが、安心して利用できる移動手段がない	その他	特にない	無回答
全体		446	16.6	7.6	30.9	11.7
年代別	０～２歳	14	0.0	7.1	57.1	7.1
	３～５歳	103	15.5	3.9	33.0	11.7
	６～８歳	125	***23.2***	6.4	30.4	12.8
	９～11歳	99	21.2	10.1	19.2	12.1
	12～14歳	49	10.2	14.3	38.8	4.1
	15歳以上	53	3.8	7.5	37.7	17.0
障害別	肢体不自由	34	20.6	5.9	23.5	14.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	27	18.5	7.4	25.9	14.8
	視覚障害	6	16.7	0.0	16.7	0.0
	聴覚・平衡機能障害	13	7.7	7.7	46.2	15.4
	内部障害	25	***24.0***	8.0	36.0	8.0
	知的障害	165	17.6	9.1	21.2	10.9
	発達障害	280	17.1	8.9	28.9	10.7
	精神障害	17	23.5	0.0	29.4	5.9
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	30	10.0	10.0	26.7	13.3
	問15に該当する方	252	17.1	10.7	25.8	11.1
	その他	30	***20.0***	10.0	40.0	13.3

年代別にみると、３歳以上の年代では、「きょうだいや家族が仕事・用事で日中（放課後・長期休業中）見守る人がいない」が２割を超えて高くなっています。

“３～５歳”では、「通所している施設に送迎サービスがないため、負担を感じている」が２割半ばを超えて最も高くなっています。

障害別にみると、“精神障害”では「きょうだいや家族が仕事・用事で日中（放課後・長期休業中）見守る人がいない」が47.1%と４割半ばを超えて、他の障害より高くなっています。

【クロス集計】親の就労状況別

（単位:%）			合計	きょうだいや家族が仕事・用事で日中(放課後・長期休業中)見守る人がいない	長期休業中は、通所している施設の営業開始時間が遅いため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている	長期休業中は、通所している施設の営業終了時間が早くなるため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている	長期休業中以外でも、通所している施設の営業終了時間が早いため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている	通所している施設に送迎サービスがないため、負担を感じている
全体			446	***26.2***	14.3	12.1	5.4	18.4
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	399	***26.1***	14.3	11.5	5.3	18.5
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	8	12.5	12.5	12.5	12.5	***25.0***
		これまで就労したことがない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	183	***31.1***	17.5	15.3	5.5	18.6
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	10	***30.0***	20.0	20.0	***30.0***	20.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	94	***31.9***	21.3	16.0	5.3	21.3
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	5	***40.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	143	15.4	7.0	6.3	4.2	***18.2***
		これまで就労したことがない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）			合計	習い事等に行かせたいが、安心して利用できる移動手段がない	その他	特にない	無回答
全体			446	16.6	7.6	30.9	11.7
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	399	16.5	7.3	31.3	11.0
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	1	0.0	100.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	4	***25.0***	0.0	75.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	8	***25.0***	0.0	37.5	25.0
		これまで就労したことがない	1	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	183	24.0	5.5	27.3	10.4
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	10	10.0	10.0	20.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	94	18.1	9.6	25.5	6.4
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	5	0.0	0.0	20.0	40.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	143	8.4	9.1	39.2	16.1
		これまで就労したことがない	3	0.0	33.3	33.3	33.3

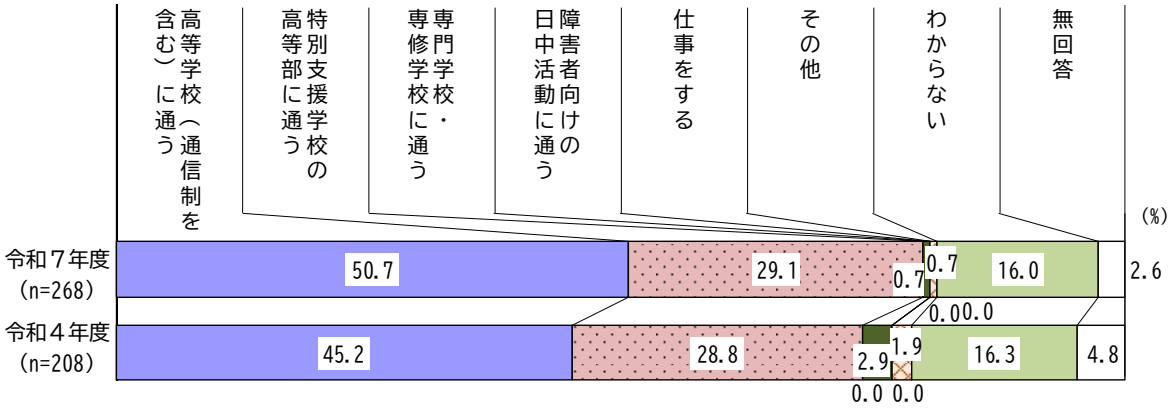
親の就労状況別にみると、父親では、“フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない”で「きょうだいや家族が仕事／用事で日中（放課後・長期休業中）見守る人がいない」が２割半ばを超えて最も高くなっています。

母親では、“フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない”、“フルタイム／産休・育休・介護休業中である”、“パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない”で「きょうだいや家族が仕事・用事で日中（放課後・長期休業中）見守る人がいない」が３割を超えて最も高くなっています。

また、“フルタイム／産休・育休・介護休業中である”では「長期休業中以外でも、通所している施設の営業終了時間が早いため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている」も３割を超えて最も高くなっています。

（８）中学校卒業後の希望進路

問 30 で「B　学校在学中」の中から、小学校（小学部）または中学校（中学部）に通っていると回答した方の保護者の方にお聞きします。
問 37　中学校（中学部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（○はひとつ）



中学校（中学部）卒業後の希望進路は、「高等学校（通信制を含む）に通う」が 50.7%と５割を占めて最も高く、次いで「特別支援学校の高等部に通う」が 29.1%と続いており、高等学校・高等部で８割を占めています。一方、「わからない」は 16.0%となっています。

令和４年度と比較すると、「高等学校（通信制を含む）に通う」が 5.5 ポイント上がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	高等学校（通信制を含む）に通う	特別支援学校の高等部に通う	専門学校・専修学校に通う	障害者向けの日中活動に通う	仕事をする	その他	わからない	無回答
全体		268	***50.7***	29.1	0.7	0.0	0.0	0.7	16.0	2.6
年代別	６～８歳	109	***54.1***	24.8	0.9	0.0	0.0	0.9	17.4	1.8
	９～11歳	99	***46.5***	26.3	1.0	0.0	0.0	1.0	21.2	4.0
	12～14歳	49	***53.1***	38.8	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	2.0
	15歳以上	10	40.0	***60.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害別	肢体不自由	16	18.8	***62.5***	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	6.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	***70.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	視覚障害	4	***50.0***	***50.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	9	44.4	***55.6***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	13	***53.8***	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4
	知的障害	109	9.2	***65.1***	0.9	0.0	0.0	0.9	18.3	5.5
	発達障害	183	***56.3***	23.5	1.1	0.0	0.0	1.1	16.9	1.1
	精神障害	11	***54.5***	36.4	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	17	17.6	***64.7***	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	5.9
	問15に該当する方	158	***46.8***	32.3	0.6	0.0	0.0	1.3	16.5	2.5
	その他	8	***62.5***	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0

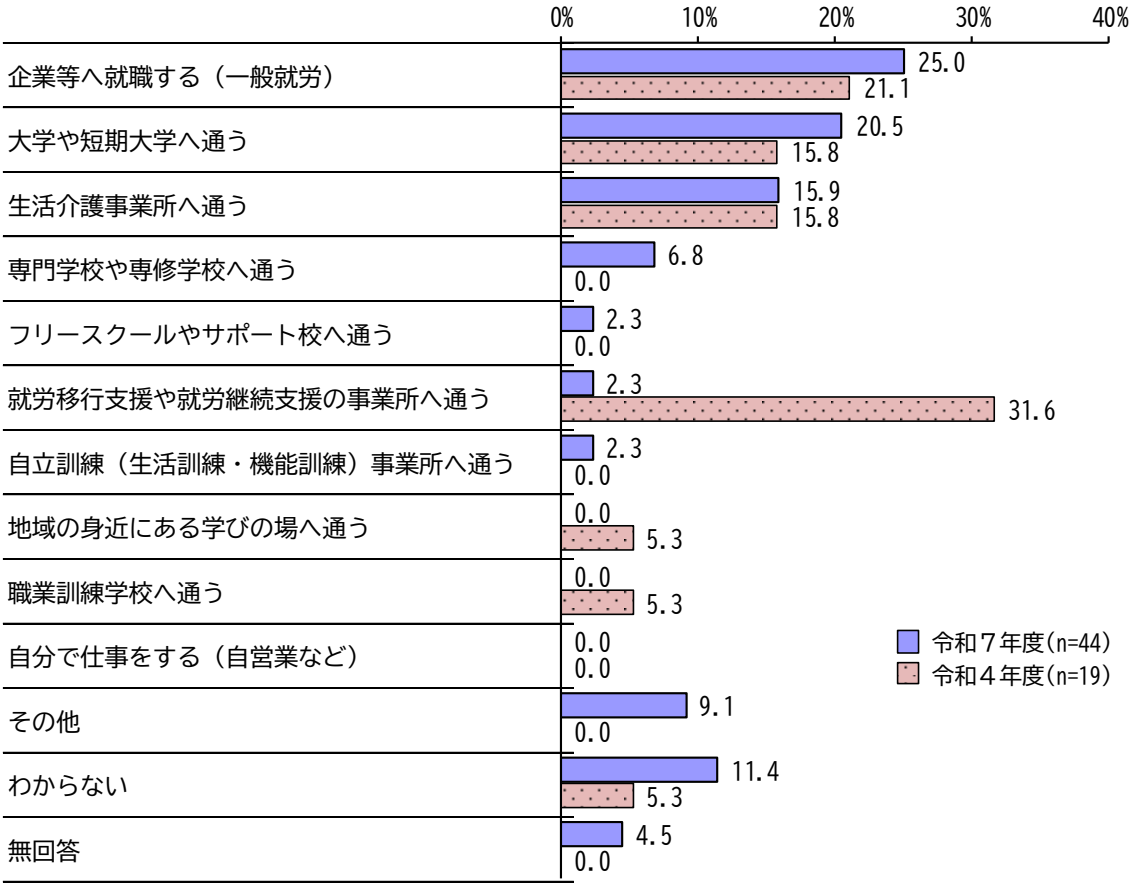
年代別にみると、14 歳以下の年代では「高等学校に通う」が、“15 歳以上”では「特別支援学校の高等部に通う」が最も高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害も「高等学校に通う」か「特別支援学校の高等部に通う」が最も高くなっています。

（９）学校卒業後希望する進路

問 30 で「学校在学中」の中から「高等学校」・「特別支援学校の高等部」、または「C 義務教育を終了後、通学はしていない」と回答した方にお聞きします。
問 38　どのような進路を希望しますか。（〇はひとつ）

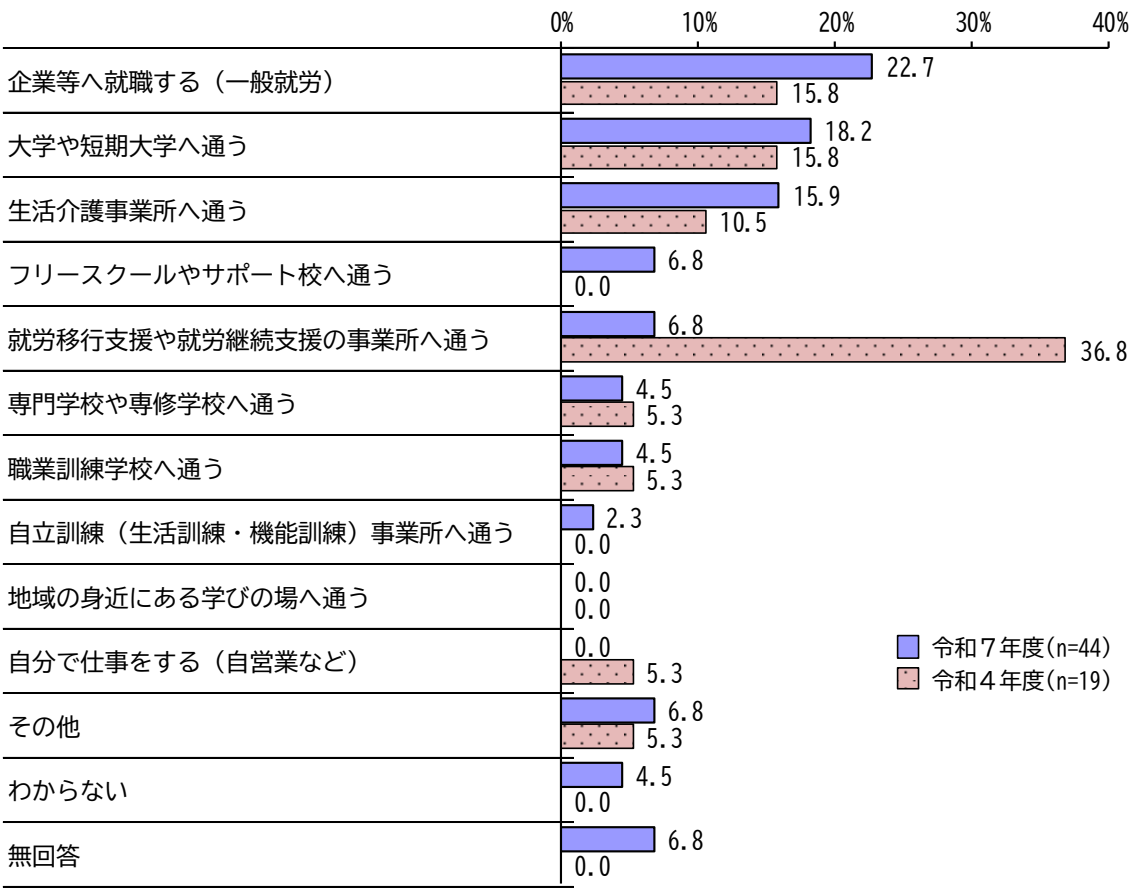
【本人の希望】



高等学校・高等部卒業後の進路について、本人の希望は、「企業等へ就職する（一般就労）」が 25.0%と最も高く、次いで「大学や短期大学へ通う」が 20.5%、「生活介護事業所へ通う」が 15.9%と続いています。

一方、「わからない」は 11.4%となっています。

【保護者の希望】



高等学校・高等部卒業後の進路について、保護者の希望は、「企業等へ就職する（一般就労）」が22.7%と最も高く、次いで「大学や短期大学へ通う」が 18.2%、「生活介護事業所へ通う」が 15.9%と続いています。

一方、「わからない」は 4.5%となっています。

【クロス集計】障害別

【本人の希望】

（単位:%）		n	大学や短期大学へ通う	専門学校や専修学校へ通う	フリースクールやサポート校へ通う	地域の身近にある学びの場へ通う	職業訓練学校へ通う	企業等へ就職する(一般就労)	自分で仕事をする(自営業など)
全体		44	20.5	6.8	2.3	0.0	0.0	***25.0***	0.0
障害別	肢体不自由	11	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	9	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	視覚障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	5	***40.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	知的障害	25	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	***40.0***	0.0
	発達障害	20	25.0	15.0	0.0	0.0	0.0	***30.0***	0.0
	精神障害	6	***33.3***	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	問15に該当する方	23	***21.7***	13.0	0.0	0.0	0.0	17.4	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***50.0***	0.0

（単位:%）		n	就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う	自立訓練(生活訓練･機能訓練)事業所へ通う	生活介護事業所へ通う	その他	わからない	無回答
全体		44	2.3	2.3	15.9	9.1	11.4	4.5
障害別	肢体不自由	11	0.0	0.0	***36.4***	18.2	18.2	9.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	9	11.1	0.0	***22.2***	11.1	22.2	11.1
	視覚障害	3	***33.3***	0.0	***33.3***	33.3	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	知的障害	25	0.0	4.0	24.0	8.0	12.0	4.0
	発達障害	20	0.0	0.0	10.0	15.0	5.0	0.0
	精神障害	6	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7
	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	6	0.0	0.0	***50.0***	0.0	0.0	16.7
	問15に該当する方	23	4.3	4.3	13.0	17.4	8.7	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

【本人の希望】を障害別にみると、回答数が 10 件以上の“肢体不自由”では「生活介護事業所へ通う」が、“知的障害”と“発達障害”では、「企業等へ就職する（一般就労)」が、“問 15 に該当する方”では「大学や短期大学へ通う」が最も高くなっています。

【クロス集計】障害別

【保護者の希望】

（単位:%）		n	大学や短期大学へ通う	専門学校や専修学校へ通う	フリースクールやサポート校へ通う	地域の身近にある学びの場へ通う	職業訓練学校へ通う	企業等へ就職する(一般就労)	自分で仕事をする(自営業など)
全体		44	18.2	4.5	6.8	0.0	4.5	***22.7***	0.0
障害別	肢体不自由	11	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	9	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0
	視覚障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	5	***40.0***	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	25	0.0	0.0	8.0	0.0	4.0	***36.0***	0.0
	発達障害	20	***25.0***	10.0	5.0	0.0	10.0	***25.0***	0.0
	精神障害	6	***33.3***	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	問15に該当する方	23	***17.4***	4.3	8.7	0.0	4.3	***17.4***	0.0
	その他	2	0.0	0.0	***50.0***	0.0	0.0	0.0	0.0

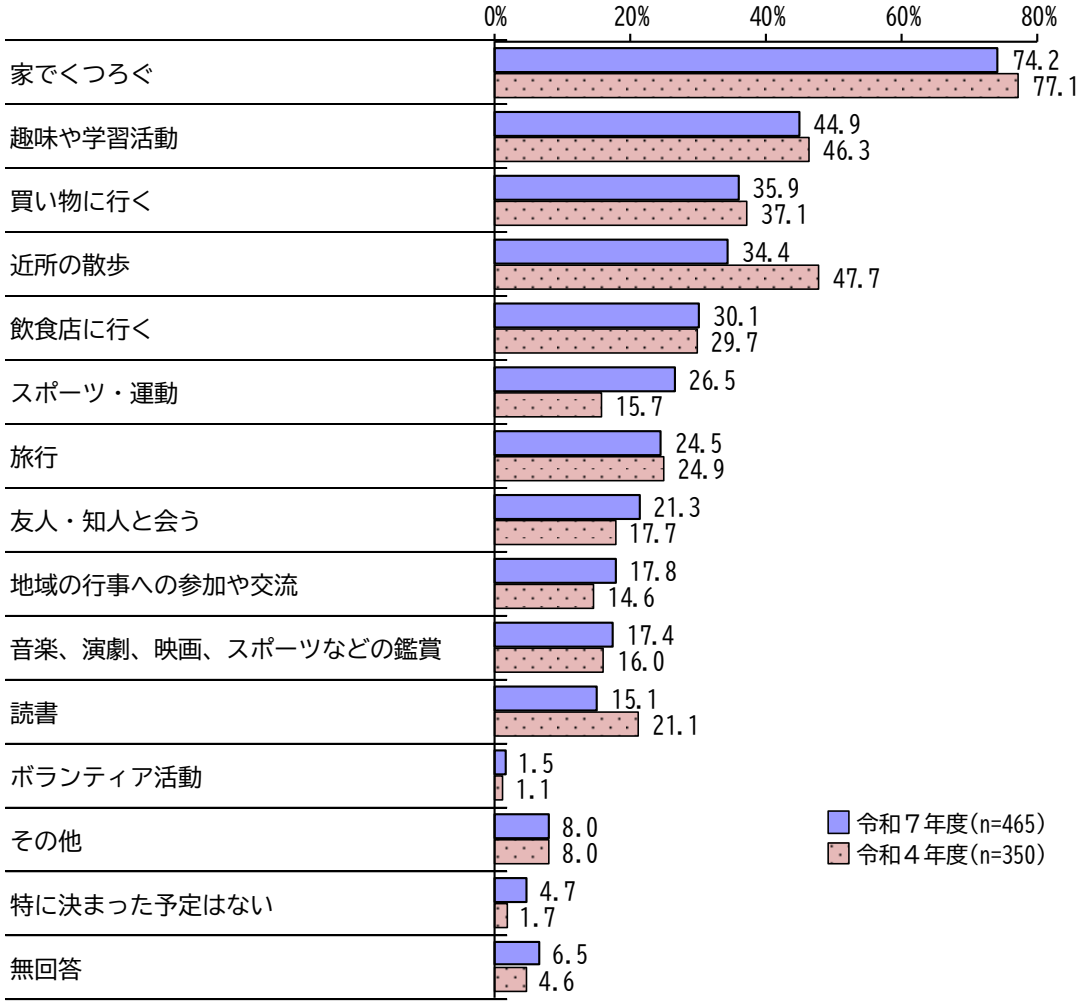
（単位:%）		n	就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う	自立訓練(生活訓練・機能訓練)事業所へ通う	生活介護事業所へ通う	その他	わからない	無回答
全体		44	6.8	2.3	15.9	6.8	4.5	6.8
障害別	肢体不自由	11	0.0	0.0	***36.4***	18.2	18.2	18.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	9	11.1	0.0	***22.2***	11.1	22.2	11.1
	視覚障害	3	***33.3***	0.0	***33.3***	33.3	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	知的障害	25	8.0	4.0	24.0	8.0	4.0	4.0
	発達障害	20	5.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0
	精神障害	6	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	6	0.0	0.0	***50.0***	0.0	0.0	16.7
	問15に該当する方	23	8.7	4.3	13.0	13.0	4.3	4.3
	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

【保護者の希望】を障害別にみると、回答数が10件以上の“肢体不自由”では「生活介護事業所へ通う」が、“知的障害”、“発達障害”、“問 15 に該当する方”では、「企業等へ就職する（一般就労)」が最も高くなっています。

また、“発達障害”、“問 15 に該当する方”では「大学や短期大学へ通う」も最も高くなっています。

（10）休日の過ごし方

問 39　あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）



休日の過ごし方は、「家でくつろぐ」が 74.2%と最も高く、次いで「趣味や学習活動」が 44.9%、「買い物に行く」が 35.9%、「近所の散歩」が 34.4%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は 4.7%となっています。

令和４年度と比較すると、「スポーツ・運動」が 10.8 ポイント上がっており、反対に「近所の散歩」が 13.3 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

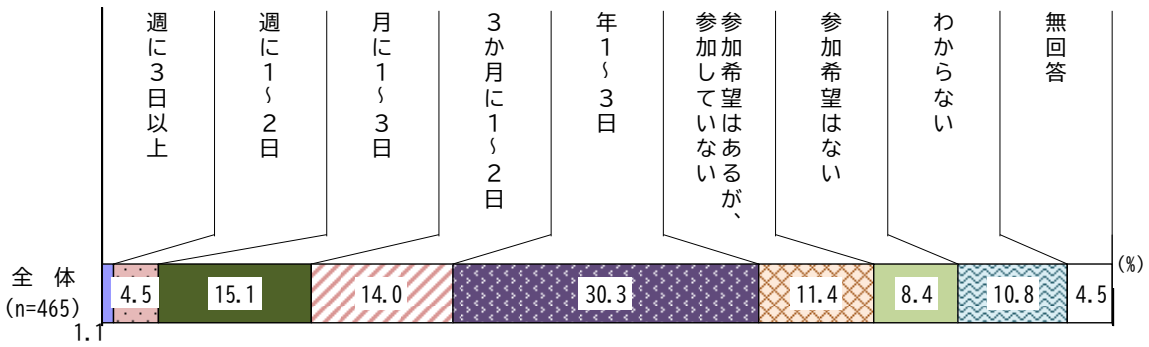
（単位:%）		n	趣味や学習活動	スポーツ・運動	ボランティア活動	友人・知人と会う	音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞	買い物に行く	飲食店に行く	読書
全体		465	44.9	26.5	1.5	21.3	17.4	35.9	30.1	15.1
障害別	肢体不自由	37	27.0	10.8	0.0	21.6	27.0	48.6	27.0	13.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	36.7	26.7	0.0	20.0	23.3	40.0	23.3	13.3
	視覚障害	9	44.4	44.4	0.0	33.3	33.3	55.6	55.6	22.2
	聴覚・平衡機能障害	14	42.9	50.0	0.0	21.4	28.6	42.9	35.7	35.7
	内部障害	28	42.9	39.3	3.6	25.0	21.4	35.7	25.0	7.1
	知的障害	167	37.1	25.7	1.2	13.2	21.6	42.5	32.3	8.4
	発達障害	285	49.8	22.1	1.8	23.5	15.4	35.1	29.1	15.4
	精神障害	17	47.1	23.5	0.0	35.3	23.5	35.3	23.5	17.6
	高次脳機能障害	1	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***	0.0
	難病（特定疾病）	31	38.7	12.9	3.2	16.1	22.6	38.7	25.8	19.4
	問15に該当する方	259	42.9	24.7	0.8	17.8	18.1	37.5	30.1	14.7
	その他	31	45.2	35.5	0.0	16.1	19.4	41.9	32.3	22.6

（単位:%）		n	旅行	家でくつろぐ	地域の行事への参加や交流	近所の散歩	その他	特に決まった予定はない	無回答
全体		465	24.5	***74.2***	17.8	34.4	8.0	4.7	6.5
障害別	肢体不自由	37	24.3	***75.7***	10.8	37.8	10.8	2.7	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	46.7	***86.7***	20.0	36.7	10.0	0.0	3.3
	視覚障害	9	44.4	***88.9***	22.2	33.3	11.1	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	21.4	***57.1***	14.3	28.6	7.1	7.1	7.1
	内部障害	28	28.6	***78.6***	35.7	35.7	14.3	0.0	7.1
	知的障害	167	25.7	***81.4***	14.4	41.9	6.6	3.0	3.0
	発達障害	285	23.9	***74.0***	17.2	34.7	8.8	5.3	6.0
	精神障害	17	35.3	***82.4***	11.8	29.4	11.8	5.9	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	29.0	***80.6***	19.4	35.5	6.5	6.5	3.2
	問15に該当する方	259	23.6	***75.3***	17.0	37.5	8.5	3.9	5.4
	その他	31	32.3	***67.7***	19.4	48.4	6.5	3.2	6.5

障害別にみると、いずれの障害でも「家でくつろぐ」が５割半ばを超えて最も高くなっています。また、「趣味や学習活動」、「買い物に行く」、「飲食店に行く」、「旅行」、「近所の散歩」などもいずれの障害でも２割を超えて高くなっています。

（11）文化芸術活動への参加頻度

問 40　あなたは過去１年間、どのくらいの頻度で文化芸術活動へ参加しましたか。（○はひとつ）



過去１年間の文化芸術活動への参加頻度は、「年１～３日」が 30.3%と３割を占めて最も高く、次いで「月に１～３日」が 15.1%、「３か月に１～２日」が 14.0%と続いています。

一方、「参加希望はあるが、参加していない」は 11.4%、「参加希望はない」は 8.4%、「わからない」は 10.8%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	週に3日以上	週に1～2日	月に1～3日	3か月に1～2日	年1～3日	参加希望はあるが、参加していない	参加希望はない	わからない	無回答
全体		465	1.1	4.5	15.1	14.0	***30.3***	11.4	8.4	10.8	4.5
年代別	０～２歳	15	0.0	0.0	***20.0***	6.7	13.3	6.7	0.0	46.7	6.7
	３～５歳	106	0.0	2.8	12.3	15.1	***23.6***	17.9	6.6	15.1	6.6
	６～８歳	127	0.8	5.5	18.9	17.3	***30.7***	13.4	5.5	4.7	3.1
	９～11歳	104	2.9	7.7	20.2	11.5	***29.8***	9.6	7.7	6.7	3.8
	12～14歳	51	2.0	2.0	7.8	7.8	***51.0***	5.9	9.8	9.8	3.9
	15歳以上	58	0.0	3.4	8.6	13.8	***29.3***	5.2	20.7	15.5	3.4
障害別	肢体不自由	37	0.0	2.7	8.1	13.5	***29.7***	16.2	10.8	16.2	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	10.0	13.3	6.7	***36.7***	13.3	10.0	6.7	3.3
	視覚障害	9	11.1	0.0	***22.2***	11.1	***22.2***	11.1	11.1	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	7.1	7.1	14.3	7.1	***21.4***	7.1	7.1	21.4	7.1
	内部障害	28	3.6	7.1	7.1	***21.4***	***21.4***	21.4	0.0	10.7	7.1
	知的障害	167	0.0	4.8	16.8	10.2	***31.1***	16.2	10.8	9.0	1.2
	発達障害	285	0.7	4.2	16.8	13.3	***31.2***	10.5	9.1	10.9	3.2
	精神障害	17	0.0	17.6	11.8	11.8	***29.4***	11.8	11.8	5.9	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	0.0	3.2	6.5	9.7	***35.5***	22.6	3.2	16.1	3.2
	その他	31	6.5	3.2	12.9	19.4	***25.8***	9.7	0.0	12.9	9.7

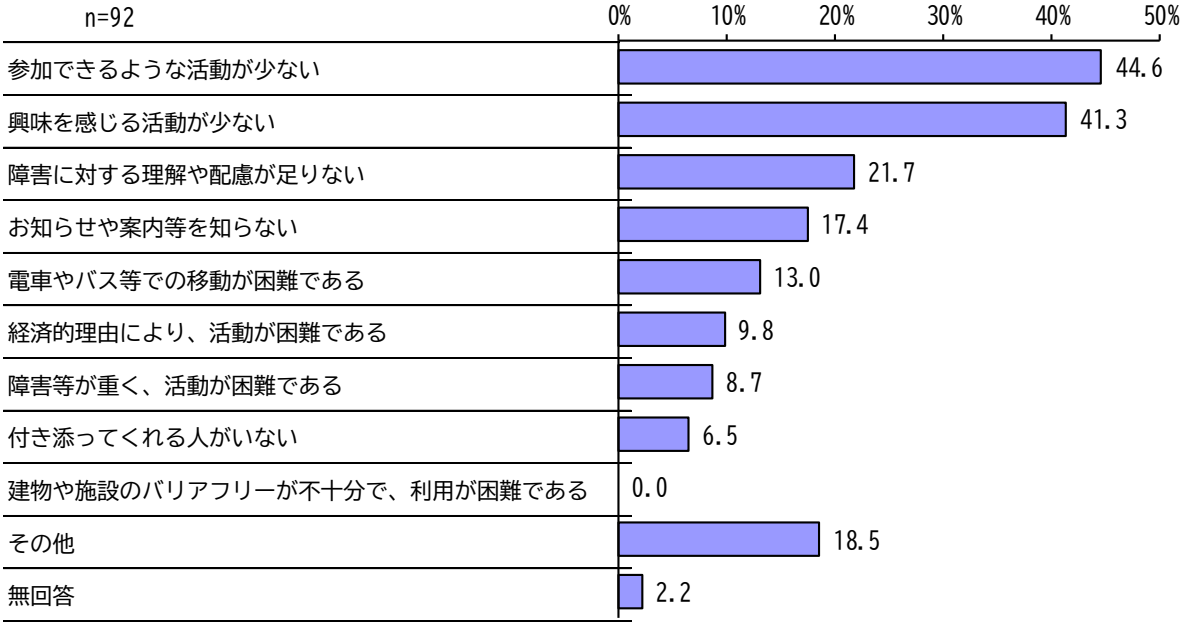
年代別にみると、“０～２歳”と　“９～11 歳”では「月に１～３日」が２割で、他の年代より高くなっています。また、３歳以上の年代ではいずれも「年１～３日」が最も高く、特に“12～14 歳”では５割を超えています。

障害別にみると、回答数が 10 件以上のいずれの障害でも「年１～３日」が２割を超えて最も高くなっています。

また、“内部障害”では「３か月に１～２日」も２割を超えて、他の障害より高くなっています。

（12）文化芸術活動に参加しない理由

問 40 で「参加希望はあるが、参加していない」か「参加希望はない」と回答した方にお聞きします。
問 40-1　その理由をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）



文化芸術活動に参加しない理由は、「参加できるような活動が少ない」が 44.6%、「興味を感じる活動が少ない」が41.3%と４割を超えて高く、次いで「障害に対する理解や配慮が足りない」が21.7%、「お知らせや案内等を知らない」が 17.4%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	興味を感じる活動が少ない	参加できるような活動が少ない	お知らせや案内等を知らない	付き添ってくれる人がいない	電車やバス等での移動が困難である	障害に対する理解や配慮が足りない
全体		92	41.3	***44.6***	17.4	6.5	13.0	21.7
年代別	０～２歳	1	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	３～５歳	26	30.8	***42.3***	15.4	0.0	15.4	26.9
	６～８歳	24	37.5	***50.0***	8.3	8.3	8.3	25.0
	９～11歳	18	***44.4***	***44.4***	16.7	11.1	16.7	27.8
	12～14歳	8	***50.0***	***50.0***	***50.0***	25.0	12.5	12.5
	15歳以上	15	***53.3***	33.3	20.0	0.0	13.3	6.7
障害別	肢体不自由	10	30.0	***50.0***	10.0	10.0	30.0	10.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	7	14.3	***42.9***	0.0	14.3	14.3	0.0
	視覚障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	2	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	6	16.7	***33.3***	0.0	0.0	***33.3***	0.0
	知的障害	45	31.1	***53.3***	17.8	6.7	17.8	28.9
	発達障害	56	44.6	***53.6***	16.1	5.4	8.9	30.4
	精神障害	4	25.0	***50.0***	25.0	25.0	25.0	25.0
	高次脳機能障害	0	***0.0***	***0.0***	***0.0***	***0.0***	***0.0***	***0.0***
	難病（特定疾病）	8	37.5	***50.0***	25.0	0.0	25.0	12.5
	その他	3	***33.3***	***33.3***	0.0	0.0	***33.3***	0.0

（単位:%）		n	障害等が重く、活動が困難である	建物や施設のバリアフリーが不十分で、利用が困難である	経済的理由により、活動が困難である	その他	無回答
全体		92	8.7	0.0	9.8	18.5	2.2
年代別	０～２歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	３～５歳	26	15.4	0.0	0.0	15.4	7.7
	６～８歳	24	0.0	0.0	4.2	33.3	0.0
	９～11歳	18	0.0	0.0	16.7	22.2	0.0
	12～14歳	8	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	15歳以上	15	13.3	0.0	20.0	6.7	0.0
障害別	肢体不自由	10	40.0	0.0	10.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	7	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0
	視覚障害	2	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	内部障害	6	***33.3***	0.0	0.0	33.3	0.0
	知的障害	45	11.1	0.0	6.7	22.2	4.4
	発達障害	56	1.8	0.0	10.7	17.9	1.8
	精神障害	4	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	高次脳機能障害	0	***0.0***	***0.0***	***0.0***	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	8	37.5	0.0	0.0	25.0	0.0
	その他	3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0

年代別にみると、回答数が 10 件以上のいずれの年代でも、「興味を感じる活動が少ない」と「参加できるような活動が少ない」が３割を超えて高くなっています。

また、３～11 歳の年代ではいずれも「障害に対する理解や配慮が足りない」が２割半ば以上で高くなっています。

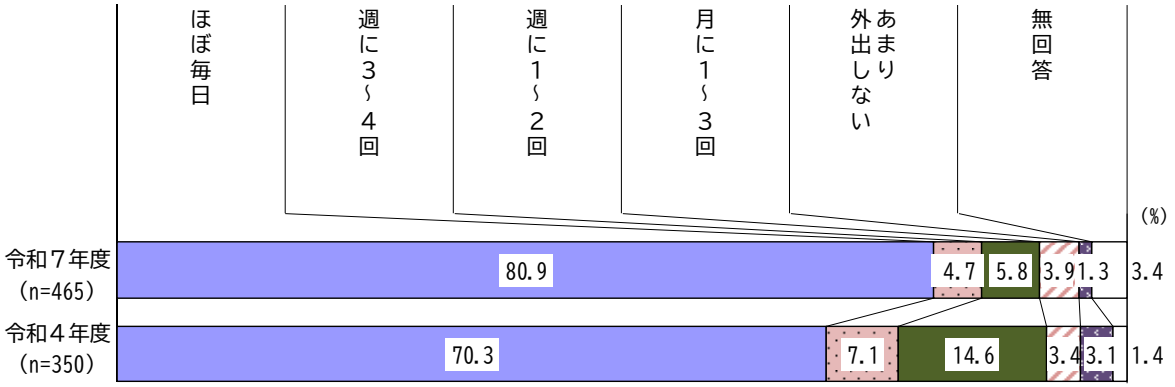
障害別にみると、回答数が10件以上のいずれの障害でも「参加できるような活動が少ない」が５割以上で最も高く、「興味を感じる活動が少ない」も３割以上で高くなっています。

また、“肢体不自由”では、「電車やバス等での移動が困難である」と「障害等が重く、活動が困難である」が、“知的障害”と“発達障害”では「障害に対する理解や配慮が足りない」が、３割前後で高くなっています。

7　外出や住まいについて

（1）外出の頻度

問 41　あなたは、どのくらいの頻度で外出していますか。（○はひとつ）



外出の頻度は、「ほぼ毎日」が 80.9%と８割を占めて最も高く、次いで「週に１～２回」が 5.8%、「週に３～４回」が 4.7%と続いています。

令和４年度と比較すると、「ほぼ毎日」が 10.6 ポイント上がっており、反対に「週に１～２回」が 8.8 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～3回	あまり外出しない	無回答
全体		465	***80.9***	4.7	5.8	3.9	1.3	3.4
障害別	肢体不自由	37	***67.6***	5.4	10.8	10.8	2.7	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	***80.0***	6.7	3.3	6.7	0.0	3.3
	視覚障害	9	***66.7***	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	***78.6***	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1
	内部障害	28	***75.0***	0.0	0.0	7.1	10.7	7.1
	知的障害	167	***85.0***	3.0	4.8	4.8	1.8	0.6
	発達障害	285	***81.1***	6.0	6.3	3.9	1.1	1.8
	精神障害	17	***76.5***	5.9	0.0	17.6	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	***71.0***	0.0	9.7	12.9	3.2	3.2
	問15に該当する方	259	***81.9***	4.6	6.2	4.6	0.8	1.9
	その他	31	***90.3***	0.0	0.0	3.2	0.0	6.5

障害別にみると、いずれの障害でも、「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

“内部障害”では、「あまり外出しない」が 10.7%と他の障害より高くなっています。

【クロス集計】親の就労状況別

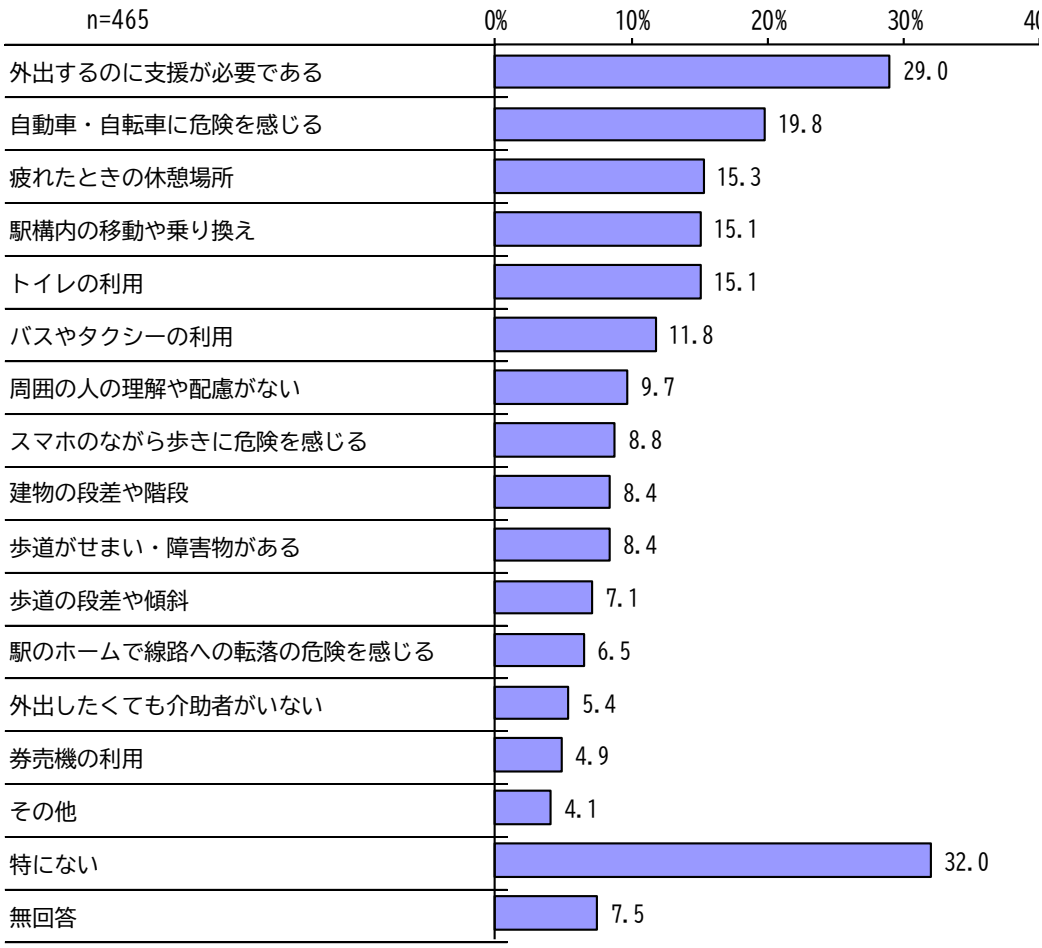
（単位:%）			合計	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～3回	あまり外出しない	無回答
全体			465	***80.9***	4.7	5.8	3.9	1.3	3.4
親の就労状況別	父親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	412	***82.0***	5.1	5.8	3.2	1.2	2.7
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	4	***75.0***	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	9	***88.9***	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
		これまで就労したことがない	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない	189	***82.0***	5.3	5.8	4.2	1.1	1.6
		フルタイム／産休・育休・介護休業中である	10	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中ではない	99	***76.8***	5.1	4.0	6.1	2.0	6.1
		パート・アルバイト等／産休・育休・介護休業中である	5	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		以前は就労していたが、現在は就労していない	148	***82.4***	4.7	6.8	2.0	1.4	2.7
		これまで就労したことがない	3	***66.7***	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

親の就労状況別にみると、父親では、“フルタイム／産休・育休・介護休業中ではない”で「ほぼ毎日」が８割を超えて最も高くなっています。

母親では、いずれの就労状況でも「ほぼ毎日」が６割半ばを超えて最も高くなっています。

（２）外出時の困りごと

問 42　あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。（あてはまるものすべてに○）



外出時の困りごとは、「外出するのに支援が必要である」が 29.0％と最も高く、次いで「自動車・自転車に危険を感じる」が19.8％、「疲れたときの休憩場所」が15.3％、「駅構内の移動や乗り換え」と「トイレの利用」がともに 15.1％と続いています。

一方、「特にない」は 32.0％と３割を超えています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	歩道の段差や傾斜	建物の段差や階段	バスやタクシーの利用	駅構内の移動や乗り換え	券売機の利用	トイレの利用	歩道がせまい・障害物がある	疲れたときの休憩場所	自動車・自転車に危険を感じる
全体		465	7.1	8.4	11.8	15.1	4.9	15.1	8.4	15.3	19.8
障害別	肢体不自由	37	45.9	48.6	43.2	29.7	2.7	40.5	24.3	35.1	27.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	26.7	26.7	30.0	26.7	3.3	43.3	13.3	23.3	16.7
	視覚障害	9	33.3	33.3	22.2	33.3	0.0	33.3	22.2	11.1	22.2
	聴覚・平衡機能障害	14	7.1	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	***28.6***
	内部障害	28	10.7	14.3	10.7	21.4	3.6	21.4	7.1	21.4	10.7
	知的障害	167	14.4	16.8	22.8	26.9	10.2	29.3	12.6	21.0	26.9
	発達障害	285	2.1	2.8	11.9	15.4	5.6	13.7	7.0	14.7	21.1
	精神障害	17	11.8	11.8	35.3	35.3	5.9	29.4	11.8	35.3	23.5
	高次脳機能障害	1	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***
	難病（特定疾病）	31	32.3	35.5	29.0	29.0	3.2	41.9	16.1	22.6	16.1
	問15に該当する方	259	6.2	8.1	14.7	17.4	6.9	19.3	8.9	18.5	23.9
	その他	31	19.4	19.4	12.9	16.1	6.5	12.9	16.1	29.0	***41.9***

（単位:%）		n	スマホのながら歩きに危険を感じる	駅のホームで線路への転落の危険を感じる	外出するのに支援が必要である	外出したくても介助者がいない	周囲の人の理解や配慮がない	その他	特にない	無回答
全体		465	8.8	6.5	***29.0***	5.4	9.7	4.1	32.0	7.5
障害別	肢体不自由	37	18.9	13.5	***62.2***	10.8	8.1	8.1	5.4	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	23.3	10.0	***46.7***	10.0	3.3	6.7	16.7	6.7
	視覚障害	9	22.2	0.0	***66.7***	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	14.3	7.1	21.4	0.0	7.1	14.3	35.7	21.4
	内部障害	28	7.1	3.6	***35.7***	7.1	3.6	7.1	28.6	14.3
	知的障害	167	12.6	12.6	***57.5***	11.4	17.4	3.6	12.6	3.0
	発達障害	285	7.4	6.3	***27.4***	4.9	11.6	3.9	33.3	5.6
	精神障害	17	11.8	11.8	***47.1***	11.8	11.8	5.9	17.6	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	12.9	16.1	***48.4***	6.5	12.9	12.9	16.1	12.9
	問15に該当する方	259	9.3	9.3	***38.6***	6.6	12.7	4.2	23.9	5.0
	その他	31	16.1	12.9	29.0	3.2	6.5	3.2	29.0	6.5

障害別にみると、“聴覚・平衡機能障害”と“その他”では、「自動車・自転車に危険を感じる」が最も高くなっています。

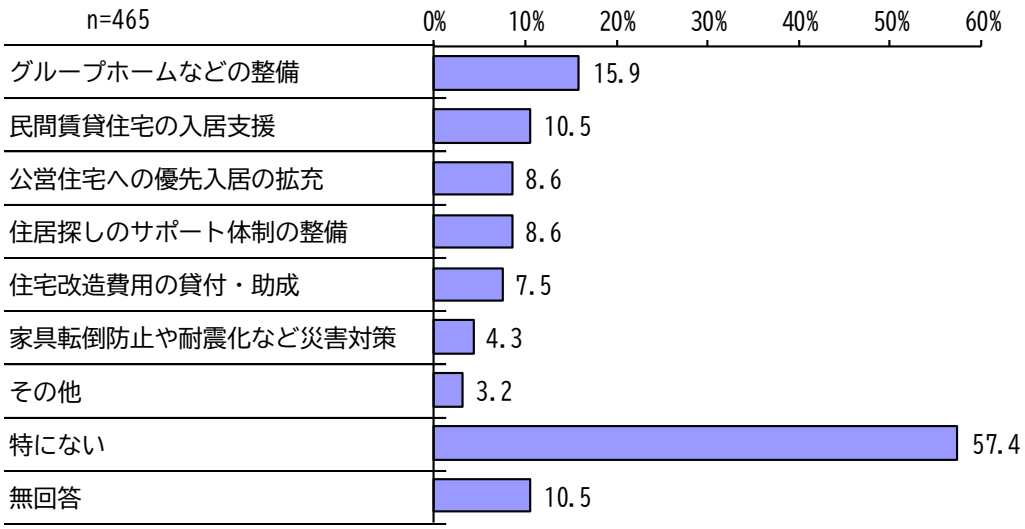
それ以外の障害ではいずれも「外出するのに支援が必要である」が最も高くなっています。

また、“肢体不自由”では、「歩道の段差や傾斜」、「建物の段差や階段」、「バスやタクシーの利用」、「トイレの利用」も４割を超えて高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”と“難病（特定疾病）”でも、「トイレの利用」が４割を超えて高くなっています。

（３）住まいに必要な支援

問 43　住まいに関してどのような支援を必要としていますか。（あてはまるものすべてに○）



住まいに必要な支援は、「グループホームなどの整備」が 15.9％と 1 割半ばを超えて最も高く、次いで「民間賃貸住宅の入居支援」が 10.5％、「公営住宅への優先入居の拡充」と「住居探しのサポート体制の整備」が 8.6％と続いています。

一方、「特にない」は 57.4％となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	住宅改造費用の貸付･助成	家具転倒防止や耐震化など災害対策	公営住宅への優先入居の拡充	民間賃貸住宅の入居支援	グループホームなどの整備
全体		465	7.5	4.3	8.6	10.5	***15.9***
障害別	肢体不自由	37	18.9	8.1	13.5	16.2	***37.8***
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	10.0	0.0	10.0	6.7	***30.0***
	視覚障害	9	11.1	11.1	***22.2***	11.1	***22.2***
	聴覚・平衡機能障害	14	7.1	7.1	7.1	***14.3***	***14.3***
	内部障害	28	10.7	7.1	7.1	10.7	***21.4***
	知的障害	167	9.6	4.2	13.2	14.4	***36.5***
	発達障害	285	8.1	4.9	10.5	11.9	***14.0***
	精神障害	17	11.8	0.0	23.5	23.5	***35.3***
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0	***100.0***
	難病（特定疾病）	31	19.4	9.7	12.9	9.7	***41.9***
	問15に該当する方	259	7.3	4.6	10.0	13.5	***18.1***
	その他	31	6.5	9.7	12.9	12.9	***16.1***

（単位:%）		n	住居探しのサポート体制の整備	その他	特にない	無回答
全体		465	8.6	3.2	57.4	10.5
障害別	肢体不自由	37	16.2	5.4	35.1	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	10.0	10.0	40.0	13.3
	視覚障害	9	11.1	0.0	33.3	22.2
	聴覚・平衡機能障害	14	7.1	0.0	50.0	28.6
	内部障害	28	7.1	0.0	39.3	21.4
	知的障害	167	16.2	4.8	40.1	6.0
	発達障害	285	9.5	3.9	58.9	7.7
	精神障害	17	23.5	17.6	41.2	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	9.7	3.2	25.8	12.9
	問15に該当する方	259	11.2	5.4	53.7	8.9
	その他	31	9.7	0.0	61.3	12.9

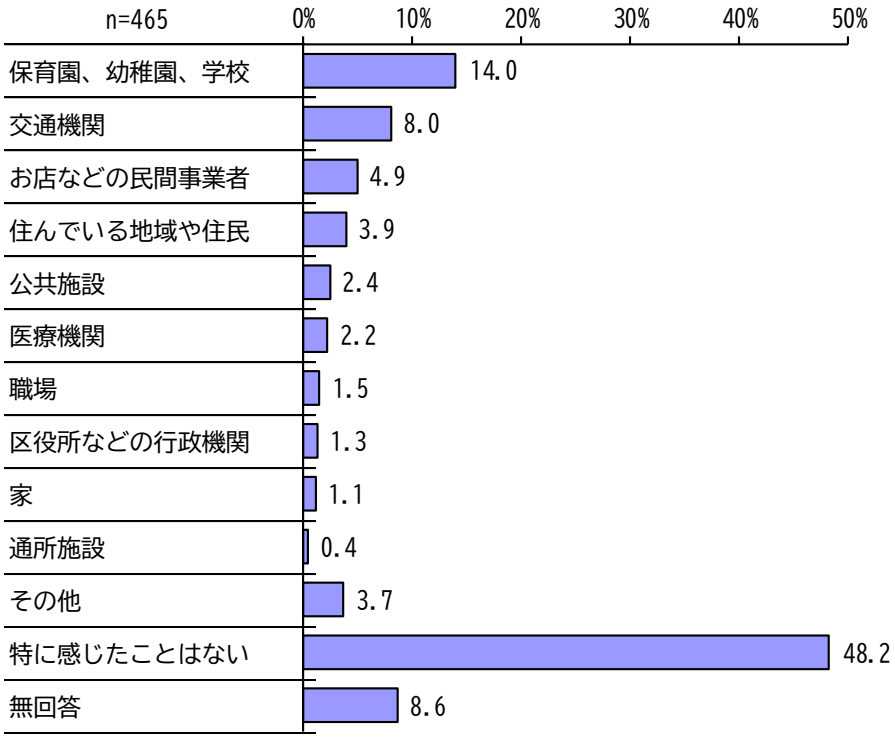
障害別にみると、いずれの障害でも「グループホームなどの整備」が最も高くなっています。また、“聴覚・平衡機能障害”では「民間賃貸住宅の入居支援」も最も高くなっています。

また、“精神障害”では、「公営住宅への優先入居の拡充」、「民間賃貸住宅の入居支援」、「住居探しのサポート体制の整備」も２割を超えて高くなっています。

8　権利擁護・差別解消について

（1）地域で差別や合理的配慮の不提供を感じる場面

問 44　あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。
（○はひとつ）



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「保育園、幼稚園、学校」が 14.0%と最も高く、それ以外のいずれも 1 割を切っています。

一方、「特に感じたことはない」は 48.2%となっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	家	職場	通所施設	お店などの民間事業者	住んでいる地域や住民	公共施設	区役所などの行政機関
全体		465	1.1	1.5	0.4	4.9	3.9	2.4	1.3
障害別	肢体不自由	37	0.0	0.0	2.7	5.4	5.4	8.1	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	0.0	0.0	3.3	3.3	3.3	3.3
	視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	***22.2***	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0
	内部障害	28	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	3.6	0.0
	知的障害	167	1.8	2.4	0.6	9.0	5.4	4.2	1.8
	発達障害	285	1.8	1.8	0.4	4.6	4.6	2.5	1.4
	精神障害	17	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0	5.9	5.9
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	0.0	3.2	0.0	9.7	3.2	3.2	9.7
	問15に該当する方	259	1.9	1.9	0.4	6.9	4.6	3.1	1.2
	その他	31	0.0	0.0	3.2	***12.9***	0.0	0.0	3.2

（単位:%）		n	医療機関	交通機関	保育園、幼稚園、学校	その他	特に感じたことはない	無回答
全体		465	2.2	8.0	***14.0***	3.7	48.2	8.6
障害別	肢体不自由	37	5.4	***13.5***	8.1	0.0	40.5	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	3.3	***23.3***	6.7	10.0	40.0	3.3
	視覚障害	9	0.0	11.1	11.1	0.0	44.4	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	***21.4***	14.3	0.0	50.0	7.1
	内部障害	28	0.0	***10.7***	3.6	0.0	50.0	17.9
	知的障害	167	4.2	***11.4***	9.0	4.2	41.3	4.8
	発達障害	285	2.5	6.7	***16.5***	4.9	45.3	7.4
	精神障害	17	0.0	5.9	***11.8***	11.8	47.1	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	3.2	***16.1***	3.2	0.0	35.5	12.9
	問15に該当する方	259	3.1	6.9	***16.6***	5.0	42.1	6.2
	その他	31	0.0	6.5	9.7	0.0	58.1	6.5

障害別にみると、“その他”を除く回答数10件以上の障害ではいずれも、「交通機関」か「保育園、幼稚園、学校」が最も高くなっており、特に“音声・言語・そしゃく機能障害”と“聴覚・平衡機能障害”では、「交通機関」が２割を超えて、他の障害より高くなっています。

（2）地域に求める合理的配慮

問45　あなたが、これまでに文京区内で感じた差別や合理的配慮の不提供についての内容及び、求める対応をお聞かせください。（自由記入）

地域に求める合理的配慮についての意見は 110 件ありました。「保育・教育」についての意見が41.8%と最も多く、次いで「障害理解・思いやり・偏見の排除」が34.5%、「福祉サービス」が5.5%となっています。

主な意見は以下の通りです。

単位（%）

	総数	保育・教育	障害理解・思いやり・偏見の排除	福祉サービス	休憩・トイレ	交通事情・バリアフリー	情報周知・啓発	施設等の受け入れ	その他
合理的配慮	110	41.8	34.5	5.5	4.5	4.5	2.7	2.7	3.6

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1．保育・教育（46 件）

・幼稚園や保育園では特別保育の制度（加配）があるのに、小学校の通常学級にはない。障害の特性があってもその程度により特別支援学級に入ることができず通常学級に在籍となってしまった子供は、通常級で過ごす時間に、合理的配慮（個に応じた支援）が十分に受けられない。通級（学びの教室）はあるが、通常級で過ごす時間がほとんどの為、通常級で過ごす時間に必要に応じて支援が受けられないと負担となる。通常級の加配や人員を手厚くしてほしい。

・障害を理由とした評価の差を感じたことがあります。例えば、英語の授業で発言が難しいため通知表で評価がつかないことがありました。ただ、担当の先生によって評価の基準や対応が異なり、代替の手段で評価される年もあるため、子どもの自尊心を守りつつ納得できるように説明するのが難しく、もどかしさを感じています。

・習い事はサポートが必要な子どもが通えないことが多い。受け入れることを前提に、親や他の子どもたちとどのようなサポートが可能か、どのような協力があれば実現できるかを相談できるようになってほしい。

2．障害理解・思いやり・偏見の排除（38 件）

・「差別」という言葉は強すぎます。障がい者に慣れていない方がまだ多いと思う。子供が発語がなく「アーウー」と騒ぐとあからさまにイヤな顔、無視する人も多い。ただ保育園と時間を共に過ごしてきた子供たちは慣れたもので子供が落ちつくためおもちゃを持ってきてくれたり、話しかけたりしてくれる。一緒に過ごしておたがい成長しているなと実感します。

・見た目は普通なので、困っている事に気づかれにくく、合理的配慮を求めても、甘やかしと思われることもあり、伝えにくい。

３．福祉サービス（６件）

・児童発達支援はとても役立ちますし、困りごとを個別にサポートしてもらえてありがたいです。しかしながら、親世代が子供の頃はそういったサービスはなかったですし、はじめは我が子が障害者なのかとショックを受けたりもしました。園からの指摘も遠回しすぎてわかりにくく、かなり気を使っているかと思われます。
・移動支援事業所が少ない又は、あっても枠がいっぱいで利用できず。

４．休憩・トイレ（５件）

・障害者用トイレが少ない。一般のトイレを利用する場合は車イスが通れるスペースが狭いことが多々ある。
・外出先のトイレについて、バリアフリートイレの表示はあっても介助ベッドを設置しているトイレは非常に少ない。介助ベッドを設置したバリアフリートイレの増設を要望します

５．交通事情・バリアフリー（５件）

・区として早急に改善して欲しいのは歩道のバリアフリー化です。坂が多い分道の勾配があるのは仕方ないけれど歩道が家への見栄えや車の出入り重視で斜めになってる所が多く車椅子やベビーカーが苦労しているし道の段差も多くつまずきやすい。歩道だけは地球に水平に出来ない物だろうか？

６．情報周知・啓発（３件）

・正しい知識が身についていない。そもそも「差別をしない」気持ちがない。（バス内で嫌な視線をわざと投げかけるなど）善悪だけでなく、心の問題や価値観、倫理観にも対応が必要だと思う。

７．施設等の受け入れ（３件）

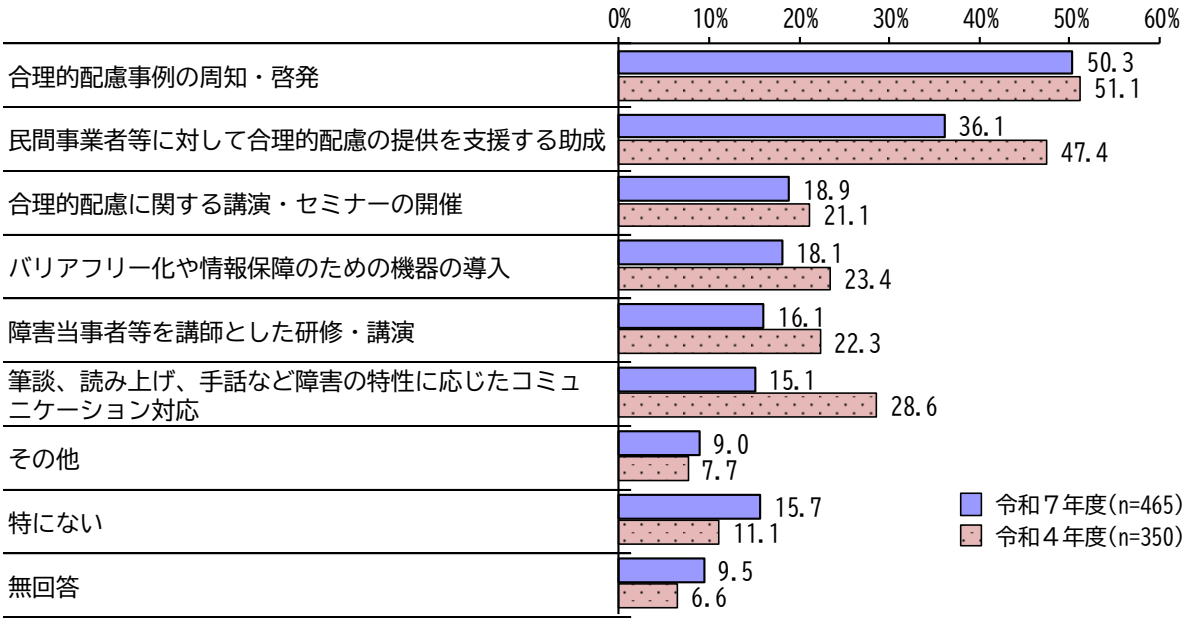
・年少の時から教育センターに通っていますが、月に一回だけ通うことに効果があるのかなと不安です。

８．その他（４件）

・文京区はかなり対応が良いのですが、都立が厳しくて柔軟に連携してくれない。文京区はいつもありがたいです。

（３）合理的配慮の提供を進めていくために必要なこと

問46　社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）



合理的配慮の提供を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 50.3％と５割に達し最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 36.1％と続いています。

一方、「特にない」は 15.7％となっています。

令和４年度と比較すると、「その他」と「特にない」を除いたすべての項目で令和４年度を下回っており、特に「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が 13.5 ポイント、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 11.3 ポイントと、10 ポイント以上下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演
全体		465	18.9	***50.3***	15.1	18.1	16.1
障害別	肢体不自由	37	16.2	***45.9***	13.5	37.8	24.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	23.3	***50.0***	13.3	26.7	33.3
	視覚障害	9	11.1	***66.7***	0.0	22.2	33.3
	聴覚・平衡機能障害	14	7.1	***50.0***	7.1	28.6	7.1
	内部障害	28	14.3	***42.9***	7.1	17.9	14.3
	知的障害	167	25.7	***55.1***	15.0	20.4	19.2
	発達障害	285	20.4	***53.3***	17.5	14.4	15.1
	精神障害	17	11.8	***41.2***	11.8	23.5	17.6
	高次脳機能障害	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	19.4	***48.4***	12.9	32.3	19.4
	問15に該当する方	259	23.2	***54.4***	18.1	15.8	16.6
	その他	31	9.7	***48.4***	9.7	29.0	12.9

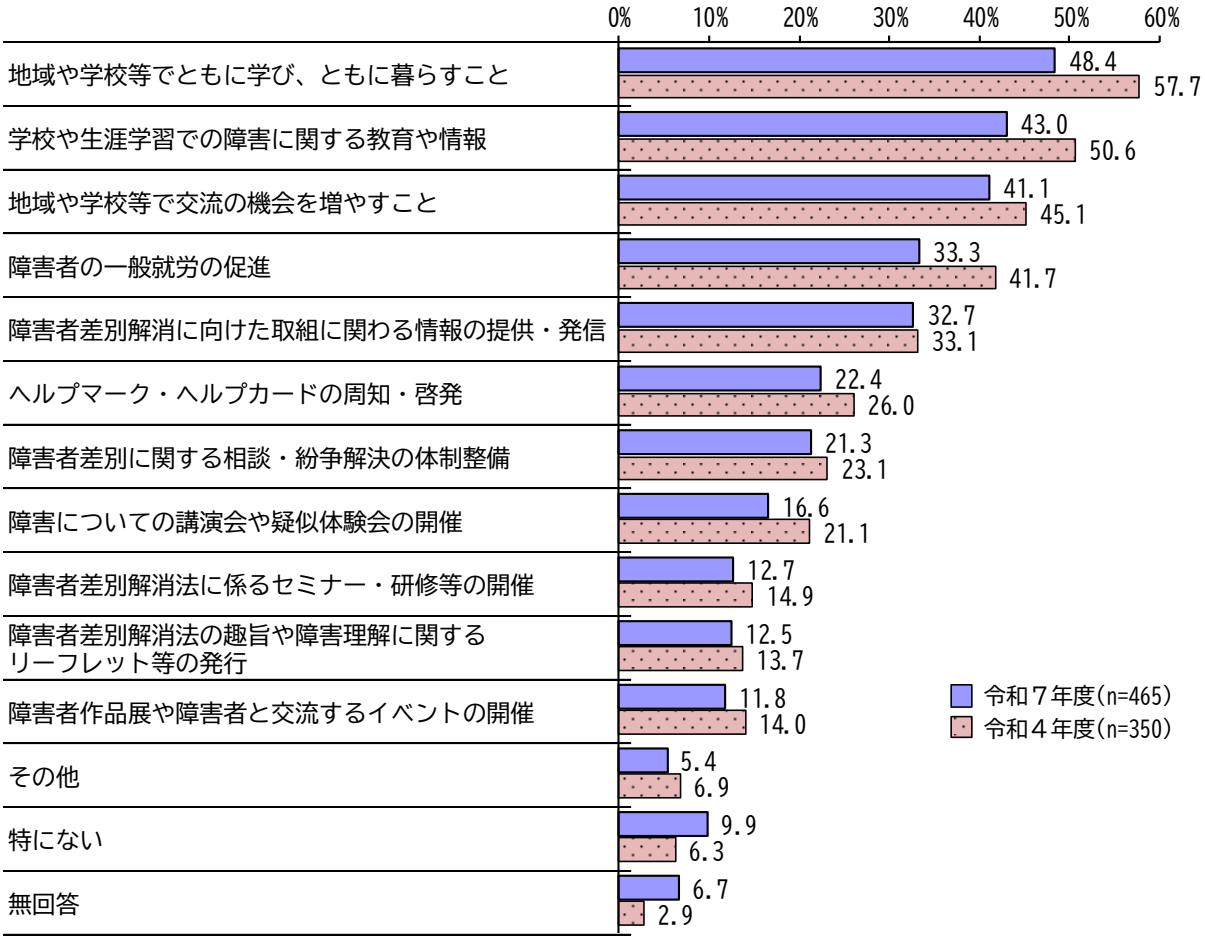
（単位:%）		n	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	その他	特にない	無回答
全体		465	36.1	9.0	15.7	9.5
障害別	肢体不自由	37	35.1	13.5	16.2	10.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	36.7	10.0	20.0	6.7
	視覚障害	9	33.3	22.2	11.1	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	21.4	0.0	14.3	14.3
	内部障害	28	39.3	10.7	21.4	10.7
	知的障害	167	48.5	10.2	9.6	7.2
	発達障害	285	38.6	10.9	13.0	8.4
	精神障害	17	17.6	11.8	11.8	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	35.5	12.9	12.9	12.9
	問15に該当する方	259	41.3	12.4	12.0	7.7
	その他	31	35.5	6.5	12.9	9.7

障害別にみると、いずれの障害でも「合理的配慮事例の周知・啓発」が４割を超えて最も高くなっています。

また、“知的障害”と“問 15 に該当する方”では、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が４割を超えて高くなっています。

（４）差別解消に必要なこと

問 47　障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。
（あてはまるものすべてに○）



障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が 48.4%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が 43.0%、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が 41.1%と４割を超えて続いています。

一方、「特にない」は 9.9%となっています。

令和４年度と比較すると、「特にない」を除いたすべての項目で令和４年度を下回っており、特に「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が 9.3 ポイント、「障害者の一般就労の促進」が 8.4 ポイント、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が 7.6 ポイントと、７ポイント以上下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	障害者差別に関する相談･紛争解決の体制整備	障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供･発信	障害者差別解消法に係るセミナー･研修等の開催	障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
全体		465	21.3	32.7	12.7	12.5	11.8	41.1	***48.4***
障害別	肢体不自由	37	18.9	27.0	5.4	10.8	27.0	51.4	***59.5***
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	23.3	26.7	10.0	3.3	16.7	50.0	***63.3***
	視覚障害	9	22.2	44.4	11.1	11.1	33.3	***55.6***	33.3
	聴覚・平衡機能障害	14	14.3	***28.6***	7.1	14.3	0.0	21.4	14.3
	内部障害	28	21.4	21.4	14.3	10.7	17.9	39.3	***64.3***
	知的障害	167	22.8	38.3	14.4	14.4	17.4	46.1	***51.5***
	発達障害	285	24.6	37.9	15.1	14.0	9.5	44.2	***50.2***
	精神障害	17	23.5	23.5	11.8	0.0	11.8	35.3	***52.9***
	高次脳機能障害	1	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***	***100.0***	***100.0***	***100.0***
	難病（特定疾病）	31	22.6	35.5	9.7	6.5	22.6	25.8	35.5
	問15に該当する方	259	25.9	37.1	15.4	15.1	13.9	45.2	***49.8***
	その他	31	22.6	32.3	6.5	12.9	6.5	32.3	38.7

（単位:%）		n	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	障害についての講演会や疑似体験会の開催	障害者の一般就労の促進	ヘルプマーク･ヘルプカードの周知･啓発	その他	特にない	無回答
全体		465	43.0	16.6	33.3	22.4	5.4	9.9	6.7
障害別	肢体不自由	37	35.1	18.9	24.3	27.0	13.5	5.4	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	40.0	23.3	30.0	23.3	13.3	6.7	6.7
	視覚障害	9	22.2	11.1	22.2	11.1	0.0	11.1	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	14.3	14.3	21.4	14.3	7.1	28.6	7.1
	内部障害	28	39.3	25.0	39.3	28.6	3.6	10.7	10.7
	知的障害	167	49.1	21.6	41.9	32.9	8.4	1.8	4.8
	発達障害	285	47.4	17.2	34.7	24.6	6.0	9.1	4.6
	精神障害	17	***52.9***	17.6	***52.9***	17.6	11.8	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	***100.0***	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	***38.7***	19.4	25.8	19.4	12.9	6.5	9.7
	問15に該当する方	259	46.3	18.5	35.9	27.8	5.8	5.8	4.6
	その他	31	***45.2***	22.6	32.3	9.7	9.7	12.9	9.7

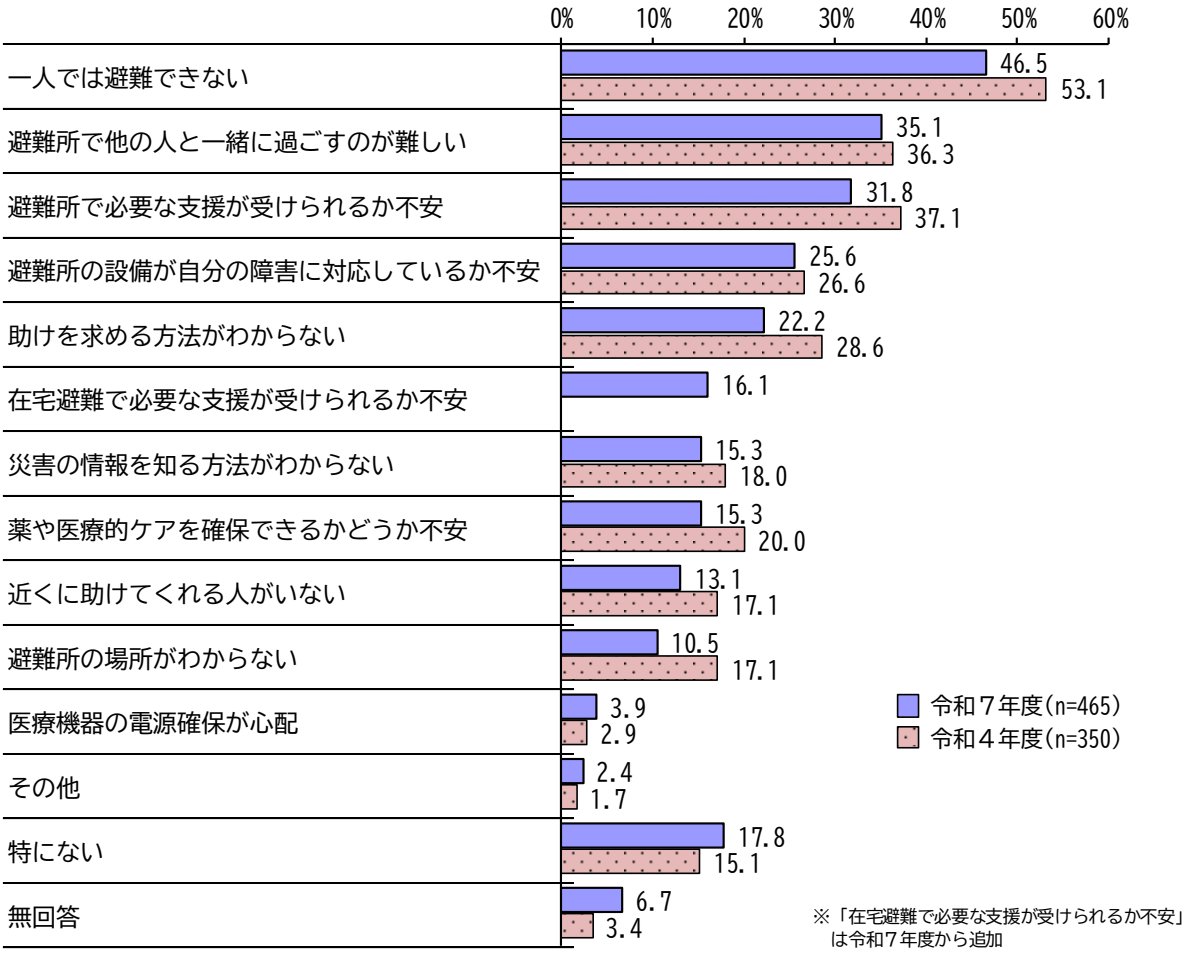
障害別にみると、“聴覚・平衡機能障害”、“難病（特定疾病）”、“その他”以外のいずれの障害でも「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が最も高く、特に“音声・言語・そしゃく機能障害”と“内部障害”では６割を超えて、他の障害より高くなっています。また、“精神障害”では「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」と「障害者の一般就労の促進」も５割を超えて最も高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が、“難病（特定疾病）”、“その他”では「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が最も高くなっています。

９　災害対策について

（１）災害発生時の困りごと

問 48　あなたやご家族の方が、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）



災害発生時の本人や家族の困りごとは、「一人では避難できない」が 46.5%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が 35.1%、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が 31.8%と続いています。

一方、「特にない」は 17.8%となっています。

令和４年度と比較すると、13 項目中９項目で令和４年度より下がっており、特に「一人では避難できない」と「避難所の場所がわからない」がともに 6.6 ポイント、「助けを求める方法がわからない」が 6.4 ポイント、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が 5.3 ポイントと、５ポイント以上下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	災害の情報を知る方法がわからない	助けを求める方法がわからない	避難所の場所がわからない	近くに助けてくれる人がいない	一人では避難できない	避難所の設備が自分の障害に対応しているか不安	避難所で必要な支援が受けられるか不安
全体		465	15.3	22.2	10.5	13.1	***46.5***	25.6	31.8
障害別	肢体不自由	37	10.8	18.9	5.4	16.2	***62.2***	48.6	59.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	13.3	20.0	10.0	16.7	***63.3***	43.3	46.7
	視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	22.2	***55.6***	***55.6***	***55.6***
	聴覚・平衡機能障害	14	28.6	28.6	7.1	0.0	28.6	42.9	***50.0***
	内部障害	28	10.7	10.7	7.1	17.9	50.0	39.3	50.0
	知的障害	167	22.8	34.1	19.2	14.4	***70.7***	37.7	48.5
	発達障害	285	14.7	20.7	11.6	13.3	***47.4***	26.0	29.8
	精神障害	17	17.6	23.5	0.0	17.6	***64.7***	29.4	35.3
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	19.4	22.6	9.7	25.8	***61.3***	48.4	48.4
	問15に該当する方	259	14.7	23.9	11.6	13.9	***52.1***	32.4	38.6
	その他	31	19.4	***38.7***	6.5	9.7	***38.7***	29.0	35.5

（単位:%）		n	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	在宅避難で必要な支援が受けられるか不安	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	医療機器の電源確保が心配	その他	特にない	無回答
全体		465	35.1	16.1	15.3	3.9	2.4	17.8	6.7
障害別	肢体不自由	37	40.5	37.8	43.2	24.3	0.0	8.1	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	30.0	26.7	26.7	13.3	0.0	16.7	3.3
	視覚障害	9	***55.6***	22.2	33.3	11.1	11.1	11.1	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	14.3	28.6	14.3	0.0	14.3	7.1
	内部障害	28	21.4	28.6	***53.6***	21.4	0.0	7.1	10.7
	知的障害	167	46.7	25.7	21.6	5.4	2.4	5.4	4.2
	発達障害	285	42.1	14.7	11.6	0.7	2.1	18.2	4.9
	精神障害	17	35.3	17.6	23.5	0.0	5.9	23.5	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	41.9	41.9	51.6	16.1	0.0	6.5	9.7
	問15に該当する方	259	49.8	18.9	15.4	3.1	2.7	13.1	4.6
	その他	31	32.3	19.4	12.9	6.5	3.2	22.6	9.7

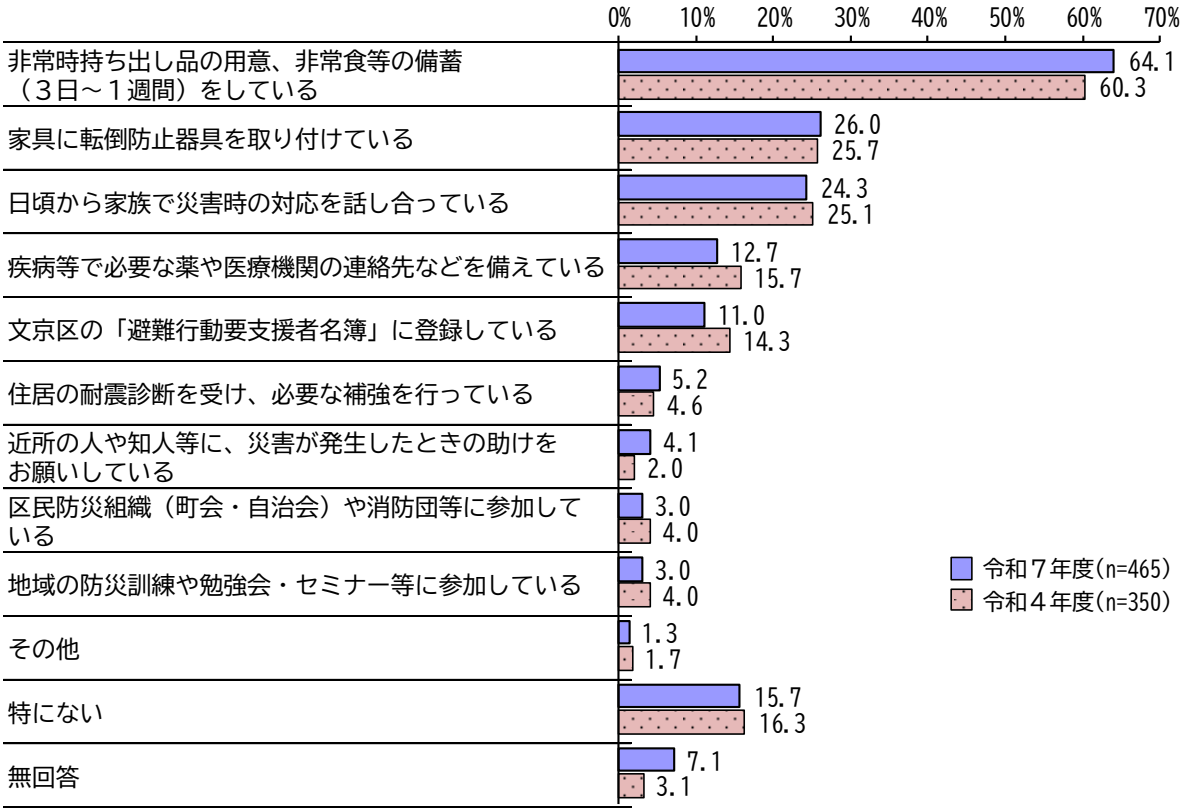
障害別にみると、いずれの障害でも「一人では避難できない」、「避難所の設備が自分の障害に対応しているか不安」、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が２割半ばを超えて高くなっています。“聴覚・平衡機能障害”では「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が、“内部障害”では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が、“その他”では「助けを求める方法がわからない」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「一人では避難できない」が最も高く、特に“知的障害”では７割に達し、他の障害より高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”と“内部障害”では「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が、“内部障害”と“難病（特定疾病）”では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が５割以上と高くなっています。

（２）災害に対する備え

問 49　あなたやご家族の方は、災害に対してどのような備えをしていますか。
（あてはまるものすべてに○）



災害に対する本人や家族の備えは、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（３日～１週間）をしている」が 64.1%と６割を超えて最も高く、次いで「家具に転倒防止器具を取り付けている」が 26.0%、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が 24.3%と２割を超えて続いています。

一方、「特にない」は 15.7%となっています。

令和４年度と比較すると、全体的な傾向にあまり変化はありませんが、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（３日～１週間）をしている」が 3.8 ポイント上がっており、反対に「文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している」が 3.3 ポイント、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が 3.0 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

（単位:%）		n	日頃から家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日～1週間）をしている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている	文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている
全体		465	24.3	***64.1***	12.7	4.1	11.0	26.0
障害別	肢体不自由	37	24.3	***62.2***	27.0	2.7	48.6	24.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	26.7	***76.7***	26.7	0.0	40.0	33.3
	視覚障害	9	33.3	***55.6***	33.3	22.2	44.4	44.4
	聴覚・平衡機能障害	14	14.3	***57.1***	21.4	0.0	7.1	14.3
	内部障害	28	25.0	***67.9***	35.7	0.0	21.4	10.7
	知的障害	167	22.2	***66.5***	16.2	4.8	26.9	27.5
	発達障害	285	25.3	***63.5***	9.5	5.3	7.4	27.4
	精神障害	17	29.4	***70.6***	17.6	0.0	17.6	29.4
	高次脳機能障害	1	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***	***100.0***	***100.0***
	難病（特定疾病）	31	29.0	***67.7***	32.3	0.0	35.5	16.1
	その他	31	29.0	***67.7***	9.7	3.2	3.2	22.6

（単位:%）		n	住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている	区民防災組織（町会･自治会）や消防団等に参加している	地域の防災訓練や勉強会･セミナー等に参加している	その他	特にない	無回答
全体		465	5.2	3.0	3.0	1.3	15.7	7.1
障害別	肢体不自由	37	2.7	0.0	0.0	0.0	13.5	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	3.3	0.0	0.0	3.3	6.7	3.3
	視覚障害	9	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	7.1
	内部障害	28	0.0	3.6	3.6	0.0	7.1	10.7
	知的障害	167	4.2	1.2	4.2	0.6	13.8	6.0
	発達障害	285	5.6	4.2	3.5	1.4	17.5	5.6
	精神障害	17	5.9	5.9	0.0	0.0	23.5	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	3.2	0.0	3.2	6.5	6.5	9.7
	その他	31	0.0	0.0	3.2	6.5	9.7	9.7

障害別にみると、いずれの障害でも、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（３日～１週間）をしている」が最も高くなっています。

“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では「文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している」が４割以上で、他の障害より高くなっています。

“内部障害”と“難病（特定疾病）”では「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が３割を超えて、他の障害より高くなっています。

10　自由意見

問50　区の障害児（者）施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は 192 件ありました。「福祉」についての意見が 37.0％と最も多く、次いで「行政」が 19.8％、「教育・療育」が 15.6％、「障害理解」が 11.5％となっています。

主な意見は以下の通りです。

単位（％）

	総数	福祉	行政	教育・療育	障害理解	情報・相談	将来	保健・医療	その他
自由意見	192	37.0	19.8	15.6	11.5	5.2	4.7	2.1	4.2

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

１．福祉（71 件）

・引越しで各地を転々としてきたが、文京区は療育の使用料負担や（障害者以外もだが）子ども医療費助成などとてもありがたいです。
・家の近くに放課後デイサービスがない。フルで仕事をしているので遠くのデイに連れていけないので、子供はずっと家にいる。小学校の支援体制だが支援する人数が足りない。
・将来２年以内に移動支援を利用したいと思っているが、供給がおいついておらず、希望しても利用できないと聞いていて不安があります。
・放課後デイサービス等、中学以降も使用できる場所を増やしてほしい。就業での時短ができないので、送迎が難しく一人で留守番できないので、仕事の継続がむずかしくなる。
・障害児を持っている、働いている親のため、ヘルパーや移動支援や、放課後デイサービスをもっと充実してほしいと思います。今後、障害児将来就職のための職業訓練と就職の受け皿をもっと拡大してほしいと思います。
・ひとり親家庭で動く医療的ケア児を育てています。子供が動く医療的ケアになって以降、親が倒れたとき子供の緊急時の預け先がなく困っています。動く医ケア児にも対応したサービスが必要です。緊急を要している優先課題です。現在小学校に通っていますが、動く医療的ケア児というカテゴリーのまま、中学校、高校へ通うことになると思います。動く医療的ケアにも切れ目のないご支援をよろしくお願いいたします。
・18 歳以降の支援が薄く不安です。グループホームの設立など引き続きお願いいたします。移動支援が少なく増やして頂けるとありがたいです。
・グループホームや就労継続支援Ａ型、Ｂ型、などが他の区に比べて少なく感じます。また、既存のＢ型施設を見学した際も、おそらく昔のままで支援内容を改良したりといった工夫がみうけられないように思います。Ｂ型→Ａ型へ。Ａ型→就労へというように、少しずつでも成長を促していけるような施設が増えると保護者も安心できると思います。

２．教育・療育（38 件）

・小・中学校に支援学級（特に情緒学級）が少ないと思います。もっと増設してほしいです。
・小学校で民間の療育が受けられるようになってほしい。人手不足の解消、連携の取りやすさの点で良いと思う。
・特別支援学級に入る支援員について、障がいについて理解のある（例えば専門的な講習を受ける等）方に入っていただきたいです。
・療育支援の施設の空きが出ないので利用できていない。何とかしてほしい。
・発達障害に関する小学生以上でも通える療育の選択肢を増やす、気軽に相談できる場所を増やす
・通級利用してますが公開授業などの機会がなく、実際の様子が見れたら安心できるのになと思います。
・保育園でのよりインクルーシブな環境(今は医療的ケアクラスとして分離)が整うとありがたいと思います。
・中学校以降もインクルーシブな環境を選択できるようになってほしい。現状は中学校以降は分離教育となっており、改善して頂きたい。小学校も分離教育をとっているところがあるので、希望により普通級メインで活動することを可能とする意識を定着させてほしい。

３．行政（30 件）

・障害者への助成金について、保護者の所得制限があることに納得がいきません。児童手当も所得制限がなくなっているので、助成金も制限を無くしてほしい。
・障害児の保護者が就労するための環境を整備してほしい。要配慮児の制度があるため、区の育成室を利用したいが、障害児の療育や家庭での丁寧な関わりのために、時短勤務をしようと考えると、その就労時間の短さのために育成室を利用できる点数に届かない。区の育成室に入れようと思うとフルタイム勤務する必要があるが、そうなると児の心身の発達や家庭での様子に影響が出る。受け皿を増やしたり、長期休暇中のみの受入も可にしてほしい。
・障害のある子供がいると、フルタイムで働くこと、母親の就職先をみつける事は不可能にちかいと思っています。そうすると、子供が大きくなると、慣れ親んだ文京区を離れて生活する事を選ぶ家族が多いです。インクルーシブな視点をもつ方が多い文京区に住みつづけられる様、助成や住まいの提供など充実してほしいと願います。
・区の窓口の空いている時間が短いので、もう少し長くできないでしょうか、毎日でなくても良いので。あと、週末も。
・親の所得によって、サービスはあっても支給が受けられなかったり、利用料が跳ね上がるのは本当に厳しく感じます。せめて区独自の制度については所得制限をなくしていただきたいですし、特に放課後等デイサービスの利用料については、上限金額の設定を見直していただきたいです。

４．障害理解（22 件）

・高齢の方からの差別があると感じる。むしろ、40 代位までは、ある程度周知されて理解がすすんでいると思う。ネットリテラシーの低い高齢の方の教育が必要と思う。
・発達障害児の理解が乏しい先生や、支援員も多いので、勉強会などで区としても積極的に取り組んで欲しい。
・話の内容を字幕で表示してくれる機器などがいろいろあるので、区役所の窓口などで導入してほしい。
・現在、特別支援学級に通っており、学校の先生方もとてもサポートしてくださり、とても感謝しています。その反面、まだまだ通常級に通う保護者の偏見を感じます。支援級の障害区分にある知的や情緒と大々的に書かなくてもいいのではと感じることがあります。今はいろいろな理由で支援を必要とする子供が通える場として支援級があるので、一概に知的障害者や情給不安定と思われることが悲しいです。
・障害者のふれあう機会が少ないと、存在すらほとんど知らずに大きくなってしまうと思います。幼稚園や小学校など子どもの頃から共にすごすことができれば、自然と助け合うことや理解すること、障害のある人がいるということを、体感をともなって知ることができると思います。
・未就学や学童期から、障害について知り、理解を深めることが障害のない方が大人になったとき、バリアフリー、ダイバーシティ等に自然ととりくめるのではと思います。子供の頃から、障害や病気等について学習する機会があってほしいと思っています。
・障害福祉に関して、当事者だけでなく一般の方に周知するために、学齢期だけでなく幼児期からから全ての保護者に対し啓蒙活動が必要と感じています。障害のない子どもの保護者への情報が少ないので、実際にどのように育ち、社会で生活しているのか知られていないと感じました。

５．将来（10 件）

・障害者が慣れた地域で生活していけるように、と一般的にもよく言われている言葉で、もちろん親もそう思うが、その言葉に反して、障害が重い程、地域で生活していける場がない。入所施設などは遠方の地方、などばかりで、子どもの成長とともに将来が不安でしかない。
・18 歳以降の居場所、保護者がいなくなった後の生活支援体制
・本人が成人し、保護者がいなくなった後の居場所がきちんと確保できるのか不安。
・中学、高校、成人後…と大きくなるにつれて、障がい者が受けられる福祉サービスや居場所が少なくなっていきます。でも親は逆に弱っていくので、体力的にかなり辛いはずです。
・障がい者が、親元から離れて生活できるグループホームや施設を増やして欲しい。親も歳を取るので、面倒がみれない。

６．情報・相談（９件）

・極度の偏食に対応できる相談、サポートの場があると良いなと、ずっと思っています。同じものばかりにこだわるので、栄養面が心配です。給食も食べることがほぼできず、冷めているものは食べられないのでお弁当も食べられません。ネットでも、参考になるものはなく、専門で、偏食の相談ができる場があると大変ありがたいです。

・放デイやその後の障害児進路の選択肢や、それの申請準備など一覧ですぐ分かるように、アクセスしやすいようにしてほしいです。放デイもどこにどんな物があるのか、見つけるまで時間がかかりました…。定期的に資料送付などあるとありがたく、そちらから情報を提供してくれると尚ありがたいです。
・小学校に行った途端相談する所が無くなり不安を感じる。
・区役所と教育センターと認可保育園等で情報が分断されてそれぞれに同じことをお話しして相談しなければならず手間がかかるので、情報共有と連携を強化してほしい
・愛の手帳をもらった時点で、歯科医や眼科、美容室などについて知的障害児を積極的に受け入れてくれる場所について案内を欲しかったと思いました。愛の手帳をもらう前にも、そういった情報をまとめたサイトなどを公開してもらえると不安が減ると感じました。
・助けの必要なお子さんが増えているように感じます。サポートの先生と担任の情報共有や、学校内外での対応例の蓄積・共有、保護者との共有タイミングなどを一定の型として文京区共通ツールにしていただけると心強いです。よろしくお願いします。

7．保健・医療（4件）

・歯科診療だけでなく、耳鼻科や眼科もシビックセンターに診療室を作って頂きたいです。よろしくお願い致します。
・文京シビックセンターで実施している障害者向けの歯科サービスに定期的に通っており、満足しています。
・未就学の医療的ケア対応可能な移動に関する制度がないため、療育を断念することが続いています。看護師ベビーシッター指名時の補助、レスパイトの拡大、医療的ケア対応可能な事業所の増加等ご検討いただけるとありがたいです。また小学校や育成室の給食やおやつも嚥下障害に対応いただけるとありがたいです。

8．その他（8件）

・アンケートにもあった、地域で共に暮らし、共に学ぶという言葉が響きました。一番難しい理想であると思いますが、目指したい場所だと思います。行政の方が、建前でもこういう言葉を発信していくのは大切だと感じました。
・公共トイレになるべく収納着替え台を設置してほしいです。障害児はベビー用のオムツ替え台が使えないほど大きくなってからもオムツを履いていることが多く、履き替えられる設備や場所が少なく困っています。立って靴を脱ぎ、おむつを替えられる場所がトイレの個室内にあると非常に助かります。
・避難所は呼吸器の電源が不安なことから、福祉避難所への直接避難ができるとありがたいです。もしくは、電源供給場所の明記でもよいと思います。

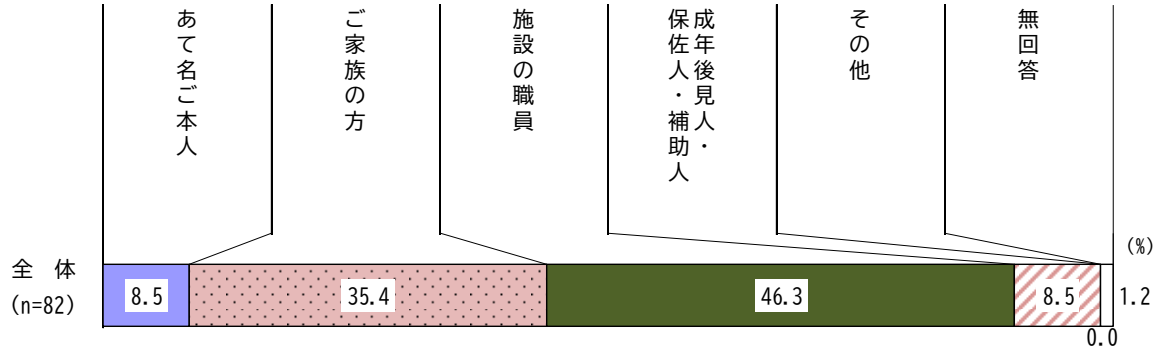
第３章

施設に入所している方を対象にした調査

1　本人について

（1）調査票の回答者

問1　この調査票に回答していただく方はどなたですか。（○はひとつ）



調査の回答者は、「施設の職員」が 46.3%と４割半ばを超えており、次いで「ご家族の方」が 35.4%、「あて名ご本人」と「成年後見人・保佐人・補助人」がともに 8.5%となっています。

【クロス集計】障害別

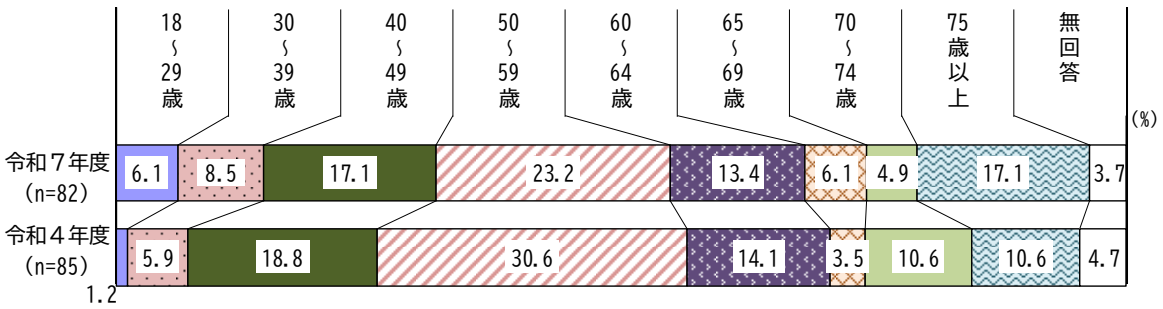
（単位:%）		n	あて名ご本人	ご家族の方	施設の職員	成年後見人・保佐人・補助人	その他	無回答
全体		82	8.5	35.4	***46.3***	8.5	0.0	1.2
障害別	肢体不自由	17	11.8	***47.1***	17.6	17.6	0.0	5.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	6	0.0	***33.3***	16.7	***33.3***	0.0	16.7
	視覚障害	3	***33.3***	***33.3***	0.0	***33.3***	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	33.3	***66.7***	0.0	0.0	0.0
	知的障害	74	6.8	35.1	***50.0***	8.1	0.0	0.0
	発達障害	16	12.5	25.0	***43.8***	18.8	0.0	0.0
	精神障害	6	0.0	***50.0***	33.3	16.7	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	難病（特定疾病）	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、回答数が 10 件以上の肢体不自由”では「ご家族の方」が、“知的障害”と“発達障害”では「施設の職員」が最も高くなっています。

また、“知的障害”と“発達障害”では、「ご家族の方」も２割半ば以上で高くなっています。

（２）年齢

問２　あなたの年齢をお聞きします。**令和７年４月１日現在の満年齢**をお書きください。



障害者本人の年齢は、「50～59 歳」が 23.2%と２割を超えて最も高く、次いで「40～49 歳」が 17.1%、「60～64 歳」が 13.4%と続いています。

令和４年度と比較すると、「75 歳以上」が 6.5 ポイント、「18～29 歳」が 4.9 ポイント上がっており、反対に「50～59 歳」が 7.4 ポイント、「70～74 歳」が 5.7 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

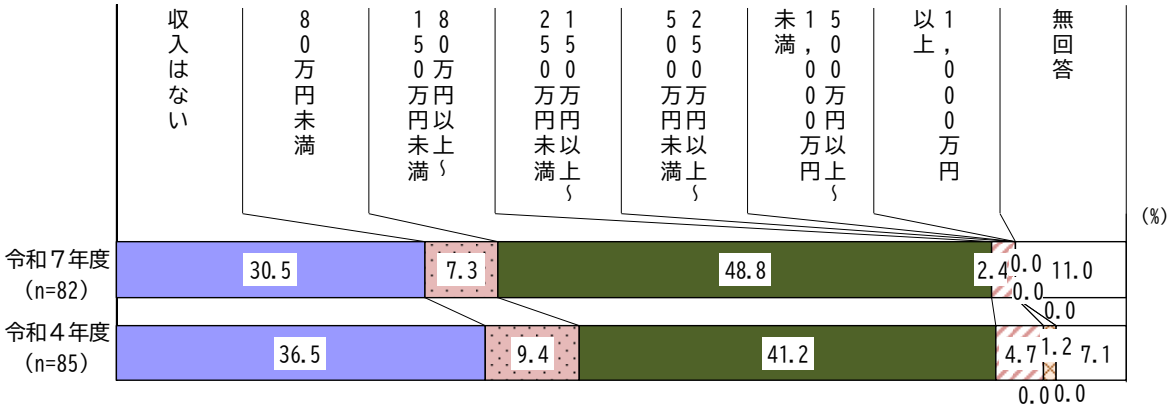
	（単位:%）	n	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	無回答
	全体	82	6.1	8.5	17.1	***23.2***	19.5	15.9	6.1	0.0	3.7
障害別	肢体不自由	17	0.0	5.9	17.6	***35.3***	17.6	17.6	5.9	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	6	0.0	0.0	***33.3***	16.7	***33.3***	16.7	0.0	0.0	0.0
	視覚障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	***33.3***	0.0	***33.3***	0.0	33.3
	聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	***33.3***	***33.3***	0.0	***33.3***	0.0	0.0	0.0
	知的障害	74	6.8	8.1	18.9	***23.0***	18.9	14.9	6.8	0.0	2.7
	発達障害	16	12.5	***18.8***	12.5	***18.8***	***18.8***	6.3	0.0	0.0	12.5
	精神障害	6	0.0	***33.3***	16.7	0.0	***33.3***	16.7	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、回答数が 10 件以上の“肢体不自由”、“知的障害”、“発達障害”のいずれも、「50～59 歳」が最も高く、特に“肢体不自由”では３割半ばを占めています。

また、“発達障害”では「30～39 歳」と「60～69 歳」も最も高くなっています。

（３）年収

問３　**あなたご本人**の年収額をお聞きします。税金等を差し引く前の額でお答えください。
（○はひとつ）



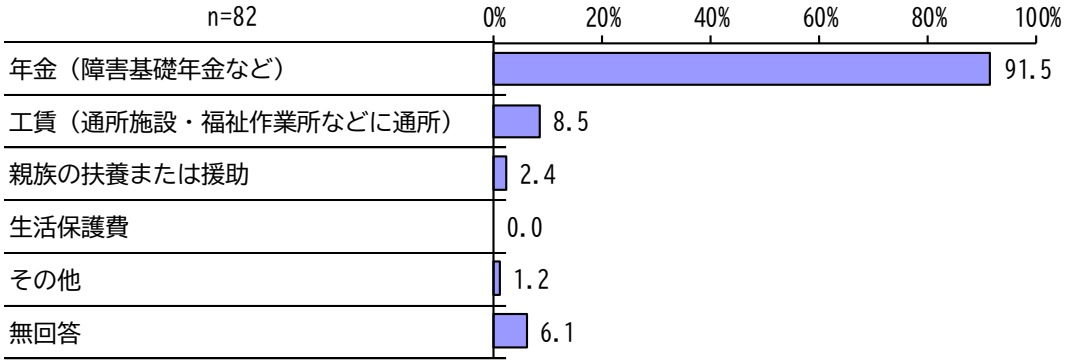
障害者本人の年収は、「80 万円以上～150 万円未満」が 48.8%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「80 万円未満」が 7.3%となっています。一方、「収入はない」は 30.5%と３割半ばを占めており、これらを合わせた『150 万円未満』は９割近くをなっています。

また、250 万円以上の回答はありませんでした。

令和４年度と比較すると、「80 万円以上～150 万円未満」が 7.6 ポイント上がっており、反対に「収入はない」は 6.0 ポイントと５ポイント以上令和４年度より下がっています。

（４）収入内訳

問４　あなたご本人の主な収入の内訳をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

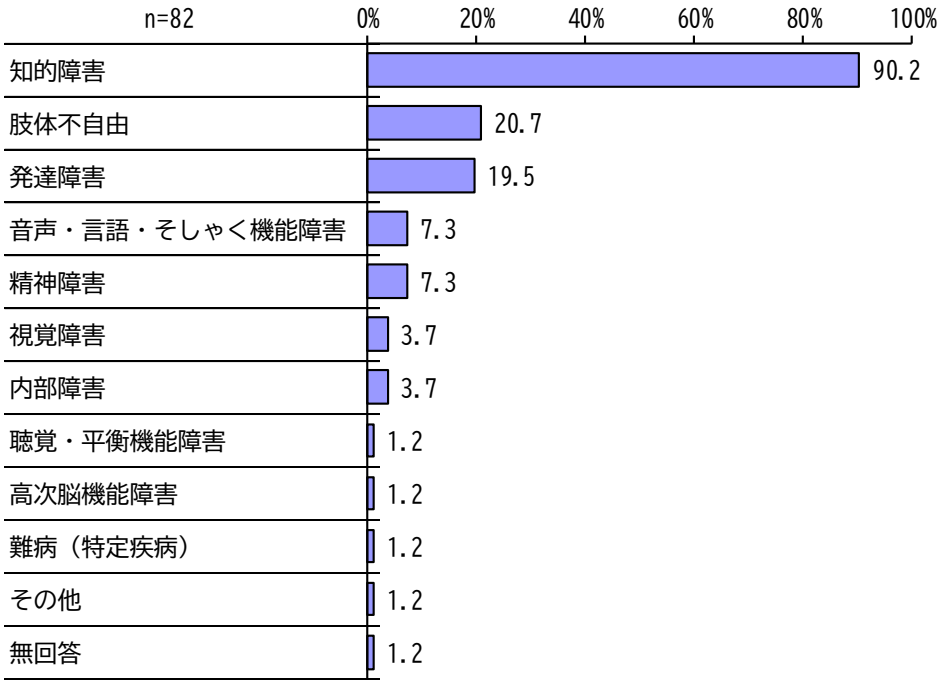


収入の内訳は、「年金（障害基礎年金など）」が 91.5%と９割を超えて最も高く、次いで「工賃（通所施設・福祉作業所などに通所）」が 8.5%、「親族の扶養または援助」が 2.4%と続いています。

2　障害の状況について

（1）障害の種別

問５　あなたには、次の障害等がありますか。（あてはまるものすべてに○）

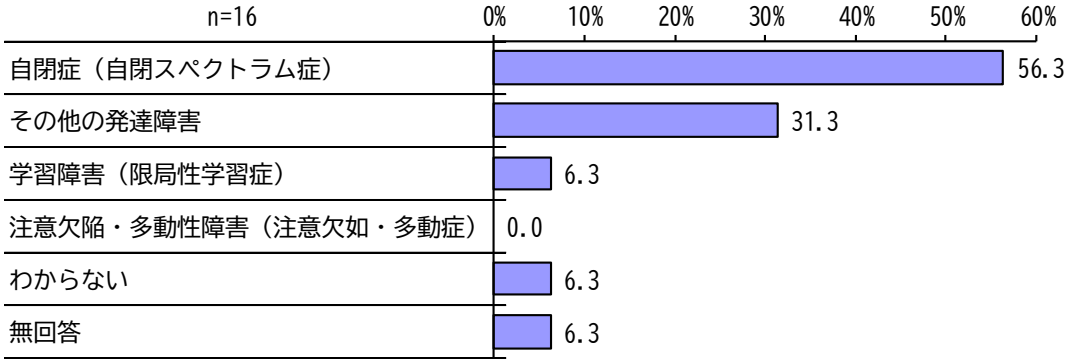


障害の種類は、「知的障害」が90.2%と９割に達し最も高く、次いで「肢体不自由」が20.7%、「発達障害」が19.5%と続いています。

（2）発達障害診断名

問５で「発達障害」と回答された方にお聞きします。

問５－１　発達障害の診断名をお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）



発達障害の診断名は、「自閉症（自閉スペクトラム症）」が56.3%と５割半ばを超えており、次いで「その他の発達障害」が31.3%、「学習障害（限局性学習症）」が6.3%となっています。

（３）難病疾病名

問５で「難病（特定疾病）」と回答された方にお聞きします

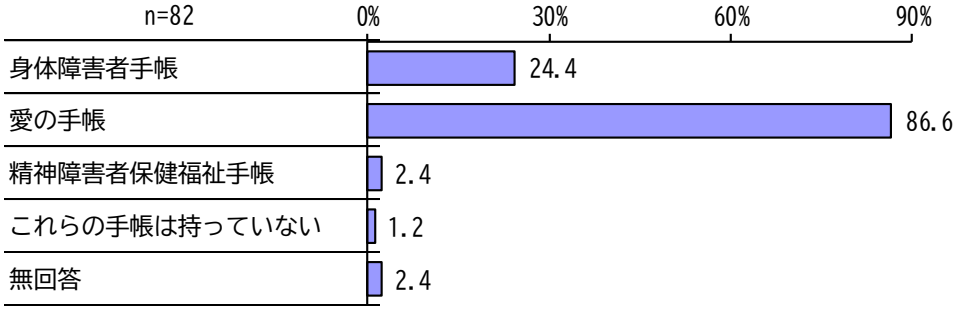
問５－２　病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

難病の疾病名は下表の通りです。

疾病名	件数
ＰＲＬ分泌亢進症	1
その他	1

（４）手帳の種類

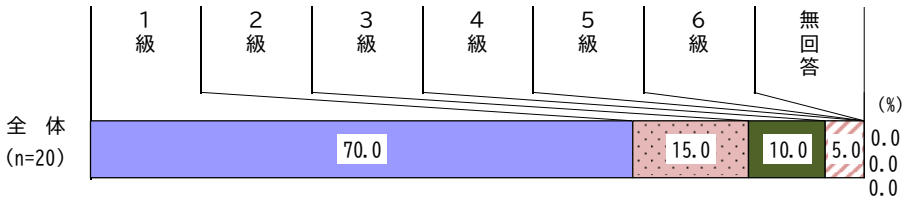
問６　あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。（あてはまるものすべてに○）



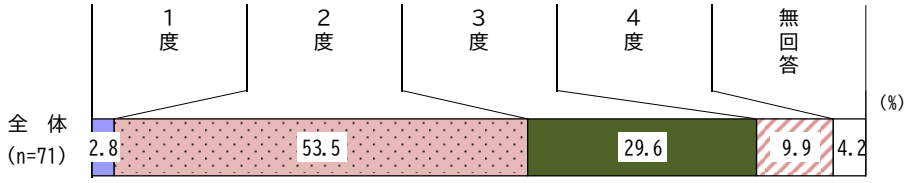
手帳の所持状況は、「愛の手帳」が 86.6%と８割半ばを超えて最も高く、次いで「身体障害者手帳」が 24.4%、「精神障害者保健福祉手帳」が 2.4%となっています。

【各等級別】

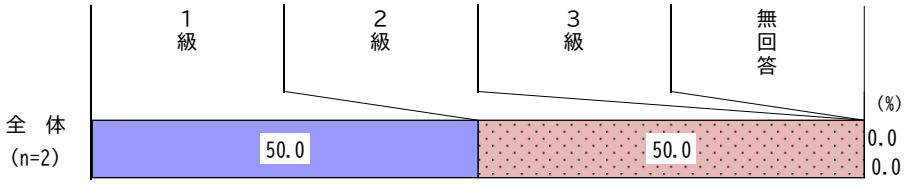
身体障害者手帳



愛の手帳



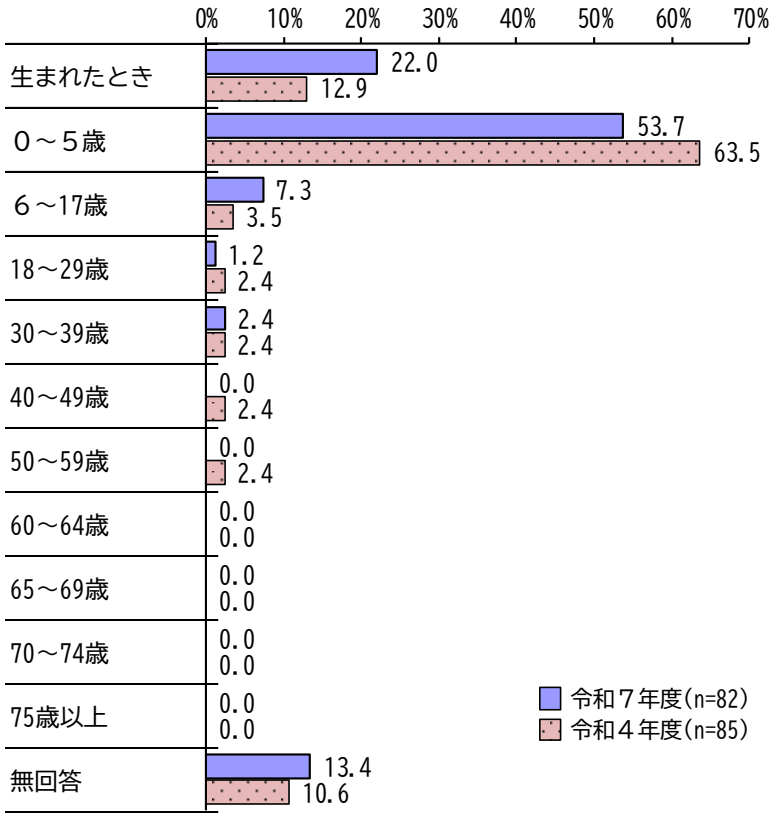
精神障害者保健福祉手帳



身体障害者手帳の等級は、「１級」が 70.0%と最も高く、次いで「２級」が 15.0%と続いています。
愛の手帳の等級は、「２度」が 53.5%と最も高く、次いで「３度」が 29.6%と続いています。
精神障害者保健福祉手帳の等級は、「１級」と「２級」が１名ずつの 50.0%となっています。

（５）障害に最初に気づいた時期

問７　あなたの障害や心身の不調について、あなたやご家族の方などが最初に気づいた時期をお聞きします。（○はひとつ）

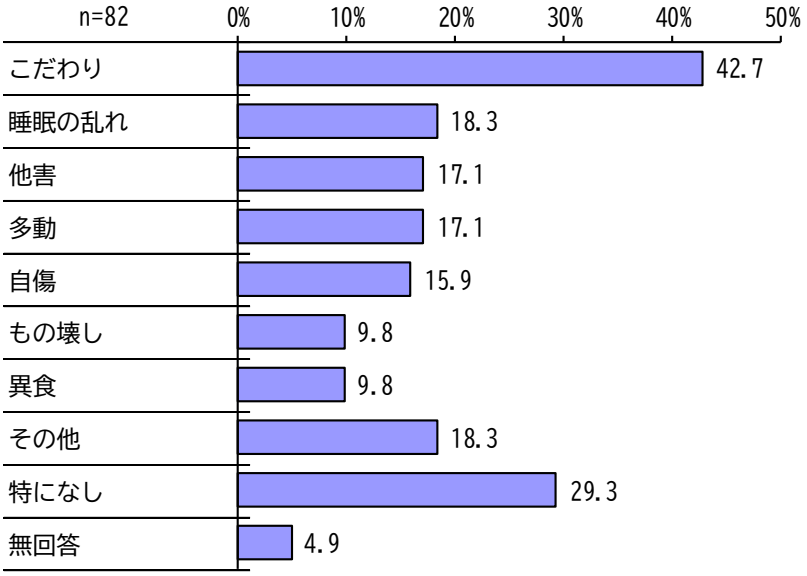


本人や家族が障害に気づいた時期は、「０～５歳」が 53.7%と５割を超えて最も高く、次いで「生まれたとき」が 22.0%と、５歳までで全体の７割半ばを占めています。

令和４年度と比較すると、「生まれたとき」が 9.1 ポイント上がっており、反対に「０～５歳」が 9.8 ポイント下がっています。

（６）日常生活で必要な特別な配慮

問８　日常生活の中で、特別な支援や配慮を必要とする、行動面に関する課題がありますか。
（あてはまるものすべてに○）



日常生活の中で特別な支援や配慮を必要とする行動面に関する課題について、「こだわり」が42.7％と４割を超えて最も高く、次いで「睡眠の乱れ」が 18.3％、「他害」と「多動」がともに17.1％と続いています。

一方、「特になし」は 29.3％と３割近くを占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	自傷	他害	こだわり	もの壊し	睡眠の乱れ
全体		82	15.9	17.1	***42.7***	9.8	18.3
年代別	18歳以上40歳未満	12	58.3	41.7	***66.7***	41.7	58.3
	40歳以上65歳未満	44	13.6	9.1	***43.2***	6.8	13.6
	65歳以上75歳未満	9	0.0	***11.1***	***11.1***	0.0	***11.1***
	75歳以上	14	0.0	7.1	***42.9***	0.0	7.1
障害別	肢体不自由	17	0.0	5.9	***17.6***	0.0	11.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	6	0.0	0.0	***16.7***	0.0	***16.7***
	視覚障害	3	0.0	***33.3***	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	***33.3***	0.0	***33.3***
	知的障害	74	17.6	17.6	***45.9***	10.8	18.9
	発達障害	16	43.8	37.5	***75.0***	18.8	31.3
	精神障害	6	16.7	16.7	***33.3***	0.0	16.7
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	1	0.0	***100.0***	***100.0***	0.0	***100.0***
	その他	1	***100.0***	0.0	***100.0***	***100.0***	***100.0***

（単位:%）		n	異食	多動	その他	特になし	無回答
全体		82	9.8	17.1	18.3	29.3	4.9
年代別	18歳以上40歳未満	12	33.3	41.7	25.0	16.7	0.0
	40歳以上65歳未満	44	6.8	18.2	13.6	29.5	4.5
	65歳以上75歳未満	9	***11.1***	0.0	22.2	44.4	11.1
	75歳以上	14	0.0	7.1	28.6	35.7	7.1
障害別	肢体不自由	17	5.9	5.9	35.3	47.1	5.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	6	***16.7***	***16.7***	50.0	33.3	16.7
	視覚障害	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
	聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	内部障害	3	***33.3***	***33.3***	66.7	0.0	0.0
	知的障害	74	10.8	18.9	20.3	27.0	4.1
	発達障害	16	12.5	31.3	18.8	12.5	0.0
	精神障害	6	16.7	0.0	66.7	16.7	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	難病（特定疾病）	1	***100.0***	0.0	100.0	0.0	0.0
	その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

年代別にみると、回答数が 10 件以上のいずれの年代でも「こだわり」が最も高く、特に“18 歳以上 40 歳未満”では 66.7%と６割半ばを超えています。

また、“18 歳以上 40 歳未満”では「自傷」と「睡眠の乱れ」がともに５割半ばを超えており、「他害」、「もの壊し」、「多動」も４割を超えるなど、他の年代より高くなっています。

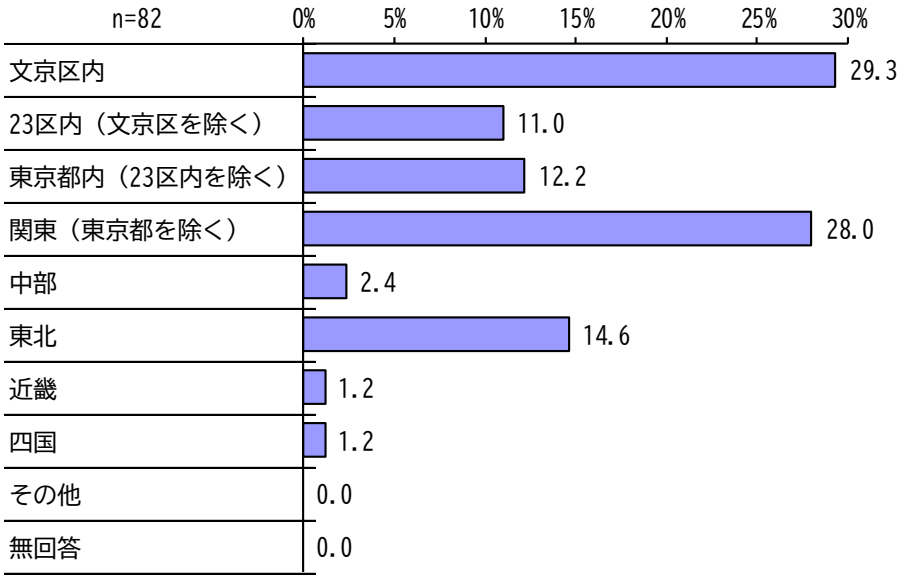
障害別にみると、回答数が 10 件以上の“肢体不自由”、“知的障害”、“発達障害”のいずれも、「こだわり」が最も高く、特に“発達障害”では７割半ばに達しています。

また、“発達障害”では「自傷」が４割を超えており、「他害」、「睡眠の乱れ」、「多動」も３割を超えるなど、他の障害より高くなっています。

３　施設入所について

（１）施設の所在地域

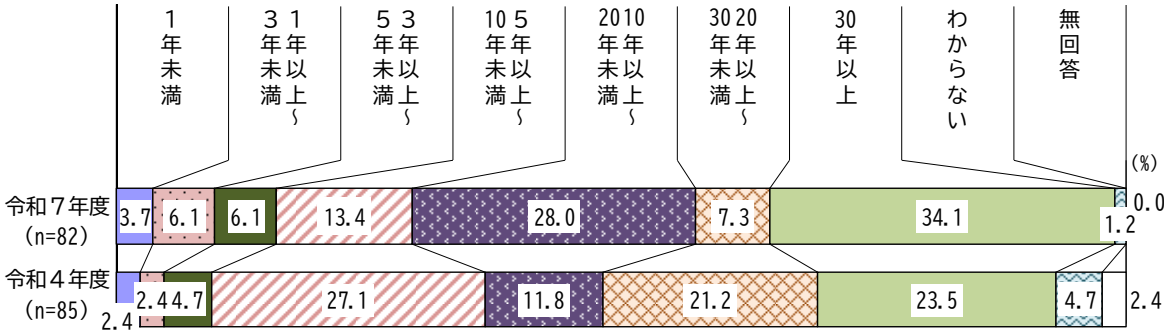
問９　あなたが現在入所している施設のある地域をお聞きします。（○はひとつ）



現在入所している施設のある地域は、「文京区内」が 29.3％と３割近くを占めて最も高く、次いで「関東（東京都を除く）」が 28.0％、「東北」が 14.6％と続いています。

（２）施設入所年数

問 10　あなたが現在の施設に入所してからの年数をお聞きします（○はひとつ）



施設入所年数は、「30 年以上」が 34.1%と最も高く、次いで「10 年以上～20 年未満」が 28.0%、「５年以上～10 年未満」が 13.4%と続いています。

令和４年度と比較すると、「10 年以上～20 年未満」が 16.2 ポイント、「30 年以上」が 10.6 ポイントと 10 ポイント以上上がっていますが、反対に「20 年以上～30 年未満」が 13.9 ポイント、「５年以上～10 年未満」が 13.7 ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別・地域別

（単位:%）		n	1年未満	1年以上～3年未満	3年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上～30年未満	30年以上	わからない	無回答
全体		82	3.7	6.1	6.1	13.4	28.0	7.3	***34.1***	1.2	0.0
年代別	18歳以上40歳未満	12	8.3	8.3	8.3	25.0	***50.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳以上65歳未満	44	4.5	6.8	9.1	15.9	25.0	6.8	***31.8***	0.0	0.0
	65歳以上75歳未満	9	0.0	0.0	0.0	11.1	***44.4***	11.1	33.3	0.0	0.0
	75歳以上	14	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3	7.1	***71.4***	0.0	0.0
地域別	文京区内	24	8.3	8.3	4.2	25.0	***54.2***	0.0	0.0	0.0	0.0
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	***77.8***	0.0	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	0.0	0.0	0.0	20.0	***30.0***	20.0	20.0	10.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	0.0	8.7	8.7	4.3	21.7	13.0	***43.5***	0.0	0.0
	関東以外	16	6.3	0.0	6.3	12.5	12.5	6.3	***56.3***	0.0	0.0

年代別にみると、回答数が 10 件以上の“18 歳以上 40 歳未満”では「10 年以上～20 年未満」が５割を占めて最も高くなっています。また、「５年以上～10 年未満」も２割半ばを占めて、他の年代より高くなっています。

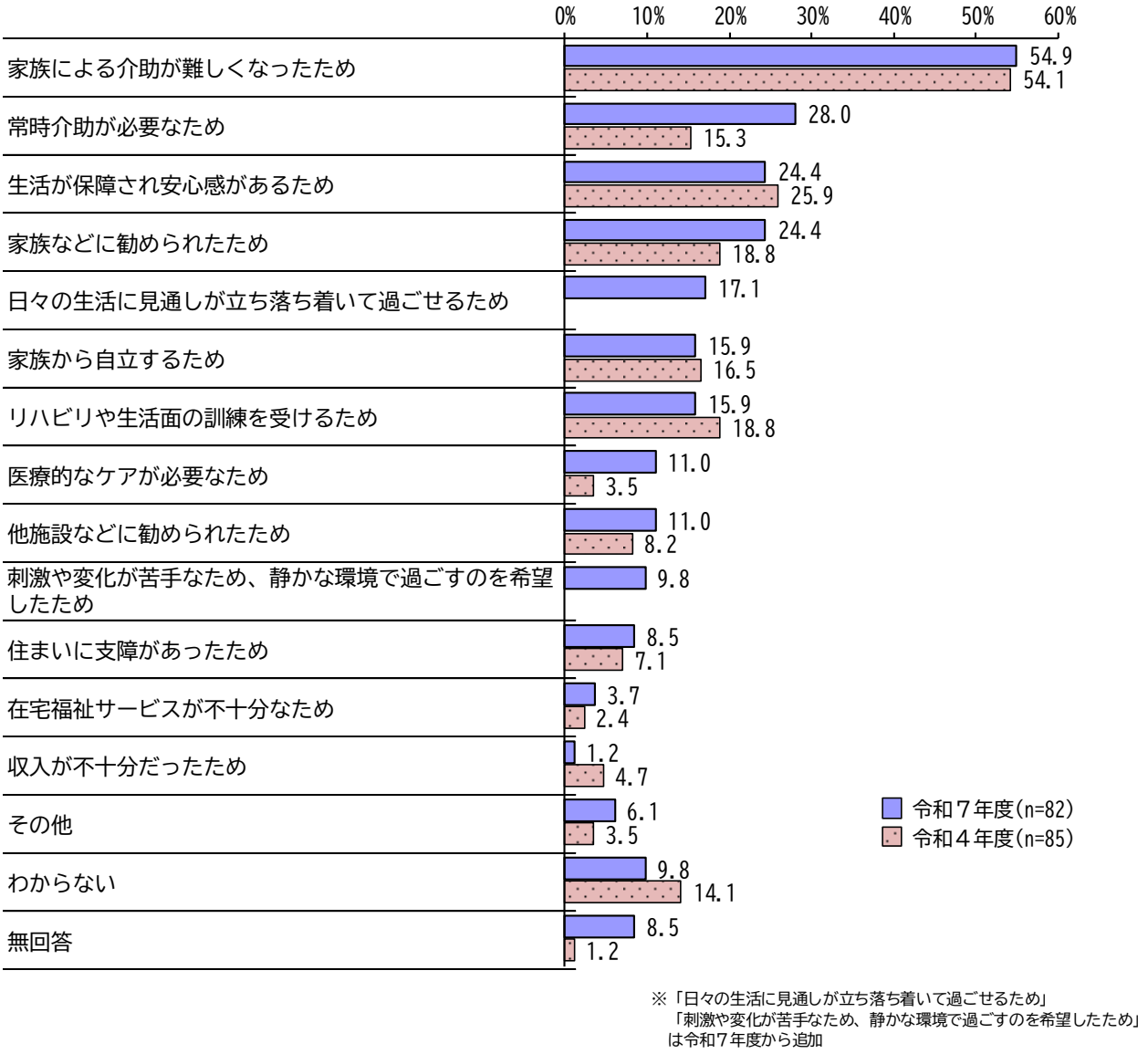
“40 歳以上 65 歳未満”と“75 歳以上”では「30 年以上」が最も高く、特に“75 歳以上”では７割を超えています。

地域別にみると、“文京区”と“東京都（23 区内を除く）”では、「10 年以上～20 年未満」が最も高く、特に“文京区”では５割を超えています。

“関東（東京都を除く）”と“関東以外”では「30 年以上」が最も高くなっています。

（３）施設入所の理由

問 11　あなたが現在の施設に入所することに決めた理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）



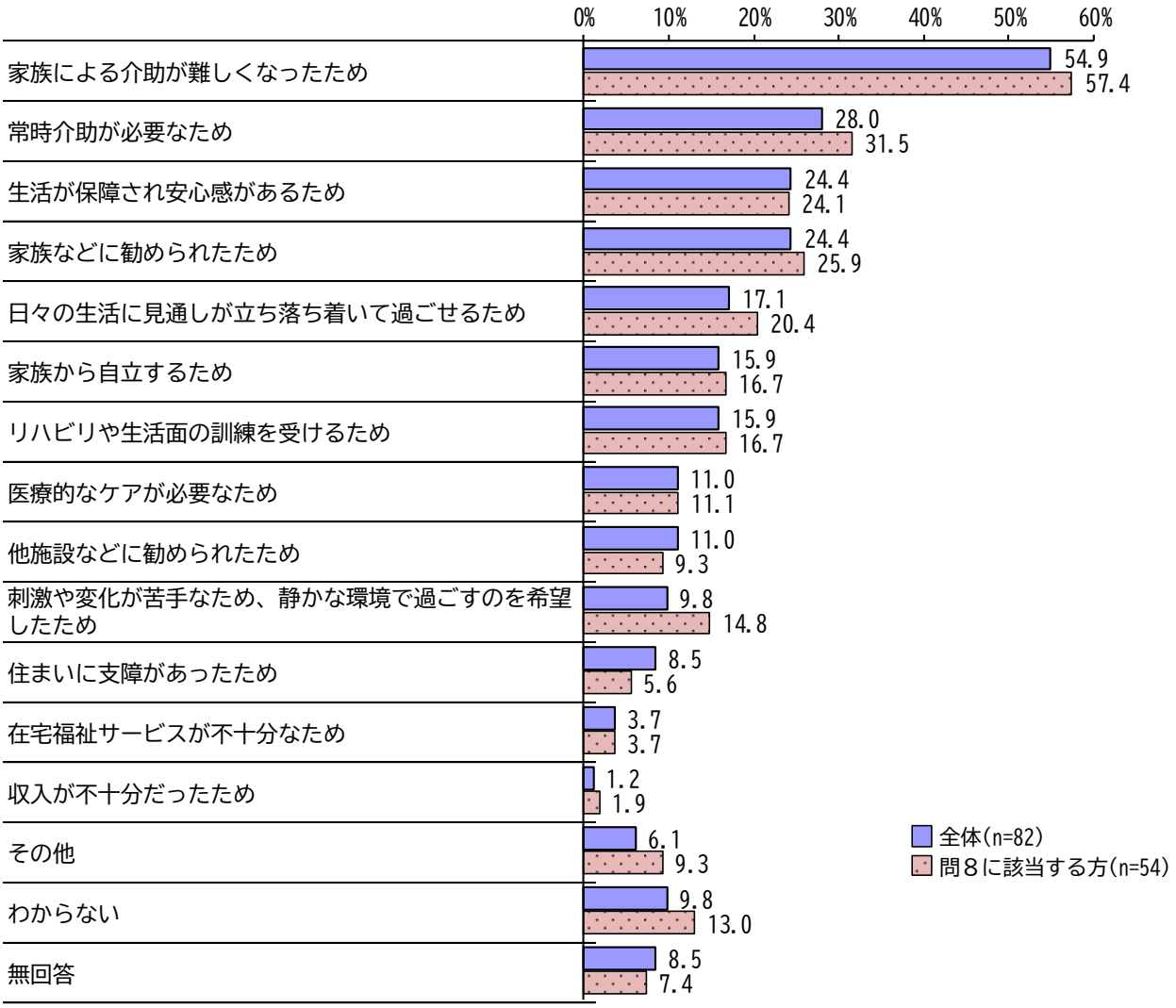
※「日々の生活に見通しが立ち落ち着いて過ごせるため」
「刺激や変化が苦手なため、静かな環境で過ごすのを希望したため」
は令和７年度から追加

現在の施設に入所した理由は、「家族による介助が難しくなったため」が 54.9％と５割半ばで最も高く、次いで「常時介助が必要なため」が 28.0％、「生活が保障され安心感があるため」と「家族などに勧められたため」がともに 24.4％、「日々の生活に見通しが立ち落ち着いて過ごせるため」が 17.1％と続いています。

一方、「わからない」が 9.8％と１割近くを占めています。

令和４年度と比較すると、「常時介助が必要なため」が 12.7 ポイント、「医療的なケアが必要なため」が 7.5 ポイント、「家族などに勧められたため」が 5.6 ポイントと、５ポイント以上上がっています。

【全体と問８に該当する方との比較】



問８に該当する方と全体を比較すると、問８に該当する方が現在の施設に入所した理由は、「刺激や変化が苦手なため、静かな環境で過ごすのを希望したため」が全体の割合を 5.0 ポイント上回っています。

【クロス集計】地域別

（単位:%）		n	家族から自立するため	リハビリや生活面の訓練を受けるため	生活が保障され安心感があるため	家族による介助が難しくなったため	常時介助が必要なため	医療的なケアが必要なため	住まいに支障があったため	在宅福祉サービスが不十分なため
全体		82	15.9	15.9	24.4	***54.9***	28.0	11.0	8.5	3.7
地域別	文京区内	24	41.7	25.0	25.0	***66.7***	37.5	4.2	12.5	8.3
	23区内（文京区を除く）	9	22.2	22.2	22.2	***55.6***	33.3	0.0	0.0	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	0.0	30.0	20.0	30.0	***40.0***	30.0	0.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	0.0	8.7	26.1	***60.9***	13.0	17.4	13.0	4.3
	関東以外	16	6.3	0.0	25.0	***43.8***	25.0	6.3	6.3	0.0

（単位:%）		n	収入が不十分だったため	家族などに勧められたため	他施設などに勧められたため	日々の生活に見通しが立ち落ち着いて過ごせるため	刺激や変化が苦手なため、静かな環境で過ごすのを希望したため	その他	わからない	無回答
全体		82	1.2	24.4	11.0	17.1	9.8	6.1	9.8	8.5
地域別	文京区内	24	4.2	29.2	8.3	20.8	12.5	8.3	0.0	8.3
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	0.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	20.0	10.0
	関東（東京都を除く）	23	0.0	30.4	4.3	13.0	8.7	8.7	13.0	13.0
	関東以外	16	0.0	31.3	18.8	25.0	12.5	6.3	12.5	6.3

地域別にみると、“東京都（23 区内を除く）”では「常時介助が必要なため」が４割に達し最も高く、それ以外の地域はいずれも「家族による介助が難しくなったため」が最も高くなっています。

また、いずれの地域でも「生活が保障され安心感があるため」が２割を超えて高くなっています。

“文京区内”では、「家族から自立するため」が４割を超えて、他の地域より高くなっています。

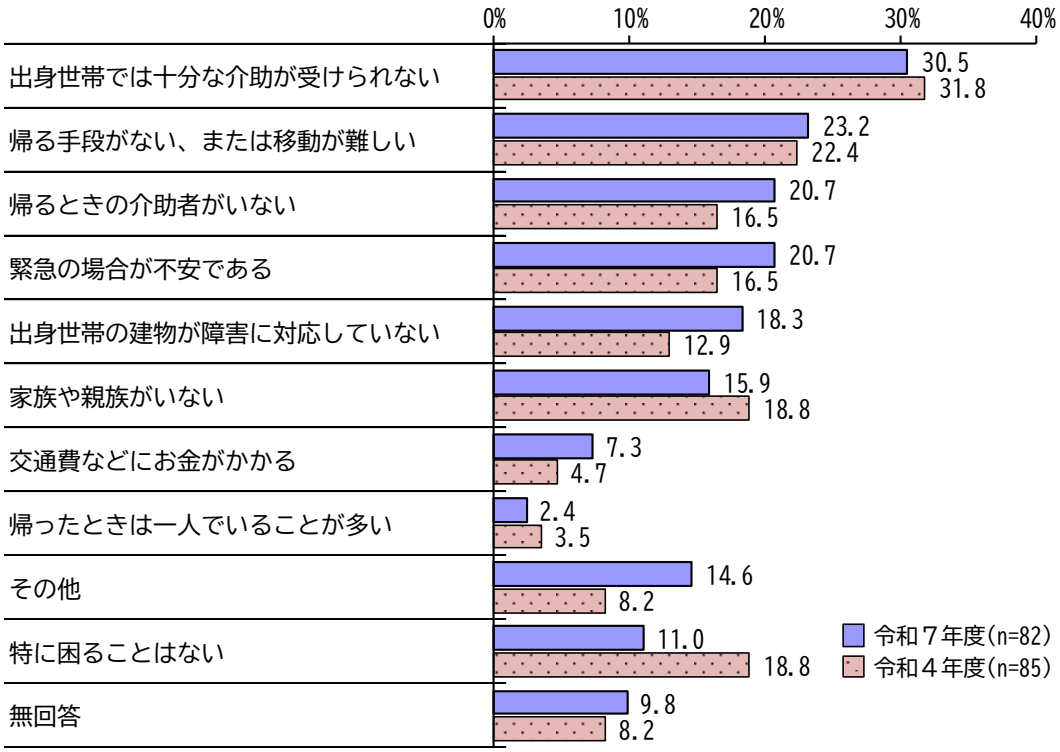
“東京都（23 区内を除く）”では、「リハビリや生活面の訓練を受けるため」と「医療的なケアが必要なため」が３割で、他の地域より高くなっています。

“文京区内”、“関東（東京都を除く）”、“関東以外”では、「家族などに勧められたため」が３割前後と高くなっています。

４　施設での生活について

（１）帰省時の困りごと

問12　あなたが一時、出身世帯（施設に入る前に住んでいた家）に帰るときなどに困ることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

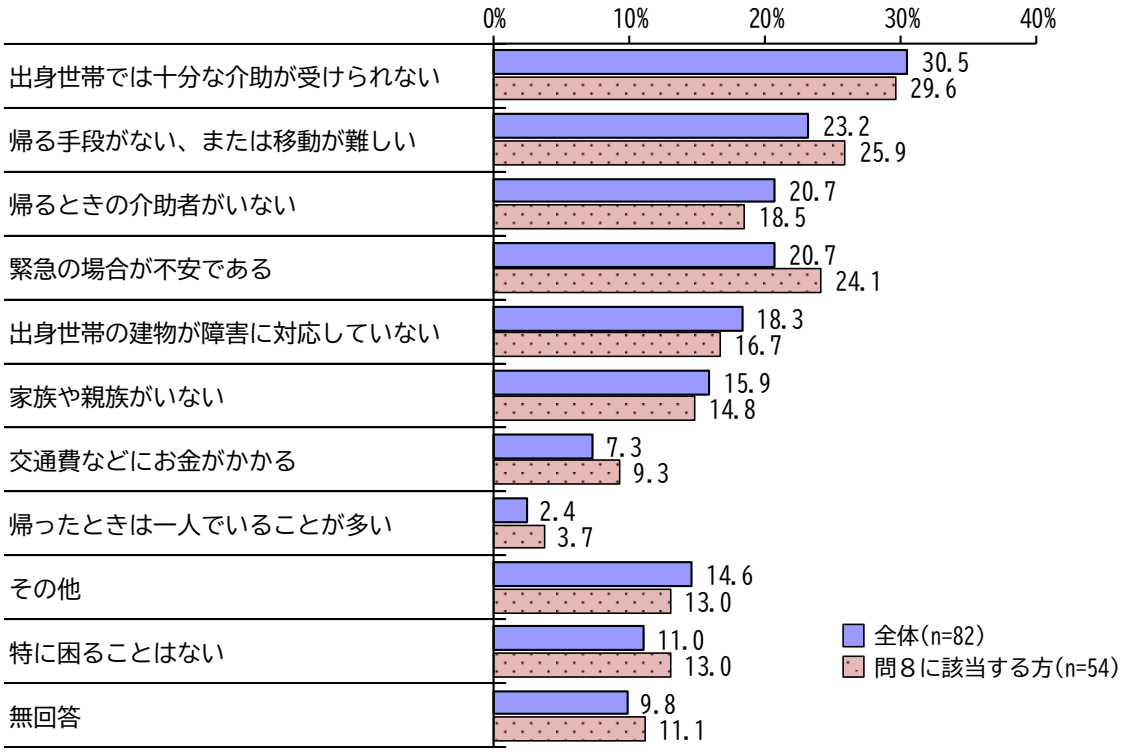


出身世帯に一時帰るときの困りごとは、「出身世帯では十分な介助が受けられない」が 30.5%と３割に達し最も高く、次いで「帰る手段がない、または移動が難しい」が 23.2%、「帰るときの介助者がいない」と「緊急の場合が不安である」がともに 20.7%と続いています。

一方、「特に困ることはない」は 11.0%と１割を超えています。

令和４年度と比較すると、「出身世帯の建物が障害に対応していない」が 5.4 ポイント、「帰るときの介助者がいない」と「緊急の場合が不安である」がともに 4.2 ポイント上がっています。

【全体と問８に該当する方との比較】



問８に該当する方と全体を比較すると、出身世帯に一時帰るときの困りごとは、「緊急の場合が不安である」が全体の割合を 3.4 ポイント上回っています。

【クロス集計】地域別

（単位:%）		n	帰る手段がない、または移動が難しい	帰るときの介助者がいない	交通費などにお金がかかる	出身世帯の建物が障害に対応していない	出身世帯では十分な介助が受けられない	帰ったときは一人でいることが多い
全体		82	23.2	20.7	7.3	18.3	***30.5***	2.4
地域別	文京区内	24	20.8	25.0	12.5	20.8	***33.3***	4.2
	23区内（文京区を除く）	9	22.2	22.2	0.0	22.2	11.1	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	10.0	10.0	0.0	10.0	***30.0***	0.0
	関東（東京都を除く）	23	21.7	21.7	4.3	21.7	***47.8***	0.0
	関東以外	16	***37.5***	18.8	12.5	12.5	12.5	6.3

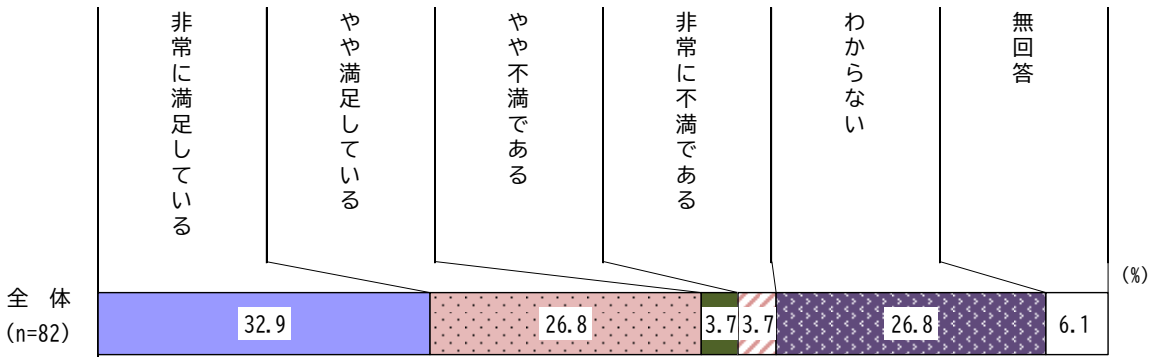
（単位:%）		n	家族や親族がいない	緊急の場合が不安である	その他	特に困ることはない	無回答
全体		82	15.9	20.7	14.6	11.0	9.8
地域別	文京区内	24	8.3	20.8	25.0	8.3	12.5
	23区内（文京区を除く）	9	***33.3***	11.1	0.0	11.1	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	10.0	***30.0***	30.0	0.0	20.0
	関東（東京都を除く）	23	13.0	30.4	4.3	17.4	8.7
	関東以外	16	25.0	6.3	12.5	12.5	6.3

地域別にみると、“関東以外”では「帰る手段がない、または移動が難しい」が３割を超えて最も高く、回答数が 10 件を超えるそれ以外の地域ではいずれも「出身世帯では十分な介助が受けられない」が最も高くなっています。

また、“東京都（23 区内を除く）”と“関東（東京都を除く）”では、「緊急の場合が不安である」が３割で、他の地域より高くなっています。

（２）施設生活の満足度

問 13　あなたは、施設での生活に満足していますか。（○はひとつ）



施設生活の満足度は、「非常に満足している」が 32.9%、「やや満足している」が 26.8%となっており、二つ合わせた『満足している』は 59.7%と約６割を占めています。反対に「やや不満である」と「不満である」はともに 3.7%となっています。

一方、「わからない」が 26.8%と２割半ばを超えています。

【クロス集計】年代別

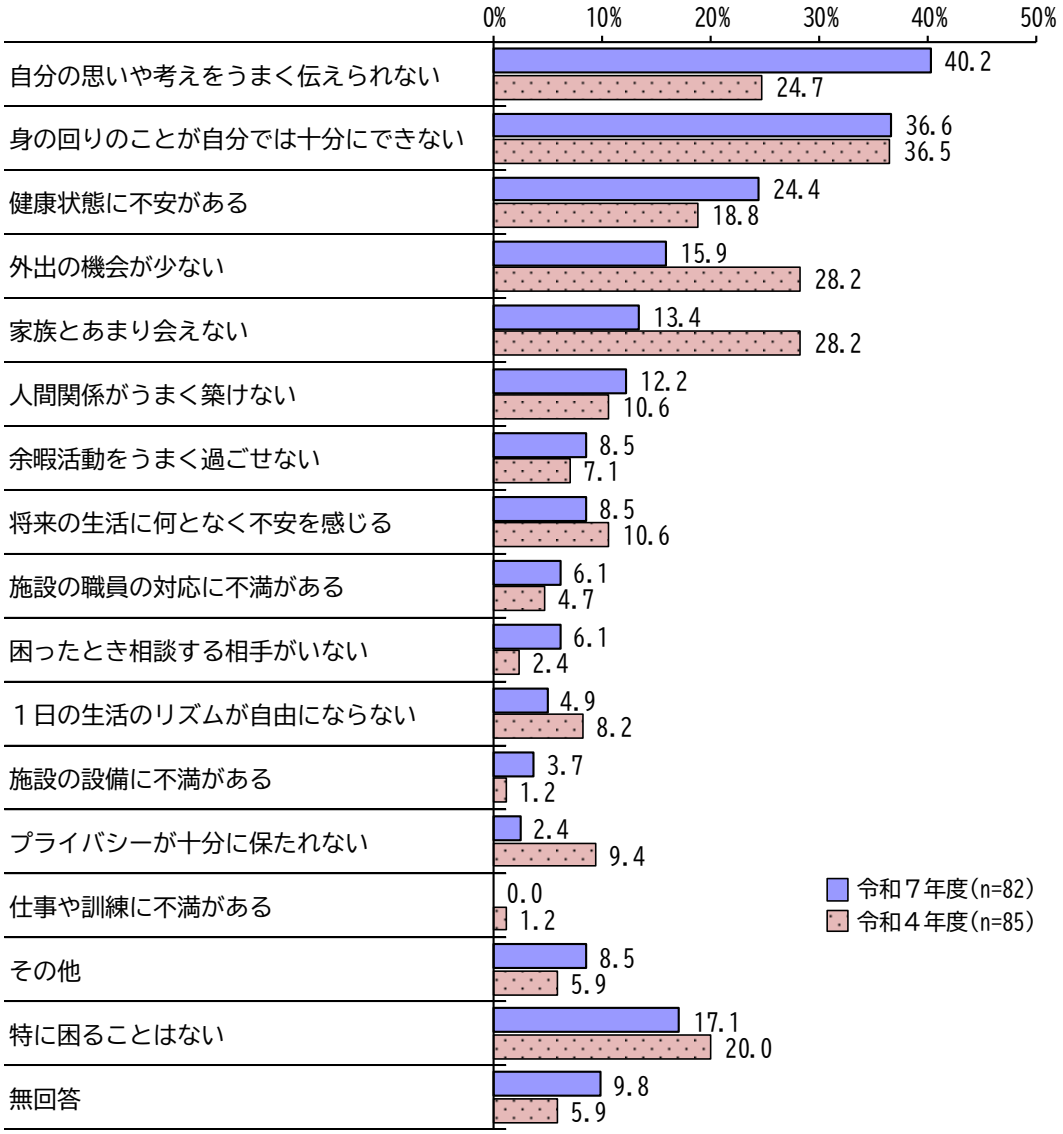
（単位:%）		n	非常に満足している	やや満足している	やや不満である	非常に不満である	わからない	無回答
全体		82	***32.9***	26.8	3.7	3.7	26.8	6.1
年代別	18歳以上40歳未満	12	***41.7***	16.7	0.0	8.3	25.0	8.3
	40歳以上65歳未満	44	***29.5***	20.5	2.3	4.5	34.1	9.1
	65歳以上75歳未満	9	***44.4***	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0
	75歳以上	14	28.6	***42.9***	14.3	0.0	14.3	0.0

年代別にみると、いずれの年代も「非常に満足している」か「やや満足している」が最も高くなっています。

また、「わからない」は“40 歳以上 65 歳未満”で３割を超えて、他の年代より高くなっています。

（３）現在の生活での困りごと

問 14　あなたが現在の暮らしの中で、困ることや不安に感じていることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

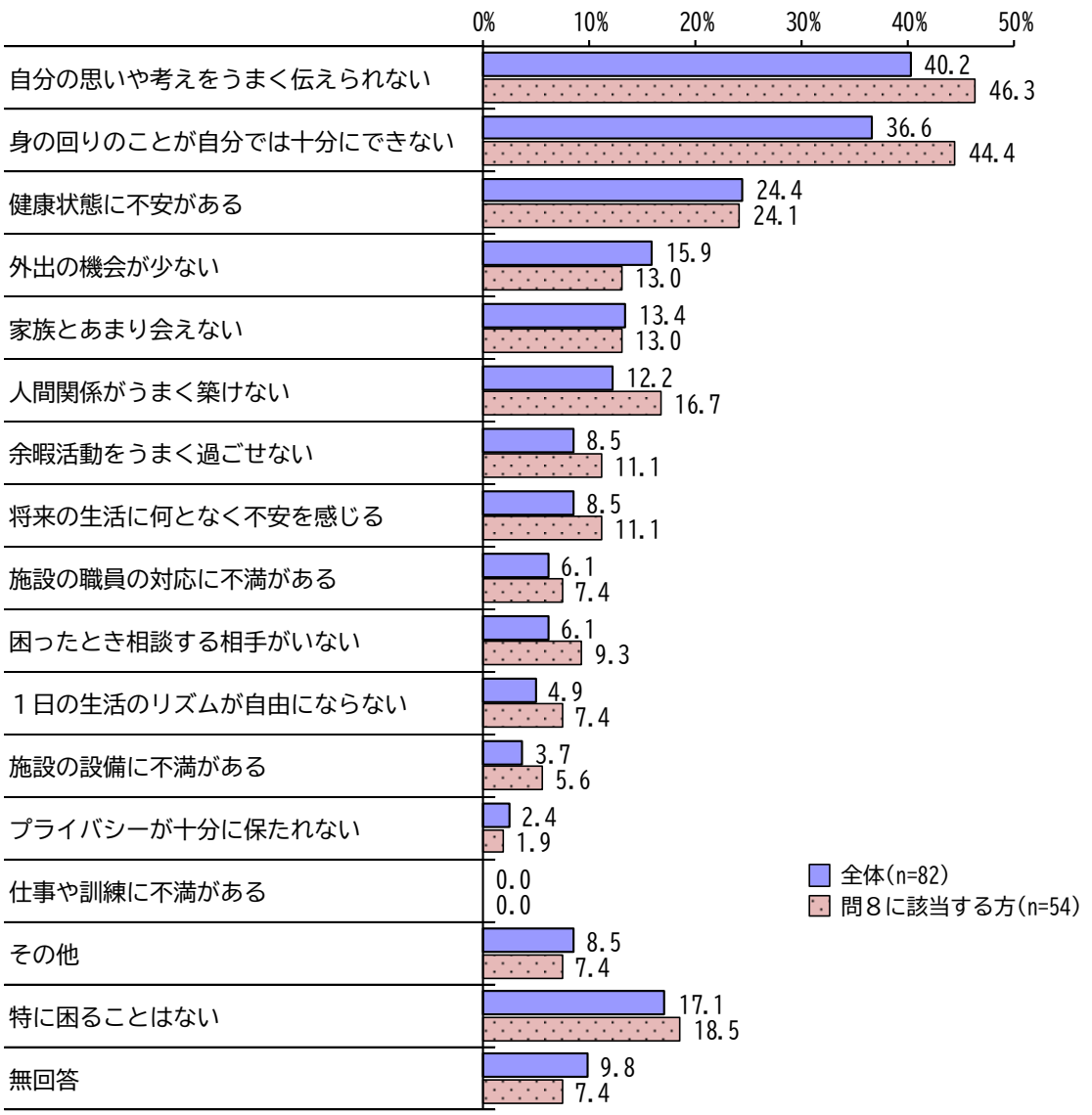


現在の生活での困りごとは、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が 40.2％と４割に達し最も高く、次いで「身の回りのことが自分では十分にできない」が 36.6％、「健康状態に不安がある」が 24.4％、「外出の機会が少ない」が 15.9％と続いています。

一方、「特に困ることはない」は 17.1％と１割半ばを超えています。

令和４年度と比較すると、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が 15.5 ポイント上がっており、反対に「家族とあまり会えない」が 14.8 ポイント、「外出の機会が少ない」が 12.3 ポイントと、10 ポイント以上下がっています。

【全体と問８に該当する方との比較】



問８に該当する方と全体を比較すると、現在の生活での困りごとは、「身の回りのことが自分では十分にできない」が7.8ポイント、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が6.1ポイントと、５ポイント上全体の割合を上回っています。

【クロス集計】地域別

（単位:%）		n	身の回りのことが自分では十分にできない	健康状態に不安がある	プライバシーが十分に保たれない	1日の生活のリズムが自由にならない	施設の設備に不満がある	仕事や訓練に不満がある	外出の機会が少ない	施設の職員の対応に不満がある	人間関係がうまく築けない
全体		82	36.6	24.4	2.4	4.9	3.7	0.0	15.9	6.1	12.2
地域別	文京区内	24	***58.3***	29.2	4.2	0.0	0.0	0.0	12.5	4.2	16.7
	23区内（文京区を除く）	9	33.3	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	10.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	***20.0***	***20.0***	0.0
	関東（東京都を除く）	23	21.7	26.1	0.0	4.3	4.3	0.0	17.4	0.0	8.7
	関東以外	16	***43.8***	31.3	6.3	12.5	6.3	0.0	12.5	6.3	25.0

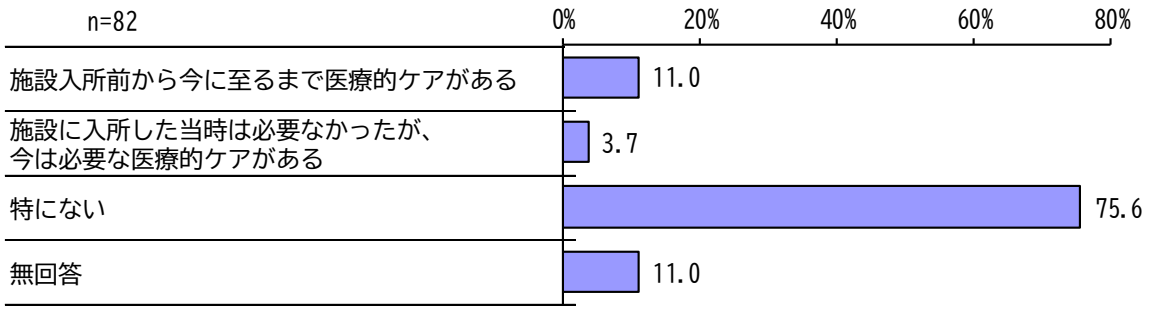
（単位:%）		n	余暇活動をうまく過ごせない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない	家族とあまり会えない	将来の生活に何となく不安を感じる	その他	特に困ることはない	無回答
全体		82	8.5	6.1	***40.2***	13.4	8.5	8.5	17.1	9.8
地域別	文京区内	24	16.7	8.3	50.0	8.3	4.2	4.2	12.5	12.5
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	0.0	***44.4***	11.1	11.1	11.1	22.2	11.1
	東京都内（23区内を除く）	10	0.0	10.0	***20.0***	10.0	10.0	20.0	20.0	10.0
	関東（東京都を除く）	23	8.7	0.0	***34.8***	26.1	8.7	8.7	21.7	13.0
	関東以外	16	6.3	12.5	***43.8***	6.3	12.5	6.3	12.5	0.0

地域別にみると、「身の回りのことが自分では十分にできない」と「自分の思いや考えをうまく伝えられない」は“文京区内”で５割以上と他の地域より高くなっています。また、“関東以外”も４割を超えて高くなっています。

“関東（東京都を除く）”では、「家族とあまり会えない」が２割半ばを超えて、他の地域より高くなっています。

（４）医療的ケアの有無

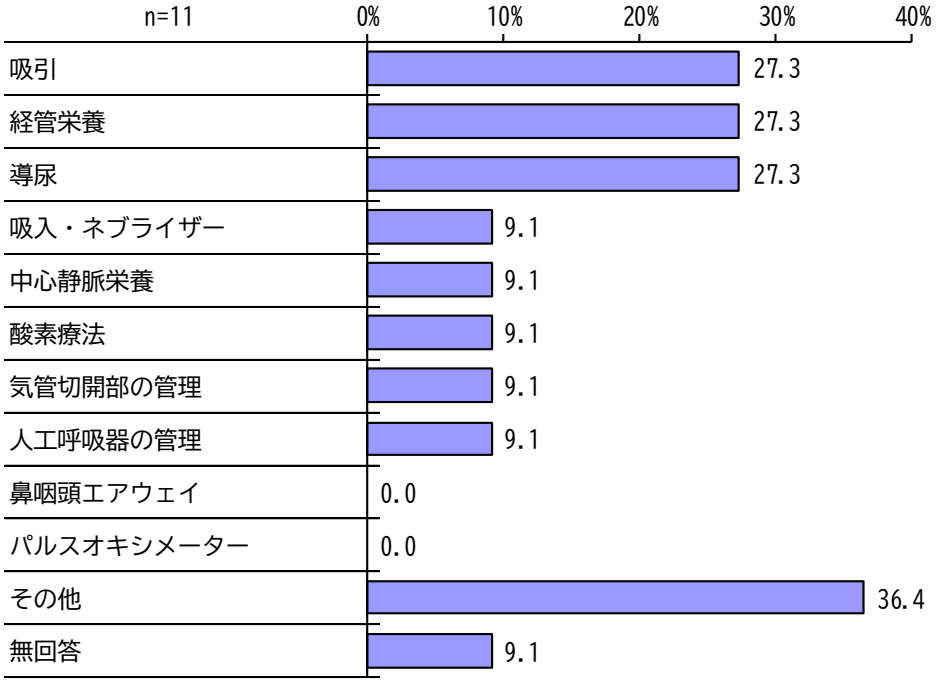
問 15　あなたが必要とする医療的ケアがありますか。（あてはまるものすべてに○）



医療的ケアの有無は、「施設入所前から今に至るまで医療的ケアがある」が 11.0%、「施設に入所した当時は必要なかったが、今は必要な医療的ケアがある」が 3.7%となっており、「特にない」は 75.6%と７割半ばを占めています。

（５）必要な医療的ケア

問 15 で「必要な医療的ケアがある」と回答された方にお聞きします。
問 16　あなたが必要とする医療的ケアをお聞きします。（あてはまるものすべてに○）



必要とする医療的ケアは、「吸引」、「経管栄養」、「導尿」がそれぞれ 27.3%（11 件中３件）となっています。

【クロス集計】年代別

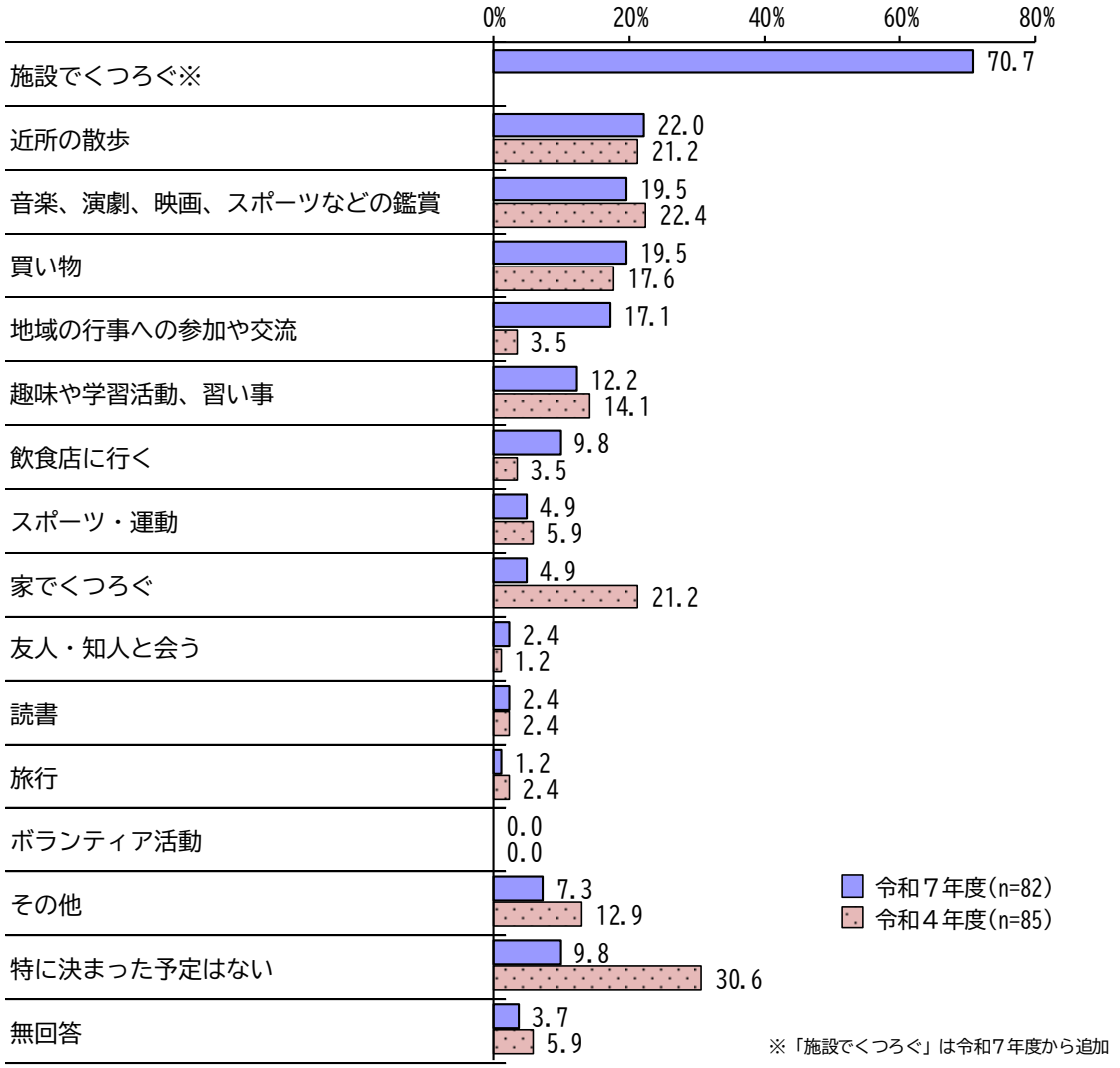
（単位:%）		n	吸引	吸入･ネブライザー	経管栄養	中心静脈栄養	導尿	酸素療法
全体		11	***27.3***	9.1	***27.3***	9.1	***27.3***	9.1
年代別	18歳以上40歳未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳以上65歳未満	6	33.3	16.7	***50.0***	16.7	16.7	16.7
	65歳以上75歳未満	2	50.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0
	75歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	鼻咽頭エアウェイ	パルスオキシメーター	気管切開部の管理	人工呼吸器の管理	その他	無回答
全体		11	0.0	0.0	9.1	9.1	36.4	9.1
年代別	18歳以上40歳未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40歳以上65歳未満	6	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0
	65歳以上75歳未満	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	75歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

年代別にみると、いずれの年代でも回答数が 10 未満となっているので、表のみを掲載します。

（６）休日等の過ごし方

問 17　あなたは、休日など時間に余裕があるとき、主にどのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

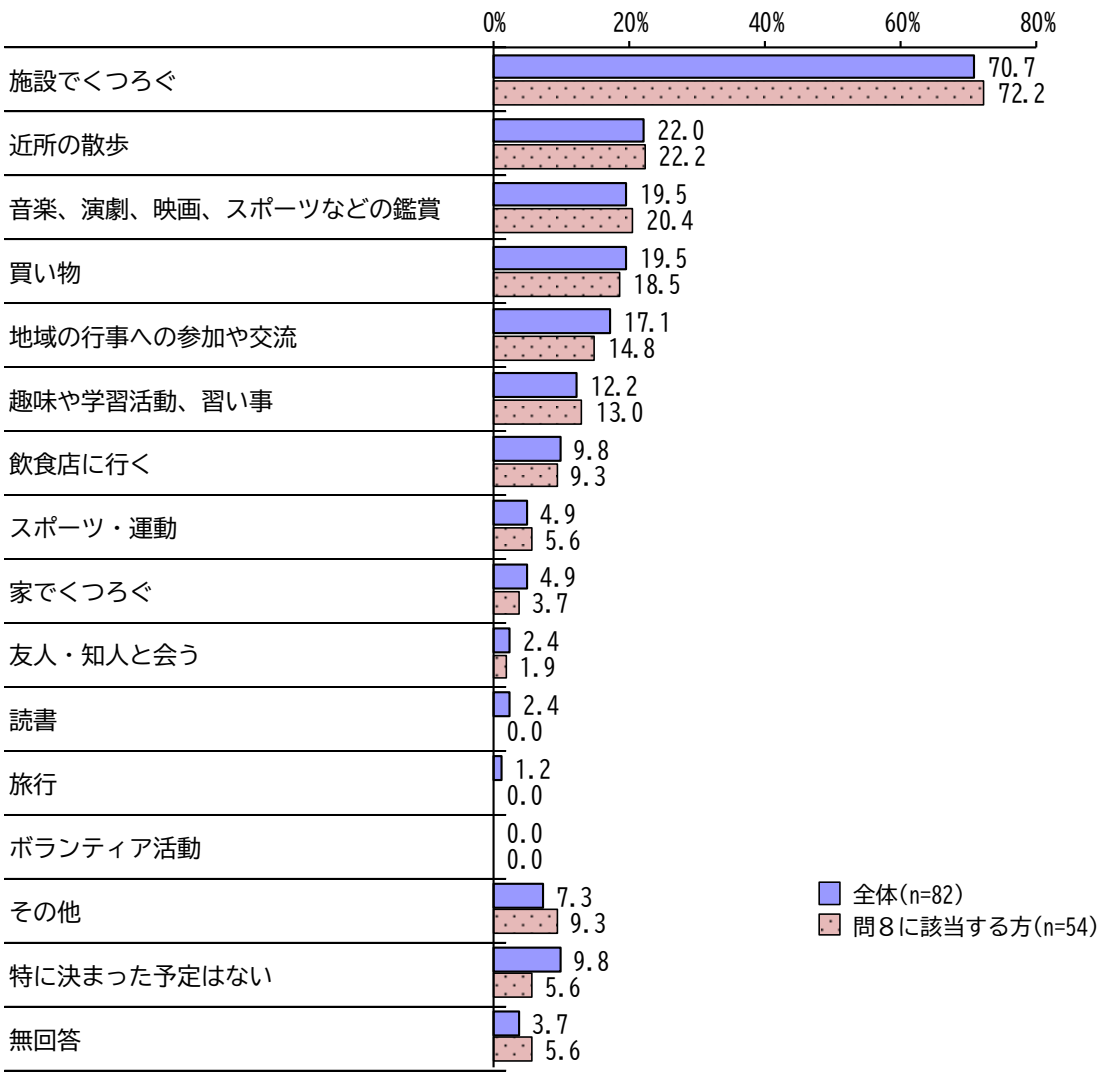


休日等の過ごし方は、「施設でくつろぐ」が 70.7%と７割に達し最も高く、次いで「近所の散歩」が 22.0%、「音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞」と「買い物」がともに 19.5%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は 9.8%となっています。

令和４年度と比較すると、「地域の行事への参加や交流」が 13.6 ポイント上がっています。一方で、「特に決まった予定はない」が 20.8 ポイント、「家でくつろぐ」が 16.3 ポイントと 10 ポイント以上下がっていますが、令和７年度の新規項目の「施設でくつろぐ」に吸収されたからと推察されます。

【全体と問８に該当する方との比較】



問８に該当する方と全体を比較すると、休日等の過ごし方は、項目ごとに高低はありますが、全体とあまり差はありません。

【クロス集計】地域別

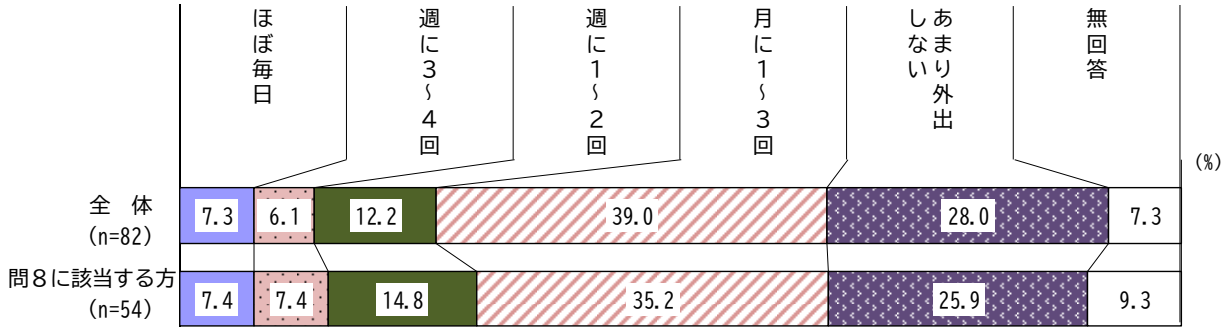
（単位:%）		n	趣味や学習活動、習い事	スポーツ・運動	ボランティア活動	友人・知人と会う	音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞	買い物	飲食店に行く	読書
全体		82	12.2	4.9	0.0	2.4	19.5	19.5	9.8	2.4
地域別	文京区内	24	16.7	8.3	0.0	4.2	29.2	12.5	12.5	4.2
	23区内（文京区を除く）	9	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0	11.1
	東京都内（23区内を除く）	10	10.0	20.0	0.0	0.0	40.0	***60.0***	20.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	8.7	0.0	0.0	4.3	4.3	4.3	8.7	0.0
	関東以外	16	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	31.3	6.3	0.0

（単位:%）		n	旅行	家でくつろぐ	施設でくつろぐ	地域の行事への参加や交流	近所の散歩	その他	特に決まった予定はない	無回答
全体		82	1.2	4.9	***70.7***	17.1	22.0	7.3	9.8	3.7
地域別	文京区内	24	0.0	16.7	***75.0***	41.7	41.7	4.2	8.3	4.2
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	0.0	***77.8***	0.0	22.2	22.2	22.2	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	0.0	0.0	50.0	20.0	40.0	20.0	10.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	0.0	0.0	***65.2***	4.3	4.3	0.0	13.0	8.7
	関東以外	16	6.3	0.0	***81.3***	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0

地域別にみると、いずれの地域でも「施設でくつろぐ」が５割以上となっており、“東京都内（23区内を除く）”を除くすべての地域で６割半ばを超えて最も高くなっています。
“東京都内（23区内を除く）”では「買い物」が６割で最も高く。

（7）外出の頻度

問 18　あなたはどのくらいの頻度で外出していますか。（日中活動先での外出も含みます）
（○はひとつ）

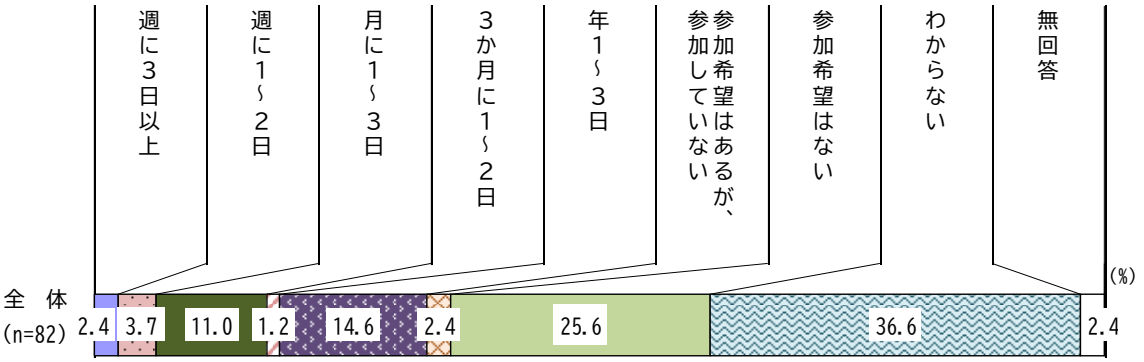


外出の頻度は、「月に１～３回」が 39.0%と４割近くで最も高く、次いで「あまり外出しない」が 28.0%、「週に１～２回」が 12.2%と続いています。

問８に該当する方と全体を比較すると、「月に１～３回」が 3.8 ポイント、「あまり外出しない」が 2.1 ポイント全体より低くなっており、反対に「週に１～２回」が 2.6 ポイント高くなっています。

（８）文化芸術活動への参加頻度

問 19　あなたは過去１年間、どのくらいの頻度で文化芸術活動へ参加しましたか。（○はひとつ）



過去１年間での文化芸術活動への参加頻度は、「参加希望はない」が 25.6％と２割半ばで最も高く、次いで「年１～３日」が 14.6％、「月に１～３日」が 11.0％と続いています。

一方、「わからない」は 36.6％と３割半ばを超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	週に3日以上	週に1～2日	月に1～3日	3か月に1～2日	年1～3日	参加希望はあるが、参加していない	参加希望はない	わからない	無回答
全体		82	2.4	3.7	11.0	1.2	14.6	2.4	***25.6***	36.6	2.4
年代別	18歳以上40歳未満	12	0.0	8.3	8.3	8.3	***16.7***	0.0	***16.7***	41.7	0.0
	40歳以上65歳未満	44	4.5	2.3	6.8	0.0	15.9	4.5	***25.0***	38.6	2.3
	65歳以上75歳未満	9	0.0	0.0	***22.2***	0.0	11.1	0.0	11.1	55.6	0.0
	75歳以上	14	0.0	0.0	21.4	0.0	14.3	0.0	***42.9***	14.3	7.1
障害別	肢体不自由	17	11.8	0.0	11.8	0.0	17.6	5.9	***29.4***	17.6	5.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***33.3***	50.0	0.0
	視覚障害	3	0.0	***33.3***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
	聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	***66.7***	0.0	0.0
	知的障害	74	2.7	4.1	12.2	1.4	12.2	2.7	***24.3***	37.8	2.7
	発達障害	16	0.0	12.5	6.3	6.3	0.0	6.3	***31.3***	37.5	0.0
	精神障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***16.7***	83.3	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	その他	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

年代別にみると、回答数 10 件以上の年代でも「参加希望はない」が最も高く、特に“75 歳以上”では４割を超えて他の年代より高くなっています。

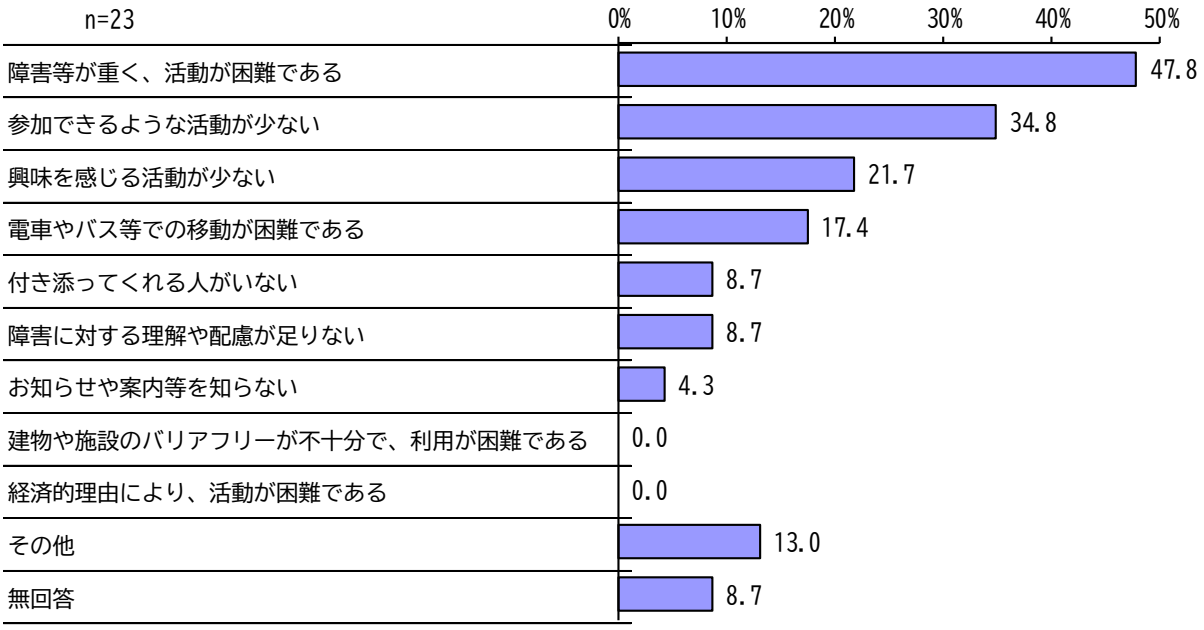
また、“75 歳以上”では「月に１～３日」も２割を超えて、他の年代より高くなっています。

障害別にみると、回答数 10 件以上いずれの障害でも「参加希望はない」が最も高くなっています。

また、“肢体不自由”と“知的障害”ではともに、「月に１～３日」と「年１～３日」が１割を超えています。

（９）文化芸術活動に参加しない理由

問 19 で「参加希望はあるが、参加していない」「参加希望はない」と回答された方にお聞きします。
問 19-1　その理由をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）



文化芸術活動に参加しない理由は、「障害等が重く、活動が困難である」が 47.8%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「参加できるような活動が少ない」が 34.8%、「興味を感じる活動が少ない」が 21.7%、「電車やバス等での移動が困難である」が 17.4%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

（単位:%）		n	興味を感じる活動が少ない	参加できるような活動が少ない	お知らせや案内等を知らない	付き添ってくれる人がいない	電車やバス等での移動が困難である	障害に対する理解や配慮が足りない
全体		23	21.7	34.8	4.3	8.7	17.4	8.7
年代別	18歳以上40歳未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳以上65歳未満	13	7.7	38.5	7.7	15.4	15.4	15.4
	65歳以上75歳未満	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	75歳以上	6	***50.0***	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
障害別	肢体不自由	6	0.0	33.3	16.7	16.7	33.3	16.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	2	0.0	***50.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	視覚障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	20	25.0	40.0	5.0	10.0	15.0	10.0
	発達障害	6	0.0	***33.3***	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神障害	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	障害等が重く、活動が困難である	建物や施設のバリアフリーが不十分で、利用が困難である	経済的理由により、活動が困難である	その他	無回答
全体		23	***47.8***	0.0	0.0	13.0	8.7
年代別	18歳以上40歳未満	2	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳以上65歳未満	13	***53.8***	0.0	0.0	15.4	7.7
	65歳以上75歳未満	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	75歳以上	6	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7
障害別	肢体不自由	6	***50.0***	0.0	0.0	16.7	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	2	***50.0***	0.0	0.0	50.0	0.0
	視覚障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	2	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	20	***50.0***	0.0	0.0	10.0	5.0
	発達障害	6	***33.3***	0.0	0.0	16.7	33.3
	精神障害	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	難病（特定疾病）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

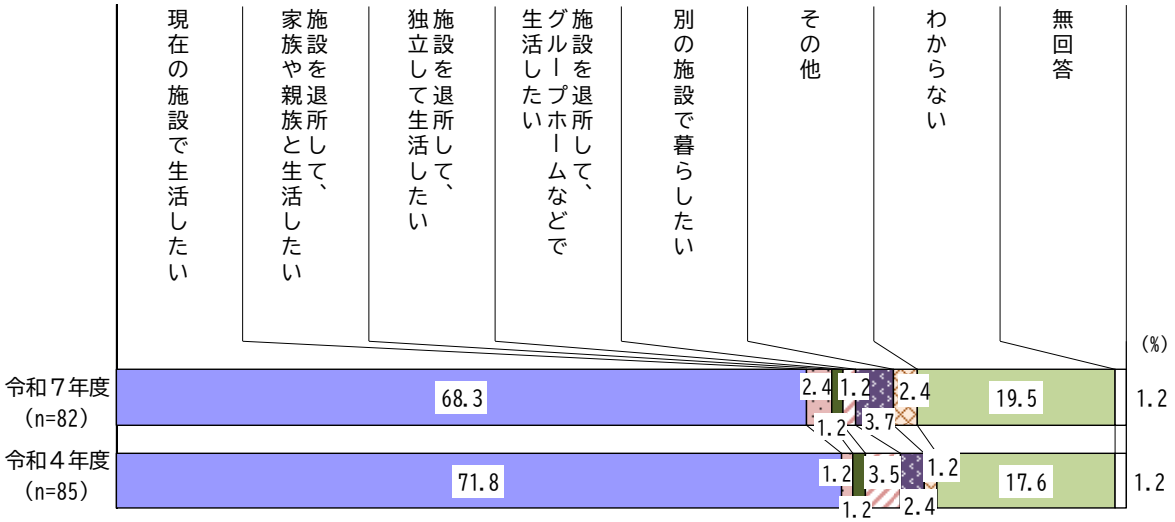
年代別にみると、回答数が 10 件以上の“40 歳以上 65 歳未満”では、「障害等が重く、活動が困難である」が 53.8%と５割を超えて最も高く、次いで「参加できるような活動が少ない」が 38.5%、「電車やバス等での移動が困難である」、「電車やバス等での移動が困難である」、「障害に対する理解や配慮が足りない」がそれぞれ 15.4%と続いています。

障害別にみると、回答数が 10 件以上の“知的障害”では、「障害等が重く、活動が困難である」が 50.0%と５割に達し最も高く、次いで「参加できるような活動が少ない」が 40.0%、「興味を感じる活動が少ない」が 25.0%と続いています。

5　今後の暮らし方について

（1）今後希望する生活

問 20　あなたは今後、どのような生活を希望しますか。（○はひとつ）

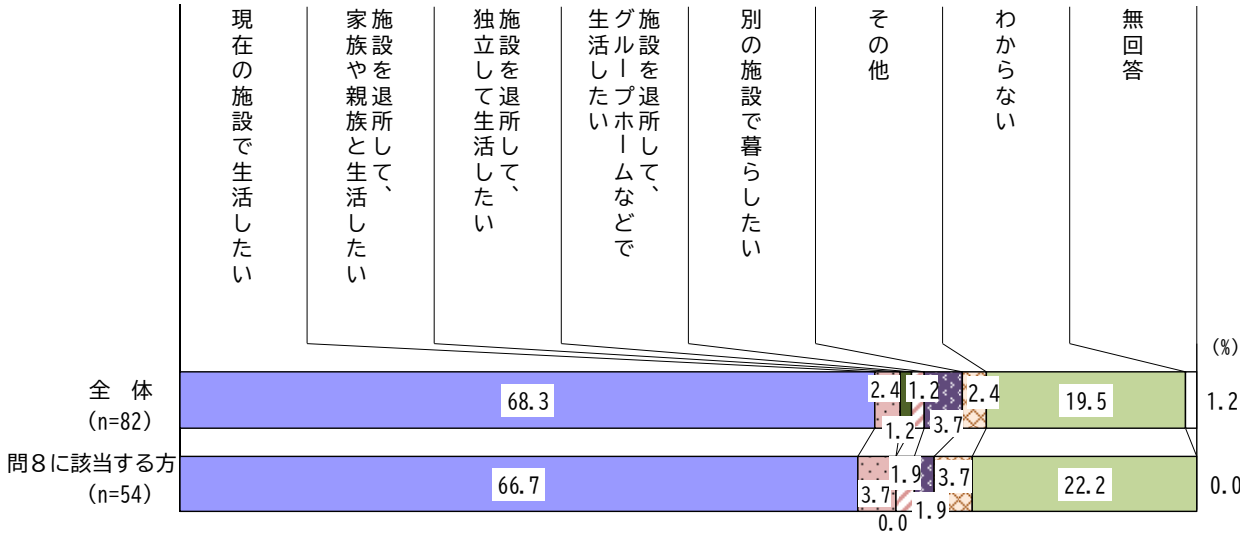


今後希望する生活は、「現在の施設で生活したい」が 68.3%と６割半ばを超えて最も高く、次いで「別の施設で暮らしたい」が 3.7%、「施設を退所して、家族や親族と生活したい」が 2.4%と続いています。

一方、「わからない」は 19.5%と２割近くを占めています。

令和４年度と比較すると、「現在の施設で生活したい」が 3.5 ポイント、「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」が 2.3 ポイント下がっています。

【全体と問８に該当する方との比較】



問８に該当する方と全体を比較すると、項目ごとに高低はありますが、全体とあまり差はありません。

【クロス集計】年代別・地域別・入所年数別

（単位:%）		n	現在の施設で生活したい	施設を退所して、家族や親族と生活したい	施設を退所して、独立して生活したい	施設を退所して、グループホームなどで生活したい	別の施設で暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体		82	***68.3***	2.4	1.2	1.2	3.7	2.4	19.5	1.2
年代別	18歳以上40歳未満	12	***66.7***	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	25.0	0.0
	40歳以上65歳未満	44	***59.1***	4.5	2.3	0.0	6.8	2.3	22.7	2.3
	65歳以上75歳未満	9	***77.8***	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0
	75歳以上	14	***85.7***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
地域別	文京区内	24	***79.2***	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	12.5	4.2
	23区内（文京区を除く）	9	***66.7***	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	***50.0***	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	***60.9***	4.3	0.0	0.0	0.0	8.7	26.1	0.0
	関東以外	16	***75.0***	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0
入所年数別	１年未満	3	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	１年以上～３年未満	5	***40.0***	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	３年以上～５年未満	5	***40.0***	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0
	５年以上～10年未満	11	***45.5***	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	27.3	9.1
	10年以上～20年未満	23	***82.6***	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	13.0	0.0
	20年以上～30年未満	6	***50.0***	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0
	30年以上	28	***75.0***	3.6	0.0	0.0	0.0	3.6	17.9	0.0

年代別にみると、いずれの年代でも「現在の施設で生活したい」が最も高く、特に“75 歳以上”で８割半ばに達しています。

“18 歳以上 40 歳未満”では「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」が 8.3%と、他の年代より高くなっています。

地域別にみると、いずれの地域でも「現在の施設で生活したい」が最も高く、特に“文京区内”と“関東以外”では７割半ば以上と高くなっています。

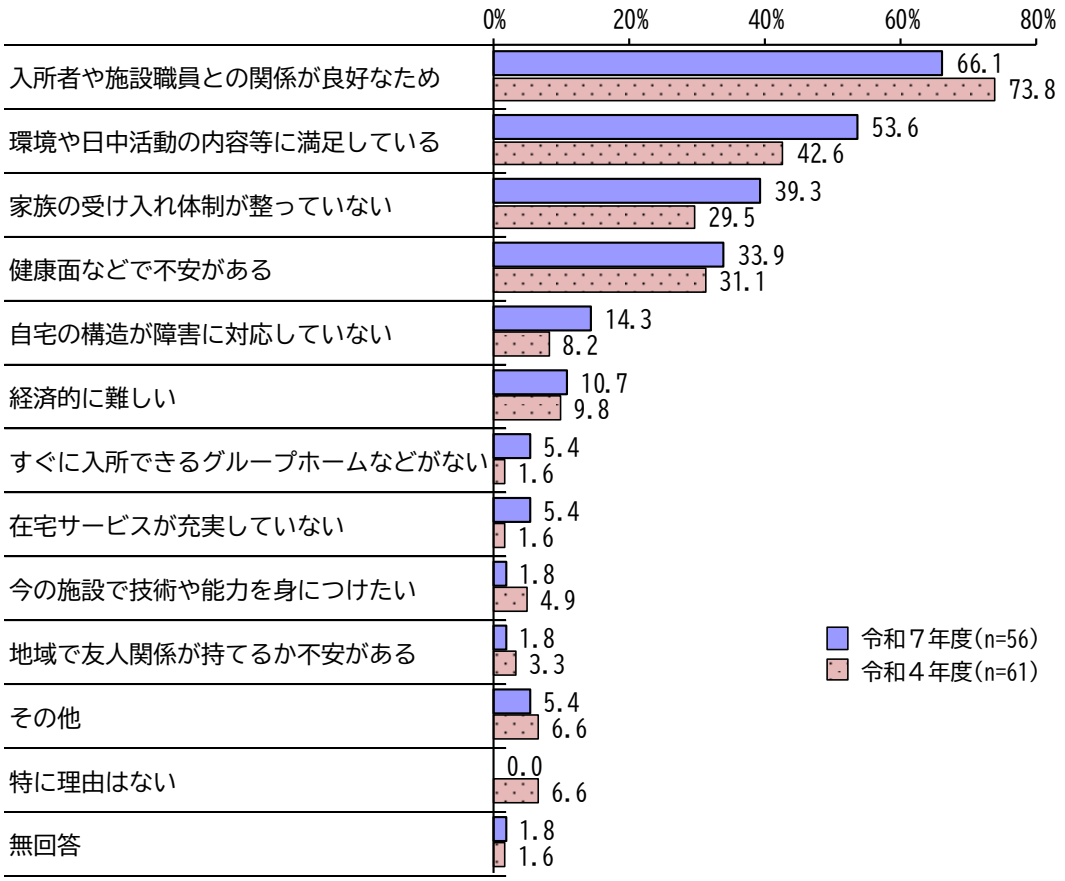
“東京都（23 区内を除く）”では、「別の施設で暮らしたい」が２割を占めて、他の地域より高くなっています。

入所年数別にみると、回答数が 10 件以上のいずれの入所年数でも「現在の施設で生活したい」が最も高くなっています。

“５年以上～10 年未満”では、「施設を退所して、独立して生活したい」と「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」がともに 9.1%となっています。

（２）現在の施設で生活し続けたい理由

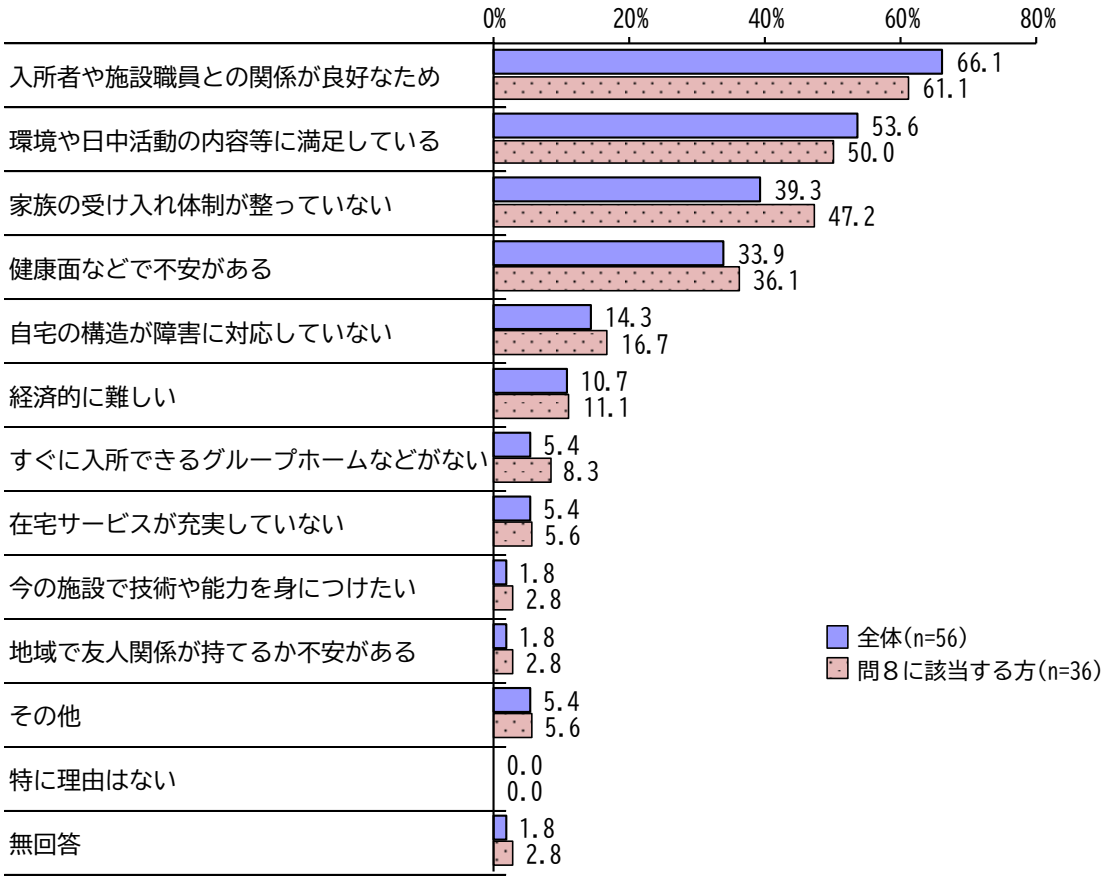
問 20 で「現在の施設で生活したい」と回答された方にお聞きします。
問 20-1　現在の施設での生活を続けたい理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



現在の施設で生活し続けたい理由は、「入所者や施設職員との関係が良好なため」が 66.1%と６割半ばを超えて最も高く、次いで「環境や日中活動の内容等に満足している」が 53.6%、「家族の受け入れ体制が整っていない」が 39.3%、「健康面などで不安がある」が 33.9%と続いています。

令和４年度と比較すると、「環境や日中活動の内容等に満足している」が 11.0 ポイント、「家族の受け入れ体制が整っていない」が 9.8 ポイント、「自宅の構造が障害に対応していない」が 6.1 ポイントと５ポイント以上上がっており、反対に「入所者や施設職員との関係が良好なため」が 7.7 ポイント下がっています。

【全体と問８に該当する方との比較】



問８に該当する方と全体を比較すると、現在の施設で生活し続けたい理由は、「その他」と「特に理由はない」を除く 10 項目中８項目で全体を下回っており、特に「家族の受け入れ体制が整っていない」が 7.9 ポイント全体の割合を下回っています。

反対に、「入所者や施設職員との関係が良好なため」が 5.0 ポイント全体の割合を上回っています。

【クロス集計】地域別・入所年数別

（単位:%）		n	入所者や施設職員との関係が良好なため	環境や日中活動の内容等に満足している	今の施設で技術や能力を身につけたい	すぐに入所できるグループホームなどがない	在宅サービスが充実していない	自宅の構造が障害に対応していない	健康面などで不安がある
全体		56	***66.1***	53.6	1.8	5.4	5.4	14.3	33.9
地域別	文京区内	19	52.6	***63.2***	5.3	10.5	15.8	26.3	15.8
	23区内（文京区を除く）	6	***100.0***	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7
	東京都内（23区内を除く）	5	***60.0***	***60.0***	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
	関東（東京都を除く）	14	***78.6***	64.3	0.0	0.0	0.0	7.1	50.0
	関東以外	12	***58.3***	25.0	0.0	0.0	0.0	8.3	***58.3***
入所年数別	１年未満	3	***66.7***	***66.7***	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	１年以上～３年未満	2	***50.0***	***50.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	３年以上～５年未満	2	***50.0***	***50.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	***50.0***
	５年以上～10年未満	5	***80.0***	60.0	0.0	0.0	20.0	60.0	40.0
	10年以上～20年未満	19	63.2	***73.7***	5.3	10.5	10.5	15.8	26.3
	20年以上～30年未満	3	***33.3***	***33.3***	0.0	0.0	0.0	0.0	***33.3***
	30年以上	21	***71.4***	38.1	0.0	4.8	0.0	9.5	42.9

（単位:%）		n	経済的に難しい	家族の受け入れ体制が整っていない	地域で友人関係が持てるか不安がある	その他	特に理由はない	無回答
全体		56	10.7	39.3	1.8	5.4	0.0	1.8
地域別	文京区内	19	10.5	52.6	0.0	15.8	0.0	5.3
	23区内（文京区を除く）	6	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	東京都内（23区内を除く）	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	関東（東京都を除く）	14	14.3	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0
	関東以外	12	16.7	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0
入所年数別	１年未満	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	１年以上～３年未満	2	0.0	***50.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	３年以上～５年未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	５年以上～10年未満	5	20.0	***80.0***	0.0	20.0	0.0	0.0
	10年以上～20年未満	19	5.3	47.4	5.3	10.5	0.0	5.3
	20年以上～30年未満	3	0.0	***33.3***	0.0	0.0	0.0	0.0
	30年以上	21	19.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

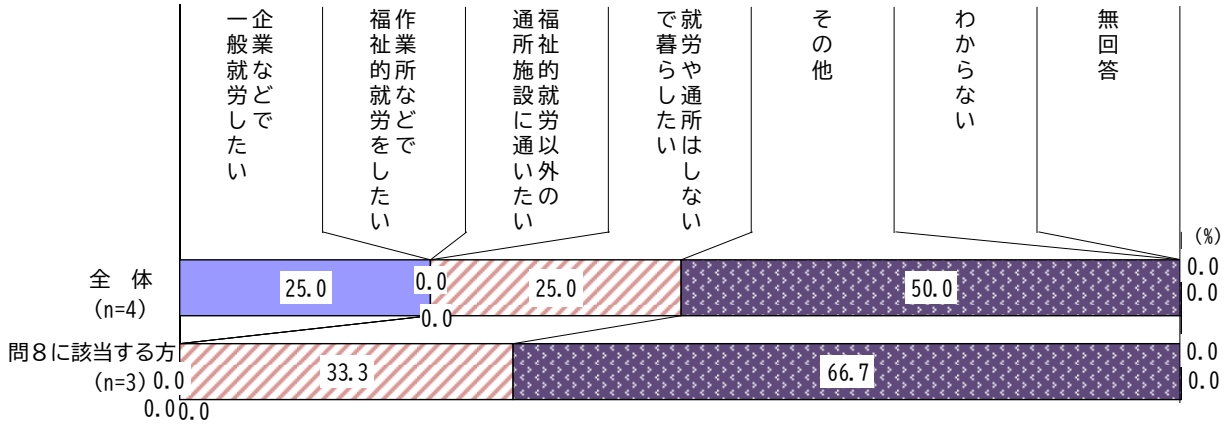
地域別にみると、回答数が 10 件以上の“文京区内”、“関東（東京都を除く）”、“関東以外”ではいずれも、「入所者や施設職員との関係が良好なため」が５割を超えて高く、特に“関東（東京都を除く）”では７割半ばを超えて、他の地域より高くなっています。

また“文京区内”と“関東（東京都を除く）”では、「環境や日中活動の内容等に満足している」が６割を超えて高くなっています。

入所年数別にみると、回答数が 10 件以上の“10 年以上～20 年未満”では「環境や日中活動の内容等に満足している」が、“30 年以上”では「入所者や施設職員との関係が良好なため」がそれぞれ７割を超えて、最も高くなっています。

（３）施設退所後の暮らし方の希望

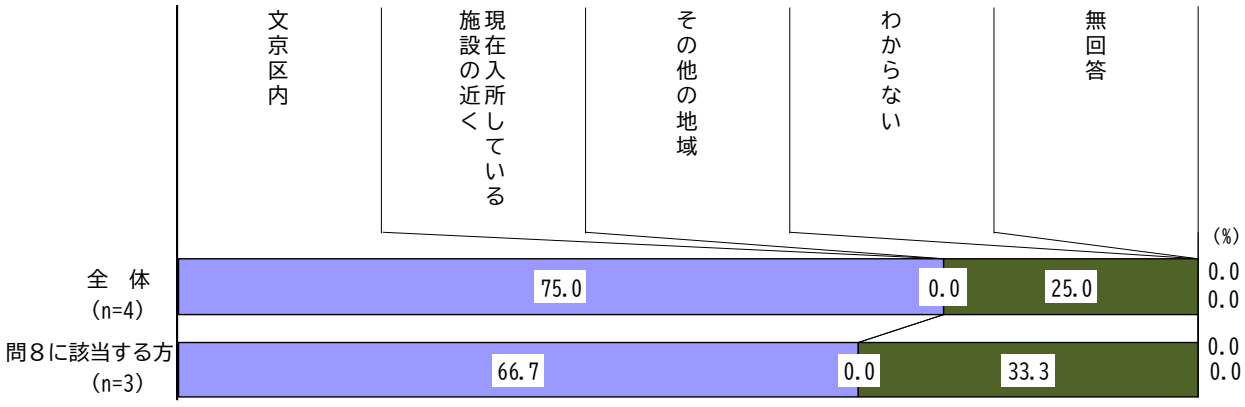
問 20 で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。
問 20-2　地域でどのような暮らし方をしたいと思いますか。（○はひとつ）



施設退所後、地域での暮らし方の希望については、回答数が 10 未満となっているので、グラフのみを掲載します。

（４）施設退所後の居住地の希望

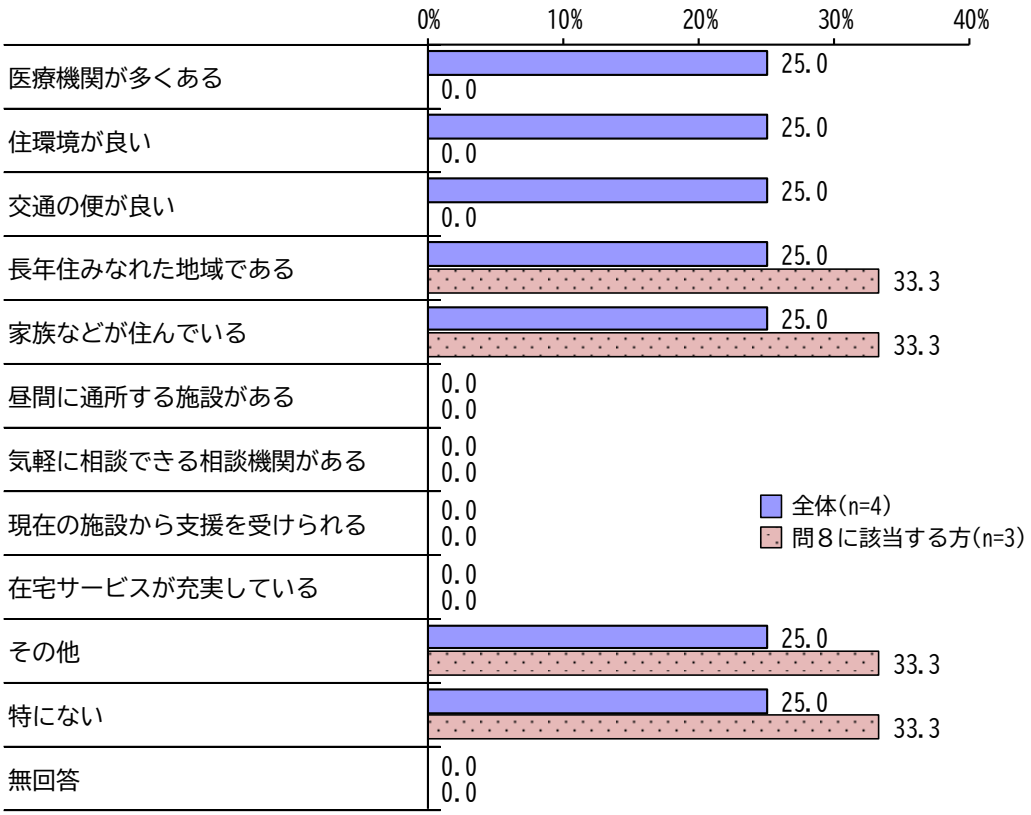
問 20 で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。
問 20-3　退所後はどの地域で暮らしたいと思いますか。（○はひとつ）



施設退所後の居住地の希望については、回答数が 10 未満となっているので、グラフのみを掲載します。

（５）施設退所後に地域に望むこと

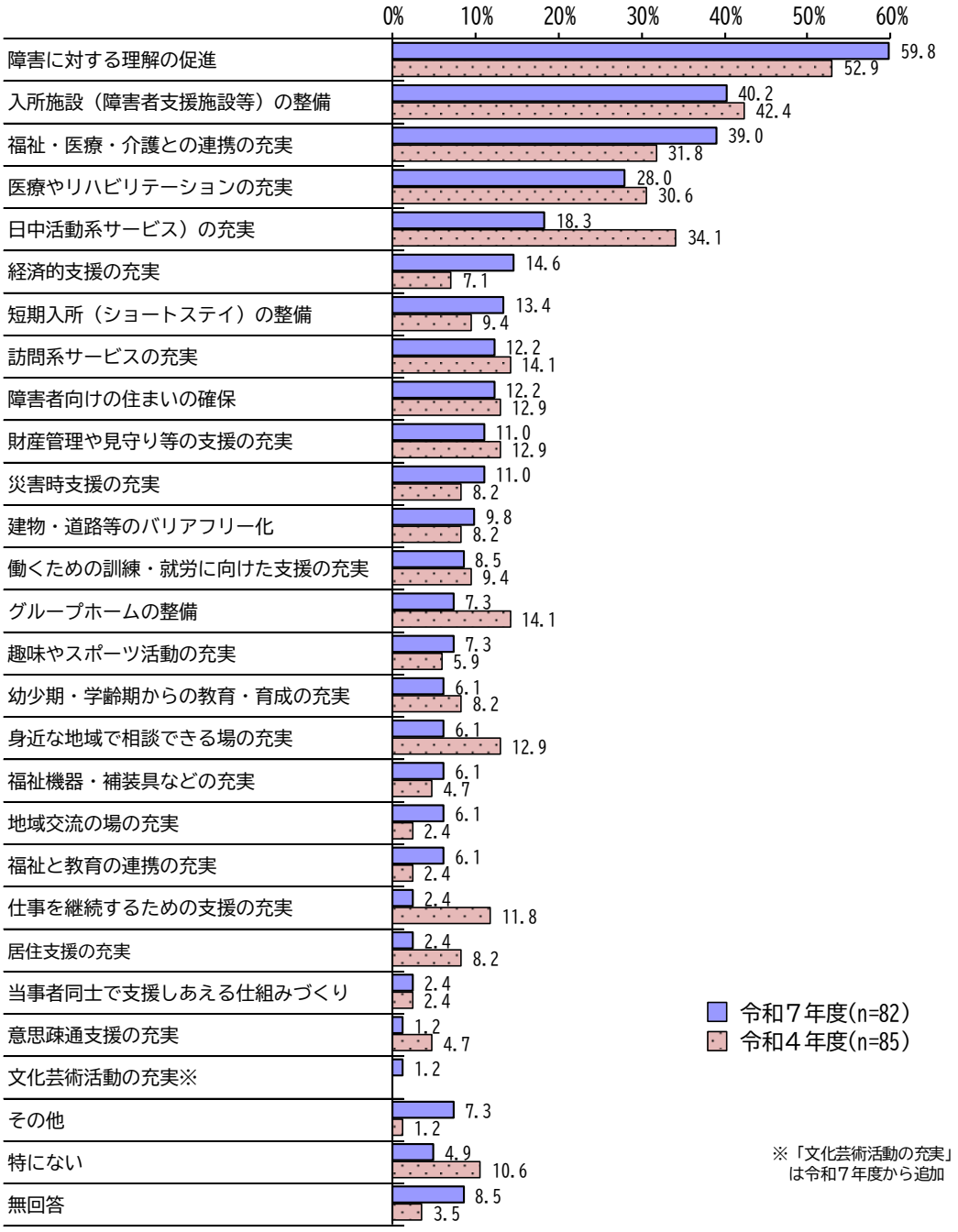
問 20 で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。
問 20-4　退所後に暮らす地域にのぞむことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）



施設退所後、回答数が 10 未満となっているので、グラフのみを掲載します。

（６）地域で安心して暮らすために重要な施策

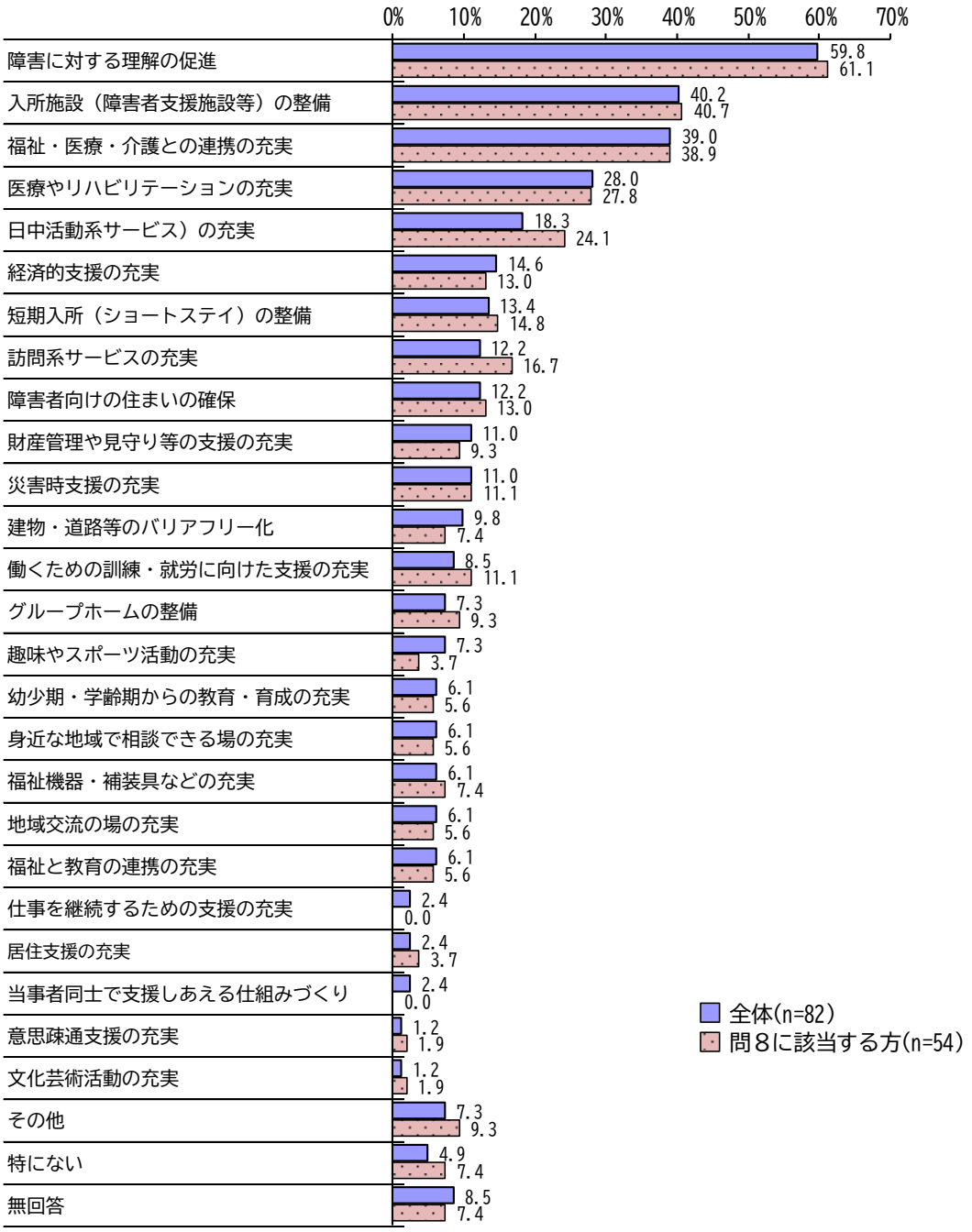
問 21　障害者が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。
（○は５つまで）



地域で安心して暮らすために重要な施策は、「障害に対する理解の促進」が 59.8％と約６割で最も高く、次いで「入所施設（障害者支援施設等）の整備」が 40.2％、「福祉・医療・介護との連携の充実」が 39.0％、「医療やリハビリテーションの充実」が 28.0 と続いています。

令和４年度と比較すると、「経済的支援の充実」が 7.5 ポイント、「障害に対する理解の促進」が 6.9 ポイント上がっており、反対に、「日中活動系サービスの充実」が 15.8 ポイント、「仕事を継続するための支援の充実」が 9.4 ポイント、「グループホームの整備」と「身近な地域で相談できる場の充実」がともに 6.8 ポイント、「居住支援の充実」が 5.8 ポイント下がっています。

【全体と問８に該当する方との比較】



問８に該当する方と全体を比較すると、地域で安心して暮らすために重要な施策は、「日中活動系サービス（生活介護・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援等）の充実」が5.8ポイント、「訪問系サービス（居宅介護・重度訪問介護・同行援護等）の充実」が 4.5 ポイントと全体の割合を上回っていますが、全体的な傾向にあまり差はありません。

【クロス集計】地域別

（単位:%）		n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実
全体		82	***59.8***	28.0	6.1	8.5	2.4	6.1	12.2
地域別	文京区内	24	***83.3***	29.2	12.5	4.2	0.0	4.2	25.0
	23区内（文京区を除く）	9	***44.4***	33.3	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	30.0	10.0	0.0	20.0	0.0	10.0	20.0
	関東（東京都を除く）	23	43.5	30.4	4.3	8.7	4.3	4.3	8.7
	関東以外	16	***75.0***	31.3	6.3	6.3	6.3	12.5	0.0

（単位:%）		n	日中活動系サービスの充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設（障害者支援施設等）の整備	障害者向けの住まいの確保
全体		82	18.3	13.4	1.2	6.1	7.3	40.2	12.2
地域別	文京区内	24	37.5	20.8	4.2	4.2	4.2	62.5	12.5
	23区内（文京区を除く）	9	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0	33.3	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	20.0	10.0	0.0	10.0	10.0	***40.0***	20.0
	関東（東京都を除く）	23	4.3	13.0	0.0	4.3	8.7	26.1	8.7
	関東以外	16	12.5	6.3	0.0	0.0	12.5	31.3	18.8

（単位:%）		n	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	文化芸術活動の充実	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実
全体		82	2.4	9.8	2.4	1.2	7.3	11.0	14.6
地域別	文京区内	24	4.2	4.2	0.0	0.0	4.2	20.8	20.8
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	20.0	20.0
	関東（東京都を除く）	23	0.0	4.3	4.3	4.3	13.0	8.7	13.0
	関東以外	16	0.0	18.8	0.0	0.0	6.3	0.0	12.5

（単位:%）		n	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	その他	特にない	無回答
全体		82	11.0	6.1	39.0	6.1	7.3	4.9	8.5
地域別	文京区内	24	12.5	8.3	33.3	4.2	4.2	0.0	8.3
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	11.1	33.3	11.1	0.0	0.0	22.2
	東京都内（23区内を除く）	10	10.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0
	関東（東京都を除く）	23	8.7	4.3	***60.9***	8.7	4.3	8.7	4.3
	関東以外	16	18.8	6.3	31.3	6.3	12.5	12.5	0.0

地域別にみると、いずれの地域でも「障害に対する理解の促進」が３割以上で高く、特に“文京区内”と“関東以外”では７割半ば以上で最も高くなっています。

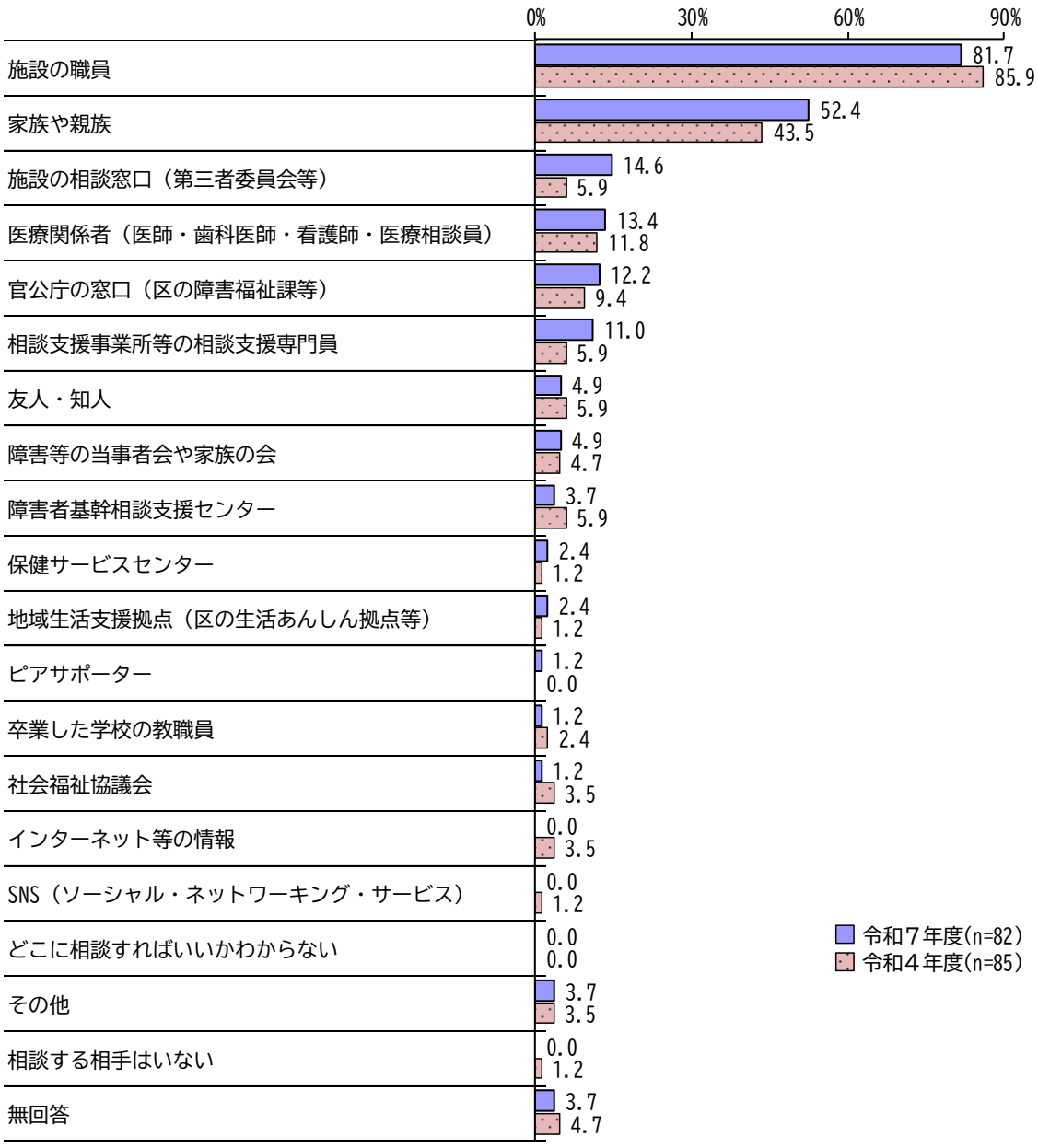
また、「福祉・医療・介護との連携の充実」はいずれの地域でも２割以上となっており、特に“関東（東京都を除く）”では６割に達し最も高くなっています。

また、“文京区内”では、「入所施設（障害者支援施設等）の整備」が６割を超えて、他の地域より高くなっています。

６　相談や福祉の情報について

（１）困ったときの相談相手

問 22　あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）



困ったときの相談相手は、「施設の職員」が 81.7％と８割を超えて最も高く、次いで「家族や親族」が 52.4％、「施設の相談窓口（第三者委員会等）」が 14.6％、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が 13.4％と続いています。

令和４年度と比較すると、「家族や親族」が 8.9 ポイント、「施設の相談窓口（第三者委員会等）」が 8.7 ポイント、「相談支援事業所等の相談支援専門員」が 5.1 ポイントと５ポイント以上上がっており、反対に「施設の職員」が 4.2 ポイント下がっています。

【クロス集計】地域別・入所年数

（単位:%）		n	家族や親族	施設の職員	施設の相談窓口(第三者委員会等)	友人・知人	ピアサポーター	卒業した学校の教職員	障害等の当事者会や家族の会
全体		82	52.4	***81.7***	14.6	4.9	1.2	1.2	4.9
地域別	文京区内	24	***79.2***	***79.2***	8.3	8.3	4.2	4.2	16.7
	23区内（文京区を除く）	9	55.6	***66.7***	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	40.0	***70.0***	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	43.5	***91.3***	13.0	4.3	0.0	0.0	0.0
	関東以外	16	31.3	***87.5***	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0
入所年数別	１年未満	3	***100.0***	***100.0***	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	１年以上～３年未満	5	***100.0***	***100.0***	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	３年以上～５年未満	5	***40.0***	***40.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	５年以上～10年未満	11	***81.8***	72.7	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1
	10年以上～20年未満	23	52.2	***78.3***	17.4	4.3	4.3	4.3	13.0
	20年以上～30年未満	6	0.0	***100.0***	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	30年以上	28	42.9	***85.7***	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者(医師・歯科医師・看護師・医療相談員)	官公庁の窓口(区の障害福祉課等)	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	地域生活支援拠点(区の生活あんしん拠点等)	社会福祉協議会
全体		82	11.0	13.4	12.2	2.4	3.7	2.4	1.2
地域別	文京区内	24	4.2	20.8	25.0	8.3	12.5	4.2	4.2
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	関東（東京都を除く）	23	17.4	17.4	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	関東以外	16	25.0	6.3	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0
入所年数別	１年未満	3	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0
	１年以上～３年未満	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	３年以上～５年未満	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	５年以上～10年未満	11	0.0	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
	10年以上～20年未満	23	17.4	26.1	26.1	4.3	13.0	4.3	0.0
	20年以上～30年未満	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30年以上	28	14.3	3.6	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	インターネット等の情報	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	どこに相談すればいいかわからない	その他	相談する相手はいない	無回答
全体		82	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	3.7
地域別	文京区内	24	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0
	23区内（文京区を除く）	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	東京都内（23区内を除く）	10	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0
	関東（東京都を除く）	23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7
	関東以外	16	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0
入所年数別	１年未満	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	１年以上～３年未満	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	３年以上～５年未満	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	５年以上～10年未満	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
	10年以上～20年未満	23	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0
	20年以上～30年未満	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30年以上	28	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0

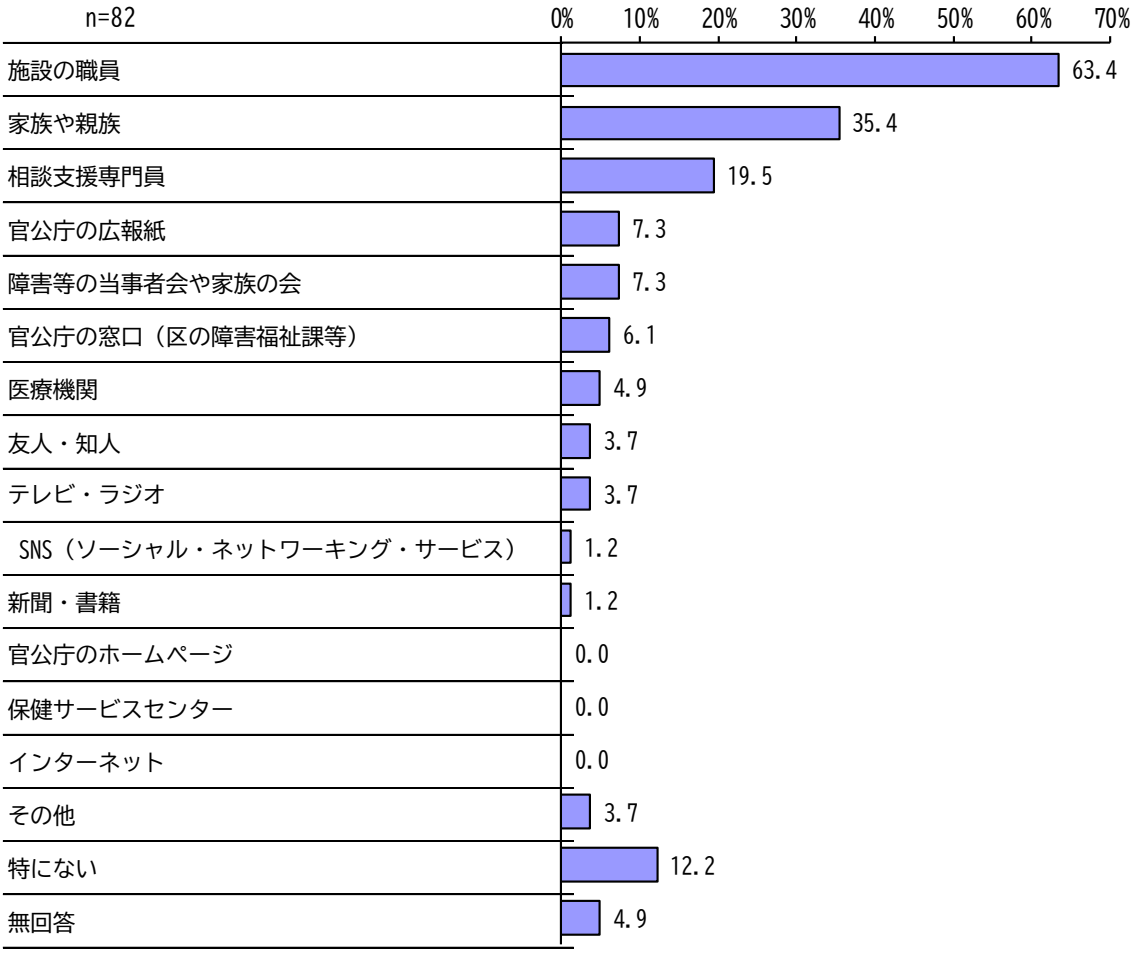
地域別にみると、回答数が10件以上のいずれの地域でも「施設の職員」が７割以上で最も高くなっています。

“文京区内”では「家族や親族」が79.2%と８割近くで、他の地域より高くなっています。

入所年数別にみると、回答件数が 10 件以上の“５年以上～10 年未満”では「家族や親族」が“10年以上～20年未満”と“30年以上”では「施設の職員」が７割半ばを超えて最も高くなっています。

（２）福祉情報の入手先

問 23　あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）



福祉情報の入手先は、「施設の職員」が 63.4％と６割を超えて最も高く、次いで「家族や親族」が 35.4％、「相談支援専門員」が 19.5％と続いており、それ以外の項目は１割を切っています。

一方、「特にない」は 12.2％と１割を超えています。

【クロス集計】年代別

（単位:%）		n	家族や親族	相談支援専門員	友人・知人	官公庁の広報紙	官公庁のホームページ	官公庁の窓口（区の障害福祉課等）	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ	インターネット
全体		82	35.4	19.5	3.7	7.3	0.0	6.1	0.0	3.7	0.0
年代別	18歳以上40歳未満	12	***50.0***	25.0	8.3	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0
	40歳以上65歳未満	44	40.9	20.5	4.5	9.1	0.0	6.8	0.0	2.3	0.0
	65歳以上75歳未満	9	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
	75歳以上	14	28.6	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0

（単位:%）		n	SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）	新聞・書籍	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	施設の職員	その他	特にない	無回答
全体		82	1.2	1.2	7.3	4.9	***63.4***	3.7	12.2	4.9
年代別	18歳以上40歳未満	12	0.0	0.0	8.3	0.0	***50.0***	0.0	0.0	16.7
	40歳以上65歳未満	44	2.3	0.0	11.4	6.8	***61.4***	4.5	11.4	4.5
	65歳以上75歳未満	9	0.0	0.0	0.0	11.1	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	75歳以上	14	0.0	7.1	0.0	0.0	***64.3***	0.0	28.6	0.0

年代別にみると、いずれの障害でも「施設の職員」が５割以上で最も高くなっています。

また、“18 歳以上 40 歳未満”では「家族や親族」も５割に達し最も高くなっています。

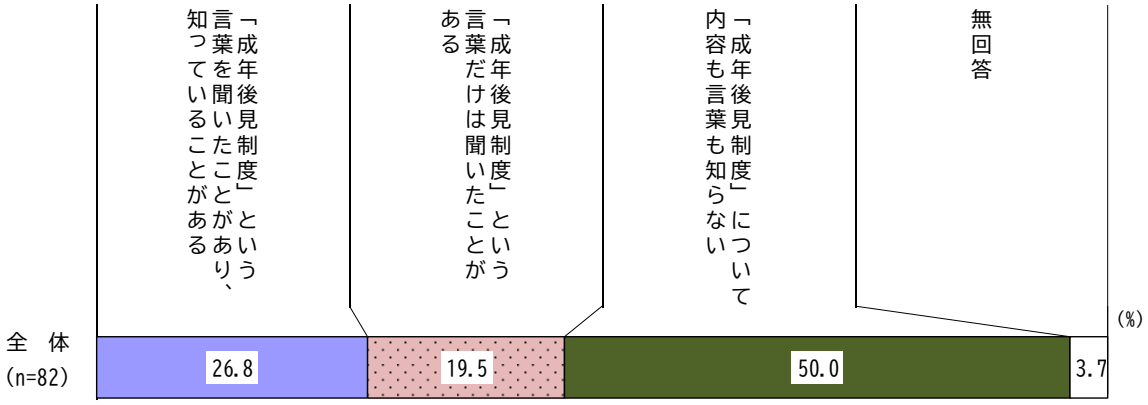
回答数が 10 件以上の年代ではいずれも「相談支援専門員」が２割を超えています。

“18 歳以上 40 歳未満”では「官公庁の広報紙」が、“40 歳以上 65 歳未満”では「障害等の当事者会や家族の会」が、“75 歳以上”では「テレビ・ラジオ」が 1 割を超えて、他の年代より高くなっています。

7　権利擁護・差別解消について

（1）成年後見制度の認知度

問 24　成年後見制度という言葉について聞いたことがありますか。（○はひとつ）



成年後見制度の認知度について、「「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」が 26.8%、「「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある」が 19.5%となっており、二つ合わせた『「成年後見制度」という言葉を聞いたことがある』は 46.3%と４割半ばを超えています。

一方、「「成年後見制度」について内容も言葉も知らない」は５割を占めています。

【クロス集計】年代別

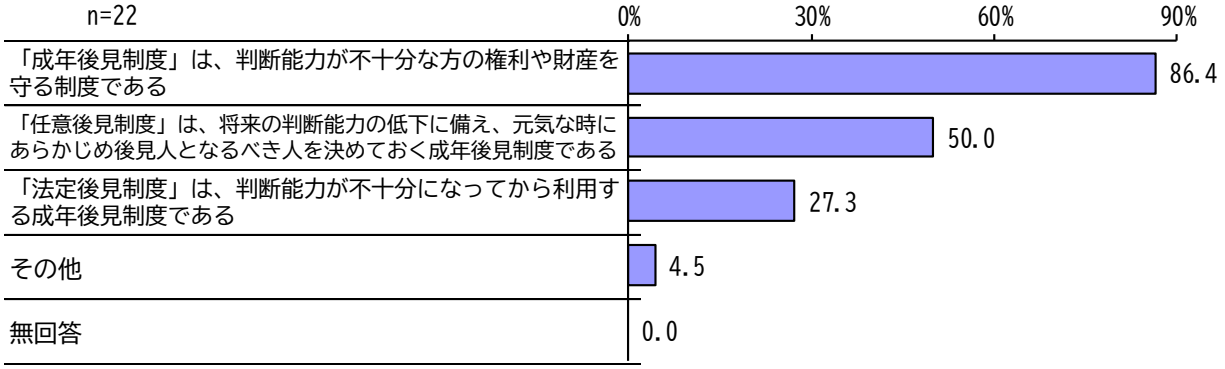
（単位:%）		n	「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある	「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある	「成年後見制度」について内容も言葉も知らない	無回答
全体		82	26.8	19.5	***50.0***	3.7
年代別	18歳以上40歳未満	12	***58.3***	0.0	41.7	0.0
	40歳以上65歳未満	44	25.0	15.9	***54.5***	4.5
	65歳以上75歳未満	9	11.1	33.3	***55.6***	0.0
	75歳以上	14	21.4	***35.7***	***35.7***	7.1

年代別にみると、“18 歳以上 40 歳未満”では、「「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」が 58.3%と５割半ばを超えて最も高くなっています。

“40 歳以上 65 歳未満”と“75 歳以上”では「「成年後見制度」について内容も言葉も知らない」が最も高くなっています。また、“75 歳以上”では「「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある」も３割半ばを超えて最も高くなっています。

（２）成年後見制度について知っていること

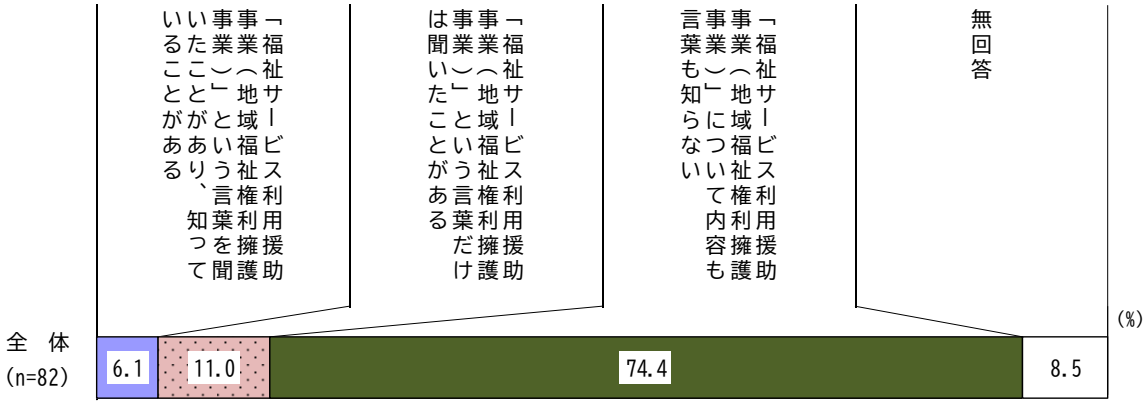
問 24 で「「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。
問 24-1　成年後見制度について知っていることをお答えください。（あてはまるものすべてに○）



成年後見制度について知っていることは、「「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」が 86.4%と８割半ばを超えて最も高く、次いで「「任意後見制度」は、将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく成年後見制度である」が 50.0%、「「法定後見制度」は、判断能力が不十分になってから利用する成年後見制度である」が 27.3%と続いています。

（３）福祉サービス利用援助事業の認知度

問25　福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）という言葉について聞いたことがありますか。（○はひとつ）



福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)の認知度について、「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」が 6.1%、「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけは聞いたことがある」が 11.0%となっており、二つ合わせた『福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)という言葉を聞いたことがある』は 17.1%と１割半ばを超えています。

一方、「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない」は 74.4%と全体のほぼ４分の３を占めています。

【クロス集計】年代別

（単位:%）		n	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけは聞いたことがある	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない	無回答
全体		82	6.1	11.0	***74.4***	8.5
年代別	18歳以上40歳未満	12	8.3	0.0	***91.7***	0.0
	40歳以上65歳未満	44	6.8	15.9	***65.9***	11.4
	65歳以上75歳未満	9	11.1	11.1	***77.8***	0.0
	75歳以上	14	0.0	7.1	***85.7***	7.1

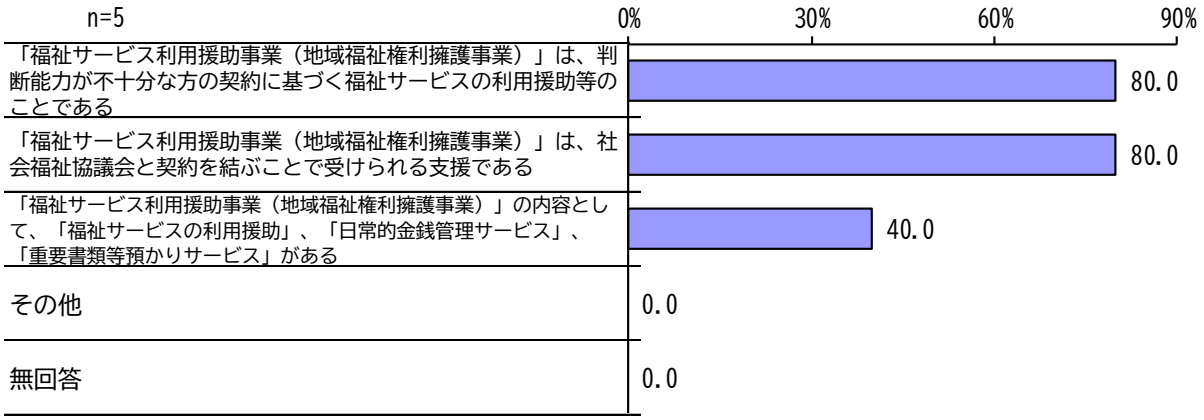
年代別にみると、いずれの年代も「「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない」が６割半ばを超えて最も高くなっています。

“40 歳以上 65 歳未満”では、「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけは聞いたことがある」が１割を超えています。

（４）福祉サービス利用援助事業について知っていること

問 25 で「「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

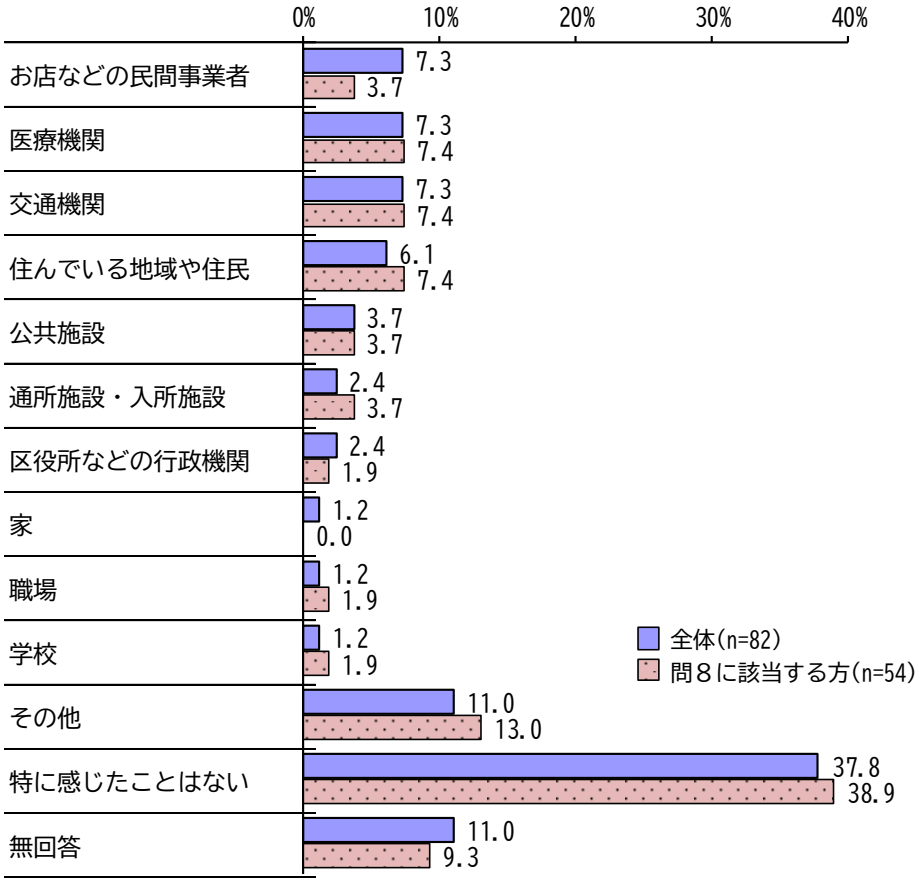
問 25-1　福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)について知っていることをお答えください。(あてはまるものすべてに○)



福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)について知っていることは、「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである」と「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」は、社会福祉協議会と契約を結ぶことで受けられる支援である」がともに 80.0%で８割半ばを占めており、次いで「「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業)」の内容として、「福祉サービスの利用援助」、「日常的金銭管理サービス」、「重要書類等預かりサービス」がある」が 40.0%と続いています。

（５）地域で差別を感じる場面

問26　あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。
（○はひとつ）



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「お店などの民間事業者」、「医療機関」、「交通機関」がそれぞれ 7.3％と最も高く、次いで「住んでいる地域や住民」が 6.1％、「公共施設」が 3.7％と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は 37.8％と３割半ばを超えています。

問８に該当する方と全体を比較すると、「お店などの民間事業者」が 3.6 ポイント低いなど、項目ごとに高低はありますが、全体とあまり差はありません。

（6）地域に求める合理的配慮

問27　あなたが、これまでに文京区内で感じた差別や合理的配慮の不提供についての内容及び、求める対応をお聞かせください。（自由記入）

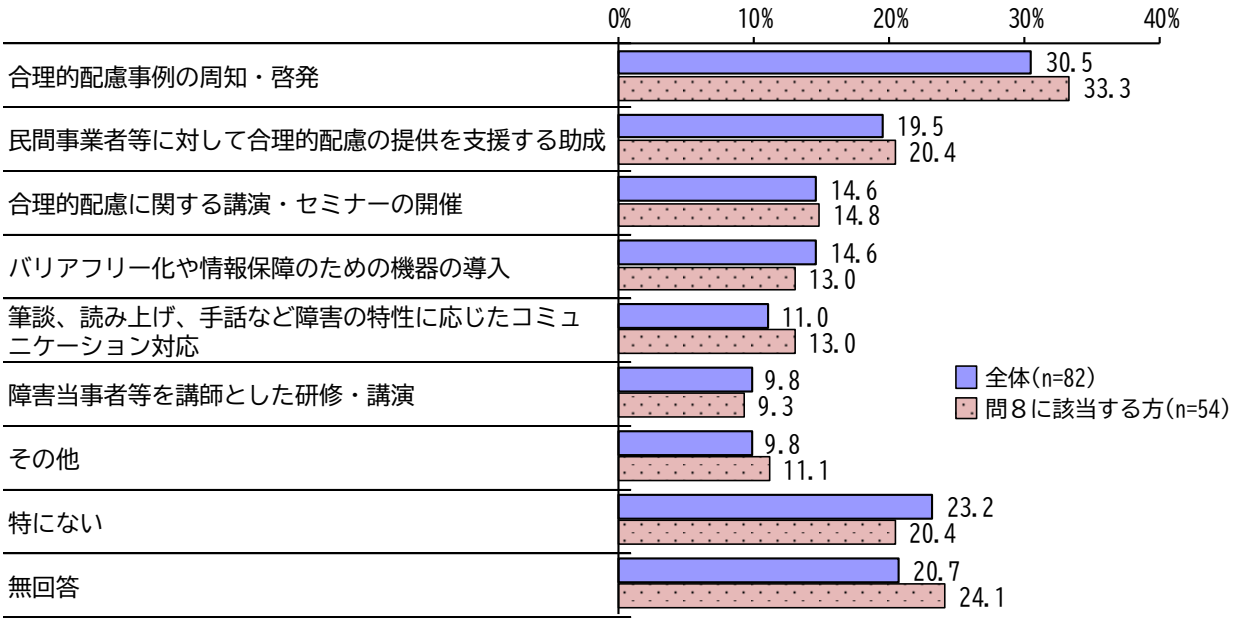
地域に求める合理的配慮についての意見は10件ありました。

主な意見は以下の通りです。

・本人が言葉が話せないので、本人の感じた事は不明ですが、親としては幼稚園も区立の障害枠で入れてもらったり、小学校からは養護学校でしたし、近所にあった福祉会館（動坂）でショートステイや預かりをしてくれたり、困った時（親が）に行政に助けてもらったと思います。
・（マイナンバーカード申請時）字を書く能力がないが書類に名前を記入することを求められる。
・外出がむずかしい生活としているので、マイナンバーカードなど本人を要するシステムが通院等不便です。
・施設の面会時間が午前、午後共に２時間しかなく家族、友人に、たまに会う機会に行き帰りの交通機関も全部含めというと、込み入った話も良く出来なくなるので、せめて、玄関口の閉まる時間まで延長をお願いしたい。個別外出も、年に１回しかないのに、面会時間内に交通機関も含め２時間しかないのは、やはり、ゆっくり気分良く普段出来ない買い物などをしたいと思うので、この２点の問題を含め、検討をお願いしたい。

（7）合理的配慮に必要なこと

問28　社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）



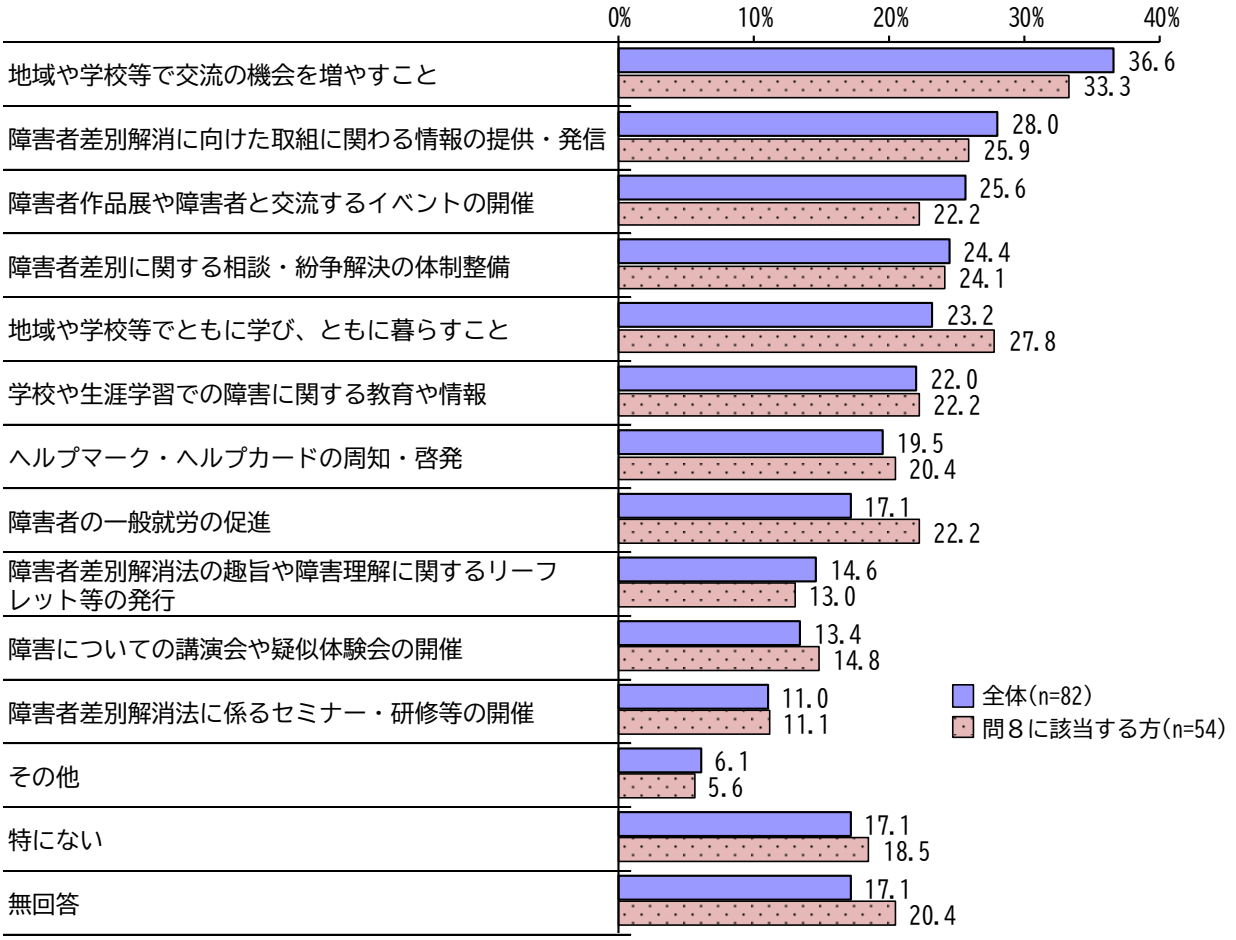
合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 30.5%と３割に達し最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 19.5%、「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」と「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」がともに 14.6%と続いています。

一方、「特にない」は 23.2%と２割を超えています。

問８に該当する方と全体を比較すると、合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が2.8ポイント、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が 2.0 ポイント高いなど、項目ごとに高低はありますが、全体とあまり差はありません。

（８）差別解消に必要なこと

問 29　障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。
（あてはまるものすべてに○）



障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が 36.6%と３割半ばを超えて最も高く、次いで「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が 28.0%、「障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催」が 25.6%、「障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備」が 24.4%と続いています。

一方、「特にない」は 17.1%と１割半ばを超えています。

問８に該当する方と全体を比較すると、障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「障害者の一般就労の促進」が 5.1 ポイント、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が 4.6 ポイント全体を上回っており、反対に「障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催」が 3.4 ポイント、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が 3.3 ポイント全体を下回っています。

8　自由意見

問30　区の障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は14件ありました。「福祉」についての意見が50.0%と最も多くなっています。
主な意見は以下の通りです。

単位（%）

	総数	福祉	アンケート	行政	情報・相談	将来
自由意見	14	50.0	21.4	14.3	7.1	7.1

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1．福祉（7件）
・今のリアン文京にずっと暮らせたらありがたいと思います。もっとリアン文京のような施設を増やすべきだと思います。入所したい障害の子供を持つ家族はたくさんいると思います。
・入所施設が他区なので、親が元気な時は週1回は面会して、困っている事などを聞いたり、衣服の整理、他区への通院（予約）をしていますが、住んでいる文京区であれば病院に連れて行くのも楽なのにと思ってしまいます。

2．アンケート（3件）
・重度重複障害者の為、意見が言えません。介護者や親の意見も子供の代弁者として答えられるアンケートをお願いします（親）

3．行政（2件）
・今後、区内で新規の障害者入所施設の予定、計画と、23区内での同様施設の提携先があれば助かります。

4．情報・相談（1件）
・自分から発信することがままならないと思ってしまうので、自己啓発を助ける施策がほしい。

5．将来（1件）
・親・子で齢をとって行き、能力、体力も落ちる為、施設入所でしっかりサポートして頂きたい。

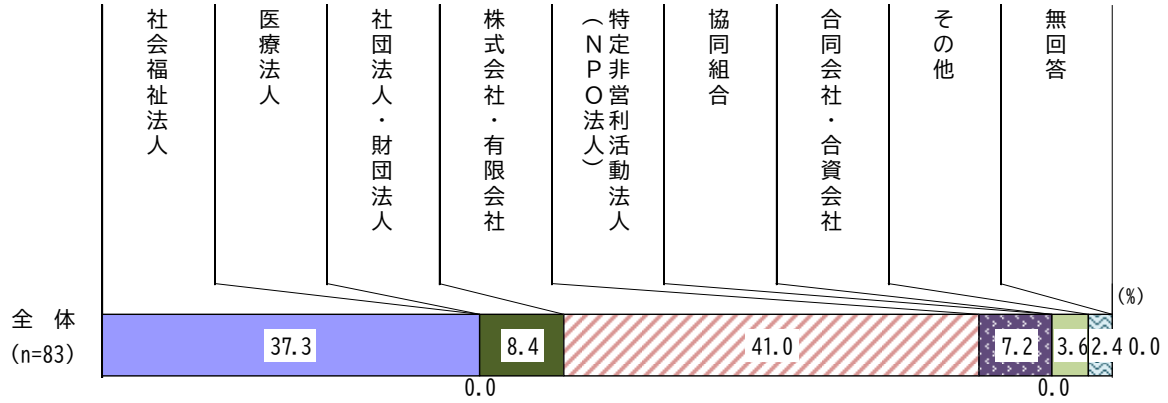
第４章

サービス事業所の方を対象にした調査

1　事業運営について

（1）経営主体

問1　貴事業所の経営主体をお聞きします。（○はひとつ）

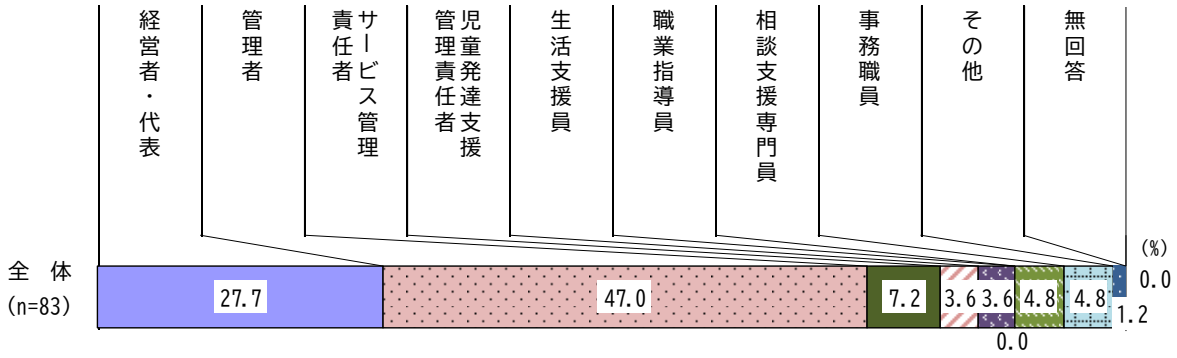


回答事業所の経営主体は、「株式会社・有限会社」が 41.0%と４割を超えて最も高く、次いで「社会福祉法人」が 37.3%、「社団法人・財団法人」が 8.4%、「特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）」が 7.2%、「合同会社・合資会社」が 3.6%、「その他」が 2.4%となっています。

また、「医療法人」と「協同組合」についての回答はありませんでした。

（2）回答者の役職

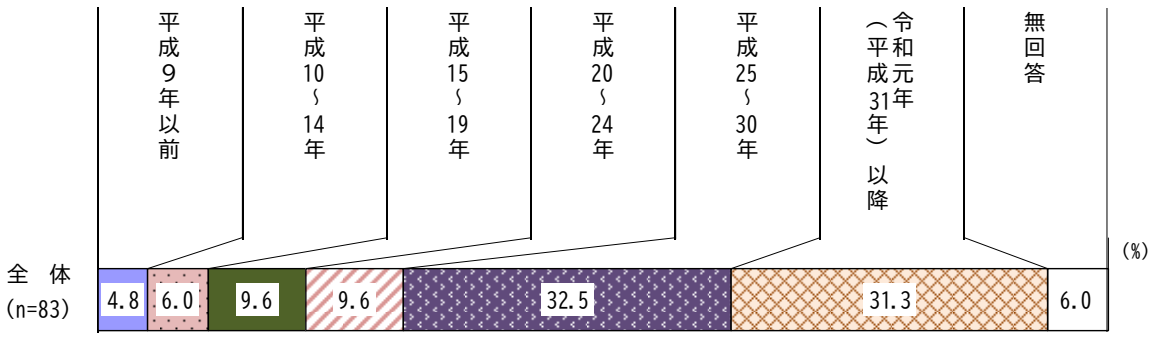
問2　このアンケートに回答される方の役職をお聞きします。（○はひとつ）



回答者の役職は、「管理者」が 47.0%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「経営者・代表」が 27.7%、「サービス管理責任者」が 7.2%と続いています。

（３）開業年

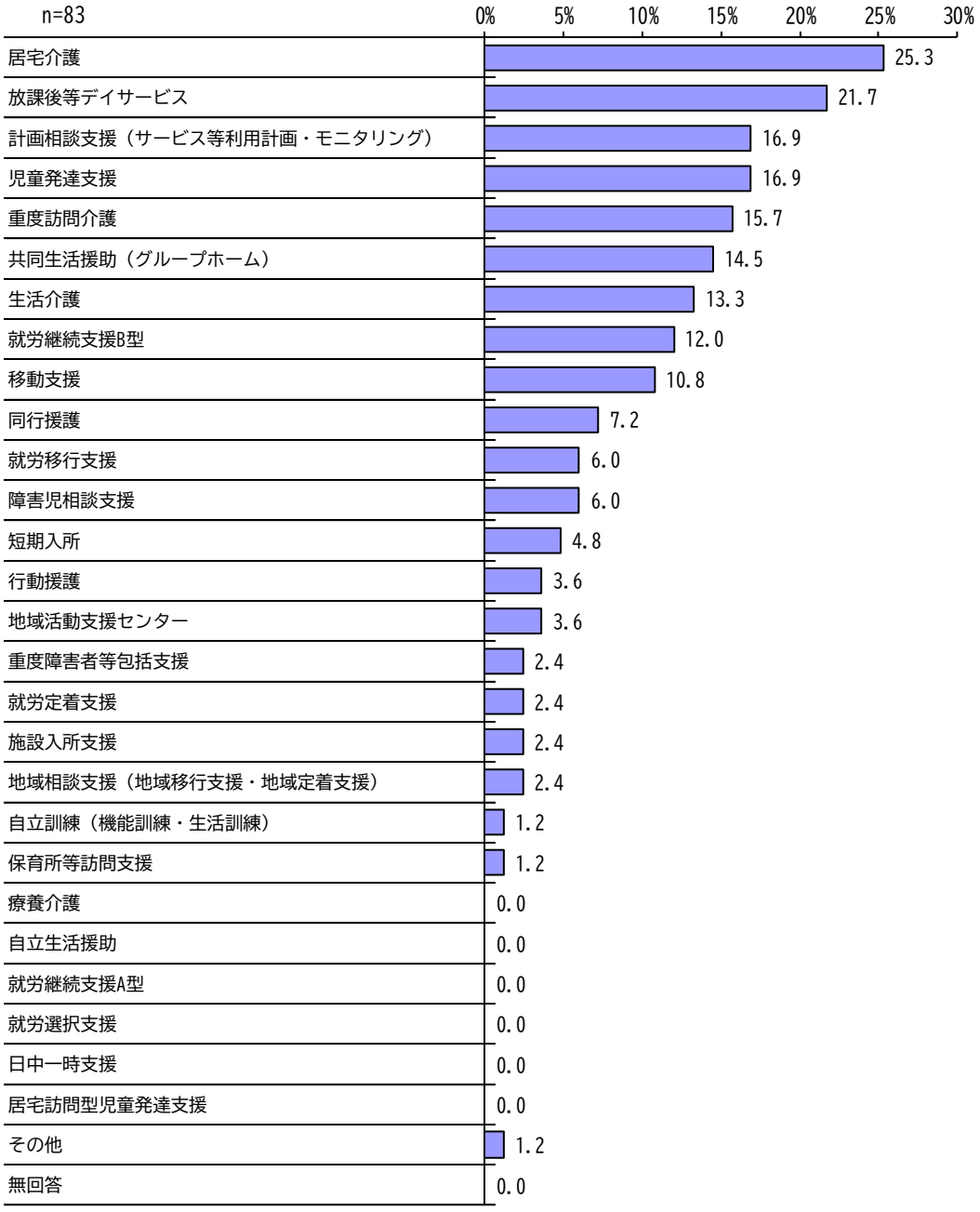
問３　貴事業所の開業年をお聞きします。



開業年は、「平成 25～30 年」が 32.5%、「令和元年（平成 31 年）以降」が 31.3%とそれぞれ３割を超えて高く、次いで「平成 15～19 年」と「平成 20～24 年」がともに 9.6%、「平成 10～14 年」が 6.0%と続いています。

（4）提供しているサービス

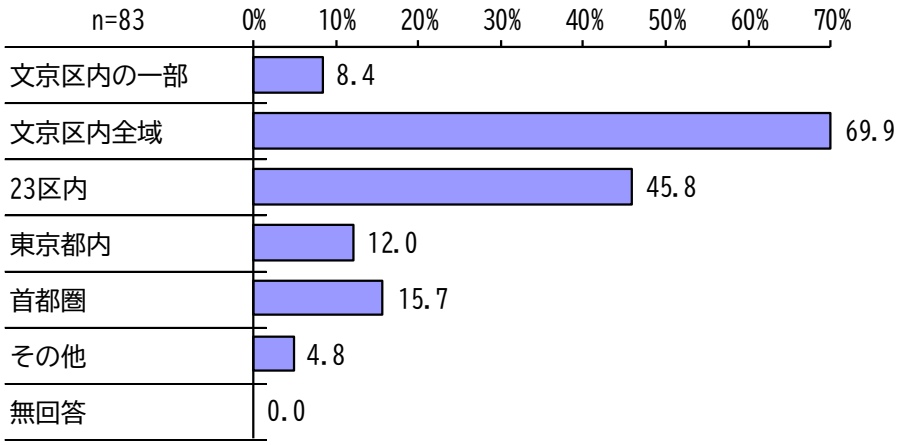
問4　貴事業所で提供している障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービス等をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）



提供しているサービスは、「居宅介護」が 25.3%で最も高く、次いで「放課後等デイサービス」が 21.7%、「計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング)」と「児童発達支援」がともに 16.9%、「重度訪問介護」が 15.7%と続いています。

（５）事業展開エリア

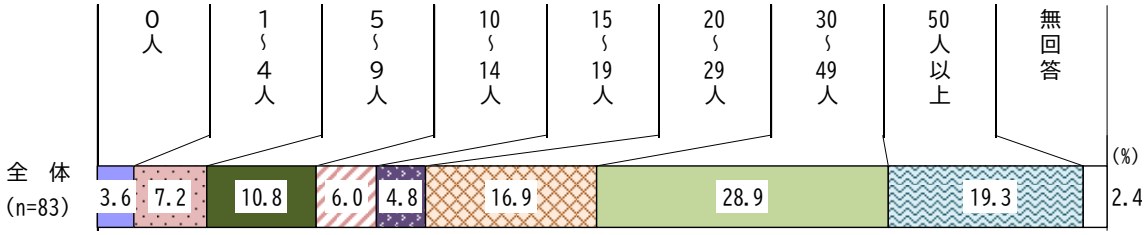
問５　貴事業所が事業を展開しているエリア（サービス利用対象者がお住まいの範囲）をお答えください。（あてはまるものすべてに○）



事業展開エリアは、「文京区内全域」が 69.9％と約７割に達し最も高く、次いで「23 区内」が 45.8％、「首都圏」が 15.7％と続いています。

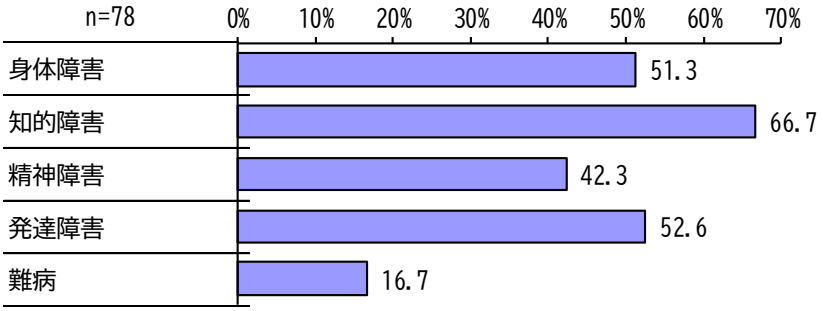
（６）利用者数

問６　貴事業所でサービスを提供している利用者数をお聞きします。
障害別にお答えください。（令和７年 10 月１日時点の人数）
重複障害の方については主たる障害についてご回答ください。



サービス利用人数は、「30～49 人」が 28.9％と２割半ばを超えて最も高く、次いで「50 人以上」が 19.3％、「20～29 人」が 16.9％と続いています。

【サービス利用者の障害の種類】



サービス利用者を 1 人以上回答した 78 事業所で、サービス利用者の障害の種類は、「知的障害」が 66.7％と６割半ばを超えて最も高く、次いで「発達障害」が 52.6％、「身体障害」が 51.3％と続いています。

【クロス集計】障害別・サービス体系別

（単位:%）		n	0人	1～4人	5～9人	10～14人	15～19人	20～29人	30～49人	50人以上	無回答
全体		83	3.6	7.2	10.8	6.0	4.8	16.9	***28.9***	19.3	2.4
障害別	身体障害	40	0.0	10.0	7.5	10.0	5.0	15.0	***27.5***	25.0	0.0
	知的障害	52	0.0	0.0	11.5	5.8	3.8	19.2	***34.6***	25.0	0.0
	精神障害	33	0.0	12.1	12.1	9.1	6.1	12.1	***30.3***	18.2	0.0
	発達障害	41	0.0	2.4	2.4	4.9	7.3	17.1	***39.0***	26.8	0.0
	難病	13	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	15.4	23.1	***53.8***	0.0
サービス体系別	訪問系	21	14.3	***19.0***	14.3	4.8	0.0	14.3	9.5	14.3	9.5
	日中活動系	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	***45.5***	27.3	0.0
	居住系・施設系	14	0.0	14.3	***42.9***	7.1	0.0	7.1	7.1	21.4	0.0
	訓練系・就労系	15	0.0	0.0	0.0	6.7	13.3	26.7	***53.3***	0.0	0.0
	相談系	15	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	13.3	13.3	***60.0***	0.0
	地域生活支援事業	12	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	25.0	***33.3***	16.7
	障害児通所支援等	23	0.0	0.0	4.3	4.3	4.3	21.7	***43.5***	21.7	0.0

障害別にみると、“難病”では「50 人以上」が 53.8%と５割を超えて最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「30～49 人」が最も高くなっています。

サービス体系別にみると、“訪問系”では「１～４人」が、“居住系・施設系”では「５～９人」が最も高くなっています。

“相談系”と“地域生活支援事業”では「50 人以上」が最も高く、特に“相談系”では６割を占めています。

それ以外のサービスではいずれも「30～49 人」が最も高くなっています。

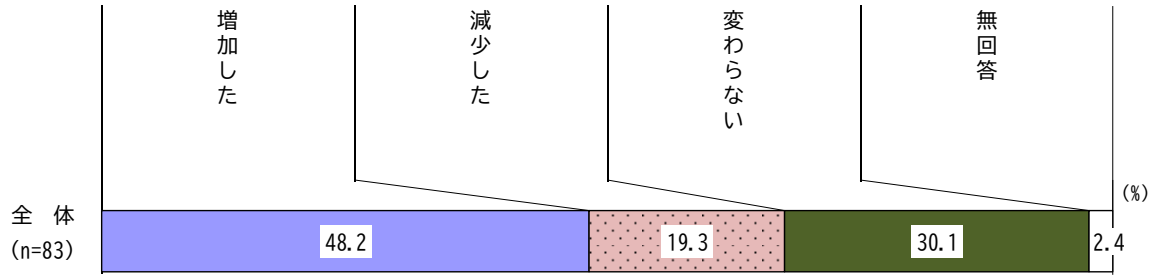
※グラフ・表に示しているサービス体系の内訳は以下の通りです。

「訪問系」	居宅介護事業所、重度訪問介護事業所、同行援護事業所、行動援護事業所、重度障害者等包括支援事業所
「日中活動系」	生活介護事業所、療養介護事業所、短期入所事業所
「居住系・施設系」	共同生活援助事業所、自立生活援助事業所、施設入所支援事業所
「訓練系・就労系」	自立訓練事業所（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援事業所、就労継続支援事業所（A 型、B 型）、就労定着支援事業所、就労選択支援事業所
「相談系」	地域相談支援事業所（地域移行支援・地域定着支援）、計画相談支援事業所、障害児相談支援事業所
「地域生活支援事業」	地域活動支援センター、移動支援事業所、日中一時支援事業所
「障害児通所支援」	児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、居宅訪問型児童発達支援事業所、保育所等訪問支援事業所

（7）収支状況

問７　令和６年度の事業の収支状況は、令和５年度と比べどうでしたか。（○はひとつ）

【収入】



前年度と比較した収入の状況は、「増加した」が 48.2%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「変わらない」が 30.1%、「減少した」が 19.3%と続いています。

増加した割合（%）を回答した 40 事業所の平均増加率は 21.9%でした。

減少した割合（%）を回答した 16 事業所の平均減少率は 32.3%でした。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

	（単位:%）	n	増加した	減少した	変わらない	無回答
	全体	83	***48.2***	19.3	30.1	2.4
経営主体別	社会福祉法人	31	35.5	16.1	***48.4***	0.0
	社団法人・財団法人	7	***57.1***	28.6	14.3	0.0
	株式会社・有限会社	34	***50.0***	26.5	20.6	2.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	***83.3***	0.0	16.7	0.0
	合同会社・合資会社	3	***33.3***	0.0	***33.3***	33.3
	その他	2	***100.0***	0.0	0.0	0.0
サービス体系別	訪問系	21	***42.9***	14.3	38.1	4.8
	日中活動系	11	***45.5***	9.1	***45.5***	0.0
	居住系・施設系	14	28.6	21.4	***50.0***	0.0
	訓練系・就労系	15	***60.0***	13.3	26.7	0.0
	相談系	15	***53.3***	6.7	40.0	0.0
	地域生活支援事業	12	***50.0***	16.7	33.3	0.0
	障害児通所支援等	23	***52.2***	26.1	17.4	4.3

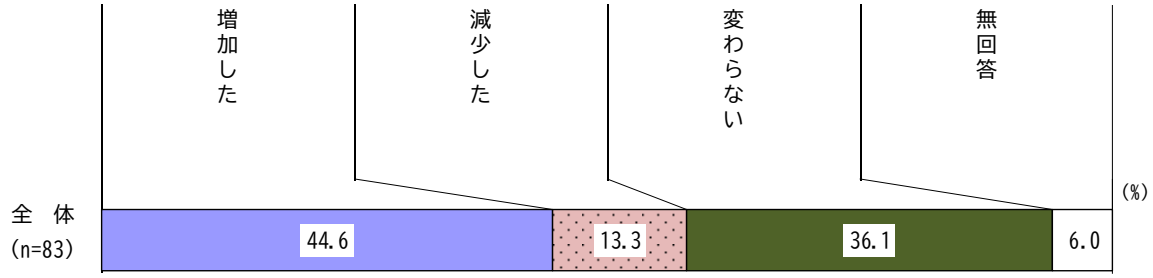
経営主体別にみると、“社会福祉法人”では、「変わらない」が 48.4%と４割半ばを超えて最も高くなっています。

“株式会社・有限会社”では、「増加した」が５割を占めて最も高くなっています。

サービス体系別にみると、“居住系・施設系”を除くいずれのサービスでも「増加した」が４割を超えて最も高くなっています。

“日中活動系”、“居住系・施設系”、“相談系”では、「変わらない」が４割以上で高くなっています。

【支出】



前年度と比較した支出の状況は、「増加した」が 44.6%と４割半ば近くを占めて最も高く、次いで「変わらない」が 36.1%、「減少した」が 13.3%と続いています。

増加した割合（%）を回答した 37 事業所の平均増加率は 19.9%でした。

減少した割合（%）を回答した 11 事業所の平均減少率は 16.3%でした。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

	（単位:%）	n	増加した	減少した	変わらない	無回答
	全体	83	***44.6***	13.3	36.1	6.0
経営主体別	社会福祉法人	31	38.7	12.9	***45.2***	3.2
	社団法人・財団法人	7	***57.1***	0.0	42.9	0.0
	株式会社・有限会社	34	***50.0***	17.6	26.5	5.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	***33.3***	16.7	***33.3***	16.7
	合同会社・合資会社	3	***33.3***	0.0	***33.3***	33.3
	その他	2	***50.0***	0.0	***50.0***	0.0
サービス体系別	訪問系	21	***47.6***	9.5	38.1	4.8
	日中活動系	11	***54.5***	0.0	45.5	0.0
	居住系・施設系	14	28.6	14.3	***42.9***	14.3
	訓練系・就労系	15	***60.0***	20.0	20.0	0.0
	相談系	15	33.3	0.0	***60.0***	6.7
	地域生活支援事業	12	33.3	16.7	***41.7***	8.3
	障害児通所支援等	23	***43.5***	17.4	34.8	4.3

経営主体別にみると、“社会福祉法人”では「変わらない」が 45.2%と４割半ばで最も高くなっています。

“株式会社・有限会社”では、「増加した」が５割を占めて最も高くなっています。

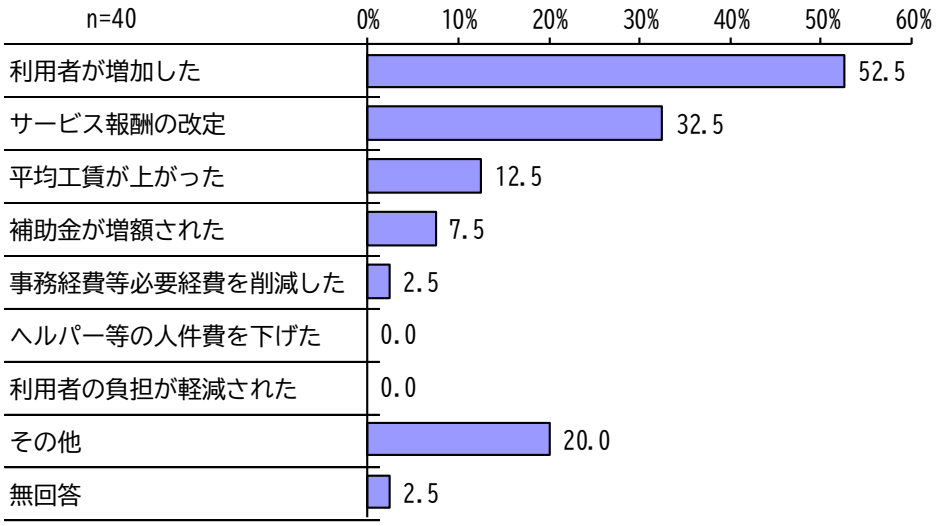
サービス体系別にみると、“居住系・施設系”、“相談系”、“地域生活支援事業”では「変わらない」が最も高く、特に“相談系”で６割を占めています。

それ以外のサービス体系ではいずれも「増加した」が最も高く、特に“訓練系・就労系”では６割を占めています。

（８）増減収の理由

問７の収入状況を受けてご回答ください。
問７－１　増収または減収の理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

【増収の理由】



増収の理由は、「利用者が増加した」が 52.5％と５割を超えて最も高く、次いで「サービス報酬の改定」が 32.5％、「平均工賃が上がった」が 12.5％と続いています。

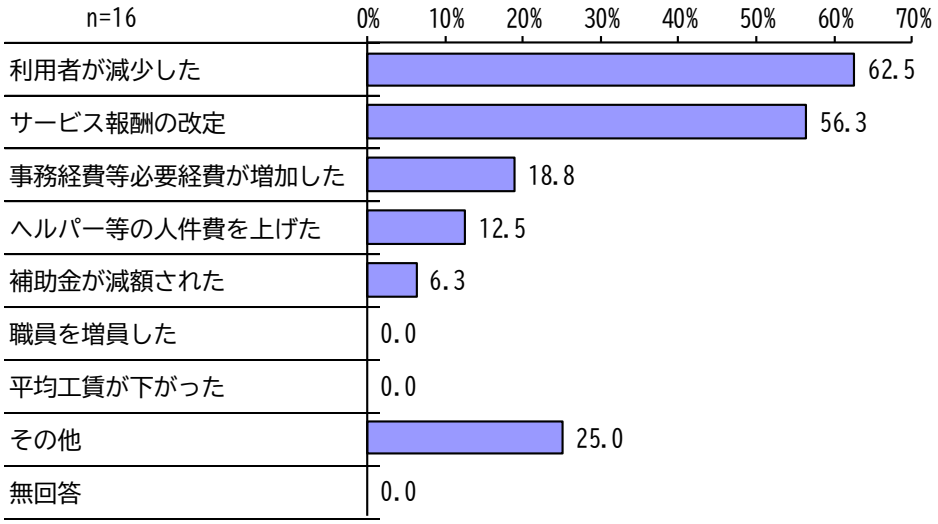
【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

（単位:%）		n	サービス報酬の改定	利用者が増加した	ヘルパー等の人件費を下げた	利用者の負担が軽減された	事務経費等必要経費を削減した	補助金が増額された	平均工賃が上がった	その他	無回答
全体		40	32.5	***52.5***	0.0	0.0	2.5	7.5	12.5	20.0	2.5
経営主体別	社会福祉法人	11	***54.5***	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	36.4	27.3	9.1
	社団法人・財団法人	4	25.0	***75.0***	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	17	23.5	***82.4***	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	11.8	0.0
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	5	20.0	***40.0***	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0
	合同会社・合資会社	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	***50.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
サービス体系別	訪問系	9	22.2	***66.7***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0
	日中活動系	5	20.0	***40.0***	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0
	居住系・施設系	4	0.0	***50.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	訓練系・就労系	9	***55.6***	44.4	0.0	0.0	0.0	22.2	55.6	0.0	0.0
	相談系	8	***37.5***	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5
	地域生活支援事業	6	0.0	***33.3***	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	16.7
	障害児通所支援等	12	33.3	***66.7***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0

経営主体別にみると、“社会福祉法人”では「サービス報酬の改定」が、“株式会社・有限会社”では「利用者が増加した」が最も高くなっています。

サービス体系別にみると、“障害児通所支援等”では「利用者が増加した」が 66.7％と６割半ばを超えて最も高くなっています。

【減収の理由】



減収の理由は、「利用者が減少した」が 62.5%と６割を超えて最も高く、次いで「サービス報酬の改定」が 56.3%、「事務経費等必要経費が増加した」が 18.8%と続いています。

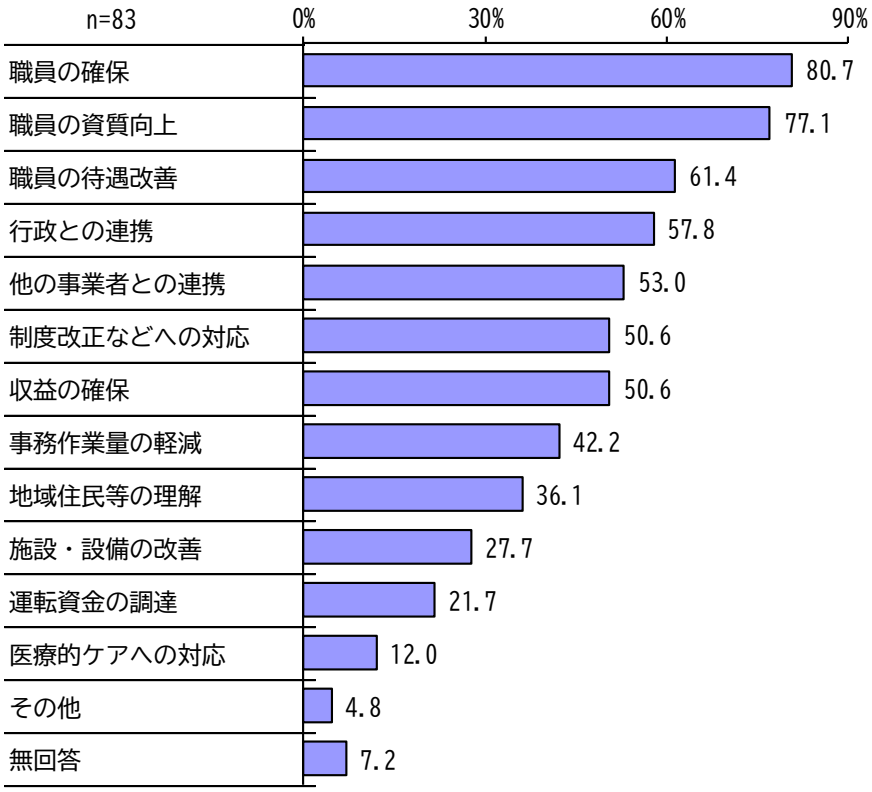
【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

（単位:%）		n	サービス報酬の改定	利用者が減少した	ヘルパー等の人件費を上げた	職員を増員した	事務経費等必要経費が増加した	補助金が減額された	平均工賃が下がった	その他	無回答
全体		16	56.3	***62.5***	12.5	0.0	18.8	6.3	0.0	25.0	0.0
経営主体別	社会福祉法人	5	***60.0***	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	社団法人・財団法人	2	***100.0***	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	9	44.4	***77.8***	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	33.3	0.0
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス体系別	訪問系	3	33.3	***66.7***	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	日中活動系	1	***100.0***	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
	居住系・施設系	3	***33.3***	***33.3***	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0
	訓練系・就労系	2	50.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	相談系	1	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	地域生活支援事業	2	***50.0***	***50.0***	***50.0***	0.0	***50.0***	0.0	0.0	50.0	0.0
	障害児通所支援等	6	***83.3***	66.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0

いずれも回答数が 10 未満となっているので、表のみを掲載します。

（9）経営で重視していること

問8　貴事業所を経営していく上で何を重視していますか。（あてはまるものすべてに○）



事業所を経営していく上で重視していることは、「職員の確保」が 80.7%と８割に達し最も高く、次いで「職員の資質向上」が 77.1%、「職員の待遇改善」が 61.4%、「行政との連携」が 57.8%、「他の事業者との連携」が 53.0%と続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

（単位:%）		n	職員の確保	職員の待遇改善	職員の資質向上	事務作業量の軽減	施設･設備の改善	制度改正などへの対応	収益の確保
全体		83	***80.7***	61.4	77.1	42.2	27.7	50.6	50.6
経営主体別	社会福祉法人	31	***96.8***	61.3	87.1	38.7	38.7	64.5	45.2
	社団法人・財団法人	7	28.6	42.9	***57.1***	***57.1***	28.6	14.3	28.6
	株式会社・有限会社	34	***82.4***	64.7	73.5	47.1	20.6	55.9	61.8
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	50.0	***66.7***	***66.7***	16.7	0.0	16.7	50.0
	合同会社・合資会社	3	***100.0***	***100.0***	***100.0***	66.7	66.7	33.3	66.7
	その他	2	***50.0***	0.0	***50.0***	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス体系別	訪問系	21	***85.7***	57.1	52.4	38.1	14.3	28.6	42.9
	日中活動系	11	***100.0***	81.8	90.9	72.7	63.6	63.6	63.6
	居住系・施設系	14	***85.7***	64.3	***85.7***	28.6	28.6	42.9	57.1
	訓練系・就労系	15	80.0	80.0	***100.0***	46.7	40.0	86.7	60.0
	相談系	15	73.3	53.3	***86.7***	40.0	26.7	40.0	33.3
	地域生活支援事業	12	***83.3***	66.7	66.7	25.0	25.0	33.3	50.0
	障害児通所支援等	23	***78.3***	52.2	65.2	43.5	26.1	47.8	56.5

（単位:%）		n	運転資金の調達	他の事業者との連携	行政との連携	地域住民等の理解	医療的ケアへの対応	その他	無回答
全体		83	21.7	53.0	57.8	36.1	12.0	4.8	7.2
経営主体別	社会福祉法人	31	16.1	71.0	74.2	54.8	16.1	6.5	0.0
	社団法人・財団法人	7	14.3	42.9	***57.1***	28.6	14.3	14.3	28.6
	株式会社・有限会社	34	26.5	44.1	47.1	26.5	8.8	2.9	8.8
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	33.3	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	その他	2	0.0	***50.0***	***50.0***	0.0	0.0	0.0	50.0
サービス体系別	訪問系	21	23.8	28.6	23.8	14.3	19.0	0.0	9.5
	日中活動系	11	27.3	72.7	72.7	54.5	18.2	18.2	0.0
	居住系・施設系	14	21.4	71.4	71.4	42.9	7.1	7.1	7.1
	訓練系・就労系	15	13.3	60.0	73.3	66.7	6.7	6.7	0.0
	相談系	15	26.7	73.3	73.3	53.3	20.0	0.0	6.7
	地域生活支援事業	12	33.3	33.3	41.7	33.3	8.3	0.0	8.3
	障害児通所支援等	23	30.4	56.5	65.2	21.7	0.0	4.3	13.0

経営主体別にみると、“社会福祉法人”と“株式会社・有限会社”ともに「職員の確保」が８割を超えて最も高くとなっています。

また、「職員の資質向上」も、“社会福祉法人”で 87.1%、“株式会社・有限会社”で 73.5%と、７割を超えています。

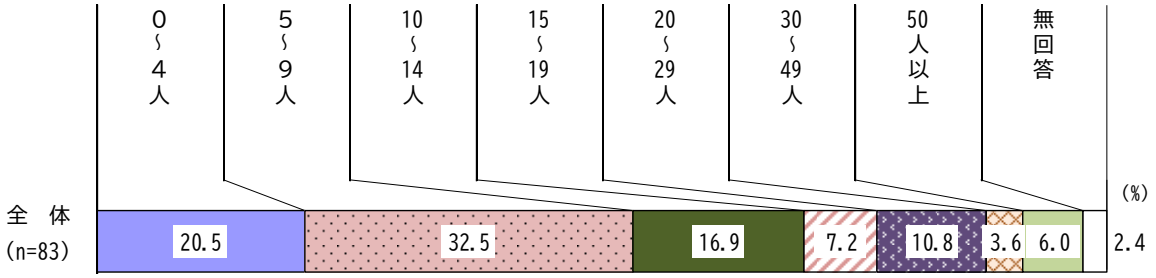
サービス体系別にみると、いずれのサービスでも「職員の確保」で７割、「職員の待遇改善」と「職員の資質向上」で５割を超えて高くなっています。

“訓練系・就労系”では「制度改正などへの対応」が 86.7%と８割半ばを超えて、他のサービスより高くなっています。

2　職員について

（1）職員数（総数・常勤・非常勤・その他）

問９　**貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。**
令和７年 10 月１日現在の職員数をお聞きします。



職員数は、「５～９人」が32.5%と３割を超えて最も高く、次いで「０～４人」が20.5%、「15～19人」が16.9%と続いています。

【勤務形別】職員数

（単位:%）		n	1～4人	5～9人	10～14人	15～19人	20～29人	30～49人	50人以上	0人・無回答	平均（人）
勤務形態別	常勤職員	83	***50.6***	30.1	6.0	2.4	4.8	0.0	2.4	3.6	6.9
	非常勤職員	83	***38.6***	27.7	6.0	3.6	3.6	2.4	1.2	16.9	7.9
	その他	83	***14.5***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.5	2.1

※平均人数は「０人・無回答」の事業所を除いて算出

職員別にみると、「０人・無回答」を除くと、いずれの職員でも「１～４人」が最も高く、“常勤職員”では５割を占めています。

平均人数は、“常勤職員”が 6.9 人、“非常勤職員”が 7.9 人となっています。

（２）職員数（職種別）

問 10　**貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。**
令和７年 10 月１日現在の職種別職員数をお聞きします。

（単位:人）		職員総数	回答事業所数	平均職員数	1事業所での最多職員数	1事業所での最小職員数
職種別	生活支援員	356	34	10.5	54	1
	介護職員	318	17	18.7	70	1
	看護師	24	11	2.2	5	1
	栄養士	4	4	1.0	1	1
	理学療法士	3	3	1.0	1	1
	作業療法士	6	2	3.0	5	1
	職業指導員	29	15	1.9	4	1
	児童指導員	87	20	4.4	11	1
	保育士	54	15	3.6	19	1
	相談支援専門員	37	15	2.5	5	1
	事務職員	26	15	1.7	6	1
	その他	110	37	3.0	13	1

職種別職員数は、「生活支援員」が 356 人、「介護職員」が 318 人と 300 人を超えて多く、次いで「その他」が 110 人と続いています。

回答事業所当たりの平均職員数は、「介護職員」が 18.7 人と最も多く、次いで「生活支援員」が 10.5 人と続いており、それ以外の職種では５人未満となっています。

１事業所での最多職員数は、「介護職員」が 70 人と最も多く、次いで「生活支援員」が 54 人、「保育士」が 19 人と続いています。

１事業所での最少職員数は、いずれの職種でも１人となっています。

（３）職員数（経験年数別）

問 11　**貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。**
令和７年 10 月１日現在の経験年数別職員数をお聞きします。

（単位:人）		職員総数	回答事業所数	平均職員数	1事業所での最多職員数	1事業所での最小職員数
経験年数別	６か月未満	48	30	1.6	4	1
	６か月以上１年未満	62	31	2.0	6	1
	１年以上３年未満	206	52	4.0	20	1
	３年以上５年未満	179	51	3.5	20	1
	５年以上10年未満	259	53	4.9	19	1
	10年以上	313	54	5.8	31	1

経験年数別職員数は、「10 年以上」が 313 人と最も多く、次いで「５年以上 10 年未満」が 259 人、「１年以上３年未満」が 206 人と続いています。

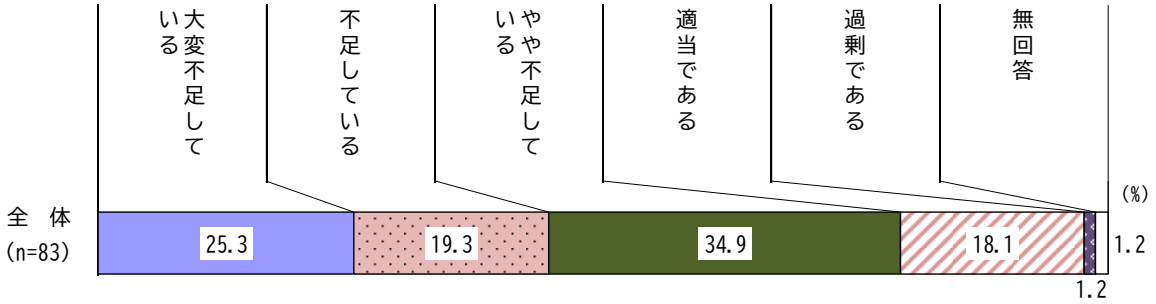
回答事業所当たりの平均職員数は、「10 年以上」が 5.8 人と最も多く、次いで「５年以上 10 年未満」が 4.9 人、「１年以上３年未満」が 4.0 人と続いています。

１事業所での最多職員数は、「10 年以上」が 31 人と最も多く、次いで「１年以上３年未満」と「３年以上５年未満」がともに 20 人、「５年以上 10 年未満」が 19 人と続いています。

１事業所での最少職員数は、いずれの経験年数でも１人となっています。

（４）職員の充足状況

問 12　**貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。**
業務量に対して、職員の充足状況（人手）はいかがですか。（○はひとつ）

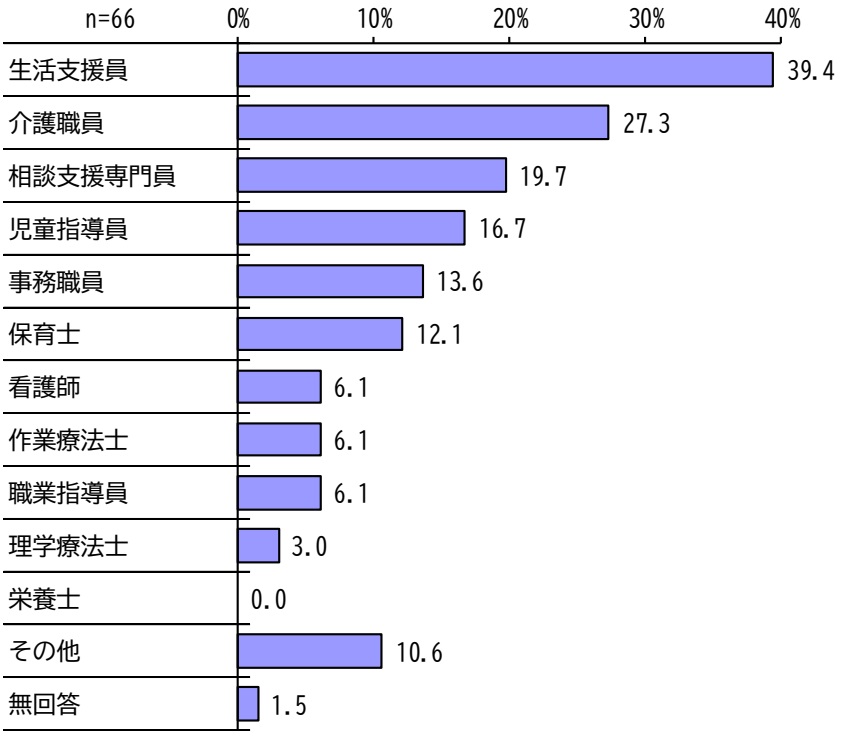


職員の充足状況は、「やや不足している」が 34.9%と約３割半ばを占めて最も高く、「大変不足している」（25.3%）、「不足している」（19.3%）を合わせた『不足している』は 79.5%と約８割を占めています。

一方、「適当である」は 18.1%となっています。

（５）不足している職員の職種

問 12 で「不足」と回答された方にお聞きします。
問 12-1　不足している職員の職種は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



不足している職員の職種は、「生活支援員」が 39.4%と約４割で最も高く、次いで「介護職員」が 27.3%、「相談支援専門員」が 19.7%と続いています。

（６）退職者数（総数・常勤・非常勤・その他）

問 13　職員について、令和６年度中の退職者数をお聞きします。

（単位:人）		退職総数	回答事業所数	平均 退職数	1事業所での 最多退職数	1事業所での 最小退職数
総数		135	47	2.9	8	1
勤務形態別	常勤職員	65	33	2.0	5	1
	非常勤職員	68	28	2.4	8	1
	その他	2	2	1.0	1	1

令和６年度中の退職者数は、１人以上の回答があった 47 事業所で 135 人、平均退職者数は 2.9 人、１事業所での最多退職者数は８人となっています。

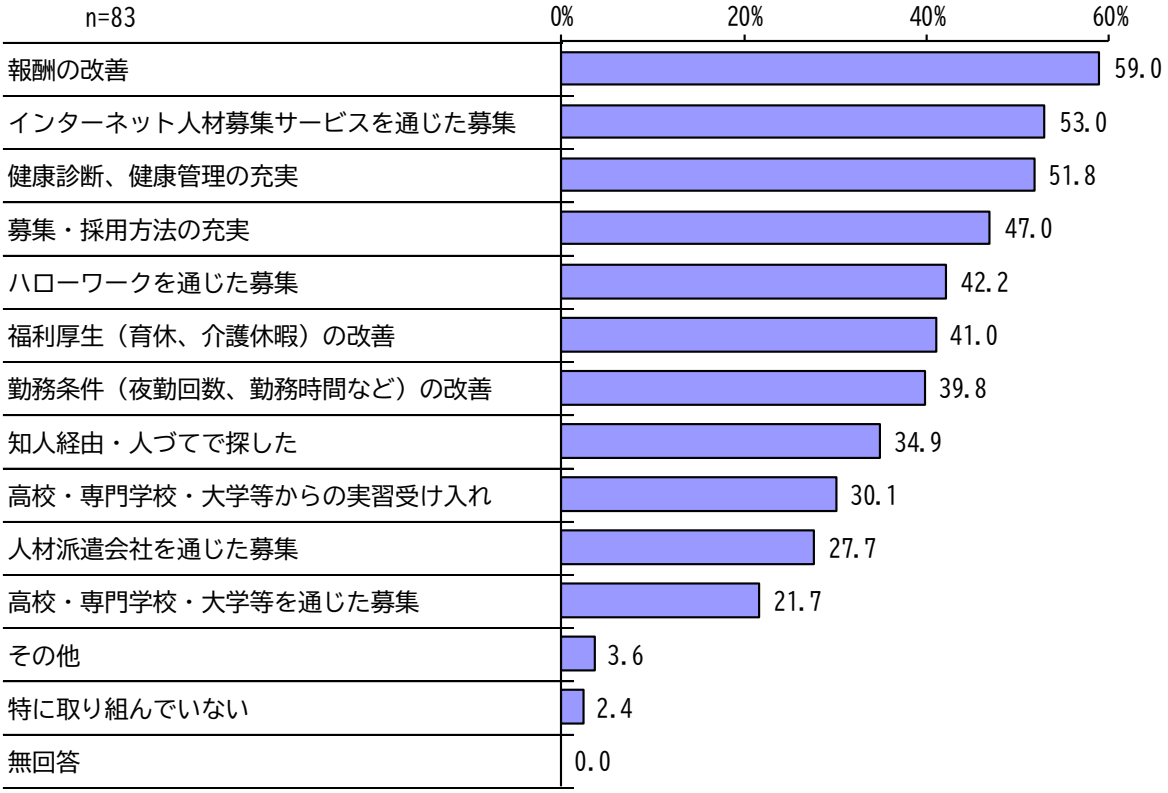
常勤職員の退職者数は、33 事業所で 65 人、平均退職者数は 2.0 人、１事業所での最多退職者数は５人となっています。

非常勤職員の退職者数は、28 事業所で 68 人、平均退職者数は 2.4 人、１事業所での最多退職者数は８人となっています。

（7）人材確保・人材育成の取り組み

問 14　貴事業所では、**人材確保・人材育成**のための取り組みをしていますか。
（それぞれあてはまるものすべてに○）

【人材確保の取り組み】



人材確保の取り組みは、「報酬の改善」が 59.0%と６割近くで最も高く、次いで「インターネット人材募集サービスを通じた募集」が 53.0%、「健康診断、健康管理の充実」が 51.8%と５割を超えて続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

（単位:%）		n	勤務条件（夜勤回数、勤務時間など）の改善	報酬の改善	福利厚生（育休、介護休暇）の改善	健康診断、健康管理の充実	募集・採用方法の充実	高校・専門学校・大学等を通じた募集	ハローワークを通じた募集
	全体	83	39.8	***59.0***	41.0	51.8	47.0	21.7	42.2
経営主体別	社会福祉法人	31	25.8	38.7	48.4	61.3	54.8	32.3	67.7
	社団法人・財団法人	7	57.1	***71.4***	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	50.0	***76.5***	44.1	50.0	47.1	20.6	23.5
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	16.7	50.0	16.7	16.7	16.7	16.7	50.0
	合同会社・合資会社	3	66.7	***100.0***	33.3	***100.0***	***100.0***	0.0	66.7
	その他	2	50.0	0.0	50.0	50.0	***100.0***	0.0	50.0
サービス体系別	訪問系	21	42.9	***76.2***	42.9	42.9	47.6	14.3	47.6
	日中活動系	11	27.3	***54.5***	***54.5***	45.5	36.4	9.1	***54.5***
	居住系・施設系	14	42.9	57.1	50.0	50.0	42.9	21.4	57.1
	訓練系・就労系	15	33.3	46.7	33.3	46.7	60.0	26.7	33.3
	相談系	15	40.0	53.3	53.3	53.3	46.7	6.7	46.7
	地域生活支援事業	12	33.3	66.7	50.0	41.7	50.0	25.0	***75.0***
	障害児通所支援等	23	39.1	***65.2***	30.4	60.9	52.2	30.4	30.4

（単位:%）		n	人材派遣会社を通じた募集	インターネット人材募集サービスを通じた募集	高校・専門学校・大学等からの実習受け入れ	知人経由・人づてで探した	その他	特に取り組んでいない	無回答
	全体	83	27.7	53.0	30.1	34.9	3.6	2.4	0.0
経営主体別	社会福祉法人	31	41.9	***71.0***	58.1	45.2	3.2	3.2	0.0
	社団法人・財団法人	7	0.0	0.0	28.6	42.9	14.3	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	29.4	44.1	8.8	29.4	2.9	2.9	0.0
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	0.0	***66.7***	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス体系別	訪問系	21	23.8	42.9	9.5	23.8	0.0	9.5	0.0
	日中活動系	11	36.4	45.5	***54.5***	27.3	0.0	9.1	0.0
	居住系・施設系	14	35.7	***71.4***	35.7	35.7	7.1	7.1	0.0
	訓練系・就労系	15	26.7	33.3	46.7	***66.7***	0.0	0.0	0.0
	相談系	15	26.7	***60.0***	40.0	13.3	0.0	0.0	0.0
	地域生活支援事業	12	58.3	***75.0***	50.0	25.0	0.0	8.3	0.0
	障害児通所支援等	23	26.1	60.9	26.1	39.1	8.7	0.0	0.0

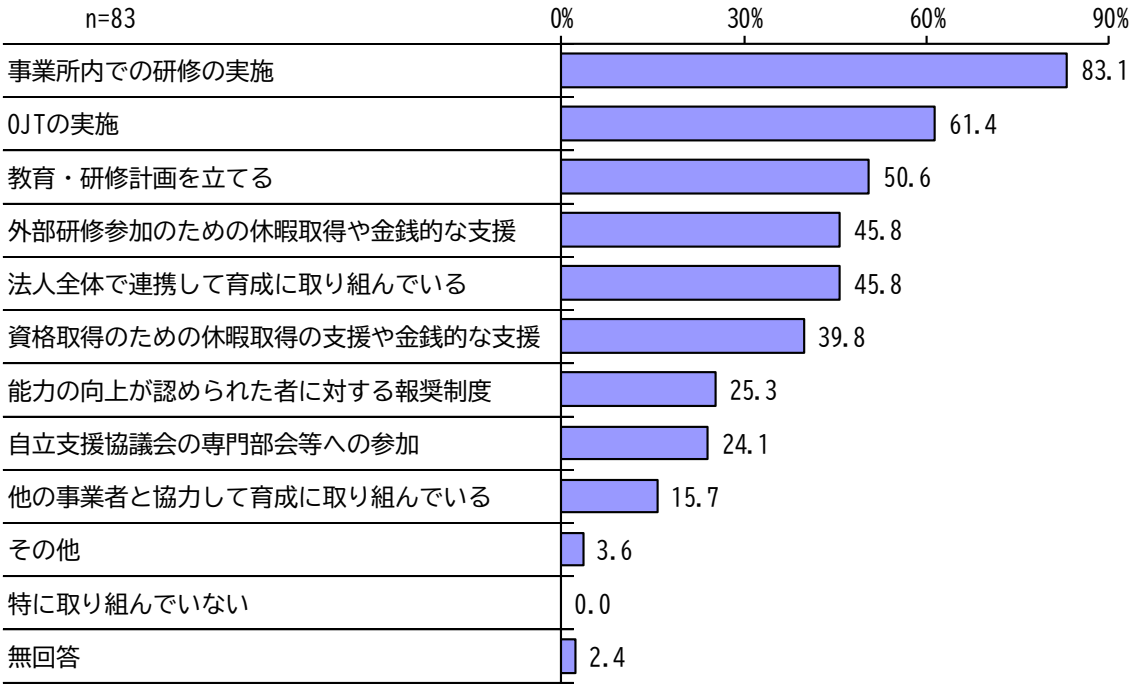
経営主体別にみると、“社会福祉法人”では「インターネット人材募集サービスを通じた募集」が71.0%と７割を超えて最も高く、次いで「ハローワークを通じた募集」が 67.7%、「健康診断、健康管理の充実」が61.3%と６割を超えて高くなっています。

“株式会社・有限会社”では、「報酬の改善」が 76.5%と７割半ばを超えて最も高く、「勤務条件（夜勤回数、勤務時間など）の改善」と「健康診断、健康管理の充実」がともに 50.0%と５割に達しています。

サービス体系別にみると、“訪問系”では「報酬の改善」が、“地域生活支援事業”では「ハローワークを通じた募集」と「インターネット人材募集サービスを通じた募集」が、“居住系・施設系”では「インターネット人材募集サービスを通じた募集」がそれぞれ７割を超えており、他のサービスより高くなっています。

また、“訓練系・就労系”では、「知人経由・人づてで探した」が６割半ばを超えて、他のサービスより高くなっています。

【人材育成の取り組み】



人材育成の取り組みは、「事業所内での研修の実施」が 83.1％と８割を超えて最も高く、次いで「OJT の実施」が 61.4％、「教育・研修計画を立てる」が 50.6％と５割を超えて続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

（単位:%）		n	資格取得のための休暇取得の支援や金銭的な支援	外部研修参加のための休暇取得や金銭的な支援	事業所内での研修の実施	OJTの実施	自立支援協議会の専門部会等への参加	教育･研修計画を立てる
全体		83	39.8	45.8	***83.1***	61.4	24.1	50.6
経営主体別	社会福祉法人	31	35.5	48.4	***90.3***	74.2	45.2	54.8
	社団法人・財団法人	7	42.9	42.9	***100.0***	42.9	42.9	28.6
	株式会社・有限会社	34	35.3	44.1	***70.6***	61.8	8.8	47.1
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	50.0	33.3	***83.3***	50.0	0.0	50.0
	合同会社・合資会社	3	***100.0***	66.7	***100.0***	0.0	0.0	66.7
	その他	2	50.0	50.0	***100.0***	50.0	0.0	***100.0***
サービス体系別	訪問系	21	42.9	23.8	***76.2***	42.9	0.0	42.9
	日中活動系	11	36.4	54.5	***81.8***	72.7	27.3	45.5
	居住系・施設系	14	14.3	28.6	***78.6***	71.4	14.3	42.9
	訓練系・就労系	15	46.7	66.7	***93.3***	86.7	40.0	60.0
	相談系	15	40.0	40.0	***73.3***	60.0	53.3	60.0
	地域生活支援事業	12	25.0	25.0	***83.3***	50.0	8.3	50.0
	障害児通所支援等	23	39.1	52.2	***87.0***	56.5	17.4	52.2

（単位:%）		n	能力の向上が認められた者に対する報奨制度	法人全体で連携して育成に取り組んでいる	他の事業者と協力して育成に取り組んでいる	その他	特に取り組んでいない	無回答
全体		83	25.3	45.8	15.7	3.6	0.0	2.4
経営主体別	社会福祉法人	31	12.9	67.7	32.3	3.2	0.0	0.0
	社団法人・財団法人	7	14.3	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	32.4	35.3	2.9	0.0	0.0	5.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス体系別	訪問系	21	23.8	33.3	0.0	0.0	0.0	9.5
	日中活動系	11	0.0	54.5	9.1	9.1	0.0	0.0
	居住系・施設系	14	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0
	訓練系・就労系	15	26.7	66.7	26.7	6.7	0.0	0.0
	相談系	15	6.7	40.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	地域生活支援事業	12	16.7	41.7	16.7	0.0	0.0	0.0
	障害児通所支援等	23	47.8	30.4	13.0	8.7	0.0	0.0

経営主体別にみると、いずれの経営主体でも「事業所内での研修の実施」が最も高く、回答数が 10 件以上の“社会福祉法人”では 90.3%、“株式会社・有限会社”では 70.6%となっています。

また、“社会福祉法人”では、「OJT の実施」が 74.2%と７割半ば近くで高く、「法人全体で連携して育成に取り組んでいる」が 67.7%と６割半ばを超えています。

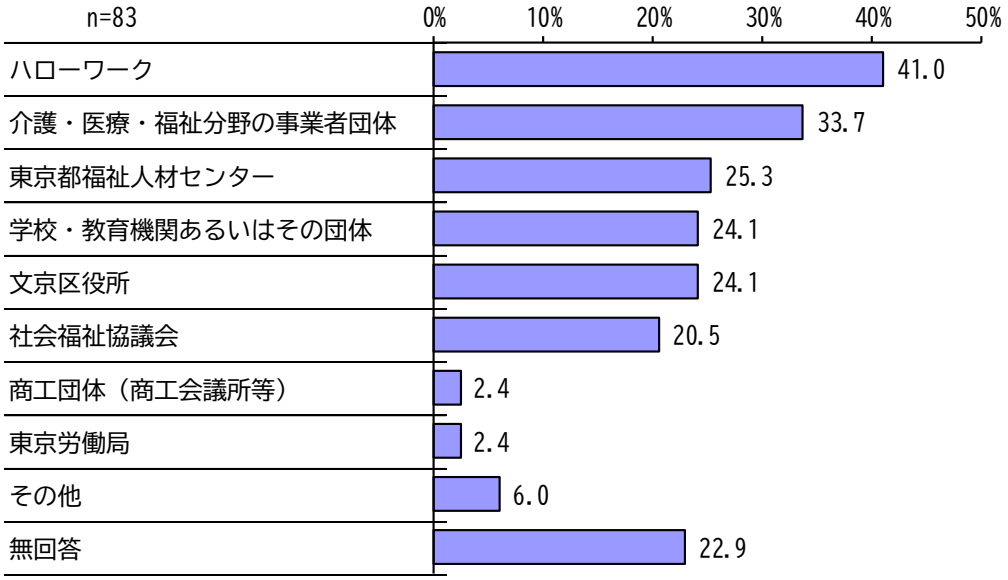
“株式会社・有限会社”では、「OJT の実施」が 61.8%と６割を超えています。

サービス体系別にみると、いずれのサービスでも「事業所内での研修の実施」が７割を超えて最も高くなっています。

また、“日中活動系”、“居住系・施設系”、“訓練系・就労系”では「OJT の実施」が７割を超えており、特に“訓練系・就労系”では 86.7%と８割半ばを超えて、他のサービスより高くなっています。

（８）人材確保や質の向上に向けた連携先

問 15　貴事業所では、人材の確保や質の向上に向けた連携先はありますか。
（あてはまるものすべてに○）

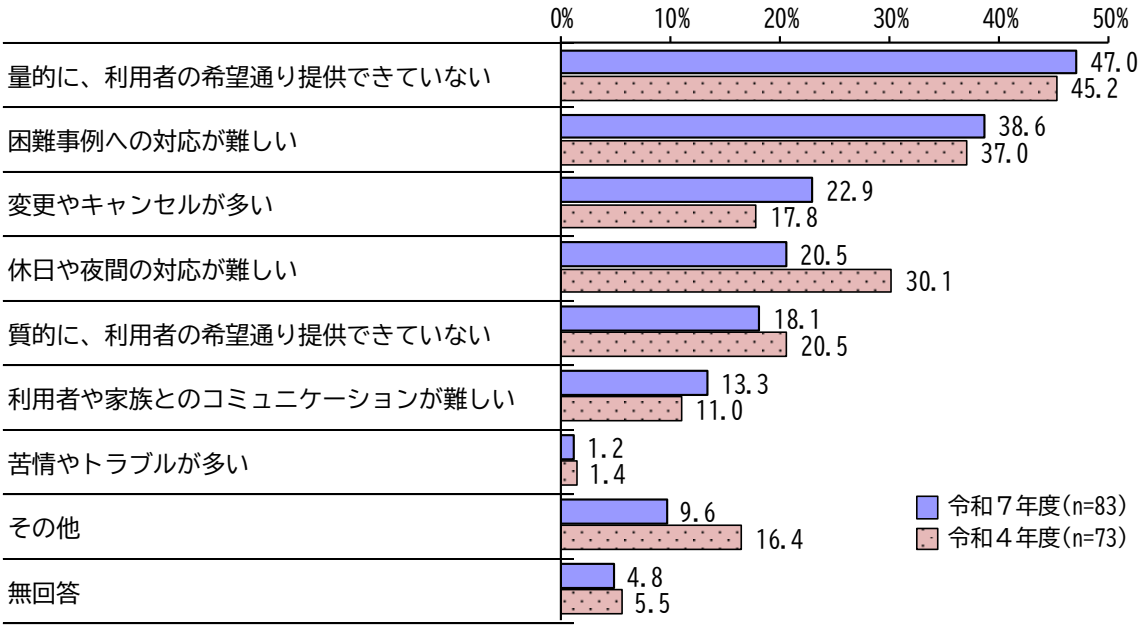


人材確保や質の向上に向けた連携先は、「ハローワーク」が 41.0％と４割を超えて最も高く、次いで「介護・医療・福祉分野の事業者団体」が33.7％、「東京都福祉人材センター」が25.3％、「学校・教育機関あるいはその団体」と「文京区役所」がともに 24.1％と続いています。

３　サービス提供について

（１）サービス提供上の課題

問 16　貴事業所でサービスを提供する上で、課題となっていることは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）



サービス提供上の課題は、「量的に、利用者の希望通り提供できていない」が 47.0%と最も高く、次いで「困難事例への対応が難しい」が 38.6%、「変更やキャンセルが多い」が 22.9%と続いています。

令和４年度と比較すると、「休日や夜間の対応が難しい」が 9.6 ポイント下がっており、反対に「変更やキャンセルが多い」が 5.1 ポイント上がっています。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	量的に、利用者の希望通り提供できていない	質的に、利用者の希望通り提供できていない	利用者や家族とのコミュニケーションが難しい	困難事例への対応が難しい	休日や夜間の対応が難しい
全体		83	***47.0***	18.1	13.3	38.6	20.5
サービス体系別	訪問系	21	***57.1***	14.3	9.5	9.5	19.0
	日中活動系	11	27.3	27.3	18.2	***63.6***	9.1
	居住系・施設系	14	28.6	35.7	42.9	***78.6***	28.6
	訓練系・就労系	15	40.0	20.0	13.3	***46.7***	13.3
	相談系	15	40.0	20.0	13.3	***60.0***	33.3
	地域生活支援事業	12	***83.3***	41.7	8.3	25.0	33.3
	障害児通所支援等	23	65.2	13.0	8.7	13.0	13.0

（単位:%）		n	変更やキャンセルが多い	苦情やトラブルが多い	その他	無回答
全体		83	22.9	1.2	9.6	4.8
サービス体系別	訪問系	21	14.3	0.0	9.5	14.3
	日中活動系	11	9.1	0.0	0.0	9.1
	居住系・施設系	14	0.0	7.1	7.1	7.1
	訓練系・就労系	15	6.7	0.0	26.7	0.0
	相談系	15	6.7	0.0	0.0	6.7
	地域生活支援事業	12	0.0	0.0	0.0	0.0
	障害児通所支援等	23	***69.6***	0.0	4.3	0.0

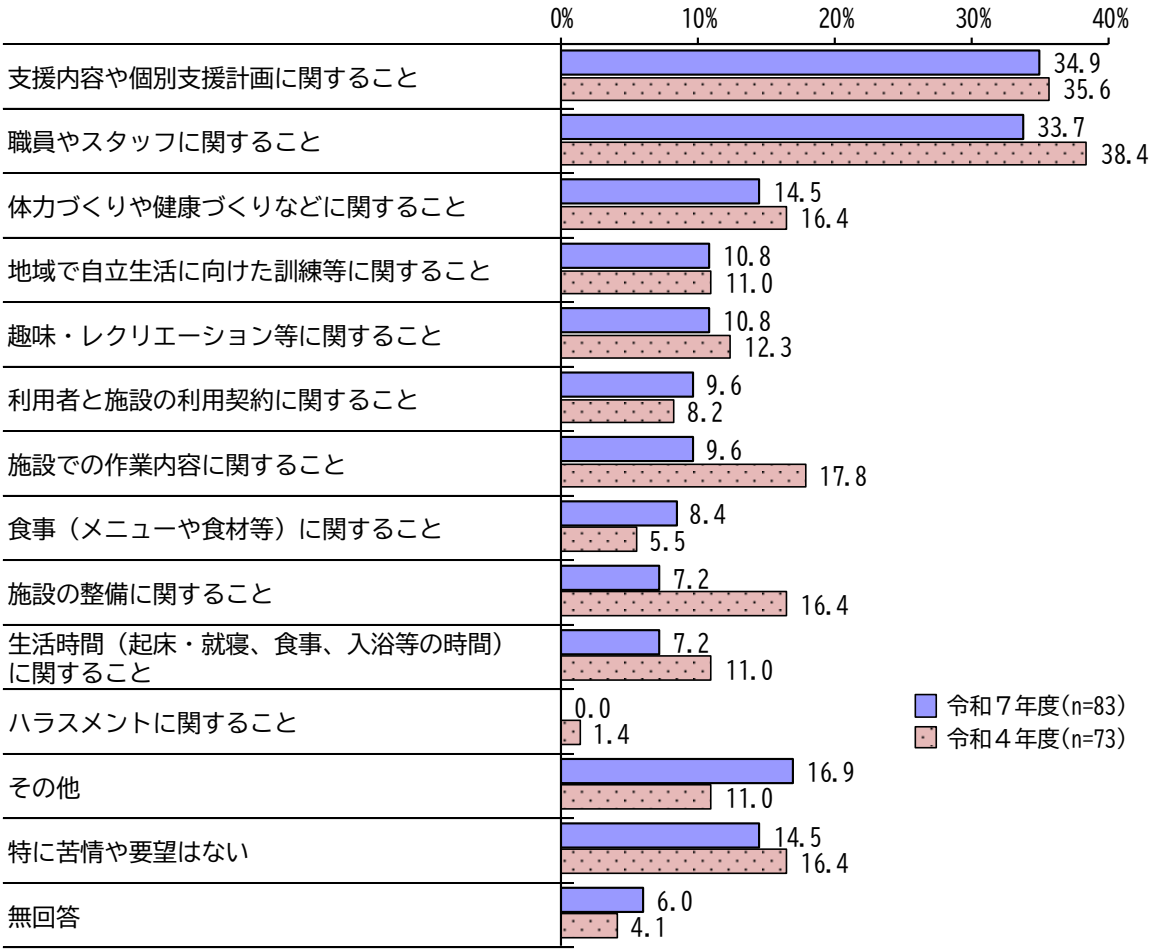
サービス体系別にみると、“訪問系”と“地域生活支援事業”では、「量的に、利用者の希望通り提供できていない」が最も高く、特に“地域生活支援事業”では８割を超えて他のサービスより高くなっています。

“障害児通所支援”では、「変更やキャンセルが多い」と「量的に、利用者の希望通り提供できていない」がそれぞれ６割半ばを超えて高くなっています。

それ以外のサービスでは「困難事例への対応が難しい」が最も高く、特に“居住系・施設系”では78.6%と７割半ばを超えて、他のサービスより高くなっています。

（２）サービス利用に関する相談・苦情内容

問17　貴事業所では、サービス利用について、利用者やご家族の方からどのような相談や苦情を受けることがありますか。（あてはまるものすべてに○）



サービス利用に関する相談・苦情内容は、「支援内容や個別支援計画に関すること」が 34.9%、「職員やスタッフに関すること」が 33.7%と３割を超えて高く、次いで「体力づくりや健康づくりなどに関すること」が 14.5%、「地域で自立生活に向けた訓練等に関すること」と「趣味・レクリエーション等に関すること」がともに 10.8%と続いています。

令和４年度と比較すると、「その他」「特に苦情や要望はない」を除く 11 項目中９項目で令和４年度を下回っており、特に「施設の整備に関すること」が 9.2 ポイント、「施設での作業内容に関すること」が 8.2 ポイントと、５ポイント以上下がっています。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	支援内容や個別支援計画に関すること	職員やスタッフに関すること	施設の整備に関すること	利用者と施設の利用契約に関すること	生活時間(起床･就寝、食事、入浴等の時間)に関すること	食事(メニューや食材等)に関すること	施設での作業内容に関すること
全体		83	***34.9***	33.7	7.2	9.6	7.2	8.4	9.6
サービス体系別	訪問系	21	23.8	***38.1***	0.0	4.8	0.0	4.8	0.0
	日中活動系	11	***54.5***	36.4	18.2	9.1	9.1	18.2	18.2
	居住系・施設系	14	21.4	***64.3***	7.1	21.4	7.1	14.3	0.0
	訓練系・就労系	15	***66.7***	40.0	13.3	6.7	20.0	20.0	46.7
	相談系	15	***40.0***	***40.0***	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0
	地域生活支援事業	12	41.7	***58.3***	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0
	障害児通所支援等	23	***39.1***	13.0	0.0	8.7	4.3	0.0	4.3

（単位:%）		n	地域で自立生活に向けた訓練等に関すること	体力づくりや健康づくりなどに関すること	趣味･レクリエーション等に関すること	ハラスメントに関すること	その他	特に苦情や要望はない	無回答
全体		83	10.8	14.5	10.8	0.0	16.9	14.5	6.0
サービス体系別	訪問系	21	0.0	4.8	0.0	0.0	4.8	23.8	14.3
	日中活動系	11	0.0	27.3	0.0	0.0	9.1	18.2	0.0
	居住系・施設系	14	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0
	訓練系・就労系	15	33.3	33.3	20.0	0.0	0.0	6.7	0.0
	相談系	15	13.3	6.7	6.7	0.0	20.0	20.0	0.0
	地域生活支援事業	12	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	0.0
	障害児通所支援等	23	13.0	13.0	21.7	0.0	30.4	4.3	8.7

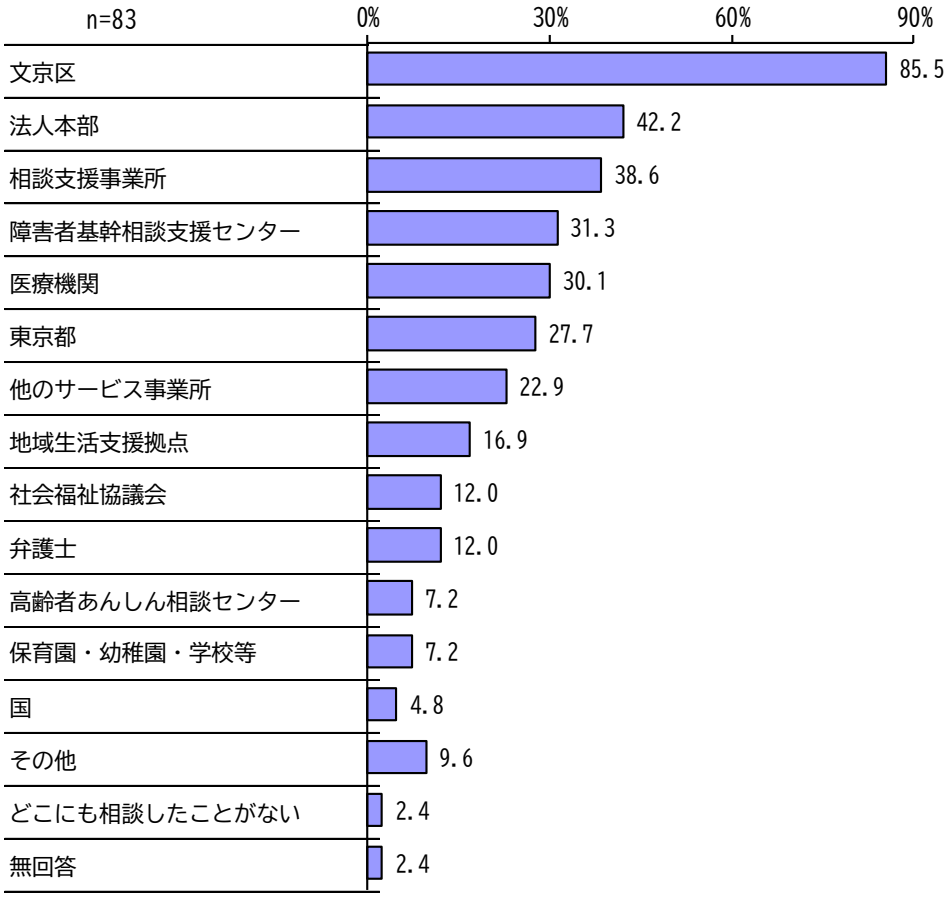
サービス体系別にみると、いずれのサービスでも「支援内容や個別支援計画に関すること」か「職員やスタッフに関すること」が最も高くなっています。

“居住系・施設系”では、「利用者と施設の利用契約に関すること」が２割を超えて、他のサービスより高くなっています。

また、“訓練系・就労系”では、「施設での作業内容に関すること」が 46.7%と４割半ばを超えて高くなっています。

（３）問題発生時の相談先

問 18　貴事業所で何か問題が生じたときの相談先はどこですか。（あてはまるものすべてに○）



問題発生時の相談先は、「文京区」が 85.5%と８割半ばで最も高く、次いで「法人本部」が 42.2%、「相談支援事業所」が 38.6%、「障害者基幹相談支援センター」が 31.3%と続いています。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	文京区	東京都	国	相談支援事業所	障害者基幹相談支援センター	地域生活支援拠点	高齢者あんしん相談センター	社会福祉協議会
全体		83	***85.5***	27.7	4.8	38.6	31.3	16.9	7.2	12.0
サービス体系別	訪問系	21	***76.2***	33.3	14.3	28.6	19.0	0.0	14.3	9.5
	日中活動系	11	***90.9***	27.3	0.0	45.5	63.6	27.3	0.0	18.2
	居住系・施設系	14	***92.9***	42.9	0.0	28.6	50.0	35.7	7.1	14.3
	訓練系・就労系	15	***86.7***	40.0	6.7	60.0	33.3	20.0	6.7	20.0
	相談系	15	***93.3***	20.0	0.0	20.0	66.7	33.3	6.7	20.0
	地域生活支援事業	12	***75.0***	41.7	8.3	41.7	50.0	16.7	8.3	8.3
	障害児通所支援等	23	***82.6***	17.4	0.0	34.8	8.7	0.0	0.0	4.3

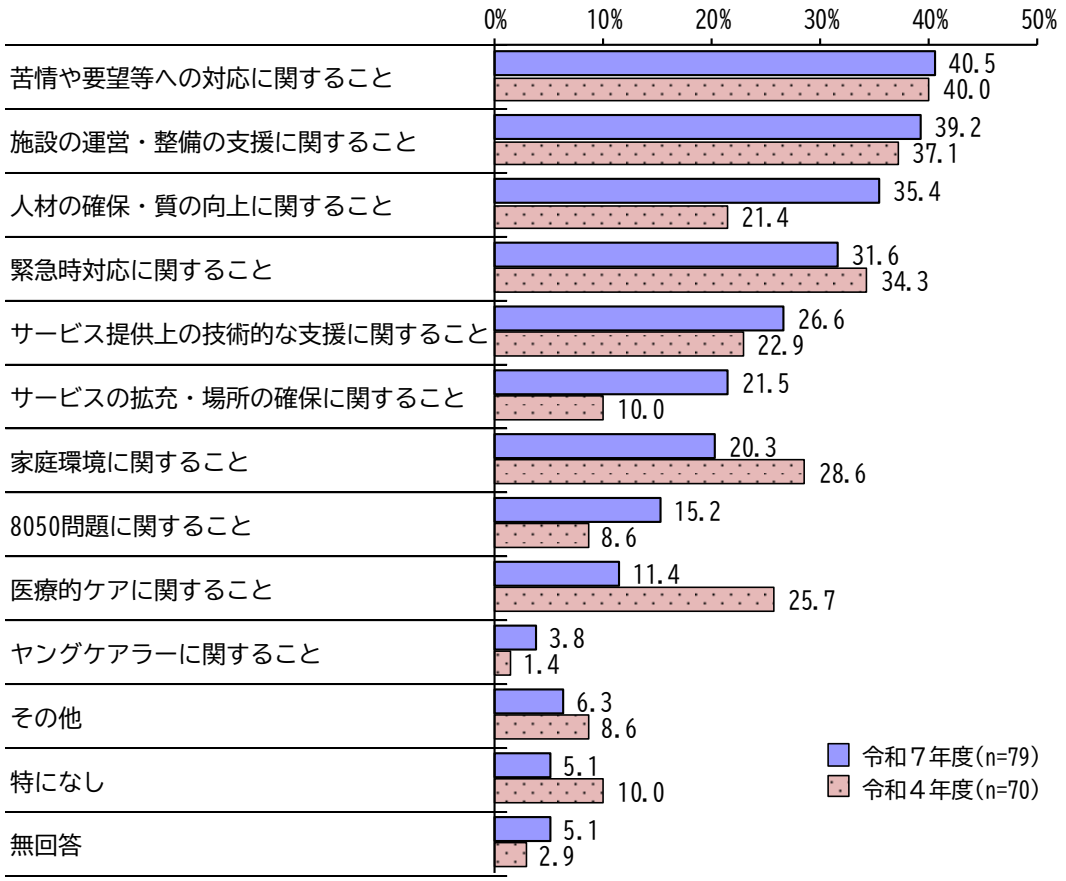
（単位:%）		n	医療機関	保育園・幼稚園・学校等	法人本部	他のサービス事業所	弁護士	その他	どこにも相談したことがない	無回答
全体		83	30.1	7.2	42.2	22.9	12.0	9.6	2.4	2.4
サービス体系別	訪問系	21	19.0	0.0	23.8	4.8	19.0	4.8	0.0	4.8
	日中活動系	11	54.5	9.1	63.6	36.4	9.1	0.0	0.0	0.0
	居住系・施設系	14	64.3	7.1	35.7	35.7	21.4	21.4	0.0	0.0
	訓練系・就労系	15	46.7	0.0	60.0	20.0	13.3	6.7	6.7	6.7
	相談系	15	40.0	6.7	60.0	33.3	6.7	6.7	0.0	0.0
	地域生活支援事業	12	33.3	0.0	41.7	25.0	25.0	8.3	0.0	0.0
	障害児通所支援等	23	4.3	21.7	43.5	30.4	0.0	8.7	4.3	0.0

サービス体系別にみると、いずれのサービスでも「文京区」が７割半ば以上で最も高くなっています。

“訓練系・就労系”では「相談支援事業所」が、“日中活動系”と“相談系”では「障害者基幹相談支援センター」が、“居住系・施設系”では「医療機関」が、“日中活動系”、“訓練系・就労系”、“相談系”では「法人本部」が、それぞれ６割台で高くなっています。

（４）相談内容

問 18 で「どこかに相談した」と回答された方にお聞きします。
問 18-1　相談した内容は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



問題発生時の相談内容は、「苦情や要望等への対応に関すること」が 40.5%と４割に達し最も高く、次いで「施設の運営・整備の支援に関すること」が 39.2%、「人材の確保・質の向上に関すること」が 35.4%と３割半ばを超えて続いています。

令和４年度と比較すると、「人材の確保・質の向上に関すること」が 14.0 ポイント、「サービスの拡充・場所の確保に関すること」が 11.5 ポイントと 10 ポイント以上上がっており、反対に「医療的ケアに関すること」が 14.3 ポイント、「家庭環境に関すること」が 8.3 ポイント下がっています。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	施設の運営・整備の支援に関すること	人材の確保・質の向上に関すること	サービスの拡充・場所の確保に関すること	サービス提供上の技術的な支援に関すること	家庭環境に関すること	8050問題に関すること	医療的ケアに関すること
全体		79	39.2	35.4	21.5	26.6	20.3	15.2	11.4
サービス体系別	訪問系	20	5.0	15.0	5.0	15.0	10.0	0.0	0.0
	日中活動系	11	***54.5***	45.5	27.3	18.2	18.2	27.3	0.0
	居住系・施設系	14	42.9	50.0	14.3	14.3	21.4	14.3	35.7
	訓練系・就労系	13	***69.2***	38.5	53.8	30.8	30.8	38.5	0.0
	相談系	15	40.0	40.0	20.0	46.7	20.0	26.7	13.3
	地域生活支援事業	12	25.0	33.3	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	障害児通所支援等	22	***50.0***	45.5	18.2	31.8	22.7	0.0	13.6

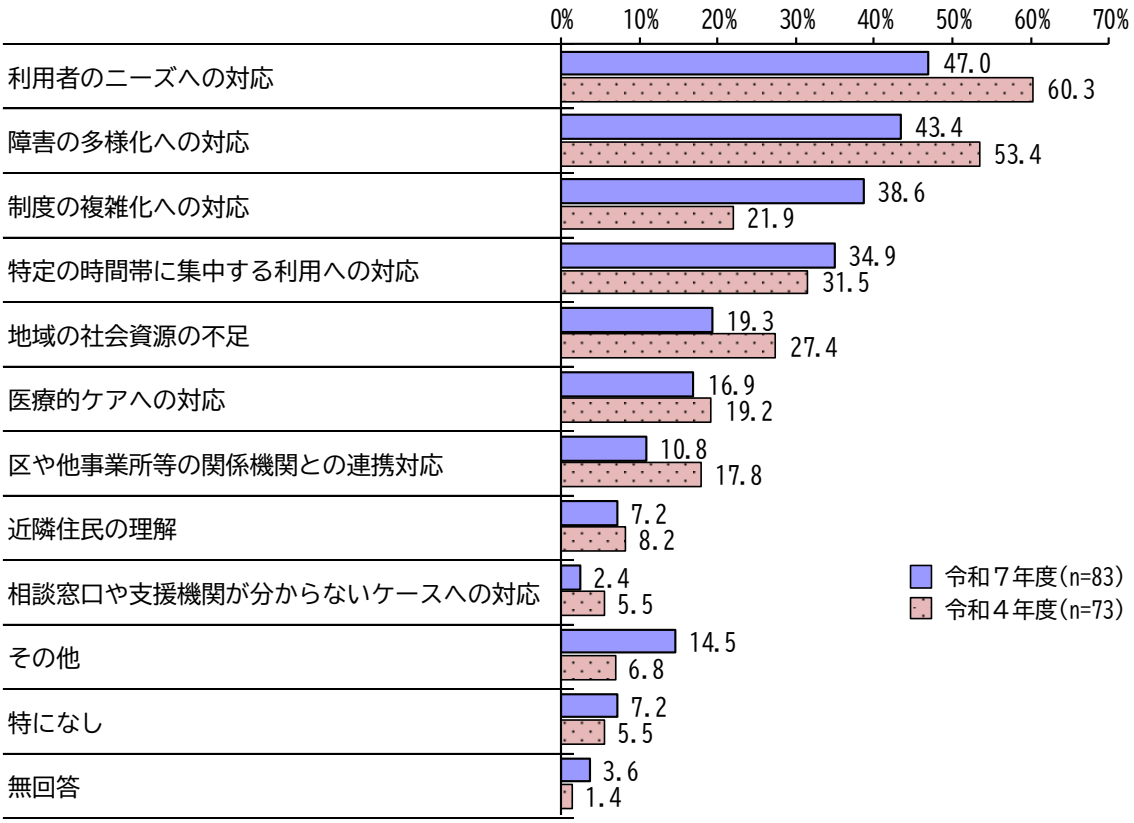
（単位:%）		n	ヤングケアラーに関すること	緊急時対応に関すること	苦情や要望等への対応に関すること	その他	特になし	無回答
全体		79	3.8	31.6	***40.5***	6.3	5.1	5.1
サービス体系別	訪問系	20	5.0	20.0	***40.0***	0.0	10.0	15.0
	日中活動系	11	0.0	45.5	***54.5***	0.0	0.0	9.1
	居住系・施設系	14	0.0	35.7	***57.1***	14.3	0.0	7.1
	訓練系・就労系	13	0.0	53.8	53.8	0.0	0.0	0.0
	相談系	15	6.7	***60.0***	53.3	6.7	6.7	6.7
	地域生活支援事業	12	8.3	50.0	***83.3***	0.0	0.0	0.0
	障害児通所支援等	22	4.5	13.6	31.8	9.1	4.5	0.0

サービス体系別にみると、“訓練系・就労系”、“相談系”、“障害児通所支援”以外のサービスではいずれも「苦情や要望等への対応に関すること」が最も高く、特に“地域生活支援事業”では 83.3%と８割を超えています。

“訓練系・就労系”では、「施設の運営・整備の支援に関すること」が 69.2%と７割近くで、他のサービスより高くなっています。

（５）支援に関する困難

問 19　貴事業所が支援に関して困難さを感じることはなんですか。（あてはまるものすべてに○）



支援に関して感じる困難は、「利用者のニーズへの対応」が 47.0%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「障害の多様化への対応」が43.4%、「制度の複雑化への対応」が38.6%、「特定の時間帯に集中する利用への対応」が 34.9%と続いています。

令和４年度と比較すると、「その他」「特になし」を除く９項目中７項目で令和４年度を下回っており、特に「利用者のニーズへの対応」が 13.3 ポイント、「障害の多様化への対応」が 10.0 ポイントと 10 ポイント以上下がっています。反対に「制度の複雑化への対応」は 16.7 ポイント上がっています。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	特定の時間帯に集中する利用への対応	障害の多様化への対応	制度の複雑化への対応	医療的ケアへの対応	利用者のニーズへの対応	区や他事業所等の関係機関との連携対応
全体		83	34.9	43.4	38.6	16.9	***47.0***	10.8
サービス体系別	訪問系	21	***57.1***	19.0	19.0	19.0	19.0	4.8
	日中活動系	11	18.2	***54.5***	27.3	0.0	45.5	0.0
	居住系・施設系	14	7.1	***57.1***	28.6	14.3	42.9	0.0
	訓練系・就労系	15	13.3	***66.7***	60.0	6.7	60.0	13.3
	相談系	15	13.3	40.0	33.3	20.0	***60.0***	6.7
	地域生活支援事業	12	***58.3***	50.0	25.0	33.3	41.7	0.0
	障害児通所支援等	23	52.2	30.4	52.2	17.4	***60.9***	26.1

（単位:%）		n	近隣住民の理解	地域の社会資源の不足	相談窓口や支援機関が分からないケースへの対応	その他	特になし	無回答
全体		83	7.2	19.3	2.4	14.5	7.2	3.6
サービス体系別	訪問系	21	0.0	9.5	0.0	4.8	14.3	9.5
	日中活動系	11	9.1	9.1	0.0	27.3	0.0	9.1
	居住系・施設系	14	7.1	14.3	0.0	21.4	7.1	7.1
	訓練系・就労系	15	13.3	20.0	0.0	20.0	6.7	0.0
	相談系	15	13.3	33.3	0.0	6.7	13.3	6.7
	地域生活支援事業	12	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0
	障害児通所支援等	23	4.3	21.7	8.7	17.4	0.0	0.0

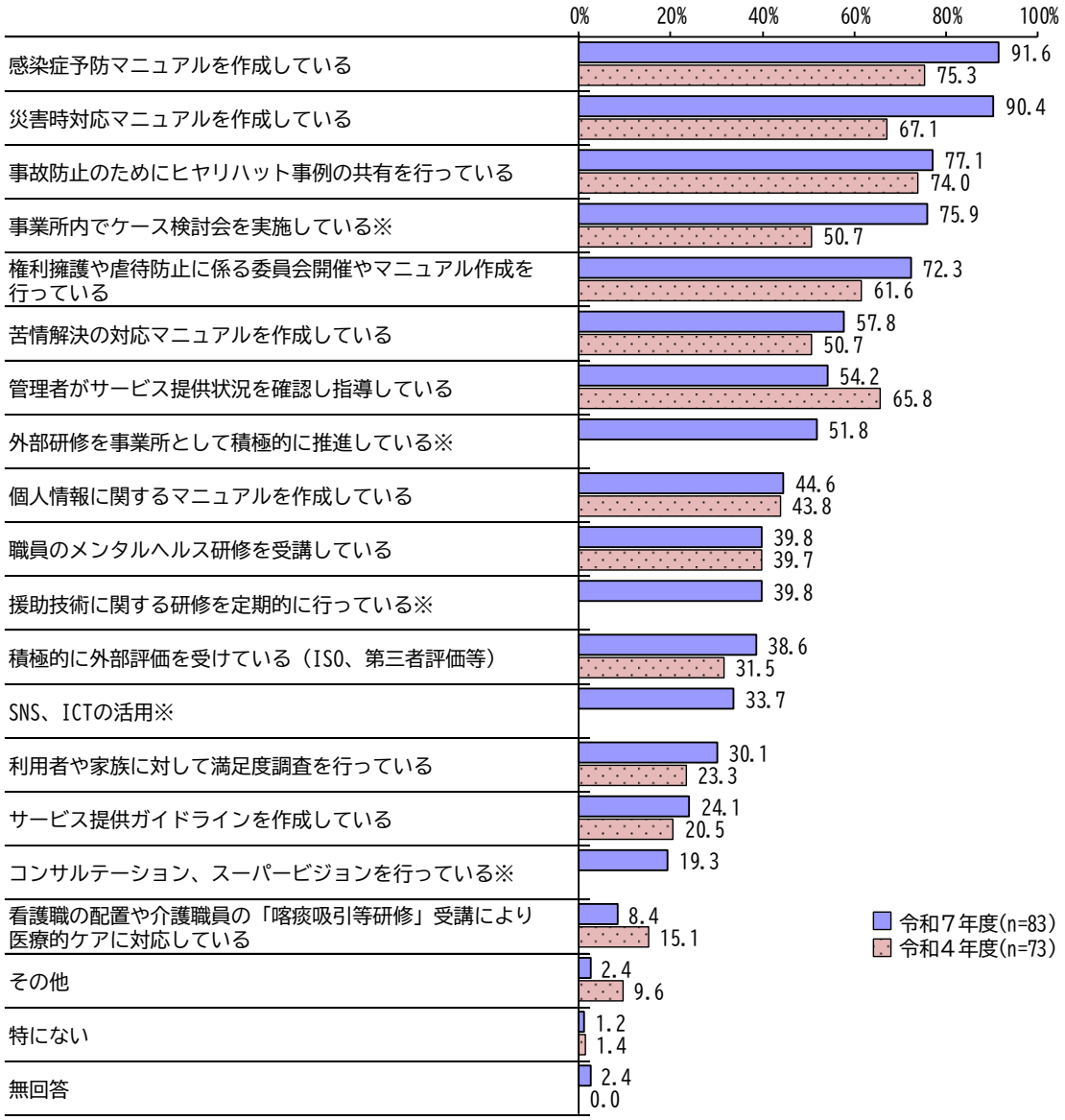
サービス体系別にみると、“訪問系”を除くいずれのサービスでも、「障害の多様化への対応」と「利用者のニーズへの対応」が４割以上で高くなっています。

“訪問系”と“地域生活支援事業”では、「特定の時間帯に集中する利用への対応」が５割半ばを超えて最も高くなっています。

“訓練系・就労系”では、「制度の複雑化への対応」が６割に達し、他のサービスより高くなっています。

（６）サービス向上のための取り組み

問 20　貴事業所がサービス向上のために取り組んでいることはなんですか。
（あてはまるものすべてに○）



※「援助技術に関する研修を定期的に行っている」「外部研修を事業所として積極的に推進している」「コンサルテーション、スーパービジョンを行っている」「SNS、ICTの活用」は令和7年度から追加
※「事業所内でケース検討会を実施している」は令和４年度は「職員が自発的に問題事例等に関するケース検討会を実施している」

サービス向上のために取組んでいることは、「感染症予防マニュアルを作成している」が 91.6%、「災害時対応マニュアルを作成している」が 90.4%と９割を超えており、次いで「事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている」77.1%、「事業所内でケース検討会を実施している」が 75.9%、「権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている」が 72.3%と７割台で続いています。

令和４年度と比較すると、「その他」「特にない」、令和７年度追加項目を除く 13 項目中 11 項目で令和４年度を上回っており、特に、「事業所内でケース検討会を実施している」が 25.2 ポイント、「災害時対応マニュアルを作成している」が 23.3 ポイント、「感染症予防マニュアルを作成している」が 16.3 ポイントと、15 ポイント以上上がっています。

【クロス集計】経営主体別

（単位:%）		n	事業所内でケース検討会を実施している	管理者がサービス提供状況を確認し指導している	個人情報に関するマニュアルを作成している	積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価等）	看護職の配置や介護職員の「喀痰吸引等研修」受講により医療的ケアに対応している
全体		83	75.9	54.2	44.6	38.6	8.4
経営主体別	社会福祉法人	31	87.1	51.6	38.7	74.2	6.5
	社団法人・財団法人	7	***85.7***	71.4	28.6	28.6	0.0
	株式会社・有限会社	34	70.6	52.9	52.9	14.7	5.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	50.0	66.7	50.0	16.7	16.7
	合同会社・合資会社	3	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3
	その他	2	***100.0***	0.0	50.0	50.0	50.0

（単位:%）		n	サービス提供ガイドラインを作成している	災害時対応マニュアルを作成している	感染症予防マニュアルを作成している	事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている	利用者や家族に対して満足度調査を行っている
全体		83	24.1	90.4	***91.6***	77.1	30.1
経営主体別	社会福祉法人	31	19.4	93.5	***96.8***	80.6	19.4
	社団法人・財団法人	7	28.6	***85.7***	***85.7***	***85.7***	42.9
	株式会社・有限会社	34	29.4	***85.3***	***85.3***	73.5	38.2
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	0.0	***100.0***	***100.0***	83.3	33.3
	合同会社・合資会社	3	66.7	***100.0***	***100.0***	66.7	0.0
	その他	2	0.0	***100.0***	***100.0***	50.0	50.0

（単位:%）		n	苦情解決の対応マニュアルを作成している	権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている	職員のメンタルヘルス研修を受講している	援助技術に関する研修を定期的に行っている	外部研修を事業所として積極的に推進している
全体		83	57.8	72.3	39.8	39.8	51.8
経営主体別	社会福祉法人	31	67.7	93.5	51.6	41.9	74.2
	社団法人・財団法人	7	28.6	71.4	42.9	42.9	57.1
	株式会社・有限会社	34	58.8	58.8	32.4	41.2	38.2
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	50.0	33.3	33.3	16.7	16.7
	合同会社・合資会社	3	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0
	その他	2	50.0	***100.0***	0.0	50.0	***100.0***

（単位:%）		n	コンサルテーション、スーパービジョンを行っている	SNS、ICTの活用	その他	特にない	無回答
全体		83	19.3	33.7	2.4	1.2	2.4
経営主体別	社会福祉法人	31	19.4	38.7	0.0	0.0	0.0
	社団法人・財団法人	7	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	17.6	35.3	2.9	2.9	5.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
	その他	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営主体別にみると、「災害時対応マニュアルを作成している」と「感染症予防マニュアルを作成している」は“社会福祉法人”で９割、“株式会社・有限会社”で８割半ばを超えて高くなっています。

また、“社会福祉法人”では、「権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている」も９割を超えており、「事業所内でケース検討会を実施している」「事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている」もそれぞれ８割を超えて高くなっています。

“株式会社・有限会社”では「事業所内でケース検討会を実施している」と「事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている」が７割を超えて高くなっています。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	事業所内でケース検討会を実施している	管理者がサービス提供状況を確認し指導している	個人情報に関するマニュアルを作成している	積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価等）	看護職の配置や介護職員の「喀痰吸引等研修」受講により医療的ケアに対応している
全体		83	75.9	54.2	44.6	38.6	8.4
サービス体系別	訪問系	21	61.9	47.6	52.4	9.5	19.0
	日中活動系	11	***90.9***	54.5	36.4	81.8	9.1
	居住系・施設系	14	50.0	28.6	14.3	78.6	0.0
	訓練系・就労系	15	93.3	73.3	53.3	66.7	6.7
	相談系	15	***93.3***	40.0	33.3	33.3	13.3
	地域生活支援事業	12	66.7	25.0	50.0	25.0	16.7
	障害児通所支援等	23	82.6	65.2	52.2	21.7	4.3

（単位:%）		n	サービス提供ガイドラインを作成している	災害時対応マニュアルを作成している	感染症予防マニュアルを作成している	事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている	利用者や家族に対して満足度調査を行っている
全体		83	24.1	90.4	***91.6***	77.1	30.1
サービス体系別	訪問系	21	28.6	***85.7***	***85.7***	71.4	23.8
	日中活動系	11	18.2	***90.9***	***90.9***	81.8	18.2
	居住系・施設系	14	7.1	85.7	***92.9***	78.6	21.4
	訓練系・就労系	15	20.0	***100.0***	***100.0***	93.3	13.3
	相談系	15	0.0	86.7	86.7	53.3	20.0
	地域生活支援事業	12	25.0	***91.7***	***91.7***	75.0	25.0
	障害児通所支援等	23	34.8	***91.3***	***91.3***	87.0	69.6

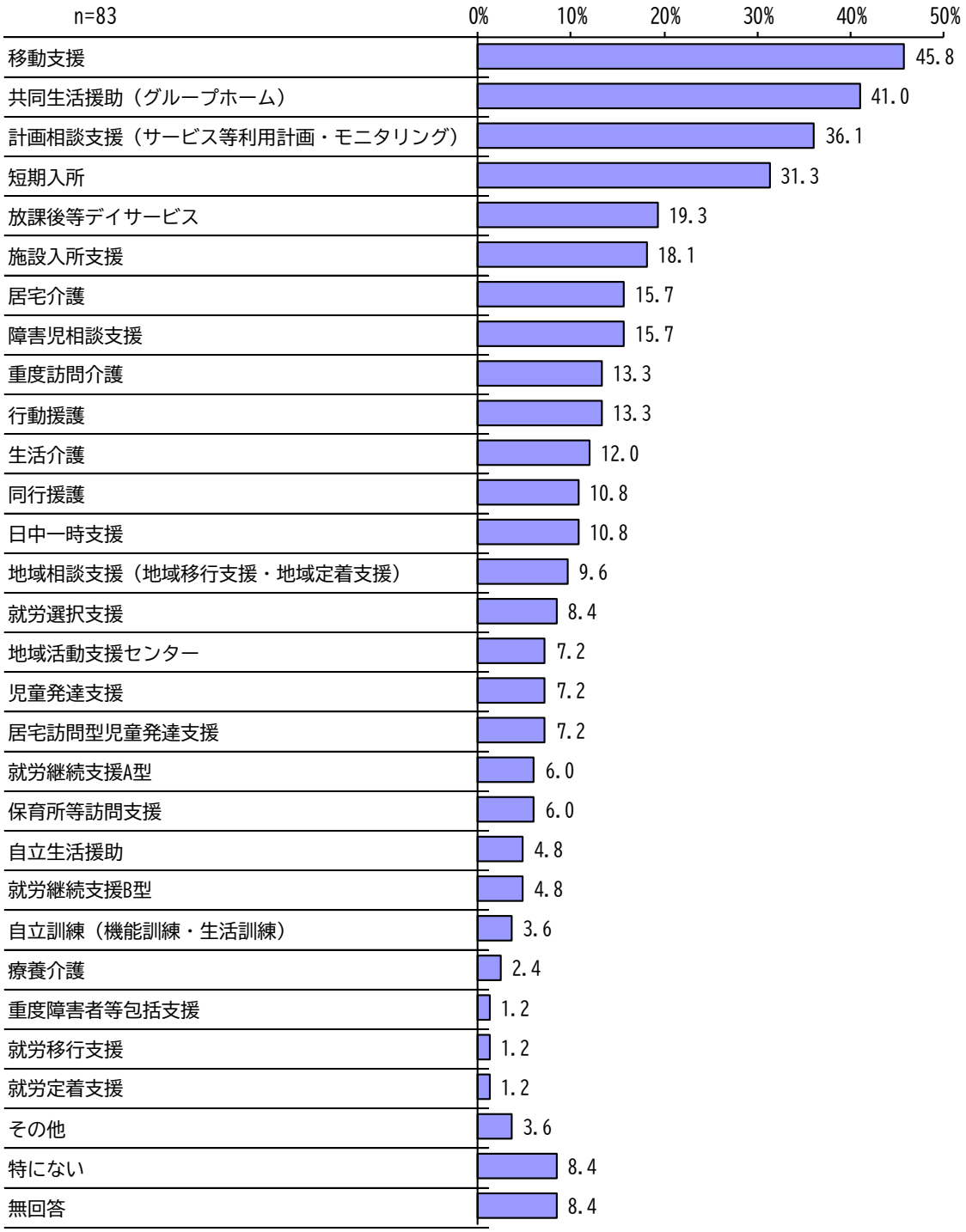
（単位:%）		n	苦情解決の対応マニュアルを作成している	権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている	職員のメンタルヘルス研修を受講している	援助技術に関する研修を定期的に行っている	外部研修を事業所として積極的に推進している
全体		83	57.8	72.3	39.8	39.8	51.8
サービス体系別	訪問系	21	47.6	57.1	33.3	42.9	23.8
	日中活動系	11	45.5	***90.9***	63.6	27.3	81.8
	居住系・施設系	14	50.0	85.7	35.7	14.3	64.3
	訓練系・就労系	15	66.7	93.3	46.7	40.0	66.7
	相談系	15	46.7	66.7	53.3	33.3	53.3
	地域生活支援事業	12	33.3	75.0	58.3	25.0	41.7
	障害児通所支援等	23	65.2	65.2	34.8	56.5	60.9

（単位:%）		n	コンサルテーション、スーパービジョンを行っている	SNS、ICTの活用	その他	特にない	無回答
全体		83	19.3	33.7	2.4	1.2	2.4
サービス体系別	訪問系	21	9.5	33.3	4.8	0.0	4.8
	日中活動系	11	27.3	36.4	0.0	0.0	9.1
	居住系・施設系	14	0.0	14.3	7.1	0.0	7.1
	訓練系・就労系	15	20.0	46.7	0.0	0.0	0.0
	相談系	15	20.0	26.7	0.0	0.0	6.7
	地域生活支援事業	12	0.0	41.7	0.0	0.0	0.0
	障害児通所支援等	23	39.1	43.5	0.0	4.3	0.0

サービス体系別にみると、「事業所内でケース検討会を実施している」、「災害時対応マニュアルを作成している」、「感染症予防マニュアルを作成している」、「事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている」、「権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている」は、いずれのサービスでも５割以上となっています。

（7）区に不足している障害福祉サービス等

問 21　現在、区に不足している障害福祉サービス等はなんだと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）※介護保険サービスは含めないでください



現在区に不足していると思う障害福祉サービス等は、「移動支援」が 45.8%と４割半ばで最も高く、次いで「共同生活援助（グループホーム）」が 41.0%、「計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング）」が 36.1%、「短期入所」が 31.3%と続いています。

【クロス集計】経営主体別

（単位:%）		n	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	重度障害者等包括支援	同行援護	短期入所	生活介護	療養介護
全体		83	15.7	13.3	13.3	1.2	10.8	31.3	12.0	2.4
経営主体別	社会福祉法人	31	12.9	9.7	9.7	0.0	3.2	51.6	22.6	3.2
	社団法人・財団法人	7	42.9	28.6	28.6	0.0	28.6	***71.4***	28.6	0.0
	株式会社・有限会社	34	14.7	17.6	17.6	2.9	17.6	11.8	0.0	2.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	***33.3***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

（単位:%）		n	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労定着支援	就労選択支援	共同生活援助（グループホーム）
全体		83	3.6	4.8	1.2	6.0	4.8	1.2	8.4	41.0
経営主体別	社会福祉法人	31	0.0	9.7	0.0	9.7	9.7	0.0	6.5	***77.4***
	社団法人・財団法人	7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	57.1
	株式会社・有限会社	34	8.8	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	50.0

（単位:%）		n	施設入所支援	地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）	計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング）	地域活動支援センター	移動支援	日中一時支援	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援
全体		83	18.1	9.6	36.1	7.2	***45.8***	10.8	7.2	7.2
経営主体別	社会福祉法人	31	38.7	12.9	51.6	3.2	51.6	12.9	0.0	0.0
	社団法人・財団法人	7	0.0	0.0	42.9	0.0	57.1	42.9	57.1	14.3
	株式会社・有限会社	34	5.9	5.9	20.6	11.8	***38.2***	5.9	5.9	14.7
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	16.7	16.7	33.3	16.7	***50.0***	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	0.0	0.0	***33.3***	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	50.0	***100.0***	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	障害児相談支援	その他	特にない	無回答
全体		83	19.3	6.0	15.7	3.6	8.4	8.4
経営主体別	社会福祉法人	31	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	6.5
	社団法人・財団法人	7	57.1	14.3	42.9	28.6	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	32.4	8.8	17.6	0.0	8.8	14.7
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	その他	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

経営主体別にみると、“社会福祉法人”では、「共同生活援助（グループホーム）」が 77.4%と７割半ばを超えて最も高くなっています。また、「短期入所」と「計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング）」も５割を超えて高くなっています。

“株式会社・有限会社”では「移動支援」と「放課後等デイサービス」が３割を超えて高くなっています。

また、「移動支援」は、いずれの経営主体も不足しているとの回答がありました。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	重度障害者等包括支援	同行援護	短期入所	生活介護	療養介護
全体		83	15.7	13.3	13.3	1.2	10.8	31.3	12.0	2.4
サービス体系別	訪問系	21	***23.8***	***23.8***	9.5	4.8	14.3	14.3	0.0	4.8
	日中活動系	11	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	***72.7***	27.3	9.1
	居住系・施設系	14	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	***42.9***	7.1	0.0
	訓練系・就労系	15	6.7	6.7	13.3	0.0	6.7	33.3	13.3	6.7
	相談系	15	33.3	13.3	6.7	0.0	13.3	60.0	13.3	0.0
	地域生活支援事業	12	25.0	25.0	8.3	8.3	25.0	***41.7***	0.0	8.3
	障害児通所支援等	23	8.7	8.7	21.7	0.0	13.0	21.7	17.4	0.0

（単位:%）		n	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労定着支援	就労選択支援	共同生活援助(グループホーム)
全体		83	3.6	4.8	1.2	6.0	4.8	1.2	8.4	41.0
サービス体系別	訪問系	21	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5
	日中活動系	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	63.6
	居住系・施設系	14	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	***42.9***
	訓練系・就労系	15	6.7	0.0	0.0	13.3	6.7	0.0	13.3	***80.0***
	相談系	15	0.0	20.0	0.0	13.3	0.0	0.0	13.3	60.0
	地域生活支援事業	12	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	33.3
	障害児通所支援等	23	8.7	0.0	4.3	0.0	13.0	4.3	13.0	21.7

（単位:%）		n	施設入所支援	地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援)	計画相談支援(サービス等利用計画・モニタリング)	地域活動支援センター	移動支援	日中一時支援	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援
全体		83	18.1	9.6	36.1	7.2	***45.8***	10.8	7.2	7.2
サービス体系別	訪問系	21	4.8	9.5	14.3	4.8	19.0	9.5	9.5	9.5
	日中活動系	11	36.4	9.1	54.5	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0
	居住系・施設系	14	28.6	14.3	35.7	0.0	35.7	14.3	0.0	0.0
	訓練系・就労系	15	40.0	6.7	40.0	13.3	33.3	6.7	0.0	0.0
	相談系	15	20.0	20.0	60.0	0.0	***66.7***	20.0	13.3	6.7
	地域生活支援事業	12	8.3	25.0	33.3	0.0	***41.7***	33.3	8.3	16.7
	障害児通所支援等	23	4.3	4.3	39.1	13.0	***65.2***	8.7	8.7	13.0

（単位:%）		n	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	障害児相談支援	その他	特にない	無回答
全体		83	19.3	6.0	15.7	3.6	8.4	8.4
サービス体系別	訪問系	21	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	19.0
	日中活動系	11	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1
	居住系・施設系	14	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	14.3
	訓練系・就労系	15	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
	相談系	15	20.0	6.7	13.3	0.0	0.0	13.3
	地域生活支援事業	12	16.7	0.0	16.7	0.0	8.3	8.3
	障害児通所支援等	23	47.8	21.7	43.5	8.7	4.3	0.0

サービス体系別にみると、“訪問系”では「居宅介護」と「重度訪問介護」が最も高くなっています。

“訪問系”を除くいずれのサービスでも、「短期入所」、「共同生活援助（グループホーム）」、「計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング）」、「移動支援」で２割以上となっています。

（8）今後参入を考えているサービス等

問22　貴事業所で今後参入を考えている障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービス等をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）※介護保険サービスは含めないでください

今後参入を考えているサービス等は、「共同生活援助（グループホーム）」が 9.6％と１割近くで最も高く、次いで「放課後等デイサービス」と「保育所等訪問支援」がともに 6.0％で続いています。

一方、「参入は考えていない」は 62.7％と６割を超えています。

【クロス集計】経営主体別

（単位:%）		n	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	重度障害者等包括支援	同行援護	短期入所	生活介護	療養介護
全体		83	0.0	0.0	2.4	1.2	1.2	1.2	3.6	0.0
経営主体別	社会福祉法人	31	0.0	0.0	3.2	0.0	3.2	3.2	6.5	0.0
	社団法人・財団法人	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	0.0	0.0	2.9	2.9	0.0	0.0	2.9	0.0
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労定着支援	就労選択支援	共同生活援助（グループホーム）
全体		83	1.2	1.2	1.2	0.0	3.6	1.2	3.6	***9.6***
経営主体別	社会福祉法人	31	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***22.6***
	社団法人・財団法人	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	2.9	0.0	2.9	0.0	8.8	2.9	8.8	2.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

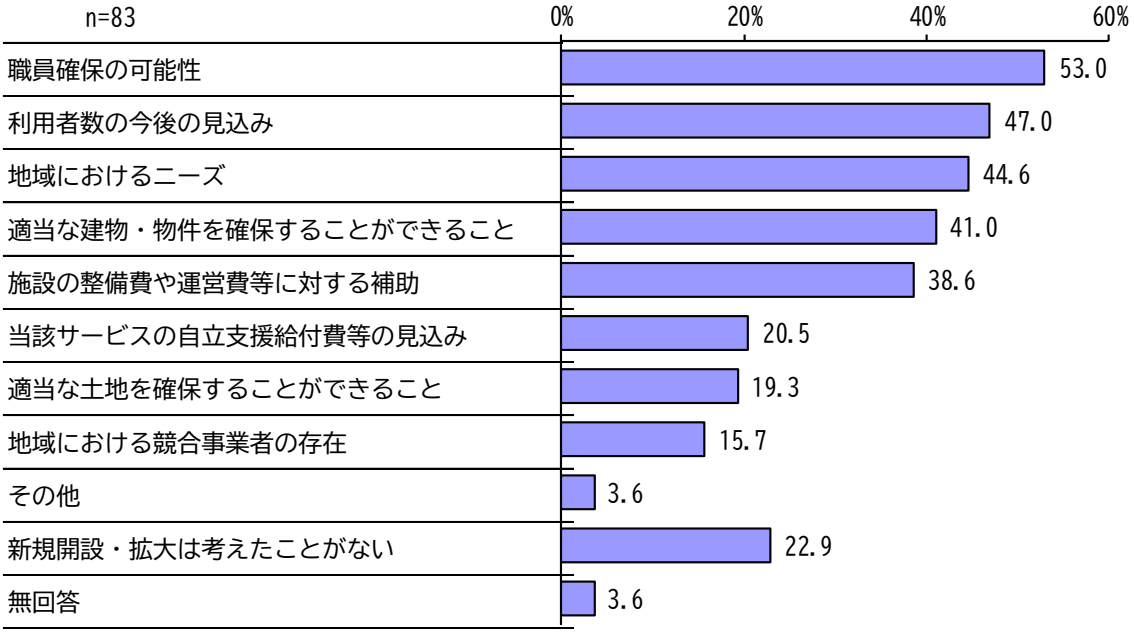
（単位:%）		n	施設入所支援	地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）	計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング）	地域活動支援センター	移動支援	日中一時支援	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援
全体		83	1.2	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	3.6	2.4
経営主体別	社会福祉法人	31	3.2	0.0	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	社団法人・財団法人	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	8.8	5.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	障害児相談支援	その他	参入は考えていない	無回答
全体		83	6.0	6.0	0.0	1.2	62.7	9.6
経営主体別	社会福祉法人	31	0.0	0.0	0.0	3.2	64.5	6.5
	社団法人・財団法人	7	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	14.3
	株式会社・有限会社	34	***14.7***	***14.7***	0.0	0.0	47.1	11.8
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

経営主体別にみると、「参入は考えていない」はすべての経営主体で４割半ばを超えています。“社会福祉法人”では「共同生活援助（グループホーム）」、“株式会社・有限会社”では「放課後等デイサービス」と「保育所等訪問支援」が最も高くなっています。

（９）事業拡大・新規参入する上で重視すること

問 23　貴事業所が事業の新規開設・拡大する上で重視することはなんですか。
（あてはまるものすべてに○）



事業拡大・新規参入する上で重視することは、「職員確保の可能性」が 53.0%と５割を超えて最も高く、次いで「利用者数の今後の見込み」が 47.0%、「地域におけるニーズ」が 44.6%、「適当な建物・物件を確保することができること」が 41.0%と４割台で続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

（単位:%）		n	利用者数の今後の見込み	地域におけるニーズ	地域における競合事業者の存在	職員確保の可能性	適当な土地を確保することができること	適当な建物・物件を確保することができること
全体		83	47.0	44.6	15.7	***53.0***	19.3	41.0
経営主体別	社会福祉法人	31	48.4	58.1	16.1	58.1	35.5	***61.3***
	社団法人・財団法人	7	42.9	14.3	14.3	***57.1***	14.3	42.9
	株式会社・有限会社	34	50.0	41.2	20.6	***52.9***	11.8	26.5
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	16.7	***50.0***	0.0	16.7	0.0	33.3
	合同会社・合資会社	3	***66.7***	0.0	0.0	***66.7***	0.0	0.0
	その他	2	***50.0***	***50.0***	0.0	***50.0***	0.0	***50.0***
サービス体系別	訪問系	21	19.0	14.3	0.0	***42.9***	0.0	9.5
	日中活動系	11	36.4	***54.5***	18.2	***54.5***	36.4	45.5
	居住系・施設系	14	35.7	42.9	7.1	35.7	21.4	***57.1***
	訓練系・就労系	15	***86.7***	73.3	33.3	73.3	53.3	73.3
	相談系	15	33.3	***53.3***	6.7	***53.3***	13.3	***53.3***
	地域生活支援事業	12	8.3	41.7	0.0	***50.0***	0.0	16.7
	障害児通所支援等	23	56.5	52.2	21.7	***60.9***	8.7	39.1

（単位:%）		n	施設の整備費や運営費等に対する補助	当該サービスの自立支援給付費等の見込み	その他	新規開設・拡大は考えたことがない	無回答
全体		83	38.6	20.5	3.6	22.9	3.6
経営主体別	社会福祉法人	31	58.1	32.3	3.2	19.4	0.0
	社団法人・財団法人	7	***57.1***	14.3	28.6	28.6	0.0
	株式会社・有限会社	34	20.6	17.6	0.0	23.5	8.8
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0
	合同会社・合資会社	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
サービス体系別	訪問系	21	4.8	0.0	0.0	28.6	14.3
	日中活動系	11	***54.5***	27.3	0.0	27.3	0.0
	居住系・施設系	14	50.0	14.3	7.1	21.4	0.0
	訓練系・就労系	15	53.3	46.7	0.0	0.0	0.0
	相談系	15	40.0	20.0	6.7	40.0	0.0
	地域生活支援事業	12	16.7	8.3	0.0	33.3	0.0
	障害児通所支援等	23	56.5	21.7	4.3	17.4	0.0

経営主体別にみると、“社会福祉法人”と“特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）”を除くいずれの経営主体でも「職員確保の可能性」が最も高く、回答数が 10 件以上の“株式会社・有限会社”では 52.9%と５割を超えています。

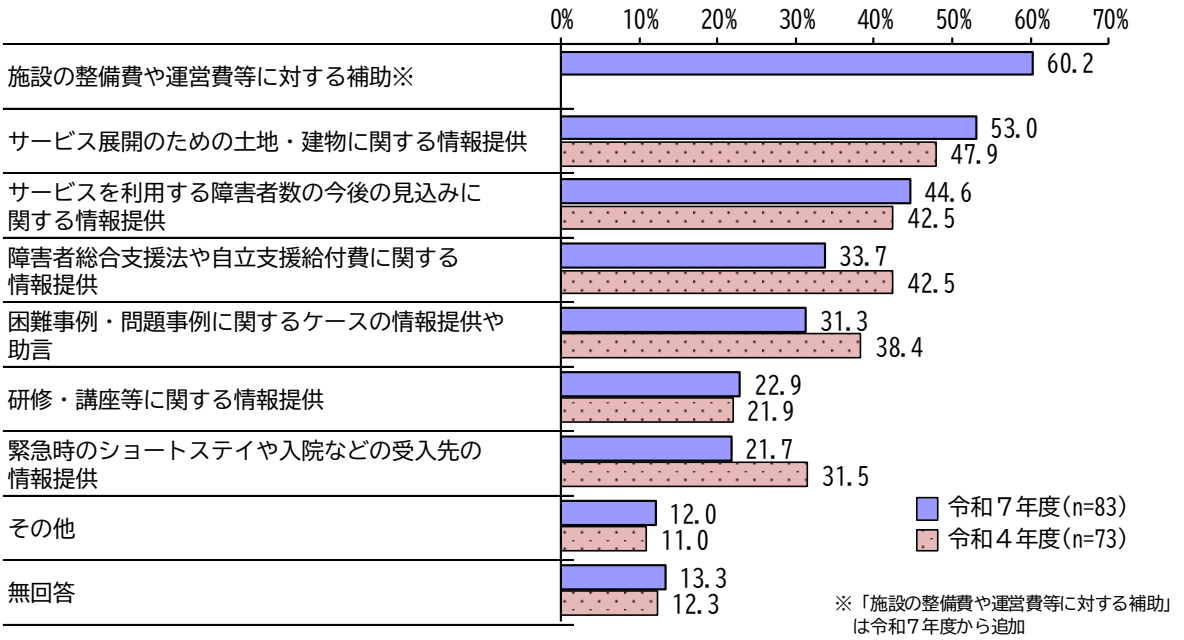
また、“社会福祉法人”では「適当な建物・物件を確保することができること」が 61.3%と６割を超えて最も高く、「施設の整備費や運営費等に対する補助」も５割半ばを超えて高くなっています。

サービス体系別にみると、“居住系・施設系”と“訓練系・就労系”を除くいずれのサービスでも「職員確保の可能性」が最も高くなっています。

“訓練系・就労系”では、「利用者数の今後の見込み」が 86.7%と８割半ばを超えて最も高く、「地域におけるニーズ」、「職員確保の可能性」、「適当な建物・物件を確保することができること」も７割を超えて、他のサービスより高くなっています。

（10）新規参入に必要なこと

問 24　貴事業所が障害福祉サービスへの新規参入を進めていくために必要と思うことはなんですか。（あてはまるものすべてに○）



新規参入を進めるために必要なことは、「施設の整備費や運営費等に対する補助」が 60.2%と６割に達し最も高く、次いで「サービス展開のための土地・建物に関する情報提供」が 53.0%、「サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供」が 44.6%と続いています。

令和４年度と比較すると、「緊急時のショートステイや入院などの受入先の情報提供」が 9.8 ポイント、「障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供」が 8.8 ポイント、「困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言」が 7.1 ポイント下がっており、反対に「サービス展開のための土地・建物に関する情報提供」が 5.1 ポイント上がっています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

（単位:%）		n	障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供	サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供	サービス展開のための土地・建物に関する情報提供	施設の整備費や運営費等に対する補助	困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言
全体		83	33.7	44.6	53.0	***60.2***	31.3
経営主体別	社会福祉法人	31	29.0	61.3	***83.9***	80.6	35.5
	社団法人・財団法人	7	42.9	57.1	57.1	***100.0***	42.9
	株式会社・有限会社	34	38.2	32.4	32.4	***44.1***	29.4
	特定非営利活動法人（NPO法人）	6	***33.3***	0.0	16.7	***33.3***	***33.3***
	合同会社・合資会社	3	0.0	***66.7***	33.3	0.0	0.0
	その他	2	***50.0***	***50.0***	***50.0***	***50.0***	0.0
サービス体系別	訪問系	21	***23.8***	9.5	4.8	14.3	14.3
	日中活動系	11	18.2	63.6	***72.7***	***72.7***	45.5
	居住系・施設系	14	7.1	35.7	***57.1***	***57.1***	35.7
	訓練系・就労系	15	46.7	73.3	73.3	***86.7***	46.7
	相談系	15	33.3	60.0	66.7	***73.3***	33.3
	地域生活支援事業	12	25.0	16.7	33.3	***41.7***	16.7
	障害児通所支援等	23	47.8	52.2	65.2	***69.6***	26.1

（単位:%）		n	研修・講座等に関する情報提供	緊急時のショートステイや入院などの受入先の情報提供	その他	無回答
全体		83	22.9	21.7	12.0	13.3
経営主体別	社会福祉法人	31	22.6	35.5	0.0	9.7
	社団法人・財団法人	7	28.6	28.6	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	26.5	11.8	23.5	17.6
	特定非営利活動法人（NPO法人）	6	16.7	16.7	33.3	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	0.0	33.3
	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0
サービス体系別	訪問系	21	14.3	14.3	19.0	23.8
	日中活動系	11	27.3	45.5	0.0	9.1
	居住系・施設系	14	14.3	21.4	7.1	21.4
	訓練系・就労系	15	33.3	40.0	0.0	0.0
	相談系	15	13.3	26.7	6.7	20.0
	地域生活支援事業	12	8.3	16.7	25.0	8.3
	障害児通所支援等	23	26.1	8.7	17.4	8.7

経営主体別にみると、“社会福祉法人”では、「サービス展開のための土地・建物に関する情報提供」と「施設の整備費や運営費等に対する補助」が８割を超えて高くなっています。

“株式会社・有限会社”では「施設の整備費や運営費等に対する補助」が 44.1%お４割を超えて最も高くなっています。

サービス体系別にみると、“訪問系”では「障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供」が２割を超えて最も高くなっています。

それ以外のサービスではいずれも「施設の整備費や運営費等に対する補助」が最も高く、特に“訓練系・就労系”で８割半ば、“日中活動系”と“相談系”で７割を超えて高くなっています。

また、“訓練系・就労系”では、「サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供」と「サービス展開のための土地・建物に関する情報提供」、“日中活動系”では「サービス展開のための土地・建物に関する情報提供」も７割を超えて高くなっています。

（11）新規参入や事業継続のために必要な支援

問25　障害福祉サービス等の新規参入や事業継続のために行政等によりどのような支援が必要か、ご自由にお書きください。

新規参入や事業継続のために必要な支援に関する意見は 52 件ありました。「補助・助成」についての意見が 34.6％と最も多くなっています。

主な意見は以下の通りです。

単位（％）

	総数	補助・助成	施設・土地	人材確保・育成	報酬	相談・情報提供	諸手続きの緩和	事業	利用者の確保	その他
自由意見	52	34.6	13.5	11.5	11.5	11.5	7.7	3.8	3.8	1.9

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

１．補助・助成（18 件）

・駐車場やテナントの継続的な賃料補助です。23 区内が同一報酬であるにも関わらず、都心部と郊外部の固定費に差がありすぎるため。
・物価・人件費高騰の支援等
・事業所開設に伴う設備整備費や運営費への補助
・家賃助成や初期費用の補助など経済的な支援

２．施設・土地（７件）

・区有地をかりたい
・土地の確保
・事業所開設に伴う設備整備費や運営費への補助
・事業所の転居支援：文京区は事業所として適した広さの土地もなく、あったとしても地代が高く、自社ビル所有はおろか転居も難しい。区として、空きビルや土地、資金面での補助などの提供支援をぜひお願いしたい。

３．人材確保・人材育成（６件）

・人材確保と定着が課題です。
・人材育成の支援

４．報酬（６件）

・サービス提供の単価が低いことが課題です。ヘルパーさんの給与も低い。
・報酬改定で単価を減額するのは、やめてほしい。職員の給与等の増額になるような処遇面を手厚くしてほしい。

５．相談・情報提供（６件）

・円滑な事業開設が出来るよう、書類整備などのアドバイスを頂ける機会が得られるとありがたい。
・サービス利用に関する不安や運営上の課題に対応するための専門的な相談窓口があるとありがたい。
・既存にどんな施設があるか、地域における同様の施設が足りているか。地域のニーズと、その供給バランスの情報提供があると参入の検討材料として助かると思います。
・具体的な年間予算と採算が取れない場合、運営費に対する補助予算がどれほどあるかの情報提供

６．諸手続きの緩和（５件）

・実地調査など提出書類のデジタル化があると事務業務が減りありがたいです。
・新規参入に伴う諸手続きの概要と要点を知る支援

７．事業（２件）

・移動支援が必要と思う。送迎できない為、通所できない人が多い。ある程度、新規参入の制限も必要かと思う。
・職員の支援を多く必要とする利用者を受け入れる為の生活介護、GH 等の事業所。

８．利用者の確保（２件）

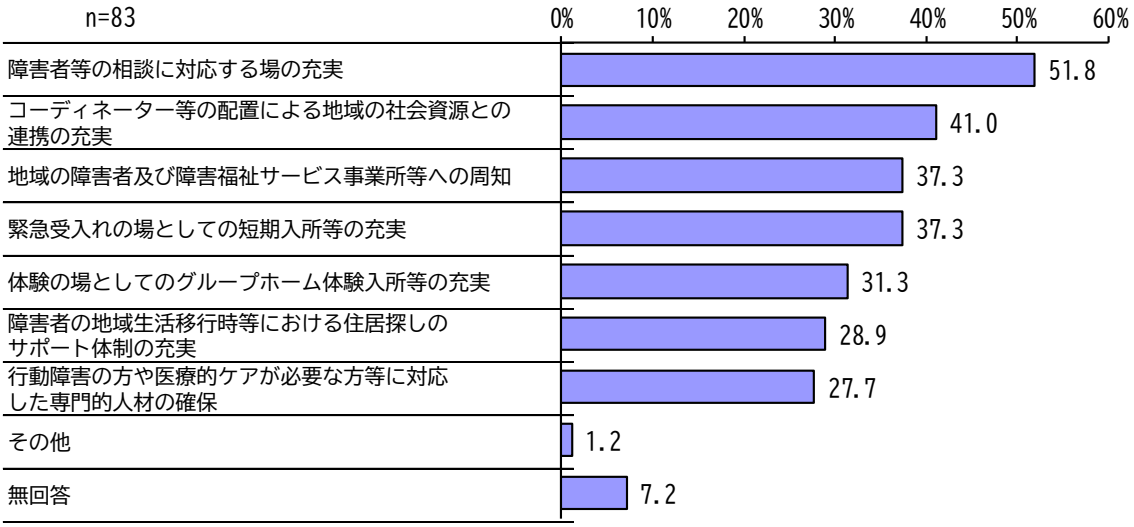
・利用者の募集にける支援。事業所努力であることは前提でありますが、生きづらい方やその家族が多くいますが、そこに具体的なアプローチや仕組みの支援をお願いしたい。久しく地域連携等に取り組んでいるものの形式的で実際の交流は一握りです。

９．その他（１件）

・現在の支援で現状は十分

（12）地域生活支援拠点の機能充実に向けて必要なこと

問 26　貴事業所が地域生活支援拠点の機能の充実に向けて必要と思うことはなんですか。
（あてはまるものすべてに○）



地域生活支援拠点の機能充実に向けて必要なことは、「障害者等の相談に対応する場の充実」が 51.8%と５割を超えて最も高く、次いで「コーディネーター等の配置による地域の社会資源との連携の充実」が 41.0%、「地域の障害者及び障害福祉サービス事業所等への周知」と「緊急受入れの場としての短期入所等の充実」がともに 37.3%と続いています。

【クロス集計】サービス体系別

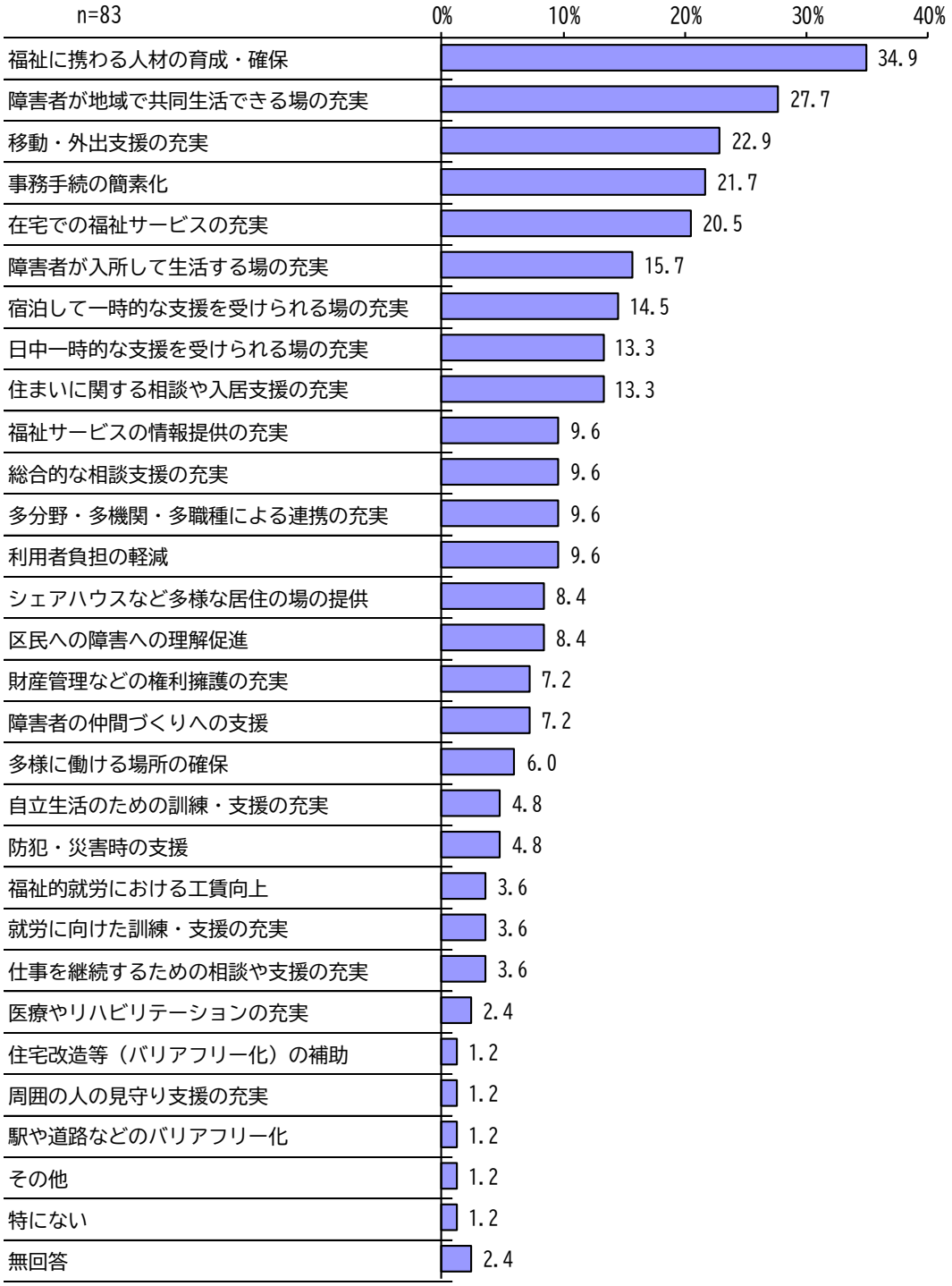
（単位:%）		n	地域の障害者及び障害福祉サービス事業所等への周知	障害者等の相談に対応する場の充実	コーディネーター等の配置による地域の社会資源との連携の充実	緊急受入れの場としての短期入所等の充実	体験の場としてのグループホーム体験入所等の充実
全体		83	37.3	***51.8***	41.0	37.3	31.3
サービス体系別	訪問系	21	***52.4***	47.6	23.8	23.8	9.5
	日中活動系	11	63.6	36.4	***72.7***	63.6	45.5
	居住系・施設系	14	42.9	***64.3***	35.7	35.7	50.0
	訓練系・就労系	15	26.7	53.3	53.3	***66.7***	53.3
	相談系	15	26.7	26.7	33.3	40.0	***60.0***
	地域生活支援事業	12	***66.7***	50.0	50.0	41.7	33.3
	障害児通所支援等	23	39.1	***60.9***	52.2	21.7	17.4

（単位:%）		n	行動障害の方や医療的ケアが必要な方等に対応した専門的人材の確保	障害者の地域生活移行時等における住居探しのサポート体制の充実	その他	無回答
全体		83	27.7	28.9	1.2	7.2
サービス体系別	訪問系	21	23.8	9.5	0.0	19.0
	日中活動系	11	45.5	27.3	0.0	0.0
	居住系・施設系	14	7.1	35.7	0.0	0.0
	訓練系・就労系	15	33.3	60.0	0.0	0.0
	相談系	15	26.7	***60.0***	0.0	6.7
	地域生活支援事業	12	8.3	33.3	0.0	0.0
	障害児通所支援等	23	34.8	8.7	4.3	4.3

サービス体系別にみると、サービスごとに最も高い項目が異なっていますが、「地域の障害者及び障害福祉サービス事業所等への周知」、「障害者等の相談に対応する場の充実」、「コーディネーター等の配置による地域の社会資源との連携の充実」、「緊急受入れの場としての短期入所等の充実」はいずれの項目でも２割を超えています。

（13）今後の障害福祉施策充実に必要なこと

問 27　今後の障害福祉施策の充実に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。
（○は３つまで）



今後の障害福祉施策充実に向けて必要なことは、「福祉に携わる人材の育成・確保」が 34.9%と３割半ばで最も高く、次いで「障害者が地域で共同生活できる場の充実」が 27.7%、「移動・外出支援の充実」が 22.9%と続いています。

【クロス集計】経営主体別

（単位:%）		n	在宅での福祉サービスの充実	障害者が入所して生活する場の充実	障害者が地域で共同生活できる場の充実	日中一時的な支援を受けられる場の充実	宿泊して一時的な支援を受けられる場の充実	住宅改造等(バリアフリー化)の補助	住まいに関する相談や入居支援の充実	シェアハウスなど多様な居住の場の提供
全体		83	20.5	15.7	27.7	13.3	14.5	1.2	13.3	8.4
経営主体別	社会福祉法人	31	9.7	32.3	***45.2***	12.9	25.8	0.0	19.4	12.9
	社団法人・財団法人	7	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3
	株式会社・有限会社	34	29.4	2.9	5.9	14.7	8.8	2.9	8.8	2.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	16.7	16.7	***66.7***	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7
	合同会社・合資会社	3	***66.7***	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	福祉サービスの情報提供の充実	財産管理などの権利擁護の充実	総合的な相談支援の充実	区民への障害への理解促進	周囲の人の見守り支援の充実	移動・外出支援の充実	駅や道路などのバリアフリー化	自立生活のための訓練・支援の充実
全体		83	9.6	7.2	9.6	8.4	1.2	22.9	1.2	4.8
経営主体別	社会福祉法人	31	0.0	6.5	3.2	6.5	0.0	6.5	0.0	3.2
	社団法人・財団法人	7	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	14.7	5.9	14.7	8.8	0.0	***38.2***	2.9	8.8
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	***66.7***	0.0	0.0
	その他	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	福祉的就労における工賃向上	就労に向けた訓練・支援の充実	多様に働ける場所の確保	仕事を継続するための相談や支援の充実	医療やリハビリテーションの充実	福祉に携わる人材の育成・確保	多分野・多機関・多職種による連携の充実	障害者の仲間づくりへの支援
全体		83	3.6	3.6	6.0	3.6	2.4	***34.9***	9.6	7.2
経営主体別	社会福祉法人	31	3.2	3.2	9.7	6.5	0.0	38.7	12.9	16.1
	社団法人・財団法人	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	5.9	2.9	5.9	0.0	2.9	26.5	11.8	0.0
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	16.7
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***66.7***	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0

（単位:%）		n	防犯・災害時の支援	事務手続の簡素化	利用者負担の軽減	その他	特にない	無回答
全体		83	4.8	21.7	9.6	1.2	1.2	2.4
経営主体別	社会福祉法人	31	3.2	32.3	3.2	0.0	0.0	0.0
	社団法人・財団法人	7	0.0	***42.9***	0.0	14.3	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	34	2.9	11.8	20.6	0.0	2.9	5.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営主体別にみると、“社会福祉法人”では、「障害者が地域で共同生活できる場の充実」が 45.2%と４割半ばで最も高くなっています。また、「障害者が入所して生活する場の充実」、「福祉に携わる人材の育成・確保」、「事務手続の簡素化」も３割を超えています。

“株式会社・有限会社”では「移動・外出支援の充実」が 38.2%と３割半ばを超えて最も高く、「在宅での福祉サービスの充実」、「福祉に携わる人材の育成・確保」、「利用者負担の軽減」も２割を超えています。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	在宅での福祉サービスの充実	障害者が入所して生活する場の充実	障害者が地域で共同生活できる場の充実	日中一時的な支援を受けられる場の充実	宿泊して一時的な支援を受けられる場の充実	住宅改造等(バリアフリー化)の補助	住まいに関する相談や入居支援の充実	シェアハウスなど多様な居住の場の提供
全体		83	20.5	15.7	27.7	13.3	14.5	1.2	13.3	8.4
サービス体系別	訪問系	21	***52.4***	4.8	14.3	4.8	14.3	4.8	9.5	0.0
	日中活動系	11	9.1	36.4	***54.5***	0.0	27.3	0.0	0.0	9.1
	居住系・施設系	14	7.1	14.3	14.3	14.3	21.4	0.0	14.3	7.1
	訓練系・就労系	15	26.7	***33.3***	***33.3***	13.3	20.0	0.0	26.7	13.3
	相談系	15	0.0	20.0	***46.7***	6.7	13.3	0.0	20.0	6.7
	地域生活支援事業	12	33.3	0.0	25.0	0.0	25.0	8.3	8.3	0.0
	障害児通所支援等	23	8.7	4.3	30.4	26.1	4.3	0.0	0.0	13.0

（単位:%）		n	福祉サービスの情報提供の充実	財産管理などの権利擁護の充実	総合的な相談支援の充実	区民への障害への理解促進	周囲の人の見守り支援の充実	移動・外出支援の充実	駅や道路などのバリアフリー化	自立生活のための訓練・支援の充実
全体		83	9.6	7.2	9.6	8.4	1.2	22.9	1.2	4.8
サービス体系別	訪問系	21	9.5	0.0	9.5	14.3	0.0	33.3	0.0	0.0
	日中活動系	11	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
	居住系・施設系	14	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0
	訓練系・就労系	15	0.0	13.3	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0	13.3
	相談系	15	6.7	13.3	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0
	地域生活支援事業	12	8.3	0.0	16.7	16.7	0.0	25.0	0.0	0.0
	障害児通所支援等	23	21.7	4.3	21.7	8.7	4.3	***34.8***	4.3	8.7

（単位:%）		n	福祉的就労における工賃向上	就労に向けた訓練・支援の充実	多様に働ける場所の確保	仕事を継続するための相談や支援の充実	医療やリハビリテーションの充実	福祉に携わる人材の育成・確保	多分野・多機関・多職種による連携の充実	障害者の仲間づくりへの支援
全体		83	3.6	3.6	6.0	3.6	2.4	***34.9***	9.6	7.2
サービス体系別	訪問系	21	0.0	0.0	4.8	0.0	4.8	38.1	9.5	0.0
	日中活動系	11	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	45.5	27.3	9.1
	居住系・施設系	14	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	***64.3***	14.3	0.0
	訓練系・就労系	15	6.7	6.7	13.3	6.7	0.0	26.7	6.7	0.0
	相談系	15	0.0	0.0	13.3	6.7	0.0	33.3	20.0	20.0
	地域生活支援事業	12	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	***58.3***	25.0	8.3
	障害児通所支援等	23	4.3	4.3	0.0	8.7	0.0	***34.8***	8.7	13.0

（単位:%）		n	防犯・災害時の支援	事務手続の簡素化	利用者負担の軽減	その他	特にない	無回答
全体		83	4.8	21.7	9.6	1.2	1.2	2.4
サービス体系別	訪問系	21	4.8	9.5	9.5	0.0	4.8	9.5
	日中活動系	11	18.2	45.5	9.1	0.0	0.0	0.0
	居住系・施設系	14	7.1	50.0	21.4	0.0	0.0	0.0
	訓練系・就労系	15	0.0	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0
	相談系	15	13.3	40.0	6.7	0.0	0.0	0.0
	地域生活支援事業	12	8.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0
	障害児通所支援等	23	4.3	13.0	8.7	4.3	0.0	0.0

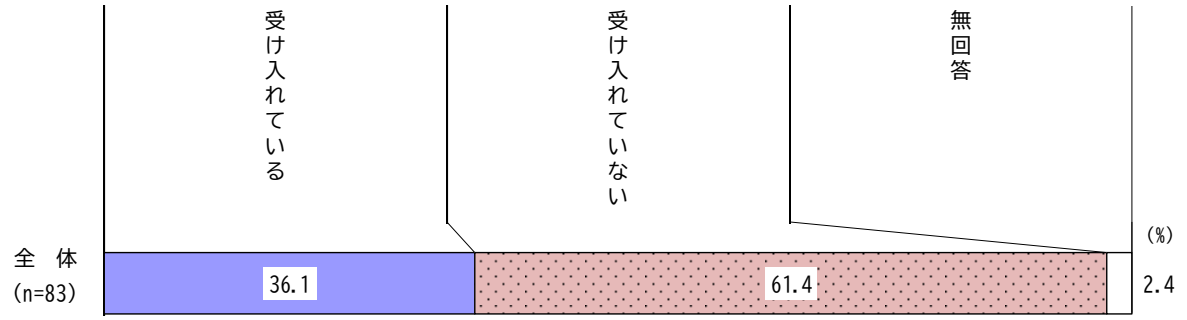
サービス体系別にみると、いずれのサービスでも「福祉に携わる人材の育成・確保」が２割半ばを超えて高く、特に“居住系・施設系”では６割、“地域生活支援事業”では５割半ばを超えています。

また、“訪問系”では、「在宅での福祉サービスの充実」が、“日中活動系”では「障害者が地域で共同生活できる場の充実」が、“居住系・施設系”では「事務手続の簡素化」が５割以上で他のサービスより高くなっています。

４　強度行動障害のある方について

（１）強度行動障害のある方の受け入れの有無

問 28　貴事業所において、現在、強度行動障害のある方の受け入れを行っていますか。
（○はひとつ）



強度行動障害のある方を受け入れているかについては、「受け入れている」が 36.1%、「受け入れていない」は 61.4%となっています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

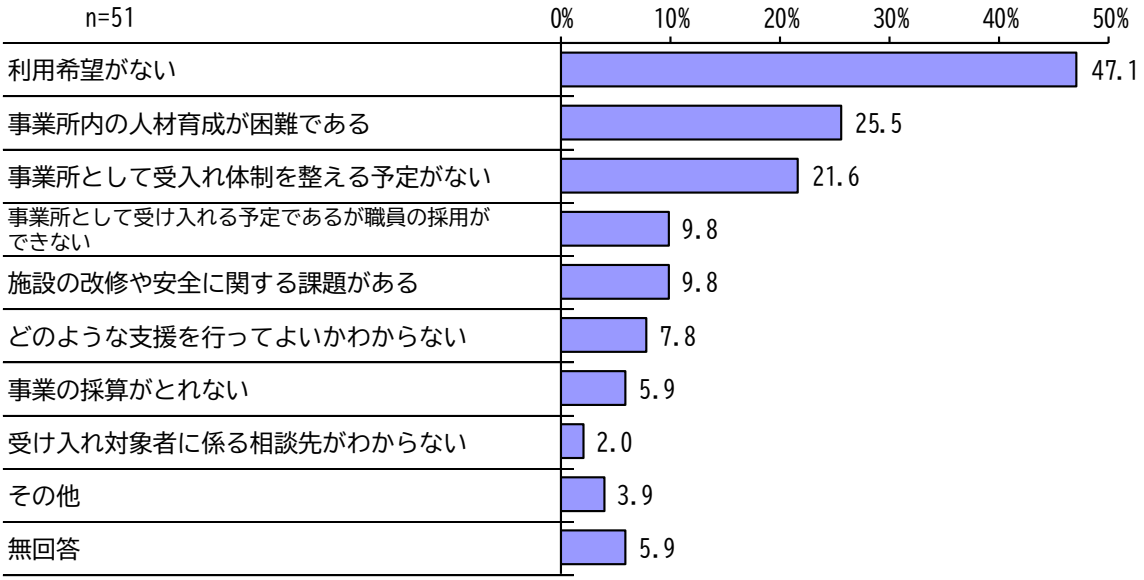
（単位:%）		n	受け入れている	受け入れていない	無回答
全体		83	36.1	***61.4***	2.4
経営主体別	社会福祉法人	31	45.2	***54.8***	0.0
	社団法人・財団法人	7	***71.4***	28.6	0.0
	株式会社・有限会社	34	29.4	***64.7***	5.9
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	16.7	***83.3***	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	***100.0***	0.0
	その他	2	0.0	***100.0***	0.0
サービス体系別	訪問系	21	19.0	***71.4***	9.5
	日中活動系	11	***90.9***	9.1	0.0
	居住系・施設系	14	42.9	***57.1***	0.0
	訓練系・就労系	15	40.0	***60.0***	0.0
	相談系	15	***60.0***	40.0	0.0
	地域生活支援事業	12	25.0	***75.0***	0.0
	障害児通所支援等	23	34.8	***65.2***	0.0

経営主体別にみると、「受け入れている」は“社会福祉法人”、“社団法人・財団法人”、“株式会社・有限会社”、“特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）”で回答がありました。

サービス体系別にみると、「受け入れている」は“日中活動系”と“相談系”で「受け入れていない」よりも高くなっています。

（２）強度行動障害のある方を受け入れていない理由

問 28 で「受け入れていない」と回答された方にお聞きします。
問 28-1　強度行動障害のある方の受け入れを行っていない理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）



強度行動障害のある方を受け入れていない理由は、「利用希望がない」が 47.1%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「事業所内の人材育成が困難である」が 25.5%、「事業所として受入れ体制を整える予定がない」が 21.6%と２割台で続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

（単位:%）		n	事業所内の人材育成が困難である	事業所として受け入れる予定であるが職員の採用ができない	施設の改修や安全に関する課題がある	事業の採算がとれない	どのような支援を行ってよいかわからない
全体		51	25.5	9.8	9.8	5.9	7.8
経営主体別	社会福祉法人	17	17.6	5.9	11.8	11.8	11.8
	社団法人・財団法人	2	***50.0***	0.0	0.0	0.0	***50.0***
	株式会社・有限会社	22	31.8	13.6	9.1	4.5	4.5
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	5	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	***33.3***	***33.3***	0.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス体系別	訪問系	15	***40.0***	13.3	0.0	6.7	0.0
	日中活動系	8	***50.0***	12.5	25.0	12.5	37.5
	居住系・施設系	9	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1
	訓練系・就労系	6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	相談系	9	***33.3***	0.0	11.1	0.0	0.0
	地域生活支援事業	15	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0
	障害児通所支援等	42	11.9	***23.8***	7.1	4.8	7.1

（単位:%）		n	受け入れ対象者に係る相談先がわからない	事業所として受入れ体制を整える予定がない	利用希望がない	その他	無回答
全体		51	2.0	21.6	***47.1***	3.9	5.9
経営主体別	社会福祉法人	17	0.0	29.4	***47.1***	0.0	5.9
	社団法人・財団法人	2	0.0	***50.0***	***50.0***	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	22	4.5	13.6	***40.9***	4.5	9.1
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	5	0.0	40.0	***60.0***	20.0	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	0.0	***33.3***	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0
サービス体系別	訪問系	15	0.0	20.0	26.7	0.0	13.3
	日中活動系	8	0.0	***50.0***	37.5	0.0	0.0
	居住系・施設系	9	11.1	***33.3***	***33.3***	11.1	11.1
	訓練系・就労系	6	0.0	16.7	***50.0***	16.7	0.0
	相談系	9	0.0	22.2	11.1	11.1	11.1
	地域生活支援事業	15	0.0	0.0	***86.7***	0.0	0.0
	障害児通所支援等	42	9.5	4.8	14.3	47.6	7.1

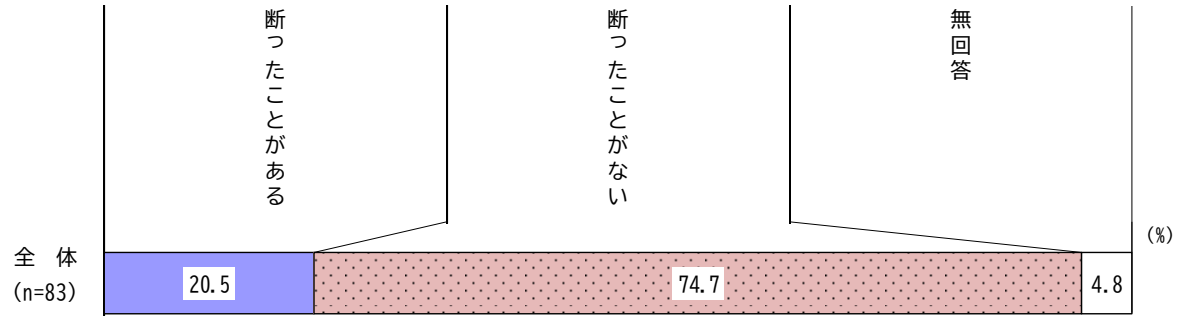
経営主体別にみると、いずれの経営主体でも「利用希望ない」が最も高くなっています。

回答数が 10 件以上の“社会福祉法人”では、「事業所として受入れ体制を整える予定がない」、“株式会社・有限会社”では「事業所内の人材育成が困難である」も３割前後と高くなっています。

サービス体系別にみると、回答数が 10 件以上の“訪問系”では「事業所内の人材育成が困難である」が、“地域生活支援事業”では「利用希望がない」が、“障害児通所支援等”では「事業所として受け入れる予定であるが職員の採用ができない」がそれぞれ最も高くなっています。

（３）強度行動障害のある方の利用を断ったことの有無

問 29　貴事業所において、これまでに強度行動障害のある方の利用を断ったことがありますか。
（〇はひとつ）



強度行動障害のある方を受け入れているかについては、「断ったことがある」が 20.5%と２割を占めており、「断ったことがない」は 74.7%となっています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

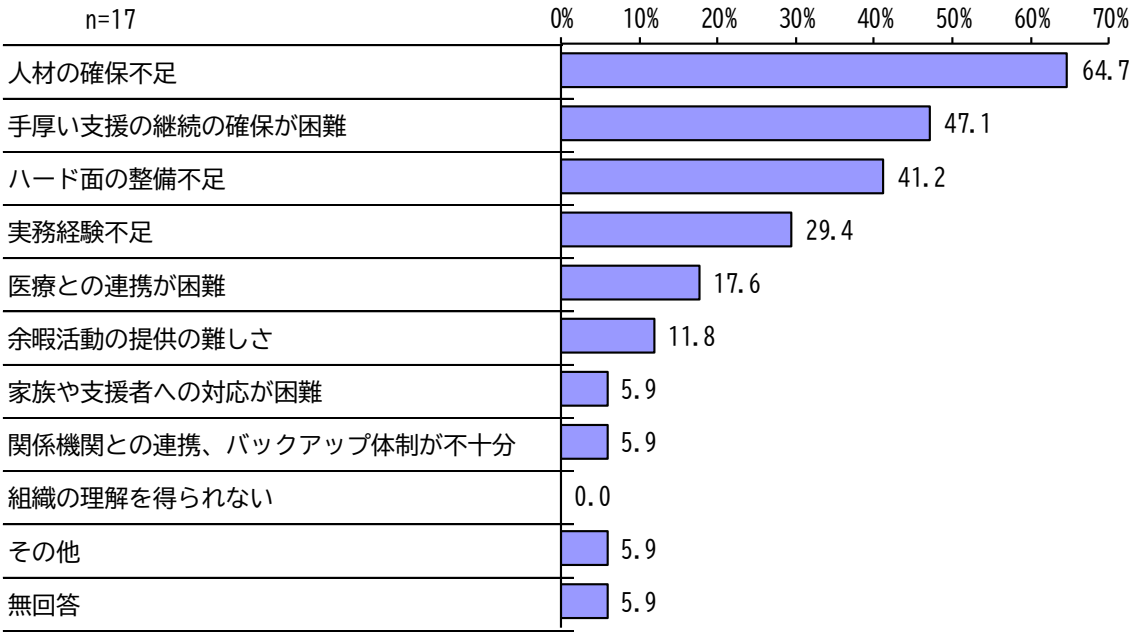
	（単位:%）	n	断ったことがある	断ったことがない	無回答
	全体	83	20.5	***74.7***	4.8
経営主体別	社会福祉法人	31	25.8	***71.0***	3.2
	社団法人・財団法人	7	28.6	***71.4***	0.0
	株式会社・有限会社	34	17.6	***73.5***	8.8
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	6	16.7	***83.3***	0.0
	合同会社・合資会社	3	0.0	***100.0***	0.0
	その他	2	0.0	***100.0***	0.0
サービス体系別	訪問系	21	33.3	***57.1***	9.5
	日中活動系	11	***45.5***	***45.5***	9.1
	居住系・施設系	14	***50.0***	***50.0***	0.0
	訓練系・就労系	15	13.3	***86.7***	0.0
	相談系	15	20.0	***80.0***	0.0
	地域生活支援事業	12	33.3	***58.3***	8.3
	障害児通所支援等	23	4.3	***91.3***	4.3

経営主体別にみると、「断ったことがある」は“社会福祉法人”と“社団法人・財団法人”で２割半ば、“株式会社・有限会社”と“特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）”で１割半ばを超えています。

サービス体系別にみると、「断ったことがある」は“日中活動系”と“居住系・施設系”で「断ったことがない」と同じ割合となっています。

（４）強度行動障害のある方の利用を断った理由

問 29 で「断ったことがある」と回答された方にお聞きします。
問 29-1　強度行動障害のある方の利用を断った理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



強度行動障害のある方の利用を断った理由は、「人材の確保不足」が 64.7%と６割半ばで最も高く、次いで「手厚い支援の継続の確保が困難」が 47.1%、「ハード面の整備不足」が 41.2%と４割台で続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

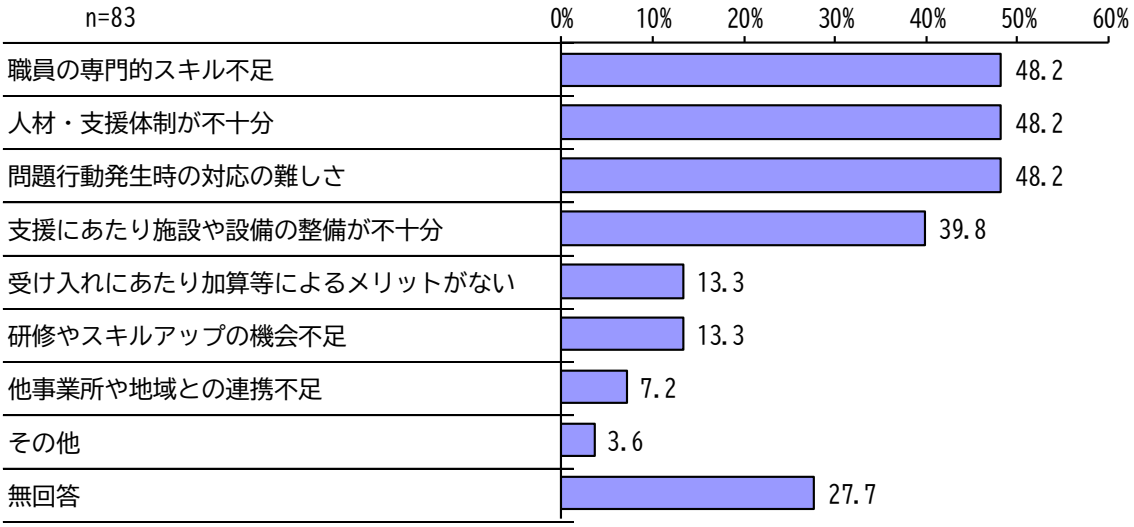
（単位:%）		n	ハード面の整備不足	余暇活動の提供の難しさ	人材の確保不足	組織の理解を得られない	実務経験不足	手厚い支援の継続の確保が困難
全体		17	41.2	11.8	***64.7***	0.0	29.4	47.1
経営主体別	社会福祉法人	8	50.0	25.0	***87.5***	0.0	50.0	***87.5***
	社団法人・財団法人	2	0.0	0.0	***50.0***	0.0	0.0	0.0
	株式会社・有限会社	6	***50.0***	0.0	***50.0***	0.0	0.0	16.7
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	1	0.0	0.0	0.0	0.0	***100.0***	0.0
	合同会社・合資会社	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス体系別	訪問系	7	***42.9***	0.0	28.6	0.0	14.3	28.6
	日中活動系	5	60.0	20.0	***80.0***	0.0	40.0	***80.0***
	居住系・施設系	7	71.4	28.6	***85.7***	0.0	42.9	***85.7***
	訓練系・就労系	2	0.0	0.0	***100.0***	0.0	50.0	50.0
	相談系	3	***66.7***	33.3	***66.7***	0.0	33.3	***66.7***
	地域生活支援事業	4	***75.0***	25.0	50.0	0.0	50.0	***75.0***
	障害児通所支援等	1	0.0	0.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0

（単位:%）		n	家族や支援者への対応が困難	医療との連携が困難	関係機関との連携、バックアップ体制が不十分	その他	無回答
全体		17	5.9	17.6	5.9	5.9	5.9
経営主体別	社会福祉法人	8	0.0	37.5	12.5	0.0	0.0
	社団法人・財団法人	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	株式会社・有限会社	6	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
	特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合同会社・合資会社	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス体系別	訪問系	7	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0
	日中活動系	5	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	居住系・施設系	7	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0
	訓練系・就労系	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	相談系	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	地域生活支援事業	4	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
	障害児通所支援等	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

いずれも回答数が 10 未満となっているので、表のみを掲載します。

（５）強度行動障害のある方への支援の課題

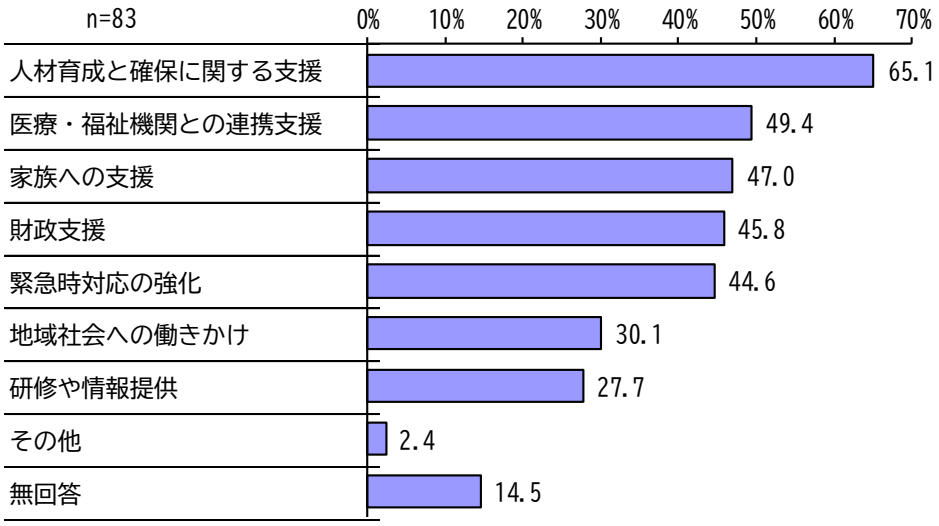
問 30　貴事業所において、強度行動障害のある方への支援に関し、課題と感じることは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）



強度行動障害のある方への支援の課題は、「職員の専門的スキル不足」、「人材・支援体制が不十分」、「問題行動発生時の対応の難しさ」がそれぞれ 48.2%と４割半ばを超えて最も高く、次いで「支援にあたり施設や設備の整備が不十分」が 39.8%と続いています。

（６）強度行動障害のある方への支援で行政や地域社会に期待する役割

問31　強度行動障害のある方への支援において、行政や地域社会に期待する役割は何だと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

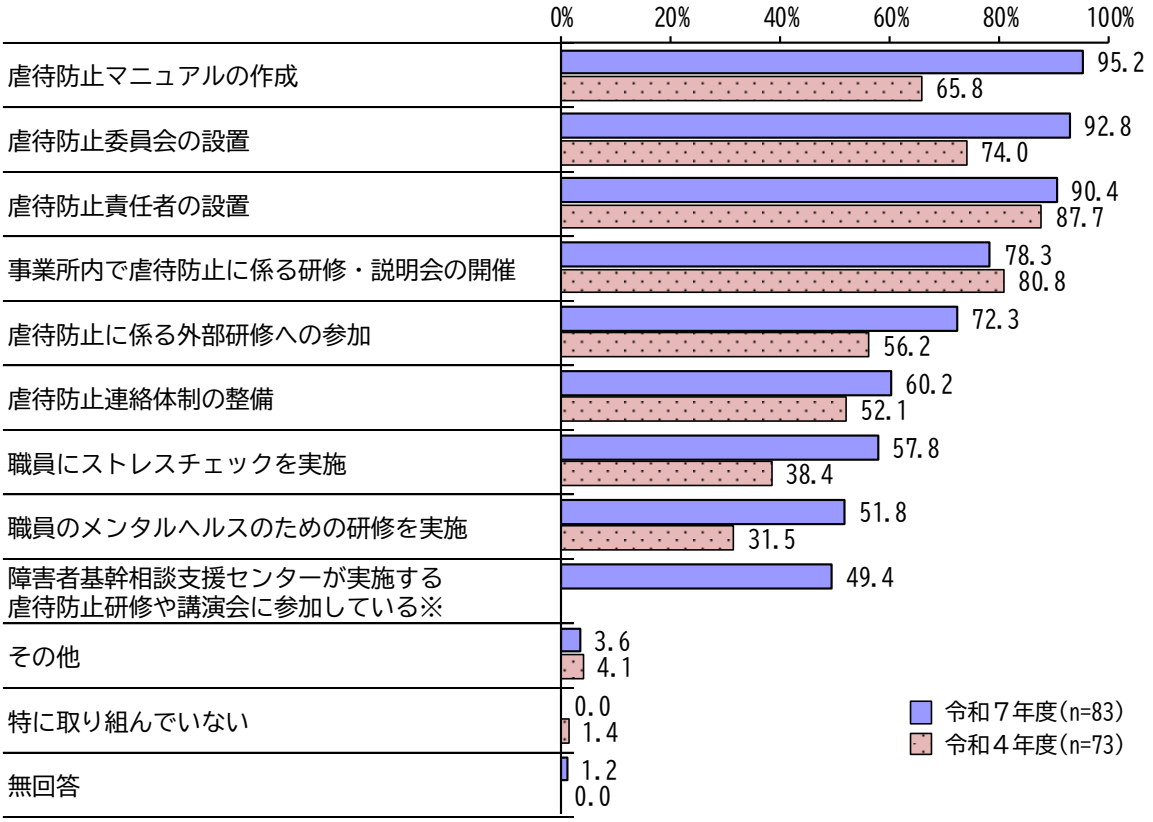


強度行動障害のある方への支援で行政や地域社会に期待する役割は、「人材育成と確保に関する支援」が 65.1%と６割半ばで最も高く、次いで「医療・福祉機関との連携支援」が 49.4%、「家族への支援」がともに 47.0%、「財政支援」が 45.8%と４割半ばを超えて続いています。

５　虐待防止について

（１）虐待防止の取り組み

問 32　貴事業所では虐待防止対策についてどのような取り組みをしていますか。
（あてはまるものすべてに○）



※「障害者基幹相談支援センターが実施する虐待防止研修や講演会に参加している」は令和７年度から追加

虐待防止の取り組みは、「虐待防止マニュアルの作成」が 95.2%、「虐待防止委員会の設置」が 92.8%、「虐待防止責任者の設置」が 90.4%と９割を超えて高く、次いで「事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催」が 78.3%、「虐待防止に係る外部研修への参加」が 72.3%と７割台で続いています。

令和４年度と比較すると、「事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催」「その他」を除くいずれの取り組みでも令和４年度を上回っており、特に「虐待防止マニュアルの作成」が29.4ポイント、「職員のメンタルヘルスのための研修を実施」が 20.3 ポイントと、20 ポイント以上上がっています。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	虐待防止責任者の設置	虐待防止委員会の設置	虐待防止に係る外部研修への参加	障害者基幹相談支援センターが実施する虐待防止研修や講演会に参加している	事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催	虐待防止マニュアルの作成
全体		83	90.4	92.8	72.3	49.4	78.3	***95.2***
サービス体系別	訪問系	21	76.2	76.2	33.3	23.8	66.7	***90.5***
	日中活動系	11	90.9	***100.0***	90.9	45.5	90.9	90.9
	居住系・施設系	14	92.9	***100.0***	85.7	42.9	92.9	92.9
	訓練系・就労系	15	80.0	***100.0***	86.7	66.7	93.3	***100.0***
	相談系	15	***100.0***	93.3	86.7	66.7	86.7	***100.0***
	地域生活支援事業	12	91.7	91.7	58.3	58.3	***100.0***	91.7
	障害児通所支援等	23	***95.7***	***95.7***	87.0	47.8	60.9	91.3

（単位:%）		n	虐待防止連絡体制の整備	職員のメンタルヘルスのための研修を実施	職員にストレスチェックを実施	その他	特に取り組んでいない	無回答
全体		83	60.2	51.8	57.8	3.6	0.0	1.2
サービス体系別	訪問系	21	42.9	47.6	33.3	4.8	0.0	4.8
	日中活動系	11	63.6	72.7	90.9	0.0	0.0	0.0
	居住系・施設系	14	50.0	50.0	50.0	7.1	0.0	0.0
	訓練系・就労系	15	73.3	60.0	86.7	6.7	0.0	0.0
	相談系	15	80.0	73.3	80.0	0.0	0.0	0.0
	地域生活支援事業	12	58.3	66.7	41.7	8.3	0.0	0.0
	障害児通所支援等	23	69.6	47.8	56.5	0.0	0.0	0.0

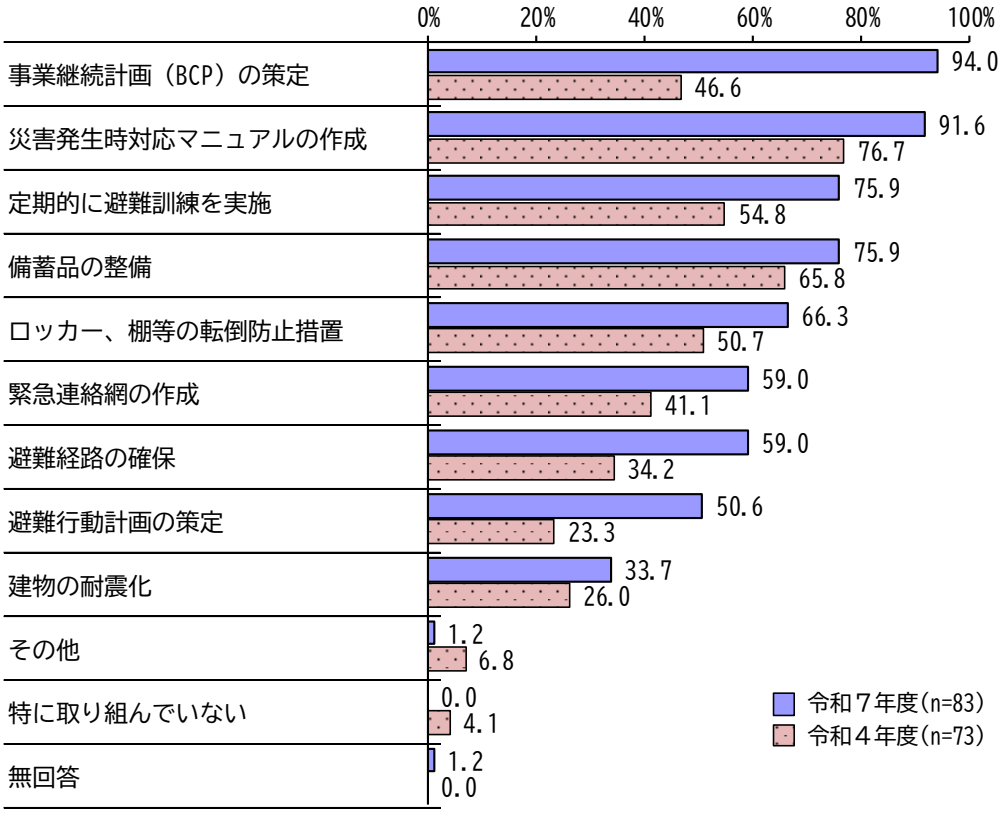
サービス体系別にみると、“日中活動系”と“居住系・施設系”では「虐待防止委員会の設置」が、“訓練系・就労系”では「虐待防止委員会の設置」と「虐待防止マニュアルの作成」が、“相談系”では「虐待防止責任者の設置」と「虐待防止マニュアルの作成」、“地域生活支援事業”では「事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催」が、回答が100.0%となっています。

また、いずれのサービスでも「虐待防止マニュアルの作成」が９割を超えています。“訪問系”を除くいずれのサービスでも「虐待防止責任者の設置」や「虐待防止委員会の設置」が８割以上となっています。

6　災害時の対策について

（1）災害対策の取り組み

問 33　貴事業所では災害時の対策についてどのような取り組みをしていますか。
（あてはまるものすべてに○）



災害対策の取り組みは、「事業継続計画（BCP）の策定」が 94.0%、「災害発生時対応マニュアルの作成」が 91.6%と９割を超えて高く、次いで「定期的に避難訓練を実施」と「備蓄品の整備」がともに 75.9%と続いています。

令和４年度と比較すると、「その他」「特に取り組んでいない」を除くいずれの項目も令和４年度を上回っており、特に「事業継続計画（BCP）の策定」が 47.4 ポイント、「避難行動計画の策定」が 27.3 ポイント、「避難経路の確保」が 24.8 ポイント、「定期的に避難訓練を実施」が 21.1 ポイントと、20 ポイント以上上がっています。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	災害発生時対応マニュアルの作成	定期的に避難訓練を実施	備蓄品の整備	建物の耐震化	ロッカー、棚等の転倒防止措置	緊急連絡網の作成
全体		83	91.6	75.9	75.9	33.7	66.3	59.0
サービス体系別	訪問系	21	***95.2***	52.4	57.1	14.3	28.6	47.6
	日中活動系	11	***100.0***	***100.0***	81.8	72.7	***100.0***	63.6
	居住系・施設系	14	85.7	85.7	78.6	35.7	85.7	57.1
	訓練系・就労系	15	93.3	***100.0***	93.3	33.3	73.3	66.7
	相談系	15	86.7	53.3	73.3	53.3	73.3	66.7
	地域生活支援事業	12	***100.0***	58.3	66.7	25.0	50.0	58.3
	障害児通所支援等	23	***95.7***	91.3	69.6	43.5	78.3	60.9

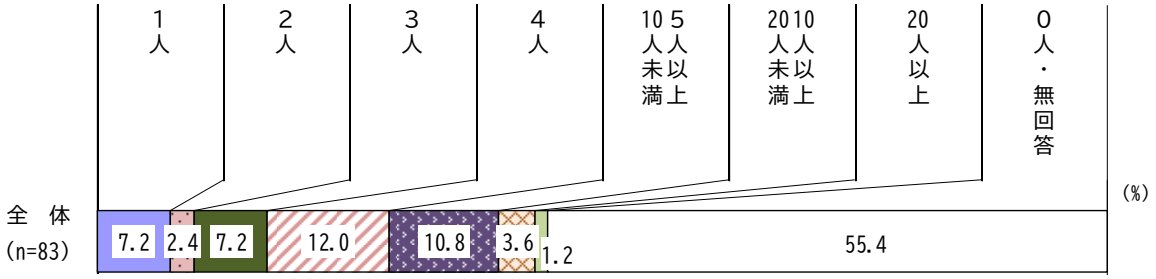
（単位:%）		n	避難経路の確保	避難行動計画の策定	事業継続計画(BCP)の策定	その他	特に取り組んでいない	無回答
全体		83	59.0	50.6	***94.0***	1.2	0.0	1.2
サービス体系別	訪問系	21	33.3	23.8	81.0	0.0	0.0	4.8
	日中活動系	11	63.6	36.4	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	居住系・施設系	14	64.3	35.7	***100.0***	7.1	0.0	0.0
	訓練系・就労系	15	73.3	60.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	相談系	15	60.0	46.7	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	地域生活支援事業	12	16.7	25.0	***100.0***	0.0	0.0	0.0
	障害児通所支援等	23	60.9	73.9	91.3	0.0	0.0	0.0

サービス体系別にみると、「災害発生時対応マニュアルの作成」と「事業継続計画（BCP）の策定」はいずれのサービスでも８割半ばを超えており、特に「事業継続計画（BCP）の策定」は“訪問系”と“障害児通所支援等”を除くいずれのサービスでも 100.0%となっています。

7　権利擁護・差別解消について

（1）成年後見制度を利用した方が良い人数

問 34　貴事業所の利用者のうち、成年後見制度を利用した方が良いと思われる方の人数をお聞きします。



成年後見制度を利用した方が良い人数は、１事業所に「４人」が 12.0%、「５人以上 10 人未満」が 10.8%と１割を超えています。また、「１人」と「３人」がともに 7.2%と続いています。

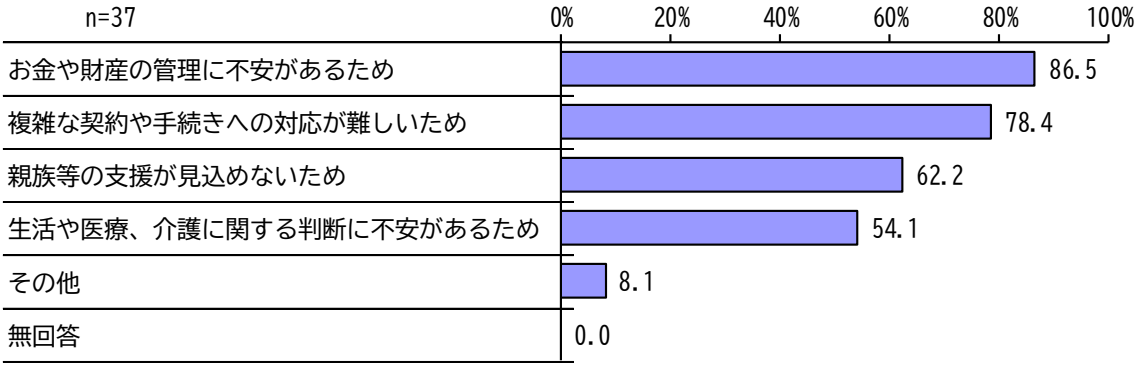
【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上10人未満	10人以上20人未満	20人以上	0人・無回答
全体		83	7.2	2.4	7.2	***12.0***	10.8	3.6	1.2	55.4
サービス体系別	訪問系	21	***9.5***	0.0	***9.5***	4.8	4.8	0.0	0.0	71.4
	日中活動系	11	0.0	0.0	18.2	9.1	***27.3***	18.2	0.0	27.3
	居住系・施設系	14	0.0	0.0	7.1	***28.6***	21.4	7.1	0.0	35.7
	訓練系・就労系	15	***26.7***	0.0	13.3	20.0	6.7	6.7	0.0	26.7
	相談系	15	0.0	6.7	6.7	20.0	***33.3***	0.0	0.0	33.3
	地域生活支援事業	12	8.3	0.0	0.0	0.0	***25.0***	0.0	0.0	66.7
	障害児通所支援等	23	0.0	***4.3***	0.0	0.0	***4.3***	0.0	***4.3***	87.0

サービス体系別にみると、「０人・無回答」を除くと、“訪問系”、“居住系・施設系”、“訓練系・就労系”以外のいずれのサービスでも「５人以上 10 人未満」が最も高くなっています。

（２）成年後見制度を利用した方が良い理由

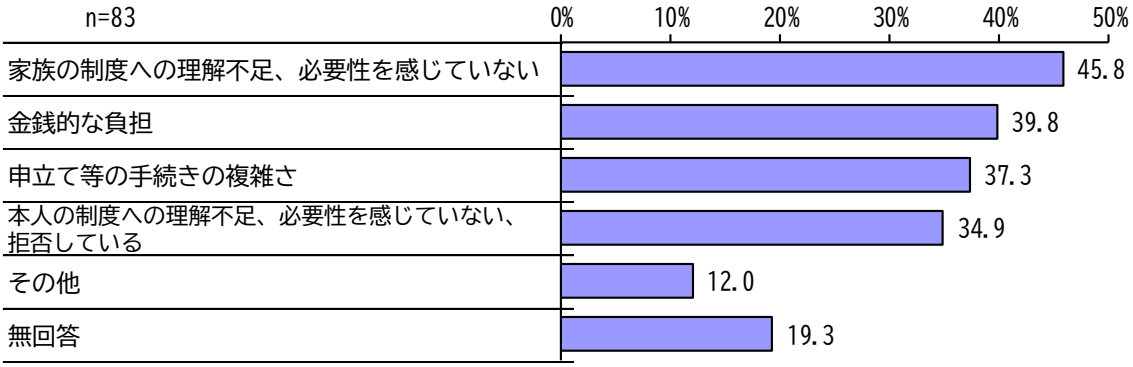
問 34 で「１人以上」と回答された方にお聞きします。
問 34-1　貴事業所の利用者で「成年後見制度を利用した方が良いと思われる方」について、その理由をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）



成年後見制度を利用した方が良い理由は、「お金や財産の管理に不安があるため」が 86.5%と８割半ばを超えて最も高く、次いで「複雑な契約や手続きへの対応が難しいため」が 78.4%、「親族等の支援が見込めないため」が 62.2%と続いています。

（３）成年後見制度が利用に至らない理由

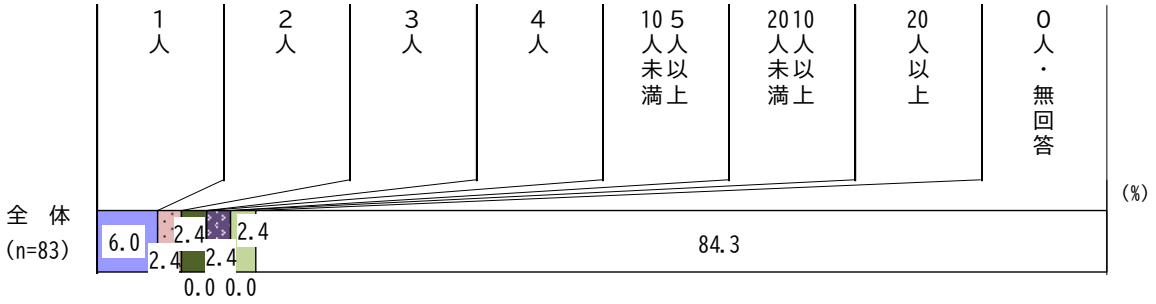
問 35　成年後見制度が利用に至らない理由はなんだと思われますか。
（あてはまるものすべてに○）



成年後見制度は、「家族の制度への理解不足、必要性を感じていない」が 45.8%と４割半ばで最も高く、次いで「金銭的な負担」が 39.8%、「申立て等の手続きの複雑さ」が 37.3%、「本人の制度への理解不足、必要性を感じていない、拒否している」が 34.9%と３割を超えて続いています。

（４）福祉サービス利用援助事業を利用した方が良い人数

問 36　貴事業所の利用者のうち、福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)を利用した方が良いと思われる方の人数をお聞きします。



福祉サービス利用援助事業を利用した方が良い人数は、１事業所に「１人」が 6.0%と最も高くなっています。

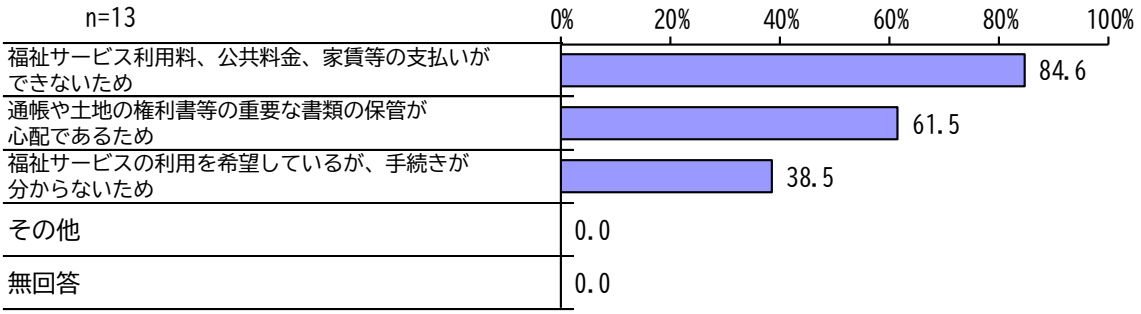
【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上10人未満	10人以上20人未満	20人以上	0人･無回答
全体		83	***6.0***	2.4	2.4	0.0	2.4	0.0	2.4	84.3
サービス体系別	訪問系	21	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	日中活動系	11	***18.2***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	81.8
	居住系・施設系	14	***7.1***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	***7.1***	85.7
	訓練系・就労系	15	***20.0***	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0
	相談系	15	6.7	***13.3***	6.7	0.0	***13.3***	0.0	0.0	60.0
	地域生活支援事業	12	0.0	0.0	0.0	0.0	***8.3***	0.0	0.0	91.7
	障害児通所支援等	23	0.0	0.0	***4.3***	0.0	0.0	0.0	***4.3***	91.3

サービス体系別にみると、「０人・無回答」を除くと、“日中活動系”と“訓練系・就労系”で「１人」が１割半ば以上で高くなっています。

（５）福祉サービス利用援助事業を利用した方が良い理由

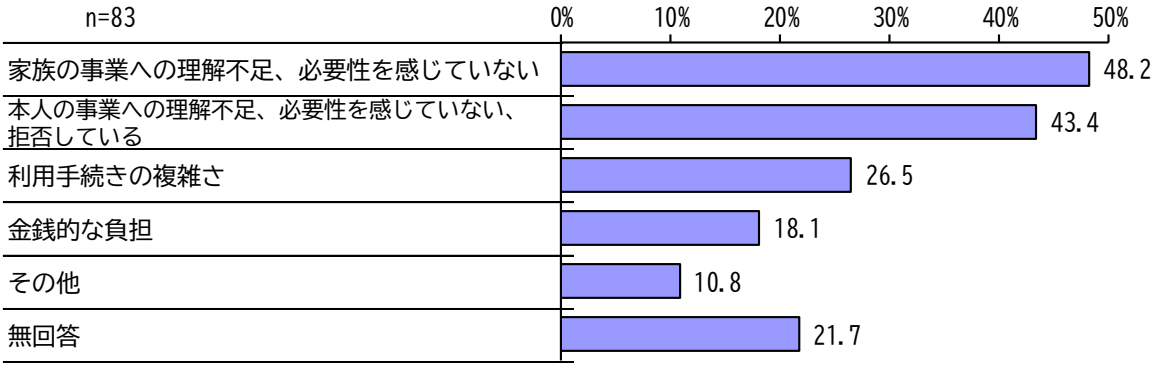
問 36 で「1 人以上」と回答された方にお聞きします。
問 36-1　貴事業所の利用者で「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)を利用した方が良いと思われる方」について、その理由をお聞かせください。
（あてはまるものすべてに○）



福祉サービス利用援助事業を利用した方が良い理由は、「福祉サービス利用料、公共料金、家賃等の支払いができないため」が 84.6%、「通帳や土地の権利書等の重要な書類の保管が心配であるため」が 61.5%、「福祉サービスの利用を希望しているが、手続きが分からないため」が 38.5%となっています。

（６）福祉サービス利用援助事業が利用に至らない理由

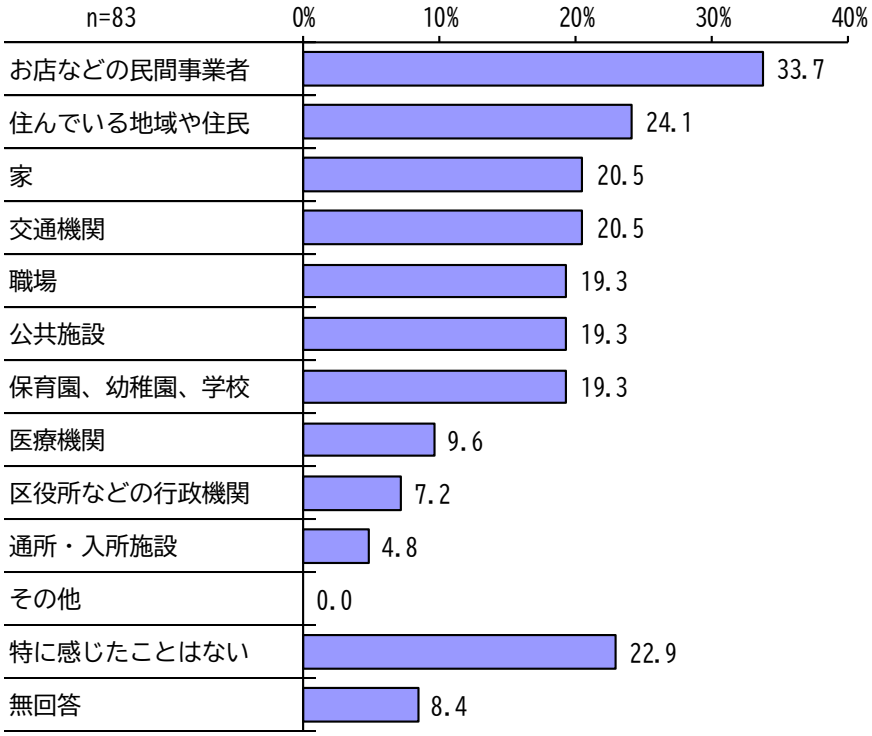
問 37　福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)が利用に至らない理由はなんだと思われますか。(あてはまるものすべてに○)



福祉サービス利用援助事業が利用に至らない理由は、「家族の事業への理解不足、必要性を感じていない」が 48.2%、「本人の事業への理解不足、必要性を感じていない、拒否している」が 43.4%と４割を超えて高く、次いで「利用手続きの複雑さ」が 26.5%、「金銭的な負担」が 18.1%と続いています。

（7）地域で差別や合理的配慮の不提供を感じる場面

問 38　地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。
（あてはまるものすべてに○）



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「お店などの民間事業者」が 33.7%と３割を超えて最も高く、次いで「住んでいる地域や住民」が 24.1%、「家」と「交通機関」がともに 20.5%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は 22.9%と２割を超えています。

【クロス集計】サービス体系別

（単位:%）		n	家	職場	通所･入所施設	お店などの民間事業者	住んでいる地域や住民	公共施設	区役所などの行政機関
全体		83	20.5	19.3	4.8	***33.7***	24.1	19.3	7.2
サービス体系別	訪問系	21	0.0	14.3	0.0	***19.0***	14.3	14.3	0.0
	日中活動系	11	0.0	0.0	9.1	***45.5***	***45.5***	27.3	9.1
	居住系・施設系	14	21.4	14.3	0.0	***50.0***	42.9	35.7	7.1
	訓練系・就労系	15	26.7	20.0	13.3	20.0	20.0	13.3	20.0
	相談系	15	26.7	40.0	6.7	***46.7***	40.0	13.3	6.7
	地域生活支援事業	12	8.3	16.7	0.0	***58.3***	33.3	25.0	0.0
	障害児通所支援等	23	26.1	8.7	4.3	39.1	21.7	21.7	4.3

（単位:%）		n	医療機関	交通機関	保育園、幼稚園、学校	その他	特に感じたことはない	無回答
全体		83	9.6	20.5	19.3	0.0	22.9	8.4
サービス体系別	訪問系	21	9.5	***19.0***	9.5	0.0	23.8	28.6
	日中活動系	11	27.3	18.2	0.0	0.0	36.4	0.0
	居住系・施設系	14	21.4	14.3	7.1	0.0	35.7	0.0
	訓練系・就労系	15	0.0	***40.0***	0.0	0.0	33.3	0.0
	相談系	15	26.7	20.0	20.0	0.0	13.3	0.0
	地域生活支援事業	12	25.0	8.3	8.3	0.0	33.3	8.3
	障害児通所支援等	23	0.0	8.7	***43.5***	0.0	17.4	4.3

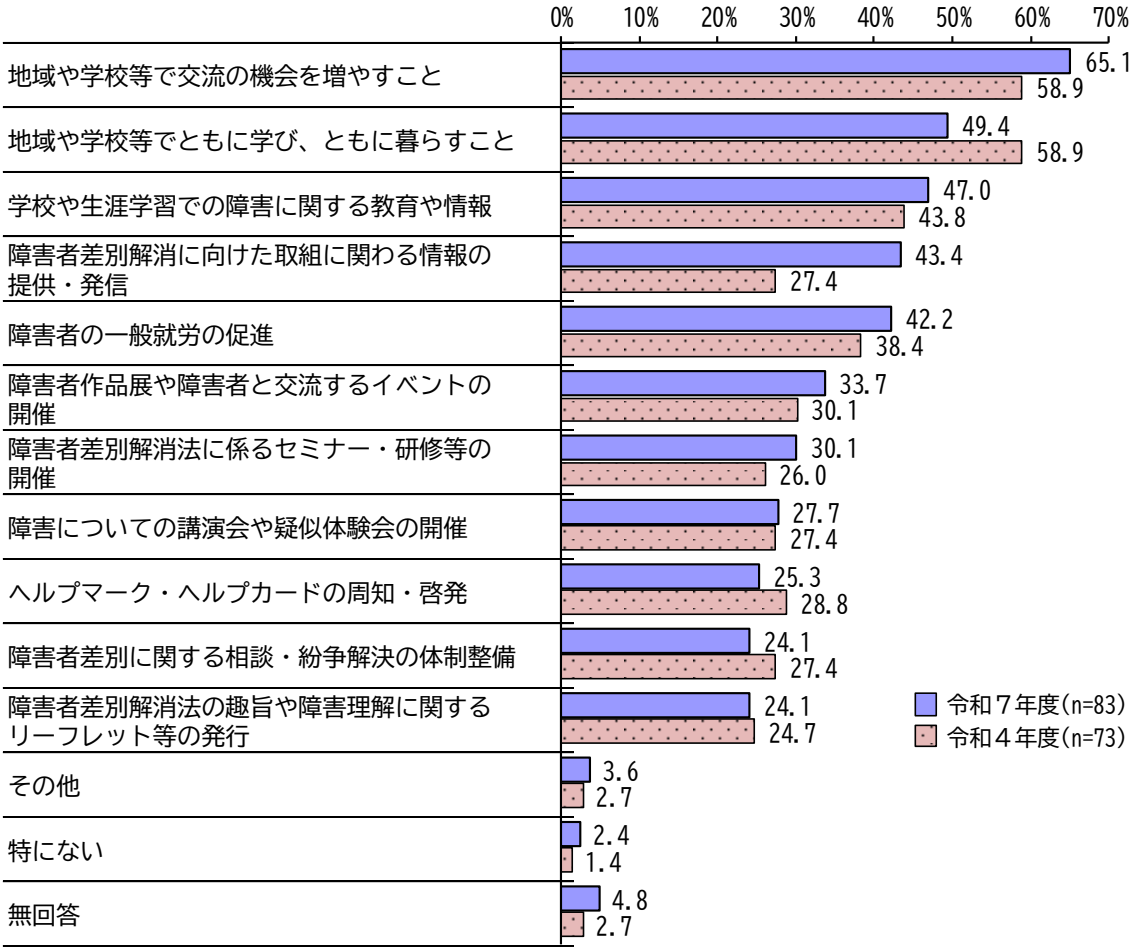
サービス体系別にみると、“訓練系・就労系”と“障害児通所支援”以外のいずれのサービスでも「お店などの民間事業者」が最も高くなっています。また、“訪問系”では「交通機関」、“日中活動系”では「住んでいる地域や住民」も最も高くなっています。

“訓練系・就労系”では、「交通機関」が、“障害児通所支援等”では「保育園、幼稚園、学校」が４割を超えて最も高くなっています。

“日中活動系”、“居住系・施設系”、“相談系”では「住んでいる地域や住民」が４割以上で高くなっています。また、“相談系”では「職場」も４割に達し、他のサービスより高くなっています。

（８）差別解消を進めていくために必要なこと

問 39　障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。
（あてはまるものすべてに○）

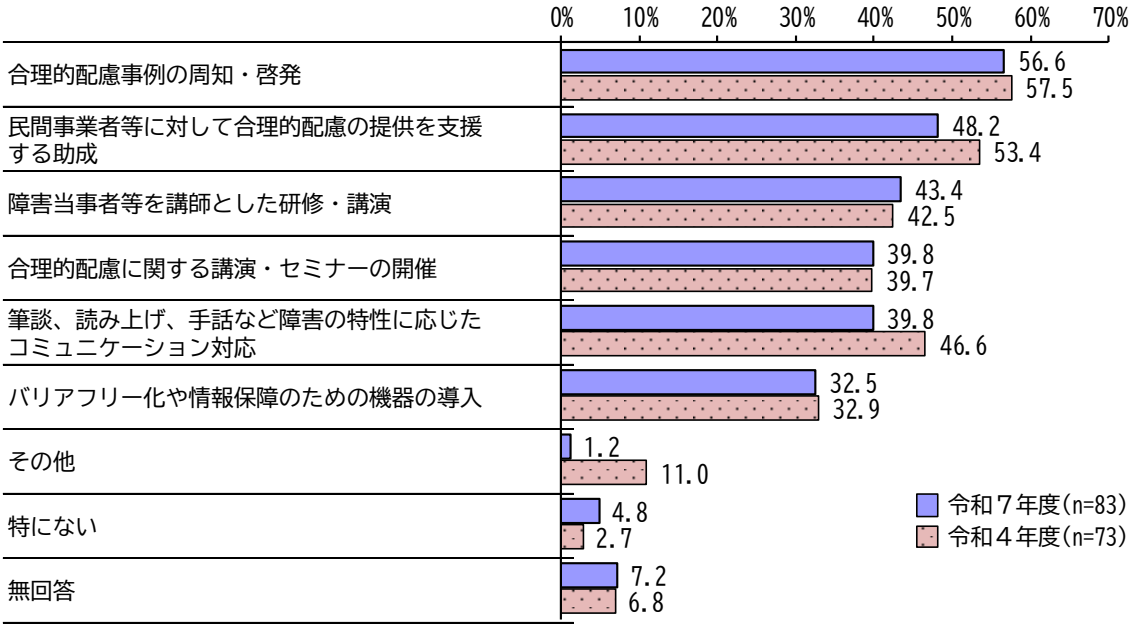


障害者への差別解消を進めていくために必要なことは、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が 65.1％と６割半ばに達し最も高く、次いで「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が 49.4％、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が 47.0％と続いています。

令和４年度と比較すると、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が 16.0 ポイント、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が 6.2 ポイントと、５ポイント以上上がっています。反対に、「地地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」は 9.5 ポイント下がっています。

（９）合理的配慮を進めていくために必要なこと

問40　社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 56.6％と５割を超えて最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 48.2％、「障害当事者等を講師とした研修・講演」が 43.4％と４割台で続いています。

令和４年度と比較すると、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が 6.8 ポイント、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 5.2 ポイントと、５ポイント以上下がっています。

8　自由意見

問 41　区障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は 32 件ありました。「行政・制度」と「補助」についての意見がともに 31.3%と最も多くなっています。

主な意見は以下の通りです。

単位（%）

	総数	行政・制度	補助	福祉サービス・福祉施設	人材確保	障害理解	その他
自由意見	32	31.3	31.3	12.5	12.5	3.1	9.4

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1．行政・制度（10 件）

・区の支援サービスを知る方だけが利用でき、知らない方が困っているのが現状であると感じています。
・東京都の最低賃金の上昇や、社会保険料の増加により、スタッフを充分雇えない、社会保険料を軽減して従業員の可処分所得をふやす施策をお願いします。
・障害者という枠の中ではなく、地域住民のひとりであるという視点で、特に住まいの問題は重点をおいて検討を願いたいし、情報公開を徹底（居住支援協議会など)、可視化してほしい
・施設や親元を離れ自立を考えている利用者が相談しやすい環境作りを希望します。

2．補助（10 件）

・共同生活援助、利用者に対する、家賃補助拡充。
・国の給付費は３年に１度の見直しであるため、ここ近年の毎年、物価や人件費（最低賃金も含めて）の高騰に対応できない。物価高騰や人件費の高騰に見合う補助金を考えて欲しい。
・障害者が単身で生活する際の住居探しの支援や家賃補助のようなものがあれば本人の希望する地域生活を送れる機会がより増えるのではないでしょうか。特に病院や施設からの地域移行の支援施策に対して拡充を求めます。

3．福祉サービス・福祉施設（４件）

・高齢の精神障害者が入居できるグループホームができると良いと思います。
・障害児を受けてくれる相談支援の事業所がもっと増えてくれると利用者、保護者職員が相談しやすい環境が生れるのではないかと思います。
・臨時モニタ等、本人の状況に合わせて柔軟に対応していただいてありがたいです。官民協同で様々なことに取り組んでくれるのもありがたいです。保健師さんも積極的に地域で動いてくれる方も多く助かっています。

４．人材確保（４件）

・発達特性、障害特性を見極めるプロが必要であると考えています。
・ヘルパー不足の為、対応をするのが難しい状況である。
・計画相談の人員不足により、一般相談からサービス利用へつながっても、次の段階である計画相談への移行が難しい現状があります。
・障害者支援事業所に勤務する職員への研修、職員同士のネットワーク形成

５．障害理解（１件）

・生保受給者が物件探しに苦労されているので、入居可能な物件が増えると良いと思います。理解ある不動産屋が増えるといいです。

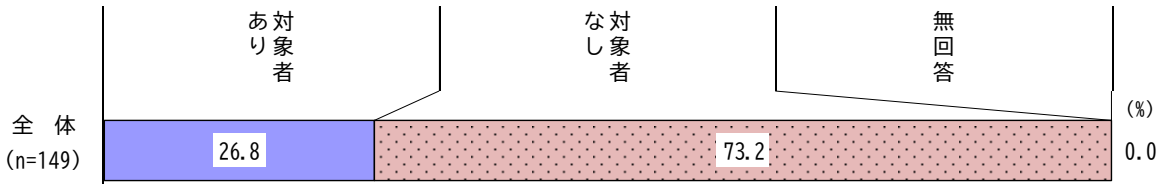
第５章

長期入院施設を対象にした調査

1　長期入院施設を対象にした調査

（1）長期入院患者の有無

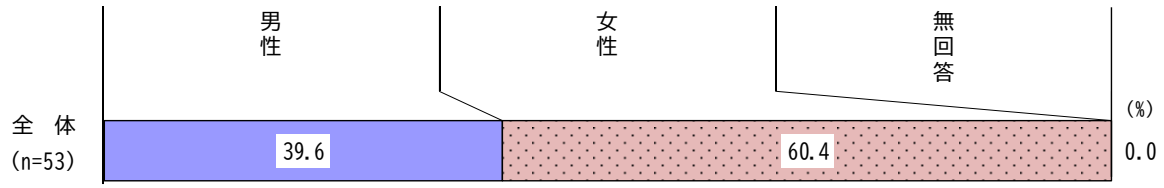
1　精神科疾患で1年以上入院している患者の有無



調査に回答のあった長期入院施設のうち、26.8%(40 件)の病院には1年以上入院している文京区民の長期入院者の方が53名いることが分かりました。

（2）入院患者の性別

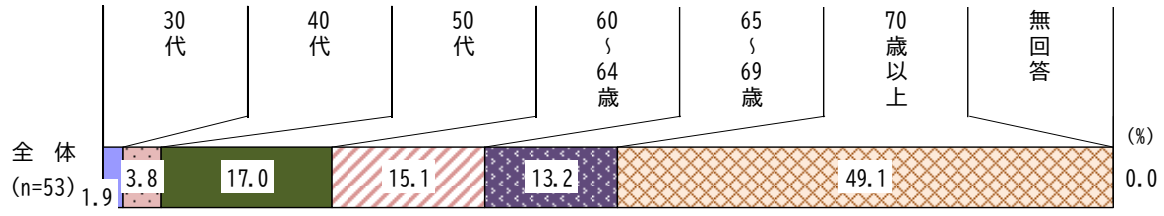
2　性別



精神疾患で1年以上入院している患者の性別は、「女性」が60.4%、「男性」が39.6%となっています。

（3）入院患者の年代

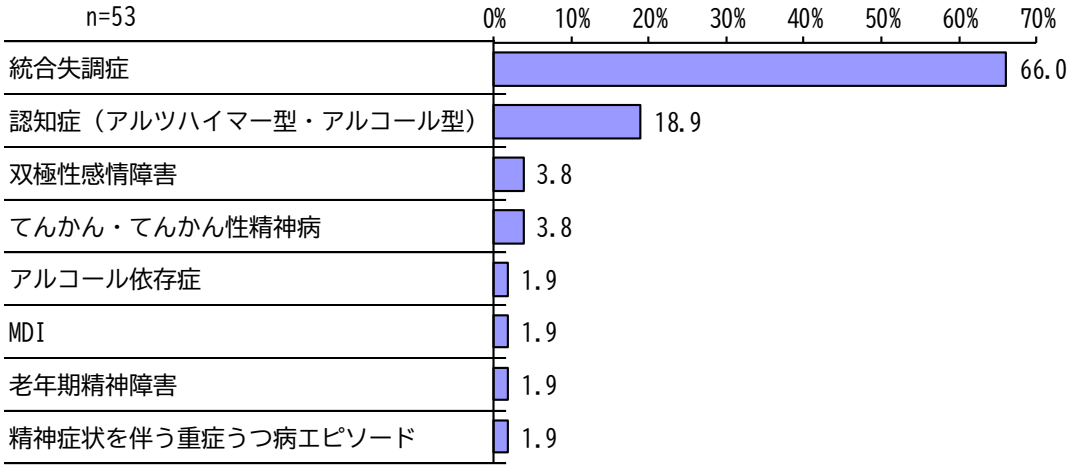
3　年代



精神疾患で1年以上入院している患者の年代は、「70 歳以上」が 49.1%と５割近くで最も高く、次いで「50代」が17.0%、「60～64歳」が15.1%と続いています。「10代」、「20代」の回答はありませんでした。

（４）病名

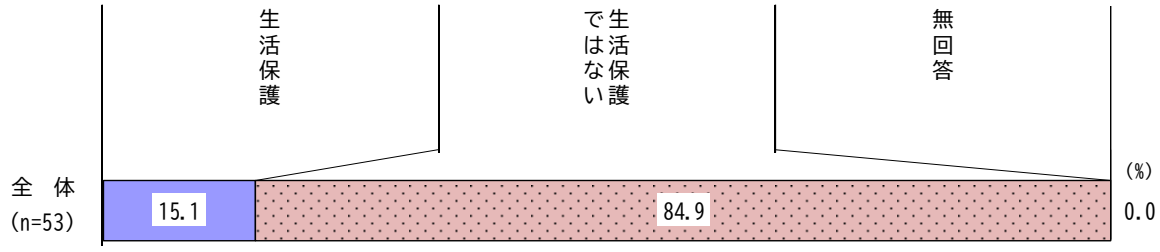
４　病名



入院患者の病名は、「統合失調症」が 66.0％と６割半ばを超えて最も高く、次いで「認知症（アルツハイマー型・アルコール型)」が 18.9％と続いており、それ以外の項目は１割を切っています。

（５）生活保護の状況

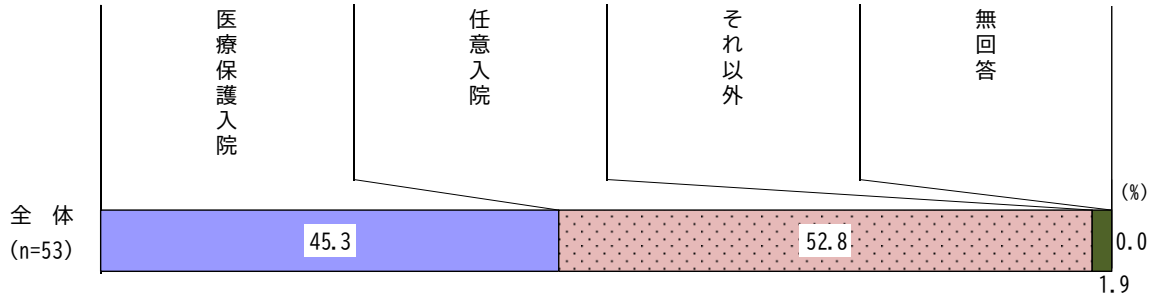
５　生活保護の状況



入院患者の生活保護の状況は、「生活保護」が15.1％、「生活保護ではない」が84.9％となっています。

（６）現在の入院形態

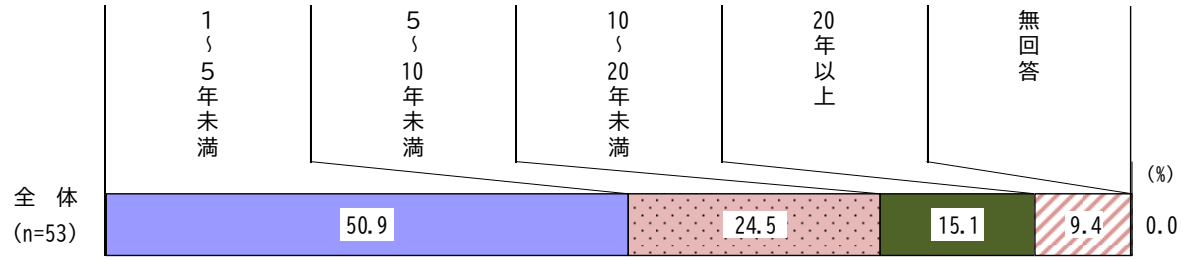
６　現在の入院形態



入院患者の現在の入院形態は、「医療保護入院」が45.3％、「任意入院」が52.8％となっています。

（7）在院期間

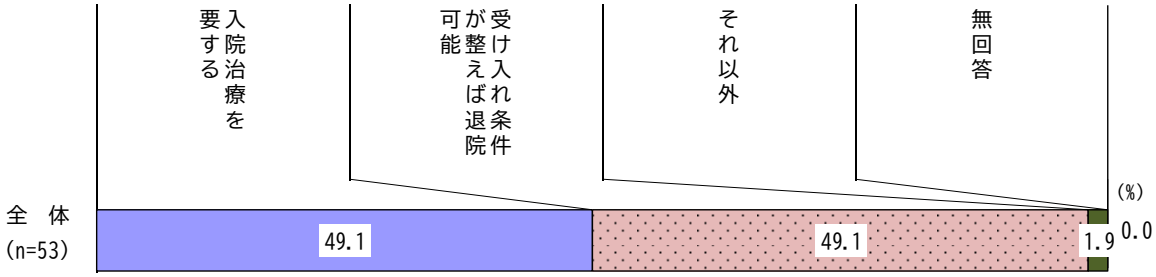
7　在院期間



入院患者の在院期間は、「１～５年未満」が 50.9%と５割を占めて最も高く、「５～10 年未満」が 24.5%、「10～20 年未満」が 15.1%、「20 年以上」が 9.4%となっています。

（8）入院の状況

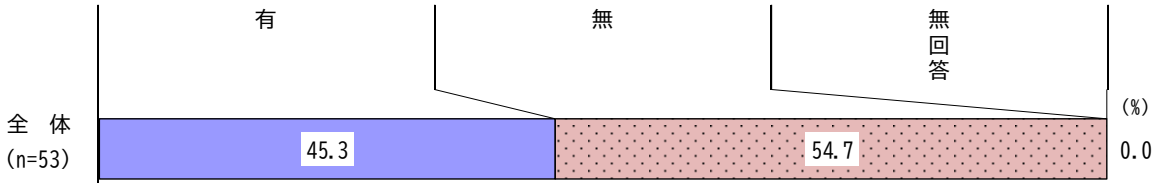
8　入院の状況



入院患者の入院の状況は、「入院治療を要する」と「受け入れ条件が整えば退院可能」がともに 49.1%となっています。

（9）病院から見た退院の見通し

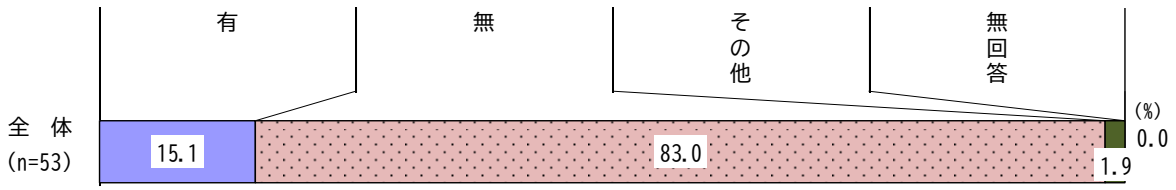
9　病院から見た退院の見通し



病院から見た入院患者の退院の見通しは、「有」が 45.3%、「無」が 54.7%となっています。

（10）退院を想定した場合の帰宅先

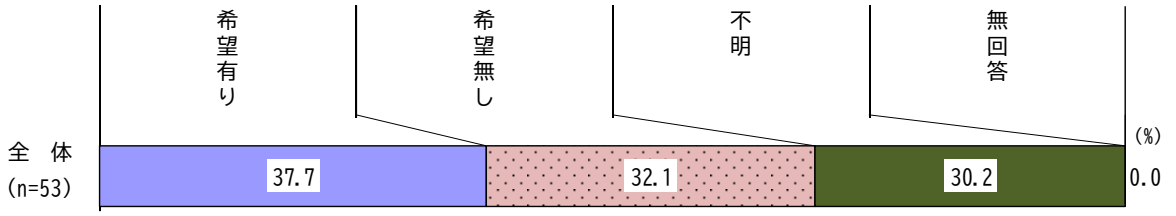
10　退院を想定した場合の帰宅先



退院を想定した場合の帰宅先は、「有」が 15.1%、「無」が 83.0%となっています。

（11）退院に向けた本人の意思

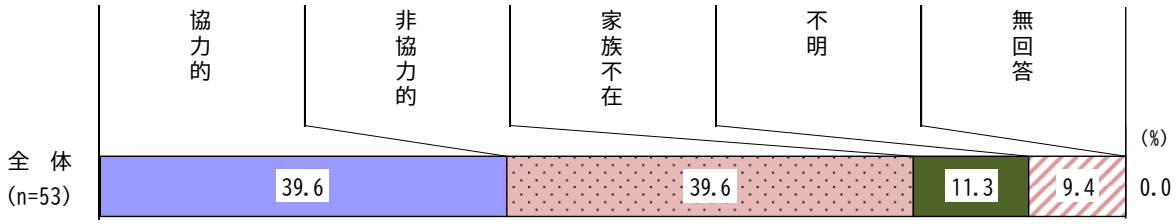
11　退院に向けた本人の意思



退院に向けた入院患者本人の意思は、「希望有り」が 37.7%と３割半ばを超えており、「希望無し」が 32.1%、「不明」が 30.2%となっています。

（12）退院に対する家族の意向

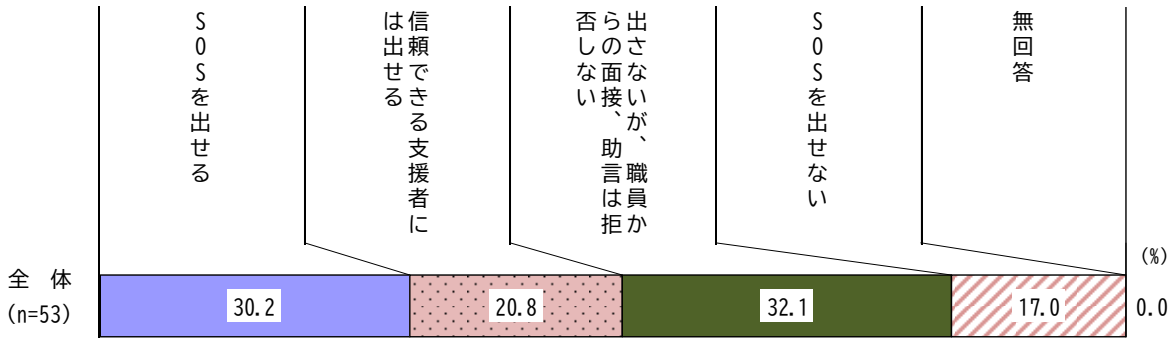
12　退院に対する家族の意向



退院に対する家族の意向は、「協力的」と「非協力的」がともに 39.6%と４割を占めており、「家族不在」が 11.3%、「不明」が 9.4%となっています。

（13）本人の状況：SOS が出せる

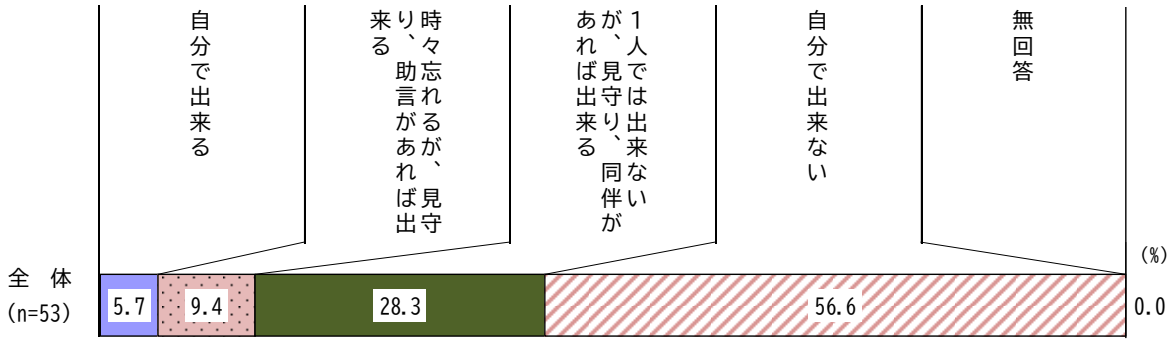
13　本人の状況：SOS が出せる



入院患者本人が SOS を出せる状況かについては、「出さないが、職員からの面接、助言は拒否しない」が 32.1%と最も高く、「SOS を出せる」が 30.2%、「信頼できる支援者には出せる」が 20.8%となっています。一方、「SOS を出せない」は 17.0%と 1 割半ばを超えています。

（14）本人の状況：服薬・通院が出来る

14　本人の状況：服薬・通院が出来る



入院患者本人が服薬・通院を出来る状況かについては、「自分で出来ない」が 56.6%と５割半ばを超えて最も高く、「１人では出来ないが、見守り、同伴があれば出来る」が 28.3%、「時々忘れるが、見守り、助言があれば出来る」が 9.4%と続いています。一方、「自分で出来る」は 5.7%と 1 割を切っています。

（15）備考（自由記載欄）

15　備考（自由記載欄）

自由記載は９件ありました。個々の内容については個人情報に配慮し、記載を省略します。

第６章

質的調査（インタビュー調査）

令和 7 年度（2025 年度）

文京区障害者（児）実態・意向調査

質的調査の部報告書

東洋大学
髙山直樹ゼミ
志村健一ゼミ
［日付］

目次

質的調査総括 2
通所施設の部 3
知的・身体障がいのある人たちが通う就労継続支援 B 型事業所調査結果 4
知的・身体障がいのある人たちが通う就労継続支援 B 型事業所に関する調査総括と提言 18
精神障がいのある人たちが通う就労継続支援 B 型事業所・地域活動支援センター 20
精神障がいのある人たちが通う就労継続支援 B 型事業所・地域活動支援センター調査総括と提言 31
生活介護事業所 33
生活介護事業所調査総括と提言 43
グループホームの部 45
知的・身体障がいのある人たちのグループホーム 46
知的・身体障害者グループホーム調査総括と提言 61
精神障がいのある人たちのグループホーム 63
精神障がいのある人たちのグループホーム調査総括と提言 70
障がいのある子どもたちの施設 71
放課後等デイサービス事業所 72
放課後等デイサービス調査総括と提言 81
入所施設 82
都外施設 83
都外施設利用者に関する提言 90
あとがき 91

質的調査総括

髙山　直樹（東洋大学福祉社会デザイン学部）

文京区障害者（児）実態・意向調査は 3 年に一度実施されている調査であり、調査の結果は、「文の京（ふみのみやこ）」ハートフルプラン文京区地域福祉保健計画の障害者・児計画と連動しているものである。すなわち、障害者・児計画によって動いてきた文京区の障害者、障害児に関する制度やサービスを、実態・意向調査によって評価し振り返る。そして、調査の結果を次の障害者・児計画へ反映させるというものである。

実態・意向調査は質問紙法による量的な調査と、インタビュー調査による質的な調査によって成り立ち、それは調査結果をより実態に近づけようとするものである。本調査報告書はそのうちの質的な調査の報告である。今年度の調査は、インタビュー調査というスタイルを基本としつつ、現場に出向いた際の観察記録、インタビュー・ガイドへの回答を記載してもらったデータなどを統合、解釈することになった。そのためデータには障害のある区民の声や観察記録などが含まれているが、ゼミの学生はそれらのデータを組みなおして調査結果として取りまとめた。

実際の調査は、昼間の活動の場である通所施設、生活の基盤となるグループホーム、そして都外施設、さらに障がいのある子どもたちの放課後等デイサービスが今年度から加わった。この結果、通所施設に関しては 10 か所、計 41 名、グループホームに関しては 7 か所、計 21 名、放課後等デイサービス 2 か所、計 7 名、都外施設に関して 4 カ所、計 4 名、全体で 73 名の方々から話を伺うことができた。主たる利用者は知的障害、精神障害のある区民であった。これらの人たちが対象になったのは、質問紙法による量的調査でとらえきれないニーズや思いを拾い上げようとしたからである。当事者の障害特性、学生の調査力量により制限はあるものの、「そうだろう」と想像されていたことが、「やっぱり」という理解につながる結果にもなり、本報告書はそのような観点からは評価されるはずである。

本調査報告書が、次年度の障害者・児計画策定の有効なヒントになることを願っている。また調査の実施を可能にしてくださった関係者各位に御礼申し上げたい。

知的・身体障がいのある人たちが通う就労継続支援Ｂ型事業所調査結果

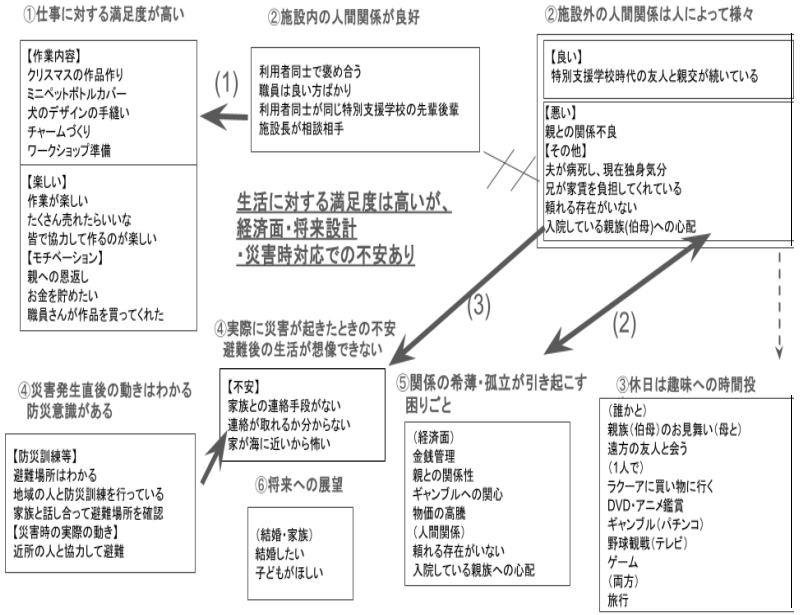
調査対象施設一覧

工房わかぎり
文京区立大塚福祉作業所
ワークショップやまどり
ワークプレイスぶんぶん

１．調査対象施設フェイスシート

施設種別	就労継続支援Ｂ型
施設名	工房わかぎり
施設概要	
個別支援計画に応じ、将来の自立的生活を視野において、就労支援を行うとともに社会性や協調性、自己決定や選択の力等々、個々に応じて、必要な力の養成や向上を目指して支援を重ねている。「信頼と安心」「笑顔と感動」「努力と挑戦」「協働と躍進」を理念として掲げており、利用者の日々の生活の質の向上を目指して日々努めている。	
利用者数	通常　20 名
ヒアリングについて 予備訪問　　令和７年７月 16 日 ヒアリング　令和７年９月 24 日	調査担当者（グループメンバー） 吉野一汰,富山萌々香,倉富結子,高橋凛太朗,佐野光咲,川口柚杏
対象者　４人	

2. KJ 法 A 型図



３．KJ 法 B 型文章化

今回の質的調査では男性 2 人女性 2 人の計 4 人の方にお話を伺った。その結果、生活全体への満足度は高い一方で、災害時への不安を抱えていることが分かった。

① 仕事

まず仕事（作業）面では、現在の仕事内容に満足しており、クリスマスの飾り作りやミニペットボトルカバー、キーホルダーなどの制作活動を楽しんでいる様子が見られた。利用者同士で協力しながら取り組むことで、達成感や充実感を得ている。一方で、「たくさん売れない」「給料が少ない」など、収入ややりがいに関する不満も一部見られた。

② 人間関係

人間関係については、施設内の人間関係が良好であり、利用者同士や職員との関係も良い。特別支援学校の友人と連絡を取り合うなど、つながりを大切にしている人も多い。しかし、施設外の人間関係については人によって差があり、「友人が少ない」「大学時代の友人とは連絡が途絶えている」といった声もあった。中には、兄弟や家族と良好な関係を築いている人もおり、家庭内の支え合いがあることが伺えた。

③ 休日・生活

休日・生活面では、関係のある友人や家族と出かけたり、アニメや DVD を楽しんだりと、趣味を充実させている。旅行やゲームなど、日常の中に楽しみを見つけている人が多い。

④ 防災

防災意識については、「避難場所はわかる」「近所の人と連携して避難する」といった意識があるものの、「家の近くに海があるため心配」「災害時に家族と連絡が取れるか不安」といった不安の声も多かった。

⑤ 不安

困りごととしては、経済面の厳しさや給料の少なさ、将来への不安が挙げられた。また、「悩みを相談できる相手が少ない」「人付き合いに苦手意識がある」といった点も見られる。

⑥ 将来

願望・将来の展望では、「結婚や家庭を持ちたい」「子どもがほしい」といった希望がある一方で、「現実的に難しいのではないか」と感じる人もいた。

総じて、現在の生活に対しては一定の満足感があり、特に人間関係や日常生活には充実を感じている。しかし、経済面・将来設計・災害時対応といった点には不安を抱えており、今後の支援体制の強化が求められる結果となった。

矢印の説明

⑴施設内の人間関係が仕事の満足度の高さに繋がっている。

⑵親との関係不慮や頼れる人がいないと関係の希薄や孤立が引き起こる。

⑶親や家族と関係が悪いと災害時に連絡が取れるかわからない。

本調査では、工房わかぎりの利用者を対象に KJ 法を用いて、生活、仕事、人間関係、防災意識、願望などの側面から生活実態を整理した。その結果、利用者は仕事や生活に対して高い満足感を抱いており、施設内での人間関係もおおむね良好であることが明らかになった。特に、作業内容について「楽しい」「やりがいがある」と回答している点から、日々の作業を通して自己の役割を実感し、社会参加の意識を持っていることがうかがえる。また、利用者同士が助け合いながら作業を進めている様子や、職員との関係性が円滑である点から、工房内の人間関係は信頼と安心感の上に成り立っていると考えられる。

一方で、施設外の人間関係については個人差が見られ、家族との関係に悩む様子や、外部の人との交流が限られている状況も示された。これにより、地域社会とのつながりがやや希薄になっている可能性が示唆される。また、防災に関しては知識や理解はあるものの、災害発生時の行動や家族との連絡への不安が多く挙げられており、緊急時の支援体制や情報共有の仕組みづくりが課題であるといえる。

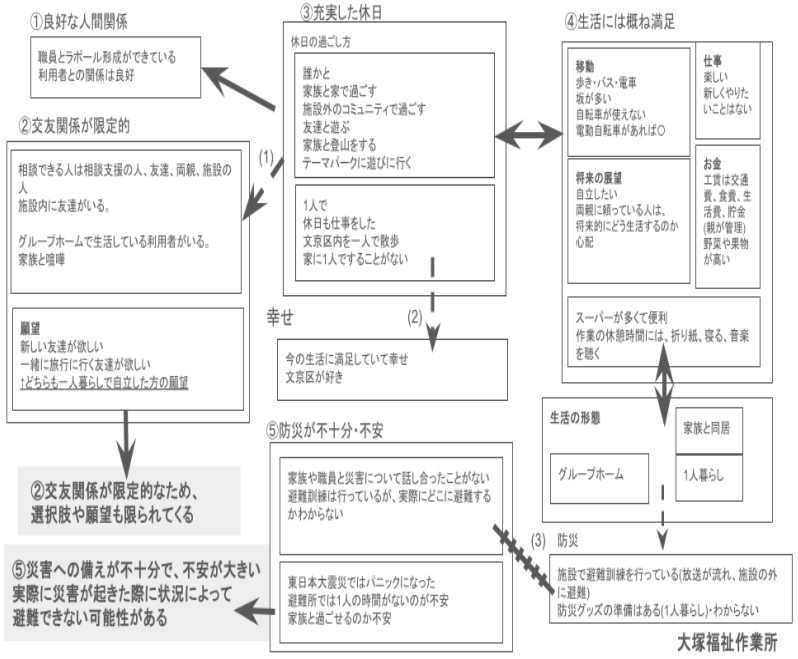
さらに、将来の展望として「結婚したい」「子どもがほしい」といった願望がみられ、利用者が自立的な生活への希望を抱いていることも明確になった。これらの願望は、生活の質をより高めたいという前向きな意欲の表れであり、社会的包摂の視点から支援の方向性を考えるうえで重要な要素となる。

以上のことから、工房わかぎりの利用者は、日常生活と作業活動において一定の満足感を得ている一方で、災害時や社会との接点の少なさに不安を抱えていることがわかった。今後は、地域との交流機会を増やす取り組みや、災害時支援マニュアルの整備などを通じて、より安心して暮らせる環境づくりが求められる。

1．調査対象施設フェイスシート

施設種別	就労継続支援Ｂ型
施設名	文京区立大塚福祉作業所
施設概要	
社会福祉法人 佑啓会は、里見吉朗氏の寄付を受け、平成４年に設立した法人である。 「体験と感動が可能性を育む」を基本理念に、入居支援、グループホーム、日中活動支援、就労支援、相談支援、障害児支援を行っている。 文京区立大塚福祉作業所では、就労移行支援と就労継続支援 B 型があり、就労に必要な知識及び能力向上のための訓練を行い、仕事を通して生活に必要な知識や技能を身につけられるように支援している。具体的には、本の加工、製品の詰め合わせ、点字刻印打ちなどの受注作業や、クラブ活動や旅行、お花見などの余暇支援も行っている。	
利用者数	通常　60 名
ヒアリングについて 予備訪問　　令和７年７月 16 日 ヒアリング　令和７年８月 20 日	調査担当者（グループメンバー） 社会福祉学科４年 川井田紗寧、関愛凜、中村楓、布川晴菜
対象者　５人	

2．KJ 法Ａ型図



3．KJ 法Ｂ型文章化

今回の質的調査では、男性３名、女性２名の計５名にお話を伺った。

① 良好な人間関係が形成されている。

利用者一人ひとりに人間関係に関する質問を行ったところ、「人間関係で困りごとがある」と回答した利用者はいなかった。施設職員との関わりを観察した際にも、ラポール（信頼関係）が良好に形成されている様子がうかがえた。また、本調査では、利用者同士のやり取りにおいても、和やかに会話を交わす姿が見られたことから、施設内における人間関係は良好であると考えられる。

② 交友関係が限定的である。

「相談事がある際に誰に相談するか」という質問に対しては、「相談支援専門員」「施設職員」「友人」「両親」との回答が得られた。ここで挙げられた「友人」とは施設内での友人を指しており、既存のコミュニティ内での人間関係が中心であることが示された。一方で、「新しい友人がほしい」と回答した利用者もおり、「その友人と旅行に行きたい」との願望を述べていた。このような願望を持つ利用者は地域で一人暮らしをしており、自立度が比較的高いことがうかがえる。

③ 充実した休日を過ごしている。

利用者に休日の過ごし方を尋ねたところ、「友人と遊ぶ」「家族と過ごす」「家族と登山やテーマパークに行く」「職員と出かける」など、他者と共に過ごす利用者が多かった。その一方で、「文京区内を散歩する」「家にいるがやることがない」「休日も仕事をする」など、一人で過ごす利用者もみられた。このように、休日を共に過ごす相手がいることから、良好な人間関係が築かれていると考えられる。しかし、関係の範囲が特定の人物に限られており、交友関係は限定的であるともいえる。

④ 普段の生活に概ね満足している。

利用者に仕事について尋ねたところ、「楽しい」と回答する利用者が多く、現在の仕事内容に満足している様子がうかがえた。主な移動手段は「バス」「電車」「徒歩」であり、坂道が多い地域環境のため「自転車を漕ぐのが大変で、電動自転車があったら良い」と話す利用者もいた。仕事で得た収入の使い道としては、「生活費」「交通費」「食費」「貯金」に充てている利用者が多かった。将来の生活の展望として、「自立したい」と回答する利用者がいる一方で、「家族と暮らしているため将来が不安」と述べる利用者もいた。以上のことから、一部に将来への不安を抱く利用者はいるものの、日常生活に大きな困難を感じている様子はなく、全体として現在の生活に概ね満足している様子がうかがえた。

⑤ 災害対策が不十分であり不安を抱いている。

利用者に防災に関する意識について尋ねたところ、「家族や施設職員と防災について話し合ったことがない」と答える利用者が多く、「実際にどこへ避難すればよいのか分からない」と述べる利用者もいた。施設では定期的に避難訓練を実施しているものの、避難場所や避難のタイミングについて十分に理解できていない様子がうかがえた。防災用品の準備については、「東日本大震災の際にパニックになった経験があり、それをきっかけに用意した」と話す利用者もいた。また、「避難所ではプライベートの空間がなく、一人の時間が確保できるか不安」「家族と一緒に避難できるか不安」といった声もあった。これらのことから、多くの利用者が災害に不安を抱えており、防災に関する理解や準備が不十分であると考えられる。また、災害の状

況によっては適切に避難できない可能性も示唆される。

矢印の説明
(1)誰かと休日を過ごす方が多いが、交流の機会が少ないため交友関係が限定的になってしまう傾向がある。
(2)1 人でも休日を満足して過ごせているため、今の生活に幸せを感じている。
(3)施設内で防災訓練に取り組んでいるが、内容が不十分で利用者が不安を抱えている。

4．考察
私たちは本調査から、主に 2 つの課題があると考えた。

1 つ目の課題は、利用者の交友関係が限られていることにより、日常生活における選択肢や願望の幅が狭まっていることである。本調査の結果、利用者が日常的にかかわる相手は主に家族、施設職員、施設内の友人、相談支援専門員など、現在属している限られたコミュニティ内の人々にとどまっていた。そのため、新たな人間関係を築く機会が少なく、交友関係が固定化している様子がうかがえた。加えて、ほとんどの利用者が「新しい友人がほしいと思わない」と回答している。このことから、交友関係の範囲が狭く、属するコミュニティが少ない場合には、得られる情報や刺激や選択肢が限られ、新しい挑戦や発想が生まれにくくなる可能性が示唆される。その結果、願望の形成や興味の方向性にも偏りが生じやすいと考えられる。

この課題に対しては、地域や他施設との交流機会を意図的に増やすことが有効だと考えられる。具体的には、他施設や地域団体とのネットワークを構築し、合同イベントやボランティア活動への参加、地域住民やボランティアとの交流機会の創出などを通して、新たなコミュニティの人々と関わる機会を促進することが挙げられる。このように、日常的に新しい人々との関わる機会をもつことで、利用者の社会参加の幅が広がり、交友関係の拡大や固定化の緩和に寄与すると考えられる。

2 つ目の課題は、災害への備えが不十分であり、災害に不安を抱えている利用者が多いことである。本調査では、避難訓練を実施しているのにもかかわらず、多くの利用者が避難場所や避難方法について十分に理解していない様子がみられ、「家族や施設職員と防災について話し合ったことがない」と回答する利用者も多かった。また、避難所におけるプライベート空間の確保や、家族と一緒に避難できるかどうかについて不安を抱く声も聞かれた。これらのことから、災害への備えが不十分であり、災害発生時には心理的負担が大きく、適切に避難できない可能性があると考えられる。

この課題に対しては、利用者やその家族も含めた避難訓練や防災教育を推進することが有効だと考えられる。具体的には、家族や身近な人と災害時の対応について話し合う機会を設け、避難経路や避難場所を実際に確認することで、利用者が災害時の行動を具体的にイメージできるようにすることが挙げられる。

次に、災害時の不安を軽減するためには、個々の状況に応じた支援体制を整えることが重要である。具体的には、既存の要配慮者支援体制をより参加しやすくすることが挙げられる本調査では一人暮らしをしている利用者もいたが、具体的な避難行動を把握していない様子がみられた。このような比較的自立度の高い利用者は既存の支援の対象から漏れやすいため、支援体制の対象範囲を柔軟に広げ、支援の必要が見えにくい人々も包括していく必要がある。また、軽度の支援層に向けた緩やかな支援体制を整備することも有効だと考えられる。

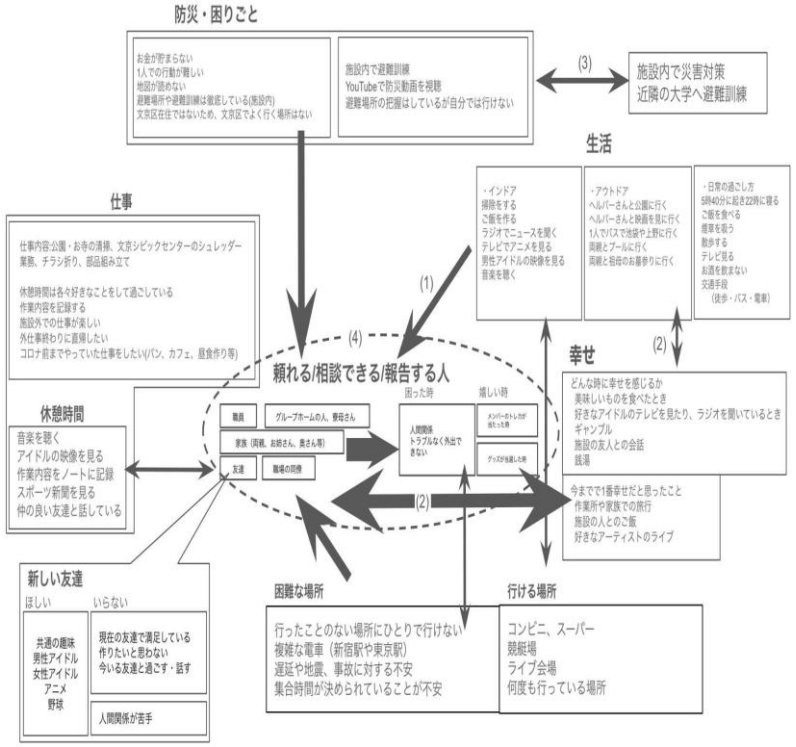
さらに、区内で進められている地域の見守り体制をさらに拡充していくことも有効だと考えられる。平常時から顔の見える関係を築き、災害時に安否確認や避難支援を行えるようなネットワークを整えることで、利用者の安全だけでなく地域の防災力向上にもつながる。

以上が本調査から考えた課題とその解決策である。

1．調査対象施設フェイスシート

施設種別	就労継続支援 B 型
施設名	ワークショップやまどり
施設概要	
障害のある人もない人も、共に生きることができる社会を目指す。 人権擁護を根底に、終生人として当たり前の生活が送れる 共生社会 -インクルーシブ社会の拠点として、地域につながり、自然と 暮らしと命を大切に、存在感のある山鳥に。	
利用者数	通常　20 名
ヒアリングについて 予備訪問　　令和 7 年 7 月 23 日 ヒアリング　令和 7 年 9 月 22 日	調査担当者（グループメンバー） 社会福祉学科 3 年 依田夏歩、窪田陽也、中平蘭、小川哲平、平内遥
対象者　3 人	

2．KJ 法 A 型図



３．KJ 法 B 型文章化

今回の質的調査では、男性 2 人、女性 1 人の計 3 人の方にお話を伺った。本調査では、比較的安定した生活を送っている一方で、社会参加や防災面においていくつかの課題を抱えていることが明らかとなった。

①仕事

利用者は、公園やお寺の清掃、文京シビックセンターでのシュレッダー作業、チラシ折り、部品の組み立てなどに取り組んでいる。外での仕事が人気で、「仕事は楽しい」と感じている人が多い。一方で、「家の近くでの外仕事の際に、一度出勤して、事業所から向かうことが疲れる」といった声もある。コロナ前に行っていたパン作りやカフェ業務、昼食作りを再開したいという希望が多くあった。休憩時間は、音楽を聴いたり、動画を見たり、友人と話すなど自由に過ごしており、中には作業内容をノートに記録する人もいる。全体的に、利用者は自分のペースで働くことを楽しみ、仕事への意欲を持っているように見えた。

②生活

利用者は規則正しい生活を送り、朝 5 時 40 分に起きて 22 時に就寝する人もいる。日中は食事や散歩、テレビ視聴など、自分のペースで過ごしている。家やグループホームでは掃除や料理を行い、ラジオや音楽、アニメ、アイドルの映像を楽しむなど、インドアでの趣味が多く見られる。

③幸せ

日常の中で、身近な人とのつながりや楽しみに幸せを感じている人が多くいた。美味しいものを食べたり、好きなアイドルのテレビやラジオを楽しむ時間、友人との会話や銭湯など、穏やかな日常に喜びを感じている様子だった。また、「作業所や家族との旅行」「施設の仲間との食事」「好きなアーティストのライブ」など、特別な体験や人との共有の時間を「一番幸せだったこと」として挙げていた。

④生活圏

日常生活に関わる身近な場所を中心としている人が多かった。コンビニやスーパーなどへの外出のほか、競艇や音楽を聴きに行くといった自分の趣味に基づく外出も見られた。移動にはバスや電車などの公共交通機関を利用しており、混雑時の電車に不安を感じる方は出勤時にバスを利用し、退勤時に空いている電車を利用するなど、時間帯による使い分けをしていた。また、行ったことのある場所や慣れた経路であれば、安心して行動できる様子がうかがえた。一方で、「行ったことのない場所に一人で行けない」「新宿駅や東京駅などの複雑な電車に不安がある」といった声も多く、移動や予定に対して一部不安を感じる傾向があるように見えた。遅延や地震、事故などの予期せぬ出来事、また「集合時間が決められていること」への緊張もみられ、予定の変更や時間的制約に対して不安を感じる傾向があるようにも見えた。

⑤災害・困りごと

困りごととして「お金が貯まらない」「1 人での行動が難しい」「地図が読めない」といった日常生活での困りごとが多く挙げられた。特に、外出や移動に不安を感じる人が多く、災害時に自力で避難することの難しさがうかがえた。施設内で避難訓練を実施したり、防災に関する動画を視聴するなど、防災意識を持っている。一方で、「避難場所の把握はしているが、自分では行けない」という声もあった。また、「事業所や関わりのある人を中心とした範囲内での避難訓練は徹底されているが、行動範囲外では不安がある」との意見もあった。

⑥頼れる存在・友人関係

日常生活や仕事の中で身近な人とのつながりを大切にしている。相談相手としては、グループホームの職員・寮母さん、事業所の職員、家族（両親・兄弟など）が多く挙げられた。友人や事業所の仲間を頼りにする人もおり、人間関係での安心感を得ることができている様子に見えた。

矢印の説明

(1)ヘルパーや家族と外出をしたり、1 人で池袋や上野へ出かけるなど、外出を楽しむ人もいる。

(2)社会的なつながりや共感のある場面が、利用者にとって大きな幸福感につながっているように見えた。

(3)施設内で災害対策に取り組んでいるが、知識としての理解が自発的な行動に結びついていないことが考えられる。

(4)生活や就労の場で複数の支援者・関係を持ち、困ったときには信頼できる人に相談できる環境が整っていると考えられた。それらが軸となって、他の要素にも大きく関係していることがうかがえた。

4．考察

まず、生活面については「仕事が楽しい」「現在の生活に概ね満足している」との回答が得られ、日常の中で一定の充実感を感じている様子が伺えた。特に、過去に施設内で取り組んでいたパン作りやカフェでの接客などの具体的な仕事への意欲が見られたことは、就労意欲の高さを示している。一方で、「外での活動をしたい」との希望も聞かれた。公園清掃が楽しいだけでなく、社会とのつながりをより広げたいという内的な欲求の表れとも捉えることができる。外部との接点を増やすことは、社会参加の促進だけでなく、自尊感情の向上にもつながる可能性がある。

次に人間関係に関しては、「人付き合いが苦手」「新しい友達を作ることに抵抗がある」という声が聞かれた。しかし同時に、「趣味を共有したい」「好きなことを一緒に楽しみたい」という前向きな気持ちも抱いていた点が印象的である。ここには、“対人関係の難しさ”と“つながりへの欲求”という二つの感情が混在している。したがって、無理に新しい人間関係を築かせるのではなく、まずは共通の趣味を通じた緩やかな交流の場を設けることが望ましい。たとえば、施設内外での趣味サークルやオンライン交流の活用が考えられる。これにより、自然な形で「つながりの経験」を積み重ねていくことが可能になるだろう。

防災面については、特に重要な課題が示された。施設や家族から避難場所を教えられていても、「実際のイメージが持てない」「一人では避難できない」との声があり、知識としての理解が行動に結びついていないことが分かる。防災意識を高めるためには、単なる説明ではなく、「避難生活お試し会」などの体験型訓練が効果的であると考えられる。実際に避難経路を歩いたり、避難所を見学したりすることで、具体的なイメージを形成し、災害時の不安軽減につながるだろう。また、支援者や家族と連携し、個々の特性に応じた避難支援計画の作成も検討すべきである。

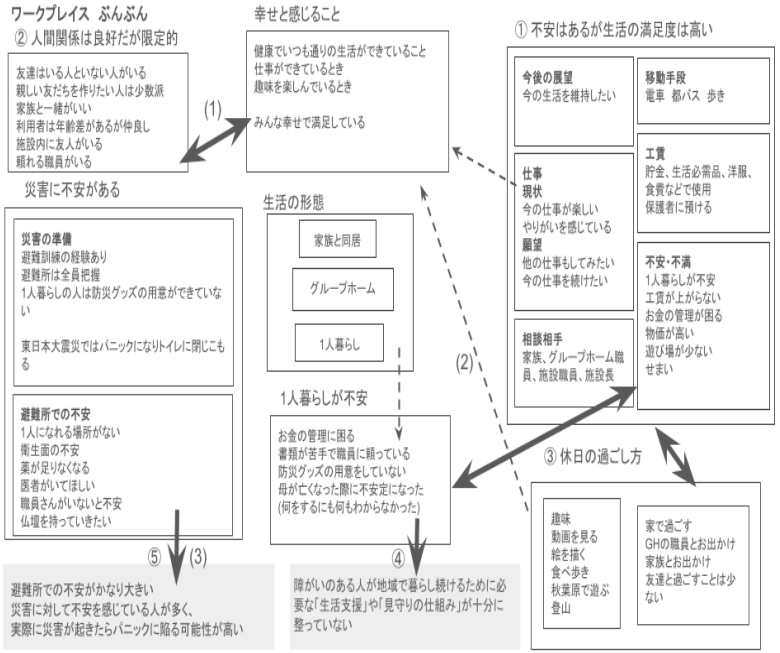
以上より、本調査からは「現状に満足しながらも、もっと社会と関わりたい」「安心して暮らしたい」という思いが多いことが分かった。今後は、地域・施設・家族が協働し、個人のペースに合わせた社会参加の機会と、実感を伴う防災支援の仕組みを整えることが求められる。そのような取り組みを通して、障害の有無にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して暮らせる社会づくりを実現していくべきだと考えた。

以上が本調査から考えた課題とその解決策である。

１．調査対象施設フェイスシート

施設種別	就労継続支援Ｂ型
施設名	ワークプレイスぶんぶん
施設概要	
社会福祉法人武蔵野会が運営する障害者支援施設で、地域資源の開拓や地域共生社会の形成に取り組んでいる。武蔵野会は、昭和 28 年、戦争孤児の救済から始まり、知的障害を持つ戦争孤児の自立支援に立ち上がった。その後、昭和 38 年に設立した社会福祉法人である。 就労継続Ｂ型の作業種目は大きく分けて 3 つあり、カフェぶんぶん・ぶんぶんストアーでの接客や食品の包装作業、館内のモップ掛けなどがある。企業等に就労することが困難な障がいがある方に対して、生産活動などの機会の提供、知識及び能力向上のために必要な支援を行っている。また利用者の希望により就労支援（Ａ型）や一般就労への移行をサポートしている。	
利用者数	通常　20 名
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー）
予備訪問　　令和７年７月 23 日 ヒアリング　令和７年９月１日	社会福祉学科４年 川井田紗寧,関愛凜,中村楓,布川晴奈
対象者　４人	

２．KJ 法Ａ型図



３．KJ 法Ｂ型文章化

今回の質的調査では、男性３名、女性１名の計４名にお話を伺った。

①不安を抱える面はあるものの、現在の生活にはおおむね満足している

今後の生活に対する展望について尋ねたところ、「今の生活を維持したい」との回答が多数を占めた。仕事に関しては、「今の仕事が楽しい」「やりがいを感じている」といった前向きな意見が多く、現状の仕事への満足度は比較的高いことがうかがえる。一方で、「他の仕事にも挑戦してみたい」「今の仕事を続けたい」といった回答もみられ、一定の向上意欲や継続意思が併存している様子であった。工賃の使い道については「生活必需品」「食費」「衣類」「貯金」といった回答がある一方で、全額保護者に預けている利用者もいた。物価高騰や制度上の制約により工賃が上がりにくい現状、および金銭の管理に対する不安などの声も聞かれた。以上のことから、経済的側面について一定の不安を抱えているものの、生活全体としてはおおむね満足している状況にあると考えられる。

②人間関係は良好であるが、交友範囲は限定的

相談相手や頼れる人について尋ねたところ、「家族」「施設職員」「施設長」「グループホームの職員」といった回答が得られた。「職員や施設長にはなんでも話せる」との声もあり、職員との間に良好なラポール(信頼関係)が構築されていることがうかがえる。また、利用者同士の関係には、年齢差があるものの「仲が良い」との意見が多く、面接時の様子からも施設内の人間関係は良好であると考えられる。

一方で、友人関係について「友人がいる」と回答したのは２名であり、そのうち１名は施設内の友人関係であった。「新しい友人を作りたい」と答えた利用者は１名のみであり、交友関係拡大への意欲は限定的であると考えられる。「友人はいない」と回答した利用者のうち１名は「家族と一緒がいい」と述べており、相談相手としても家族を挙げていたことから、家族との結びつきが強い様子がうかがえる。さらに、生活形態別にみると、一人暮らしやグループホームで生活をしている利用者 2 名は施設外の人との交流がみられた一方で、家族と同居している利用者 2 名は施設外での関わりが少ない傾向にあった。以上のことから、生活環境によって交流範囲に差がみられるものの、全体的に交友関係は非常に限定的であるといえる。

③充実した休日を過ごしている

休日の過ごし方は多様であり、自宅で過ごす利用者もいれば、グループホームの職員や家族と外出する利用者も見られた。

また、利用者一人ひとりがそれぞれの趣味をもっており、動画鑑賞や絵を描くこと、食べ歩き、電気街での散策、登山などが挙げられた。これらのことから、それぞれの利用者が好きなことに取り組むことで、充実した休日を過ごしている様子がうかがえる。

④一人暮らしに対する不安

一人暮らしをしている男性利用者は、以前は母親と同居していたが、独居を始めた当初は生活全般において困難が多く、不安定な生活を送っていたと述べていた。特に金銭管理や書類の手続き等に困難を抱えており、これらについては施設職員の支援を受けながら生活している様子がみられた。また、避難場所については把握しているものの、防災用品等の準備は十分ではなく、災害時の対応に不安を抱えていることが示唆された。

⑤災害に不安がある。
利用者全員が避難訓練の経験を有しており、災害時の避難場所についても把握していた。しかし、一人暮らしをしている男性利用者は、防災グッズの準備ができていないことに不安を感じていた。また、避難所の写真を提示した際には、「一人になれる場所がないこと」「服用している薬が不足すること」「相談相手である職員がいないこと」などに対し、不安を抱く様子が見られた。
実際に東日本大震災の際には、パニックになりトイレに閉じこもってしまったと語る利用者もおり、過去の体験が不安の要因となっていることも考えられる。
以上のことから、多くの人が災害や避難所での生活に強い不安を抱いており、実際に災害が発生した場合には混乱やパニックを生じる可能性が高いと推察される。

矢印の説明
(1)親しい関係の人たちと関わることが利用者の幸福度に繋がっていると考えられる。
(2)休日に自分たちの趣味をして過ごすことで、利用者の幸福に影響を及ぼしている。
(3)防災に関する知識や準備不足が原因により不安を感じている。

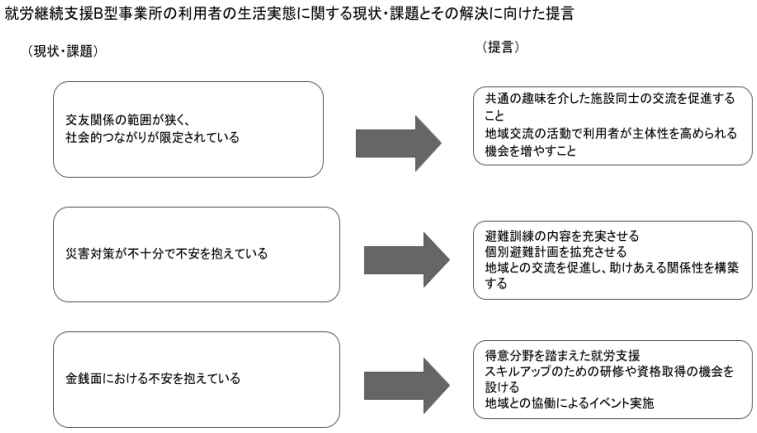
4．考察

私たちは本調査から、主に 2 つの課題があると考えた。

1 つ目の課題は、災害時の避難に対して不安を抱える利用者が多いことである。「1 人になれる場所がない」「服用している薬が足りなくなる」といった声が多く挙がり、過去に東日本大震災でパニックになった経験を話す利用者もいた。また、一人暮らしの利用者からは防災グッズの準備ができていないとの不安の声も聞かれた。以上から、多くの利用者が災害に対して強い不安感を抱いていることが明らかとなった。一方で、本調査ではほとんどの利用者が避難訓練に参加した経験があり、避難場所も把握していることが分かった。それにもかかわらず不安が大きいのは、実際の災害時の状況を具体的にイメージできていないことや、防災グッズの準備が不十分であることが要因であると考えられる。
この課題に対する解決策としては、まず「災害時にどのような避難体制が取られるのか」を具体的に知ってもらうことで、不安を軽減することが重要である。その際、視覚的支援を活用することが効果的である。実際、本調査では避難場所の写真を提示した際、口頭説明のみのときよりも多くの不安点を引き出すことができた。したがって、写真や図などを用いて実際の避難の様子や防災グッズの具体例を示すことで、利用者が避難時をより明確にイメージしやすくなると考えられる。また、災害時にパニックを防ぐためには、日頃から利用者と支援員が避難経路や集合場所を繰り返し確認することが必要である。さらに、個別支援計画において障害の程度や特性に応じた避難方法を事前に共有しておくことで、双方が落ち着いて避難行動を取ることができるだろう。避難訓練の経験を実際の災害時に活かせるよう、多角的な支援体制を整えていくことが求められる。

2 つ目の課題は、障害のある人が地域で暮らし続けるための支援体制が十分に整っていないことである。ある男性利用者は母親の死去により一人暮らしとなり、当初は生活全般に困難を抱えていた。現在は職員による支援と見守りが行き届いており、金銭管理や書類の手続きなど理解が難しい作業も支援を受けながら行えていることが分かった。しかし、本人は独居による孤独感や不安は今も続いていると述べており、日常生活で頼れる相手について尋ねたところ「職員」のみの回答であった。こうした不安の背景には、交友関係が狭く、地域とのつながりが十分でないことが考えられる。また防災面では、避難場所は把握しているものの、防災用品の準備が不十分であり、災害時に一人で適切に行動できるかという不安を感じている様子が見られた。これらのことから、一人暮らしを続けるうえで必要な「生活支援」や「見守りの仕組み」が十分に整っておらず、障害のある人が地域で安心して暮らし続けるための支援体制が不十分であることが示唆される。

これらの課題を解決するためには、まず地域とのつながりを深め、日常生活で頼れる人のネットワークを形成していくことが重要である。具体的には、地域サロンやボランティア活動、自治会の行事、地域防災訓練などへ参加する機会を設け、地域住民との交流を促進することで、孤立感の軽減や緊急時に支え合える関係づくりにつながると考えられる。また、将来的に家族がいなくなった場合に備え、グループホームやサポート付き住宅といった居住支援の選択肢を提示することも重要である。一人暮らしを継続したい場合でも、地域全体の理解を得ながら安心して生活できるよう支援体制を整えることが求められる。そのために、相談支援事業所などと連携し、定期的な巡回訪問や見守りサービスの確保を図るとともに、ひとり暮らし用の支援制度やサポート付き住宅に関する情報を、本人にとって分かりやすい形で提供していくことが望まれる。



私たちは就労継続支援 B 型事業を訪問し、計 16 人の方からお話を伺った。お話を伺っていく中で挙がった現状と課題を分析し、解決に向けた提言に結び付けたい。

1 つ目の課題として、交友関係の範囲が狭く、社会的つながりが限定されていることが挙げられる。利用者が日常的に関わる相手は、主に家族や施設職員、施設内の友人に限られていた。本調査では、「交友関係を広げたい」「新しい友人が欲しい」と回答した利用者は非常に少なかった。これは、幼い頃から友人を作る経験が乏しいことが要因の 1 つとして考えられる。交流の幅が限られていると、日常生活における選択肢や願望の幅を狭めてしまう可能性がある。利用者にとって、家族の次のステップとなる居場所づくりが必要であると感じた。

この課題解決に向けて、共通の趣味を介した施設同士の交流を促進することが有効であると考える。本調査では、趣味の話をきっかけに会話が自然と弾む様子が見られた。同じ趣味を持つ人と関わることは、交友関係を広げるきっかけとなり得る。また、複数の施設に共通の趣味を持つ利用者がいることから、施設間で趣味や活動内容を共有し、希望する利用者を紹介し合う仕組みがあると、利用者が自分のペースで関わりを広げていくことができると考える。

次に、地域交流の活動で利用者が主体性を高められる機会を増やすことが有効であると考える。利用者は日常生活の中で支援を受ける場面が多いため、地域活動の中で誰かに何かを与える、あるいは役に立つ経験をすることで自信につながり、主体性が高まると考える。主体性が高まることで、日常生活における行動の選択肢も広がっていくと考える。また、活動の様子を写真で掲示することや、地域の人から感想を集めて朝礼や終礼で共有することで、利用者が地域とのつながりを実感できるようになると考える。このような経験を重ねることで交流活動への意欲が高まり、結果として社会的つながりや交友関係を広げるきっかけになると考える。

2 つ目の課題として、災害対策が不十分で利用者が不安を抱えていることが挙げられた。主に、災害時の行動や避難方法、避難生活に対する不安が寄せられた。災害への備えが不十分なままでは、適切な行動を取れず、心身の安全が損なわれる可能性がある。

この課題解決には、まず避難訓練の内容を拡充することが有効だと考える。机上で説明するだけでなく、実際に避難経路を歩き避難所に赴いたり、避難所でどんな生活になるのかお

試し訓練を行うことで、利用者が具体的なイメージを持ちやすくなるだろう。実体験を通して自信が生まれることで、災害時の不安軽減にもつながると考えられる。

また、不安軽減のために、個々の状況に合わせた支援体制を整備することが重要であると考えられる。具体的には、既存の要配慮者支援体制をより参加しやすくすることが挙げられる。比較的自立度の高い利用者は既存の支援の対象から漏れやすいため、支援体制の対象範囲を柔軟に広げ、支援の必要が見えにくい人々も包括していく必要がある。また、避難計画作成の際に利用者自身も参加することで、自分に必要な支援や避難について一緒に確認することができると考える。

そして、環境の変化に順応することが難しい利用者も少なくないため、トイレ・教室の数や種類が充実しており、個々のニーズに対応しやすい大学を避難所として積極的に活用することを促進すべきである。具体的には、文京区に所在する東洋大学白山キャンパスの活用を提案する。

さらに、地域とのつながりを活用することも有効である。地域で行われる避難訓練に施設として参加することで、実践的な訓練の機会が得られるだけでなく、地域住民との交流にもつながる。顔見知りが増えることで、災害時の安否確認や避難支援を行えるようになり、利用者が安心して地域で生活するための支えになると考えられる。

3 つ目の課題として、金銭面における不安を抱えていることが挙げられた。近年、物価が上昇し続けているにも関わらず利用者の工賃は上がらないことに彼らは不安を抱えている。また、工賃の使い道や金銭の管理も不安に思っている利用者が多く見られた。この課題の解決に向けた提言として、2 つ挙げられる。

1 つ目は、収入向上の可能性を高めることである。利用者が感じている将来への不安の背景には、現在の収入が生活を維持する上で十分でないことや、今後の収入の伸びが見通しにくいことがある。収入向上の可能性を広げるためには、まず個々の得意分野や興味を踏まえた就労支援を強化し、適正に合った職場とのマッチングを促進することが重要である。またスキルアップのための研修や資格取得の機会を提供し、長期的に安定した職業選択ができる環境を整える必要がある。これらの支援が組み合わさることで、利用者が安心して働き、将来設計を描きやすくなる収入向上の可能性が高まると考えられる。

2 つ目は、地域と連携して就労機会を創出することである。地域企業や団体との協働によって新しい仕事を生み出すことで、収入源の拡大と社会参加の機会が増える。例えば、地域企業と連携し単純作業にとどまらない商品づくりを行ったり、地域イベントで販売できる福祉製品を協働で企画する方法が挙げられる。さらに、能登半島の特産品を文京区で販売する取り組みのように、地域間をつなぐ仕事を利用者が担うことも有効である。このような活動は、単に与えられた仕事をこなすだけではなく、利用者自身が「何を作り、どこで、誰に届けたいか」を選択し、主体的に関わる経験につながる。これまでの与えられる生活から一歩進み、自ら考え、選び、価値を提供する与える側へと変わる機会を作ることができる。このような主体的な役割を担う環境は、仕事への意欲を高めると同時に、経済的・社会的な自立にも直結すると考える。

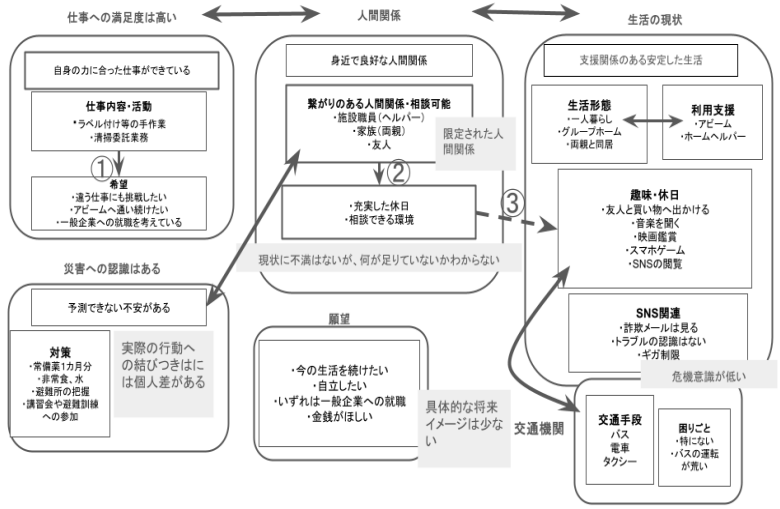
精神障がいのある人たちが通う就労継続支援 B 型事業所・地域活動支援センター

abeam（アビーム）
銀杏企画Ⅱ
エナジーハウス

1．調査対象施設フェイスシート

施設種別	就労継続支援 B 型
施設名	abeam（アビーム）
施設概要	
社会福祉法人復生あせび会は、患者会「あせび会」と静岡県御殿場市の「神山復生病院」（元ハンセン病患者の療養施設）との交流を基に、1995 年に設立された法人である。設立にあたっては、同病院を運営する宗教法人クリスト・ロア宣教修道女会より隣接地の無償提供を受け、2 つの施設を開設し、同年 10 月に厚生省の認可を受けた。 現在、就労継続支援 B 型事業所「Abeam」では、利用者が自立した日常生活や社会生活を営めるよう、就労の機会提供や生産活動を通した訓練を行うことを理念として活動している。具体的には、印刷事業、軽作業、オリジナル水引製品の制作など、多様な作業を通じて生活リズムの確立や就労スキルの習得を目指している。 また、事業として受注している印刷・軽作業に加え、利用者は「営業事務」「総務」「制作」の 3 つのグループに分かれ、それぞれの役割に応じて仕事に取り組んでいる。	
利用者数	通常　30 名
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー）
予備訪問　　令和 7 年 7 月 25 日 ヒアリング　令和 7 年 9 月 16 日	社会福祉学科 4 年 漆原美咲、牛来美晴、齋藤茉彩、髙橋杏樹
対象者　3 人	

2．KJ 法 A 型図



３．KJ 法 B 型文章化
今回の質的調査では、男性 2 人、女性 1 人の計 3 人の方にお話を伺った。

① 仕事について
「やりがいを感じている」と答える人が多く、現在の仕事に満足している様子がうかがえた。一方で、「仕事内容に得意・不得意はある」と回答する人もおり、業務内容によって得意不得意を感じている人も少なくない。また、「違う特色の仕事にも挑戦したい」「体を動かす仕事が好き」といった意欲的な意見もみられ、今後の就労継続や新たな分野への関心の高さがうかがえた。職員との関係についても「良好」と答える人が多かった。

② 交通機関の利用について
交通機関については、「バスを利用している」と答える人が多かった。一方で、「足が不自由なためタクシーを利用している」との回答もみられ、移動手段の選択には身体状況が影響していることが分かった。

③ 生活・休日の過ごし方
生活面では、「1 人暮らし」や「グループホーム・家族と同居」と回答が分かれた。また、日常生活において外部支援を受けている様子もうかがえた。休日の過ごし方については、「SNS の閲覧やスマホ操作」「ゲーム」「映画鑑賞」「1 人で買い物」など、1 人で楽しめる活動を挙げる人が多かった。

④ 人間関係について
「施設内や家族に相談できる人が 1 人はいる」と答える人が多く、一定の相談相手を確保していることが分かった。人間関係についても「良好」と回答する人が多く、安定した交流関係を築いている様子がみられた。また、「月 1〜2 回友人と外出する」と答える人もおり、外部との交流も行っていることが多かった。「1 人で音楽を聴くことが好き」などの回答もあり、個人の時間を大切にしている場合もあった。

⑤ 防災意識について
「非常食の用意がある」「避難所を把握している」と答える人が多く、防災に対する意識の高さがうかがえた。一方で、「薬を 1 ヶ月分備蓄している」と答えた人は限られており、「想像しにくい」と回答する人もいた。このことから、実際の行動への結びつきには個人差があった。

⑥ 願望・要望について
「このままアビームへ通い続けたい」と答える人が多く、現在の生活環境に満足している様子がうかがえた。また、「金銭が欲しい」「少しずつでも自立したい」と答える人もおり、経済的な自立や将来への意欲も見られた。

⑦ 幸せに感じること
「このまま施設に通いたい」「洗濯や掃除をやることの新鮮さ」「おいしいものを食べる」「金銭が欲しい」など、日常生活の中での小さな幸福感や不快感があがった。特に「今の生活を維持したい」と答える人が多く、現状への満足度が高い傾向がみられた。

⑧ SNS の利用について
SNS については、「詐欺メールが多い」「ギガ制限がある」といった課題を挙げる人が多かったが、SNS に対するトラブル意識が低いことがうかがえた。

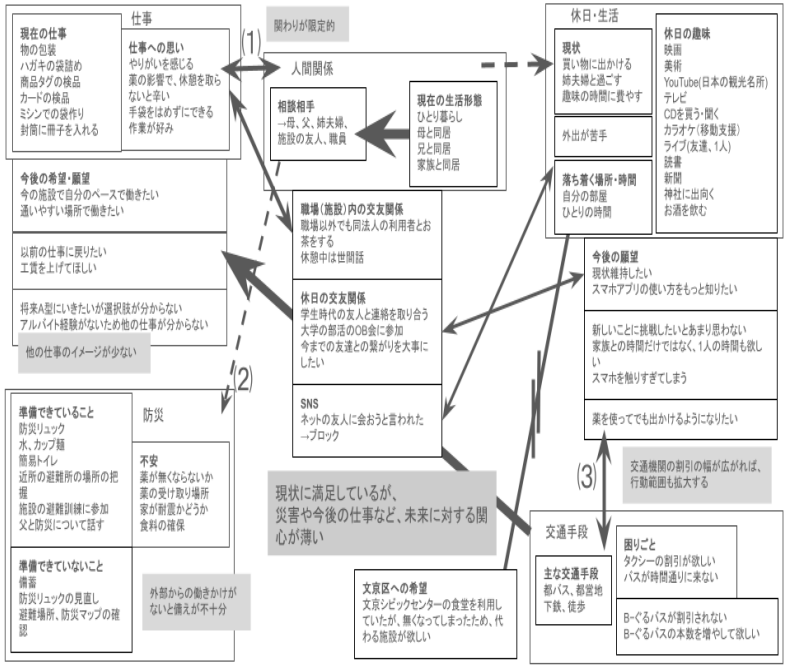
矢印の説明
⑴施設内の仕事内容や活動は利用者の達成感や「継続したい」というような将来的な希望へとつながっている。
⑵施設や家族、友人との関わりを通して生活に満足感を感じている。
⑶充実した生活と感じる理由は趣味や友人との外出だと考えられる。

4．考察
私たちは本調査を通じて、主に 2 つの課題があると考えた。
1 つ目の課題として、問題を問題として認識できていない可能性があるということである。本調査において、困っていることや生きづらさなどの質問を全員に対して行った。回答としては全員が「困っていることはない」、「特にない」など具体的な課題がないというものであった。はじめましての相手に対して話しづらいなどの環境的な要因も考えられる。しかし、話しを詳しく聞いていくと実際には日常生活の中での制限や限定的な人間関係など課題が埋もれている可能性の高い話しがいくつかあった。
このことから、自分の状態や課題を客観的にとらえる事が難しく、問題に気づけていない人が多いのではないかと考えられる。そのため、日常生活の中で自分の気持ちや行動を振り返る機会を作り、自己理解を深める支援が必要であると感じた。職員や周囲の良好な人間関係の継続や、相談のしやすい環境を新たに構築することで、自分の課題を認識し向き合うきっかけになるのではないかと考える。
2 つ目の課題は、防災や SNS の管理に対する危機意識が低く、実際の行動へ移している人が少ないという点である。
本調査では、「防災について考えたことはあるが、特に準備はしていない」、「災害時の避難場所はよくわからない」と言った回答が複数見られた。また、SNS に関しての質問においても「詐欺メールは見るが無視している」、「困ったと思うことはない」などの無関心な意見が見られた。
このことから、防災や SNS 管理の大切さは理解をしていても、具体的な対応がわからない等のことから実際に行動に結び付いていない人が多いことがわかった。そのため、危機意識を高めるだけでなく、具体的にどのような行動をとれば良いのかなどの行動規範を学ぶ機会を設けることが重要であると考える。今後、実践的な学びを得る機会を作り危機意識を高めることでネット社会での生活におけるトラブルを未然に防ぐために有効であると考える。

1．調査対象施設フェイスシート

施設種別	就労継続支援 B 型
施設名	銀杏企画Ⅱ
施設概要	
社会福祉法人本郷の森では、4 事業・7 施設の運営を行い、文京区からの委託事業も受託している。 セカンドでは生産活動のほか、就労に必要な訓練の提供や求職活動の支援を行っている。具体的には、DM の封入作業、チラシ折り、ラベル貼りなどの業務に取り組んでいる。さらに日常生活に関する支援も含め、利用者が安心して活動できる環境づくりに努めている。	
利用者数	通常約　40 名
ヒアリングについて 予備訪問　　令和 7 年 7 月 24 日 ヒアリング　令和 7 年 8 月 18 日	調査担当者（グループメンバー） 社会福祉学科 4 年 牛来美晴、齋藤茉彩、髙橋杏樹
対象者　5 人	

2．KJ 法 A 型図



3．KJ 法 B 型文章化

今回の質的調査では、男性 3 人、女性 2 人の計 5 人の方にお話を伺った。

① 仕事について

現在の仕事に満足し、やりがいを感じるとの声が多かった。その理由として、好んでいる「手袋をはめずにできる作業」をできていたり、薬の影響で休憩を取らざるを得ない状況でも、自分のペースで作業ができる環境があるからであると話していた。

今後については、「このまま同施設で働きたい」「以前の仕事に戻りたい」「工賃を上げて欲しい」などの様々な声があった。また、「通いやすい場所にある就労継続支援 A 型に移りたい」との声があったが、アルバイト経験が無いことや、他の仕事のイメージが少ないという背景により、1 歩を踏み出せない現状があった。

②人間関係について

家族、施設職員・同僚、友人、SNS での交流が見られた。

家族との関係は良好であり、1 人暮らしであっても定期的に交流し、困りごとを相談している様子だった。

施設内では、職員・同僚と休憩中に世間話をしたり、相談相手になってもらうことがあるという。さらには、同法人の利用者と仕事前に喫茶店でお茶をするなど、公私ともに関係性を持っていることが分かった。

プライベートにおける関係は学生時代の友人が多く、部活の OB 会に参加したり、チャットを通じて会話、ともに外出をする様子があった。しかし、久しく会っていなかった友人や、初対面の人には「障害について知られたくない」という思いもあり、新たな交友関係を築きたいという思いはあまりなく、現状維持を希望する声が多かった。

SNS では、ネットの友人から実際に会おうと言われ、怖くなってブロックしたとの声もあり、ネットリテラシーを身につける必要性を感じた。

③休日・生活について

休日に関しては、買い物に出かける、家族と過ごす、趣味の時間に費やすなど、充実した時間を過ごせており、現状維持を希望する声が多かった。趣味においては家族や友人と楽しむものもあったが、外出への苦手意識や、新しいことへの消極的な思いから、部屋で 1 人で過ごしながら行える趣味が多くあがった。

一方で、薬を使ってでも出かけられるようになりたいとの声もあり、身体や環境が整えば行動範囲が広がる可能性があると感じた。

また、スマホアプリの使い方をもっと知りたい、という積極性も見られるが、スマホを触りすぎてしまう現状も窺えた。

④交通手段について

使用している交通手段は、都営バス・地下鉄・徒歩である。特に障害者割引が適応される都営バスを利用することが最も多く、生活に密着していることが分かる。そのため、バスが時間通りに来ないことにストレスを感じるという声があった。

また、その他の交通機関（B一ぐるバス・タクシー）においては割引が適応されておらず、なかなか使えないとの声もあった。同様に、交通費を抑えるためにバスで移動できる範囲で生活する様子も見受けられており、交通手段によって行動範囲が狭められている印象を受けた。

⑤防災について

防災訓練への参加など、施設内で呼びかけがある対策は積極的に行っているものの、個人で行う食料などの備蓄、避難場所の確認については、備えの程度に差があることが分かったつまり、外部からの働きかけが無いと十分な災害対策を取れておらず、不安が残る現状が明らかになった。

矢印の説明

⑴人間関係が家族と仕事場という 2 つの範囲に限られているため、相談相手も限定的になってしまっている。

⑵防災について話せる人が少なく、不安について共有ができる相手が少ない。

⑶「生活範囲＝割引が適応される交通手段で行ける範囲」となっている。

4. 考察

本調査では、現在の仕事や人間関係について満足している部分が多くみられた一方で、課題があることもわかった。

まず 1 つ目の課題として、スマートフォンの使い方やネットリテラシーについてである。スマートフォンの操作やネット上の文章理解が難しく「内容をよくわからないまま操作してしまう」「すべての許可を押してしまう」という声が挙げられた。このような行動は個人情報の漏洩や詐欺被害などのリスクにつながると考える。しかし、スマートフォンは日常生活や社会参加に欠かせないツールとなっており、使わない選択は現実的ではない。解決策としては、「スマホ教室」の開催や高齢者支援などで行われている「デジタルサポーター」の対象者の拡大などが挙げられる。これらを行う際にも、当事者を支える人たちが正しい知識を持つことが重要であると考えるため、区が中心となり研修を企画・実施し、地域包括支援センターや支援団体と連携しながら取り組むことが望まれる。このように、区・支援者・地域が分担し、協力することで地域全体で見守る体制づくりにつながると考える。

2 つ目は防災についてである。本調査で災害について話を聞くと多くの人から備蓄用品や避難場所についての不安が伺えた。備蓄用品については「この調査をきっかけに家に帰ったら確認してみようと思った」という前向きな声もあった。また、「一人暮らしでどのくらいの量備えておけばいいかわからない」という意見もあった。こうしたことから、防災に関する情報が十分に届いていない、あるいは理解しづらい状況があると考えられる。特に災害時はパニックや混乱により判断が難しくなるため、平常時からの実践的な備えと支援体制の明確化が重要である。

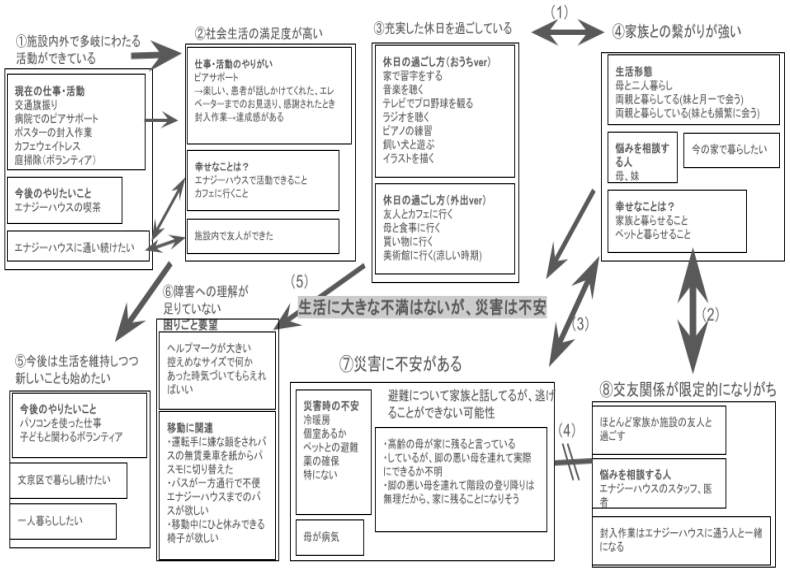
これらのことを踏まえて、イラストや写真を使って、避難場所・避難経路・持ち出し品などをわかりやすく示す防災ガイドの制作、またガイドを使い実際に避難体験できる取り組みが求められる。区や支援団体が連携し、おすすめの備蓄品の配布会や体験展示や、実際に移動経路や避難所環境を確認するなど「知る」だけでなく「できる」「自信が持てる」防災支援を広げることが重要であると考える。

以上の 2 つの課題は、障害の有無を問わず誰にとっても身近な社会的課題である。だからこそ、当事者だけに任せるのではなく、地域や行政が協力して安心して暮らせる環境を整えていくことが大切である。日常の中で支え合う仕組みづくりが、誰も取りこぼさない地域づくりにつながると考える。

1．調査対象施設フェイスシート

施設種別	地域活動支援センター
施設名	エナジーハウス
施設概要	
メンタル上の疾患を抱えた方への「居場所の提供」「社会参加・活動のサポート」を中心に行っている。閑静な住宅地内にある小規模な 2 階建てアパートを一括賃借して運営している。 地元地域との関わりも深く、バザーの開催・お祭りへの参加・高齢者在宅サービスセンターでのボランティア活動・喫茶「らん」の担当など活動の幅を広げ、今日まで地域に根づいた活動を行ってきている。法人としては地域活動支援センター事業に加え、2013 年 3 月 1 日に「計画相談支援事業（支援が必要な方に対するサービス等利用計画を作成し各支援サービスの調整を行う事業）」をスタートした。エナジーハウスの事業（地域活動支援センター：自治体補助事業）は、障害者総合支援法で規定された就労継続支援事業等の類似する形態の様な給付事業とは若干管理スタイルが異なっており、比較的自由な運営が可能になっている。	
利用者数	通常　38 名
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー）
予備訪問　令和 7 年 7 月 23 日	社会福祉学科 4 年
ヒアリング　令和 7 年 8 月 21 日	西村未咲、野田夏渚人、寶劔汐音、星野心咲
対象者　4 人	

2. KJ 法 A 型図



3．KJ 法 B 型文章化
今回の質的調査では、男性１人、女性３人の計４名にお話を伺った。

①施設内外で多岐にわたる活動ができている
施設で活動する以外にも現在進行形でボランティアやアルバイトなど様々な場に参加している。また、今後施設内でかつて行っていた喫茶店を再開したいという挑戦の気持ちがある

②社会生活の満足度が高い
仕事での達成感や活動を通して他者と交流することが生活の満足感に影響を与えている。また、施設で過ごすことが幸せと答えており、参加者にとって大事な存在であると分かる。施設内で友人ができ、共に外出する者もいた。

③充実した休日を過ごしている
自宅で過ごしたり外出したりと思い思いに休日を過ごしている。自宅ではテレビやラジオといった受動的な過ごし方だけでなく、イラストを描く、習字をするといった能動的な活動をしている。外出する際は家族と過ごすだけでなく、施設で仲良くなった友人同士で外出するという声があった。

④家族との繋がりが強い
基本的に家族と生活している。離れている家族がいても頻繁に会ったり、一緒に過ごすことが幸せだと答えるほど家族に対して良い印象を持っている。また、相談相手も家族と答える人が多かった。

⑤今後は生活を維持しながら新しいことも始めたい
仕事や活動面において新しいことに挑戦したいという想いがあった。また、通っている施設や家族が大事な存在ということもあり、文京区で暮らし続けたいという声が大きかった。

⑥障害への理解が足りてない
本調査参加者に困りごとはないか伺ったところ、多数の意見が出た。
1 つ目の要望としてヘルプマークのサイズを少し小さくしてほしいとの声があった。緊急時に気づいてもらえればそれで良いと、普段は目立ちすぎない控えめなサイズ感が望ましいとのことである。
次に移動に関する要望について、一方通行のバスではなく往復できるバスが欲しいという声があった。また、施設まで運転してくれるバスが欲しいという声や坂の多い土地柄もあり徒歩移動の際に一休みできるベンチが欲しいという声もあった。
最後に障害に対する理解促進が必要と思われる経験をした方がいた。バスの運転手に都営通行乗車券を見せたところ、嫌な顔をされたため、パスモに切り替えたという。障害への理解が足りないことが原因の一つとして挙げられる。

⑦災害に不安がある
避難訓練の経験や、家族とどのように非難するか話し合うことは出来ている。しかし、高齢の家族と逃げることができるのかという不安から逃げることを諦めて家に残ることを考えている人もいた。また、仮に避難することができた場合でも冷暖房はあるか、ペットと非難することはできるかという不安や、避難所に個室はあるか、薬の在庫は持つのか、なくなった場合はどうすればよいかという不安が挙げられた。

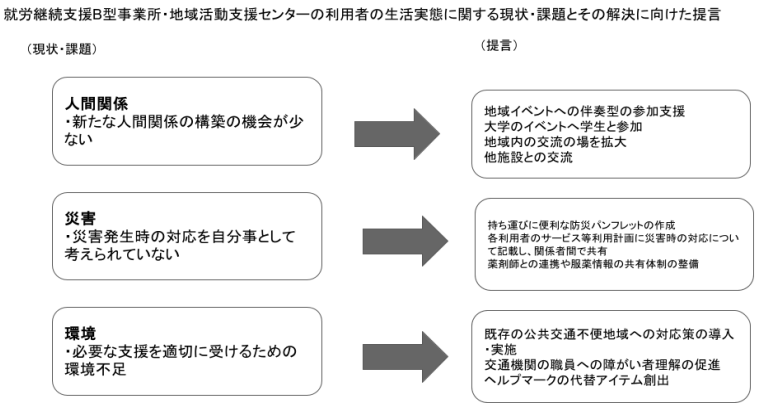
⑧交友関係が限定的になりがち
施設外のアルバイトでも他の利用者と顔を合わせており、ほとんどの時間を家族や施設のスタッフ、施設の利用者と過ごしている。それ以外のコミュニティと関わっている様子はなかった。ピアサポート活動で施設メンバー以外と交流してはいるが、交友関係にまでは至っていない。そのため相談できる相手も限られている。

矢印の説明
(1)主に家族と充実した休日を過ごしている。外出であっても家族と一緒のことが多い。家族との関係が良好だからこそ休日が充実している。
(2)家族との関係が強く、その他の交流に関しては特に充実させる必要がない。
(3)自分のことよりも家族に対して災害時の心配をしている利用者が多い。
(4)限定的な交流関係は災害時に孤立を引き起こす可能性がある。また逃げない選択肢を考えている利用者もおり、いざという時に地域内での交流があったほうが安心である。
(5)生活圏が広く、移動も多いことから障害者への理解不足を感じる場面が多い。具体的な悩みも多く持っている。

４．考察
本調査では、参加者は充実した活動や休日を過ごしており、生活に大きな不満はないことがわかった。一方で、周囲の障害への理解不足や災害時への不安など、より安心して暮らすためにはいくつか課題が存在することも明らかになった。以下ではその課題とそれに対する解決策を提案する。
　まず１つ目の課題として、障害への理解不足が挙げられる。ある参加者から、健常者の態度によって本来受けることができるサービスを、受けない選択肢を取ったと話していた。このことから、周囲の障害に対する理解不足や認識によって本人の生活に影響を及ぼす恐れがあるとわかる。
　続いて 2 つ目の課題として、交友関係が狭いことが挙げられる。一見休日が充実しており社会生活に満足感があることから、課題とは捉えにくい。しかし、相談先が限定されることで打ち明けられない悩みが溜まったり、災害時に他者と連絡を取り合うことが難しくなったりと、重要な場面で影響を受ける可能性が考えられる。
　最後に 3 つ目の課題として、防災面の支援強化が挙げられる。災害時の避難について家族と話す機会はあるものの、高齢の母と避難できないのではないかという不安があり、結果自宅に留まる選択をすると者もいた。また、普段薬を常用している者は避難先にて薬がなくなることへの恐れや、他人が多く集まる場所にストレスを感じる者は個室の有無があるのかという不安があり、事前に細かい情報をまとめておく必要があると思われる。
　では次に上記の課題の解決策として 2 点提案する。
　まず、障害への理解、交友関係が狭いことの課題として顔見知りが増えるような仕組み作りを提案する。たとえば、区が地域の祭りやイベントを支援し、福祉施設が出店やボランティアとして参加できるようにすることで、地域住民と自然に関わる機会が生まれる。こうした顔見知りの関係が増えることで、障害について知るきっかけになるだろう。そして、日常的な見守りや災害時の安否確認など、互いに気づき合える関係づくりにもつながると考えられる。また、同じ趣味同士が繋がれる居場所づくりや、施設の職員とは違い、対等な立場で関わることができる場づくりも交友関係の広がりとして有効だと考えられる。

次に、災害時の不安解消に向けた提案として、避難先の環境を整理・共有できる仕組みを整える必要があると考える。具体的には、スマートフォンを使う人向けに避難所の設備や薬の持参方法を確認できるアプリがあると良いのではないかと考える。また、スマートフォンを使用しない高齢者向けには、紙のパンフレットを配布し、避難時に必要な情報をわかりやすく伝えることで不安が軽減されると考える。以上が本調査から考えた課題とその解決策である。

精神障がいのある人たちが通う就労継続支援 B 型事業所・地域活動支援センター調査総括と提言



私たちは精神障害者施設を訪問し、計 12 人の方からお話を伺った。お話を伺っていく中で挙がった現状と課題を分析し、解決に向けた提言に結び付けたい。

1 つ目の課題として、家族以外との交流が少なく、特定的な人間関係が現状として多く家族が高齢になった時の孤立が考えられた。そこで地域イベントやボランティア活動に気軽に参加し、様々な関係性を築くため、支援者が寄り添いながら活動を共に行う「伴走型の参加支援」の体制を整えることが求められる。

また、大学や地域団体と連携し、学生とともにイベントに参加・運営するなど、地域の中で自然な交流を生み出す仕組みづくりも重要であると感じた。さらに、地域のカフェや公民館といった開かれた場での緩やかな交流を増やし、文京区で現在行われている取り組みの周知を図ることで、精神障害のある方などが取りこぼされないようにする必要がある。加えて、施設同士のつながりを深め、外部企業を巻き込んだイベントなど、施設を越えた交流の機会をつくることも課題として挙げられた。これにより、利用者にとって新たな人間関係や社会体験の場を広げ、地域全体で障害理解を進めていくことが期待される。

2 つ目の課題として災害時の対応について自分ごととして考えられていない点が挙げられる。災害への不安は抱えているものの、具体的な備蓄や行動計画を持つ事ができていない人が多く、いざという時に適切な行動を取れない可能性が考えられる。

この課題に対して、以下の 3 つの取り組みが有効であると考える。まず、災害時に持ち運べるパンフレットの作成を挙げる。備蓄用品の一覧表や災害時に必要な行動や避難先、支援窓口の情報をコンパクトにまとめたパンフレットを作成し、普段から携帯できるようにする。視覚的に理解しやすい形式にすることで、災害への不安を減らし備えをより身近に感じられるようになる。

次に、サービス等利用計画への災害時対応の記載と共有を挙げる。個々の状況に合わせた災害時の対応方法を、サービス等利用計画（ケアプラン）に盛り込む。これにより、本人だけ

でなく支援者や家族とも対応方法を共有でき、いざという時に統一した行動が取りやすくなる。また、計画に記載することで、日常的に災害への意識を高める効果も期待できる。

最後に、薬剤師との連携や服薬情報の共有体制を整えることを挙げる。災害時には薬が途切れることで不安や症状悪化が起こりやすいという課題がある。そこで避難所での安心に繋げるため、文京区の薬剤師会と連携し、避難所に巡回薬剤師を配置する計画の策定や、平時からお薬手帳のデジタル化の推進をより進めることが重要であると考える。

3つ目の課題として、必要なときに適切な支援を受けるための環境が不足している点が挙げられる。主に、交通手段やヘルプマークに対する意見が寄せられた。

まず、交通手段に関しては、障害者割引が適応されている都営バスの利用が最も多く、バス移動で生活範囲を確保している様子が見られた。そのため、現在割引が適応されていない文京区コミュニティバス「Bーぐる」に対して、割引を求める声に加え、一方向循環型のために移動時間がかかる点や、自宅付近に停留所が無く利用しづらいとの声が寄せられた。この現状に対する解決策として、「Bーぐる」への割引制度導入と、利用者が多い区間での部分的な双方向運行の検討、定時路線型乗合タクシーやデマンド型合タクシーなどの、既存の公共交通不便地域への対応策の導入・実施、という 3 点への取り組みが必要であると考える。

続いて、交通手段に関連して、バスやタクシーなど運転手への障害者理解の促進が必要という考えに至った。その背景として、調査の参加者による体験談がある。その参加者はバスに乗車する際、割引を受けるために障害者手帳を運転手に見せたところ、嫌な顔をされたため次回から手帳を提示せず乗車することにしたという。今回の調査で差別と言える事案が明らかになった。しかし、これはあくまで調査を行ったことで把握できた一例にすぎず、実際には様々な場面で差別を受けている人が多く存在することが予想される。そのため、障害理解の促進と共に当事者の声を汲み取る仕組みや意見を反映させる仕組みが必要だと考える。

これらの具体的な方法として、バス会社における障害理解の講習の実施や、障害者施設への訪問・対話を含む座学だけにとどまらない学習の場を設けることが挙げられる。さらに、日常的に意見を受け取りやすい環境を整えるために、区が公式の LINE アカウント等を活用することを提案する。匿名、且つ意見がタイムリーに入るため現在の状況を瞬時に把握でき、施策にも反映しやすいと考える。これにより、これまで表面化しにくかった小さな声や日常の困りごとを適宜把握し、施策に反映させることが可能になる。

最後に、ヘルプマークについて述べていく。調査をする中で、参加者からヘルプマークを現在の形からより小さいものへの変更を希望していた。その背景として、障害があることを主張したいのではなく、災害や有事の際に配慮いただきたいとの想いがあった。しかし、ヘルプマークはデザイン、大きさの変更は原則行ってはならない。そのため、解決策としてヘルプマークの代替アイテムを創出することを提案する。例えば、要望があった通り大きさを少々控えめにしたり色を変えたりと多様なデザインにする他、裏面に収納機能をつけて自身の障害や薬の情報を他者へ伝わるようにするなどヘルプマークとしての機能も果たすようにすると良いだろう。

以上が精神障害者施設の利用者に対する調査で得られた課題とその背景、並びに解決案である。

生活介護事業所

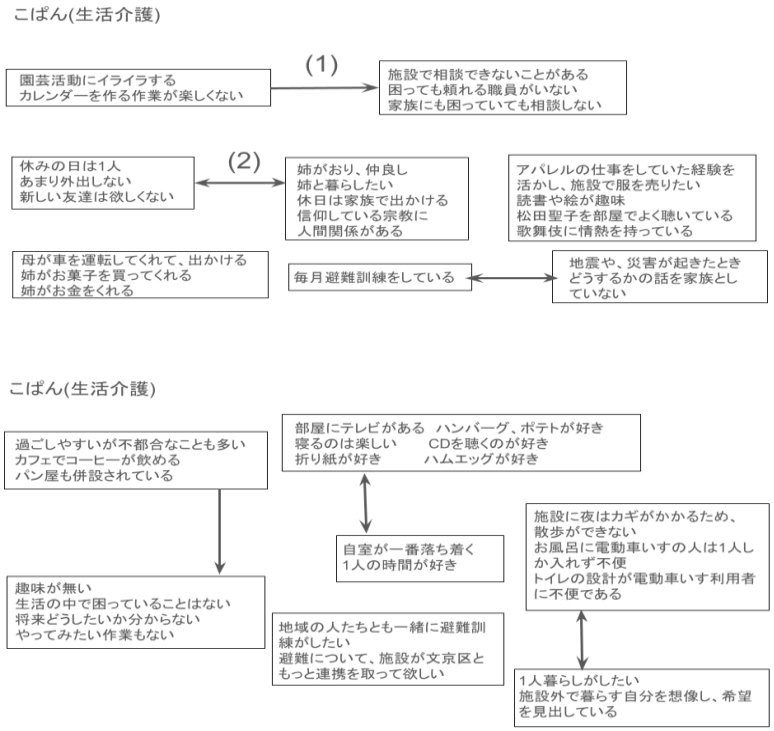
調査対象施設一覧

こぱん
は～と・ピア 2
文京区立本郷福祉センター（若駒の里）

1．調査対象施設フェイスシート

施設種別	障害者支援施設 (生活介護[総合支援法])
施設名	こぱん
施設概要	
安心、安全、満足を基本支援テーマとし、利用者一人一人の障害程度や能力生活歴など十分配慮するとともに生活年齢や個性、本人の意思、選択等を十分に考慮した身体的・心理的・社会的支援プログラムを検討する。	
利用者数	通常　55 名
ヒアリングについて 予備訪問　　令和 7 年 7 月 28 日 ヒアリング　令和 7 年 10 月 8 日	調査担当者（グループメンバー） 社会福祉学科 4 年 成瀬響之、馬場智也
対象者　4 人	

2．KJ 法 A 型図



3．KJ 法 B 型文章化

今回の質的調査では、46 歳の男性、70 歳の女性、63 歳の女性、58 歳の女性を対象とした。

①作業について

生活介護における作業について話を聞いたところ、それほど肯定的な回答は得られなかった。「園芸活動にイライラしてしまう」、「カレンダーを作る作業があるが楽しくない」など答える利用者がいた。

このように様々なニーズを抱えているが、職員に信頼できる人や相談できる人が少ないという回答も得られており、ニーズを打ち明けられる環境になく、募らせたままでいる可能性が考えられる。

②交友関係について

休みの日は 1 人で過ごすという利用者もいた。また、ほとんどの利用者が答えていたのは新しい友達は必要ないということだった。これらの発言の背景には、家族とかなり良好な関係を築いているという利用者がいたり、信仰している宗教があり、その内部での人間関係に大変満足しているという方がいたりすることが考えられる。現在の交友関係に満足している可能性も考えられる。また、1 人の時間が好きという方もいて、それも理由にあると推察される。

③施設での生活について

施設は過ごしやすいが、夜中は鍵が閉まるため散歩に出られなかったり、車いすを利用しているとお風呂に 2 人同時は入れないため不便であったりなど不都合なことも多いと話していた。それを受けてか、1 人暮らしをしたいと話している利用者がいたり、将来は施設を退所して暮らす自分の姿に希望を見出している方もいたりした。ただ、施設のカフェでコーヒーが飲めること、パン屋があり、そこで食べるパンがおいしいことなど施設への肯定的な意見についても聞くことができた。

④災害について

施設では、本調査にご協力いただいた全ての利用者が避難訓練を行っていると話していた。ただその一方、家族などとは災害について話しておらず、災害意識について高めていく必要があると感じた。

しかし、利用者の中に防災意識の高い方がおり、施設と文京区で連携し、どこに避難すればよいか、地域の人々とともに防災訓練をしたいと話している方もいた。

矢印の説明

(1)ニーズがあっても頼れる人が施設におらず、募らせ続けている。

(2)現在の交友関係に満足しているため、新たな交友関係を求めていない。

4．考察

本調査により、生活介護で行う作業内容に不満があることや、災害に対してあまり意識が高くないこと、しかし交友関係には満足している傾向にあるのではないかということが分かった。

信頼できる職員や、相談できる職員があまりいないという回答に対して、職員が利用者に対してコミュニケーションをより取ることで信頼関係を築き、施設での生活をより楽しく、不満も打ち明けてもらえるような環境にしていく事が重要なのではないかと感じた。

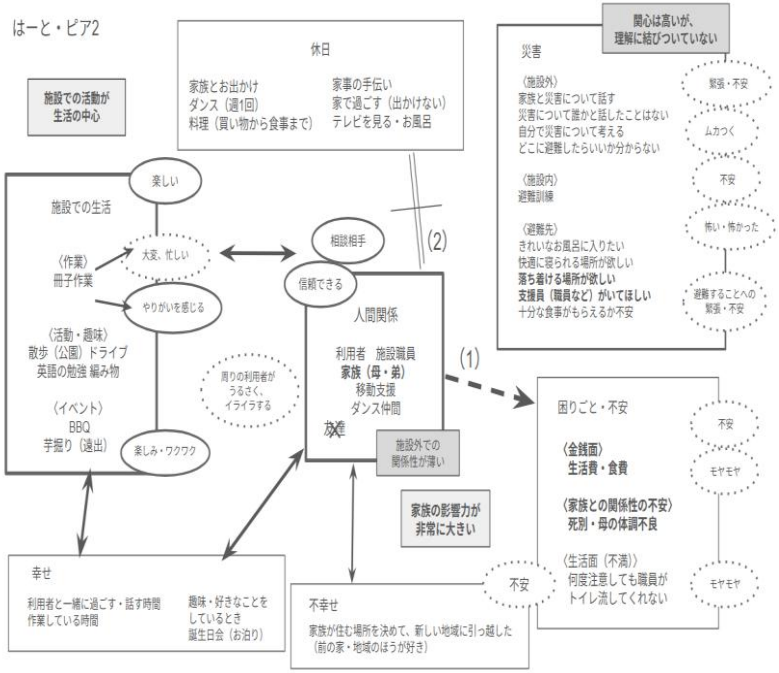
また、家族との関係は良好という方はいらっしゃったが、他にあまり人との関わりが無いということも話されており、地域でのイベントに参加したり、文京区との連携を深めて行ったりすることが必要と感じた。1つ気になったのは、私が、「東洋大学から参りました。」と挨拶をした際に、東洋大学の文化祭に来たことがあると話されていた利用者がおり、大学の文化祭で地域の方と交流をしたり、一緒に楽しい時間を共有できるような時間は持てないだろうかと感じた。学生にも利用者と繋がり、利用者の方々のサードプレイスとなれるような機会が身近に転がっていることを感じ、何かできることはないか考えていきたいと感じた。

本調査で強く感じたのは、地域や人々の連携が重要であり、1人にさせない、孤独を感じさせないような支援をしていくことが必要ということである。そのためには職員が利用者と、より積極的なコミュニケーションを意識していくだけでなく、地域との繋がり、今までとは違う新たなコミュニティを提供していくことなどが重要と考えた。

1．調査対象施設フェイスシート

施設種別	生活介護・就労移行支援
施設名	は～と・ピア2
施設概要	
【生活介護】 個別支援計画に基づき、健康的で豊かな生活を維持していくための基本となる身体介護や生活介護、コミュニケーション援助・支援等を個々の利用者に合わせて行っている。 【就労移行支援】 生産活動その他活動の機会を通じて、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行っている。	
利用者数	【生活介護】　22名 【就労移行支援】　8名
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー）
予備訪問　　令和7年7月23日 ヒアリング　令和7年10月8日	社会福祉学科4年 柿澤美里、山之口悠
対象者　5人	

2．KJ法A型図



３．KJ 法 B 型文章化

今回の質的調査では女性３人、男性２人の合計５人を対象とした。対象者は施設職員によって選出され､利用者１人または２人と担当学生２人による半構造化面接を３回実施した。

①災害に対する関心

本調査では特に災害に対して高い関心が見られ、不安・緊張・恐怖などのマイナスな感情を持っている利用者が多かった。家族と災害について話す人もいれば、災害について誰かと話したことがない人や自分自身で考える人もいた。施設では避難訓練を行っているとのことだったが、実際どこに避難したらいいのかわからないという声があった。

避難先については、主に私たちが提示したイラストボードをもとに回答を得た。落ち着ける場所があるかどうか、施設の職員を含む支援してくれる人がいるかどうかについて不安を感じている利用者が多かった。他にも快適に寝ることができる場所（ベッド）や清潔なお風呂が欲しいという声もあった。

②施設での生活と施設外におけるつながり

施設での生活について、主に調査当日に行っていた冊子作業について話を聞いた。作業に対しては大変・忙しいと感じる反面、やりがいを感じている利用者が多かった。施設内では作業のほか、散歩やドライブなどの活動、英語の勉強や編み物をして過ごしているとのことだった。特に予定されているバーベキューや芋掘りなどのイベントを非常に楽しみにしていた。

施設で利用者と過ごす時間が「楽しい」「幸せである」という声も多く聞かれ、相談相手として施設職員を挙げる人もいた。しかし、中には他の利用者や職員に対して不満を抱える人もいた。

施設外におけるつながりとして、移動支援担当者や趣味（ダンス）仲間との関係が挙げられた。しかし、友達というワードは出てこなかった。

③家族との関係

休日に家族と過ごしていたり、家事の手伝いをするなど良い関係性が見られた利用者のほか、親との死別や母の体調不良によって不安やさみしさを抱える利用者もいた。また、家族との関係性が薄い利用者は、休日についても「家で過ごす」と暗い表情で答えていた。

④金銭面の不安

金銭面の不安として、生活費と食費が挙げられた。

矢印の説明

(1)施設内での利用者や職員、また家族との関わりが利用者の不安や悩みに影響していることが分かった。

(2)休日は誰かと一緒に過ごすのではなく、個人の趣味などひとりで過ごしている印象を受けた。つまり施設内および家族との繋がりが薄いのではないかと考えた。

4．考察

①災害に対する関心

災害に関して関心が高いものの、具体的な対策や避難方法の理解に結びついていない。このままでは、実際に災害が起きた場合、地域住民にも混乱が広がり避難や支援がスムーズに行われない危険性がある。そのため、施設をはじめ災害や防災について地域全体で理解を深める機会を増やさなければならないと考える。また、避難先においても、利用者がどのような環境で生活をするのか想定できていない印象を受けた。施設は避難先における利用者の特別なニーズや不安を把握したうえで、具体的な支援について考え、実施する必要があるだろう。

②施設での生活と施設外におけるつながり

様々な質問により施設でのエピソードや利用者同士の信頼関係が示されたことから、利用者にとって施設での活動が生活の中心になっていると考察する。このことをストレングスとして捉え施設外での活動を発展させることで、利用者がより社会に関心をもつきっかけになるのではないだろうか。

また施設内での生活に対して、施設外における社会とのつながりが非常に薄いことが分かった。「ダンス仲間」に関しても深いつながりはなく、本人にとって「ただそこにいる人」と捉えているようだった。これらに関して私たちは、施設内での関係性が強いため、利用者が施設以外でのつながりを求めていない現状にあると感じた。

③家族との関係

家族との関係性によって、利用者の生活の満足度に違いが生じることが分かった。加えて、本調査の中で「家族が勝手に住む場所を決め、新しい地域に引っ越した」ことについてお話を聞いた。利用者はこのことが気がかりで、現在の生活に満足していないように見受けられた。ここで、本人の意思が尊重されていないことから利用者が不幸せな状況にあると考えた。これらのことから、利用者と家族の関係構築支援に加え、家族のいない利用者に対して孤独感を軽減する支援が必要であるだろう。

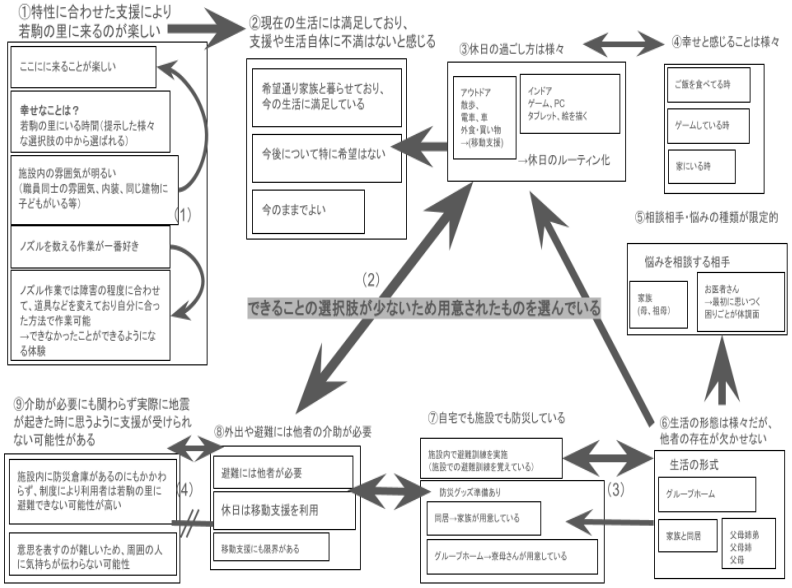
④金銭面の不安

金銭面の不安に関しては、社会的な物価上昇の影響のほか障害者への金銭管理支援の必要性も考えられる。そのため、障害者の抱える金銭面の不安についてより詳細な調査が重要なのではないだろうか。

1．調査対象施設フェイスシート

施設種別	生活介護(多機能型事業所)
施設名	文京区本郷福祉センター若駒の里
施設概要	
障害福祉サービス等受給者証の交付を受けた方が地域で社会生活を行えるよう、通所による生活支援・作業訓練等を通じて支援している。知的障害があり、通所しながら生活している人の日中の居場所を提供している。創作や食事、排泄などを支援し、自立して生活できるよう促している。また一人ひとりが太陽にという理念の下、障害を持つ人が住みやすい社会になるよう貢献し、住み慣れた地域で生き生き暮らし続けられるように利用者の努力を社会に向けて発信している。 太陽福祉協会が平成 16 年 4 月 1 日から文京区から委託され運営している。また平成 27 年 4 月より法内化となった放課後等デイサービス事業との多機能型事業所として一体的に運営を行っている。	
利用者数	通常　30 名
ヒアリングについて 予備訪問　　令和 7 年 7 月 30 日 ヒアリング　令和 7 年 9 月 12 日	調査担当者（グループメンバー） 社会福祉学科 4 年 西村未咲、野田夏渚人、寶劔汐音、星野心咲
対象者　4 人	

2．KJ 法 A 型図



KJ 法 B 型文章化

今回の質的調査では、男性３人女性１人の計４人からお話を伺った。

①若駒での満足度

利用者の特性に合わせ、道具などを変えて活動や作業を行っている。特にノズル作業への関心が高かった。また、施設内の雰囲気や交友関係も良好である。

②現在の生活について

家族と暮らすことなど希望通りの生活ができている人が大半であった。今の生活に満足している傾向にある。

③休日の過ごし方

外食、買い物、ゲーム、散歩など様々な趣味を持つ人がいた。しかし、新しいことに挑戦することは少なく、休日の過ごし方がルーティン化している。移動支援を利用している人もいるため、だいたい決まった動きをしているようだった。

④幸せと感じる時

ご飯を食べる時やゲームしている時、家にいる時など休日に行うことを挙げる人が多くいた。

⑤相談相手

利用者は関わる人(コミュニティ)が限定されてしまう。そのため、相談相手が家族(母、祖母)、お医者さんに限られてしまう。

⑥生活形式

生活の形式は様々であるが、他者の支援なしでは生活が困難な人が多くいる。そのため選択肢が少ない。(グループホーム、家族と同居)

⑦防災

施設内で避難訓練を定期的に実施している。利用者は避難訓練のことをしっかり覚えていた。さらに、グループホームや同居している家族などが防災グッズを常備している。

⑧災害などの避難

生活と同じく他者の支援なしでは避難が困難な人が多くいる。避難訓練をしているとはいえ、避難に関しては心配が多い。

⑨避難先での問題

施設内に防災倉庫があるのにも関わらず、制度の壁があり、周辺地域に暮らしていない利用者は避難できない可能性がある。また知らない人が多い場所に避難した場合、意思表示が難しいため意思が上手く伝わらない可能性がある。

矢印の説明
(1)施設の雰囲気が利用者の満足度を高めており、また来たいと思える施設づくりに成功している。また単純に見える作業でも利用者ごとに使う道具を変えており、「出来ない」を「出来る」にする工夫がなされている。この工夫により作業の充実感が上がっている。
(2)利用者の中には自分で移動することが困難な者もおり、移動介助が必要である。外出の際は他者の介助が必要なため、休日の過ごし方も固定化されてくる。休日の過ごし方や趣味は人それぞれだが、支援は一律である。決まったもの以外の動きが簡単にできる状況ではない。
(3)自宅でも施設でも防災はしているがあくまで家族やグループホームの寮母さん、職員等他者が行ったものである。利用者本人が準備したものではないため、実際に災害が起きた時に使うことができるかどうかは不明である。
(4）避難には他者の存在が欠かせないためたくさんの社会資源が必要になるが、制度の壁が存在している。慣れ親しんだ施設が福祉避難所として解放されているならば利用したいが、利用できない可能性が高い。資源が枯渇する災害時においてはある資源を有効活用しなければならない。また他者の介助が欠かせない障害者にとって資源が枯渇している状況での避難生活は非常に困難なものになる。

4. 考察

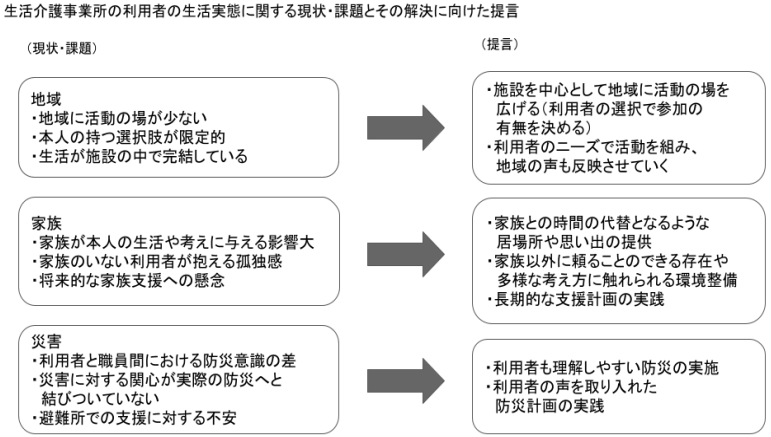
本調査では、今の生活に対して困りごとは特にないという結果になった。しかし裏を返せば、選択肢が少ないため、行動・選択できる範囲が狭くなっていると考えられる。

選択肢の少なさの背景には、障害への理解不足と地域社会との交流の少なさが課題に挙げられる。これらの課題について、解決策を 2 点提案する。

まず、障害について学ぶ機会づくりを提案する。たとえば、小学校や中学校に利用者と施設職員が出向いて障害のことを学ぶ機会をつくる。これは、福祉教育の推進にもなり、ともに生きる力を育むために重要である。また、区が仲介人になって企業に障害理解を深める講習を行うことも有効であると考える。地域で働く人々が障害について学ぶことは、無意識の差別や偏見をなくし、障害への理解を深めることができると考えられる。

次に、障害者施設の利用者が地域での交流を広めていくためには、施設を中心とした生活から一歩外に出て、地域社会との接点を増やしていく仕組みづくりが重要である。現在、多くの利用者は相談や日常の支えを施設職員に依存しており、施設以外に頼れる人や場所が限られている。このような状況を改善するためには、まず地域とつながる機会を意図的に増やすことが求められている。具体的には、地域のイベントや祭りへの参加、大学や区、商店街との共同企画など、地域住民と自然に関わる機会を設けることが効果的だ。コロナ禍で一時的に減少した対面での交流も、近年は再び回復しつつあるため、これを契機として地域とのつながりを再構築することを提案する。また、施設外で気軽に立ち寄れる「居場所」を複数つくることも重要である。たとえば、地域のカフェや公民館で行う交流サロンを通じた集まりなどを継続的に開くことで、利用者は安心して外部と関わる経験を積むことができる。こうした場が「第 3 の居場所」として機能することで、地域の中に多様な交流の場を生み出し、施設と地域の間に橋をかけることが、利用者がより豊かに地域生活を送るための第一歩となる。

生活介護事業所調査総括と提言



私たちは生活介護事業所を訪問し、計 13 名の方からお話を伺った。ここではお話を伺っていく中で挙がった現状と課題を分析し、解決に向けた提言に結びつけたい。

1 つ目の現状として、地域の中に活動の場が用意されていないことが挙げられる。利用者は与えられた少ない選択肢の中で生活をしており、施設の中で生活が完結しているケースが多いと感じた。また休日の活動なども選択肢の少なさに影響を受けているようだった。利用者本人の声が利用者の生活に反映されていないことは課題である。

しかし、施設中心の生活になっていることが必ずしも悪いことではない。施設は地域に根ざした存在であり、新たな活動のハブとして活用することができる。施設中心の支援のあり方は無理に変えずに施設を中心として、地域に活動の場を広げる方法を考えた。具体的な活動を構築していく際には、利用者の意思決定支援の観点から利用者自身のニーズから発展したものからプログラムを組むべきである。また地域と施設のお互いが利益を受けることができる形でなければ継続することができない。地域の声を踏まえたものかつ地域に貢献できるプログラムである必要がある。また施設での支援は地域の特性が反映されたものであることから地域の課題にも目を向けなければならない。

活動を行う際も、生活の中での意思決定の少なさを補うという点で利用者が参加の有無を自分自身で選択することも重要である。参加をしない選択をした利用者にも参加した利用者から活動の楽しさや魅力などが利用者から伝わり、その輪が広がることが望ましい。生活介護の利用者は社会に出る場面が少ないという点で他の文化と関わる機会が少なくなる。家庭内や施設内以外の文化にも触れる機会を提供でき、間接的に選択肢を増やしていくことにもつながる。懸念点は支援者側の負担増加が否めないことである。

2 つ目の現状として、家族が生活や考え方に大きな影響を与えていることが挙げられる。調査によって家族との関係値や同居の有無によって生活の満足度に差が生じることが明らかになった。「家族が亡くなり休日は一人で過ごす」と答えた利用者の表情は暗く寂しさを感じているように見えた。このような利用者に対して家族と過ごした時間の代替となるような居場所や思い出を提供する支援はできないだろうか。

加えて現在は家族と良好な関係を築いている場合であっても、いずれ家族が他界し孤独を感じる利用者が増える可能性も考えられる。家族がいなくては生活できない、家族の考えが絶対的になってしまうことを防ぐためにも、家族以外に頼ることのできる存在や家族以外の多様な考え方に触れられる環境を整える必要があると考える。

これらの課題の解決には、先述した地域へと向けた支援体制を整えること、現在だけではなく将来的な生活をも見据えたうえで施設と家族との積極的なコミュニケーションを継続し、「家族がいなくなった後の支援」について家族と本人双方の意見を取り入れた長期的な計画を実践していくことが非常に重要であるだろう。

3 つ目の現状として、利用者と職員の間で防災意識に隔たりがあると考えられる。調査したすべての人が施設にて避難訓練を行なっているが、具体的な避難方法については分からないという人も少なくなかった。また、家族と災害について話したり、自分で考えているという人は多くなかった。しかし、本調査にて防災へのニーズが顕在化し、避難所に落ち着ける空間があるかどうかや、支援員がいるかどうかなどの不安を感じていた。施設では月に 1 回の避難訓練を行なっていたり、防災倉庫が備えられていたりなど、災害の準備ができている一方で、本人の理解は最低限の理解に留まっている。このことから、実際に災害が起きた際に、利用者は職員の防災意識に依存する可能性がある。

これらの課題の解決には利用者にも理解しやすい防災準備を行うことが求められる。

知的・身体障がいのある人たちのグループホーム

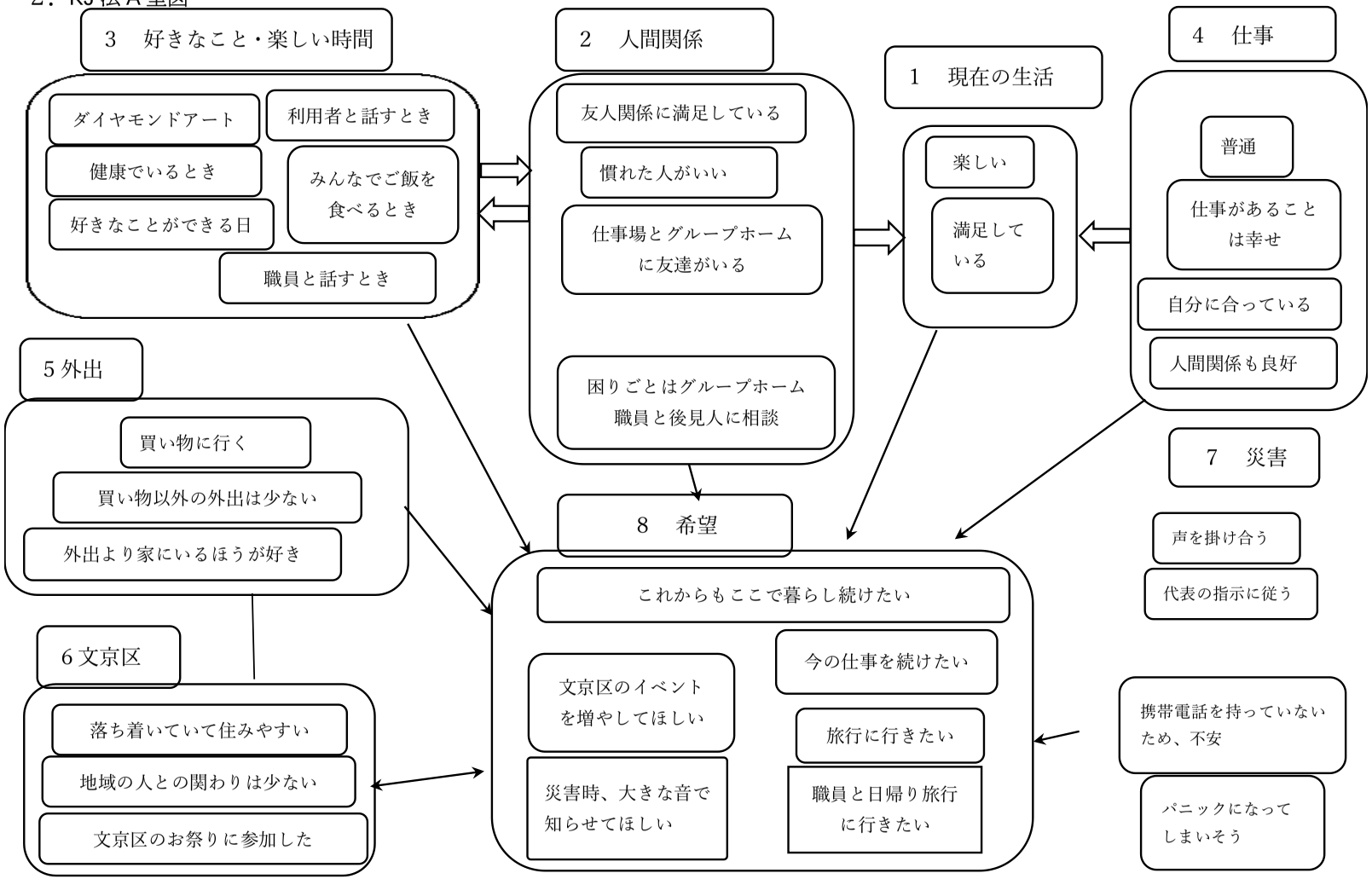
調査対象施設一覧

ドリームハウスⅢ
ドリームハウスⅣ
エルムンド千石・エルムンド小石川
陽だまりの郷

1．調査対象施設フェイスシート

施設種別	グループホーム
施設名	ドリームハウスⅢ
施設概要	
障害のある人が日常生活の支援を受けながら共同生活を送る社会福祉施設である。 24 時間支援体制で日中の活動もサポートする。障害者の孤立防止、生活上の不安軽減、共同生活による身体、精神の安定等を図る。	
職員数	常勤　　2　名　非常勤　5　名
利用者数	通常　7　名
ヒアリングについて 予備訪問　令和７年　8月　4日 方法：対面 ヒアリング　令和７年　9月 14 日 方法：対面	担当者（グループメンバー） 社会福祉学科３年　　副島悠那 ４年　　浅賀隆斗
対象者: 女性・70 代	

２．KJ 法Ａ型図


3　好きなこと・楽しい時間
ダイヤモンドアート
利用者と話すとき
健康でいるとき
みんなでご飯を食べるとき
好きなことができる日
職員と話すとき
2　人間関係
友人関係に満足している
慣れた人がいい
仕事場とグループホームに友達がいる
困りごとはグループホーム職員と後見人に相談
1　現在の生活
楽しい
満足している
4　仕事
普通
仕事があることは幸せ
自分に合っている
人間関係も良好
5 外出
買い物に行く
買い物以外の外出は少ない
外出より家にいるほうが好き
6 文京区
落ち着いていて住みやすい
地域の人との関わりは少ない
文京区のお祭りに参加した
8　希望
これからもここで暮らし続けたい
文京区のイベントを増やしてほしい
今の仕事を続けたい
旅行に行きたい
災害時、大きな音で知らせてほしい
職員と日帰り旅行に行きたい
7　災害
声を掛け合う
代表の指示に従う
携帯電話を持っていないため、不安
パニックになってしまいそう

３．KJ 法 B 型文章化

知的障害者グループホームに暮らす知的障害をもつ 70 代女性に、現在の暮らしや生活の希望についてインタビューし、その内容を 8 つのグループにまとめた。

まず１つ目は、現在の生活に対する全体的な満足度についてだ。本人は今のグループホームでの生活に満足している。グループホームでの暮らしは楽しいと話していた。

その大きな要因の一つが、２つ目の人間関係だ。本人は今の人間関係に満足している。慣れた人と過ごせていることがいいそうだ。仕事場とグループホームに友だちがいると話していた。施設の外にはいないそうだが、今以上に友だちを増やしたいという希望はないそうだ。コロナ前と変わらない安定した人間関係を築いている。困りごとを相談する人は、グループホームの職員と後見人がいる。

３つ目は、好きなことや楽しいことについてだ。一人でできる趣味はダイヤモンドアートである。また、好きなことができた時や健康でいる時はいい気分でいられると話していた。

一方で、人と関わることも好きだと話していた。同じグループホームの人たちとご飯を食べるときや、グループホームの職員や利用者とコミュニケーションを取っているときが楽しいと話していた。

４つ目の項目は仕事で、問題なくできているそうだ。 仕事があることは幸せだと思うと話していた。また、今の仕事は自分に合っていると感じていた。職員やメンバーとの関係も良好だそうだ。

５つ目の項目は外出で、買い物に行くときに外出している。買い物以外で外出することは少なく、外出するよりも家にいる方が好きだそうだ。

６つ目は、文京区についてである。文京区は落ち着いていて、住み心地がいいと感じている。地域の方との交流はほとんどない。文京区のお祭りは、誘われたときに行っているそうだが、自分から積極的に行くことはない。行ったときは楽しかったそうだ。

７つ目は、災害についての本人の認識についてである。本人は災害時の対応について理解していた。災害時は声を掛け合って逃げること、代表の指示に従って動くことを挙げていた。職場でも避難訓練をしているそうである。 災害時の不安 について、携帯電話を持っていないため、不安が大きいと話していた。災害に関する情報が入ってこないため、困っているそうだ。また、実際に災害が起こったとき、パニックになってしまいそうで不安だと話していた。

最後に、以上を踏まえて導き出せる本人の希望である。これからもここで暮らし続けたいと話していた。仕事についても、今の仕事を続けたいそうだ。また、旅行に行きたいと話していた。職員さんと日帰り旅行に行きたいそうだ。文京区への要望としては、お祭り以外の文京区のイベントを増やしてほしいと言っていた。また、災害が起こったとき、大声や放送で知らせてほしいと話していた。

４．考察

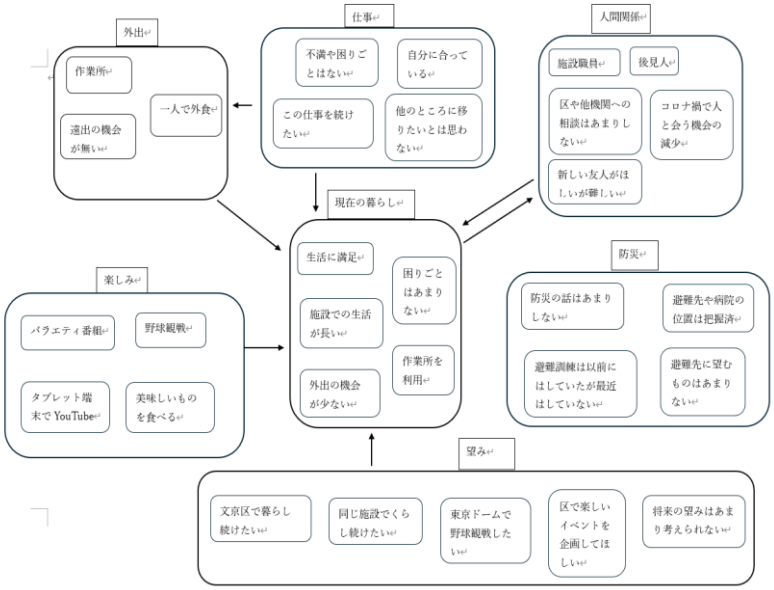
この調査を通して、本人は今の生活に満足していて、今後もこの生活を続けていきたいと考えていることが分かった。本人は２０年近くドリームハウスに住んでいるため、長年をかけて築いた人間関係が、現在の生活の満足度につながっているのではないかと考えた。

一方で、「旅行に行きたい」という発言から、非日常の体験を求めていることが分かった。安定した日常から一歩離れ、いつもと違う体験を支援する必要があるのではないかと考えた。文京区のイベントにも本人が主体的に参加できるようにすることが重要であると考えた。また、実際にグループホームを見学し、建物の老朽化を垣間見ることができた。安心して過ごせる住環境の整備が必要であると考えた。

１．調査対象施設フェイスシート

施設種別	知的障害者グループホーム
施設名	ドリームハウスⅣ
施設概要	
障害のある人が日常生活の支援を受けながら共同生活を送る社会福祉施設である。 24 時間支援体制で日中の活動もサポートする。障害者の孤立防止、生活上の不安軽減、共同生活による身体、精神の安定等を図る。	
職員数	常勤　　２名　　非常勤　　２名
利用者数	通常　　６名
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー）
予備訪問　令和７年８月４日	３年　副島悠那
ヒアリング　令和７年９月 14 日	４年　浅賀隆斗
対象者: 男性・50 代	

２．KJ 法 A 型図



３．KJ 法 B 型文章化

知的障害者グループホームで暮らしている 50 代男性に、現在の暮らしの現状や生活の希望、抱えている困難等についてインタビューを行い、得られた回答を 7 つのグループに分けて分析した。

まず 1 つ目は今の暮らしの状況に関するグループである。インタビューから、施設に長く住んでいて、グループホームでの生活に満足していること、また、悩み事や困りごとはあまりないこと、作業所に通っているがコロナ禍以降旅行などの外出があまりできていないことがわかった。施設での暮らしや作業所での活動という面ではあまり問題がないものの、外出したいなどのニーズを持っていることがわかった。

2 つ目は外出の状況についてのグループである。外出する目的として、現状では作業所に行くことと、一人で昼食を食べに行くことが主な外出になっている。その一方で遠出は難しいという回答があった。生活に直結した外出についてはある程度頻繁に外出する機会があるようだが、遠出などの非日常的な外出についてはあまり機会がないということであった。

3 つ目は暮らしている中での楽しみのグループである。回答としては、テレビでバラエティ番組や野球を見る、タブレットで YouTube を見る、おいしいものを食べるという回答を得られた。

4 つ目は仕事に関することである。仕事に対する不満や困りごとはなく、問題なくできているようである。現在の仕事は自分に合っており、この仕事をずっと続けたい、ほかの仕事をやってみたいという気持ちはあまりないという回答が得られた。

5 つ目は、望みに関するグループである。今後も文京区で暮らしたい、グループホームで暮らしたい、東京ドームに野球観戦に行ってみたいという回答が得られた。また、文京区に何か楽しいイベントを行ってほしいという回答があり、地域で参加できるイベントの開催を望んでいるようだった。将来について望むことはあまりなく、今は考えることがあまりないとしていた。

6 つ目は、人間関係である。相談先としては施設の職員と後見人に悩み事や困りごとを相談しているそうである。その一方で、あまり区や他の機関に相談することはないという回答が得られた。コロナ禍以降人と会う機会は減ったようで、新しい友人を作りたいがなかなか難しいと考えているという回答が得られた。

7 つ目は、災害関連である。施設ではあまり防災についての話はしないそうであるが、避難先については把握しており、病院についても施設から近くにあることを把握しているようであった。避難訓練に関しては以前には行ったことがあったそうだが、最近は行っていないようである。避難先に望むことはあまりないという回答が得られた。

４．考察

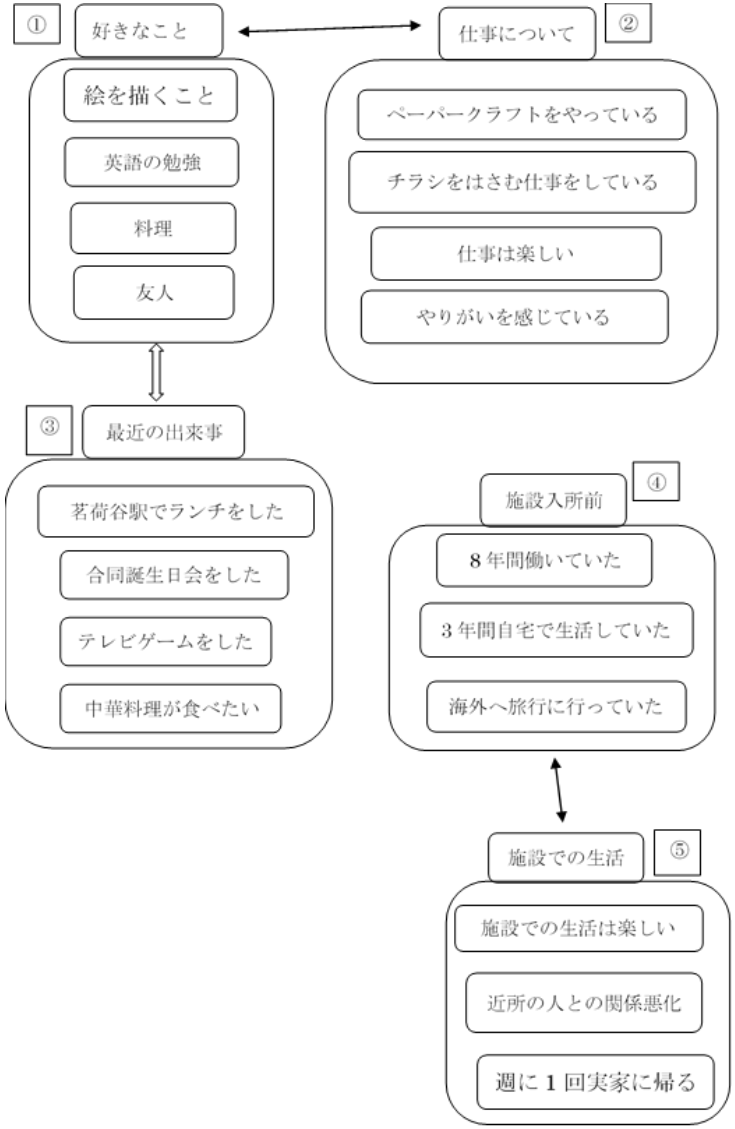
生活についてはあまり問題がないと考えている一方で、望むこととして地域のイベントに参加したいと考えていたり、遠出をしてみたいと考えていたりなど、施設の外に出て非日常的な体験をしたいと考えていることが読み取れる。本人は将来のことはあまり考えていないと回答したが、区や施設外とのつながりがあまり感じられなく、今後のことを考えられない様子から情報を得る機会が少なくなっているのではないかと考える。本人が暮らしやすい環境で生活を続けるとともに、今暮らしている地域に住みつづけるためにも、自分の将来を自分で考えられるように情報提供を欠かさずに行っていく必要性があると感じた。

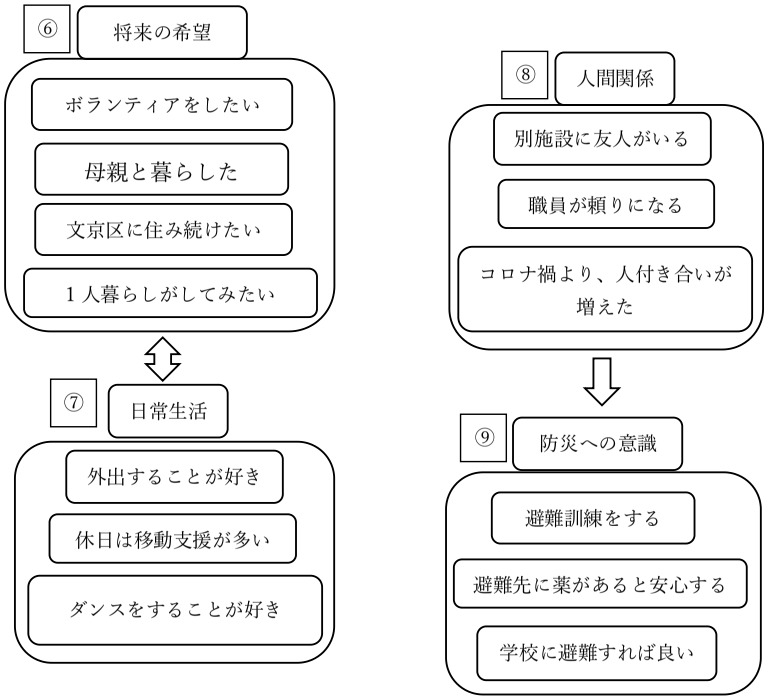
１．調査対象施設フェイスシート

施設種別	グループホーム
施設名	エルムンド千石
施設概要	
2011 年設立。東京都文京区にある、主に知的障がいのある男性専用の共同住宅タイプのグループホームである。主として夜間に、入浴、排泄、食事の介護や援助等のサービスを提供する。利用者一人ひとりの個性を生かし、心身ともにリラックスすることができ、住み慣れた街で自立した地域生活ができるようにサービスを提供する。	
職員数	常勤　1　　名　非常勤　7　名
利用者数	通常　9　　名
ヒアリングについて 予備訪問　2025 年　8 月　6 日 方法：対面 ヒアリング　2025 年　9 月 24 日 方法：対面	担当者（グループメンバー） 社会福祉学科 3 年　清水碧月 4 年　宮崎智志
対象者: A さん（40 代・男性）、B さん（50 代・男性）	

施設種別	グループホーム
施設名	エルムンド小石川
施設概要	
昭和 62 年 3 月 28 日に設立された社会福祉法人 太陽福祉協会が運営。設立日は 2011 年 4 月 1 日。最寄駅は丸の内線茗荷谷駅で閑静な住宅街の中にある。エルムンドは、2 棟に分かれていて小石川には女性の利用者が生活している。障がい者が地域において自立して日常生活又は社会生活を営むことが出来るよう、入居者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じてグループホームにおいて相談、入浴、排泄または食事の介護その他の日常生活上の支援、相談を行う施設である。	
職員数	常勤　2　　名　非常勤　8 名
利用者数	通常　6　　名(定員 7)
ヒアリングについて 予備訪問　2025 年　9 月　22 日 方法：対面 ヒアリング　2025 年 9　月 26 日 方法：対面	担当者（グループメンバー） 社会福祉学科 3 年　秋元梨奈 4 年　本多祐希花
対象者: A さん（女性）、B さん（女性）	

２．KJ 法 A 型図





3. KJ 法 B 型図文章化

私たちは、グループホームを利用する方々の生活状況を 9 つのグループに分けました。
①好きなことに関するグループです。
　サラダや中華料理づくり、アルコールを嗜むこと、外食に行くこと、ソフトクリームが好きなことなど、食に関する好きなことが多く挙げられました。また、英語の勉強や編み物、アトリエで絵を描くなど、学びや創作活動を楽しむ人もいて、日常の中で自分らしい時間を大切にしている様子がうかがえました。
②次に最近の出来事に関するグループです。
　中華が食べたいという日常的な願望や、絵を描くことに夢中になっている様子、ダンスをしている時に幸せを感じるといった前向きな出来事が多く聞かれました。また、テレビゲームを楽しんだことや合同誕生会を行ったことなど、仲間との交流やリラックスできる時間も挙げられていました。いずれの出来事もポジティブな内容であり、グループホームやそれ以外の生活に満足し、充実した時間を過ごしている様子が伺えました。
③次に「仕事」に関するグループです。
　ペーパークラフトやチラシを挟むなどの仕事をしている方がおり、どの方も「仕事は楽しい」「作業が好き」「やりがいを感じている(満足している)」とのことでした。また、「別の仕事をやってみたい」と思う方もいました。
上記は、相互関係にあると考えられます。

特に「好きなこと」で挙げられた趣味や関心が、「最近の出来事」に具体的な行動や感情として反映されている点が特徴的です。例えば、中華料理が好きという傾向は「中華が食べたい」という日常の願望として現れ、絵を描くことやダンスが好きという趣味は「絵を描くことに夢中になっている」「ダンスをする時が幸せだと感じる」といった最近の体験につながっています。このように、好きなことが日々のポジティブな出来事を生み出し、生活の満足感を高めていることから、相互関係にあるといえます。
④次に、「施設入所前」に関するグループです。
　3 年ほど前は自宅で生活をしていた、8 年間働いていたが、嫌なことを言われたことがトラウマになってしまったという方がいました。
⑤次に施設での生活に関するグループです。
　④のグループ、設入所前の経験を経て、実際に施設へ入居した後の生活では、環境の変化がどのような影響を及ぼしているのかについても見てみました。施設での生活ではルーティンが決まっており、規則正しい生活を送れていること、そして利用者が「楽しい」と感じていることから、充実した日々を過ごしている様子でした。っ一方で、精神障がいのある方は、環境の変化やルーティンの崩れによってストレスを感じ、強い不安から大声を出してしまうことがあり、近隣の方から苦情が寄せられることもあると伺いました。
⑥次に将来の希望に関するグループです。
　ご自身の好きなことを続けていきたい、新しいことに挑戦したい、そして現在の生活を維持したいといった意見があがりました。一方で、継続していく上での課題として、親御さんが高齢化し、今後は親御さん自身も支援が必要な立場になることで、一緒に生活していくことが難しくなるのではないかと感じられました。
⑦次に日常生活に関連したグループです。
　このグループでは、施設以外での過ごし方について多くの意見が挙がりました。
家族とのお出かけや就労移行支援などの機会で外出することが『好き』、また『もっと外出したい』という声が多くあがりました。施設内外ともに一定の制限はあるものの、充実した生活を送れていることがわかりました。
⑧人間関係に関するグループです。
　この項目では、利用者の施設内外での交友関係から家族関係、近隣との関係についてまとめられています。施設の職員、家族、生活支援のサービスを受ける仲間とは良い人間関係を作れていますが、近隣住民とは騒音トラブルもあり、お祭りに招待してもらう等お互いに少しずつ歩み寄りを進めている状況になっています。また、仕事の人間関係でトラウマを抱え働くことを恐れている利用者もいました。人間関係は利用者に良い影響も悪い影響も与えることができることが分かります。
⑨防災への意識に関するグループです。
　防災に関連する利用者の意識だけでなく、施設や地域の取り組みについてまとめられています。⑧の項目でも出てきた、地域との繋がり・関係性が強く関連していることがわかりました。1 人の利用者は災害が起こった場合、避難する場所について理解していたが、1 人の利用者は災害が起こった際のことについてあまり理解していない様子でした。災害時について周りに話したことがなく、避難所に行く際もパニックになったり福祉避難所が分からないなど不安なことがいくつかあることが分かります。災害時に薬のサービスや避難所でのパーソナルスペースの確保等のサービスが求められています。地域の方との人間関係が重要なため防災への意識と人間関係が関連していることが分かります。

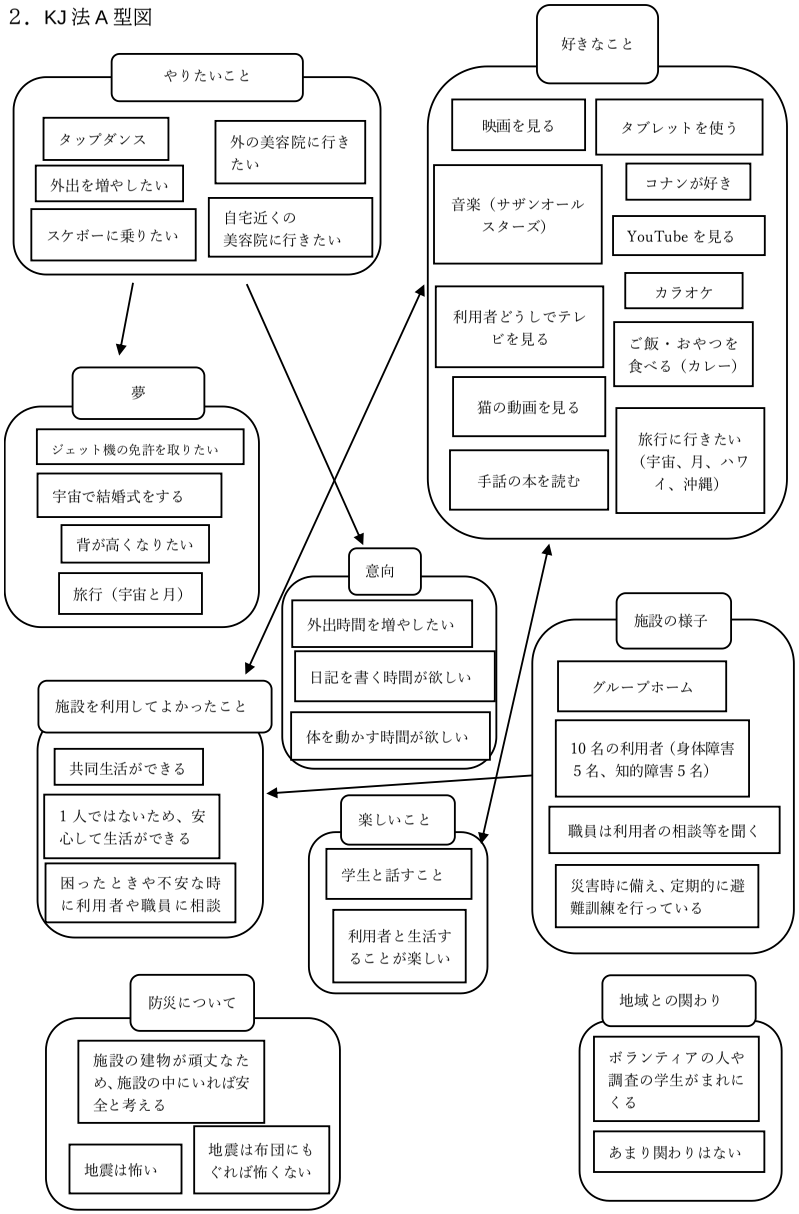
4. 考察

①～⑨の結果から、利用者は好きな活動や仕事を通して日常に楽しさや充実感を得ており、施設での安定した生活が安心につながっていることが分かりました。一方で、過去の経験や将来への不安、人間関係や防災への理解など、生活を続けるうえでの課題も明らかになりました。好きなことが生きがいとなり満足度を高める一方、地域との関係づくりや、環境や支援体制の変化へ柔軟に対応できるよう支援していくことが今後重要であると考えられます。

1．調査対象施設フェイスシート

施設種別	グループホーム
施設名	陽だまりの郷
施設概要	
2015 年に設立された、障がいのある方のためのグループホーム。 住み慣れた地域で、その人らしく自立した生活が送れるようサポートしている。 一人ひとりの心身の状態や環境に合わせて、生活などの相談から、食事・入浴・トイレの介助まで、日常生活に必要な支援を行っている。	
職員数	常勤　6　　名　非常勤　12　名
利用者数	通常　10　　名
ヒアリングについて 予備訪問　2025 年　9 月　10 日 方法：対面 ヒアリング　2022 年 9　月 29 日 方法：対面	担当者（グループメンバー） 社会福祉学科 3 年　荒巻司 角田駿介 4 年　三好慶奈
対象者: A さん（男性・60 代）、B さん（男性・40 代）、C さん（女性・80 代）、D さん（女性）、E さん（女性）	

2．KJ 法 A 型図



3．KJ 法 B 型文章化

このたび実施した文京区障がい者実態調査の結果、対象となる利用者様は、グループホームでの共同生活に大きな安心感と満足感を抱きながら、非常に活動的で多様な興味・関心を持っていることが明らかになりました。それらを 7 つの意義に分類しました。

施設は障害の種別、身体 5 名、知的 5 名の計 10 名が共同生活を送るグループホームであり、職員が利用者様の相談に応じています。利用者様にとって、共同生活ができること、一人ではないため安心して生活できること、そして困ったときに利用者や職員に相談できることが、施設を利用する上での最大の利点となっています。

分類の一つ目は、利用者様のやりたいことについてです。利用者様は非常に意欲的な活動願望を持っています。近い将来の「やりたいこと」として、ハワイや沖縄への旅行、タップダンス、スケートボードに乗ることといった活動的な願望と、外の美容院（自宅近くの美容院含む）に行きたいという身だしなみに関する具体的な希望があります。

二つ目は壮大な夢として、宇宙や月への旅行、宇宙での結婚式、ジェット機の免許取得といった、非常にスケールの大きい目標を抱いていました。

三つ目は日常生活の中で好きなこととして、カラオケ（歌を歌う）や音楽鑑賞（サザンオールスターズ）、映画や YouTube の視聴（特にねこの動画）、タブレットの使用など、多様なエンターテイメントを楽しんでいます。特に利用者同士でアニメ、歌番組、ニュースといったテレビ番組を視聴する交流の時間が日々の楽しみとなっています。また、カレーなど、食事やおやつを食べる時間も日常の幸せとなっています。

さらに、学生との交流や他の利用者様と生活することそのものが「楽しいこと」として挙げられており、人間関係の豊かさが生活の質を高めていることが四つ目となります。

五つ目と六つ目は関連しており、施設についてです。障害の種別としては、身体障害者 5 名、知的障害者 5 名の計 10 名が共同生活を送るグループホームです。利用者様にとって、共同生活ができること、一人ではないため安心して生活できること、そして困ったときに利用者や職員に相談できることが、施設を利用する上での最大の利点となっています。また、災害時に備え、定期的な避難訓練を行っています。

七つ目は、利用者様からの現在の生活をさらに充実させるための具体的な意向についてです。最も強く求められているのは、外出時間を増やしたいという希望であり、それに伴い身体を動かす時間が欲しいという意向があります。また、身だしなみを整えるために、外の美容院に行きたいという声がありました。静的な活動としては、日記を書く時間を確保したいという要望もありました。

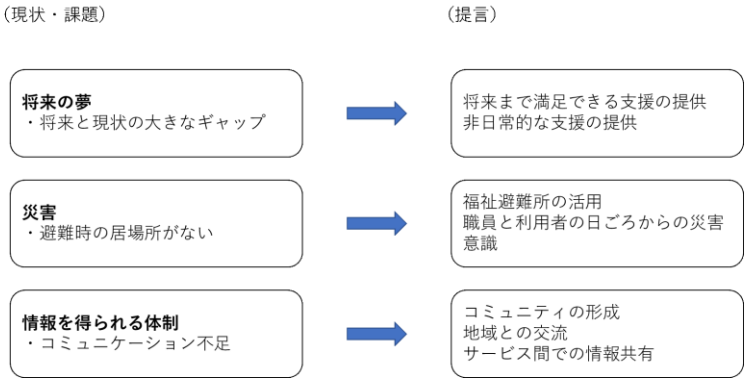
また、七つの意義の他に、地域との関わり、防災についても調査しました。地域との関わりについては、コロナウイルスの影響により、地域との関わりは減ったものの、不定期ではあるが、ボランティアや調査の学生が来て、利用者様との交流があります。一方、地域との関わりはコロナ前よりも減っているため、今後どのように地域との関わりを増やしていくかが課題となります。

防災意識については、「地震は怖い」という不安と、「施設の建物が頑丈なため安全」「布団にもぐれば怖くない」という安心感が利用者様によって混在しており、個人の防災に対する認識に違いが見受けられました。

4．考察

これらの結果を踏まえ、今後は、外出支援の強化や身体活動の機会の創出、希望する美容院の利用支援、そしてプライベートな時間を確保する環境整備が、利用者様の意向を実現するために優先度の高い支援項目となります。

知的・身体障害者グループホーム利用者の生活実態に関する現状・課題とその解決に向けた提言



私たちは知的・身体障害者グループホームを訪問し、計 11 名の方からお話を伺った。お話を伺っていく中で挙がった現状と課題を分析し、解決に向けた提言に結び付けたい。

一つ目の課題として、将来の夢と現状に大きなギャップがみられることが考えられる。例えば、利用者の中には海外旅行に行きたい、宇宙で結婚式を挙げたいという夢を持っている方がいた。これらの夢は現状の支援体制では支援することが非現実的である一方、夢を持ち続けることで本人の生活に様々なメリットをもたらす側面がある。これらのニーズを満たすために、実現が難しい夢であっても、その夢を持っていること自体を大切にすることが重要であると感じた。夢を言葉にすることで、利用者の思いや願いを知ることができ、想像を言語化し話す時間、そのものを大切にしていく必要があると考えた。

また、現実とのギャップを埋める一つの方法として、バーチャル体験などを活用し、夢を疑似的に体験できる非日常的な支援を取り入れることが挙げられる。さらに、本人が「やりたい」と感じていることを尊重し、小さなことでも継続できる活動として支援に組み込むことで、これからの人生における満足感や生活の充実につなげていくことが求められる。加えて、将来の選択肢を広げる観点から、就労支援の幅を広げ、気軽に参加できる仕事体験の機会を提供することも重要である。これは、新たな興味や本人自身も気づいていない適性を知るきっかけづくりとしても期待できる。これらの取り組みを通して、夢と現実の間にある距離を少しずつ現実的なものへと近づけ、将来に希望を持ちながら生活できる支援の在り方が求められる。

二つ目の課題として、災害時の避難先について利用者が具体的にイメージできておらず、安心して過ごせる居場所を確保できない点が挙げられる。一般的な避難所では環境の変化や人の多さから不安や混乱が生じやすく、適切な支援に繋がらない可能性がある。この課題に対して、まず避難時に利用者が落ち着ける環境作りが重要である。福祉避難所の設備や雰囲気を事前に伝え、静かな空間や配慮してある内容を共有することで安心感を高める。次に、利用者と職員の情報の差を埋めるため、避難先や支援体制、連絡方法を普段から説明し、共通理解を持つことが必要である。また、必要となってくる備蓄食品や日用品の確保についても事前に確認し、不足を防ぐ体制を整える。これらを通じて、福祉避難所を有効に活用し、災害時にも安心して過ごせる居場所の確保に繋げていくことが求められる。

三つ目の課題として、情報を得られる体制が整えられていないことが挙げられる。これに対してコミュニケーション不足が原因だと考えられた。

この課題に対して多くの改善策が挙げられた。まず施設内でのコミュニティ形成を進め、利用者同士や職員との日常的なコミュニケーションを活発にすることが重要である。定期的なレクリエーションや交流の場を設けることで、利用者が安心して自分の意見や希望を伝えられる環境づくりにつながる。また、地域との交流を積極的に行うことで、施設外の情報や人とのつながりを広げることができる。地域イベントへの参加や近隣住民との関わりを通じて、利用者が社会の一員として地域と関わる機会を持つことは、情報収集だけでなく、安心感や生活の充実にもつながると考えられる。

続いて、地域の広報紙やイベント案内、行政からのお知らせなどを施設内に配布・貼り出すことが挙げられた。これにより、利用者は施設の中だけで完結した情報ではなく、地域でどのような活動や支援が行われているのかを知る機会を持つことができる。また、掲示物を職員が一方的に貼り出すだけでなく、内容について利用者と一緒に確認したり、興味のある情報について話し合う時間を設けたりすることで、情報への理解を深めることができると考えられる。このような関わりを通して、利用者が自ら参加してみたい、知っておきたいと感じるきっかけをつくることができる。さらに、継続的に情報を更新し、分かりやすい場所に掲示することで、利用者が日常的に情報に触れられる環境を整えることが重要である。

最後に、サービス間での情報共有を強化することも重要である。グループホーム、相談支援専門員、就労支援事業所などが利用者の状況や支援内容を共有することで、支援の抜けや重複を防ぎ、より適切な支援を提供することが可能となる。

以上がグループホームの利用者に対する調査で得られた課題とその背景、並びに解決策である。

精神障がいのある人たちのグループホーム

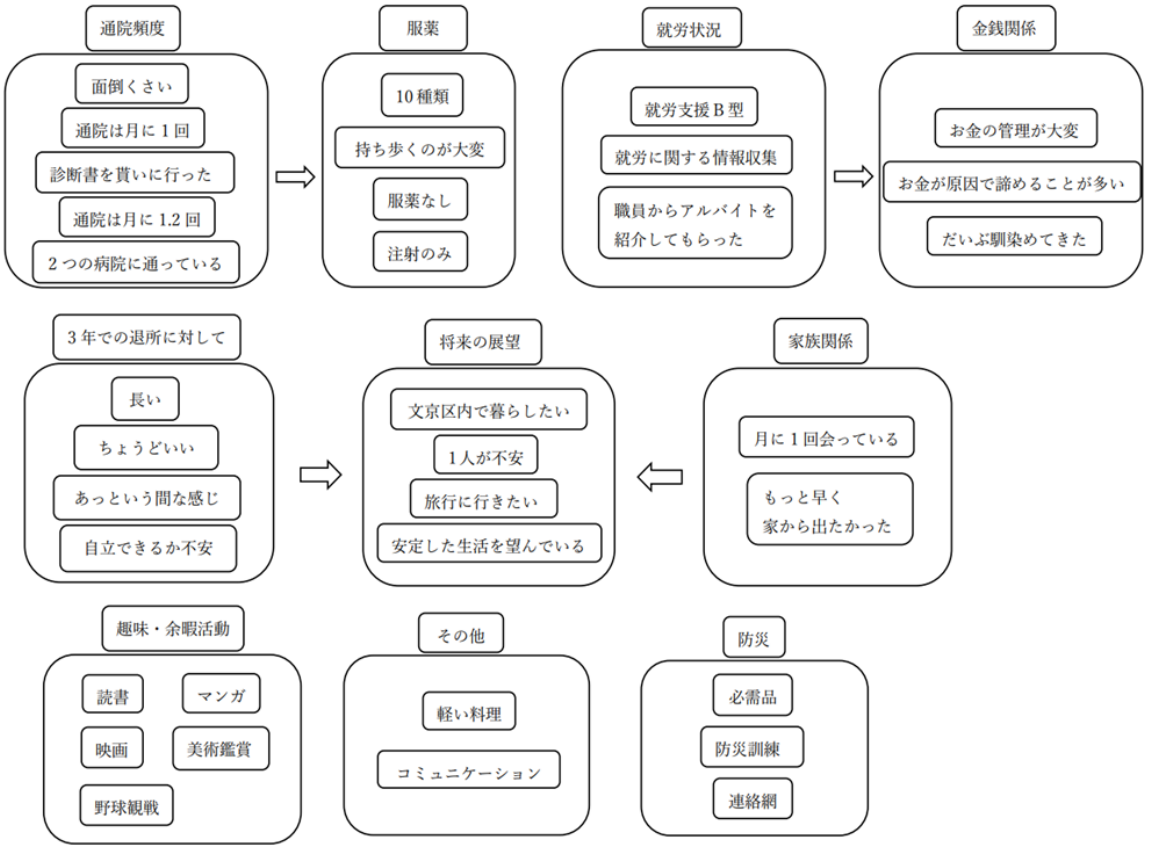
調査対象施設一覧

ホームいちょう
文京ホームアンダンテ

１．調査対象施設フェイスシート

施設種別	グループホーム
施設名	ホームいちょう
施設概要	
平成１３年設立。地域の中で家族から独立して生活したいとき３年を目処にして入所し、世話人などからの必要なサポートを受け自立生活を目指し、一人暮らしの準備をする通過型施設。自己管理や通院服薬を続けている、就労をしているまたはその見込みがある等条件を満たした人が入所可能。	
利用者数	通常　8　　名
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー）
予備訪問　2025 年８月６日 方法：対面	社会福祉学科４年　佐山幸優 手川真広 ３年　高橋静 吉村夏沙
ヒアリング　2025 年　８月２８日	
対象人数：7 名	

2．KJ 法 A 型図


通院頻度
面倒くさい
通院は月に 1 回
診断書を貰いに行った
通院は月に 1.2 回
2 つの病院に通っている
服薬
10 種類
持ち歩くのが大変
服薬なし
注射のみ
就労状況
就労支援 B 型
就労に関する情報収集
職員からアルバイトを
紹介してもらった
金銭関係
お金の管理が大変
お金が原因で諦めることが多い
だいぶ馴染めてきた
3 年での退所に対して
長い
ちょうどいい
あっという間な感じ
自立できるか不安
将来の展望
文京区内で暮らしたい
1 人が不安
旅行に行きたい
安定した生活を望んでいる
家族関係
月に 1 回会っている
もっと早く
家から出たかった
趣味・余暇活動
読書
マンガ
映画
美術鑑賞
野球観戦
その他
軽い料理
コミュニケーション
防災
必需品
防災訓練
連絡網

３．KJ 法 B 型文章化

私たちはグループホームで暮らす利用者の方々の生活状況を６つに分けた。
まず一つ目は、通院頻度と服薬状況についてである。通院は月に１回という方が多いが、診断書をもらうために今年久しぶりに病院に行ったという方もいた。また、転院して二つの病院に通っているため、薬局の関係で申請が大変という方もいた。服薬は、８種類から１０種類と多い方もいれば、服薬をせずに注射のみの方もいた。

２つ目は、三年での退所に対する考えから、将来の展望、家族関係についてである。三年で退所することに関しての考えは、「長い」と答える方、「短い」と答える方はおよそ半分だった。将来の展望に関して質問すると、これから一人というのが不安という方がいる一方で、旅行に行きたいという方もいた。仕事や通所に関しても、安定した生活を望んでいる方が多い印象だった。ご家族とは定期的に交流している方が多かったが、元々早く家から出たかったという方もいた。

３つ目は、現在の就労先と金銭関係についてである。就労継続支援 B 型に通われている方が多く、就労移行支援に通われている方もいた。一方で、現在情報収集をしており、これから作業所の見学をする予定という方もいた。コミュニケーションや役割の面に苦戦しているという方が多い印象を受けた。金銭関係について伺ったところ、お金がらみで諦めることが多い、金銭管理が困りごとだと答える方がいた。生活保護やフードバンクを利用しているという方もおり、地域の支援体制の重要さを実感した。

４つ目は、趣味または余暇活動についてである。休日は外で過ごす方と家で過ごす方は半々で、外で過ごす方は映画館や美術館、野球観戦をする方がいた。家で過ごす方は読書やテレビ、サボテンの世話をしている方もいた。各々がリラックスできる場や時間は確保できているようだった。

５つ目は、防災についてである。各自、災害時の連絡先はある程度決めており、避難場所も把握していた。避難時の必需品として多く上がったのは、現在服用している薬が多かった。次にスマホで人によっては推しのグッズという意見も出た。施設職員の方にも質問をしたところ防災訓練は年２回で行っており、緊急時連絡メールの練習を月１回、防災備蓄は１週間分の食料・消耗品・備品が各自室にあり、可搬型蓄電池・消火器などが備品としてあるそうで、災害対策は万全に行われていると感じた。

６つ目は、その他についてである。上記の項目以外で出てきたのは食事関係で、普段から軽い料理をする人や全くしない人とバラバラであった。コミュニケーション関係では普段から心がけているという人や人との会話につかれてしまうという困りごとがある意見が出た。他にはいい日だなと思う日はあまりないという意見や人より疲れやすいという意見があった。多くの方の意見の中で対人コミュニケーションに悩みを抱える場合が多いような印象を得た。

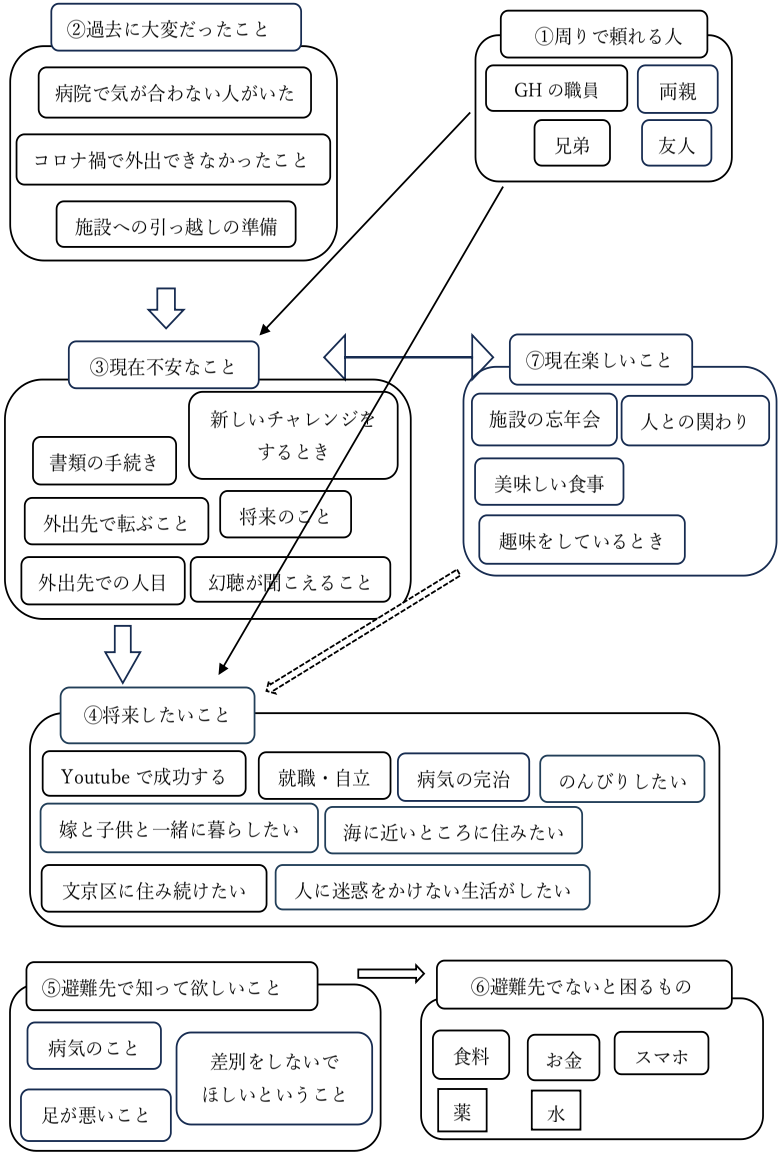
４．考察

施設の退所時期に関して、入所初期の段階では３年という在所期間に対して長さを感じやすいが、退所時期が近くなると短さを感じてきており、不安を口にする方が多かった。このことから、施設での生活訓練において自己の暮らし方は身につきつつあるものの、退所してからの生活、特に外部との関わりが増えていくことに不安を感じているのではないかと考えられる。利用者の方が少しでも安心して退所できるよう、施設内外での交流の機会を増やす、退所後も必要に応じて施設と交流を持てるといった支援が重要であると考える。

１．調査対象施設フェイスシート

施設種別	グループホーム
施設名	文京ホームアンダンテ
施設概要	
2012 年設立。地域で、精神科の通院治療、服薬を継続している方で、日中は通所施設を利用していたり、就労等をしている方、また、身の回りのこと(炊事・洗濯・その他の家事)がある程度自分でできる方が、いきいきと自立した生活を安心して送ることができるように世話人というスタッフがと話し合いをし、支援計画をつくり、計画に基づいて支援する障害者自立支援法に基づく共同生活援助を行う施設（グループホーム）。	
職員数	常勤　1　名　非常勤　6　名
利用者数	通常　6　　名
ヒアリングについて ヒアリング　2025 年 8　月 30 日 方法：対面	担当者（グループメンバー） 社会福祉学科 3 年　　伊藤 ４年　　鬼頭知宏 松本卓也
対象人数: 4 人	

2．KJ 法 A 型図



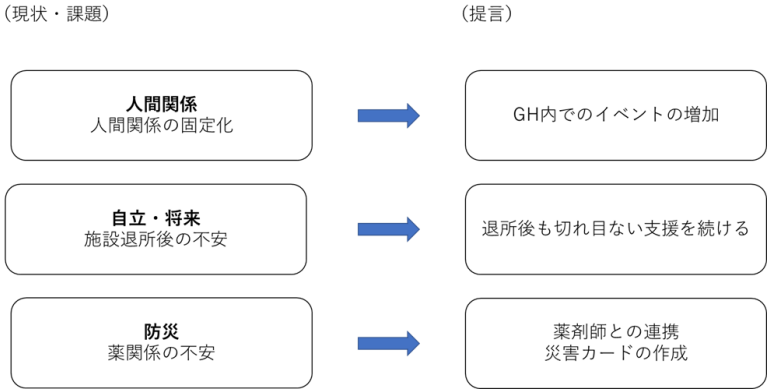
3．KJ 法 B 型文章化

私達はグループホームアンダンテで暮らす利用者 生活の意義を 7 つのグループに分けた。まず、1 つ目は、頼れる人が周りにいるかというグループである。GH の職員、両親、兄弟、友人など、身近に支えてくれる存在がいるという意見が挙がった
2 つ目は、過去に大変だったことは何かというグループである。気が合わない人がいたこと、コロナ禍で 外出できないこと、引越しの準備が大変だったと いう意見が挙がった。
3 つ目は、現在不安なことは何かというグループである。書類の手続き、外出先で転ぶ、将来のこと、 外出先での人目、幻聴が聞こえること、新しいチャレンジをする時という多様な意見が挙がった。また、生活の中で嫌に感じたことは主に部屋が狭いことという意見が挙がった。4 つ目は、将来したいことは何かというグループである。のんびりしたい、YouTube で成功したい、 海が近いところに住みたい、文京区に住み続けたい、嫁と子供と一緒に暮らしたい、就職したい、 母に会いたいなど様々な将来像が挙がった。
また、今 1 番実現したいことは、自立することと病気の完治の 2 つが主に挙がった。一方で、人に迷惑をかけない生活をしたいという声もあり、個々の夢や希望だけでなく、自分のあり方や他者との関わり方を意識した意見もみられた。
5 つ目と 6 つ目の防災に関しては、1 人の方を除いて周囲の人と関連のことについて話したことはあるが、避難した際のサービスは 1 人も知らない、とのことであった。避難先でないと困るものは食料、水、お金、スマホ、薬などの生活必需品であった。避難した際、周囲の人に知って欲しいことは、足が悪いこと、自身の病気のこと、そして差別はしないでほしい、ということであった。
そして、7 つ目の現在生活していて楽しいと思うことは美味しい食事をしている時、人との触れ合い、趣味をしている時という意見が主に挙がった。また、施設での行事で楽しかったことは忘年会という意見も挙がった。

4．考察

今回の調査から、グループホームは単なる「住まいの場」ではなく、生活の不安を抱える利用者が地域で暮らし続けるための重要な基盤になっていることを実感した。施設の成り立ちとして、東日本大震災で住まいを失った方々の支援がきっかけであると伺い、「住まいの安定」が、利用者の生活にとっていかに大きな意味を持つか改めて考える視点につながった。
利用者の回答からも、生活のしづらさや不安が住む場所の安心感と深く関わっていることが見えてきた。日々の悩みや将来への不安がある一方で、安心して過ごせる環境があることで、やりたいことや社会参加への意欲が生まれていることが印象的だった。
こうした気付きから、地域における住まいの支援は、本人の自立や安心した生活を支える欠かせない仕組みであると考える。今回の実態調査は、グループホームの役割を「生活を支える基盤」として捉えなおし、地域での支援体制を考える上で重要な視点を得る機会となった。

精神障害グループホーム利用者の生活実態に関する現状・課題とその解決に向けた提言



1つ目の課題として、利用者の人間関係がグループホーム内や家族など限られた範囲に固定化し、日常的に交流する機会が少ない状況がうかがえた。このような人間関係の希薄化は新たなつながりを築く機会の不足につながり、地域生活や社会参加への不安を強める要因となる可能性がある。

この課題に対しては、グループホーム内でのイベントや交流の機会を増やすことが有効であると考える。外部からのボランティアを招いた交流会や季節行事など、利用者が無理なく参加できる場を設けることで、自然な会話や関係づくりが促される。こうした日常的な交流の積み重ねが、人間関係の固定化を防ぎ、安心して生活できる環境づくりにつながると考える。

2つ目に、課題に挙げられたのが3年で施設を退所しなければならない時に、今までの施設内生活とこれからの生活にギャップを感じてしまったり、困難なことに直面して不安になってしまったりするという点が挙げられる。具体的にいうと、施設内では金銭管理をしなければならないと促されているが、生活面でも金銭面でも自分に責任が集中するので、その点が不安に感じるという意見があった。

それらを踏まえ、提言案は、退所後も切れない支援の継続だと考える。本人の不安感を低減させるのが第一であり、そのためにも相談できる場の確保が重要である。例えば、GHを退所後もアポイントを取れば相談できるようにしたり、施設入所中に役所や地域包括支援センターなどの関係機関との繋がりを作れるようにサポートをすることが求められている他には、今までGHの職員が行なっていた、他機関との繋がりが、いきなり当事者主体に変わらぬように、段階的に施設退所前までに、施設職員からの引き継ぎを行う体制にする。

3つ目の課題として、防災関連が挙げられる。2つの施設で共通の課題として、避難先での薬に対する不安などが挙げられた。薬への不安に対して、以下の2つの取り組みが有効であると考えられる。1つ目は日頃からの薬剤師同士、また薬剤師と職員、自身との情報共有である。2つ目は事前に災害カードのようなものを作っておき、そこに災害に際しての困り事等を書いておき、避難先で何か聞かれた時にはそれを出してコミュニケーションの齟齬を避ける、というものである。

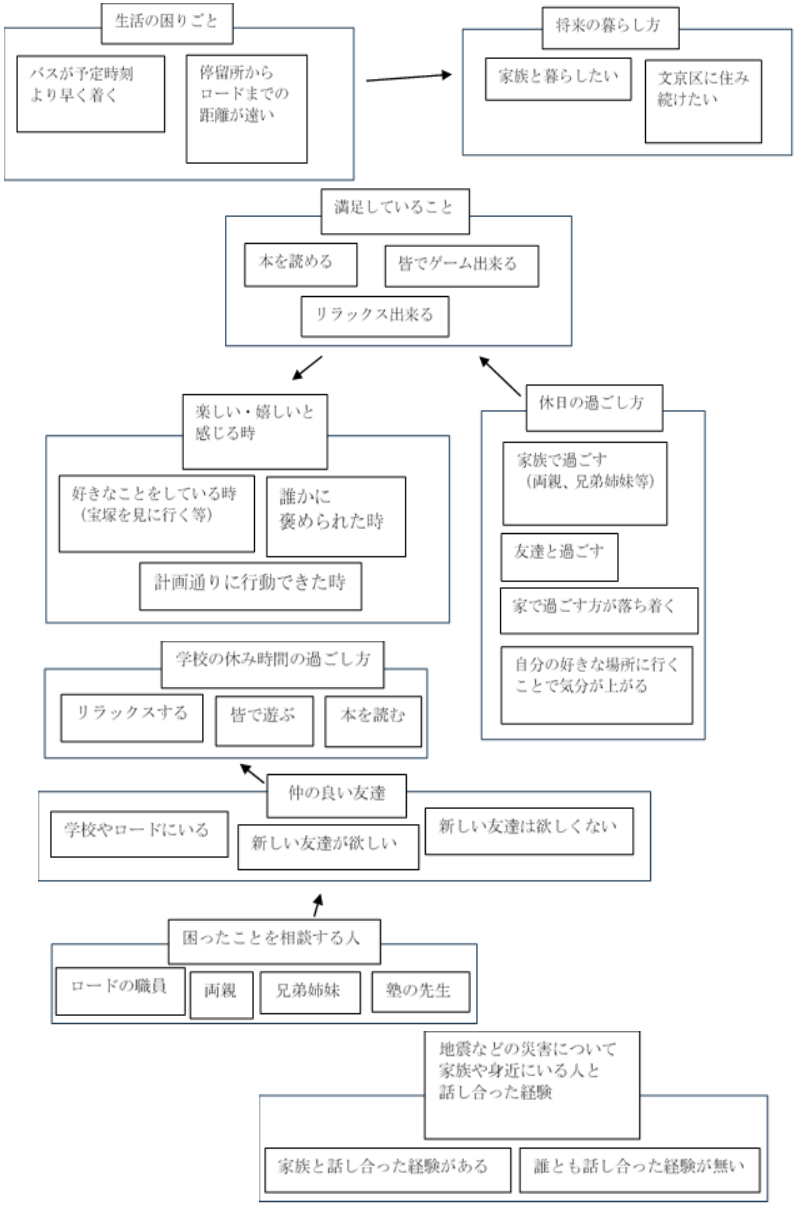
放課後等デイサービス事業所

放課後等デイサービスロード
放課後等デイサービス JOY

１．調査対象施設フェイスシート

施設種別	放課後等デイサービス
施設名	放課後デイサービスロード
施設概要	
学校に就学する障害児を対象に、放課後や学校休業日において、創作活動や余暇活動などさまざまなプログラムを通じて、日常生活における基本的動作の習得や集団生活への適応にむけた支援を行う施設である。	
利用者数	通常　12 名
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー）
予備訪問　2025 年 8 月 14 日 方法：対面	社会福祉学科４年　田和遼太郎 小倉直也 ３年　田中結麻
ヒアリング　2025 年 8 月 21 日 方法：対面	
対象人数：4 名	

２．KJ 法Ａ型図



３．KJ 法Ｂ型文章化

私達は、放課後デイサービスロードの ４ 人の利用者の方に生活の実態について調査を行い、ロードで暮らす意義を６つのグループに分類した。

一つ目は、日常生活の中で移動手段に困っているグループである。バス停からロードまでの距離が遠い、バスが予定時間より早く到着することに困っている方が多かった。しかし、移動手段以外のことに困っている方はいなかったため、移動手段が改善されれば文京区がより家族でも住みやすい街になると考えた。

二つ目は、ロードに相談できる人がいるグループである。全員が職員に相談できると回答し、特に代表者の方に相談していると回答した利用者が多かった。これは、ロードの職員が利用者と信頼関係を構築できている証だと考えた。また、ロードの職員の方以外に、両親や兄弟姉妹、通っている塾の先生に相談しているとの回答もあった。

三つ目は、仲良い友達がいるというグループだ。学校とロードの両方に仲良い友達が複数いると回答した方が多かった。また、利用者の中で中学１年の利用者は全員「新しい友達が欲しい」と回答したのに対し、高校３年の利用者は「新しい友達はいらない」と回答した。普段の学校生活や進路によって新しい友達を求めるか否かが変わると考えた。さらに、学校の休み時間は利用者によって過ごし方が異なり、各々好きな事をして過ごしていることが判明した。

四つ目は、休日の過ごし方についてのグループである。家で過ごすという回答と外出するという回答で二分されていた。また、家族で過ごす利用者が１番多く、友達と過ごすと回答した利用者もいた。この事から、全員が誰かしらと良好な関係を築けており、その中でも家族と良好な関係を築けている人が多いことが明らかになった。

五つ目は、災害について相談したかについてのグループである。家族を含めた身近な人と「相談したことがない」と回答した利用者が多い中､１人だけ「家族と相談したことがある」と回答した利用者がいた。災害についての意識を各々が高める必要性を感じるとともに、身近な人と災害についてしっかり話し合う事が被災防止のために大切だと考えた。

最後は、ロードに満足している人が多いというグループだ。皆でゲームをするなど、自分の好きなことが出来る点で調査に応じた利用者全員が満足していると回答した。また、自分の趣味に没頭している時や、誰かに褒められた時に、嬉しい楽しいと感じると回答した利用者が多かった。この事から、自分の好きなことが出来る環境を作りつつ、些細なことでも相手のことを肯定する事が、障害を持つ方と関わる上で大切だと実感した。

４．考察

今回の調査から、施設と日常生活共に基本的には満足していると考えられる。まずは、施設での生活における考察を述べる。「仲の良い友人がいるか？」という質問に対して、大半がロードにもいると回答していた。加えて、「相談できる人はいるか？」という質問に対しては、調査に応じた利用者全員がロードの担当職員を挙げていた。前述から、ロード内の友人関係は良好の利用者が多いこと、職員が調査に応じた全利用者にとって相談できる人になる程信頼関係が築けていることが読み取れる。また、「ロードでの生活に満足しているか？」という問いについても、調査に応じた利用者全員が満足していると回答した。そして、満足している理由として本を読んだり、皆でゲームをしたり、自分の好きなことが出来るという点が挙がっていた。一方で、「困っている点は何か？」という質問に対し、回答者全員が最寄りのバス停からロードまでの距離が遠いことや、バスが予定時刻より早く着くなど、ロードに通う祭の交通手段の不便さについて言及していた。以上から、施設内での人間関係が良好であること、利用者自身の好きなことが出来る環境がロードにおける生活での高い充実性に繋がっていると言える。また、ロードに通う際の交通手段も改善できれば更に満足度が向上するのではないかと考察した。

次は、日常生活における考察を述べる。「休日をどう過ごしているか？」と質問した際、家で過ごすという回答と外出するという回答で二分されていた。そして、家で過ごすと答えた理由は落ち着くからというものであった。加えて、家族で過ごすと回答した利用者が１番多く、また友達と過ごすと回答した利用者もいた。更に、上記に記した「相談できる人はいるか？」という問いに対し、ロードの職員以外に、両親や兄弟姉妹、通っている塾の先生にも挙がった。この事から、休日は障害の有無関係なく、各々好きなように過ごせる環境にあることが考えられる。そして、日常生活において、家族はもちろん、家族以外も良好な関係が築けていることが読み取れる。

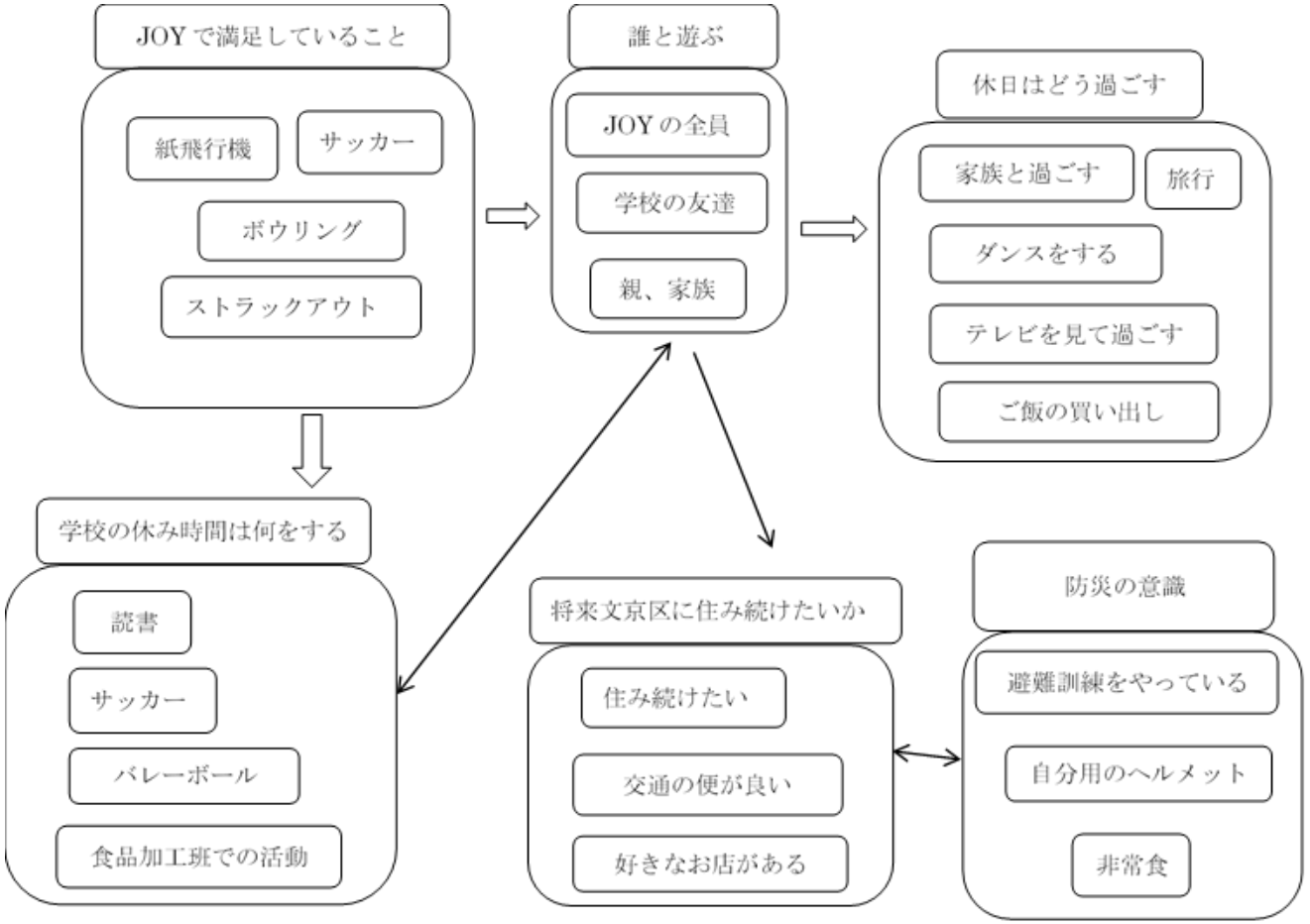
最後に、防災面について考察を述べる。「災害に関して誰かと相談したことはあるか？」という問いに対し、家族を含めた身近な人と「相談したことがない」と回答した利用者が多く、１人だけ「家族と相談したことがある」と回答した利用者がいた。地震をはじめ、多くの自然災害の発生の恐れがある昨今で、防災意識は必要である。日常生活の場で被災防止の為の話し合いを行うことで、緊急時に適切な対応を行える可能性が高くなり、利用者がより安心して文京区に住み続けられると考察した。

以上から、施設内での生活、日常生活共に利用者にとって概ね充実した環境であることが伺える。加えて、施設から最寄りのバス停までのアクセスの改善と防災に関する話し合いを実施することで利用者の文京区内での暮らしは更に満足度が向上すると考えた。

１．調査対象施設フェイスシート

施設種別	放課後等デイサービス
施設名	放課後等デイサービス JOY
施設概要	
学校に就学する障害児を対象に、放課後や学校休業日において、創作活動や余暇活動など様々なプログラムを通じて、日常生活における基本的動作の習得や集団活動への適応に向けた支援を行う施設である。	
利用者数	通常　　10　名
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー）
予備訪問　2025 年　8 月　26 日 方法　対面	社会福祉学科 4 年 田和遼太郎 小倉直也 3 年 田中結麻
ヒアリング　2025 年　9 月　16 日 方法　対面	
対象人数：3 名	

２．KJ 法Ａ型図


JOY で満足していること
紙飛行機
サッカー
ボウリング
ストラックアウト
誰と遊ぶ
JOY の全員
学校の友達
親、家族
休日はどう過ごす
家族と過ごす
旅行
ダンスをする
テレビを見て過ごす
ご飯の買い出し
学校の休み時間は何をする
読書
サッカー
バレーボール
食品加工班での活動
将来文京区に住み続けたいか
住み続けたい
交通の便が良い
好きなお店がある
防災の意識
避難訓練をやっている
自分用のヘルメット
非常食

３．KJ 法 B 型文章化

私たちは、放課後デイサービスを使用する方 3 人に、現状についてインタビューさせていただきました。重度の自閉症の方が多いためクローズドクエスチョンを採用しました。1 つ目は「JOY での生活は楽しいですか」です。3 人中 3 人が楽しいと答え、紙飛行機を作って遊ぶことが楽しい、またサッカーやボウリング、ストラックアウトなどの稀にやるスポーツが楽しいとも答えていました。子供たちが口を揃えて同じことを楽しいと答えていていることから施設内で分け隔てのない人間関係が構築されていることが伺えます。

2 つ目は、「前の質問で聞いた運動や遊びを誰と一緒にしますか」と言う質問です。3 人中 3 人が施設の利用者全員遊ぶと答え、障がいの種類に関係なく仲が良いと答えていました。質問する前に子供と触れ合う時間をいただいた時も、子供たちが自発的に友達同士で遊ぶ姿も見受けられました。

3 つ目は、学校の休み時間は何をしていますか？1 人で過ごすこともあればみんなで過ごすこともあるそうです。具体的に 1 人で過ごす時は読書をし、友達と過ごす時は校庭でサッカーをしたり体育館に行ってバレーボールなどのスポーツをしたりしていました。将来の仕事のために食品加工班での活動など、私たちが小学生だった頃とは大きく異なる活動をしていました。将来文京区に住み続けたいという質問に対し、全員が肯定的かつ具体的な理由を挙げている点は注目に値します。 これは、彼らが単に保護されている存在ではなく、地域資源店や交通機関を活用する生活者としての意識を持っていることを示しています。

4 つ目は、休日は主に、誰とどのように過ごすかです。基本的には家族と過ごすことが多くて、家で過ごす場合は、テレビを見たりダンスをしたりすると答えていました。外出する場合は、旅行をしたり、ご飯の買い出しに行ったりなど毎週異なる過ごし方をしていて、みんな日曜日を楽しみにしている印象でした。また、時々JOY の友達と外食をしたり、年に数回行われる JOY のイベントに参加したりしていました。家での活動と外での活動も毎週異なる過ごし方をしている点は、受動的ではない、計画的かつ能動的な生活が営まれていることを示しています。

5 つ目は、困ったことがある時誰に相談するかという質問です。3 人中 3 人とも第一に家族と回答しました。やはり母親や父親など家族を第一に頼るようです。また、JOY の職員と回答した人もいました。JOY の職員と利用者で良好な関係を築けていることが分かりました。「将来文京区に住み続けたいか」という質問では、3 人中 3 人が住み続けたいと回答しました。交通の便が良いから、好きなお店があるからという理由が挙げられました。困りごとの相談先として「家族」が第一義にあることは家族関係の良好さを示していますが、同時に「JOY の職員」が挙げられたことは、職員が家族に次ぐ信頼できる大人として機能している証拠です。

６つ目避難訓練をやったことがあるかと言う質問では、学校や JOY で何回もやったことがあるとの回答でした。自分用のヘルメットを持っていたり、非常食を準備していたりと防災についての意識が高いことが分かりました。学校や JOY で何回もやったことがある」という回答は、防災行動が特別なことではなく、日常の延長線上のルーティンとして定着していることを示唆しています。 一般的に、自閉症などの障害特性がある場合、突発的な出来事、地震や警報音に対して強い不安やパニックを起こしやすい傾向があります。しかし、学校と放課後等デイサービスの双方で繰り返し訓練を行うことで、災害時の行動を日常の中で刷り込み、有事の際の心理的負担を軽減できていると考えられます。

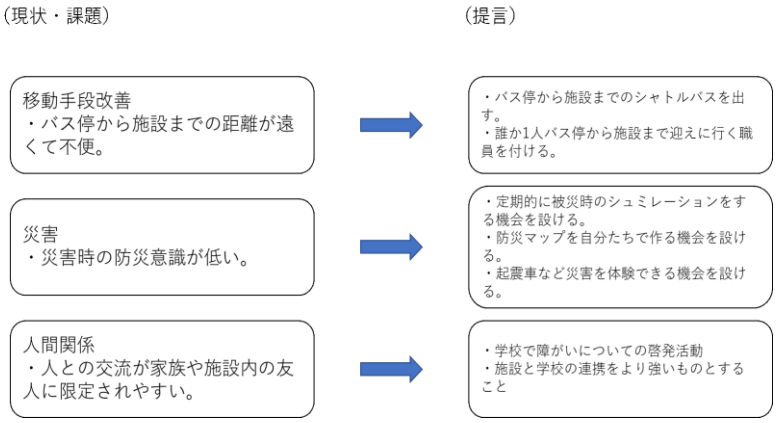
４．考察

子どもたちが共通の活動に楽しみを見出し、分け隔てなく交流していることから、JOY は心理的安全性の高いインクルーシブなコミュニティとして機能している。全員と遊ぶという回答は、施設の雰囲気と職員の関わりが、多様な利用者間の良好な関係構築に寄与していることを示唆する。休息と集団活動を自ら選択する姿勢は、自己決定能力の成長を示している。食品加工班のような職業訓練への参加は、小学生時代とは異なるキャリア教育の段階にあることを示す。

家での活動と外での活動が多様で計画的であることから、彼らの生活が受動的ではない能動的なものであることが示唆される。毎週異なる活動は、様々な場所や状況でのルールやマナーを学ぶ体験の一般化（般化）を促進し、将来の自立生活に向けた適応力を高めている。また、JOY の友人との施設外交流は、施設が永続的な友情が生まれるコミュニティとなっていることを示している。家族を第一とし、職員を家族に次ぐ信頼できる大人として頼る多層的な支援構造は、利用者の心理的安全性の高さを示す。また、避難訓練の反復経験と「自分専用」の備えがあることから、防災行動が日常のルーティンとして習慣化されている。これは、自閉症の特性上パニックを起こしやすい災害時において、「自助（自分の身を自分で守る）」の意識を育み、有事の際の心理的負担を軽減すると考えられる。

放課後等デイサービス調査総括と提言

放課後等デイサービス利用者の生活実態に関する現状・課題とその解決に向けた提言



一つ目の課題として、「バス停から施設までの距離が遠くて不便である」ことが分かった。解決策として、バス停から施設までの区間でシャトルバス（送迎車）を走らせることや、職員が交代制でバス停までお迎えに行くことが挙げられた。これらの行動で、車椅子を使用している利用者の移動負担や不便なことに対する精神的負担を軽減することが出来る。また、施設に行くモチベーションを保つことが可能だ。

二つ目の課題は、「災害時の防災意識が低い」ことが挙げられる。調査の結果、家族と災害について話し合ったことが無い利用者が多いことが明らかになった。解決策は、防災マップを利用者で作成する機会を設ける、定期的に被災時の行動をシュミレーションし、その際に利用者に見える位置に非常食を置くことが有効であると考える。更に、可能であれば起震車などで災害を体験できる機会を設けると、話し合いだけでは感じ取れない被災時の臨場感を体験することが出来、より災害に対する危機的意識が高まると考えた。

三つ目の課題は、「交流をしている人が家族や施設の利用者に限られている」ことが挙げられる。調査によると、困ったときに頼りたい人や一緒に遊んでいる人は家族や施設の利用者が多く、学校の友達を挙げた人は少なかった。学校の友達との関係が上手くいっておらず学校にあまり行きたくないという人もいた。この課題に対して、学校で障害についての啓発活動や、施設と学校の連携をより強いものにすることを解決策として挙げる。車いす体験で障害について自分で体感し、学校で障害に対する理解を深めることで、障害をより身近に考えられるようにすることが必要だ。それにより、今まで学生が持っていた差別や偏見を無くすことが出来る。また、あまり学校に行きたくない利用者がいることを学校側は知らないだろう。施設の職員や利用者に心を開いていることは施設の評価できる点だが、施設に依存している点も否定できない。施設と学校の連携を強化し、利用者が学校でも安心して楽しく暮らせる環境をつくることで、利用者が閉鎖的な環境から脱することが出来ると考えた。

入所施設

都外施設
A 県 L 施設

施設種別	障害者支援施設
ヒアリングについて 令和 7 年 8 月 7 日	調査担当者 志村健一
対象者: O さん（男性 40 代）	

１．現在の生活状況
令和 5 年 11 月利用開始で現在 1 年 9 か月目となった。文京区では自宅から区外の作業所へ通所していた。父母と兄夫婦（実家の 2 階に兄夫婦が生活）との生活であったが、母が体調不良のために入院となり、本人へのケアが不十分な状態となる。都内での居住が困難であり、文京区職員が施設を見学したのち、父親と兄が見学に来て、入所が決定となった。
現在の生活状況は安定しており、生活に満足していることがわかった。ほぼ毎日 30 分のリハビリを頑張っている。当日の面接には車いす利用で相談室に来たが、歩行のリハビリを実施しているようである。
食事については、おいしく食べることができており、こちらも職員からのコメントとして残さずに食事ができているとのことであった。特に楽しみにしている食べ物はラーメンで、味噌ラーメンが特に好きな食べ物であるという。食事のメニューは献立表が廊下に掲示されており、情報提供となっている。夜はトイレのために起きる回数が増えたという話で 6 回から 7 回、トイレに行くという。これは入所当初より増加であるという施設長の話であった。それでも本人は眠れているという。
公共交通機関が好きで、特に鉄道が好きなため、自由時間にパソコンで鉄道関係の動画を見ている。区外の作業所へ通っていたころの通勤手段の話などをよく覚えていて、話してくれた。同じ施設利用者（特に女性）との関係も良く、一緒にテレビ（相棒、ありがとう）を見たりすることが楽しみである。ジャイアンツのファンで、BS のジャイアンツ戦は楽しみにしており、これは居室で一人で楽しんでいる。
以前からつながりのある X さんという方（リハビリ関係者）が週末に面会に来ている。週末はその方と外出することができるため、楽しみになっている。

２．自立生活・移行の希望とニーズ
父親は都内 S にある施設に移ってほしいという希望があり、見学にも行ったようであった。本人はお母さんが良くなったら文京区の自宅に帰りたいという希望があるため、文京区の人にお父さんに都内 S に移ることは言わないよう伝えてほしいということであった。（実際に文京区の自宅の 1 階は片付けられてしまい、本人が戻れる状況ではないらしい。）

３．相談について
特に現在困っているようなことは無いが、職員との関係も良好で、困った際には職員で相談できる人（女性職員）もいる。（施設長の話では、当該施設は、職員体制は充実しており、安定して利用者とかかわることができているという話であったので、本人の話を裏付けるコメントでもあった。）
４．地域交流
施設では月 1 回のイベントがあり、地域交流もある。また 3～4 か月に 1 回、買い物に出かける。施設周辺は畑、林であり、道路から施設に向かうと地域との接触はなくなる。歩いている人もなく、施設内を散歩したとしても、地域の人と接することはない。

５．考察
当該施設は、安定した職員体制が整えられているということで、本人の生活は安定している。リハビリ、施設内の人間関係、余暇、食事等に不満を訴えることは無かった。また話を聞いてくれる職員もいるということで、現状の生活には満足していることがうかがえた。
父親が都内 S の施設に移ることを希望しているということで、本人も見学に行ったようである。本人はその施設には行きたくない思いが強く、希望としては、「お母さんが良くなれば文京区のうちに帰り、前のように暮らしたい」と言っている。父親との生活でケアが不十分となり、施設入所となり、すでに本人が戻れるような自宅の状況ではなくなっているようである。当該施設を利用する前に、在宅のサービス利用を組み合わせて在宅の生活が継続できていれば、入所利用せずとも済んだ事例であると考えられた。

B 県 M 施設

施設種別	障害者支援施設
ヒアリングについて 令和 7 年 8 月 8 日	調査担当者 志村健一
対象者:P さん（男性 60 代）	

１．現在の生活状況

令和 4 年 11 月入所で、現在 2 年 9 か月目となった。文京区では区外のグループホームで生活し、文京区内の通所施設を利用していたが、新型コロナ感染により体力が一気に低下しグループホームから移動することになった。職員の話では、当時、寝ている時間が長く、褥瘡ができてしまったという話であった。そして、都内で生活の場を確保することができず、施設入所となっている。

毎朝体操に参加しているが、本人の意思というより職員が車いすで移動させて参加している。車いす利用なので、座ったまま体を動かすことは自らの意思でしているとのことであった。歩けるようにリハビリに取り組んでいるが、本人はたいへんなことはもうしたくないようで、職員はもう少しリハビリを頑張ってほしいという思いがある。本人はリハビリを頑張ることには苦笑いをしていた。

夜は、あまり眠れていないという話だった。自由時間にはテレビを見ることが楽しみで、ドラえもんなどのアニメを見ている。横になっているほうが楽で、一人でテレビを見るのが良いようであった。特に仲の良い友達もいない。

食事は楽しみにしており、おいしく食べられているようで、特にカレーを楽しみにしている。（月に一回くらいはカレーの日があるとのこと。）また好きな食べ物を聞いたところ、ハムという答えであった。おやつのクッキーも楽しみとのことである。

家族はなく、都内と埼玉に叔母がおり、年に一回秋に面会に来るので、施設敷地内の交流施設で叔母さんとの時間を過ごすことは楽しみということであった。

２．自立生活の希望とニーズ

特に文京区に帰りたいという希望もなく、楽しみや、やりたいこともないという。

３．相談について

本人は毎日気分よく過ごせているということで、困りごとはありますかと聞いたところ、「ないないない」と手を振りながら笑って回答していたのが印象的であった。困ったことがあった場合に相談できそうな人がいるか聞いたところ、それはわからないということであった。

４．地域交流

専門職によるリハビリが月に一回、ミュージック・ケアという音楽のプログラムが月に一回ある。全国的な熊被害との関連で、利用者が屋外で活動する機会も制限されており、単調な生活となっている。

５．考察

幹線道路の最寄りのバス停が、「登山口」であり、そこから 600 メートル入ったところに施設がある。文字通り山中にある施設で、周りは山である。本人の意思で施設利用となったとは思えないが、気分よく過ごせているという状況であった。職員は本人のことをよく理解できているようであり、特に本人からの希望もなく、現状に満足しているという話なので、それで良しとされてしまうケースである。家族もおらず、成年後見を利用されているので、後見人の判断で入所施設利用となっていると考えられ、後見の在り方も含めて考えなければならない。

C 県 N 施設

施設種別	障害者支援施設
ヒアリングについて 令和 7 年 12 月 4 日	調査担当者 社会学部社会福祉学科 4 年　星野心咲
対象者: 令和 4 年度にも聞き取りを行っているＱさん（女性 60 代）	

Ｑさんご本人から伺ったお話に加え、職員の方からの情報も踏まえながら、Ｑさんについて記述していく。また、３年前にもお話を伺っていることから、前回の資料に記録された状況と比較しつつ、現在の生活の様子をより深く掘り下げていく。

１　Ｑさんの経歴

Ｑさんは養護学校卒業後、家族と暮らす自宅から福祉作業所に通っていた。その後ミドルステイとして東京近郊にあるＨ福祉園に入所するも病気を患い、退院を機に自宅に戻っている。だが家族の介護も難しいことから 5 か月後に福祉園に再入所している。その後、同法人内のＩ施設に入所、法人内の都合で平成 19 年にこちらの施設に移っており、当施設は現在入所 18 年目である。

8 年前に文京区に住んでいた母親が、母親本人の意向もあり同法人の同敷地内のサービス付き高齢者向け住宅に入所している。その間母親と近くで暮らすことができていた。しかしコロナ渦でもあったことから、Ｑさん自身はその恩恵をあまり受けられていないようで母親と会うことができたという趣旨の話を口にすることはなかった。また現在母親は亡くなっているとのことである。

しかしＱさんに母親の年齢を尋ねると 86 歳であると答えたことや、話の中で「母は入院しているから退院したら文京区の思い出の場所に行きたい」と語っていることから、Ｑさんに与える影響を考慮して母親の死を伝えられていないもの思われる。

２　現在の生活と課題

前回の調査時にはＱさんの居室は 3 人部屋だったが、今回訪れると 1 人部屋になっていた。Ｑさん本人も部屋は落ち着ける場所であると答えている。部屋の中はＱさんの好きなキャラクターのグッズがたくさんあり、好きな力士の写真を飾るなどＱさんの好みが前面に現れた内装になっていた。ほとんど普通の居宅と変わらないものになっており、3 年間で居住環境が改善したことが窺える。Ｑさんは部屋の中のものを一つ一つ嬉しそうに説明してくれた。その中に面会時に兄からもらったコップと母の友人からもらったというぬいぐるみがあり、その時の情景を嬉しそうな表情で語ってくれた。

現在困っていることを尋ねると「特にない」と答えたのだが、私の時計を見ると「私の時計壊れちゃったの、ピンクの時計が欲しい」と本調査の間何度も口にしていた。それ以外の困りごとについては本調査でＱさんの口からは出てくることはなかった。Ｑさんはアクセサリーやネイル、好きなキャラクターの服を身に着け、ポケットティッシュもピンクの物を使用しており、物質的には腕時計がないこと以外満足しているようであった。

前回の調査時はコロナ渦だったが、その時とは状況が大きく変わっていた。Ｑさんは「敷地内を散歩したりする」「時々おつかいに出てその帰りにアイスコーヒーを飲むのが最近の一番の楽しみ」などと語っており、制限されていた外出も現在では緩和されているようだった

家族以外の人間関係に関しては、現在文京区にはあまり友達がいないと答える一方で、「施設内には友達がたくさんいる」とのことだった。人間関係は充実しており、特に課題は無いように見受けられた。また施設について尋ねる質問に対して「楽しい」、将来の希望に対する質問に対しては「ずっとここにいたい」と答えており、質問時のＱさんの話や表情などからも施設についての不満は感じなかった。3 年前の聞き取りでは「文京区に帰りたい」と答えていることからこの 3 年間の環境の変化から当施設での生活についてＱさんの心情に変化が起きている可能性が窺える。

３ Ｑさんにとっての家族

本調査では用意していた質問においてほとんど具体的な返答を得ることが難しかったのだが「家族」が関わる話題になると表情が明るく変わり、たくさんのエピソードを伺うことができた。

文京区の名所の写真が載った資料を提示したところ、一つずつ場所の名前を口に出しながら思い出を語り始めた。特に根津神社は母親と毎年訪れていたようで「ここは根津神社でしょ」と何度も口にしていた。シビックセンターや東京ドーム等どの場所にもエピソードがあったが、一貫してＱさん一人の思い出ではなく家族の懐かしい思い出としての口調で語られていた。文京区についてだけでなく、本施設に来てからのエピソードも家族を中心としてのものであった。特に兄が面会に来てくれたことが心に残っているようで、「あそこのハンバーガーショップでハンバーガーのセットと大好きなアイスコーヒーをお兄さんのおごりで食べたのが嬉しかった」と楽しそうな口調で語っていた。また家族の年齢や現在の様子など家族の状況などはかなり細かいところまで記憶しており、常に家族のことを考えている様子であった。しかし現在、母は亡くなり、兄も現在病気を患い文京区内のアパートにいるという。大切な家族に会えていない事実にもＱさんも思うところがあり、今回家族の話が多かったのだと予測する。

これらのことから『家族の近くにいられること、継続的に会えること』が、Ｑさんが最も大事にしている価値観であり、現在のＱさんにとっての最大のニーズであると考えた。

４ まとめ

都外施設で暮らす人に対しては元の地域で暮らすことが最善の支援であると考えがちだが、なにが良いかはその人の状況により様々である。高齢な利用者にとって住み慣れた都外施設から文京区に移り、新たに暮らしを始めるというのはなかなか大変なことである。それを望む人のほとんどが「家族の近くで暮らせるから」という条件つきではないだろうか。

今回のＱさんのように都外施設で人生の３分の１以上を過ごし、現在の生活にも満足していて文京区に家族がほとんどいないという状況におかれている人においては必ずしも文京区に戻ることが正解ではないと感じた。家族のエピソードが文京区内のことだけに偏っていなかったことからも、Ｑさんにとっては家族と暮らすことに意味がありその場所は文京区だけに限られないといえる。Ｑさんは兄と合える回数をどれだけ増やしていけるかを考えるべきである。

本事例ではコロナが二人を阻む結果となってしまったが、両親が高齢になった際に同法人の同敷地内の施設に入所するという方法は、家族の近くで暮らしたいが介助は必要というＱさん家族にとっては最も良い支援だったのではないか。今回は法人内に様々な種別の施設があり、それが同敷地内で展開されていて、さらに母親がそこへの入所を希望するというかなり珍しい事例ではあったが、この方法を様々な場所で取れるようにしていくことが障害者の家族支援にもつながると感じた。そのような運営は土地がないと難しいことから、本事例は都外施設に住んでいたことが利用者にメリットをもたらした珍しい事例であるといえる。都外施設というと悪いイメージを抱いていたが、必ずしもその限りではないのだと思った。

私は今回の社会調査で３施設に行ったのだが、全体を通してもちろん住み慣れた土地というのも大切だが、どこにいるかより誰といるかを大切にしている人が多い印象を持った。

D 県 O 施設

施設種別	障害者支援施設
ヒアリングについて 令和８年１月５日	調査担当者 髙山直樹
対象者: 令和４年度にも聞き取りを行っている R さん（女性 70 代）	

１．現在の生活状況

Ｔ県生まれ、幼少期に文京区に転居し、家族（父・母・兄・弟）と生活。区内の作業所に通っていた。父の入院をきっかけに、区外の身体障害者施設に入所することになった。その後 60 歳の時に現在の入所施設を利用開始。今年で 15 年目になる。この入所施設を利用するにあたっては、特に自分では決めていない。

現施設では利用者自治会の会長をしているが、次年度からは副会長になる。友達はたくさんいるので楽しい。カラオケやダンスが楽しみで、貼り絵、塗り絵が得意。施設生活の困っていることは、自分の好きな歌手のＣＤを持っているが、４人部屋なので自由に聞くことができない。テレビは共同スペースで見ている。また、訪問販売の車が定期的に来所しており、そこで買い物をするのが楽しみ。来年度は、Ｓ駅に近い場所で、施設が立て替えられ、一人部屋になる予定。

健康を維持しており、コミュニケーションも良好であるが、歩行が困難になってきている。杖歩行となっており、付き添いが必要。

２．自立生活・移行の希望とニーズ

文京区のシビックセンターおよびホールの写真を見せながら文京区時代のことを伺う。文京区はとても好きな場所であることを語られ、住んでいた頃の思い出として、シビックセンターホールでのクリスマスの催しや氷川きよしのコンサートに行ったことをにこやかに話された。作業所の仲間たちや担当の区役所職員の名前を何人も挙げられ、「来てくれるかな、会いたい」と再会を望まれていた。

文京区には長らく帰れていなく、「文京区に帰りたい」「行ってみたい」といわれた。もう一方で、文京区のグループホームは、数が少ないので難しいことは認識していた。
現施設では、友達がいて楽しく過ごしているため、時々、文京区に戻ったり、外泊したりということがしたいという声もあった。電車で帰ることができるのかということを質問された。

３．相談について

生活の中で困ったときなど、身の回りで相談にのってくれる人については、サービス管理責任者（総括支援員）のＫさんと施設長のＳさんは好きですとのこと。また信頼できると話された。しかし、病気で連絡がとれていない入院中の兄のことが一番心配であるとのこと。また、文京区に住んでいた頃、障害者福祉課には良く相談に行っており、当時の担当者の名前をしっかりと憶えていて、担当者に会いたいという声も聞かれた。

４．地域交流

現施設と地域との交流は物理的な環境からあまりないようである。ボランティアの人たちは定期的に来所。一緒に貼り絵を行う。イベントは施設のお祭りがあるが、地域行事等への参加の機会に関してはないようであった。

５．考察

前回調査時には、72 歳であり、現在は 75 歳であるが、肌の色つやもよく、お元気そうであったが、歩行が難しい状況になってきている。また意思をしっかりと表明でき、コミュニケーション能力も高く、また文京区の支援担当者や仲間たちの名前をしっかりと覚えているなど、記憶力も高く、社会資源があれば地域生活を十分にできた方と思われる。

文京区内で通所施設を利用しながら暮らしていたが、親が病気で入院したことをきっかけに都外にある入所施設に移らざるを得ない状況を確認できた。まさに「親なき後」であり、入所施設しか選択肢がなかったことは、残念な結果となっている。

今の施設生活には満足しているとのことだが、4 人部屋のため、気軽に好きなテレビや CD を聞くことが難しいなど、プライバシーが守られにくい環境であることがうかがえた。また施設周辺には通うところがほとんどない場所にあり、施設内完結型の支援が行われていたことが窺えた。このことは施設側も認識しており、次年度の建て替えにより、駅の近くの場所に、個室を中心とした施設になるとのことであり、R さんも、新しい施設に移動することを楽しみにしているようであった。

今後の生活については、文京区が好きで帰りたいという思いはあるが、これまでの入所施設経験から、移行についての十分に考えが整理しきれていない状況がうかがえた。これまでの入所施設を転々としてきた経験から、何が自分の生活にあっているかということを模索する体験の場が圧倒的に不足しているのではないかと考えられる。

また、グループホームの選択肢を知った理由として、前回調査同様「文京区で暮らしていた頃の友達がグループホームで暮らしているのを聞いて、自分もしてみたいと思った」と話されたことから、友人等のつながりの存在が R さんの今後の生活像を考える上で影響していると考えられる。友人との情報交換・交流の場の設定や、文京区への短期の里帰りなどの外出や体験を積み重ねながら、今後の暮らしについて考えていける支援体制が担保されていくことが望ましい。

都外施設利用者に関する提言

都外施設に入所している人たちの多くは、自らが選んで入所施設を利用したとは言えない状況の中で、改めて意思決定支援を行っていく必要性を感じた。そこで以下の点を提言したい。

1．　文京区とは物理的に離れている関係から、改めて文京区への想いに関してのアセスメント行う必要がある。サービス等利用計画が要となるが、施設周辺の相談支援事業所が担当の場合は、そのアセスメントが難しいと思われ、また施設のサービス管理責任者においても同様のことが言えよう。さらに支援者はなおさらそのアセスメントは難しいと思われる。したがって文京区行政が認定調査や支給決定のみにかかわるのではなく、元担当者含めて、支援チームのなかに入り、文京区民としての意思決定支援を主体的に関わっていく必要性がある。
2．　上記 1 を踏まえつつ、文京区への地域移行の意向を把握していく必要があり、移行の社会資源であるグループホーム等の住居の確保が求められる。
3．　上記 1．2 を踏まえ、一時的に文京区へ里帰りできたり、文京区内での生活体験を行うことができる資源をつくっていく必要がある。

質的調査（インタビュー調査）質問カテゴリーごとの概略

カテゴリー	事業所の種別	現状と課題	質的調査を行った学生による提言
災害	主に知的障害者が利用する就労継続支援B 型事業所	・災害対策が不十分で不安を抱えている	・避難訓練の内容を充実させる ・個別避難計画を拡充させる ・地域との交流を促進し、助け合える関係性を構築する
	主に精神障害者が利用する通所施設（就労継続支援 B 型事業所及び地域活動支援センター）	・災害発生時の対応を自分事として考えられていない	・持ち運びに便利な防災パンフレットの作成 ・各利用者用のサービス等利用計画に災害時の対応について記載し、関係者間で共有
	主に知的障害者が利用する生活介護事業所	・利用者と職員間における防災意識の差 ・災害に対する関心が実際の防災へと結びついていない ・避難所での支援に対する不安	・利用者も理解しやすい防災の実施 ・利用者の声を取り入れた防災計画の実践
	主に知的障害者が入居する共同生活援助（グループホーム）事業所	・災害避難時の居場所がない	・福祉避難所の活用 ・職員と利用者の日ごろからの災害意識の共有
	主に精神障害者が入居する共同生活援助（グループホーム）事業所	・災害時の薬関係の不安	・薬剤師との連携 ・災害カードの作成
	障害児が利用する放課後等デイサービス事業所	・災害時の防災意識が低い	・定期的に被災時のシュミレーションをする機会を設ける ・防災マップを自分たちで作る機会を設ける ・起震車など災害を体験できる機会を設ける

カテゴリー	事業所の種別	現状と課題	質的調査を行った学生による提言
人間関係/交流	主に知的障害者が利用する就労継続支援B 型事業所	・交友関係の範囲が狭く、社会的なつながりが限定されている	・共通の趣味を介した施設同士の交流を促進する ・地域交流の活動で利用者が主体性を高められる機会を増やす
	主に精神障害者が利用する通所施設（就労継続支援 B 型事業所及び地域活動支援センター）	・新たな人間関係の構築の機会が少ない	・地域イベントへの伴走型の参加支援 ・大学のイベントへ学生と参加・地域内の交流の場を拡大・他施設との交流
	主に精神障害者が入居する共同生活援助（グループホーム）事業所	・人間関係の固定化	・グループホーム内でのイベントの増加
	障害児が利用する放課後等デイサービス事業所	・人との交流が家族や施設内の友人に限定	・学校で障害についての啓発活動・施設と学校の連携をより強いものとする
金銭面/就労	主に知的障害者が利用する就労継続支援B 型事業所	・金銭面における不安を抱えている	・得意分野を踏まえた就労支援 ・スキルアップのための研修や資格取得の機会を設ける ・地域との協働によるイベントの実施
支援環境	主に精神障害者が利用する通所施設（就労継続支援 B 型事業所及び地域活動支援センター）	・必要な支援を適切に受けるための環境不足	・既存の公共交通不便地域への対応策の導入、実施 ・交通機関の職員への障害者理解の促進 ・ヘルプマークの代替アイテム創出

カテゴリー	事業所の種別	現状と課題	質的調査を行った学生による提言
地域	主に知的障害者が利用する生活介護事業所	・地域に活動の場が少ない ・本人の持つ選択肢が限定的 ・生活が施設の中で完結している	・施設を中心として地域に活動の場を広げる（利用者の選択で参加の有無を決める） ・利用者のニーズで活動を組み、地域の声も反映していく
家族	主に知的障害者が利用する生活介護事業所	・家族が本人の生活や考えに与える影響が大きい ・家族のいない利用者が抱える孤独感 ・将来的な家族支援への懸念	・家族との時間の代替となるような居場所や思い出の提供 ・家族以外に頼ることのできる存在や多様な考え方に触れられる環境整備 ・長期的な支援計画の実践
将来／夢	主に知的障害者が入居する共同生活援助（グループホーム）事業所	・将来の夢と現状の大きなギャップ	・将来まで満足できる支援の提供 ・非日常的な支援（バーチャル体験での夢の実現等）の提供
情報／コミュニケーション	主に知的障害者が入居する共同生活援助（グループホーム）事業所	・コミュニケーション不足により、情報を得られる体制が整えられていない	・施設内でのコミュニティの形成 ・地域との交流 ・障害福祉サービス間での情報共有
退所後	主に精神障害者が入居する共同生活援助（グループホーム）事業所	・施設退所後の不安	・退所後も切れ目ない支援を続ける
移動	障害児が利用する放課後等デイサービス事業所	・バス停から施設までの距離が遠くて不便	・バス停から施設までのシャトルバスをだす ・誰か１人バス停から施設まで迎えに行く職員をつける

カテゴリー	事業所の種別	現状と課題	質的調査を行った学生による提言
地域移行／意思決定支援	主に知的障害者が利用する都外入所施設	・文京区への思いに関するアセスメントの必要性	・施設周辺の相談支援事業所や入所施設のサービス管理責任者、支援者では、難しいアセスメントになるため、文京区行政が支援チームの中に入り、意思決定支援に主体的に関わっていく必要がある
地域移行／住まい	主に知的障害者が利用する都外入所施設	・文京区への地域移行の意向を把握する必要性	・地域移行の社会資源である、グループホーム等の居住の確保が求められる
地域生活体験	主に知的障害者が利用する都外入所施設	・一時的な里帰りの体験の必要性	・文京区内で生活体験を行うことができる資源をつくる必要がある。

あとがき

文京区障害者（児）実態・意向調査は３年に一度実施されている調査であり、調査の結果は、「文の京（ふみのみやこ）」ハートフルプラン文京区地域福祉保健計画の障害者・児計画と連動しているものである。すなわち、障害者・児計画によって動いてきた文京区の障害者、障害児に関する制度やサービスを、実態・意向調査によって評価し振り返る。そして、調査の結果を次の障害者・児計画へ反映させるというものである。

実態・意向調査は質問紙法による量的な調査と、インタビュー調査による質的な調査によって成り立ち、それは調査結果をより実態に近づけようとするものである。本調査報告書はそのうちの質的な調査の報告である。今年度の調査は、インタビュー調査というスタイルを基本としつつ、現場に出向いた際の観察記録、インタビューを補うためにインタビュー・ガイドへの回答を記載してもらったデータなどを統合、解釈することになった。そのためデータには障害のある区民の声や観察記録などが含まれているが、ゼミの学生はそれらのデータを組みなおして調査結果として取りまとめた。

実際の調査は、昼間の活動の場である通所施設、生活の基盤となるグループホーム、そして都外施設、さらに今年度から放課後等デイサービスが加わった。主たる利用者は知的障害精神障害のある区民であった。これらの人たちが対象になったのは、質問紙法による量的調査でとらえきれないニーズや思いを拾い上げようとしたからである。報告書冒頭でも述べられているように、当事者の障害特性、学生の調査力量により、制限はあるものの、「そうだろう」と想像されていたことが、「やっぱり」という理解につながる結果にもなり、本報告書はそのような観点からは評価されるはずである。

今年度の調査の大きな特徴は、子どもに対するインタビュー調査が含まれたところにある。具体的には、放課後等デイサービスであり、乱立ともいえる状況の中で、文京区内の施設を利用している子どもの声を聴くことができたことは大きい。

また、令和６年（2024 年）元旦に能登半島で発生した地震、その後の避難に関する課題などを踏まえ、防災に関するインタビューも実施している。それぞれの障害特性に応じた防災の取り組みや不安を聴くことができ、今後の区の取り組みの参考になるだろう。文京区の障害者地域自立支援協議会の当事者部会では、令和６年度から、防災に取り組み、その成果をそれぞれの生活に生かしている。そのような流れとも合わせて今後につなげていきたい。

本調査報告書が、次年度の障害者・児計画策定の有効なヒントになることを願っている。また調査の実施を可能にしてくださった関係者各位に御礼申し上げます。

志村　健一（東洋大学福祉社会デザイン学部）

資料編

調査票

在宅の方

区民の生活のニーズに関する調査

日頃から、文京区の福祉行政にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。
文京区では、皆様の生活実態や意向を把握して、福祉施策を計画的に進めていくための基礎資料とするために、調査を実施します。
以下のいずれかに該当する区内在住の方を対象者とさせていただきました。

・身体障害者手帳をお持ちの18歳以上の方
（肢体不自由、内部障害については無作為抽出、その他の障害については全数）
・愛の手帳をお持ちの18歳以上の方（全数）
・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの18歳以上の方（全数）
・難病医療券をお持ちの18歳以上の方（全数）
・この調査は在宅の方を対象としており、グループホームにお住まいの方も対象に含まれます。

ご回答いただいた内容は、統計的に集計・分析して、報告書として発行するとともに文京区公式ホームページでもお知らせします。調査の結果については障害者・児計画（令和9年度から令和11年度まで）策定の参考にさせていただきます。
無記名アンケートの方式でご回答いただきますので、個人が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年10月
文京区長　成澤　廣修

～インターネットでもご回答いただけます～

・スマートフォン等で以下のQRコードを読み取っていただくか、パソコンの場合はURLを入力し、インターネット上のアンケートフォームにアクセスしてください。
・最初に以下の「ID」と「パスワード」を入力してください。
・画面の指示に従い、アンケートフォームに回答を選択・入力し、送信してください。

↓QRコード、URL↓　　↓ID↓　　↓パスワード↓

bunkyo282

https://www.

・郵送とインターネットのいずれかを選択してご回答ください。

郵送の場合

・令和7年10月31日（金）までに、ポストに投函してください。
・同封の「返信用封筒」に、回答を書き入れたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。 切手を貼る必要はありません。

【記入済調査票送付先】

〒112－8555 文京区春日1－16－21　文京シビックセンター9階
文京区役所障害福祉課障害福祉係

インターネットの場合

・令和7年10月31日（金）24時までに、回答を送信してください。

・回答時間の目安は20分程度です。
・ブラウザの×ボタンで閉じると回答内容が保存されません。また、しばらくの間（30分程度）再ログインができなくなります。その場合は、しばらく（30分程度）経ってからログインし直して、回答してください。
・回答を中断するには必ず「次のページ」を押して移動してから、左上にある「MENU」の「途中終了」を押してください。（「途中終了」の場合、前ページの回答分までしか保存されません。現在のページの回答は保存されませんので、ご注意ください。
・一定時間（2時間程度）操作がないと、自動的にログアウトします。その際は再度ログインしてご回答ください。状況によっては回答内容が保存されていない場合もありますので、ご了承ください。
・インターネット調査にかかる通信料は利用者のご負担になりますのでご了承ください。

【調査票に関する問い合わせ先】

この調査は、集計及び分析を（株）アイアールエスに委託して実施しています。
調査票の内容に関して不明な点等がありましたら、お手数ですが以下までお問い合わせください。

（株）アイアールエス　担当：緒方、金沢
電話：03（3357）7181、FAX：03（3357）7180
メールアドレス：info@irs-tokyo.co.jp
受付時間：平日（月～金）　午前10時～午後6時

【回答に支援が必要な場合の問い合わせ先】

回答の際の支援を行います。ご希望の方は以下までお問い合わせください。

文京区障害者基幹相談支援センター
住所：文京区小日向2－16－15　文京総合福祉センター1階
Tel 03(5940)2903、Fax 03(5940)2904

社会福祉法人文京槐の会(は～と・ピア)
住所：文京区大塚4－21－8
Tel 03(3943)4300、Fax 03(3943)4330

社会福祉法人文京槐の会(は～と・ピア2)
住所：文京区小石川4－4－5
Tel 03(6801)8571、Fax 03(6801)8581

本郷福祉センター(若駒の里)
住所：文京区本駒込4－35－15　文京区勤労福祉会館2階
Tel 03(3823)8091、Fax 03(3823)8092

社会福祉法人武蔵野会(リアン文京)
住所：文京区小日向2－16－15
Tel 03(5940)2822、Fax 03(5940)2823

文京区立大塚福祉作業所
住所：文京区大塚4－50－1
Tel 03(3946)5601、Fax 03(3946)2667

文京区立小石川福祉作業所
住所：文京区小石川3－30－6
Tel 03(3811)1431、Fax 03(5689)4523

<<<<<<<<　記入の標準　>>>>>>>>

- 回答は、この調査票に直接書いてください。
- 質問によっては、一部の方のみに回答していただくものもあります。
- 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
- 回答が「その他」になる場合は、(　　)内にその内容を書いてください。
  (　　)内に書ききれない場合は余白に書いてください。
- 回答したくない質問は答えずに、次の質問に進んでください。
- この調査票には、名前を書かないでください。
- 聴覚に障害のある方で調査票の回答にお困りの場合は、障害福祉課に配置している手話通訳者による対応も可能ですので、窓口にお越しの際にお声がけください。
- 視覚に障害のある方で調査票の回答にお困りの場合は、点字調査票を送付するか、直接調査員が伺って調査いたしますので、障害福祉課までご連絡ください。

（障害福祉課　電話：03-5803-1211　FAX 03-5803-1352　受付平日8:30～17:15）

ここから調査がはじまります

この調査票で、「あなた」とあるのは、『あて名ご本人』のことです。

できるかぎりあて名ご本人がお答えください。あて名ご本人が回答できない場合は、ご家族や介助の方が、あて名ご本人の立場で、現在の状況で回答してください。

問１　この調査票に回答していただく方はどなたですか。（○はひとつ）

１　あて名ご本人
２　ご家族の方
３　成年後見人・保佐人・補助人
４　その他（　　）

1 ご本人について

問２　あなたの年齢をお聞きします。**令和7年4月1日現在の満年齢**をお書きください。

［　　］歳

問３　**あなたご本人の**年収額をお聞きします。税金等を差し引く前の額でお答えください。（○はひとつ）

1　収入はない
2　80万円未満
3　80万円以上～150万円未満
4　150万円以上～250万円未満
5　250万円以上～500万円未満
6　500万円以上～1,000万円未満
7　1,000万円以上

問４　あなたの主な収入の内訳をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

1　年金（障害基礎年金など）
2　給与・報酬（企業などに就労）
3　工賃（通所施設・福祉作業所などに通所）
4　事業収入（自営業等）
5　手当（障害者手当など）
6　生活保護費
7　親族の扶養または援助
8　その他（　　）

問５　あなたの同居家族をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

1　父親
2　母親
3　配偶者
4　子
5　兄弟・姉妹
6　祖父母
7　その他親族
8　ひとり暮らし
9　グループホーム等での集団生活
10　その他（　　）

2 障害と健康について

問６　あなたには、次の障害等がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　肢体不自由（上肢・下肢・体幹・脳性麻痺・移動機能障害等）
2　音声・言語・そしゃく機能障害
3　視覚障害
4　聴覚・平衡機能障害
5　内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう・直腸、小腸、免疫機能等）
6　知的障害
7　発達障害　**→7に○を付けた方は問6－1へ**
8　精神障害
9　高次脳機能障害
10　難病（特定疾病）　**→10に○を付けた方は問6－2へ**
11　その他（　　）

→上記7・10のどちらにも当てはまらない方は、問7へ

ここからは問6で「7 発達障害」と回答された方にお聞きします。

問６－１　発達障害の診断名をお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）

1　自閉症（自閉スペクトラム症）
2　注意欠陥・多動性障害（注意欠如・多動症）
3　学習障害（限局性学習症）
4　その他の発達障害
（　　）
5　わからない

ここからは問6で「10 難病（特定疾病）」と回答された方にお聞きします。

問６－２　病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

病名（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問７　あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。（あてはまるものすべてに○）

1　身体障害者手帳 → 1　1級　2　2級　3　3級　4　4級　5　5級　6　6級

2　愛の手帳 → 1　1度　2　2度　3　3度　4　4度

3　精神障害者保健福祉手帳 → 1　1級　2　2級　3　3級

4　これらの手帳は持っていない

問８　あなたの障害や心身の不調について、あなたやご家族の方などが最初に気づいた時期をお聞きします。（○はひとつ）

1　生まれたとき
2　0～5歳
3　6～17歳
4　18～29歳
5　30～39歳
6　40～49歳
7　50～59歳
8　60～64歳
9　65～69歳
10　70～74歳
11　75歳以上

問９　あなたの受診状況等（歯科医療も含む）をお聞きします。（○はひとつ）

1　定期的に通院している
2　定期的に訪問診療を受けている
3　定期的に訪問看護を受けている
4　現在入院している
5　その他（　　）
6　現在は通院していない

問10　かかりつけの医療機関をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

1　区内の診療所や医院
2　区内の歯科医院
3　区内の総合病院や大学病院
4　区外の診療所や医院
5　区外の歯科医院
6　区外の総合病院や大学病院
7　かかりつけの医療機関はない

問11　あなたが必要とする医療的ケア※1をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

1　吸引
2　吸入・ネブライザー
3　経管栄養
4　中心静脈栄養
5　導尿
6　酸素療法
7　鼻咽頭エアウェイ
8　パルスオキシメーター
9　気管切開部の管理
10　人工呼吸器の管理
11　その他（　　）
12　特に必要としていない

※1 医療的ケア
「医療的ケア」とは、経管栄養、たんの吸引などの日常生活に不可欠な生活援助行為であり、長期にわたり継続的に必要とされるケアです。

問12　日常生活の中で、特別な支援や配慮を必要※2とする、行動面に関する課題がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　自傷
2　他害
3　こだわり
4　もの壊し
5　睡眠の乱れ
6　異食
7　多動
8　その他（　　）
9　特になし

※2 特別な支援や配慮の必要性
この調査では、選択肢にあるような行動が著しく高い頻度で起こることから、日常的に特別な支援がなければ本人や周囲の人の生活に支障が出てしまう程度のことを指します（回答者の主観でお答えください）。

問13　あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　食事
2　排せつ
3　入浴
4　寝返り
5　着替え
6　調理・掃除・洗濯等の家事
7　室内の移動
8　洗顔・歯磨き
9　代筆・代読
10　電話の利用・代行
11　お金の管理
12　日常の買い物
13　通院、通学・通勤
14　通院、通学・通勤以外の外出
15　日常生活に必要な意思の伝達
16　日常生活動作の見守り
17　薬の管理
18　区役所や事業者などの手続き
19　その他（　　）
20　介助や支援は必要ない

ここからは問13で「20 介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問14　あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。（○はひとつ）

1　父親
2　母親
3　配偶者
4　子
5　兄弟・姉妹
6　祖父母
7　その他親族
8　ホームヘルパー
9　ガイドヘルパー
10　ボランティア
11　グループホームの世話人
12　その他（　　）

ここからは問14で「1～7」の家族や親族と回答された方にお聞きします。（問17まで）

問14-1　あなたを主に介助・支援している人は何歳ですか。（○はひとつ）

1　19歳以下
2　20～29歳
3　30～39歳
4　40～49歳
5　50～59歳
6　60～69歳
7　70～79歳
8　80歳以上

問14で「1～7」の家族や親族と回答された方にお聞きします。（問17まで）

問15　主な介助者は、あなた以外の方の世話や介護をされていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　高齢者（両親・祖父母等）の介護
2　配偶者の介護
3　子ども（就学児・未就学児）の子育て
4　病気の方の介護
5　障害のある方の介護
6　その他（　　）
7　他の方の介護はしていない

問16　主な介助者の就労状況をお聞きします。（○はひとつ）

1　フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労している
2　パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労している）
3　就労していない

問17　主な介助者があなたを介助・支援できなくなった場合はどうしますか。
（○は3つまで）

1　一緒に住んでいる家族に頼む
2　別に住んでいる家族に頼む
3　居宅介護（ホームヘルプ）を利用する
4　短期入所（ショートステイ）を利用する
5　障害者施設（障害者支援施設等）に入所する
6　高齢者施設（老人ホーム等）に入所する
7　病院に入院する
8　グループホームに入居する
9　成年後見人制度を利用する
10　福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）を利用する
11　その他（
12　まだわからない

3 相談や福祉の情報について

問18 あなたには、日常生活で困っていることがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1 健康状態に不安がある
2 着替えや食事などが十分にできない
3 家事などが十分にできない
4 介助者の負担が大きい
5 介助者が高齢化している
6 外出に支障がある
7 住まいに支障がある
8 就労について困っている
9 緊急時の対応に不安がある
10 災害時の避難に不安がある
11 人間関係に支障がある
12 障害や病気に対する周囲の理解がない
13 困ったとき相談する相手がいない
14 自分の思いや考えをうまく伝えられない
15 自分に合わせた情報を集めるのが難しい
16 情報を集める集中力が維持しにくい
17 役所などの手続きが難しい
18 近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない
19 経済的に不安がある
20 将来に不安を感じている
21 日中することがない
22 様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない
23 その他（　　）
24 特にない

問19 あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

1 家族や親族
2 近所の人
3 友人・知人
4 ピアサポーター
5 職場の上司・同僚
6 民生委員・児童委員
7 障害等の当事者会や家族の会
8 身体障害者相談員・知的障害者相談員
9 ヘルパー等福祉従事者
10 利用している施設の職員・グループホームの世話人
11 相談支援事業所等の相談支援専門員
12 医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）
13 医療関係の相談窓口（地域包括ケア歯科相談窓口、かかりつけ医・在宅療養相談窓口、患者の声相談窓口等）
14 障害福祉課・予防対策課
15 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口
16 保健サービスセンター
17 障害者基幹相談支援センター
18 各地区の生活あんしん拠点（地域生活支援拠点）
19 福祉事務所のケースワーカー
20 障害者就労支援センター
21 社会福祉協議会
22 高齢者あんしん相談センター
23 地域活動支援センター
24 訪問看護師
25 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）
26 どこに相談すればいいかわからない
27 その他（　　）
28 相談する相手がいない

問20 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1 区の広報紙（区報等）
2 区のホームページ
3 文の京・障害者福祉のてびき
4 区の窓口
5 保健サービスセンター
6 テレビ・ラジオ
7 インターネット
8 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）
9 新聞・書籍
10 障害等の当事者会や家族の会
11 医療機関
12 利用している障害福祉サービス事業所
13 その他（　　）
14 特にない

問21 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。（○はひとつ）

1 地域で自立して生活する
2 親や親族と一緒に生活する
3 グループホーム等の共同生活住居に入居する
4 区内の入所施設に（障害者支援施設等）に入所する
5 区外でも良いので入所施設（障害者支援施設等）に入所する
6 高齢者施設（老人ホーム等）で生活する
7 その他（　　）
8 わからない

問22　あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。（○は５つまで）

1　障害に対する理解の促進
2　医療やリハビリテーションの充実
3　幼少期・学齢期からの教育・育成の充実
4　働くための訓練・就労に向けた支援の充実
5　仕事を継続するための支援の充実
6　身近な地域で相談できる場の充実
7　訪問系サービス（居宅介護・重度訪問介護・同行援護等）の充実
8　日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等・就労移行支援・就労継続支援等）の充実
9　短期入所（ショートステイ）の整備
10　意思疎通支援（手話通訳者・要約筆記者派遣等）の充実
11　福祉機器・補装具などの充実
12　グループホームの整備
13　入所施設（障害者支援施設等）の整備
14　障害者向けの住まいの確保
15　居住支援の充実
16　建物・道路等のバリアフリー化
17　当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
18　文化芸術活動の充実
19　趣味やスポーツ活動の充実
20　財産管理や見守り等の支援の充実
21　経済的支援の充実
22　災害時支援の充実
23　地域交流の場の充実
24　福祉・医療・介護との連携の充実
25　福祉と教育の連携の充実
26　その他（　　）
27　特にない

4　福祉サービスについて

問23　障害福祉サービス等の利用状況と満足度についてお聞きします。
A．現在利用しているサービスに○をつけてください。
B．現在利用しているサービスに満足していますか。（○はひとつ）
C．サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。（○はいくつでも）
D．現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。

※　各サービスの説明について、この調査票の巻末資料（36 ページ以降）【障害福祉サービス等の内容】をご参照ください。

サービス名	A	B					C	D
	現在利用している	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	今後利用したい
記入例）1．居宅介護	○	1	2	3	4	(5)	*1，4*	
(1)障害福祉サービス（訪問系）								
1．居宅介護		1	2	3	4	5		
2．重度訪問介護		1	2	3	4	5		
3．同行援護		1	2	3	4	5		
4．行動援護		1	2	3	4	5		
5．重度障害者等包括支援		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1　利用できる回数や日数等が少ない
2　利用料が高い
3　サービス提供事業所が少ない
4　利用日時が合わない
5　利用時間が短い
6　サービス内容（質）に不安を感じる
7　サービス提供事業所の対応が良くない
8　サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
9　事業所と家族の連携が取れていない
10　医療的ケアの対応が十分でない
11　その他（　　）

サービス名	A 現在利用している	B 満足	B やや満足	B ふつう	B やや不満	B 不満	C B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	D 今後利用したい
記入例）1．生活介護	○	1	2	3	④	5	1，4	
(2)障害福祉サービス（日中活動系・訓練系・就労系）								
1．生活介護		1	2	3	4	5		
2．療養介護		1	2	3	4	5		
3．自立訓練（機能訓練）		1	2	3	4	5		
4．自立訓練（生活訓練）		1	2	3	4	5		
5．就労選択支援		1	2	3	4	5		
6．就労移行支援		1	2	3	4	5		
7．就労継続支援（Ａ型）		1	2	3	4	5		
8．就労継続支援（Ｂ型）		1	2	3	4	5		
9．就労定着支援		1	2	3	4	5		
10．自立生活援助		1	2	3	4	5		
11．短期入所（ショートステイ）		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1 利用できる回数や日数等が少ない
2 利用料が高い
3 サービス提供事業所が少ない
4 利用日時が合わない
5 利用時間が短い
6 サービス内容（質）に不安を感じる
7 サービス提供事業所の対応が良くない
8 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
9 事業所と家族の連携が取れていない
10 医療的ケアの対応が十分でない
11 その他（　　）

サービス名	A 現在利用している	B 満足	B やや満足	B ふつう	B やや不満	B 不満	C B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	D 今後利用したい
記入例） 1．共同生活援助（グループホーム）	○	1	2	3	④	5	1，4	
(3)障害福祉サービス（居住系）								
1．共同生活援助（グループホーム）		1	2	3	4	5		
2．施設入所支援		1	2	3	4	5		
(4)相談支援								
1．地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）		1	2	3	4	5		
2．計画相談支援（サービス利用支援・継続サービス利用支援）		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1 利用できる回数や日数等が少ない
2 利用料が高い
3 サービス提供事業所が少ない
4 利用日時が合わない
5 利用時間が短い
6 サービス内容（質）に不安を感じる
7 サービス提供事業所の対応が良くない
8 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
9 事業所と家族の連携が取れていない
10 医療的ケアの対応が十分でない
11 その他（　　）

サービス名	A	B					C	D
	現在利用している	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	今後利用したい
記入例）1．相談支援事業	○	1	2	3	④	5	1，4	
(5)地域生活支援事業								
1．相談支援事業		1	2	3	4	5		
2．移動支援事業		1	2	3	4	5		
3．日常生活用具給付事業		1	2	3	4	5		
4．日中短期入所事業		1	2	3	4	5		
5．地域活動支援センター事業		1	2	3	4	5		
6．意思疎通支援事業		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1 利用できる回数や日数等が少ない	7 サービス提供事業所の対応が良くない
2 利用料が高い	8 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3 サービス提供事業所が少ない	9 事業所と家族の連携が取れていない
4 利用日時が合わない	10 医療的ケアの対応が十分でない
5 利用時間が短い	11 その他（　　）
6 サービス内容（質）に不安を感じる	

サービス名	A	B					C	D
	現在利用している	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	今後利用したい
記入例）1．補装具費の支給等	○	1	2	3	④	5	1，4	
(6)日常生活のサービス								
1．補装具費の支給等		1	2	3	4	5		
2．短期保護		1	2	3	4	5		
3．福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成		1	2	3	4	5		
4．緊急一時介護委託費助成		1	2	3	4	5		
(7)就労に関する支援								
1．障害者就労支援事業（就労支援センター）		1	2	3	4	5		
(8)精神障害者を対象とした支援								
1．精神障害回復途上者デイケア		1	2	3	4	5		
2．地域生活安定化支援事業		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1 利用できる回数や日数等が少ない	7 サービス提供事業所の対応が良くない
2 利用料が高い	8 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3 サービス提供事業所が少ない	9 事業所と家族の連携が取れていない
4 利用日時が合わない	10 医療的ケアの対応が十分でない
5 利用時間が短い	11 その他（　　）
6 サービス内容（質）に不安を感じる	

サービス名	A	B					C	D
	現在利用している	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	今後利用したい
記入例）1．障害者（児）歯科診療	○	1	2	3	④	5	*1，4*	
(9)難病患者を対象とした支援								
1．難病リハビリ教室		1	2	3	4	5		
(10)その他								
1．障害者（児）歯科診療		1	2	3	4	5		
2．在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業		1	2	3	4	5		
3．成年後見制度支援事業		1	2	3	4	5		
4．成年後見制度利用助成事業（報酬助成）		1	2	3	4	5		
5．福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1　利用できる回数や日数等が少ない	7　サービス提供事業所の対応が良くない
2　利用料が高い	8　サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3　サービス提供事業所が少ない	9　事業所と家族の連携が取れていない
4　利用日時が合わない	10　医療的ケアの対応が十分でない
5　利用時間が短い	11　その他（　　）
6　サービス内容（質）に不安を感じる	

ここからは問23 にあるいずれかの障害福祉サービスで「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。

問24　どのようにサービス等利用計画を作成しましたか。（○はひとつ）

1　特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している
2　自分で、または家族や支援者とセルフプランを作成している
3　介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している

ここからはこれまでに特定相談支援事業所でサービス等利用計画を作成したことがある方にお聞きします。

問25　サービス等利用計画を作成してどのように感じましたか。
（あてはまるものすべてに○）

【良かったこと】

1　相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた
2　希望どおりのサービス等利用計画ができた
3　サービス等利用計画の計画内容に満足している
4　再び支援が必要となった場合にはサービス等利用計画を作成したい
5　サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた
6　サービス等利用計画の内容が具体的で分かりやすかった
7　課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確になった

【悪かったこと】

8　相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった
9　希望どおりのサービス等利用計画ができなかった
10　サービス等利用計画の計画内容に不満がある
11　再び支援が必要となった場合でもサービス等利用計画は作成したくない
12　サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった
13　サービス等利用計画の内容が分かりにくかった
14　課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった

15　その他（　　）
16　特にない

ここからは問24で「2 セルフプランを作成している」に○をつけた方にお聞きします。

問26　セルフプランとした理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

1　相談支援事業所にサービス等利用計画の作成を依頼することが手間だったため
2　身近にサービス等利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため
3　障害福祉サービスを早く利用したかったため
4　家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため
5　自分でセルフプランを作成することが可能だったため
6　その他（　　）

40歳以上の方にお聞きします。

問27　障害福祉サービスと併用している介護保険サービスはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　訪問介護（ホームヘルプ）
2　通所介護（デイサービス）
3　短期入所（ショートステイ）
4　その他（　　）
5　介護保険サービスを利用していない

5 日中活動や外出について

問28　あなたは、平日の日中、主にどのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　（職場に障害を開示して）正社員・正職員として働いている
2　（職場に障害を開示せず）正社員・正職員として働いている
3　（職場に障害を開示して）契約社員として働いている
4　（職場に障害を開示せず）契約社員として働いている
5　（職場に障害を開示して）パート・アルバイトなどで働いている
6　（職場に障害を開示せず）パート・アルバイトなどで働いている
7　自営業・家業の手伝いなどで働いている

問28－1～
問28－4へ

8　福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている→問28－1、問28－5～問28-6へ
9　大学・専門学校などに通っている
10　職業訓練校（職業能力開発センター等）に通っている
11　ハローワーク等に通って求職活動をしている
12　自宅で家事をしている
13　育児をしている
14　休職中
15　その他（　　）
16　特に決まった予定はない　→16に○を付けた方は問28－7へ

ここからは問28で「1～8」と回答された方にお聞きします。

問28-1　給与・工賃の月額をお答え下さい。（○はひとつ）

1　1万円未満
2　1万円以上～3万円未満
3　3万円以上～5万円未満
4　5万円以上～10万円未満
5　10万円以上～15万円未満
6　15万円以上～20万円未満
7　20万円以上

ここからは問28で「1～7」と回答された方にお聞きします。（問28-4まで）

問28-2　仕事の内容をお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）

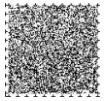
1　事務の仕事
2　販売・接客の仕事
3　役所や官公庁の仕事
4　医療・福祉の仕事
5　教育関係の仕事
6　倉庫等の商品管理や発送の仕事
7　清掃の仕事
8　調理、食品、厨房内の仕事
9　店舗、バックヤードの仕事
10　農産物等の栽培の仕事
11　自宅での仕事（テレワーク）
12　自営業
13　その他（　　）
14　わからない

問28-3　週当たりの勤務時間をお答え下さい。（○はひとつ）

1　週に40時間以上
2　週に20時間以上～40時間未満
3　週に20時間未満
4　その他（　　）

問28-4　仕事をする上で困っていることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　賃金や待遇面で不満がある
2　仕事中の体調の変化に不安がある
3　調子が悪いときに休みが取りにくい
4　労働時間や日数に不満がある
5　休憩を自分のタイミングで取れない
6　休憩時間中に何をしていいかわからない
7　通勤が大変である
8　職場の人間関係がうまくいかない
9　職場に相談できる人や援助者がいない
10　職場の担当者の異動により支援が変わってしまうことがある
11　職場の障害理解や配慮が不足している
12　トイレなど職場の設備が不十分である
13　周囲の目が気になる
14　自分の考えや思ったことを伝えられない
15　能力に応じた評価、昇進の仕組みがない
16　仕事の内容が合っていない
17　在宅勤務やオンライン化への対応が難しい
18　その他（　　）
19　特にない



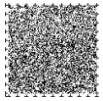
ここからは問28で「8　福祉施設・サービス事業所等に通っている」と回答された方にお聞きします。（問28-6まで）

問28-5　福祉施設に通所する上で困っていることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　サービスの内容が自分に合っていない
2　作業時間や日数に不満がある
3　工賃に不満がある
4　訓練や作業をする上での配慮が不足している
5　他の利用者との人間関係がうまくいかない
6　通うのが大変である
7　トイレなど施設の整備が不十分
8　相談できる人や援助者がいない
9　作業中の体調の変化に不安がある
10　自分の考えや思ったことが伝えられない
11　その他（　　）
12　特にない

問28-6　福祉施設利用後に困っていることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　通所先の送迎車やヘルパー等の支援により帰宅するが、家族または支援者が不在だと自宅で過ごすのは難しい
2　一人で帰宅するが、自宅で一人で過ごすのは難しい
3　地域活動支援センター、日中短期入所等の支援施設で過ごすが、希望する日数利用できない
4　地域活動支援センター、日中短期入所等の支援施設で過ごすことを希望するが、移動手段がない
5　余暇活動をしたいが、何をしたいか分からない
6　余暇活動をしたいが、ヘルパー等の支援者が確保できず利用できない
7　その他（　　）
8　特にない



ここからは問28で「16 特に決まった予定はない」と回答された方にお聞きします。

問28-7 あなたが就労や通所などをしていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1 障害の程度や症状のため
2 高齢のため
3 職場で働く場合の人間関係に不安があるため
4 職場で働く場合の障害理解に不安があるため
5 職場や活動の場に通うのが困難なため
6 周囲から止められているため
7 自分に合った仕事がないため
8 自分に合った活動の場がないため
9 働く自信がないため
10 働く必要がないため
11 働ける場所があるか分からない
12 居宅で障害福祉サービスを利用しているため
13 利用したい障害福祉サービスがないため
14 障害福祉サービスを利用する必要がないため
15 障害福祉サービスがあることを知らない
16 今の生活に満足しているため
17 その他（ ）
18 特に理由はない

ここからは全ての方にお聞きします。

問29 障害者が一般就労するため希望する支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1 就労に向けての相談支援
2 就労継続に向けての相談支援
3 障害のある人が働く企業等の見学
4 企業等での体験実習
5 自立や社会参加を目的とした就労訓練の場
6 就労意欲向上のためのプログラム
7 求職活動の支援
8 自分に合った仕事を見つける支援
9 ビジネスマナーなどを学ぶ機会
10 履歴書の作成や面接への同行支援
11 企業等での短時間（1日2時間程度）雇用の推進
12 企業等における障害理解の推進
13 その他（ ）
14 特にない

問30 あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1 趣味や学習活動、習い事
2 スポーツ・運動
3 ボランティア活動
4 友人・知人と会う
5 音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞
6 買い物
7 飲食店に行く
8 読書
9 旅行
10 家でくつろぐ
11 地域の行事への参加や交流
12 近所の散歩
13 その他（ ）
14 特に決まった予定はない

問31 あなたはどのくらいの頻度で外出していますか。（○はひとつ）

1 ほぼ毎日
2 週に3～4回
3 週に1～2回
4 月に1～3回
5 あまり外出しない

問32 あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1 歩道の段差や傾斜
2 建物の段差や階段
3 バスやタクシーの利用
4 駅構内の移動や乗り換え
5 券売機の利用
6 トイレの利用
7 歩道がせまい・障害物がある
8 疲れたときの休憩場所
9 自動車・自転車に危険を感じる
10 スマホのながら歩きに危険を感じる
11 駅のホームで線路への転落の危険を感じる
12 外出するのに支援が必要である
13 外出したくても介助者がいない
14 周囲の人の理解や配慮がない
15 その他（ ）
16 特にない

問33　あなたは過去１年間、どのくらいの頻度で文化芸術活動※3へ参加しましたか。（○はひとつ）

1　週に3日以上
2　週に1～2日
3　月に1～3日
4　3か月に1～2日
5　年1～3日
6　参加希望はあるが、参加していない
7　参加希望はない
8　わからない

※3 文化芸術活動

1 文化芸術の鑑賞活動
美術館・博物館での展示鑑賞、演劇・音楽・舞踊・映画などの公演や作品を観たり聴いたりして楽しむこと。

2 鑑賞以外の文化芸術活動
自ら芸術作品を創作したり、演劇や音楽などに出演したり、絵画や楽器などを習ったり、演劇・美術・音楽等の体験活動など、主体的に文化芸術に関わる活動。

上記2つを含む活動を指します

ここからは問33で「6　参加希望はあるが、参加していない」か「7　参加希望はない」と回答された方にお聞きします。

問33-1　その理由をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

1　興味を感じる活動が少ない
2　参加できるような活動が少ない
3　お知らせや案内等を知らない
4　付き添ってくれる人がいない
5　電車やバス等での移動が困難である
6　障害に対する理解や配慮が足りない
7　障害等が重く、活動が困難である
8　建物や施設のバリアフリーが不十分で、利用が困難である
9　経済的理由により、活動が困難である
10　その他（　　）

6　住まいについて

問34　あなたは、住まいに関してどのようなことで困っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1　建物のバリアフリーに問題
2　建物の老朽化
3　家賃など住宅費の負担
4　近隣住民との人間関係
5　転居したいがサポートがないと難しい
6　周りに相談できる人がいない
7　入居を断られたことがある
8　その他（　　）
9　特にない

問35　あなたは、住まいに関してどのような支援を必要としていますか。（あてはまるものすべてに○）

1　住宅改造費用の貸付・助成
2　家具転倒防止や耐震化など災害対策
3　公営住宅への優先入居の拡充
4　民間賃貸住宅の入居支援
5　グループホームなどの整備
6　住居探しのサポート体制の整備
7　その他（　　）
8　特にない

問36　あなたは、グループホームへの入居を希望しますか。（○はひとつ）

1　希望しない
2　1年以内に入居したい
3　3年以内に入居したい
4　5年以内に入居したい
5　10年以内に入居したい
6　10年以上先に入居したい
7　その他（　　）

ここからは問36で「1　希望しない」<u>以外</u>を回答された方にお聞きします。

問36-1　希望するグループホームの所在地をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

1　文京区内
2　23区内（文京区を除く）
3　東京都内（23区内を除く）
4　関東（東京都を除く）
5　文京区外（その他）

7 権利擁護・差別解消について

問37　成年後見制度という言葉について聞いたことがありますか。（○はひとつ）

1 「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある
2 「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある
3 「成年後見制度」について内容も言葉も知らない

ここからは問37で「1「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

問37-1　成年後見制度について知っていることをお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）

1 「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である
2 「法定後見制度」は、判断能力が不十分になってから利用する成年後見制度である
3 「任意後見制度」は、将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく成年後見制度である
4 その他（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問38　福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）という言葉について聞いたことがありますか。（○はひとつ）

1 「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある
2 「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」という言葉だけは聞いたことがある
3 「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」について内容も言葉も知らない

ここからは問38で「1「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

問38-1　福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）について知っていることをお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）

1 「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである
2 「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」の内容として、「福祉サービスの利用援助」、「日常的金銭管理サービス」、「重要書類等預かりサービス」がある
3 「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」は、社会福祉協議会と契約を結ぶことで受けられる支援である
4 その他（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問39　あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮※4の不提供を感じる場面をお聞かせください。（○はひとつ）

1 家
2 職場
3 福祉施設・障害福祉サービス事業所
4 お店などの民間事業者
5 住んでいる地域や住民
6 公共施設
7 区役所などの行政機関
8 医療機関
9 交通機関
10 学校
11 その他（　　）
12 特に感じたことはない

※4 合理的配慮の提供

行政機関又は民間事業者は、障害者から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合に、その実施に伴う負担が過重でないときは、社会的障壁（バリア）を除去するための必要かつ合理的な取組を行わなければなりません。障害者差別解消法が、令和3年5月に改正され、これまで努力義務だった民間事業者の合理的配慮の提供が令和6年4月1日から法的義務になりました。

問40　あなたが、これまでに文京区内で感じた差別や合理的配慮の不提供についての内容及び、求める対応をお聞かせください。（ご自由にお書きください。）

問41　社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

1　合理的配慮に関する講演・セミナーの開催
2　合理的配慮事例の周知・啓発
3　筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応
4　バリアフリー化や情報保障のための機器の導入
5　障害当事者等を講師とした研修・講演
6　民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
7　その他（　　）
8　特にない

問42　障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

1　障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備
2　障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信
3　障害者差別解消法※5に係るセミナー・研修等の開催
4　障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行
5　障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催
6　地域や学校等で交流の機会を増やすこと
7　地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
8　学校や生涯学習での障害に関する教育や情報
9　障害についての講演会や疑似体験会の開催
10　障害者の一般就労の促進
11　ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発
12　その他（　　）
13　特にない

※5 障害者差別解消法

障害者差別解消法は、すべての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を社会において推進することを目的に制定されました。

〇不当な差別的取扱いの禁止

不当な差別的取扱いとは、障害を理由として、正当な理由なく、サービスの提供を拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような行為をいい、行政機関又は民間事業者は、正当な理由なく、障害者の権利利益を侵害してはなりません。

8 災害・緊急時の対策について

問43 あなたが、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

1 災害の情報を知る方法がわからない
2 助けを求める方法がわからない
3 避難所の場所がわからない
4 近くに助けてくれる人がいない
5 一人では避難できない
6 避難所の設備が自分の障害に対応しているか不安
7 避難所で必要な支援が受けられるか不安
8 避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい
9 在宅避難で必要な支援が受けられるか不安
10 薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安
11 医療機器の電源確保が心配
12 その他（ ）
13 特にない

問44 あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。（あてはまるものすべてに〇）

1 日頃から家族で災害時の対応を話し合っている
2 非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日～1週間分）をしている
3 疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている
4 近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている
5 文京区の「避難行動要支援者名簿」※6に登録している
6 家具に転倒防止器具を取り付けている
7 住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている
8 区民防災組織（町会・自治会）や消防団等に参加している
9 地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している
10 その他（ ）
11 特にない

※6 避難行動要支援者名簿

災害時に自力で避難することが困難な方（災害時要配慮者）を発災時に地域全体で支援するため、一定の条件のもと、区が指定又は本人等の申請に基づき区が整備する名簿です。

問45 あなたは、家族等の介助者が不在となるような緊急時に困ることや不安なことは何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

1 緊急時に連絡する家族や・親族が他にいない
2 緊急時に連絡する相談支援事業所等支援機関がない
3 一人では連絡出来ない
4 緊急時に利用できる施設の環境に適応できるか不安
5 緊急時に利用できる施設を知らない
6 その他（ ）
7 特にない

９ 自由意見

問46　区の障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※お書きいただいたご意見･ご要望に、個別にお答えすることはできかねますが、計画策定の際の参考にさせていただきます。

質問は以上で終わりです。

この度は調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

次のページ以降は、問23に関する資料となります。

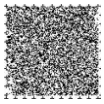
令和７年10月31日（金）までに、同封の「返信用封筒」に、ご回答いただいたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。
封筒に切手を貼る必要はありません。
また、個人情報保護の観点から、調査票や封筒に、ご住所お名前をお書きにならないよう、お願いします。

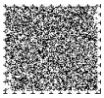
資料【障害福祉サービス等の内容（問23）】

サービス名	サービスの内容
（1）障害福祉サービス（訪問系）	
1．居宅介護	自宅で入浴・排せつ、食事の介護、通院の介助等を行います。
2．重度訪問介護	重い障害があり、常に介護を必要とする人に、自宅での入浴・排せつ、食事の介護、外出時における移動支援等を総合的に行います。
3．同行援護	視覚障害のある人に、外出時において、移動の援護等を行います。
4．行動援護	知的障害や精神障害により、一人で行動することが難しい人に対して、移動中の介護や危険を避けるための支援を行います。
5．重度障害者等包括支援	介護の必要性がとても高い人に、居宅介護等の複数のサービスを包括的に行います。
（2）障害福祉サービス（日中活動系・訓練系・就労系）	
1．生活介護	常に介護を必要とする人に、昼間、排せつ・食事等の介護、日常生活上の支援を行います。
2．療養介護	医療と常時介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練や看護・介護を行います。
3．自立訓練（機能訓練）	身体障害者に対して、自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能の向上のために必要な訓練を行います。
4．自立訓練（生活訓練）	知的障害者・精神障害者に対して、自立した日常生活又は社会生活ができるよう、生活能力の向上のために必要な訓練を行います。
5．就労選択支援	就労先・働き方について、本人の希望や就労能力、適性等に合ったより良い選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して支援を行います。
6．就労移行支援	一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力向上のために必要な訓練を行います。
7．就労継続支援（Ａ型）	企業等での就労が難しい人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力向上のために必要な訓練を行います。
8．就労継続支援（Ｂ型）	企業等での就労が難しい人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力向上のために必要な訓練を行います。
9．就労定着支援	就労移行支援等を利用して一般就労した人に、就労に伴う生活上の課題に対応できるように必要な支援を行います。
10．自立生活援助	入所施設やグループホームを利用していた人が、自宅で自立した生活を送る上で生じた問題について、訪問して必要な援助を行います。
11．短期入所（ショートステイ）	自宅で介護する人が病気の場合や休養等のために、短期間、夜間も含め施設で入浴、排せつ、食事の介護等を行います。

サービス名	サービスの内容
(3)障害福祉サービス(居住系)	
1．共同生活援助（グループホーム）	夜間や休日、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助を行います。
2．施設入所支援	施設入所している人に、夜間や休日に、入浴、排せつ、食事等の介護を行います。
(4)相談支援	
1．地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）	施設や病院に入所・入院している障害者に対して、地域生活に移行するための支援や、居宅で単身生活する障害者の相談等に対応します。
2．計画相談支援（サービス利用支援・継続サービス利用支援）	障害福祉サービス等の利用を希望する障害者について、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとに計画の検証等を行います。
(5)地域生活支援事業	
1．相談支援事業	障害者の日常生活に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他各種福祉サービスの利用支援等を行います。
2．移動支援事業	外出時に移動に関する支援が必要な障害者に対し、ガイドヘルパーなどによる移動の支援を行います。
3．日常生活用具給付事業	重度障害者等に対し、日常生活に必要な用具や住宅改修等の給付を行います。
4．日中短期入所事業	短期入所施設で、宿泊を伴わない日中に、入浴・排せつ、食事等の介護や日常生活の支援を行います。
5．地域活動支援センター事業	障害者等に対し、創作的活動や社会との交流の機会等を提供します。
6．意思疎通支援事業	手話通訳者や要約筆記者等の派遣を行います。

サービス名	サービスの内容
(6)日常生活のサービス	
1．補装具費の支給等	障害者の身体機能を補完・代替する補装具を製作・修理等する場合、補装具費を支給します。
2．短期保護	常時介護を必要とする障害者・児の家族が、疾病・事故・冠婚葬祭等の理由で介護が困難なとき、家族に代わって保護を行います。
3．福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	外出が難しい人が積極的に社会参加できるように、福祉タクシー利用券の交付又は自動車等の燃料費の助成を行います。
4．緊急一時介護委託費助成	障害者・児を日常的に介護している家族が、一時的に介護を行うことが困難になったときに、家庭において介護を受けた場合等、その介護委託に要した費用の一部を助成します。
(7)就労に関する支援	
1．障害者就労支援事業（就労支援センター）	障害者就労支援センターで、障害者の就労に向けた支援、就労定着への支援、就労に伴う生活支援等を行います。
(8)精神障害者を対象とした支援	
1．精神障害回復途上者デイケア	集団生活指導などを通じて、対人関係等の課題を改善して社会復帰を目指します。
2．地域生活安定化支援事業	治療中断等による病状悪化を未然に防止するため、通院の同行や服薬見守り支援を行います。
(9)難病患者を対象とした支援	
1．難病リハビリ教室	体操やレクリエーション、参加者同士の交流の機会を提供し、疾病の理解や運動機能の維持を図ります。
(10)その他	
1．障害者（児）歯科診療	口腔衛生の向上を図るため、歯科治療や各種相談を行います。
2．在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業	歯科医院への通院が難しい在宅療養者等に、歯科医師や歯科衛生士が自宅に訪問し、歯科健診・予防相談指導を行い、口腔衛生の向上を図ります。
3．成年後見制度支援事業	判断能力が不十分で、自分の財産や権利を守ることが難しい人に対して、支援を行います。
4．成年後見制度利用助成事業（報酬助成）	成年後見制度の申立て費用や、成年後見人等への報酬を支払うことが難しい人に、必要な費用を助成します。
5．福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）	判断能力が不十分な方で利用を希望する方と社会福祉協議会が契約し、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理等の支援を行います。





18歳未満の方

区民の生活のニーズに関する調査

日頃から、文京区の福祉行政にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

文京区では、皆様の生活実態や意向を把握して、福祉施策を計画的に進めていくための基礎資料とするために、調査を実施します。

以下のいずれかに該当する区内在住の方を対象者とさせていただきました。

・身体障害者手帳をお持ちの 18歳未満の方
・愛の手帳をお持ちの 18歳未満の方
・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの 18歳未満の方
・難病医療券をお持ちの 18歳未満の方
・障害児通所支援受給者証をお持ちの 18歳未満の方

ご回答いただいた内容は、統計的に集計・分析して、報告書として発行するとともに文京区公式ホームページでもお知らせします。調査の結果については障害者・児計画（令和9年度から令和11年度まで）策定の参考にさせていただきます。

無記名アンケートの方式でご回答いただきますので、個人が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年10月
文京区長　成澤　廣修

～インターネットでもご回答いただけます～

・スマートフォン等で以下のQRコードを読み取っていただくか、パソコンの場合はURLを入力し、インターネット上のアンケートフォームにアクセスしてください。
・最初に以下の「パスワード」を入力してください。
・画面の指示に従い、アンケートフォームに回答を選択・入力し、送信してください。

↓QRコード、URL↓　　↓ID↓　　↓パスワード↓

bunkyo763

https://www.

・郵送とインターネットのいずれかを選択してご回答ください。

郵送の場合

・**令和7年10月31日(金)までに**、ポストに投函してください。
・同封の「返信用封筒」に、回答を書き入れたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。　切手を貼る必要はありません。

【記入済調査票送付先】

〒112－8555　文京区春日1－16－21　文京シビックセンター9階
文京区役所障害福祉課障害福祉係

インターネットの場合

・**令和7年10月31日(金)24時までに**、回答を送信してください。

・回答時間の目安は 20分程度です。
・ブラウザの×ボタンで閉じると回答内容が保存されません。また、しばらくの間（30分程度）再ログインができなくなります。その場合は、しばらく（30分程度）経ってからログインし直して、回答してください。
・回答を中断するには必ず「次のページ」を押して移動してから、左上にある「MENU」の「途中終了」を押してください。（「途中終了」の場合、前ページの回答分までしか保存されません。現在のページの回答は保存されませんので、ご注意ください。
・一定時間（2時間程度）操作がないと、自動的にログアウトします。その際は再度ログインしてご回答ください。状況によっては回答内容が保存されていない場合もありますので、ご了承ください。
・インターネット調査にかかる通信料は利用者のご負担になりますのでご了承ください。

【調査票に関する問い合わせ先】

この調査は、集計及び分析を（株）アイアールエスに委託して実施しています。調査票の内容に関して不明な点等がありましたら、お手数ですが以下までお問い合わせください。

（株）アイアールエス　担当：緒方、金沢
電話：03(3357)7181、FAX：03(3357)7180
メールアドレス：info@irs-tokyo.co.jp
受付時間：平日(月～金)　午前10時～午後6時

【回答に支援が必要な場合の問い合わせ先】

回答の際の支援を行います。ご希望の方は以下までお問い合わせください。

文京区障害者基幹相談支援センター
住所：文京区小日向2－16－15　文京総合福祉センター1階
Tel 03(5940)2903、Fax 03(5940)2904

文京区教育センター　総合相談室
住所：文京区湯島4－7－10
Tel 03(5800)2594、Fax 03(5800)2590

社会福祉法人武蔵野会(リアン文京)
住所：文京区小日向2－16－15
Tel 03(5940)2822、Fax 03(5940)2823

社会福祉法人太陽福祉協会(JOY)
住所：文京区本駒込4－35－15　文京区勤労福祉会館2階
Tel 03(3823)8091、Fax 03(3823)8092

<<<<<<<<　記入に関して　>>>>>>>>

- 回答は、この調査票に直接書いてください。
- 質問によっては、一部の方のみに回答していただくものもあります。
- 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
- 回答が「その他」になる場合は、(　　)内にその内容を書いてください。
  (　　)内に書ききれない場合は余白に書いてください。
- 回答したくない質問は答えずに、次の質問に進んでください。
- この調査票には、名前を書かないでください。
- 聴覚に障害のある方で調査票の回答にお困りの場合は、障害福祉課に配置している手話通訳者による対応も可能ですので、窓口にお越しの際にお声がけください。
- 視覚に障害のある方で調査票の回答にお困りの場合は、点字調査票を送付するか、直接調査員が伺って調査いたしますので、障害福祉課までご連絡ください。
  (障害福祉課 電話:03-5803-1211　FAX 03-5803-1352　受付平日8:30～17:15)

ここから調査がはじまります

この調査票で、「あなた」とあるのは、『あて名ご本人(お子さん)』のことです。

あて名ご本人が回答できない場合は、ご家族や介助の方が、あて名ご本人の立場で、現在の状況で回答してください。

問１　この調査票に回答していただく方はどなたですか。(○はひとつ)

1　あて名ご本人
2　ご家族の方
3　その他(　　)

１　ご本人について

問２　あなたの年齢をお聞きします。**令和7年4月1日現在の満年齢**をお書きください。

　　歳

問３　**保護者の方にお聞きします。**世帯の年収額を税金等を差し引く前の額でお答えください。(○はひとつ)

1　収入はない
2　80万円未満
3　80万円以上～150万円未満
4　150万円以上～250万円未満
5　250万円以上～500万円未満
6　500万円以上～1,000万円未満
7　1,000万円以上

問４　あなたの同居家族をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

1　父親　　3　兄弟・姉妹　　5　その他親族
2　母親　　4　祖父母　　6　その他（　　）

問５　あなたの父親の就労状況をお答えください。（○はひとつ）
※母子家庭の場合は記入は不要です

1　フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
2　フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
3　パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
4　パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
5　以前は就労していたが、現在は就労していない
6　これまで就労したことがない

問６　あなたの母親の就労状況をお答えください。（○はひとつ）
※父子家庭の場合は記入は不要です。

1　フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
2　フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
3　パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
4　パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
5　以前は就労していたが、現在は就労していない
6　これまで就労したことがない

2　障害と健康について

問７　あなたには、次の障害等がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　肢体不自由（上肢・下肢・体幹・脳性麻痺・移動機能障害等）
2　音声・言語・そしゃく機能障害
3　視覚障害
4　聴覚・平衡機能障害
5　内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう・直腸、小腸、免疫機能等）
6　知的障害
7　発達障害　**→7に○を付けた方は問7－1へ**
8　精神障害
9　高次脳機能障害
10　難病（特定疾病）　**→10に○を付けた方は問7－2へ**
11　その他（　　）

→上記7・10のどちらにも当てはまらない方は、問8へ

ここからは問7で「7　発達障害」と回答された方にお聞きします。

問７－１　発達障害の診断名をお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）

1　自閉症（自閉スペクトラム症）
2　注意欠陥・多動性障害（注意欠如・多動症）
3　学習障害（限局性学習症）
4　その他の発達障害
（　　）
5　わからない

ここからは問7で「10 難病（特定疾病）」と回答された方にお聞きします。

問７－２　病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

病名（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問８　あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。（あてはまるものすべてに○）

1　身体障害者手帳 → 1　1級　2　2級　3　3級　4　4級　5　5級　6　6級

2　愛の手帳 → 1　1度　2　2度　3　3度　4　4度

3　精神障害者保健福祉手帳 → 1　1級　2　2級　3　3級

4　これらの手帳は持っていない

問９　<u>保護者の方にお聞きします。</u>お子さんの障害や心身の不調について、最初に気づいた時期はいつですか。（○はひとつ）

1　生まれたとき　2　0歳　3　1歳　4　2歳　5　3歳　6　4歳　7　5歳　8　6～8歳　9　9～11歳　10　12歳以上

問10　<u>保護者の方にお聞きします。</u>お子さんの障害や心身の不調についてはじめてわかったのは、どのようなときでしたか。（○はひとつ）

1　生まれてまもなく知らされた
2　家族や周りの人が気づいた
3　乳幼児健診で知らされた
4　育児相談などで知らされた
5　医療機関で診察したときに知らされた
6　保育園、こども園、幼稚園の教職員が気づいた
7　学校の教職員が気づいた
8　その他（　　）
9　わからない

問11　<u>保護者の方にお聞きします。</u>そのとき、誰に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

1　家族
2　友人
3　学校の教職員
4　保育園・こども園・幼稚園の教職員
5　民生委員・児童委員
6　障害等の当事者会や家族の会
7　医療関係者（医師・看護師・医療相談員）
8　障害福祉課・予防対策課の窓口
9　障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口
10　保健サービスセンター（保健師）
11　障害者基幹相談支援センター
12　子ども家庭支援センター
13　教育委員会・教育センター
14　児童相談所
15　インターネット等の情報
16　SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）
17　その他（　　）
18　相談しなかった

問12　あなたの受診状況等（歯科医療も含む）をお聞きします。（○はひとつ）

1　定期的に通院している
2　ときどき通院している
3　自宅で訪問看護や往診を受けている
4　入院している
5　その他（　　）
6　特に治療はしていない

問13　かかりつけの医療機関をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

1　区内の診療所や医院
2　区内の歯科医院
3　区内の総合病院や大学病院
4　区外の診療所や医院
5　区外の歯科医院
6　区外の総合病院や大学病院
7　かかりつけの医療機関はない

問14　あなたが必要とする医療的ケア※1をお聞きします。
（あてはまるものすべてに○）

1　吸引
2　吸入・ネブライザー
3　経管栄養
4　中心静脈栄養
5　導尿
6　酸素療法
7　鼻咽頭エアウェイ
8　パルスオキシメーター
9　気管切開部の管理
10　人工呼吸器の管理
11　その他（　　）
12　特に必要としていない

※1 医療的ケア
「医療的ケア」とは、経管栄養、たんの吸引などの日常生活に不可欠な生活援助行為であり、長期にわたり継続的に必要とされるケアです。

ここからは問14で「12 特に必要としていない」以外を回答された方にお聞きします。

問14-1　あなたやあなたの介助者のために、どのような支援が必要ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　一時的に預かるサービスの充実
2　移動に係る支援の充実
3　保育所や育成室等における環境整備
4　学校における環境整備
5　経済的な支援等の充実
6　医療的ケアに対応できる事業所等の充実
7　訪問看護・訪問リハビリ等充実
8　相談できる体制の充実
9　情報提供の充実
10　その他（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問15　日常生活の中で、特別な支援や配慮を必要※2とする、行動面に関する課題がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　自傷
2　他害
3　こだわり
4　もの壊し
5　睡眠の乱れ
6　異食
7　多動
8　その他（　　）
9　特になし

※2 特別な支援や配慮の必要性
この調査では、選択肢にあるような行動が著しく高い頻度で起こることから、日常的に特別な支援がなければ本人や周囲の人の生活に支障が出てしまう程度のことを指します（回答者の主観でお答えください）。

問16　あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　食事
2　排せつ
3　入浴
4　寝返り
5　着替え
6　室内の移動
7　洗顔・歯磨き
8　代筆・代読
9　通院、通学・通勤
10　通院、通学・通勤以外の外出
11　日常生活に必要な意思の伝達
12　日常生活動作の見守り
13　学習の支援
14　その他（　　）
15　介助や支援は必要ない

→15に○を付けた方は問18へ

ここからは問16で「15 介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問17　あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。（○はひとつ）

1　父親
2　母親
3　兄弟・姉妹
4　その他親族
5　ホームヘルパー
6　ボランティア
7　その他
（　　）

ここからは問17で「1 父親」～「4 その他親族」と回答された方にお聞きします。

問17-1　あなたを主に介助・支援している人の年齢はいくつですか。
（○はひとつ）

1　19歳以下
2　20～29歳
3　30～39歳
4　40～49歳
5　50～59歳
6　60歳以上

ここからは問16で「15 介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問17-2　あなたを主に介助・支援している人は、あなた以外に介護や子育てをしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1　高齢者（両親・祖父母等）の介護
2　配偶者の介護
3　子ども（就学児・未就学児）の子育て
4　病気の方の介護
5　障害のある方の介護
6　その他（　　）
7　なし

3 相談や福祉の情報について

問18　あなたは、日常生活で困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○）（保護者や支援者の方が回答する場合でも、ご本人（お子さん）の思いをご回答ください）

1　健康状態に不安がある
2　障害のため、身の回りのことが十分にできない
3　介助者に負担をかけている
4　外出が大変である
5　住まいに不便を感じている
6　災害時の避難に不安がある
7　緊急時の対応に不安がある
8　学習についていけない
9　学校などの先生とうまくいかない
10　友だちとの関係がうまくいかない
11　障害や病気に対する周りの理解がない
12　困ったとき相談する相手がいない
13　病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くに少ない
14　生活にお金がかかることに不安がある
15　将来に不安を感じている
16　パニック、自傷、他害が頻発する
17　その他（　　）
18　特にない

問19　あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）

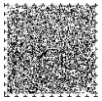
1　区の広報紙（区報等）
2　区のホームページ
3　文の京・障害者福祉のてびき
4　区の窓口
5　保健サービスセンター
6　テレビ・ラジオ
7　インターネット
8　SNS
（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）
9　新聞・書籍
10　障害等の当事者会や家族の会
11　医療機関
12　学校の教職員
13　保育園・こども園・幼稚園の教職員
14　児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関
15　その他（　　）
16　特にない

問20　あなたは今後、どのような生活を希望しますか。（○はひとつ）

1　地域で自立して生活する
2　親や親族と一緒に生活する
3　グループホーム等の共同生活住居で生活する
4　入所施設（障害者支援施設等）で生活する
5　その他（　　）
6　わからない

問21　あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。（○は５つまで）

1　障害に対する理解の促進
2　医療やリハビリテーションの充実
3　幼少期・学齢期からの教育・育成の充実
4　働くための訓練・就労に向けた支援の充実
5　仕事を継続するための支援の充実
6　身近な地域で相談できる場の充実
7　訪問系サービス（居宅介護・重度訪問介護・同行援護等）の充実
8　日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等・就労移行支援・就労継続支援等）の充実
9　短期入所（ショートステイ）の整備
10　意思疎通支援（手話通訳者・要約筆記者派遣）の充実
11　福祉機器・補装具などの充実
12　グループホームの整備
13　入所施設（障害者支援施設等）の整備
14　居住支援の充実
15　建物・道路等のバリアフリー化
16　当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
17　文化芸術活動の充実
18　趣味やスポーツ活動の充実
19　財産管理や見守り等の支援の充実
20　経済的支援の充実
21　災害時支援の充実
22　地域交流の場の充実
23　福祉・医療・介護との連携の充実
24　福祉と教育の連携の充実
25　18歳以降の居場所
26　その他（　　）
27　特にない



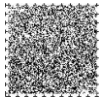
4　子育てにおける悩みについて

問22　**保護者の方にお聞きします。**子育てでどのようなときに楽しいと感じますか。（あてはまるものすべてに○）

1　子育て全般が楽しい
2　子どもといると楽しく幸せな気分になる
3　子どもと一緒に遊んだり何かしたりできることがうれしい
4　子どもが自分を頼ったり甘えたりしてくれることがうれしい
5　子育てにより自分も成長していると感じる
6　子どもがいると家庭が明るくなる
7　その他（　　）
8　特に楽しいことはない

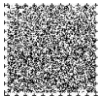
問23　**保護者の方にお聞きします。**どのような悩みや不安を抱えていますか。（あてはまるものすべてに○）

1　介助してくれる人が足りない
2　何かあった時に介助を頼める人がいない
3　他の家族の協力が少ない
4　子育てと仕事の両立が難しい
5　長期的な外出ができない
6　介助や支援の方法がわからない
7　自分の時間が取れない
8　身体的な負担が大きい
9　健康について不安がある
10　体調不良でも病院に行く時間がない
11　睡眠が不足している
12　精神的な負担が大きい
13　経済的な負担が大きい
14　周囲の人や職場などの理解がない
15　きょうだい児の世話が十分にできない
16　子どもの就学や進路について不安がある
17　子どもの成長や発達について不安がある
18　すぐに相談できる人がいない（少ない）
19　子どもの健康と安全が守られる環境が保障されているか、不安である
20　成長・発達に必要な経験や活動等の機会を十分に得ているか、不安である
21　子どもが差別やいじめ等から守られ、安心して過ごせているか、不安である
22　子どもの意見や気持ちが尊重され、本人が意思決定に参加できているか、不安である
23　その他（　　）
24　特に悩みや不安はない



問24　あなたや保護者の方が困ったときに相談する相手は誰ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　家族や親族
2　近所の人
3　友人・知人
4　ピアサポーター
5　学校の教職員
6　保育園・こども園・幼稚園の教職員
7　民生委員・児童委員
8　障害等の当事者会や家族の会
9　身体障害者相談員・知的障害者相談員
10　ヘルパー等福祉従事者
11　児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員
12　相談支援事業所等の相談支援専門員
13　医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）
14　医療関係の相談窓口（地域包括ケア歯科相談窓口、かかりつけ医・在宅療養相談窓口、患者の声相談窓口等）
15　障害福祉課・予防対策課
16　障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口
17　保健サービスセンター
18　障害者基幹相談支援センター
19　各地区の生活あんしん拠点（地域生活支援拠点）
20　子ども家庭支援センター
21　教育委員会・教育センター
22　児童相談所
23　文京区社会福祉協議会
24　育成室の職員
25　SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）
26　どこに相談すればいいかわからない
27　その他（　　）
28　相談する相手がいない



5　福祉サービスについて

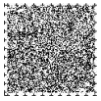
問25　障害児通所支援等の利用状況と満足度についてお聞きします。
A．現在利用しているサービスに○をつけてください。
B．現在利用しているサービスに満足していますか。（○はひとつ）
C．サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。（○はいくつでも）
D．現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。

※　各サービスの説明について、この調査票の巻末資料（37 ページ以降）【障害児通所支援等の内容】ををご参照ください。

サービス名	A	B					C	D
	現在利用している	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	今後利用したい
記入例）1．児童発達支援	○	1	2	3	④	5	*1, 4*	
(1)児童福祉法に基づくサービス								
1．児童発達支援		1	2	3	4	5		
2．放課後等デイサービス		1	2	3	4	5		
3．居宅訪問型児童発達支援		1	2	3	4	5		
4．保育所等訪問支援		1	2	3	4	5		
5．障害児入所支援		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1　利用できる回数や日数等が少ない
2　利用料が高い
3　サービス提供事業所が少ない
4　利用日時が合わない
5　利用時間が短い
6　サービス内容（質）に不安を感じる
7　サービス提供事業所の対応が良くない
8　サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
9　事業所と家族の連携が取れていない
10　医療的ケアの対応が十分でない
11　その他（　　）



サービス名	A 現在利用している	B 満足	B やや満足	B ふつう	B やや不満	B 不満	C B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	D 今後利用したい
記入例）1．補装具費の支給等	○	1	2	3	◯	5	*1, 4*	
(2)日常生活のサービス								
1．補装具費の支給等		1	2	3	4	5		
2．短期保護		1	2	3	4	5		
3．医療的ケア児在宅レスパイト事業		1	2	3	4	5		
4．福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1	利用できる回数や日数等が少ない	7	サービス提供事業所の対応が良くない
2	利用料が高い	8	サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3	サービス提供事業所が少ない	9	事業所と家族の連携が取れていない
4	利用日時が合わない	10	医療的ケアの対応が十分でない
5	利用時間が短い	11	その他（　　）
6	サービス内容（質）に不安を感じる		

サービス名	A 現在利用している	B 満足	B やや満足	B ふつう	B やや不満	B 不満	C B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	D 今後利用したい
記入例）1．居宅介護	○	1	2	3	④	5	*1, 4*	
(3)障害福祉サービス								
1．居宅介護		1	2	3	4	5		
2．重度訪問介護		1	2	3	4	5		
3．同行援護		1	2	3	4	5		
4．行動援護		1	2	3	4	5		
5．重度障害者等包括支援		1	2	3	4	5		
6．短期入所（ショートステイ）		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1	利用できる回数や日数等が少ない	7	サービス提供事業所の対応が良くない
2	利用料が高い	8	サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3	サービス提供事業所が少ない	9	事業所と家族の連携が取れていない
4	利用日時が合わない	10	医療的ケアの対応が十分でない
5	利用時間が短い	11	その他（　　）
6	サービス内容（質）に不安を感じる		

サービス名	A 現在利用している	B 満足	B やや満足	B ふつう	B やや不満	B 不満	C B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	D 今後利用したい
記入例）1．相談支援事業	○	1	2	3	④	5	*1, 4*	
(4)地域生活支援事業								
1．相談支援事業		1	2	3	4	5		
2．移動支援事業		1	2	3	4	5		
3．日常生活用具給付事業		1	2	3	4	5		
4．日中短期入所事業		1	2	3	4	5		
5．地域活動支援ｾﾝﾀｰ事業		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1 利用できる回数や日数等が少ない
2 利用料が高い
3 サービス提供事業所が少ない
4 利用日時が合わない
5 利用時間が短い
6 サービス内容（質）に不安を感じる
7 サービス提供事業所の対応が良くない
8 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
9 事業所と家族の連携が取れていない
10 医療的ケアの対応が十分でない
11 その他（　　）

サービス名	A 現在利用している	B 満足	B やや満足	B ふつう	B やや不満	B 不満	C B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	D 今後利用したい
記入例） 1．障害児相談支援（障害児支援利用援助・継続障害児支援利用援助）	○	1	2	3	④	5	*1, 4*	
(5)相談支援								
1．障害児相談支援（障害児支援利用援助・継続障害児支援利用援助）		1	2	3	4	5		
2．地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）		1	2	3	4	5		
3．計画相談支援（サービス利用支援・継続サービス利用支援）		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1 利用できる回数や日数等が少ない
2 利用料が高い
3 サービス提供事業所が少ない
4 利用日時が合わない
5 利用時間が短い
6 サービス内容（質）に不安を感じる
7 サービス提供事業所の対応が良くない
8 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
9 事業所と家族の連携が取れていない
10 医療的ケアの対応が十分でない
11 その他（　　）

サービス名	A	B					C	D
	現在利用している	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由（下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください）	今後利用したい
記入例）1．障害者（児）歯科診療	○	1	2	3	○	5	1, 4	
(6)その他								
1．障害者（児）歯科診療		1	2	3	4	5		
2．在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業		1	2	3	4	5		
3．子どもショートステイ		1	2	3	4	5		

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1 利用できる回数や日数等が少ない
2 利用料が高い
3 サービス提供事業所が少ない
4 利用日時が合わない
5 利用時間が短い
6 サービス内容（質）に不安を感じる
7 サービス提供事業所の対応が良くない
8 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
9 事業所と家族の連携が取れていない
10 医療的ケアの対応が十分でない
11 その他（　　）

ここからは問25 にあるいずれかの障害児通所支援サービス等で「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。

問26 どのように障害児支援利用計画を作成しましたか。（○はひとつ）

1 障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している
2 家族や支援者とセルフプランを作成している

ここからはこれまでに障害児相談支援事業所で障害児支援利用計画を作成したことがある方にお聞きします。

問27 障害児支援利用計画を作成してどのように感じましたか。（あてはまるものすべてに○）

【良かったこと】
1 相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた
2 希望どおりの障害児支援利用計画ができた
3 障害児支援利用計画の計画内容に満足している
4 再び支援が必要となった場合には障害児支援利用計画を作成したい
5 障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた
6 障害児支援利用計画の内容が具体的で分かりやすかった
7 課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確になった

【悪かったこと】
8 相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった
9 希望どおりの障害児支援利用計画ができなかった
10 障害児支援利用計画の計画内容に不満がある
11 再び支援が必要となった場合でも障害児支援利用計画は作成したくない
12 障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった
13 障害児支援利用計画の内容が分かりにくかった
14 課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった

15 その他（　　）
16 特にない

ここからは問26で「2 セルフプランを作成している」に○をつけた方にお聞きします。

問28　セルフプランとした理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

1　相談支援事業所に障害児支援利用計画の作成を依頼することが手間だったため
2　身近に障害児支援利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため
3　障害児通所支援等のサービスを早く利用したかったため
4　家族や支援者とともにセルフプランを作成することが可能だったため
5　自分でセルフプランを作成することが可能だったため
6　障害児支援利用計画を作成するメリットが感じられなかったため
7　その他（　　）

障害児通所支援等サービスを利用していない方にお聞きします。

問29　障害児通所支援等のサービスを利用しない理由はなんですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　サービスを利用する必要がないから
2　利用したい活動内容の施設がないから
3　家族が介助してくれるから
4　家族以外に介助してもらうことに不安があるから
5　施設・サービスが空くのを待っている
6　施設までの移動手段がないから
7　緊急時に利用したい
8　利用料が高い
9　その他（　　）
10　障害児通所支援等のサービスがあることを知らない

6 教育・保育について

問30　あなたが現在、主に通園・通学などをしているところをお聞きします。
（○はひとつ）

A 小学校入学前

1　保育園
2　こども園
3　幼稚園
4　文京区児童発達支援センター（教育センター内）
5　療育施設（文京区児童発達支援センター以外）
6　通園・通所はしていない
7　その他（　　）

→Aに当てはまる方は問31、問32へ

B 学校在学中

8　小学校の通常の学級
9　小学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）
10　小学校の特別支援学級
11　特別支援学校の小学部
12　中学校の通常の学級
13　中学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）
14　中学校の特別支援学級
15　特別支援学校の中学部
16　高等学校
17　通信制高校
18　特別支援学校の高等部
19　その他の学校（　　）

→Bに当てはまる方は問33へ

C 義務教育終了後、通学はしていない

具体的には何をしていますか。
（　　）

→Cに当てはまる方は問38へ

ここからは問30で「A 小学校入学前（1～7）」の中から○をつけた方の保護者の方にお聞きします。（問32まで）

問31　通園生活や今後の進路等で困っていることや心配していることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　周囲の子どもとの関係が心配
2　先生の指導の仕方が心配
3　本人の成長が心配
4　今後の進路について迷っている
5　子どもの将来に不安がある
6　保育や教育・療育に関する情報が少ない
7　療育・リハビリテーションの機会が少ない
8　子育てと仕事の両立が難しい
9　費用など経済的な負担が大きい
10　幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変
11　その他（　　）
12　特に困っていることや心配していることはない

問32　小学校はどの教育機関を希望しますか。（○はひとつ）

1　小学校の通常の学級
2　小学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）
3　小学校の特別支援学級
4　特別支援学校の小学部
5　わからない

→問34へ進んで下さい。

ここからは問30で「B 学校在学中（8～19）」の中から○をつけた方の保護者の方にお聞きします。

問33　通学生活等で困っていることや心配していることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　周囲の子どもとの関係が心配
2　先生の指導の仕方が心配
3　本人の成長が心配
4　今後の進路について迷っている
5　子どもの将来に不安がある
6　教育・療育に関する情報が少ない
7　療育・リハビリテーションの機会が少ない
8　子育てと仕事の両立が難しい
9　費用など経済的な負担が大きい
10　家と学校の間の送迎が大変
11　学校と放課後等デイサービス事業所との間の送迎が大変
12　その他（　　）
13　特に困っていることや心配していることはない

→問34へ進んで下さい。

ここからは問30で「A 小学校入学前（1～7）」または「B 学校在学中（8～19）」の中から○をつけた方の保護者の方にお聞きします。（問36まで）

問34　放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間は、どのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1　家族といる
2　友人、知人といる
3　一人でいる
4　ヘルパーなどと外出する
5　育成室（学童保育）へ行く
6　児童館へ行く
7　こどもひろばに行く
8　児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する
9　習い事や塾へ行く
10　その他（　　）
11　特に決まった予定はない

問35　放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間は、どのように過ごすことを希望しますか。（あてはまるものすべてに○）

1　地域の同世代の子どもと遊ばせたい
2　育成室（学童保育）を利用したい
3　児童館を利用したい
4　こどもひろばを利用したい
5　習い事や塾に行かせたい
6　ショートステイを利用したい
7　児童発達支援、放課後等ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽを利用したい
8　その他（　　）
9　特にない

問36　放課後や長期休業中など、幼稚園・保育園・子ども園・学校等にいる以外の時間に困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　きょうだいや家族が仕事・用事で日中（放課後・長期休業中）見守る人がいない
2　長期休業中は、通所している施設の営業開始時間が遅いため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている
3　長期休業中は、通所している施設の営業終了時間が早くなるため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている
4　長期休業中以外でも、通所している施設の営業終了時間が早いため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている
5　通所している施設に送迎サービスがないため、負担を感じている
6　習い事等に行かせたいが、安心して利用できる移動手段がない
7　その他（　　）
8　特にない

ここからは問30で「B 学校在学中（8～19）」の中から、小学校（小学部）または中学校（中学部）に通っていると回答した方の保護者の方にお聞きします。

問37　中学校（中学部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（○はひとつ）

1　高等学校（通信制を含む）に通う
2　特別支援学校の高等部に通う
3　専門学校・専修学校に通う
4　障害者向けの日中活動に通う
5　仕事をする
6　その他（　　）
7　わからない

ここからは問30で「B 学校在学中（8～19）」の中から「16 高等学校」・「17 通信制高校」・「18 特別支援学校の高等部」、または「C 義務教育を終了後、通学はしていない」と回答した方にお聞きします。

問38　以下の選択肢のうち、どのような進路を希望しますか。（○はひとつ）

※　この設問では、「ご本人の希望」と「保護者の方の希望」をそれぞれ伺います。

ご本人の希望と保護者の方の希望それぞれひとつに○→	ご本人の希望	保護者の方の希望
1　大学や短期大学へ通う		
2　専門学校や専修学校へ通う		
3　フリースクールやサポート校へ通う		
4　地域の身近にある学びの場へ通う		
5　職業訓練学校へ通う		
6　企業等へ就職する（一般就労）		
7　自分で仕事をする（自営業など）		
8　就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う		
9　自立訓練（生活訓練・機能訓練）事業所へ通う		
10　生活介護事業所へ通う		
11　その他（　　）		
12　わからない		

○ フリースクール　不登校の子どもに対し、学習活動、教育相談、体験活動等の活動を行っている民間の施設
○ サポート校　普通教科の学習支援や通信課程の教科補習を提供する場

ここからは全ての方にお聞きします。

問39　あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　趣味や学習活動
2　スポーツ・運動
3　ボランティア活動
4　友人・知人と会う
5　音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞
6　買い物に行く
7　飲食店に行く
8　読書
9　旅行
10　家でくつろぐ
11　地域の行事への参加や交流
12　近所の散歩
13　その他（　　）
14　特に決まった予定はない

問40　あなたは過去１年間、どのくらいの頻度で文化芸術活動※3へ参加しましたか。（○はひとつ）

1　週に3日以上
2　週に1～2日
3　月に1～3日
4　3か月に1～2日
5　年1～3日
6　参加希望はあるが、参加していない
7　参加希望はない
8　わからない

※3 文化芸術活動

1　文化芸術の鑑賞活動
美術館・博物館での展示鑑賞、演劇・音楽・舞踊・映画などの公演や作品を観たり聴いたりして楽しむこと。

2　鑑賞以外の文化芸術活動
自ら芸術作品を創作したり、演劇や音楽などに出演したり、絵画や楽器などを習ったり、演劇・美術・音楽等の体験活動など、主体的に文化芸術に関わる活動。

上記2つを含む活動を指します

ここからは問40で「6　参加希望はあるが、参加していない」か「7　参加希望はない」と回答された方にお聞きします。

問40-1　その理由をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

1　興味を感じる活動が少ない
2　参加できるような活動が少ない
3　お知らせや案内等を知らない
4　付き添ってくれる人がいない
5　電車やバス等での移動が困難である
6　障害に対する理解や配慮が足りない
7　障害等が重く、活動が困難である
8　建物や施設のバリアフリーが不十分で、利用が困難である
9　経済的理由により、活動が困難である
10　その他（　　）

7 外出や住まいについて

問41　あなたは、どのくらいの頻度で外出していますか。（○はひとつ）

1　ほぼ毎日
2　週に3～4回
3　週に1～2回
4　月に1～3回
5　あまり外出しない

問42　あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　歩道の段差や傾斜
2　建物の段差や階段
3　バスやタクシーの利用
4　駅構内の移動や乗り換え
5　券売機の利用
6　トイレの利用
7　歩道がせまい・障害物がある
8　疲れたときの休憩場所
9　自動車・自転車に危険を感じる
10　スマホのながら歩きに危険を感じる
11　駅のホームで線路への転落の危険を感じる
12　外出するのに支援が必要である
13　外出したくても介助者がいない
14　周囲の人の理解や配慮がない
15　その他（　　）
16　特にない

問43　住まいに関してどのような支援を必要としていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　住宅改造費用の貸付・助成
2　家具転倒防止や耐震化など災害対策
3　公営住宅への優先入居の拡充
4　民間賃貸住宅の入居支援
5　グループホームなどの整備
6　住居探しのサポート体制の整備
7　その他（　　）
8　特にない

8 権利擁護・差別解消について

問44　あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮※4の不提供を感じる場面をお聞かせください。（○はひとつ）

1　家
2　職場
3　通所施設
4　お店などの民間事業者
5　住んでいる地域や住民
6　公共施設
7　区役所などの行政機関
8　医療機関
9　交通機関
10　保育園、幼稚園、学校
11　その他（　　）
12　特に感じたことはない

※4 合理的配慮の提供
行政機関又は民間事業者は、障害者から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合に、その実施に伴う負担が過重でないときは、社会的障壁（バリア）を除去するための必要かつ合理的な取組を行わなければなりません。障害者差別解消法が、令和3年5月に改正され、これまで努力義務だった民間事業者の合理的配慮の提供が令和6年4月1日から法的義務になりました。

問45　あなたが、これまでに文京区内で感じた差別や合理的配慮の不提供についての内容及び、求める対応をお聞かせください。（ご自由にお書きください。）

問46　社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

1　合理的配慮に関する講演・セミナーの開催
2　合理的配慮事例の周知・啓発
3　筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応
4　バリアフリー化や情報保障のための機器の導入
5　障害当事者等を講師とした研修・講演
6　民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
7　その他（　　）
8　特にない

問47　障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

1　障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備
2　障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信
3　障害者差別解消法※5に係るセミナー・研修等の開催
4　障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行
5　障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催
6　地域や学校等で交流の機会を増やすこと
7　地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
8　学校や生涯学習での障害に関する教育や情報
9　障害についての講演会や疑似体験会の開催
10　障害者の一般就労の促進
11　ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発
12　その他（　　）
13　特にない

※5 障害者差別解消法

障害者差別解消法は、すべての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を社会において推進することを目的に制定されました。

○不当な差別的取扱いの禁止

不当な差別的取扱いとは、障害を理由として、正当な理由なく、サービスの提供を拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような行為をいい、行政機関又は民間事業者は、正当な理由なく、障害者の権利利益を侵害してはなりません。

9 災害対策について

問48　あなたやご家族の方が、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1　災害の情報を知る方法がわからない
2　助けを求める方法がわからない
3　避難所の場所がわからない
4　近くに助けてくれる人がいない
5　一人では避難できない
6　避難所の設備が自分の障害に対応しているか不安
7　避難所で必要な支援が受けられるか不安
8　避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい
9　在宅避難で必要な支援が受けられるか不安
10　薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安
11　医療機器の電源確保が心配
12　その他（　　）
13　特にない

問49　あなたやご家族の方は、災害に対してどのような備えをしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1　日頃から家族で災害時の対応を話し合っている
2　非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日～1週間）をしている
3　疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている
4　近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている
5　文京区の「避難行動要支援者名簿」※6に登録している
6　家具に転倒防止器具を取り付けている
7　住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている
8　区民防災組織（町会・自治会）や消防団等に参加している
9　地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している
10　その他（　　）
11　特にない

※6 避難行動要支援者名簿
災害時に自力で避難することが困難な方（災害時要配慮者）を発災時に地域全体で支援するため、一定の条件のもと、区が指定又は本人等の申請に基づき区が整備する名簿です。

10 自由意見

問50　区の障害児（者）施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※お書きいただいたご意見・ご要望に、個別にお答えすることはできかねますが、計画策定の際の参考にさせていただきます。

質問は以上で終わりです。

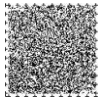
この度は調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

次のページ以降は、問25に関する資料となります。

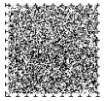
令和7年10月31日（金）までに、同封の「返信用封筒」に、ご回答いただいたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。
封筒に切手を貼る必要はありません。
また、個人情報保護の観点から、調査票や封筒に、ご住所お名前をお書きにならないよう、お願いします。

資料【障害児通所支援等サービスの内容（問25）】

サービス名	サービスの内容
(1)児童福祉法に基づくサービス	
1．児童発達支援	日常生活の基本的な動作の習得、集団生活への適応支援訓練等を行います。
2．放課後等デイサービス	小学校から中学、高校までの学校に通う障害児を対象に、生活能力の向上のために必要な支援、社会との交流の促進等を行います。
3．居宅訪問型児童発達支援	外出することが難しい重度の児童の居宅を訪問し、日常生活の基本的な動作の習得、集団生活への適応支援等を行います。
4．保育所等訪問支援	保育所等に通う障害児に、その施設を訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援を行います。
5．障害児入所支援	入所施設に入所する児童に対して、保護、日常生活の指導、知識技能の付与等を行います。
(2)日常生活のサービス	
1．補装具費の支給等	障害者（児）の身体機能を補完・代替する補装具を製作・修理等する場合、補装具費を支給します。
2．短期保護	常時介護を必要とする障害者・児の家族が、疾病・事故・冠婚葬祭等の理由で介護が困難なとき、家族に代わって保護を行います。
3．医療的ケア児在宅レスパイト事業	医療的ケア児の健康保持や、介護する同居の保護者等の介護負担の軽減を図るため、自宅に看護師等を派遣し、医療的ケア等を行います。
4．福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	外出が難しい人が積極的に社会参加できるように、福祉タクシー利用券の交付又は自動車等の燃料費の助成を行います。



サービス名	サービスの内容
(3)障害福祉サービス	
1．居宅介護	自宅で入浴・排せつ、食事の介護、通院の介助等を行います。
2．重度訪問介護	重い障害があり、常に介護を必要とする人に、自宅での入浴・排せつ、食事の介護、外出時における移動支援等を総合的に行います。
3．同行援護	視覚障害のある人に、外出時において、移動の援護等を行います。
4．行動援護	知的障害や精神障害により、一人で行動することが難しい人に対して、移動中の介護や危険を避けるための支援を行います。
5．重度障害者等包括支援	介護の必要性がとても高い人に、居宅介護等の複数のサービスを包括的に行います。
6．短期入所（ショートステイ）	自宅で介護する人が病気の場合や休養等のために、短期間、夜間も含め施設で入浴、排せつ、食事の介護等を行います。
(4)地域生活支援事業	
1．相談支援事業	障害者（児）の日常生活に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他各種福祉サービスの利用支援等を行います。
2．移動支援事業	外出時に移動に関する支援が必要な障害者に対し、ガイドヘルパーなどによる移動の支援を行います。
3．日常生活用具給付事業	重度障害者等に対し、日常生活に必要な用具や住宅改修等の給付を行います。
4．日中短期入所事業	短期入所施設で、宿泊を伴わない日中に、入浴・排せつ、食事等の介護や日常生活の支援を行います。
5．地域活動支援センター事業	障害者等に対し、創作的活動や社会との交流の機会等を提供します。



サービス名	サービスの内容
(5)相談支援	
1．障害児相談支援（障害児支援利用援助・継続障害児支援利用援助）	障害児に関する様々な相談に応じ、必要な情報の提供や各機関との連絡調整などを行うとともに、障害児の通所サービスの内容等を定めた障害児支援利用計画等の作成を行います。
2．地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）	施設や病院に入所・入院している障害者等に対して、地域生活に移行するための支援や、居宅で単身生活する障害者の相談等に対応します。
3．計画相談支援（サービス利用支援・継続サービス利用支援）	障害福祉サービス等の利用を希望する障害者について、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとに計画の検証等を行います。
(6)その他	
1．障害者（児）歯科診療	口腔衛生の向上を図るため、歯科治療や各種相談を行います。
2．在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業	歯科医院への通院が難しい在宅療養者等に、歯科医師や歯科衛生士が自宅に訪問し、歯科健診・予防相談指導を行い、口腔衛生の向上を図ります。
3．子どもショートステイ	保護者の方が病気や出産、就労等の理由により、一時的にお子さんを自宅で保育することが困難になった場合に、文京総合福祉センターの専用室で、お子さんをお預かりする事業です。

施設に入所している方

区民の生活のニーズに関する調査

日頃から、文京区の福祉行政にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

文京区では、皆様の生活実態や意向を把握して、福祉施策を計画的に進めていくための基礎資料とするために、調査を実施します。この調査は、身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方の中から、文京区が支給決定した施設入所支援及び療養介護のサービスをご利用中の18歳以上の方を対象者とさせていただきました。

ご回答いただいた内容は、統計的に集計・分析して、報告書として発行するとともに文京区公式ホームページでもお知らせします。調査の結果については障害者・児計画（令和9年度から令和11年度まで）策定の参考にさせていただきます。

無記名アンケートの方式でご回答いただきますので、個人が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年10月

文京区長　成澤　廣修

～インターネットでもご回答いただけます～

・スマートフォン等で以下のQRコードを読み取っていただくか、パソコンの場合はURLを入力し、インターネット上のアンケートフォームにアクセスしてください。
・最初に以下の「パスワード」を入力してください。
・画面の指示に従い、アンケートフォームに回答を選択・入力し、送信してください。

↓QRコード、URL↓　　↓ID↓　　↓パスワード↓

bunkyo831

https://www.

・郵送とインターネットのいずれかを選択してご回答ください。

郵送の場合

・**令和7年10月31日(金)までに**、ポストに投函してください。
・同封の「返信用封筒」に、回答を書き入れたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。　切手を貼る必要はありません。

【記入済調査票送付先】

〒112－8555　文京区春日1－16－21　文京シビックセンター9階
文京区役所障害福祉課障害福祉係

インターネットの場合

・**令和7年10月31日(金)24時までに**、回答を送信してください。

・回答時間の目安は20分程度です。
・ブラウザの×ボタンで閉じると回答内容が保存されません。また、しばらくの間（30分程度）再ログインができなくなります。その場合は、しばらく（30分程度）経ってからログインし直して、回答してください。
・回答を中断するには必ず「次のページ」を押して移動してから、左上にある「MENU」の「途中終了」を押してください。（「途中終了」の場合、前ページの回答分までしか保存されません。現在のページの回答は保存されませんので、ご注意ください。
・一定時間（2時間程度）操作がないと、自動的にログアウトします。その際は再度ログインしてご回答ください。状況によっては回答内容が保存されていない場合もありますので、ご了承ください。
・インターネット調査にかかる通信料は利用者のご負担になりますのでご了承ください。

【調査票に関する問い合わせ先】

この調査は、集計及び分析を(株)アイアールエスに委託して実施しています。調査票の内容に関して不明な点等がありましたら、お手数ですが以下までお問い合わせください。

(株)アイアールエス　担当：緒方、金沢
電話：03(3357)7181、FAX：03(3357)7180
メールアドレス: info@irs-tokyo.co.jp
受付時間：平日(月～金)　午前10時～午後6時

【回答に支援が必要な場合の問い合わせ先】

回答の際の支援を行います。ご希望の方は以下までお問い合わせください。

文京区障害者基幹相談支援センター
住所：文京区小日向2－16－15 文京総合福祉センター1階
Tel 03(5940)2903、Fax 03(5940)2904

社会福祉法人文京槻の会(は～と・ピア)
住所：文京区大塚4－21－8
Tel 03(3943)4300、Fax 03(3943)4330

社会福祉法人文京槻の会(は～と・ピア2)
住所：文京区小石川4－4－5
Tel 03(6801)8571、Fax 03(6801)8581

本郷福祉センター(若駒の里)
住所：文京区本駒込4－35－15 文京区勤労福祉会館2階
Tel 03(3823)8091、Fax 03(3823)8092

社会福祉法人武蔵野会(リアン文京)
住所：文京区小日向2－16－15
Tel 03(5940)2822、Fax 03(5940)2823

文京区立大塚福祉作業所
住所：文京区大塚4－50－1
Tel 03(3946)5601、Fax 03(3946)2667

文京区立小石川福祉作業所
住所：文京区小石川3－30－6
Tel 03(3811)1431、Fax 03(5689)4523

<<<<<<<< 記入上のお願い >>>>>>>>

- 回答は、この調査票に直接書いてください。
- 質問によっては、一部の方のみに回答していただくものもあります。
- 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
- 回答が「その他」になる場合は、(　　)内にその内容を書いてください。
  (　　)内に書ききれない場合は余白に書いてください。
- 回答したくない質問は答えずに、次の質問に進んでください。
- この調査票には、名前を書かないでください。

ここから調査がはじまります

この調査票で、「あなた」とあるのは、『あて名ご本人』のことです。

できるかぎりあて名ご本人がお答えください。あて名ご本人が回答できない場合は、ご家族や施設の職員の方が、あて名ご本人の立場で、現在の状況で回答してください。

問１　この調査票に回答していただく方はどなたですか。（○はひとつ）

1　あて名ご本人
2　ご家族の方
3　施設の職員
4　成年後見人・保佐人・補助人
5　その他（　　）

１　ご本人について

問２　あなたの年齢をお聞きします。**令和7年4月1日現在の満年齢**をお書きください。

　　歳

問３　**あなたご本人の**年収額をお聞きします。税金等を差し引く前の額でお答えください。（○はひとつ）

1　収入はない
2　80万円未満
3　80万円以上～150万円未満
4　150万円以上～250万円未満
5　250万円以上～500万円未満
6　500万円以上～1,000万円未満
7　1,000万円以上

問４　あなたご本人の主な収入の内訳をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

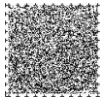
1　年金（障害基礎年金など）
2　工賃（通所施設・福祉作業所などに通所）
3　生活保護費
4　親族の扶養または援助
5　その他（　　）

2　障害の状況について

問５　あなたには、次の障害等がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　肢体不自由（上肢・下肢・体幹・脳性麻痺・移動機能障害等）
2　音声・言語・そしゃく機能障害
3　視覚障害
4　聴覚・平衡機能障害
5　内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう・直腸、小腸、免疫機能等）
6　知的障害
7　発達障害　**→7に○を付けた方は問5－1へ**
8　精神障害
9　高次脳機能障害
10　難病（特定疾病）　**→10に○を付けた方は問5－2へ**
11　その他（　　）

→上記7・10のどちらにも当てはまらない方は、問6へ



ここからは問5で「7　発達障害」と回答された方にお聞きします。

問５－１　発達障害の診断名をお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）

1　自閉症（自閉スペクトラム症）
2　注意欠陥・多動性障害（注意欠如・多動症）
3　学習障害（限局性学習症）
4　その他の発達障害（　　）
5　わからない

ここからは問5で「10　難病（特定疾病）」と回答された方にお聞きします。

問５－２　病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

病名（　　）

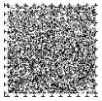
ここからは全ての方にお聞きします。

問６　あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。（あてはまるものすべてに○）

1　身体障害者手帳 → 1　1級　2　2級　3　3級　4　4級　5　5級　6　6級
2　愛の手帳 → 1　1度　2　2度　3　3度　4　4度
3　精神障害者保健福祉手帳 → 1　1級　2　2級　3　3級
4　これらの手帳は持っていない

問７　あなたの障害や心身の不調について、あなたやご家族の方などが最初に気づいた時期をお聞きします。（○はひとつ）

1　生まれたとき
2　0～5歳
3　6～17歳
4　18～29歳
5　30～39歳
6　40～49歳
7　50～59歳
8　60～64歳
9　65～69歳
10　70～74歳
11　75歳以上



問８　日常生活の中で、特別な支援や配慮を必要※1とする、行動面に関する課題がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　自傷
2　他害
3　こだわり
4　もの壊し
5　睡眠の乱れ
6　異食
7　多動
8　その他（　　）
9　特になし

※1 特別な支援や配慮の必要性
この調査では、選択肢にあるような行動が著しく高い頻度で起こることから、日常的に特別な支援がなければ本人や周囲の人の生活に支障が出てしまう程度のことを指します（回答者の主観でお答えください）。

3 施設入所について

問９　あなたが現在入所している施設のある地域をお聞きします。（○はひとつ）

1　文京区内
2　23区内（文京区を除く）
3　東京都内（23区内を除く）
4　関東（東京都を除く）
5　中部
6　東北
7　近畿
8　四国
9　その他（　　）

問10　あなたが現在の施設に入所してからの年数をお聞きします。（○はひとつ）

1　１年未満
2　１年以上～３年未満
3　３年以上～５年未満
4　５年以上～10年未満
5　10年以上～20年未満
6　20年以上～30年未満
7　30年以上
8　わからない

問11　あなたが現在の施設に入所することに決めた理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1　家族から自立するため
2　リハビリや生活面の訓練を受けるため
3　生活が保障され安心感があるため
4　家族による介助が難しくなったため
5　常時介助が必要なため
6　医療的なケアが必要なため
7　住まいに支障があったため
8　在宅福祉サービスが不十分なため
9　収入が不十分だったため
10　家族などに勧められたため
11　他施設などに勧められたため
12　日々の生活に見通しが立ち落ち着いて過ごせるため
13　刺激や変化が苦手なため、静かな環境で過ごすのを希望したため
14　その他（　　）
15　わからない

4 施設での生活について

問12　あなたが一時、出身世帯（施設に入る前に住んでいた家）に帰るときなどに困ることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　帰る手段がない、または移動が難しい
2　帰るときの介助者がいない
3　交通費などにお金がかかる
4　出身世帯の建物が障害に対応していない
5　出身世帯では十分な介助が受けられない
6　帰ったときは一人でいることが多い
7　家族や親族がいない
8　緊急の場合が不安である
9　その他（　　）
10　特に困ることはない

問13　あなたは、施設での生活に満足していますか。（○はひとつ）

1　非常に満足している
2　やや満足している
3　やや不満である
4　非常に不満である
5　わからない

問14　あなたが現在の暮らしの中で、困ることや不安に感じていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　身の回りのことが自分では十分にできない
2　健康状態に不安がある
3　プライバシーが十分に保たれない
4　1日の生活のリズムが自由にならない
5　施設の設備に不満がある
6　仕事や訓練に不満がある
7　外出の機会が少ない
8　施設の職員の対応に不満がある
9　人間関係がうまく築けない
10　余暇活動をうまく過ごせない
11　困ったとき相談する相手がいない
12　自分の思いや考えをうまく伝えられない
13　家族とあまり会えない
14　将来の生活に何となく不安を感じる
15　その他（　　）
16　特に困ることはない

問15　あなたが必要とする医療的ケア※2がありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　施設入所前から今に至るまで医療的ケアがある
2　施設に入所した当時は必要なかったが、今は必要な医療的ケアがある
3　特にない

→上記1・2に○をつけた方は、問16へ
→問17へ

※2 医療的ケア
「医療的ケア」とは、経管栄養、たんの吸引などの日常生活に不可欠な生活援助行為であり、長期にわたり継続的に必要とされるケアです。

ここからは問15で「必要な医療的ケアがある（1～2）」と回答された方にお聞きします。

問16　あなたが必要とする医療的ケアをお聞きします。
（あてはまるものすべてに○）

1　吸引
2　吸入・ネブライザー
3　経管栄養
4　中心静脈栄養
5　導尿
6　酸素療法
7　鼻咽頭エアウェイ
8　パルスオキシメーター
9　気管切開部の管理
10　人工呼吸器の管理
11　その他（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問17　あなたは、休日など時間に余裕があるとき、主にどのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1　趣味や学習活動、習い事
2　スポーツ・運動
3　ボランティア活動
4　友人・知人と会う
5　音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞
6　買い物
7　飲食店に行く
8　読書
9　旅行
10　家でくつろぐ
11　施設でくつろぐ
12　地域の行事への参加や交流
13　近所の散歩
14　その他（　　）
15　特に決まった予定はない

問18　あなたはどのくらいの頻度で外出していますか（日中活動先での外出も含みます）。（○はひとつ）

1　ほぼ毎日
2　週に3～4回
3　週に1～2回
4　月に1～3回
5　あまり外出しない

問19　あなたは過去１年間、どのくらいの頻度で文化芸術活動※3へ参加しましたか。（○はひとつ）

1　週に３日以上
2　週に１～２日
3　月に１～３日
4　３か月に１～２日
5　年１～３日
6　参加希望はあるが、参加していない
7　参加希望はない
8　わからない

※3 文化芸術活動

1 文化芸術の鑑賞活動
美術館・博物館での展示鑑賞、演劇・音楽・舞踊・映画などの公演や作品を観たり聴いたりして楽しむこと。

2 鑑賞以外の文化芸術活動
自ら芸術作品を創作したり、演劇や音楽などに出演したり、絵画や楽器などを習ったり、演劇・美術・音楽等の体験活動など、主体的に文化芸術に関わる活動。

上記2つを含む活動を指します

ここからは問19で「6　参加希望はあるが、参加していない」か「7　参加希望はない」と回答された方にお聞きします。

問19-1　その理由をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

1　興味を感じる活動が少ない
2　参加できるような活動が少ない
3　お知らせや案内等を知らない
4　付き添ってくれる人がいない
5　電車やバス等での移動が困難である
6　障害に対する理解や配慮が足りない
7　障害等が重く、活動が困難である
8　建物や施設のバリアフリーが不十分で、利用が困難である
9　経済的理由により、活動が困難である
10　その他（　　）

5　今後の暮らし方について

問20　あなたは今後、どのような生活を希望しますか。（○はひとつ）

1　現在の施設で生活したい　→1に○を付けた方は問20-1へ
2　施設を退所して、家族や親族と生活したい
3　施設を退所して、独立して生活したい
4　施設を退所して、グループホームなどで生活したい　→2～4に○を付けた方は問20-2～問20-4へ
5　別の施設で暮らしたい
6　その他（　　）
7　わからない　→問21へ

ここからは問20で「1　現在の施設で生活したい」と回答された方にお聞きします。

問20-1　現在の施設での生活を続けたい理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1　入所者や施設職員との関係が良好なため
2　環境や日中活動の内容等に満足している
3　今の施設で技術や能力を身につけたい
4　すぐに入所できるグループホームなどがない
5　在宅サービスが充実していない
6　自宅の構造が障害に対応していない
7　健康面などで不安がある
8　経済的に難しい
9　家族の受け入れ体制が整っていない
10　地域で友人関係が持てるか不安がある
11　その他（　　）
12　特に理由はない

ここからは問20で「施設を退所したい（2～4）」と回答された方にお聞きします。

問20-2　地域でどのような暮らし方をしたいと思いますか。（○はひとつ）

1　企業などで一般就労したい
2　作業所などで福祉的就労をしたい
3　福祉的就労以外の通所施設に通いたい
4　就労や通所はしないで暮らしたい
5　その他（　　）
6　わからない

問20-3　退所後はどの地域で暮らしたいと思いますか。（○はひとつ）

1　文京区内
2　現在入所している施設の近く
3　その他の地域（　　）
4　わからない

問20-4　退所後に暮らす地域にのぞむことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1　医療機関が多くある
2　昼間に通所する施設がある
3　住環境が良い
4　交通の便が良い
5　長年住みなれた地域である
6　気軽に相談できる相談機関がある
7　現在の施設から支援を受けられる
8　家族などが住んでいる
9　在宅サービスが充実している
10　その他（　　）
11　特にない

ここからは全ての方にお聞きします。

問21　障害者が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。（○は５つまで））

1　障害に対する理解の促進
2　医療やリハビリテーションの充実
3　幼少期・学齢期からの教育・育成の充実
4　働くための訓練・就労に向けた支援の充実
5　仕事を継続するための支援の充実
6　身近な地域で相談できる場の充実
7　訪問系サービス（居宅介護・重度訪問介護・同行援護等）の充実
8　日中活動系サービス（生活介護・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援等）の充実
9　短期入所（ショートステイ）の整備
10　意思疎通支援（手話通訳者・要約筆記者派遣）の充実
11　福祉機器・補装具などの充実
12　グループホームの整備
13　入所施設（障害者支援施設等）の整備
14　障害者向けの住まいの確保
15　居住支援の充実
16　建物・道路等のバリアフリー化
17　当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
18　文化芸術活動の充実
19　趣味やスポーツ活動の充実
20　財産管理や見守り等の支援の充実
21　経済的支援の充実
22　災害時支援の充実
23　地域交流の場の充実
24　福祉・医療・介護との連携の充実
25　福祉と教育の連携の充実
26　その他（　　）
27　特にない

6 相談や福祉の情報について

問22　あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。
（あてはまるものすべてに○）

1 家族や親族
2 施設の職員
3 施設の相談窓口（第三者委員会等）
4 友人・知人
5 ピアサポーター
6 卒業した学校の教職員
7 障害等の当事者会や家族の会
8 相談支援事業所等の相談支援専門員
9 医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）
10 官公庁の窓口（区の障害福祉課等）
11 保健サービスセンター
12 障害者基幹相談支援センター
13 地域生活支援拠点（区の生活あんしん拠点等）
14 社会福祉協議会
15 インターネット等の情報
16 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）
17 どこに相談すればいいかわからない
18 その他（　　）
19 相談する相手はいない

問23　あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1 家族や親族
2 相談支援専門員
3 友人・知人
4 官公庁の広報紙
5 官公庁のホームページ
6 官公庁の窓口（区の障害福祉課等）
7 保健サービスセンター
8 テレビ・ラジオ
9 インターネット
10 SNS
11 新聞・書籍
12 障害等の当事者会や家族の会
13 医療機関
14 施設の職員
15 その他（　　）
16 特にない

7 権利擁護・差別解消について

問24　成年後見制度という言葉について聞いたことがありますか。（○はひとつ）

1 「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある
2 「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある
3 「成年後見制度」について内容も言葉も知らない

ここからは問24で「1「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

問24-1　成年後見制度について知っていることをお答え下さい。
（あてはまるものすべてに○）

1 「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である
2 「法定後見制度」は、判断能力が不十分になってから利用する成年後見制度である
3 「任意後見制度」は、将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく成年後見制度である
4 その他（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問25　福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）という言葉について聞いたことがありますか。（○はひとつ）

1 「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある
2 「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」という言葉だけは聞いたことがある
3 「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」について内容も言葉も知らない

ここからは問25で「1「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

問25-1　福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）について知っていることをお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）

1　「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである
2　「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」の内容として、「福祉サービスの利用援助」、「日常的金銭管理サービス」、「重要書類等預かりサービス」がある
3　「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）」は、社会福祉協議会と契約を結ぶことで受けられる支援である
4　その他（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問26　あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮※4の不提供を感じる場面をお聞かせください。（○はひとつ）

1　家
2　職場
3　通所施設・入所施設
4　お店などの民間事業者
5　住んでいる地域や住民
6　公共施設
7　区役所などの行政機関
8　医療機関
9　交通機関
10　学校
11　その他（　　）
12　特に感じたことはない

※4 合理的配慮の提供
行政機関又は民間事業者は、障害者から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合に、その実施に伴う負担が過重でないときは、社会的障壁（バリア）を除去するための必要かつ合理的な取組を行わなければなりません。障害者差別解消法が、令和3年5月に改正され、これまで努力義務だった民間事業者の合理的配慮の提供が令和6年4月1日から法的義務になりました。

問27　あなたが、これまでに文京区内で感じた差別や合理的配慮の不提供についての内容及び、求める対応をお聞かせください。（ご自由にお書きください。）

問28　社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

1　合理的配慮に関する講演・セミナーの開催
2　合理的配慮事例の周知・啓発
3　筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応
4　バリアフリー化や情報保障のための機器の導入
5　障害当事者等を講師とした研修・講演
6　民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
7　その他（　　）
8　特にない

問29　障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

1　障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備
2　障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信
3　障害者差別解消法※5に係るセミナー・研修等の開催
4　障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行
5　障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催
6　地域や学校等で交流の機会を増やすこと
7　地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
8　学校や生涯学習での障害に関する教育や情報
9　障害についての講演会や疑似体験会の開催
10　障害者の一般就労の促進
11　ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発
12　その他（　　）
13　特にない

※5 障害者差別解消法

障害者差別解消法は、すべての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を社会において推進することを目的に制定されました。

○不当な差別的取扱いの禁止

不当な差別的取扱いとは、障害を理由として、正当な理由なく、サービスの提供を拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような行為をいい、行政機関又は民間事業者は、正当な理由なく、障害者の権利利益を侵害してはなりません。

9 自由意見

問30　区の障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※お書きいただいたご意見・ご要望に、個別にお答えすることはできかねますが、計画策定の際の参考にさせていただきます。

質問は以上で終わりです。

この度は調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

<u>令和7年10月31日（金）まで</u>に、同封の「返信用封筒」に、ご回答いただいたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。
封筒に切手を貼る必要はありません。
また、個人情報保護の観点から、調査票や封筒に、ご住所お名前をお書きにならないよう、お願いします。

サービス事業所の方

事業運営状況・課題等に関する調査

日頃から、文京区の福祉行政にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

文京区では、事業運営状況や課題を把握して、福祉施策を計画的に進めていくための基礎資料とするために、調査を実施します。

この調査票は、文京区内の指定障害福祉サービス、指定障害児通所支援等の事業所を対象としています。

ご回答いただいた内容は、統計的に集計・分析して、報告書として発行するとともに文京区公式ホームページでもお知らせします。調査の結果については障害者・児計画（令和9年度から令和11年度まで）策定の参考にさせていただきます。

任意で事業所名等記入をお願いしていますが、アンケートの回答内容について目的以外に利用することはありません。この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年10月

文京区長　成澤　廣修

～インターネットでもご回答いただけます～

・スマートフォン等で以下のQRコードを読み取っていただくか、パソコンの場合はURLを入力し、インターネット上のアンケートフォームにアクセスしてください。
・最初に以下の「パスワード」を入力してください。
・画面の指示に従い、アンケートフォームに回答を選択・入力し、送信してください。

↓QRコード、URL↓　　↓ID↓　　↓パスワード↓

bunkyo167

https://www.

・**郵送**と**インターネット**の**いずれか**を選択してご回答ください。

郵送の場合

・**令和7年 10 月 31 日(金)までに**、ポストに投函してください。
・同封の「返信用封筒」に、回答を書き入れたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。 切手を貼る必要はありません。

【記入済調査票送付先】

〒112－8555　文京区春日１－16－21　文京シビックセンター9 階
文京区役所障害福祉課障害福祉係

インターネットの場合

・**令和7年 10 月 31 日(金)24時までに**、回答を送信してください。
・回答時間の目安は 20 分程度です。
・ブラウザの×ボタンで閉じると回答内容が保存されません。また、しばらくの間（30 分程度）再ログインができなくなります。その場合は、しばらく（30 分程度）経ってからログインし直して、回答してください。
・回答を中断するには必ず「次のページ」を押して移動してから、左上にある「MENU」の「途中終了」を押してください。（「途中終了」の場合、前ページの回答分までしか保存されません。現在のページの回答は保存されませんので、ご注意ください。
・一定時間（2時間程度）操作がないと、自動的にログアウトします。その際は再度ログインしてご回答ください。状況によっては回答内容が保存されていない場合もありますので、ご了承ください。
・インターネット調査にかかる通信料は利用者のご負担になりますのでご了承ください。

【調査票に関する問い合わせ先】

この調査は、集計及び分析を（株）アイアールエスに委託して実施しています。調査票の内容に関して不明な点等がありましたら、お手数ですが以下までお問い合わせください。

（株）アイアールエス　担当：緒方、金沢
電話：03（3357）7181、FAX：03（3357）7180
メールアドレス：info@irs-tokyo.co.jp
受付時間：平日（月～金）　午前 10 時～午後 6 時

<<<<<<<<　記入の際の注意　>>>>>>>>

● 回答は、この調査票に直接書いてください。
● 質問によっては、一部の方のみに回答していただくものもあります。
● 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
● 回答が「その他」になる場合は、（　　）内にその内容を書いてください。
（　　）内に書ききれない場合は余白に書いてください。

差し支えなければ、事業所名とご担当者様のお名前、連絡先の電話番号をお書き下さい。

事業所名	
ご担当者様	
電話番号	

※ 空欄のままでもかまいません。

1 事業運営について

問１　貴事業所の経営主体をお聞きします。（○はひとつ）

1　社会福祉法人
2　医療法人
3　社団法人・財団法人
4　株式会社・有限会社
5　特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）
6　協同組合
7　合同会社・合資会社
8　その他（　　）

問２　このアンケートに回答される方の役職をお聞きします。（○はひとつ）

1　経営者・代表
2　管理者
3　サービス管理責任者
4　児童発達支援管理責任者
5　生活支援員
6　職業指導員
7　相談支援専門員
8　事務職員
9　その他（　　）

問３　貴事業所の開業年をお聞きします。

昭和　・　平成　・　令和　　年　（西暦　　年）

問４　貴事業所で提供している障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービス等をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

※ 介護保険サービスは含めないでください。

1　居宅介護
2　重度訪問介護
3　行動援護
4　重度障害者等包括支援
5　同行援護
6　短期入所
7　生活介護
8　療養介護
9　自立訓練（機能訓練・生活訓練）
10　自立生活援助
11　就労移行支援
12　就労継続支援Ａ型
13　就労継続支援Ｂ型
14　就労定着支援
15　就労選択支援
16　共同生活援助（グループホーム）
17　施設入所支援
18　地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）
19　計画相談支援（ｻｰﾋﾞｽ等利用計画・ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ）
20　地域活動支援センター
21　移動支援
22　日中一時支援
23　児童発達支援
24　居宅訪問型児童発達支援
25　放課後等デイサービス
26　保育所等訪問支援
27　障害児相談支援
28　その他（　　）

問５　貴事業所が事業を展開しているエリア（サービス利用対象者がお住まいの範囲）をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1　文京区内の一部（地域　　）
2　文京区内全域
3　23区内（地域　　）
4　東京都内（地域　　）
5　首都圏（地域　　）
6　その他（　　）

問６　貴事業所でサービスを提供している利用者数をお聞きします。
障害別にお答えください。（令和７年 10 月１日時点の人数）
重複障害の方については主たる障害についてご回答ください。

障害の種類	人　数
身体障害	人
知的障害	人
精神障害（発達障害を含まない）	人
発達障害	人
難病	人

問７　令和６年度の事業の収支状況は、令和５年度と比べどうでしたか。
（○はひとつ）

【収入】

１　増加した（　　％）　　２　減少した（　　％）　　３　変わらない

【支出】

１　増加した（　　％）　　２　減少した（　　％）　　３　変わらない

問７－１　**問7の収入状況を受けてご回答ください。**
増収または減収の理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

【増収の理由】

１　サービス報酬の改定
２　利用者が増加した
３　ヘルパー等の人件費を下げた
４　利用者の負担が軽減された
５　事務経費等必要経費を削減した
６　補助金が増額された
７　平均工賃が上がった
８　その他（　　）

【減収の理由】

１　サービス報酬の改定
２　利用者が減少した
３　ヘルパー等の人件費を上げた
４　職員を増員した
５　事務経費等必要経費が増加した
６　補助金が減額された
７　平均工賃が下がった
８　その他（　　）

問８　貴事業所を経営していく上で何を重視していますか。
（あてはまるものすべてに○）

１　職員の確保
２　職員の待遇改善
３　職員の資質向上
４　事務作業量の軽減
５　施設・設備の改善
６　制度改正などへの対応
７　収益の確保
８　運転資金の調達
９　他の事業者との連携
10　行政との連携
11　地域住民等の理解
12　医療的ケアへの対応
13　その他
（　　）

２　職員について

問９　**貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。**
令和７年 10 月１日現在の職員数をお聞きします。

【職員数】

		人　数
総数		人
内訳	〔常勤職員〕	人
	〔非常勤職員〕	人
	〔その他〕	人

問 10　**貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。**
令和７年 10 月１日現在の職種別職員数をお聞きします。

【職種別職員数】

１　生活支援員　〔　　〕人	７　職業指導員　〔　　〕人
２　介護職員　〔　　〕人	８　児童指導員　〔　　〕人
３　看護師　〔　　〕人	９　保育士　〔　　〕人
４　栄養士　〔　　〕人	10　相談支援専門員　〔　　〕人
５　理学療法士　〔　　〕人	11　事務職員　〔　　〕人
６　作業療法士　〔　　〕人	12　その他　〔　　〕人

問 11　**貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。**
令和７年 10 月１日現在の経験年数別職員数をお聞きします。

【職種別職員数】

１　６か月未満	〔　　〕人	４　３年以上５年未満	〔　　〕人
２　６か月以上１年未満	〔　　〕人	５　５年以上 10 年未満	〔　　〕人
３　１年以上３年未満	〔　　〕人	６　10 年以上	〔　　〕人

問 12　**貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。**
業務量に対して、職員の充足状況（人手）はいかがですか。
（〇はひとつ）

１　大変不足している
２　不足している
３　やや不足している
４　適当である
５　過剰である

ここからは問 12 で「不足している（１～３）」と回答された方にお聞きします。

問 12-1　不足している職員の職種は何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

１　生活支援員
２　介護職員
３　看護師
４　栄養士
５　理学療法士
６　作業療法士
７　職業指導員
８　児童指導員
９　保育士
10　相談支援専門員
11　事務職員
12　その他
（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問 13　職員について、令和６年度中の退職者数をお聞きします。

【退職者数】

		人　数
総数		人
内訳	〔常勤職員〕	人
	〔非常勤職員〕	人
	〔その他〕	人

※1　運営法人の採用者であり、当該事業所に配属又は異動により転出した者を除く。
※2　１年未満の有期雇用契約により、採用又は退職した者を除く。

問 14　貴事業所では、**人材確保・人材育成**のための取り組みをしていますか。
（それぞれにあてはまるものすべてに〇）

【人材確保の取り組み】

１　勤務条件（夜勤回数、勤務時間など）の改善
２　報酬の改善
３　福利厚生（育休、介護休暇）の改善
４　健康診断、健康管理の充実
５　募集・採用方法の充実
６　高校・専門学校・大学等を通じた募集
７　ハローワークを通じた募集
８　人材派遣会社を通じた募集
９　インターネット人材募集サービスを通じた募集
10　高校・専門学校・大学等からの実習受け入れ
11　知人経由・人づてで探した
12　その他（　　）
13　特に取り組んでいない

【人材育成の取り組み】

１　資格取得のための休暇取得の支援や金銭的な支援
２　外部研修参加のための休暇取得や金銭的な支援
３　事業所内での研修の実施
４　OJT の実施
５　自立支援協議会の専門部会等への参加
６　教育・研修計画を立てる
７　能力の向上が認められた者に対する報奨制度
８　法人全体で連携して育成に取り組んでいる
９　他の事業者と協力して育成に取り組んでいる
10　その他（　　）
11　特に取り組んでいない

問 15　貴事業所では、人材の確保や質の向上に向けた連携先はありますか。
（あてはまるものすべてに〇）

１　介護・医療・福祉分野の事業者団体
２　東京都福祉人材センター
３　ハローワーク
４　社会福祉協議会
５　学校・教育機関あるいはその団体
６　商工団体（商工会議所等）
７　東京労働局
８　文京区役所
９　その他（　　）

3 サービス提供について

問 16　貴事業所でサービスを提供する上で、課題となっていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1　量的に、利用者の希望通り提供できていない
2　質的に、利用者の希望通り提供できていない
3　利用者や家族とのコミュニケーションが難しい
4　困難事例への対応が難しい
5　休日や夜間の対応が難しい
6　変更やキャンセルが多い
7　苦情やトラブルが多い
8　その他（　　）

問 17　貴事業所では、サービス利用について、利用者やご家族の方からどのような相談や苦情を受けることがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1　支援内容や個別支援計画に関すること
2　職員やスタッフに関すること
3　施設の整備に関すること
4　利用者と施設の利用契約に関すること
5　生活時間（起床・就寝、食事、入浴等の時間）に関すること
6　食事（メニューや食材等）に関すること
7　施設での作業内容に関すること
8　地域で自立生活に向けた訓練等に関すること
9　体力づくりや健康づくりなどに関すること
10　趣味・レクリエーション等に関すること
11　ハラスメントに関すること
12　その他（　　）
13　特に苦情や要望はない

問 18　貴事業所で何か問題が生じたときの相談先はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

1　文京区
2　東京都
3　国
4　相談支援事業所
5　障害者基幹相談支援センター
6　地域生活支援拠点
7　高齢者あんしん相談センター
8　社会福祉協議会
9　医療機関
10　保育園・幼稚園・学校等
11　法人本部
12　他のサービス事業所
13　弁護士
14　その他（　　）
15　どこにも相談したことがない

ここからは問 18 で「どこかに相談した（1～14）」と回答された方にお聞きします。

問 18-1　相談した内容は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1　施設の運営・整備の支援に関すること
2　人材の確保・質の向上に関すること
3　サービスの拡充・場所の確保に関すること
4　サービス提供上の技術的な支援に関すること
5　家庭環境に関すること
6　8050 問題に関すること
7　医療的ケアに関すること
8　ヤングケアラーに関すること
9　緊急時対応に関すること
10　苦情や要望等への対応に関すること
11　その他（　　）
12　特になし

ここからは全ての方にお聞きします。

問 19　貴事業所が支援に関して困難さを感じることはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

1　特定の時間帯に集中する利用への対応
2　障害の多様化への対応
3　制度の複雑化への対応
4　医療的ケアへの対応
5　利用者のニーズへの対応
6　区や他事業所等の関係機関との連携対応
7　近隣住民の理解
8　地域の社会資源の不足
9　相談窓口や支援機関が分からないケースへの対応
（**具体的な内容**:
10　その他（　　）
11　特になし

問 20　貴事業所がサービス向上のために取り組んでいることはなんですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　事業所内でケース検討会を実施している
2　管理者がサービス提供状況を確認し指導している
3　個人情報に関するマニュアルを作成している
4　積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価等）
5　看護職の配置や介護職員の「喀痰吸引等研修」受講により医療的ケアに対応している
6　サービス提供ガイドラインを作成している
7　災害時対応マニュアルを作成している
8　感染症予防マニュアルを作成している
9　事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている
10　利用者や家族に対して満足度調査を行っている
11　苦情解決の対応マニュアルを作成している
12　権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている
13　職員のメンタルヘルス研修を受講している
14　援助技術に関する研修を定期的に行っている
15　外部研修を事業所として積極的に推進している
16　コンサルテーション、スーパービジョンを行っている
17　SNS、ICT の活用
18　その他（　　）
19　特にない

問 21　現在、区に不足している障害福祉サービス等はなんだと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

※　介護保険サービスは含めないでください。

1　居宅介護
2　重度訪問介護
3　行動援護
4　重度障害者等包括支援
5　同行援護
6　短期入所
7　生活介護
8　療養介護
9　自立訓練（機能訓練・生活訓練）
10　自立生活援助
11　就労移行支援
12　就労継続支援Ａ型
13　就労継続支援Ｂ型
14　就労定着支援
15　就労選択支援
16　共同生活援助（グループホーム）
17　施設入所支援
18　地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）
19　計画相談支援（ｻｰﾋﾞｽ等利用計画・ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ）
20　地域活動支援センター
21　移動支援
22　日中一時支援
23　児童発達支援
24　居宅訪問型児童発達支援
25　放課後等デイサービス
26　保育所等訪問支援
27　障害児相談支援
28　その他（　　）
29　特にない

問 22　貴事業所で今後参入を考えている障害福祉サービス、児童福祉法に基づく
障害児サービス等をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）

※　介護保険サービスは含めないでください。

1　居宅介護
2　重度訪問介護
3　行動援護
4　重度障害者等包括支援
5　同行援護
6　短期入所
7　生活介護
8　療養介護
9　自立訓練（機能訓練・生活訓練）
10　自立生活援助
11　就労移行支援
12　就労継続支援Ａ型
13　就労継続支援Ｂ型
14　就労定着支援
15　就労選択支援
16　共同生活援助（グループホーム）
17　施設入所支援
18　地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）
19　計画相談支援（ｻｰﾋﾞｽ等利用計画・ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ）
20　地域活動支援センター
21　移動支援
22　日中一時支援
23　児童発達支援
24　居宅訪問型児童発達支援
25　放課後等デイサービス
26　保育所等訪問支援
27　障害児相談支援
28　その他（　　）
29　参入は考えていない

問 23　貴事業所が事業の新規開設・拡大する上で重視することはなんですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　利用者数の今後の見込み
2　地域におけるニーズ
3　地域における競合事業者の存在
4　職員確保の可能性
5　適当な土地を確保することができること
6　適当な建物・物件を確保することができること
7　施設の整備費や運営費等に対する補助
8　当該サービスの自立支援給付費等の見込み
9　その他（　　）
10　新規開設・拡大は考えたことがない

問 24　貴事業所が障害福祉サービスへの新規参入を進めていくために必要と
思うことはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

1　障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供
2　サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供
3　サービス展開のための土地・建物に関する情報提供
4　施設の整備費や運営費等に対する補助
5　困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言
6　研修・講座等に関する情報提供
7　緊急時のショートステイや入院などの受入先の情報提供
8　その他（　　）

問 25　障害福祉サービス等の新規参入や事業継続のために行政等によりどのような支援が必要か、ご自由にお書きください。

問 26　貴事業所が地域生活支援拠点の機能の充実に向けて必要と思うことはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

1　地域の障害者及び障害福祉サービス事業所等への周知
2　障害者等の相談に対応する場の充実
3　コーディネーター等の配置による地域の社会資源との連携の充実
4　緊急受入れの場としての短期入所等の充実
5　体験の場としてのグループホーム体験入所等の充実
6　行動障害の方や医療的ケアが必要な方等に対応した専門的人材の確保
7　障害者の地域生活移行時等における住居探しのサポート体制の充実
8　その他（　　）

問 27　今後の障害福祉施策の充実に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

1　在宅での福祉サービスの充実
2　障害者が入所して生活する場の充実
3　障害者が地域で共同生活できる場の充実
4　日中一時的な支援を受けられる場の充実
5　宿泊して一時的な支援を受けられる場の充実
6　住宅改造等（バリアフリー化）の補助
7　住まいに関する相談や入居支援の充実
8　シェアハウスなど多様な居住の場の提供
9　福祉サービスの情報提供の充実
10　財産管理などの権利擁護の充実
11　総合的な相談支援の充実
12　区民への障害への理解促進
13　周囲の人の見守り支援の充実
14　移動・外出支援の充実
15　駅や道路などのバリアフリー化
16　自立生活のための訓練・支援の充実
17　福祉的就労における工賃向上
18　就労に向けた訓練・支援の充実
19　多様に働ける場所の確保
20　仕事を継続するための相談や支援の充実
21　医療やリハビリテーションの充実
22　福祉に携わる人材の育成・確保
23　多分野・多機関・多職種による連携の充実
24　障害者の仲間づくりへの支援
25　防犯・災害時の支援
26　事務手続の簡素化
27　利用者負担の軽減
28　その他（　　）
29　特にない

4　強度行動障害のある方について

※強度行動障害のある方

この調査では、自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動などの行動により、日常的に特別な支援がなければ本人や周囲の人の生活に支障が出てしまうような状態がある方のことを指します。

参考：
①生活介護および施設入所支援利用者・・・重度障害者支援加算（Ⅱ・Ⅲ）の対象者
②短期入所および共同生活援助利用者・・・重度障害者支援加算（Ⅰ・Ⅱ）の対象者
③その他の事業所・・・上記に準ずると思われる対象者（回答者の主観でお答えください）

問 28　貴事業所において、現在、強度行動障害のある方の受け入れを行っていますか。（○はひとつ）

1　受け入れている　　2　受け入れていない

ここからは問 28 で「２　受け入れていない」と回答された方にお聞きします。

問 28-1　強度行動障害のある方の受け入れを行っていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1　事業所内の人材育成が困難である
2　事業所として受け入れる予定であるが職員の採用ができない
3　施設の改修や安全に関する課題がある
4　事業の採算がとれない
5　どのような支援を行ってよいかわからない
6　受け入れ対象者に係る相談先がわからない
7　事業所として受入れ体制を整える予定がない
8　利用希望がない
9　その他（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問 29　貴事業所において、これまでに強度行動障害のある方の利用を断ったことがありますか。（○はひとつ）

1　断ったことがある　　2　断ったことがない

ここからは問 29 で「１　断ったことがある」と回答された方にお聞きします。

問 29-1　強度行動障害のある方の利用を断った理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

１　ハード面の整備不足
２　余暇活動の提供の難しさ
３　人材の確保不足
４　組織の理解を得られない
５　実務経験不足
６　手厚い支援の継続の確保が困難
７　家族や支援者への対応が困難
８　医療との連携が困難
９　関係機関との連携、バックアップ体制が不十分
10　その他（　　）

問 30　貴事業所において、強度行動障害のある方への支援に関し、課題と感じることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

１　職員の専門的スキル不足
２　人材・支援体制が不十分
３　支援にあたり施設や設備の整備が不十分
４　受け入れにあたり加算等によるメリットがない
５　研修やスキルアップの機会不足
６　問題行動発生時の対応の難しさ
７　他事業所や地域との連携不足
８　その他（　　）

問 31　強度行動障害のある方への支援において、行政や地域社会に期待する役割は何だと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

１　人材育成と確保に関する支援
２　財政支援
３　研修や情報提供
４　緊急時対応の強化
５　家族への支援
６　地域社会への働きかけ
７　医療・福祉機関との連携支援
８　その他（　　）

５　虐待防止について

問 32　貴事業所では虐待防止対策についてどのような取り組みをしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

１　虐待防止責任者の設置
２　虐待防止委員会の設置
３　虐待防止に係る外部研修への参加
４　障害者基幹相談支援センターが実施する虐待防止研修や講演会に参加している
５　事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催
６　虐待防止マニュアルの作成
７　虐待防止連絡体制の整備
８　職員のメンタルヘルスのための研修を実施
９　職員にストレスチェックを実施
10　その他（　　）
11　特に取り組んでいない

６　災害時の対策について

問 33　貴事業所では災害時の対策についてどのような取り組みをしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

１　災害発生時対応マニュアルの作成
２　定期的に避難訓練を実施
３　備蓄品の整備
４　建物の耐震化
５　ロッカー、棚等の転倒防止措置
６　緊急連絡網の作成
７　避難経路の確保
８　避難行動計画の策定
９　事業継続計画（BCP）の策定
10　その他（　　）
11　特に取り組んでいない

7 権利擁護・差別解消について

問 34　貴事業所の利用者のうち、成年後見制度を利用した方が良いと思われる方の人数をお聞きします。

人　数
人

ここからは問 34 で「１人以上」を回答された方にお聞きします。

問 34-1　貴事業所の利用者で「成年後見制度を利用した方が良いと思われる方」について、その理由をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

１　お金や財産の管理に不安があるため
２　複雑な契約や手続きへの対応が難しいため
３　生活や医療、介護に関する判断に不安があるため
４　親族等の支援が見込めないため
５　その他（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問 35　成年後見制度が利用に至らない理由はなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

１　本人の制度への理解不足、必要性を感じていない、拒否している
２　家族の制度への理解不足、必要性を感じていない
３　金銭的な負担
４　申立て等の手続きの複雑さ
５　その他（　　）

問 36　貴事業所の利用者のうち、福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）を利用した方が良いと思われる方の人数をお聞きします。

人　数
人

ここからは問 36 で「１人以上」を回答された方にお聞きします。

問 36-1　貴事業所の利用者で「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）を利用した方が良いと思われる方」について、その理由をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

１　福祉サービスの利用を希望しているが、手続きが分からないため
２　福祉サービス利用料、公共料金、家賃等の支払いができないため
３　通帳や土地の権利書等の重要な書類の保管が心配であるため
４　その他（　　）

ここからは全ての方にお聞きします。

問 37　福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）が利用に至らない理由はなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

１　本人の事業への理解不足、必要性を感じていない、拒否している
２　家族の事業への理解不足、必要性を感じていない
３　金銭的な負担
４　利用手続きの複雑さ
５　その他（　　）

問 38　地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

1　家
2　職場
3　通所・入所施設
4　お店などの民間事業者
5　住んでいる地域や住民
6　公共施設
7　区役所などの行政機関
8　医療機関
9　交通機関
10　保育園、幼稚園、学校
11　その他（　　）
12　特に感じたことはない

問 39　障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

1　障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備
2　障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信
3　障害者差別解消法に係るセミナー・研修等の開催
4　障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行
5　障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催
6　地域や学校等で交流の機会を増やすこと
7　地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
8　学校や生涯学習での障害に関する教育や情報
9　障害についての講演会や疑似体験会の開催
10　障害者の一般就労の促進
11　ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発
12　その他（　　）
13　特にない

問 40　社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

1　合理的配慮に関する講演・セミナーの開催
2　合理的配慮事例の周知・啓発
3　筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応
4　バリアフリー化や情報保障のための機器の導入
5　障害当事者等を講師とした研修・講演
6　民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
7　その他（　　）
8　特にない

8　自由意見

問 41　区の障害者施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※ お書きいただいたご意見･ご要望に、個別にお答えすることはできかねますが、計画策定の際の参考にさせていただきます。

質問は以上で終わりです。
この度は調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

令和 7 年 10 月 31 日(金)までに、同封の「返信用封筒」に、ご回答いただいたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。
封筒に切手を貼る必要はありません。

文京区　長期入院患者様の状況調査票

令和7年10月1日現在、貴病院に精神科疾患で1年以上入院している患者で、文京区に住民票のある方または入院前住所が文京区の患者様について、回答をお願いします。
※直近の実績(例:令和7年6月30日等)の方が把握しやすい場合は、任意の直近月日現在でも構いません。

医療機関名		記載者	
住所		病床数	
連絡先番号		メールアドレス	

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
No	性別	年代	病名	生活保護の状況	現在の入院形態	在 院 期 間	入院の状況	病院から見た退院の見通し	退院を想定した場合の帰宅先	退院に向けた本人の意思	退院に対する家族の意向	本人の状況 SOSが出せる	本人の状況 服薬、通院が出来る	備考 (自由記載欄)
	1 男性 2 女性	1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60～64歳 7 65～69歳 8 70歳以上	記入式	1 生活保護 2 生活保護ではない	1 医療保護入院 2 任意入院 3 それ以外 ( )	令和4年10月1日時点の入院期間	1 入院治療を要する 2 受け入れ条件が整えば退院可能 3 それ以外 ( )	1 有 2 無	1 有 2 無	1 希望有り 2 希望無し 3 不明	1 協力的 2 非協力的 3 家族不在 4 不明 ( )	1 SOSを出せる 2 信頼できる支援者には出せる 3 出さないが、職員からの面接、助言は拒否しない 4 SOSを出せない	1 自分で出来る 2 時々忘れるが、見守り、助言があれば出来る 3 1人では出来ないが、見守り、同伴があれば出来る 4 自分で出来ない	
例	1	4	統合失調症	2	1	3 年 4 月	2	1	1	1	3	1	2	
1						年 月								
2						年 月								
3						年 月								
4						年 月								
5						年 月								
6						年 月								
7						年 月								
8						年 月								
9						年 月								
10						年 月								

Q1　貴院には、地域移行を主に行っている職種の人、または地域移行に取り組む部署はありますか。

職種名		部署名	

Q2　貴院に入院している文京区の方に、当区で実施している取り組みを説明しに伺ってもよろしいですか。どちらかに○をお付けください。

可能		不可(理由)	

Q3　訪問する場合の窓口はどちらになりますか。

部署名		担当者	

ご協力いただき、ありがとうございました。

令和7年10月31日(金)までに、同封の返信用封筒にプリントアウトしたこの調査票を入れて、ポストに投函するか、ご記入後、データを下記のアドレスからアップロードしてください。

URL:https://www.

パスワード:bunkyo549

IDは送付した紙の調査票を参照ください。

文京区障害者(児)実態・意向調査報告書

令和８年３月
印刷物番号：　E0325060
有償頒布価格　　960　円

編集・発行　　文京区　福祉部障害福祉課
〒112-8555　東京都文京区春日１-16-21
電話　03-3812-7111　(代表)
調　　査　　株式会社アイアールエス